

仙台市文化財調査報告書第365集

上野遺跡

第6・7次発掘調査

都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書

第一分冊

二〇一〇年三月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第365集

上野遺跡

第6・7次発掘調査

—都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書—

第1分冊

2010年3月

仙台市教育委員会

上野遺跡

第6・7次発掘調査

—都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書—

第1分冊

2010年3月

仙台市教育委員会



第6次調査 I 区全景（東から）



SX626 溝状の落ち込み遺物出土状況（北西から）

SX626 溝状の落ち込み土層断面（北西から）



第6次調査2区全景（西から）



第7次調査1区全景（東から）



SX625 溝状の落ち込み出土土器



SX626 溝状の落ち込み出土土器



P60911 ビット硬玉製大珠出土状況（北西から）



上野遺跡第6・7次調査出土土製品類

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃からご理解、ご協力を賜り、仙台市教育委員会といたしまして、誠に感謝にたえません。

仙台市の南部に位置する富田鈎取地区周辺は、市内でも遺跡が数多く分布する地域であり、その中でも上野遺跡は「仙台市縄文の森広場」として整備された山田上ノ台遺跡や桜の名所でもある三神峯遺跡などとともに、市内の代表的な縄文時代の集落跡のひとつです。

今回の発掘調査は都市計画道路「富沢山田線」建設工事に伴うもので、縄文時代中期の竪穴住居跡や食糧を蓄えるために掘られたと考えられるフラスコ状の土坑などが数多く発見され、さらに遺跡の中で居住のための地域と、食糧貯蔵のための地区を区別すると考えられる造構が発見されるなど、当該時期の集落を理解するうえで貴重な資料が得られました。本書はそれらの成果をまとめたものであります。

先人達の残した貴重な文化遺産をこれから「まちづくり」の中でどのように保護し、利活用しながら市民の宝として永く後世に伝えていくのか、地域の方々と共に考えていかなければならないと考えております。ここに報告する調査成果が広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査および、本報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことに深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成22年3月

仙台市教育委員会

教育長 荒井 崇

例　　言

1. 本書は、都市計画街路富沢山田線建設に伴う仙台市上野遺跡の埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は仙台市教育委員会の監督・管理のもとに、株式会社玉川文化財研究所が行った。
3. 本書の作成及び編集は、仙台市教育委員会文化財課主演光明、工藤信一郎、株式会社玉川文化財研究所麻生順司・佐々木竜郎が行った。
4. 本書の執筆は、主演光明の責任のもとに下記の通り行った。

第Ⅰ章第1節	……………	主演光明
第Ⅱ章第2節～第V・VII	……………	佐々木竜郎
第Ⅷ章石器	……………	麻生順司
第VI章第1節	……………	パリノ・サーヴェイ株式会社
第VI章第2節	……………	金子浩昌
5. 調査及び報告書作成にあたり、下記の方々および機関からご指導・ご助言並びにご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である（敬称略）。

相原淳一、安斎正人、板橋吾平治、稲野裕介、太田昭夫、菅野智則、倉橋直孝、佐川正敏、佐藤正俊、須藤隆、平塚幸人、松本秀明、財団法人北海道埋蔵文化財センター、繩文の森広場
6. 調査成果は既に「上野遺跡第6次調査現地説明会資料」、「上野遺跡第7次調査現地説明会資料」、「宮城県遺跡成果調査発表会発表要旨（平成16・17年度）」、「平成19年度ミニ企画展冬　仙台市の縄文村④名取川ぞいの縄文ムラ　上野遺跡」、「宮城考古第10号（2008）」で一部紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先するものである。
7. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物などの資料は、仙台市教育委員会が保管している。
8. 自然科学分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社が行った。
9. 動物遺存体の同定については東京国立博物館客員研究員金子浩昌氏に依頼し、玉稿を賜った。
10. 石器・石製品の石材については東北大名誉教授の蟹澤聰史氏に依頼し、肉眼での鑑定を行った。
11. 陶磁器類の鑑定については株式会社玉川文化財研究所小山裕之が行った。

凡　　例

1. 土層注記表に記載している土色は、「新版標準土色帖」（小山・竹原 1977）に基づいて認定した。なお、本書の土色註記表中ではスペースの省略のため土色の表記に「色」はつけていない。
2. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1:25,000『仙台西南部・仙台東南部』の一部を縮小して使用している。周辺の遺跡では仙台市発行の都市計画基本図1:5,000を使用した。
3. 調査の際の平面座標基準は、日本測地系直角平面座標第X系を基にしている。
4. 本書に使用した方位は座標北（G, N）を用い、特に図中に指示がないものは図上で座標北となる。
5. 本書に使用した遺構挿図の縮尺は以下の通りで、スケールとともに図中に示した。全体図・各遺構配置図1/1000、遺構全体図1/500、遺構配置図1/150、1/250、遺構平面図1/20、1/30、1/60、断面図1/40・1/60、1/80、遺物分布図1/30
6. 挿図中のレベル数値は海抜標高を示す。
7. 層位名は基本層位をローマ数字「I・II・III…」、遺構内堆積土層位を算用数字「1・2・3…」で表し、

さらに同一層位内で細分を行ったものは「a・b・c…」とした。

8. 本書で使用した遺構略号には以下を用い、それぞれの遺構番号には調査次の後に種別毎の通し番号を付した。

なお、通し番号の桁数はSD、SI、SXは3桁(601～、701～)、SKは4桁(6001～、7001)、Pは5桁(60001～、70001～)で表記した。

SD：溝跡 SI：堅穴住居跡 SK：土坑 SX：焼土跡、埋設土器、配石遺構、集石、溝状の落ち込み、遺物集中区、風倒木痕、性格不明遺構 P：ビット



9. 各遺構番号は整理段階で振り替えを行っており、欠番などもあるため旧遺構名称・番号とともに種別毎の遺構一覧表に記載した。なお第7次調査における第6次追加調査区から検出された土坑(第6次追加調査区SK1～15)は本報告において第6次調査の通番(SK6328～6341)へ振り替えを行った。

10. 本報告で単独のビットについてふれる際には、現地調査で用いたビット番号を踏襲して上記の遺構表記で行っているが、堅穴住居跡や焼土跡に用いたものは各図のビット深度表との対応を目的としており、重複した場合は同一のものが各図で異なるビット番号となる場合もある。

11. 挿図及び本文中の遺物の表記には、挿図番号の他に登録番号を用いた。なお、Sは自然疊を表す。土器や土製品の一部は出土レベルを土層断面図へ投影して示した。

12. 遺物の登録は種別毎に行い、番号の前に以下の略号を付しているが、登録番号には通し番号の最終桁数の前に調査次数を付した。なお、通し番号の桁数はC・D・E・I・J・Nが2桁01～、Pは3桁001～、Aは4桁0001～から開始している。なお、石器(K)については下のように細分類した。

A：縄文土器 C：非クロロ土師器 D：ロクロ土師器 E：須恵器 I：陶器 J：磁器 K：石器 N：金属製品 P：土製品 Q：自然遺物

(石器分類)

石 器 K	打製石器・剥片石器(石核含む) Ka <ul style="list-style-type: none"> 石鏽 石錐 石錐 石錐 石錐 スクリイバー クサビ形石器 異形石器 二次加工のある剥片 微細剥離痕のある剥片 打製石斧 鍛造 剥片 石核 磨製石器 Kb <ul style="list-style-type: none"> 磨製石斧 鍛 石 器 Kc <ul style="list-style-type: none"> 磨痕 凹痕 敲打痕 磨痕+凹痕 磨痕+敲打痕 凹痕+敲打痕 磨痕+凹痕+敲打痕 その他の石器・石製品 Kd <ul style="list-style-type: none"> 有塵 白石 砾石 石棒 軽石製品 重石 石製品 その他 	Ka-a Ka-b Ka-c Ka-d Ka-e Ka-f Ka-g Ka-h Ka-i Ka-j Ka-k Ka-l Ka-m Kb Kc-a Kc-b Kc-c Kc-d Kc-e Kc-f Kc-g Kd-a Kd-b Kd-c Kd-d Kd-e Kd-f Kd-g Kd-h
-------	--	--

12. 遺構・遺物観察表において()は推定値、()は残存値を記した。また石器観察表では()は残存値を表す。
13. 遺構の説明に記した新旧関係の項目は古代以降の遺構では縄文時代の遺構は煩雑になるため表記していない。
14. 本書に使用した遺物挿図の縮尺では土器・陶磁器類1/3、剥片石器2/3、礫石器1/3を基本とするが、それ以外のものはスケールを図示して備考欄へ記入した。縮尺には以下のものがある。

縄文土器1/1・1/2・1/3・1/4 (展開図は実測図の半分の縮尺を基本としている)、土師器・須恵器・陶磁器・鉄製品1/3、剥片石器・錢貨2/3、磨製石斧、礫石器1/3・1/6、土製品・石製品1/1・1/2、骨角器1/1 ※他と縮尺が異なるものは備考欄に示した。

15. 写真図版については挿図と同じ縮尺を基本とするが、任意のものもある。
16. 実測図のスクリントーンは縄文土器展開図では縄文文施部分を表し、土師器実測図では黒色処理を示している。また、遺構図・全体図等で使用しているスクリントーンは以下の意味を表現した。

(遺構平面・断面図)

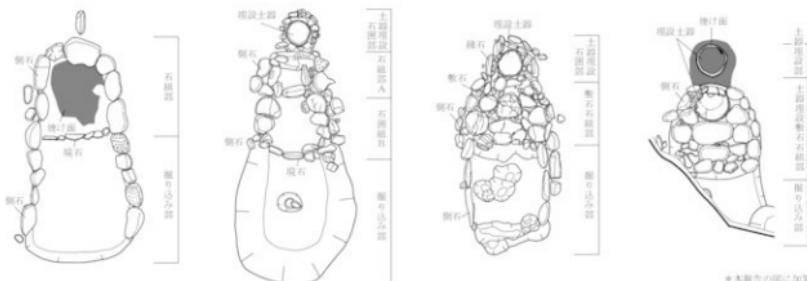


(遺物実測図)



17. 第7～13図「縄文時代遺構配置図(1)～(7)」、第653～659図「古代以降遺構配置図(1)～(7)」では土坑の略号であるSKを省略して番号のみで表記した。また、ピットは数が多いことから省略した。
18. 窪穴住居跡のピット深度表は床面および炉から推定される床面レベルからの深度を表記した。
19. 窪穴住居跡の挿図ではピット断面の位置を東西南北を示すアルファベットの略号を用いた。
20. 窪穴住居跡の炉では断面図および見通し図を作成し、複式炉の部位・名称については下図の表記で行った。なお、「土器埋設部」・「石組部」・「掘り込み部」を基本構造として「石間」や「敷石」などの名称をそれぞれの状態に合わせて付加している。

(複式炉の部位と名称)



*本報告の図に加筆

目 次

巻頭カラー

序 文

例 言・凡 例

<第1分冊>

第I章 調査の概要.....	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項.....	1
第II章 遺跡の位置と環境.....	2
1. 遺跡の位置と地理的環境.....	2
2. 遺跡の歴史的環境.....	3
3. 上野遺跡周辺の遺跡.....	6
4. 過去の調査の概要.....	8
第III章 調査の方法と経過.....	11
1. 調査区の設定.....	11
2. 調査の経過.....	12
第IV章 基本土層.....	16
第V章 検出遺構と出土遺物.....	18
第1節 繩文時代.....	18
1. 堪穴住居跡（S I）.....	29
2. 土 坑（SK）.....	192
<第2分冊>	
3. 焼土跡（SX）.....	401
4. 埋設土器（SX）.....	418
5. 配石遺構（SX）.....	445
6. 集 石（SX）.....	448
7. 溝状の落ち込み（SX）.....	451
8. ピット（P）.....	615
9. 遺構以外の出土遺物.....	627
第2節 古代以降	738
1. 堪穴住居跡（S I）.....	749
2. 土 坑（SK）.....	776
3. 溝 跡（SD）.....	802
4. 焼土跡（SX）.....	806
5. 性格不明遺構（SX）.....	807
6. ピット（P）.....	810
7. 遺構以外の出土遺物.....	811
<第3分冊>	
第VI章 自然科学分析	813
第1節 上野遺跡における遺構および遺物の自然科学分析	813
第2節 上野遺跡出土の骨角製品と動物遺体	851
第VII章 まとめ	860
写真図版.....	877

挿 図 目 次

<第1分冊>

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	4
第2図	上野遺跡周辺の遺跡と調査状況	7
第3図	上野遺跡の調査区配置図	9
第4図	上野遺跡全体図	13
第5図	基本土層	17
第6図	縄文時代造構全体図	19・20
第7~13図	縄文時代造構配置図(1)~(7)	21~28
第14~18図	S I 601堅穴住居跡・出土遺物(1)~(3)	30~34
第19~25図	S I 602堅穴住居跡・出土遺物(1)~(4)	35~42
第26~34図	S I 604堅穴住居跡・出土遺物(1)~(7)	44~51
第35図	S I 605堅穴住居跡	52
第36~45図	S I 612堅穴住居跡・出土遺物(1)~(8)	53~62
第46~55図	S I 613堅穴住居跡・出土遺物(1)~(8)	63~72
第56~59図	S I 701堅穴住居跡・出土遺物(1)・(2)	73~76
第60~62図	S I 702堅穴住居跡・出土遺物(1)・(2)	77~79
第63~67図	S I 703堅穴住居跡・出土遺物(1)~(3)	80~84
第68~71図	S I 704堅穴住居跡・出土遺物(1)・(2)	85~88
第72~81図	S I 705堅穴住居跡・出土遺物(1)~(8)	89~98
第82~87図	S I 706堅穴住居跡・出土遺物(1)~(4)	99~105
第88~94図	S I 707堅穴住居跡・出土遺物(1)~(4)	106~113
第95~103図	S I 708堅穴住居跡・出土遺物(1)~(6)	114~121
第104~108図	S I 709堅穴住居跡・出土遺物(1)~(4)	122~126
第109~114図	S I 710堅穴住居跡・出土遺物(1)~(4)	127~132
第115~118図	S I 711堅穴住居跡・出土遺物(1)・(2)	133~136
第119~121図	S I 712A堅穴住居跡・出土遺物	138~140
第122~130図	S I 714堅穴住居跡・出土遺物(1)~(7)	141~149
第131~146図	S I 715堅穴住居跡・出土遺物(1)~(14)	150~165
第147~149図	S I 716堅穴住居跡・出土遺物	166~168
第150~151図	S I 717堅穴住居跡・出土遺物	169
第152~154図	S I 718堅穴住居跡・出土遺物(1)・(2)	171~173
第155~159図	S I 719堅穴住居跡・出土遺物(1)~(4)	175~179
第160~165図	S I 723堅穴住居跡・出土遺物(1)~(4)	180~185
第166~168図	S I 725堅穴住居跡・出土遺物(1)・(2)	186~188
第169~171図	S I 726堅穴住居跡・出土遺物(1)・(2)	189~191
第172~222図	縄文時代土坑(1)~(51)	193~296
第233~326図	縄文時代土坑出土遺物(1)~(104)	297~400

<第2分冊>

第327図	縄文時代焼土跡配置図	401
第328~341図	縄文時代焼土跡(1)~(14)	402~416
第342~343図	縄文時代焼土跡出土遺物(1)・(2)	417
第344図	埋設土器・配石造構・集石配置図	419
第345~348図	埋設土器(1)~(4)	420~427
第349~365図	埋設土器出土遺物(1)~(17)	428~444

第366・367図	配石遺構・出土遺物	446・447
第368・369図	集石・出土遺物	449・450
第370図	溝状の落ち込み配置図	451
第371・372図	S X625溝状の落ち込み	452・453
第373・374図	S X626溝状の落ち込み	456・457
第375図	S X639溝状の落ち込み	459
第376～529図	溝状の落ち込み出土遺物	461～614
第530図	縄文時代ピット配置図	615
第531図	P60911ピット	616
第532～540図	縄文時代ピット出土遺物（1）～（9）	618～626
第541図	S X760遺物集中区位置図および遺物分布図	627
第542～651図	縄文時代遺構外出土遺物（1）～（110）	628～737
第652図	古代以降遺構全体図	739
第653～659図	古代以降遺構配置図（1）～（7）	741～748
第660～662図	S I 603堅穴住居跡・出土遺物	750・751
第663～666図	S I 606堅穴住居跡・出土遺物（1）・（2）	752～754
第667～669図	S I 607堅穴住居跡・出土遺物	756・757
第670・671図	S I 608堅穴住居跡・出土遺物	758・759
第672図	S I 611堅穴住居跡	759
第673・674図	S I 614堅穴住居跡・出土遺物	760
第675～677図	S I 713堅穴住居跡・出土遺物	761～763
第678～681図	S I 720堅穴住居跡・出土遺物（1）・（2）	764～766
第682～684図	S I 721堅穴住居跡・出土遺物	767～769
第685～688図	S I 722堅穴住居跡・出土遺物	771～774
第689・690図	S I 724堅穴住居跡・出土遺物	775
第691～699図	古代以降土坑（1）～（9）	777～795
第700～705図	古代以降土坑出土遺物（1）～（6）	796～801
第706～708図	古代以降溝跡・出土遺物	802～805
第709図	古代以降燒土跡	806・807
第710～712図	古代以降性格不明遺構・出土遺物	807～809
第713・714図	古代以降ピット・出土遺物	810・811
第715・716図	古代以降遺構外出土遺物（1）・（2）	811・812
<第3分冊>		
第717図	試料採取遺構配置図	814
第718図	試料採取位置図	815
第719図	主要珪藻化石群集	823
第720図	植物珪酸体群集	823
第721図	重軽鉱物組成	831
第722図	腐食含量とリン酸含有量の相関	835
第723図	各粒度階における鉱物・岩石出現頻度	839
第724図	胎土中の砂の粒径組成	840
第725図	碎屑物・基質・孔隙の割合	841

表 目 次

<第1分冊>

第1表 周辺の遺跡一覧.....	5
第2表 上野遺跡調査一覧.....	2
第3表 第3次調査内訳.....	2
第4表 上野遺跡第6・7次調査区別面積内訳.....	15
第5表 繩文時代検出遺構一覧.....	29
第6・7表 ピット觀察表(1)・(2).....	616・617

<第2分冊>

第8表 古代以降検出遺構一覧.....	749
---------------------	-----

<第3分冊>

第9表 遺構試料及び分析項目一覧.....	816
第10表 放射性炭素年代測定結果.....	820
第11表 曆年較正結果.....	820
第12表 珪藻分析結果.....	822
第13表 植物珪酸体分析結果.....	824
第14表 微細物洗い出し・分析結果.....	825
第15表 骨同定結果.....	826
第16表 炭化材樹種同定結果.....	830
第17表 土壤理化学分析結果.....	831
第18表 鉱物分析結果.....	831
第19表 胎土分析試料一覧及び胎土分析結果.....	836
第20表 薄片觀察結果.....	838
第21・22表 出土骨一覧(1)・(2).....	847・848
第23～25表 繩文時代石器組成表(1)～(3).....	867～869
第26・27表 繩文時代石器石材組成表(1)・(2).....	870
第28表 S I 竪穴住居跡一覧表.....	871
第29～33表 SK土坑一覧表(1)～(5).....	871～875
第34・35表 SX一覧表(1)・(2).....	875・876
第36表 SD一覧表.....	876

写 真 図 版 目 次

遺跡全景写真図版

写真図版 1	遺跡遠景	879
写真図版 2・3	第6次調査全景	880・881
写真図版 4・5	第7次調査全景	882・883
写真図版 6	第6次追加調査区全景・基本土層	884

縄文時代写真図版

写真図版 7～30	竪穴住居跡	885～908
写真図版31～88	土 坑	909～966
写真図版89～93	埋設土器	967～971
写真図版94	焼土跡	972
写真図版95・96	遺物出土状況	973・974
写真図版97～106	溝状の落ち込み	975～984
写真図版107	遺物集中区遺物出土状況	985
写真図版108～110	ビット	986～988
写真図版111	遺物出土状況	989

古代以降写真図版

写真図版112～118	竪穴住居跡	990～996
写真図版119～125	土 坑	997～1003
写真図版126	溝 跡	1004

縄文時代遺物写真図版

写真図版127～171	竪穴住居跡出土遺物（1）～（45）	1005～1049
写真図版172～205	土坑出土遺物（1）～（34）	1050～1083
写真図版206～208	埋設土器出土遺物（1）～（3）	1084～1086
写真図版209	配石・集石出土遺物	1087
写真図版210～231	溝状の落ち込み出土遺物（1）～（22）	1088～1109
写真図版232・233	縄文時代ビット出土遺物（1）～（2）	1110・1111
写真図版234～253	遺構外出土遺物（1）～（20）	1112～1131

古代以降遺物写真図版

写真図版254～258	竪穴住居跡出土遺物（1）～（5）	1132～1136
写真図版259～262	土坑出土遺物（1）～（4）	1137～1140
写真図版262～263	溝跡・性格不明遺構・遺構外出土遺物	1140・1141

自然科学分析写真図版

写真図版	自然科学分析①～⑦	844～850
写真図版	自然科学分析⑧～⑩	857～859

第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

平成14年9月18日、仙台市太白区富田字上野中、上野西地内における都市計画道路「富沢山田線」の道路改良工事にかかる協議書が提出された。当該地は仙台市内でも有数の櫛文時代の集落跡である上野遺跡の範囲内であることから、仙台市教育委員会は太白区建設部建設課と協議を重ね、平成14～17年度に確認調査及び本格調査を実施することとした。平成14年度は仙台市教育委員会によって予定路線敷きの西端部約1,350m²の確認調査を行い、ごく少量の遺物が出土したのみで遺構は発見されなかったことから、本調査は不要であると判断し、本調査は行わなかった。平成15年度に平成14年度確認調査範囲を除く、路線範囲約7,000m²を対象とした確認調査を実施した。

確認調査の結果、全域で遺構、遺物が認められたことから、路線範囲全域を対象に本発掘調査を実施することとし、平成15年11月26日から予定路線敷きの東端約410m²の本発掘調査を第5次調査として実施した。残り約6,600m²の本発掘調査は平成16年度に東側を中心に第6次調査として平成16年6月14日から、平成17年度に第7次調査として西側を中心として平成17年6月3日から実施した。

第2節 調査要項

1. 遺跡名称 上野遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号01002・仙台市文化財登録番号C-108）
2. 所在地 宮城県仙台市太白区富田字上野中・上野西他
3. 調査原因 都市計画道路「富沢山田線」建設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査
4. 調査主体 仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
5. 調査担当 第6次調査

調査期間 平成16年6月14日～平成17年2月18日

調査面積 2,757.9m²

調査係主任 佐藤甲二（仙台市教育委員会生涯学習部文化財課）

調査係主査 主濱光朗（仙台市教育委員会生涯学習部文化財課）

主任調査員 小林義典（株式会社玉川文化財研究所）

調査員 中山 豊（株式会社玉川文化財研究所）

佐々木竜郎（株式会社玉川文化財研究所）

第7次調査

調査期間 平成17年6月3日～平成18年1月31日

調査面積 3,190.0m²

調査係主任 主濱光朗（仙台市教育委員会生涯学習部文化財課）

主任調査員 小林義典（株式会社玉川文化財研究所）

調査員 中山 豊（株式会社玉川文化財研究所）

佐々木竜郎（株式会社玉川文化財研究所）

6. 整理担当（第1年次）

整理期間 平成18年4月1日～平成19年2月28日

調査係主任 主濱光朗（仙台市教育委員会生涯学習部文化財課）

主任調査員 佐々木竜郎（株式会社玉川文化財研究所）

調査員 中山 豊（株式会社玉川文化財研究所）

（第2年次）

整理期間 平成19年6月1日～平成20年3月28日

調査係主任 主演 光朗（仙台市教育委員会生涯学習部文化財課）

主任調査員 佐々木竜郎（株式会社玉川文化財研究所）

調査員 麻生 順司（株式会社玉川文化財研究所）

中山 豊（株式会社玉川文化財研究所）

（第3年次）

整理期間 平成21年3月25日～平成22年3月26日

調査係主任 主演 光朗（仙台市教育委員会生涯学習部文化財課）

調査係主任 工藤信一郎（仙台市教育委員会生涯学習部文化財課）

主任調査員 佐々木竜郎（株式会社玉川文化財研究所）

調査員 麻生 順司（株式会社玉川文化財研究所）

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置と地理的環境

上野遺跡は宮城県仙台市太白区富田字上野中・西ほかに所在する。JR長町駅から南西へ約3.5km、地下鉄南北線富沢駅から西約2kmにあたり、北側0.5kmには宮城県仙台市と山形県山形市を結ぶ国道286号線が北東から南西方向に走っている。地形的景観では太白区の名称の由来ともなり「名取富士」とも呼称されて市民に親しまれている太白山（320.7m）が北西4.5kmに存在し、本遺跡からもその円錐形の山容を見る事ができる。また、河川では宮城・山形の両県境に連なる奥羽山脈の神室岳を源流として、太平洋に注ぐ一級河川の名取川が本遺跡の南方0.8kmほどを東流し、現在でも秋～初冬の時期に川を越える鮭が見られる。近年、仙台市では大規模に行われている地下鉄東西線の工事や、長町駅周辺の副都心化などに伴う開発および富沢駅周辺での区画整理事業等が進展しており、周辺の地域でも国道沿いを中心に郊外型の商業施設や遊技場が建設されるなど街も次第に様変わりしつつある。

仙台市は宮城県の中央からやや南寄りに位置し、西側は山形県山形市に接して東側は太平洋に面している。地形的には西側の山地および丘陵地と東側の沖積地を含む低地部分に大きく分けて捉えられ、上野遺跡は青葉山丘陵と名取川の間に広がる標高25～40mの名取台地と呼称される河岸段丘の東端部に立地している。遺跡は北側の西多賀方面から南側へ舌状に張り出した周囲より4～8m程小高い部分に存在しており、遺跡の北側は太白山を源流として名取川に注ぐ荒川により浸食され周囲の低い位置から見た場合には独立した台地状に見える。現在、遺跡範囲は上記した台地のほぼ全域となる東西750m、南北700mの総面積が約30haの広大なものとなっている。遺跡全体の地形では北西側が最も標高が高く、東側および南側に向かって緩やかに傾斜している。台地の南端部をほぼ東西に横断する第6・7次調査区における現地表面での標高差は東西で4.25m程度である。現在、遺跡周辺は宅地および畑・水田、墓地などに土地利用されており、宅地が台地の縁辺部分にまとまり、中央部には田畠や雑木林が広がり、これまであまり大きな地形的変動がないままの状態といえる（図1）。

※1) 明治8～18年に作成された皇国地誌附図の中の「宮城縣管轄陸前國名取郡富田村圖」によれば現在でも遺跡の南東部分に存在する道路は「富田街道」、道路内の西側を南北方向に通る道路は「鉤取街道」の名で記されており、当時から存在していたことがわかる。また宅地が増加しているが、この地図から景観が大きく変化していないこともみてとれる。

2. 遺跡の歴史的環境

名取川流域は分布調査等により多くの遺跡が存在することが判明しており、今まで発掘調査等により多くの成果が挙げられてきた。特に名取川と広瀬川に挟まれた郡山低地に属する富沢・大野田地区周辺は遺跡の密集地として知られ、現在の富沢駅周辺城はほとんど全てが遺跡に登録されている状況にある。また、名取川を挟んだ対岸の名取市側においても丘陵部を中心に遺跡が多数存在しており、これらの地域とともに宮城県内でも特に遺跡の密集した地域のひとつといえる（第1図）。ここでは本遺跡で検出された遺構の時期を中心としながら、周辺の遺跡について概観したい。

旧石器時代

後期旧石器時代の遺跡では本遺跡から西方1.5kmに位置する山田上ノ台遺跡が知られる。仙台市内で初めて旧石器時代の石器が出土した遺跡としても注目され、ナイフ形石器のほか接合資料などが出土し石器製作の場であったことが明らかとなっている。また、名取川を挟んで愛島丘陵の一部である野田山丘陵上にはナイフ形石器、エンドスクリイバー、石刃などが出土した野田山遺跡や西野田遺跡が存在する。これらの丘陵地に立地する遺跡の一方で低地の遺跡では東方2kmに氷河期の湿地林が検出された富沢遺跡が存在し、石器以外に焚き火跡や植物遺体、シカの糞など丘陵・台地上の調査では得られない様々なデーターが得られ、古環境を復元する観点からも注目を集め高い評価を得ている。本遺跡ではこれまでのところ旧石器時代の資料は出土していないが、山田上ノ台遺跡と富沢遺跡との中間に位置しており、立地条件からみれば今後何らかの痕跡が見つかる可能性がある。

縄文時代

名取川流域では多くの縄文時代の遺跡の存在が知られているが、上記した開発事業に伴い特に沖積地での発掘調査例が多い。ここでは各時期の主な遺跡について見ていく。上野遺跡周辺で最も古い時期となるのは縄文時代早期である。名取川とその支流である旧荒川によって形成された自然堤防上に立地する下ノ内浦遺跡では、早期前葉の押型土器である日計式土器が出土し、堅穴住居跡や落とし穴が検出され低地部分についてもこの段階から生活領域であったことがわかっている。また丘陵地に立地する山田上ノ台遺跡からは早期前半の貝穀文土器である明神裏Ⅲ式土器が出土しており、隣接する北前遺跡では早期後半の堅穴住居跡、土坑が確認されている。

前期を代表する遺跡では本調査地点から北東1.5kmに上野遺跡と共に古くから知られる三神峯遺跡が存在する。青葉山丘陵から張り出した標高約68mのなだらかな台地上に立地し、範囲は約7.5ha程である。前期前半の大木1式～2b式期の堅穴住居跡、埋設土器と多量の土器・石器が出土している。また同時期のものでは名取市今熊野遺跡からも多数の堅穴住居跡が検出されており、東北地方の同時期の集落研究において重要な遺跡である。この今熊野遺跡周辺では縄文海進期に多数の貝塚が形成され、煙滅した今熊野貝塚や宇賀崎貝塚などが存在している。その他、時期が下って北前遺跡では前期末の大木6式期の土坑群が検出されておりフラスコ状土坑からは炭化したクルミやトチの実が出土している。

中期の遺跡では上野遺跡が有名であるが、その他に中期中葉の大木8a・b式期の遺構が検出されている遺跡は六反田遺跡で検出された堅穴住居跡のほかはその後の時期の事例に比べて少ない傾向にある。大木9～10式期に入ると堅穴住居跡の検出例が増加し、台地部では山田上ノ台遺跡をはじめ北前遺跡、低地部分では複式炉を有する敷石住居跡が検出された下ノ内遺跡や六反田遺跡などで集落が営まれる。御堂平遺跡では大木9式の埋設土器が検出されている。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	種類	時代	番号	遺跡名	種類	時代
1	上野遺跡	東古跡	縄文・奈良・平安・近世	19	大伊田遺跡	東古跡	縄文・魚生
2	山田上ノ台遺跡	東古跡	旧石器・縄文・平安・近世	20	北内浦遺跡	東古跡	縄文・平安・近世
3	山田木等原遺跡	水田・居住跡	縄文・平安・中世・古墳	21	御前平遺跡	東古跡	縄文・平安・中世
4	鷹居前遺跡	古高地	縄文・魚生・古墳・奈良・平安	22	土手内浦遺跡	東古跡	縄文・魚生・古墳・奈良・平安
5	鷹山古跡群	東古跡	縄文・魚生・平安	23	篠川内浦遺跡	東古跡・水田跡	旧石器・縄文・魚生・古墳・奈良・平安・中世
6	鷹山蟹井御跡	東古跡	縄文・奈良・平安	24	新田浦遺跡	東古跡・墓	縄文・魚生・古墳・平安・近世
7	三神峯御跡	東古跡	縄文・平安	25	土手内浦古墳群	墓	古墳・魚生
8	芦ノ口遺跡	東古跡	縄文・魚生・平安	26	篠川前原跡	前原	中世
9	山口遺跡	東古跡・水田	縄文・魚生・古墳・奈良・平安・中世	27	里原跡	東古跡・古墳	魚生・古墳・平安
10	下ノ内浦跡	東古跡	縄文・魚生・古墳・奈良・平安・中世	28	南ノ内浦遺跡	帆布地	魚生・平安
11	下ノ内浦遺跡	東古跡	縄文・魚生・古墳・奈良・平安・中世	29	南ノ内浦古墳群	墓	古墳
12	六反田遺跡	東古跡	縄文・魚生・古墳・奈良・平安・中世	30	金城丘陵	丘陵	縄文
13	伊古田遺跡	東古跡	縄文・古墳・平安	31	弓削内浦遺跡	東古跡・丘陵	縄文・魚生・古墳・奈良・平安
14	西台畠遺跡	東古跡	縄文・魚生・古墳・奈良・平安	32	里原跡	東古跡・墓	古墳
15	大野田古墳群	古墳	縄文・魚生・古墳・奈良・平安	33	西町内浦跡	丘陵	旧石器・縄文・魚生・古墳・古代
16	大野田古墳遺跡	古墳群	古墳	34	野田内浦跡	東古跡	縄文・古代
17	大野田古墳	古墳跡	縄文・古墳・奈良・平安	35	下ノ内浦跡	東古跡・丘陵	縄文・魚生・古墳・古代
18	下ノ内浦跡	東古跡・足跡跡	縄文・魚生・古墳・奈良・平安・中世	36	宇都崎丘陵	丘陵	縄文

後期では富沢駅周辺の自然堤防上に多くの遺跡が存在し、特筆すべき遺構・遺物が多い地区としても知られる。大野田遺跡では後期前半の南境式期の環状集石群・配石遺構・埋設土器が検出され、包含層中からはハート形土偶をはじめ300点以上の土偶が出土するなど墓域と祭祀の場と考えられている。同様に下ノ内浦遺跡においても同時期の配石遺構が検出されており墓域が見つかっている。その他、大野田遺跡では鹿角製の鉈や釣針といった漁労具と鳥や鰐、魚の骨が検出されており、貝塚以外での事例として貴重なものである。伊古田遺跡では包含層中から多量の土器・石器とともに後期中葉の宝ヶ峯式期の全長40cm以上の大型土偶が検出されている。王ノ壇遺跡では後期中葉宝ヶ峯式から後葉金剛寺式にかけて遺物包含層・堅穴遺構・配石遺構・土坑・埋設土器が検出されている。この後期中葉の標式遺跡である金剛寺貝塚は本遺跡から南へ4kmほどに位置し、上野遺跡の周辺では鍛冶屋敷前遺跡から晚期中葉までの遺物が出土している。

弥生時代

弥生時代は遺物が出土する遺跡は多く知られるが、これまでに遺構が検出されている遺跡はあまり多くはない。

まず居住域についてはこれまでのところ丘陵の台地部分から検出されており、後期天王山式期の堅穴住居跡が原遺跡・土手内遺跡から検出されている。また、生産域の面では沖積地の富沢遺跡・山口遺跡などから水田跡が見つかっている。墓域では下ノ内遺跡と下ノ内浦遺跡から副葬品を伴う土壙墓が検出され、西台畠遺跡と名取川南城の名取市原遺跡からは再葬墓となる土器棺墓が検出されている。また、十三塚遺跡からは前期の遠賀川系の土器が出土しており、土壙墓が多数検出された東北南部の弥生時代中期の「十三塚式」の標式遺跡として有名である。

古墳時代

古墳時代では丘陵部と低地に古墳が作られ、低地部にあたる大野田古墳群では群集墳が存在し、現在まで多数の古墳が確認・調査されている。また、春日社古墳の調査では主体部から副葬品として革盾が出土し、ヤマト政権との強い結びつきが考えられている。集落についてはこれまで継続して行われている富沢駅周辺の調査などで堅穴住居跡の検出例が蓄積されており、徐々に集落の様相なども明らかになりつつある。また野田山遺跡では古墳前期の塩釜式期の堅穴住居跡が多数検出されている。横穴墓については青葉山丘陵斜面に土手内横穴墓群が存在し、また名取川の南岸の熊ノ堂横穴墓群が一大横穴墓群として知られている。

古代以降

近年の調査で大野田地区の六反田遺跡・袋前遺跡・大野田古墳群にまたがって展開する大野田官衙遺跡が新たに知られている。今までのところ大溝により南北約259m、東西約196mの長方形の区画がなされ、内部には主軸方向を揃えた大型の建物群が配置される構造が確認されている。これらの主軸方向が北東1.5kmに存在する郡山遺跡のⅡ期官衙とほぼ同じであることから両者の関連性が注目されている。古代の集落は下ノ内浦・下ノ内遺跡・伊古田遺跡・六反田遺跡・大野田遺跡・鍛冶屋敷A遺跡・鍛冶屋敷前遺跡・山田上ノ台遺跡・北前遺跡などで確認され

ている。古代の官道である東街道は多賀城へ向かう道として重要な役割を果たしたが、名取では北目－笠島－塩手－箕輪－熊ノ堂を抜けて名取川を渡って鉤取へと続くと推定されており、これによると本遺跡の周辺域が推定地と考えられるが現在までその位置は確定していない。またこれらの道筋に沿うように高館丘陵には川上大館跡、高館城跡、熊ノ堂大館など中世の城跡や館跡が点在しており、本遺跡に最も近いものでは富沢館跡が存在する。王ノ堀遺跡では大溝で区画された屋敷跡が確認されており、多数の掘立柱建物跡・井戸跡・池跡の他、火葬墓・土葬墓等の宗教関連遺構が発見されている。また幹線道路の「奥大道」とこれらに通じる枝道も発見された。近世の調査では山田条里遺跡と元袋遺跡で屋敷跡が調査されている。

3. 上野遺跡周辺の遺跡

第2図は上野遺跡に隣接する周辺の遺跡と調査地点を示したものである。この地区で調査が行われたのは昭和51年の上野遺跡、船渡前遺跡（八幡西遺跡）が最初であり、その後道路建設工事などにより周辺部の調査が行われている。最も調査面積が大きいのは上野遺跡で、その他は小規模であるが注目すべき遺跡も存在している。ここでは隣接地点で検出された主な遺構と遺物について見てきたい。

まず本遺跡から東へ500mには鍛冶屋敷A遺跡、またその東に隣接して鍛冶屋敷前遺跡が存在する。第5～7次調査区の東の延長部分にあたり市道富田富沢線の拡幅工事にともない平成8年から10年にかけて確認調査および本調査が行われている。なお、南ノ東遺跡については確認調査で時期不明の溝跡1条が検出されたのみで遺物も僅かであったことから本調査は行われていない。鍛冶屋敷A遺跡では縄文時代と古代の遺構・遺物が検出されている。

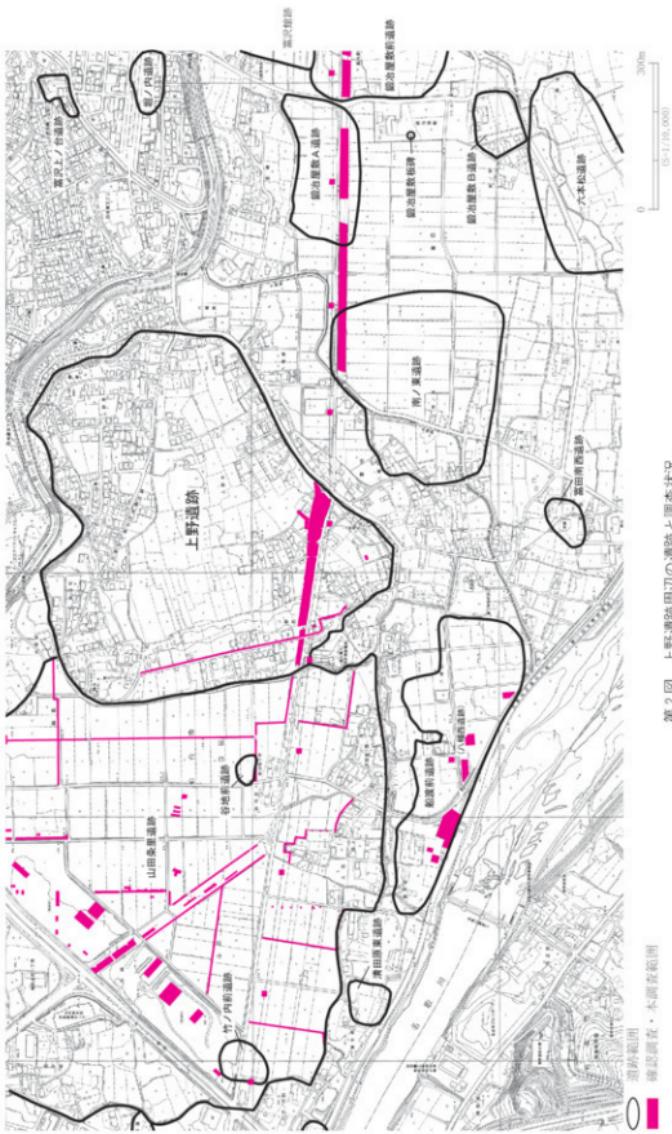
縄文時代では竪穴住居跡、配石、土坑が検出されており、竪穴住居跡は後期中葉から後葉の時期のもので壁際に柱穴が巡る壁柱穴構造をとるものと考えられる。また、土坑では壁がオーバーハングして立ち上がるフ拉斯コ状土坑も検出された。3基検出された内の一つの1号配石は西側が河川跡により削平を受けて全体は不明であるが、検出された弧状の列石部分とそこから張り出す方形の配石からなるものである。弧状となる列石の中心付近に石圓炉が存在していることから一連のものとも考えられる。これらの配石の方法についてはやや平らで扁平な礫を立てて並べるものが多いという特徴が見られる。鍛冶屋敷前遺跡ではが跡4基、土坑、ピットが検出され、後期中葉から晩期中葉にかけての土器が検出されていることから、遺構はこの時期に伴うものと考えられ、線刻縦、土偶頭部等も出土している。

古代以降では鍛冶屋敷A遺跡は奈良・平安時代の竪穴住居跡6軒、竪穴遺構、土坑、溝跡、掘立柱建物跡が検出されている。S I - 2 竪穴住居跡は床面中央で炉が検出され、多量の鉄滓や溶解した炉壁や羽口等が出土しており鍛冶作業場と考えられている。また、鍛冶屋敷前遺跡でも多量の鉄滓が出土しており東北東約400mに存在する富沢館跡との関連が考えられている。鍛冶屋敷前遺跡では、その他に奈良時代の竪穴住居跡2軒、土坑、溝跡、掘立柱建物跡、河川跡が検出されている（仙台市教育委員会 1986b・2000）。南側に位置する六本松遺跡では平成4年（1992）に市道拡幅工事に伴う調査が行われ、平安時代の竪穴住居跡が発見されている。

上野遺跡から南西へ200mには船渡前遺跡が存在する。幅60～120m、標高24～28mの自然堤防上に立地する。昭和51年に仙台南部道路の建設に伴って調査が行われ、斜面地から遺物包含層が確認され弥生時代前期から中期中頃の土器が検出されている。石庖丁や糊圧痕土器が出土していることから同遺跡周辺で弥生時代前期にはすでに稻作が始まっていたと推測され、仙台市域における弥生時代初頭の遺跡としても重要である（宮城県教育委員会 1977）。平成10年に行われた2度目の調査では、平安時代の竪穴住居跡や中・近世の溝跡と掘立柱建物跡が検出されている（仙台市教育委員会 1999）。

また、現在は船渡前遺跡の範囲内に含まれている八幡西遺跡は、昭和51年に農地改良工事中に発見され緊急に発掘調査が行われた。調査面積は37m²と小規模なものであったが平安時代の竪穴住居跡1軒が検出され、ホゾ孔を持

第2図 上野遺跡周辺の道路と調査状況



つ炭化材などが出土しており焼失家屋と考えられる。壁高が45cm遺存していたことからカマドの残存も良好であり、両袖の石組、煙道の一部、支柱が見られた。出土遺物では土師器・須恵器の他に鉄製品では刀子と鍔先が検出されおり、農具研究の分野においても貴重な資料が得られている（仙台市教育委員会 1980）。

上野遺跡の西側に隣接する山田条里遺跡は45haの範囲において、古代の条里型地割が地表に観在する遺跡として知られ、これまでに縄文時代から古代、近世の遺構・遺物が検出されている（仙台市教育委員会 1993ほか）。『名取都北方山田邑絵図』には「ヤチヤシキ（谷地屋敷）」として屋敷の周囲に堀がめぐらされた状況が描かれており、西辺部の堀跡が調査され上記した近世絵図と調査成果が一致する貴重な事例の一つと言える。遺物の年代から明治前半頃まで存続した有力農民の屋敷地と考えられている。その他、第3次調査では舟形甌式窯の弥生土器が検出されており、船渡前遺跡と本遺跡の周辺には弥生時代の遺構が存在しているものと考えられる。

4. 過去の調査の概要

上野遺跡は仙台市を代表する縄文時代中期の遺跡として著名であり、昭和初期に松本彦七郎によって『考古学雑誌』上で三神峯遺跡とともに紹介されたのを初めとして古くから知られる（松本 1930）。その後、宮城県史などにも取り上げられたが採集遺物からのものであり、具体的な遺跡の内容については不明であった。

発掘調査が最初に行われたのは昭和51（1976）年に行われた青少年文化財講座としてである。以来これまで仙台市教育委員会が主体となった調査次数は8回を数え、第2表には各次における調査面積および検出された遺構を記載した。なお、第3次調査はトレンチ調査のため各トレンチごとの概要を第3表にまとめた。以下、第2・3図をもとに各次調査の概要について述べる。

第1次調査

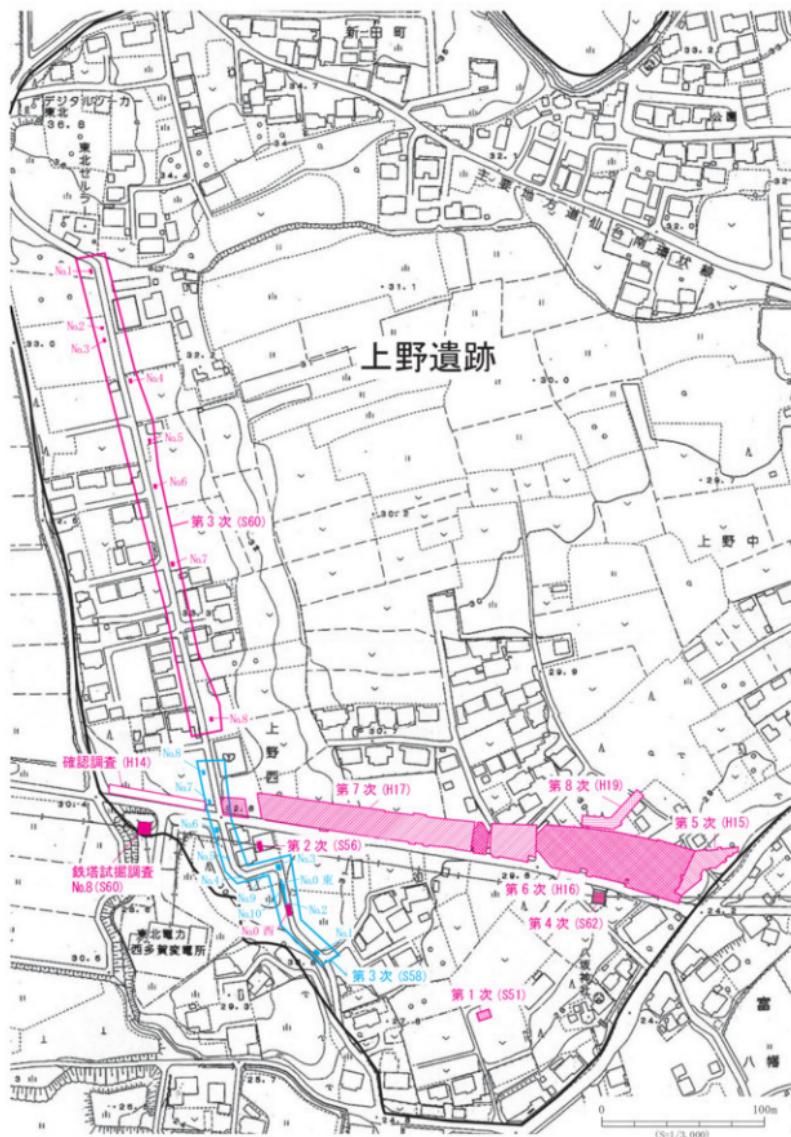
昭和51年10月～11月に青少年育成講座として実施された（仙台市教育委員会 1976）。調査区の位置は第6次調査3区から南へ130mの地点で、上野遺跡が立地する台地の南端部分にあたる。規模は東西8m、南北5.5mで調査面積は45m²程度の小規模なものであるが、縄文時代の竪穴住居跡2軒、土坑2基、古代以降の土坑1基、溝跡1条など多くの遺構が密集した状態で検出された。検出された遺構の大半はその全体像は明らかとなっていないが、これにより上野遺跡に縄文時代の集落が存在することが初めて明かとなった調査として重要である。遺物では中期大木8a～10式の土器および石器などが出土している。

第2次調査

昭和56年12月に個人住宅建設に伴って対象面積472m²の内、12m²が調査された（仙台市教育委員会 1982）。第7次調査2区西端部から南へ20mの地点に位置する。非常に小規模な調査で縄文時代の土坑1基、ビット19個が検出された。土坑は平面形が不整円形のもので、底面では壁沿いにピット状の落ち込みが認められる。遺物では大木8a・b式の土器を主体とし、石器は石錐・石匙・スクレイパー・凹石が出土している。

第3次調査

昭和58年11月～12月と昭和60年4月～6月の2期にわたり市道十文字線整備工事に伴い合計145m²が調査された（仙台市教育委員会 1986a）。市道十文字線は上野遺跡の西側縁辺付近に南北に延びる道路であり、調査対象となる道路の総延長は640mである。主に初年度は南側半分、次年度には北側半分の調査が行われた。調査区は2×3mのトレンチを基調としており、検出された遺構と出土遺物を第3表に示した。中でも昭和58年度№.2トレンチでは複式炉を有する竪穴住居跡1軒、№.3トレンチでは石組炉が検出され、さらに№.10トレンチでは多量の土器・石器が出土した。この調査結果により上野遺跡西部についてもこの南側を中心に縄文時代の遺構・遺物が集中していることが確認された。出土した遺物は上記したトレンチからのものだけで中型のコンテナ50箱程に達し、面積の割りに遺物量が多い調査結果といえる。遺物はそのほとんどが縄文土器・石器であり、時期は大木7a～10式のもので



第3図 上野遺跡の調査区配置図

ある。それ以外にも土偶や垂飾品と考えられる有孔石製品などが出土している。なお昭和60年度No.5 トレンチからは土顎器が2点出土しており、これまでに確認されていない古墳時代の遺構が確認される可能性もある。

第4次調査

昭和62年5月～6月に電力鉄塔改築工事に伴い100mが調査された（仙台市教育委員会1989a）。昭和60年に試掘調査が行われた鉄塔No.7調査区である（図1）。第6次調査1区から南に10mの地点に位置する。検出された遺構は繩文時代の土坑22基、ピットのほか、溝跡2条が検出されている。土坑は断面形が底面から大きくオーバーハングして立ち上がるフラスコ状のもので、このような土坑が重複しながら密集した状態で検出されたことから第1次調査地点と比較して貯蔵穴群地域と捉えられている。出土遺物では繩文土器、石器の他、土製品では土偶・三角形土製品などが出土している。また土坑内の土壤サンプルを分析した結果、イノシシなどの骨片やトチ・クルミが検出されている。なお、同じく行われた昭和60年の試掘調査鉄塔No.8地点は、搅乱のため大きく削平されており遺構は発見されず本調査は行わなかった。

（※1）同じく昭和60年には鉄塔No.8調査区も試掘調査が行われたが、遺構は検出されず遺物も出土しなかった（仙台市教育委員会1986b）。

第5次調査

平成15年11月～平成16年1月に都市計画道路富沢山田線建設工事に伴い410mが調査された（仙台市教育委員会2004）。調査区は第6次調査2区の東側に位置する。検出された遺構は繩文時代の土坑28基と時期不明の掘立柱建物跡1棟である。土坑の多くは断面形がフラスコ状となるもので第4次調査同様に同地区も貯蔵穴群地域と捉えられた。

第2表 上野遺跡調査一覧

調査区分	調査年	調査面積(m ²)	検出遺構・備考	調査回数	報告書名	番号
第1次	1976(昭和51)年	45	繩文時代、柴穴式19基、土坑1基、性格不明1基(?)、古代土跡、土坑1基、溝跡1条	第1回青少年文化財講座	第1回青少年文化財講座 上野遺跡62年度調査実施報告書調査報告会資料	-
第2次	1981(昭和56)年	12	繩文時代、土坑1基、ピット19個	個人宅挖掘(浄化槽)	仙台平野の支抜群 -昭和6年度発掘調査報告書-	第21集
第3次	1983(昭和58)年	88	繩文時代、柴穴式19基、土坑1基(?)、ピット数個	市道十文字線整備	上野遺跡-市道十文字線整備調査報告	第33集
第4次	1985(昭和60)年	67	繩文時代、土坑2基、ピット14個(?)	上野遺跡-市道十文字線整備調査報告	第34集	
第4次	1985(昭和60)年	100	繩文時代、土坑2基、ピット多数、古代土跡、溝跡1条	電力鉄塔改築	上野遺跡-電力鉄塔改築調査報告書	第35集
第5次	2003(平成15)年	410	繩文時代、土坑2基、性格不明、掘立柱建物跡1棟	都市計画道路富沢山田線建設	上野遺跡-平成15年度確認調査-第5次発掘調査報告書-	第22集
第6次	2004(平成16)年	2030.5	繩文時代、柴穴式19基(?)、土坑264基、埋設土器1基、埋没の瓦らしき1件、石器34個 古代土跡、柴穴式19基、土坑1基、溝跡1条、埋設土器1基、性格不明度 ピット13個	市道計画道路富沢山田線建設	上野遺跡 第6・7・8次発掘調査報告書- -都市計画道路「富沢山田線」開通前発掘調査-	第33集 (未発行)
第7次	2005(平成17)年	3103.0	繩文時代、土坑1基、性格不明1基、ピット2273個 土器1基、石器1基、性格不明1基、ピット2273個 古代土跡、柴穴式19基(?)、土坑1基、溝跡1条、ピット14個	市道計画道路富沢山田線取り付け工事建設	上野遺跡-第3次発掘調査報告書-	第34集
第8次	2008(平成20)年	286	繩文時代、土坑1基、ピット9個 古代土跡、柴穴式19基(?)、土坑1基、溝跡1条	市道計画道路富沢山田線取り付け工事建設	上野遺跡-第3次発掘調査報告書-	第34集
調査面積合計						

（※1）第12回(第1回)～第6回(第5回)に亘り、水路の調査を行った未整理・未発表とした上で検出された遺構が以下の通りに記されている（柴穴式土器群にわたる土坑1軒、石臼1基、溝跡1条、ピット3個）、

（※2）ICP報告書には記載されていないものである。

（※3）時期についての記載なし。

第3表 第3次調査内訳

No.	面積(m ²)	検出された遺構	出土遺物	備考	No.	面積(m ²)	検出された遺構	出土遺物	備考
1	3.3×1.1	ピット1個	未定形土器による約半分埋没された、		2	—	—	—	実施せず。
2	2.3×0.8	柴穴式19基(?)	土坑1基(?)、柴穴式1基をもつ複数の鉄鏃頭。		3	2.3×2.2	—	—	
3	2.3×0.8	土の組合・七輪	未定形の土器		4	2.3×2.2	—	—	
4	1.5×2.2	土の組合	未定形の土器		5	2.3×2.2	—	—	
5	2.3×2.2	土の組合	未定形の土器による約半分埋没された、		6	2.3×2.2	—	—	
6	2.3×2.1	土の組合	未定形の土器		7	2.3×2.2	—	—	
7	2.3×2.1	土の組合(?)	未定形の土器		8	2.3×2.2	—	—	
8	2.3×2.1	土の組合	未定形の土器		9	1×1.0	埋土器1基、	未定形土器片	
9	1×1.2	土坑1基	岩子の遺物	未定形(?)の陶器、未定形(?)の陶器、未定形(?)の陶器	10	2.3×2.2	—	—	
10	2	多量の土器、石器	未定形(?)の陶器、未定形(?)の陶器、未定形(?)の陶器						
調査面積合計					調査面積合計				

第6次調査

平成16年6月～平成17年1月に都市計画道路「富沢山田線」建設工事に伴い2,924.6m²の調査を実施した（本報告）。調査区は第5次調査区の西側に位置する。検出された遺構は縄文時代の竪穴住居跡、土坑、埋設土器など多数の遺構群が検出された。これらの遺構の分布状態は大木8a～b式の土器が多量に出土した溝状の落ち込みを境にして東側ではフ拉斯コ状土坑の貯蔵穴群が展開し、西側では竪穴住居跡が検出された他にピットが多数存在するなど、溝状の落ち込みを境にして東西で遺構内容が大きく異なることが確認された。古代以降では竪穴住居跡6軒、土坑71基、溝跡11条、焼土跡2基、ピットなどが検出され、土坑では焼土ブロックを多量に含む堆積土中から墨書き土器が出土している。近世では2区東側に遺構が分布し、18世後半～19世紀前半の遺物が出土している。

第7次調査

平成17年6月～平成18年1月に都市計画道路「富沢山田線」建設工事にともない3,023.6m²の調査を実施した（本報告）。調査区は第6次調査区の西側に位置する。縄文時代の遺構では竪穴住居跡、土坑、埋設土器が検出され、竪穴住居跡の多くは複式炉を有する大木9～10式のものであった。東側では遺構の密度が高いのに対して西側では希薄である状態が確認された。古代以降では竪穴住居跡5軒、土坑4基、溝跡4条、ピットが検出されており、竪穴住居跡はいずれも3区から検出され分布にまとまりが認められる。

第8次調査

平成19年6月～7月に都市計画道路「富沢山田線」取り付け道路工事に伴い286m²が調査された（仙台市教育委員会 2009）。調査区は第6次調査1～2区の北側に隣接する。調査区は抜根による搅乱で大きく削平されているが検出された遺構は縄文時代の土坑25基、ピット9個、古代以降では竪穴住居跡1軒、土坑1基、溝跡6条がある。土坑はフ拉斯コ状土坑となるものが多く含まれており、第4・5次調査および第6次調査2区同様に貯蔵穴群域と考えられる。また第6次調査に最も近いSK19土坑からは土器がややまとまって検出されおり、第6次調査1区で検出されたSX625溝状の落ち込みとの関連性について留意される。

第Ⅲ章 調査の方法と経過

1. 調査区の設定

第5次調査（仙台市教育委員会 2003）と本報告となる第6・7次調査は、都市計画道路富沢山田線建設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査である。この調査は、上野遺跡の南端部を東西に横切る市道の北側部分を調査対象とするもので、調査前の状況は一部宅地であったが大部分は畠地であった。平成14年～17年度に確認調査および本調査が実施される運びとなり、まず始めに平成14～15年度には開発区の全域を対象にした確認調査が行われた。初年度となる平成14年度は西端部にあたる約1,350m²を対象にして行われたが、遺構は確認されず、わずかな量の縄文土器片が検出されたのみであった。続く平成15年度には東側の約7,000m²を対象に確認調査が実施され、トレンチ20ヶ所の内、19ヶ所から縄文時代を主体とする遺構・遺物が検出された。特に中央から東側では遺物包含層を含む基本土層の遺存状況が良好であり、遺構の密度も高いことが確認された。そして、同じ平成15年には、第5次調査として開発地区的東端部の本調査（410m²）が行われた。この平成15年度の確認調査の結果をもとに平成16年度には開発地区的東側を第6次調査、その翌年の平成17年度には開発地区的西側を第7次調査として発掘調査を実施した。

調査は発生残土を場内で処理し、計画予定地の中央部北側に存在する民家への進入路を確保するために仮設道路を建設するため各調査区を3区に分け、着手した順に1区～3区とした。1区の調査完了後に埋め戻しを行って残

土を反転することとし、民家への仮設道路建設予定地については第6次3区として調査を行なった。このため、各次調査の3区はともに異なる次数の調査区に挟まれた状態となる。また平成17年度には第6次調査南側の一部を第6次追加調査として調査を行った（第3図）。

グリッドの設定は第6次調査に引き続き第7次調査が行われる予定であったことから、前年度に調査が行われた第5次調査区を含めた範囲に5m毎のグリッドを設定し、北から南へアルファベット、東から西へアラビア数字（1・2・3…）を付してその組み合わせによりA-1、B-1のように表記し、グリッドを示す場合は北東側の交点を基準とした（第4図）。

調査は表土掘削を重機で行い、確認面の精査から人力で作業を行った。現地での測量・実測図の作成は日本測地系X系の座標数値を基準としてトータルステーションで行ったが、土層断面図・見通し図の作成および平面図の一部は手実測を併用した。また、現地調査時における3区の遺構番号については第6・7次調査ともに調査が2区と並行して行われ、かつ3区が離れて独立しているために番号の重複と煩雑化を避けるため、整理段階で遺構名称の振り替えを行うことを前提として調査区名と遺構名を組み合わせた『3区S I 1』のように別の呼称を付した。また平成17年度の第7次に調査を行った第6次調査2区の南側については「第6次追加調査区」として、整理段階で第6次調査の遺構番号の連番とした。なお各遺構番号の振り替え・名称の変更については各種別毎の一覧を参照されたい（第28～36表）。

以下、各調査区の調査経過について第6次調査、つづいて第7次調査の順にそれぞれ説明する。

2. 調査の経過

第6次調査1区

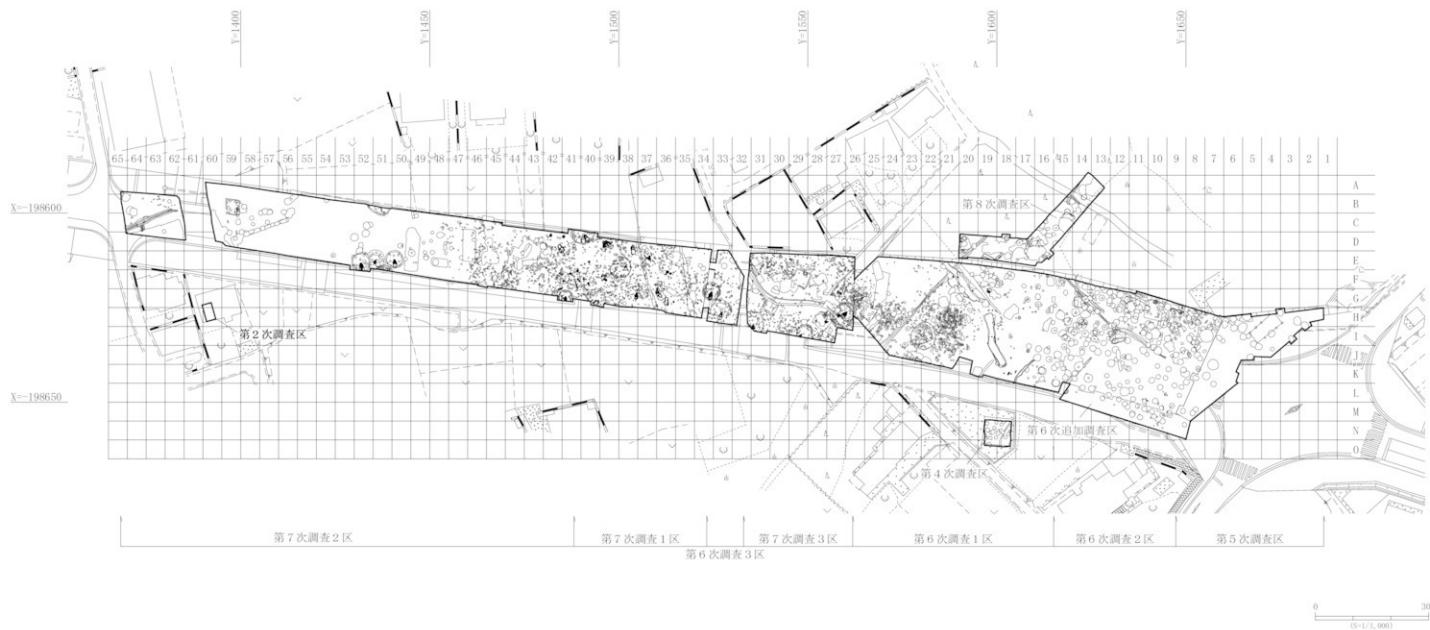
平成16年6月25日に1区の西側部分から重機による表土掘削を開始した。1区は東西約57m、南北約30mの東西に長く南側に緩やかに湾曲した長方形の調査区で西側には道路が存在していたことから西端部は三角形状となる。調査面積は1,415.4m²である。表土掘削後の精査によって調査区の中央から南側に遺物包含層であるⅢ層が確認され、人力により掘り下げ・遺構確認作業を行った。東側の確認調査12・13トレチ周辺では大型破片を含む多量の土器が検出され、遺物を残しながら分布の広がりと遺構平面の確認作業を行った。その結果、この大量の土器集中は溝状の落ち込み内に多量の土器が遺棄または投棄されていた状況が判明した。その他、調査区の中央から西側付近では縄文時代の堅穴住居跡が検出され、西側が道路部分に延びて調査区外となるS I 601・602堅穴住居跡の未調査部分は次年度に再度調査することになった。調査中の10月2日には現地説明会を開催し、150人を超える参加があった。また、10月29日にはラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。F-23、J-20グリッドでは旧石器の存在の確認と土層断面の観察のために深掘りを行った。

第6次調査2区

2区は1区の東側にあたり、東西約36m、南北約30mの東西に長く南側へ緩やかに湾曲した長方形の調査区で調査面積は1,172.3m²である。2区の表土剥ぎは11月8日から開始した。1区と2区の境はグリッドの16ラインとしているが、遺構の切り合いが多いため一部埋め戻さずに重複してそのまま調査を継続した。2区ではⅢ層が削平されており、遺構の検出面はⅣ～Ⅶ層上面であった。調査の結果、本区からは縄文時代のフ拉斯コ状土坑を主体とする土坑群および古代の堅穴住居跡などが検出された。平成17年2月9日にはラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。

第6次調査3区

3区は1区の西25mに位置し、東西約8m、南北約19mの南北に延びる長方形を基調とする調査区で調査面積は170.2m²である。また北東隅は生活道路のため一部調査区外となっている。11月11日から重機による表土掘削を開



第4図 上野遺跡全体図

始し、調査は2区と並行して行った。表土以下ではⅢ層が残存しており、遺物の取り上げを行ながら人力によって掘り下げを行い遺構の検出に努めた。その結果、堅穴住居跡2軒、土坑などが検出され、S-I 613堅穴住居跡が当初設定した調査区の西側におよぶことからさらに西側への拡張を行った。調査は撤収作業を含め平成17年2月18日に第6次調査の全ての作業を終了した。

第7次調査1区

平成17年6月13日に東側部分より西側に向かって重機による表土掘削を開始した。調査区は東西約53m、南北約18mの東西に延びる長方形で調査面積は939.3m²である。東端の一部が第6次調査3区と重複する。表土を掘削した結果、Ⅲ層が残存しており包含層中からは多數の縄文土器および石器が検出され、これらの遺物の分布や広がりに留意しつつ精査を行ったところ複式炉が多数検出された。しかし同一面で堅穴やピット・周溝などは確認されず、炉の部分を残して掘り下げを行ったところV層上面でピットを検出した。また、調査区の壁際で検出されたものについても一部調査区を拡張して確認に努めた。9月17日には現地説明会を開催し、約200人の参加があった。

第7次調査2区

2区は1区の西側に位置する東西約103m、南北約17mの東西に延びる長方形の調査区で、調査面積は1,491.8m²である。1区調査終了後の10月19日から開始した1区の埋め戻しに統けて表土掘削を行った。西端部には生活道路が存在していたことから一部未調査部分がある。2区ではⅢ層が東側の一部のみで見られたが、大半は削平されて残存せず、北西側では表土直下がⅥ層となる部分も認められた。人力により遺構精査を行った結果、堅穴住居跡、土坑などが検出された。堅穴住居跡が密集した状態で検出されたS-I 715堅穴住居跡周辺では南側へ調査区の拡張を一部行っている。

第7次調査3区

3区は第6次調査の1区と3区の間に挟まれた調査区であり、第6次調査3区の仮設道路完成後の11月2日から表土掘削を開始した。調査区は東西約28m、南北約22mの長方形であり、調査面積は592.5m²である。東側の一部は第6次調査1区と重複している。調査区の中央には生活道路が存在していたことからガス管や水道管などにより搅乱され、調査区は大きく北と南に分断された状態である。表土以下では周辺の調査区同様にⅢ層が残存しており、人力による精査を行った。Ⅲ層上面では北側を中心に焼土跡が多数検出され、完形土器を含む遺物の集中区(S-X760)が見られた。さらに古代の堅穴住居跡および縄文時代の複式炉を持つ堅穴住居跡、土坑などが検出された。遺構の記録を全て完了し、1月31日に第7次調査の全ての作業を完了した。

第6次追加調査区

第7次調査時に行われた第6次追加調査区(※1)は、第6次調査2区の南側に位置し、東西約30m、南北約5mの長方形の調査区で調査面積は166.4m²である。表土以下の土層が削平されており遺構の検出はV層上面で行った。その結果、フラスコ状土坑、ピットが検出され、9月26日に測量を含めた全ての調査を完了した。

第4表は各次調査面積を示したもので、第6次調査2区に第6次追加調査区の面積を加算したものである。このため、第1章第2節の調査要項には実際の年次に行った調査面積を記している。なお、第6次調査1区と第7次調査3区で19.5m²、第6次調査3区と第7次調査1区では15.1m²が重複して調査されており、実際の調査面積の総合計は5,913.3m²である。

(※1) 第7次調査時に第6次追加調査区の遺構名について現地調査の際に、調査区名と遺構名を組み合わせた「6次追加S-K1」のように呼称していたが、整理時に第6次調査の連續に振り替えを行った。詳細は検出遺構一覧をご参照ください。

第4表 上野遺跡第6・7次調査区別面積内訳

区	面積(m ²)	区	面積(m ²)
1区	1,413.4	1区	939.3
2区	1,308.7	2区	1,491.8
3区	478.2	3区	592.5
重複	2.854.3	合計	3,823.6
合計	4,268.2		

※第6次調査2区に6次追加調査区の面積を重複している。

第N章 基本土層

今回の調査区では第5次調査に先立って行われた確認調査をもとに本調査を実施した。調査終了後に堆積状況を確認するため人力および重機で掘り下げ、土層の観察を行った。また、それ以外に調査区の壁およびプラスコ状土坑の壁面において土層の堆積状況を確認しており、確認地点と土層柱状図を第5図に示した。調査区全体では西側においてⅢ・Ⅳ層が削平されおり一部はⅤ層が露出する状況にあった。調査区の東西での高低差は4.25mで地形はA～F地点がやや急な勾配であるのに対し、F～J地点ではほぼ平坦で緩やかな傾斜を持つ。以下、第5図のF地点をもとにして各層毎に説明する。

I a層：褐色（10YR4/4～6）砂質シルト。現表土・耕作土層である。縮まり、粘性を欠く。

I b層：暗褐色（10YR3/4）砂質シルト。旧耕作土層である。縮まり、粘性は弱い。

II層：黒褐色（10YR2/3）粘土質シルト。縮まり・粘性あり。遺物を多量に含む包含層である。遺構堆積土も本土層に類似したものが多い。a・bの2層に細分される。II a層は黒褐色（10YR2/3）粘土質シルトで縮まり粘性が有りボソボソしている。II b層は暗褐色（10YR3/3）粘土質シルトで縮まり粘性が強い。

III層：暗褐色（10YR3/4）粘土。縮まり強く硬い。粘性有り。土層断面の観察から遺構掘り込み面は本土層上面である。上面に遺物が含まれる箇所もあるが基本的には無遺物層である。

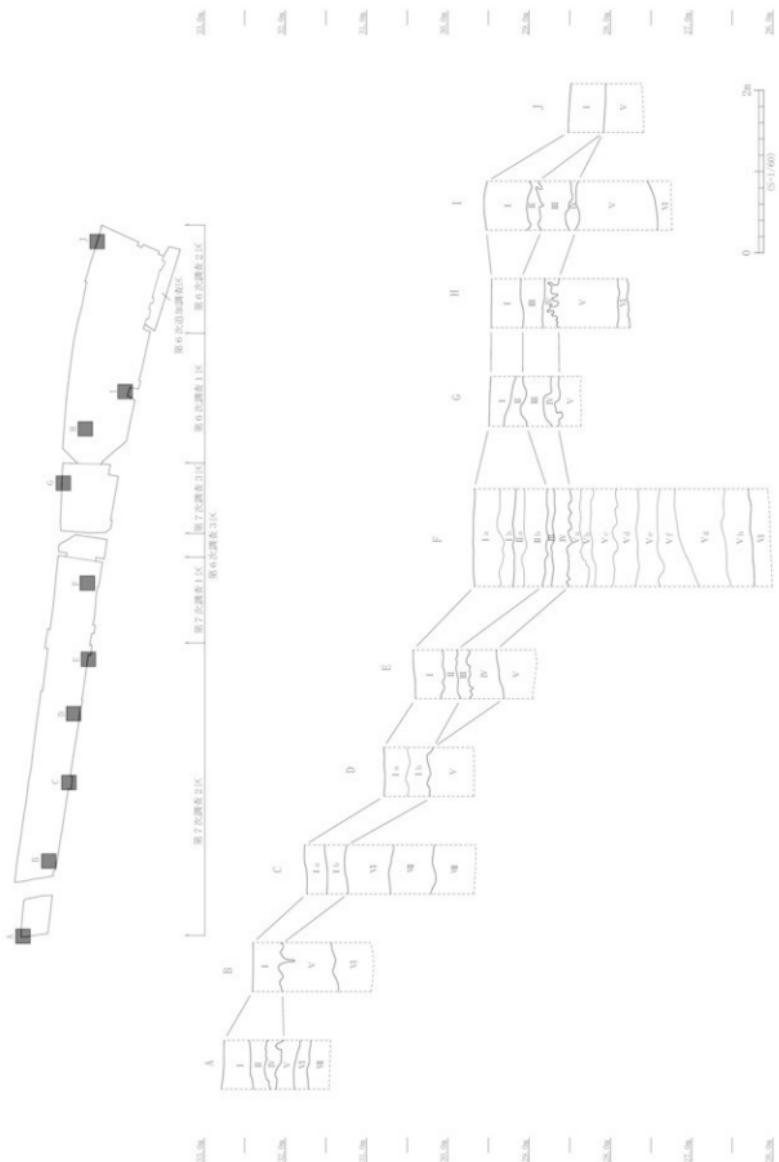
IV層：褐色（10YR4/6）シルト。縮まり、粘性ともに強く、明黄褐色シルト（V層）の斑紋を主体とする漸位層である。

V層：明黄褐色（10YR6/8）シルト。縮まり・粘性ともに有り。部分的に砂質シルト、粘土質シルトの部分が見られ、場所によって土性が異なり安定していない。全体の傾向として上部は粘性が強く、下部ではシルトまたは砂を含み斜行ラミナが観察される。M層までの堆積が厚いF地点ではV層上面からM層まで2.3m程ありa～hの8層に細分される。V a層は黄褐色（10YR5/6）粘土質シルト、V b層は明黄褐色（10YR6/6）シルト、V c層は褐色（10YR4/6）粘土、V d層は褐色（10YR4/6）シルト質粘土、V e層は黄褐色（10YR5/6）粘土、V f層はにぶい黄褐色（10YR4/3）砂、V g層は褐色（10YR4/4）砂、V h層は褐色（10YR4/4）砂。

VI層：黄褐色（10YR5/8）砂礫。粗い砂粒の中に粒1～3cm・5～10cmの円礫を主体的に含む。

VII層：黄褐色（10YR5/6）砂。細かい砂粒を主体とする。

VIII層：黄褐色（10YR5/8）砂礫。



第5図 基本土層

第V章 検出遺構と出土遺物

第1節 縄文時代

縄文時代の遺構は、第6・7次調査区全体で竪穴住居跡27軒、土坑348基、焼土跡23基、埋設土器29基、配石遺構5基、集石1基、溝状の落ち込み3ヶ所、遺物集中区1ヶ所、ピット約2,273個が検出された（第5表）。調査区全体を概観してみると、ほぼ全体に遺構は分布しているが、第7次調査の西側はやや遺構密度が低い。

調査区全体の地形は西側から東側に向かって低くなっている、東西の高低差は約4.25m程度である。遺構の検出面は平成15年度の確認調査からⅢ層上面と考えられたが、表土掘削を行った結果、第6次調査1区中央から東側部分と、第7次調査2区以西ではⅢ層が削平されており、V層あるいは部分的に礫層が露出する状況にあった。まず始めにそれぞれの各調査区で検出された遺構と検出状況に触れない。なお、遺構番号については各遺構種別毎に通し番号を付しており、最終番号の最大桁数の前に各調査次数の「6」または「7」を付した。S I・S Xは最終遺構番号が2桁となるため601～・701～・S Kは3桁のため6001～・7001～、ピットは4桁のため60001～・70001となる。また、遺物の登録番号についても同様に各種別毎に「6」・「7」を付した。

第6次調査1区では竪穴住居跡4軒、土坑56基、埋設土器10基、焼土跡11基、配石遺構1基、性格不明遺構はか2基、遺物集中区5ヶ所、ピット約833個が検出された。調査区の中央で一部搅乱を受けるが、礫層が露出する中央北側を除いてⅢ層が存在している。1区における東西の高低差は0.25m程度ほぼ平坦な地形となっている。S I 601・602竪穴住居跡は調査区西端部で竪穴の一部が検出されたもので、残りの部分については第7次調査3区で再び調査を行った。S I 604竪穴住居跡は唯一検出された石畳炉を持つ住居跡である。S X 625・626遺物集中区においては、溝状の落ち込み内に多量の土器が投棄または遺棄された状態で出土した。

第6次追加調査区を含む第6次調査2区では土坑206基、性格不明遺構はか3基が検出された。第6・7次調査全体で最も多くの土坑が検出された調査区である。基本土層ではほぼ全域でⅢ層が削平されており、V層上面で遺構の検出を行った。2区における東西の高低差は1.25mである。土坑はいわゆるフラスコ状土坑が多数検出され、底面にピットが存在するものや、溝状の掘り込みが認められるものもある。堆積土ではV層ブロックを含有するものが多く、人為的に埋め戻されたものが多いものと考えられる。

第6次調査3区では竪穴住居跡2軒、土坑2基、ピット107個が検出された。南側の一部で搅乱により削平された部分を除き、Ⅲ層は遺存している。S I 612竪穴住居跡の約半分が西側の調査区外にあるため、調査区を拡張して調査を行ったもので、2軒ともに複式炉が検出された。検出面の状況は南側へと緩やかに傾斜する。

第7次調査1区からは竪穴住居跡12軒、土坑60基、埋設土器18基、焼土跡4基、配石遺構4基、集石1基、性格不明遺構はか12基、ピット298個が検出された。調査区全体でⅢ層が確認される。1区の東西での高低差は1.0mで東側へ緩やかに傾斜する。なお、竪穴住居跡はいずれも複式炉を有するものである。

第7次調査2区では竪穴住居跡6軒、土坑11基、焼土跡1基、性格不明遺構はか1基、ピット298個が検出された。Ⅲ層が後世に削平されていることからV層上面で遺構の検出を行ったが、中央のB～D-51～55グリッド周辺では礫層が一部露出している。土坑はフラスコ状のものがB～D-47～49グリッド周辺に分布が認められる。調査区の東西での高低差は1.0mで東側へ緩やかに傾斜する。

第7次調査3区では竪穴住居跡3軒、土坑13基、埋設土器1基、焼土跡7基、性格不明遺構はか7基、遺物集中区1ヶ所、ピット697個が検出された。調査区中央に搅乱が存在しており、調査区を北と南に大きく分断している。竪穴住居跡はいずれも複式炉を有するものである。調査区東端では第6次調査1区で一部を調査したS I 601・602竪穴住居跡のほぼ全体が検出され、いずれも複式炉を有するものであることが明らかとなった。竪穴住居跡より新



第6図 縄文時代遺構全体図



第7図 桟木時代遺構配置図(1)



第8図 桶文時代遺構配置図（2）



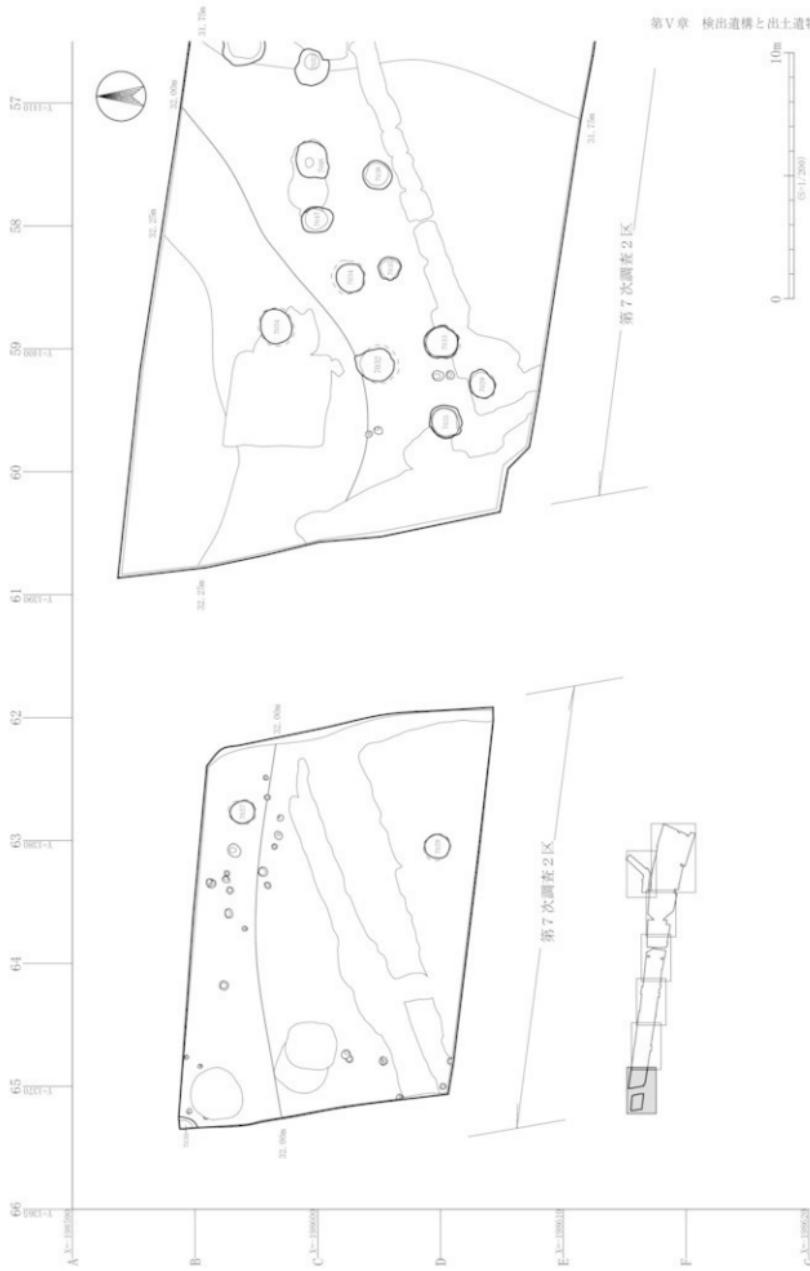
第9図 織文時代遺構配置図（3）



第10図 姉文時代遺構配置図 (4)



第11図 繩文時代遺跡配置図（5）



第12図 繩文時代遺構配置図（6）



第13図 繩文時代遺跡配置図 (7)

しいSK6080土坑の堆積土中からは長さ10mm前後を主体とする指でのばしたような棒状の粘土塊などが多数検出された。

以下、各遺構ごとに説明する。

※ 1) 第6回調文時代遺構全体図(1/600)には隣接地で調査が行われた第4次調査(仙台市教育委員会第127集)および第5次調査(仙台市教育委員会第258集)、第8次調査(仙台市教育委員会第343集)の全体図を合成している。また、第13回の調文時代遺構配置図-(7)(1/200)には、北側の第8次調査区を(前掲第343集)を合成し、第8次調査報告書の遺構番号を本報告書の遺構呼称方法に合わせて次のように表記した。S1801～、SK8001～、SD801～である。

第5表 調文時代検出遺構一覧

	調査面積 (nF)	S I	S K	S X				ピット
				焼土跡	埋設土器	配石	集石	
第6次調査	1区	1415.4	4	56	11	10	1	0
	2区	1,338.7	0	206	0	0	0	0
	3区	170.2	2	2	0	0	0	107
小計		2,924.3	6	264	11	10	1	940
第7次調査	1区	939.3	12	60	4	18	4	1
	2区	1,491.8	6	11	0	0	0	298
	3区	592.5	3	13	8	1	0	697
小計		3,023.6	21	84	12	19	4	1,273
全体合計		5,947.9	27	348	33	29	5	3,213

1. 堅穴住居跡

堅穴住居跡は第6次調査で6軒、第7次調査で21軒の合計27軒が検出された。第6次調査1区西端部から第7次調査1区西側までと第7次調査2区中央部分に分布のまとまりが認められる。遺構が調査区外に延びているため、全体が明らかでないものもあるが、炉跡が検出されたものの中では石窯炉を有するものはS1604堅穴住居跡1軒のみで、それ以外はいずれも複式炉を持つ。また、第7次調査1区で検出された遺構については複式炉がⅢ層中で検出され、精査を繰り返し行って徐々に掘り下げを行ったが堅穴や周溝等の施設を確認することができなかったものがある。これらについては整理時に下層で検出されたピットを合成して作図を行った。なお、遺構番号は古代の堅穴住居跡との連番としたことから連続性に欠けるが、遺構一覧表を合わせて参照されたい(第28表)。

以下、各住居跡について説明する。

S1601堅穴住居跡 (第14・15図、図版7)

【位置・検出面】第6次調査1区西端および第7次調査3区東側のG・H-26・27グリッドに位置し、N層上面で検出された。調査上の制約から第6・7次の2ヵ年に渡って調査を行った。東側が一部調査区外となる他に南東側が搅乱によって削平されているが、ほぼ全体が明らかになった。南西側にはS1725・726堅穴住居跡が存在する。

【新旧関係】S1602堅穴住居跡、SK7081土坑と重複し、本遺構が新しい。

【規模・平面形】平面形は東西5.1m、南北4.9mの円形である。

【堆積土】黒褐色粘土質シルトの単層で、炭化物粒をやや多く含む。

【壁面】壁は周溝の底面からほぼ垂直に立ち上がる。検出面から床面までの深さは第6次調査1区の壁断面では18cmである。

【床面】掘り方の底面であるV層を直接床面にしているが、一部S1602堅穴住居跡の堆積土を床面としている。ほぼ平坦であるが、炉が付設される南西側へ向かって緩やかに傾斜する。

【柱穴】床面および周溝内から10個のピットが検出された。P1～4は柱痕跡が確認されており、検出された位置および掘り方の規模や深さ等から柱穴と考えられる。P1とP2、P3とP4は炉の長軸方向を主軸にした場合左右対称の配置となり、4本柱構造の主柱穴になるものと考えられる。それ以外に検出されたP5～7は深さも

浅く補助的な役割のものと考えられる。

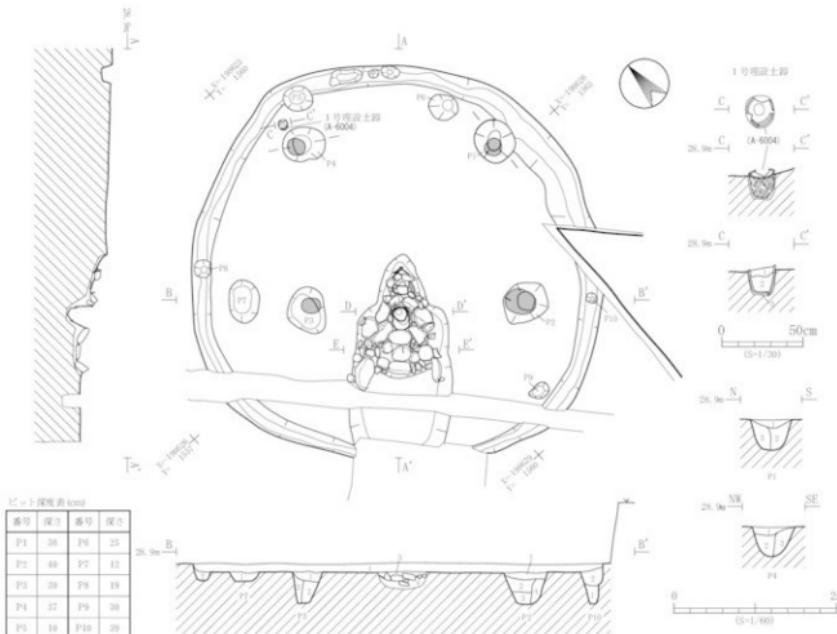
【周溝】周溝は壁の内側を全周する。幅15～48cm、深さ9～14cmである。底面には若干の凹凸が認められ、断面形はU字形を基調としたものである。

【その他】住居の北側に位置するP4と周溝の間から埋設土器（A-6004）が検出された。直径18cm、深さ16cmの円形の掘り方内に小型の深鉢形が正位の状態で埋設されていた。土器内の堆積土は2層に分かれ、1層には炭化物粒・焼土粒を微量に含んでいる。

炉（第14図）

【位置・方位】住居の南西側に位置し、掘り込み部の一部と壁際が搅乱により削平されている。長軸方向はN-45°～Eである。

【規模・平面形】長さ239cm以上、最大幅125cm以上である。平面形は土器埋設石器部の境でくびれを有するダルマ形である。



第14図 SI601 穴状住居跡

【構造】土器埋設石組部、土器埋設敷石石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

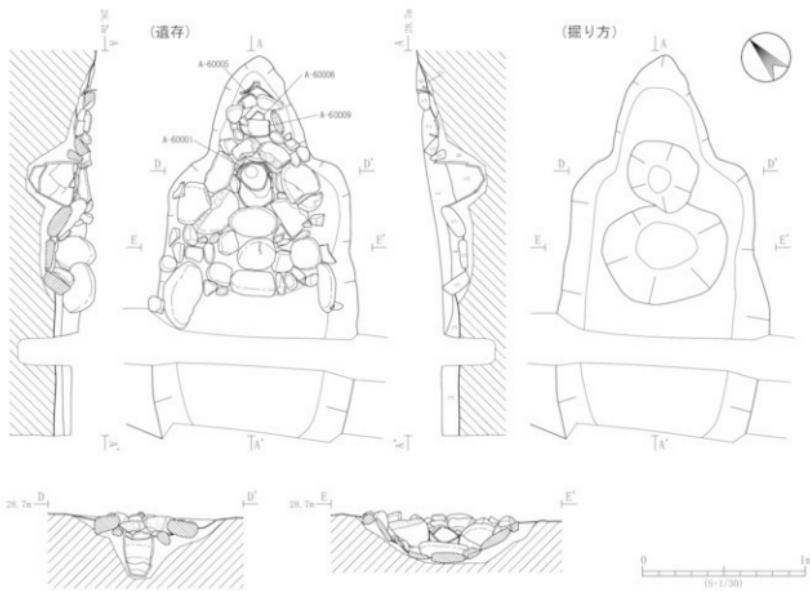
【土器埋設石組部】長さ59cm、幅45cmである。埋設土器は残存しておらず、中央部分からは土器内の底面に散かれていたと考えられる深鉢の胴部破片（A-60006・6009）が内面を上に向けた状態で検出された。これらの周囲には10～15cmの礫が円形に配され、北側部分の掘り方との間からは炉の構築時に補強のために据えられたものと考えられる土器片（A-60005）も検出されている。

【土器埋設敷石石組部】長さ90cm以上、最大幅112cm以上、床面から底面の敷石部までの深さは34cmである。底面に平坦面を上に向けた状態で20～30cm大の扁平な礫が敷設され、側壁では底面から外側に開いた角度で設置される。側壁及び敷かれた礫は火熱によって赤変しており割れた状態のものが多く見られた。また掘り方や礫の隙間に10～15cm大の小型の礫が充填される。北東側には深鉢（A-60001）が正位の状態で埋設されており、床面から底面までの深さは42cmである。

【掘り込み部】中央部分と壁際が搅乱により削平されているが、現存高で長さ90cm以上、幅125cm以上である。平面形は方形または梢円形を基調としたものであり、敷石石組部側の側壁には大形扁平な礫が据えられている。底面はほぼ平坦で、床面から掘り込み部の底面までの深さは25cmである。

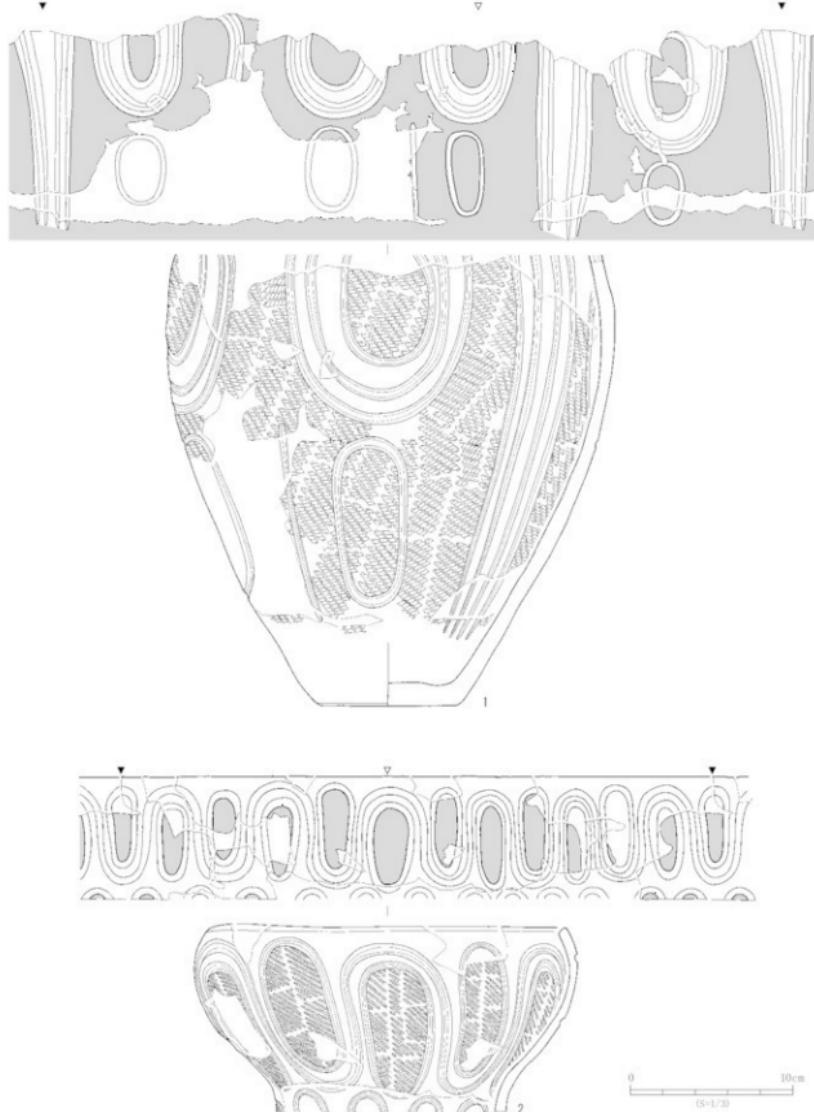
【出土遺物】(第16～18図、図版127・128)

本遺構の堆積土中からは土器・石器が出土した。第16図1（A-60001）は複式炉の土器埋設石組部に埋設されていた土器である。胴部上半を欠き、胴部下半～底部が残存する。第17図3～7（A-60005～60009）は炉の北側先

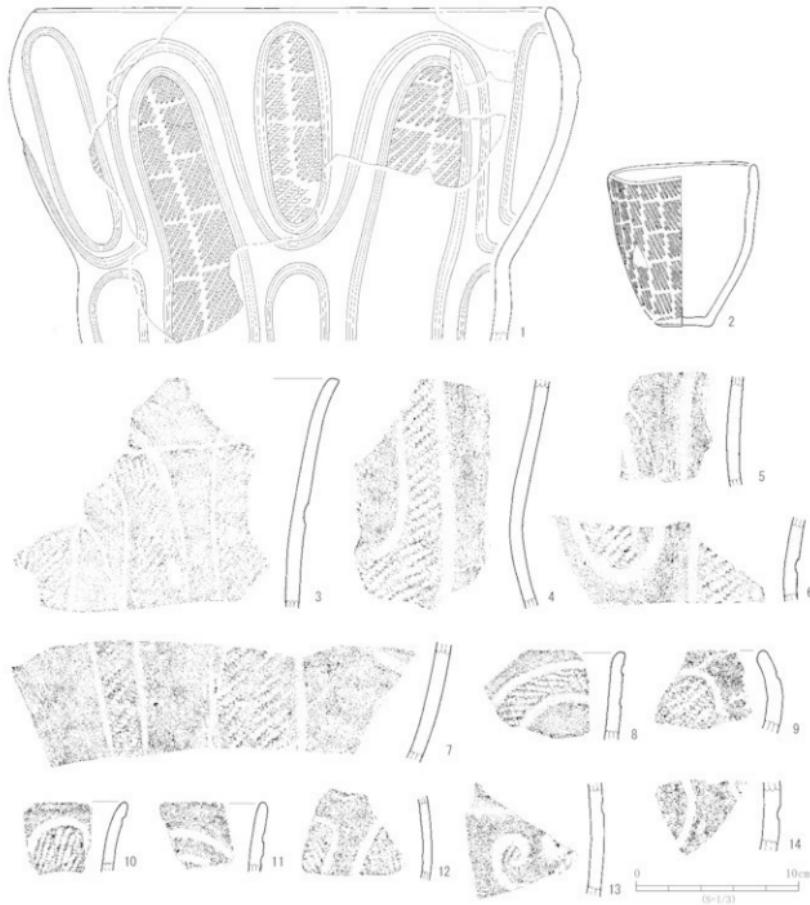


遺構	埋位	土色	土性	備考	遺構	埋位	土色	土性	備考	
1	10YR2/4	褐色	シルト質粘土	炭化灰・V型礫少量、礫土粒を微量含む。	炉	5	10YR2/4	褐色	シルト質粘土	炭化灰や多い、下層に巣中土所あり。
2	10YR2/4	褐色	シルト質粘土	1層に細粒、礫土粒を少量含む。	6	10YR4/6	赤褐色	シルト	焼土ブロック、礫を多量に含む。	
3	10YR2/2	褐色	粘土	浅い埋没段を少量含む。	7	10YR4/3	灰褐色	シルト	焼土埋没段を少量含む。	
4	10YR2/2	褐色	粘土	口縁に細粒、炭化灰、礫土粒増加。	8	10YR4/4	褐色	シルト	V型埋没段主体。	

第15図 SI601 積穴住居跡複式炉

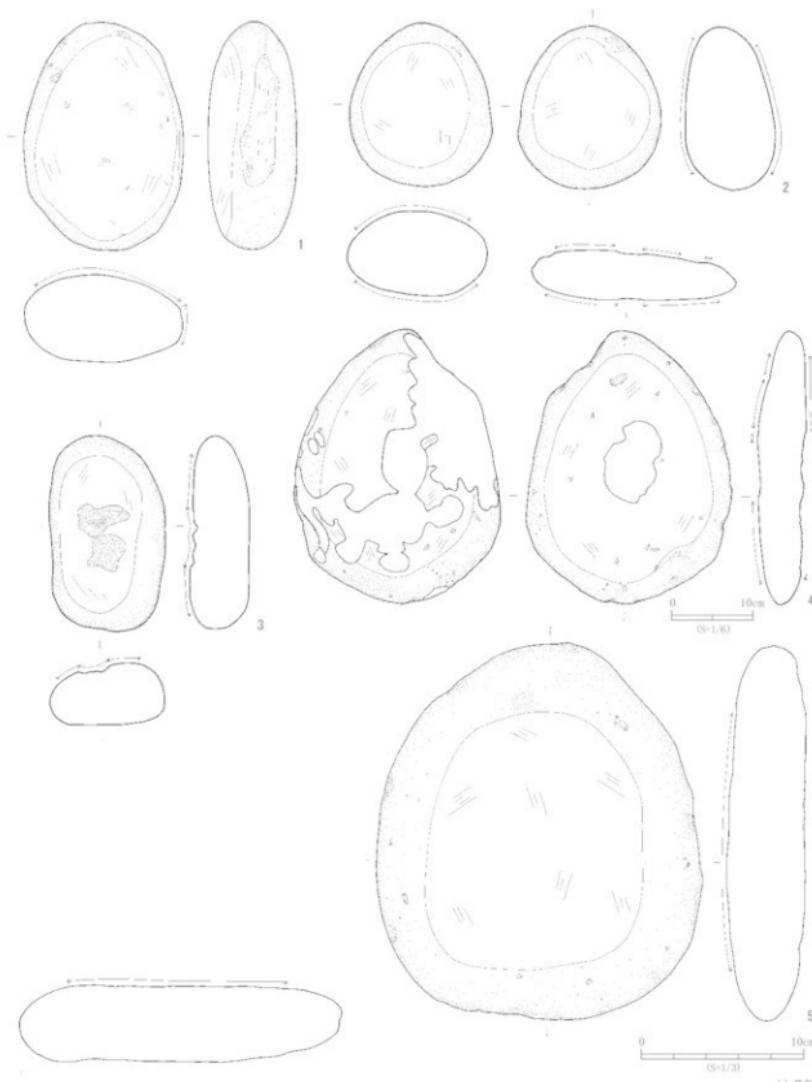


第16図 SI601 堅穴住居跡出土遺物（1）



文	目録番号	場所	形態・部位	文様等	備考	写真図版
1	A-60001	上層	深鉢・口縁部・側部	口縁部～側部：格内；(U)：状区画。柄位波状沈文、帶消盡文。副位施文。	-	138-1
2	A-60004	伊・埋設土層	小型深鉢・口縫部～底面	口縫部～側部：地文或文上部施文。底面：子母。	外面に黑色物付着。	137-2
3	A-60005	伊・埋設土層	深鉢・口縫部	(U)：状区画沈文、帶消盡文。底：副位施文。	-	137-3
4	A-60006	伊・埋設土層	深鉢・側部	(U)：子状区画沈文、帶消盡文。副位施文。	5～7と同一個体。	137-4
5	A-60007	伊・埋設土層	深鉢・側部	沈文。	4×6・7と同一個体。	137-5
6	A-60008	伊・埋設土層	深鉢・側部	(U)：子状区画沈文、帶消盡文。副位施文。	4×5・7と同一個体。	137-7
7	A-60009	伊・埋設土層	深鉢・側部	副位区画沈文、帶消盡文。副位施文。	-	137-8
8	A-60010	埋設土	深鉢・口縫部	(U)：状区画沈文、帶消盡文。副位施文。	4～6と同一個体。	137-9
9	A-60011	埋設土	深鉢・口縫部	区画沈文、帶消盡文。副位施文。	-	137-10
10	A-60012	埋設土	深鉢・口縫部	区画沈文、帶消盡文。副位施文。	-	137-11
11	A-60013	埋設土	深鉢・口縫部	沈文。	-	137-12
12	A-60014	埋設土	深鉢・側部	区画沈文、帶消盡文上部施文。	-	137-13
13	A-60015	埋設土	深鉢・側部	渦巻(U)：子状区画文、帶消盡文。副位施文。	-	137-14
14	A-60016	埋設土	深鉢・側部	沈文。	-	137-15

第17図 SI601 積穴住居跡出土遺物（2）



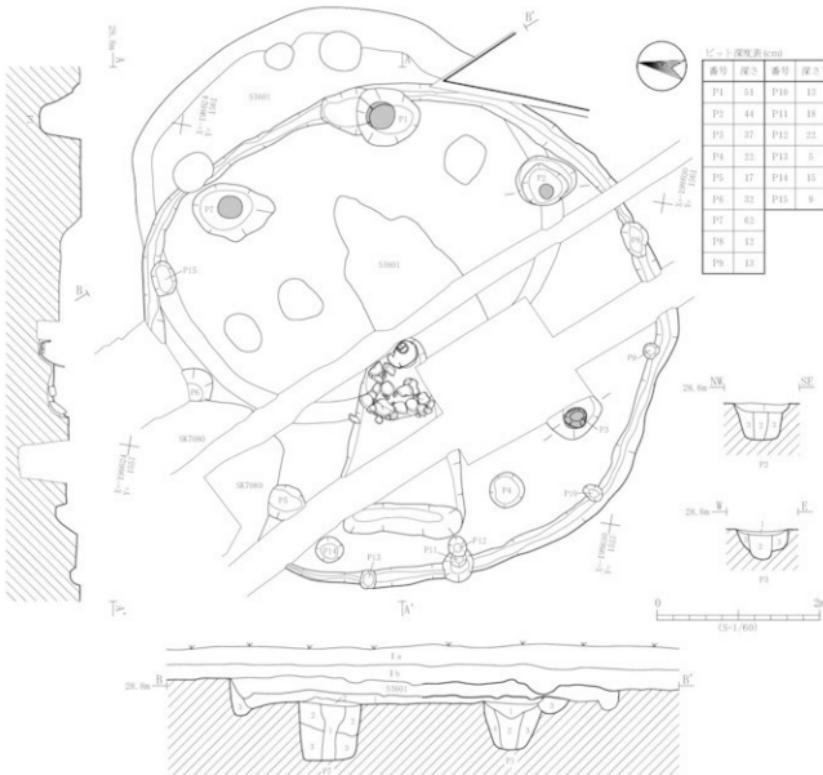
第18図 SI601 壁穴住居跡出土遺物（3）

No.	發現場所	地 位	形 態	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (kg)	地 質	存 在	参考
1	Kc-a-601	—	碑石器	安山岩	140.0	38.0	33.5	1.600.0	砂・礫石・粘土、礫1、砂熱鉄1、	128-1	
2	Kc-a-602	伊1層	碑石器	安山岩	100.0	88.0	33.0	0.110.0	砂・礫石・粘土、礫1-1、	128-2	
3	Kc-d-601	地盤上	碑石器	安山岩	121.0	72.0	37.0	475.0	礫1、砂2、	128-3	
4	Kd-a-601	地盤上	石頭	安山岩	228.0	255.0	61.0	17.390.0	礫2、砂1-4、	128-4	
5	Kd-a-602	地盤上	石頭	安山岩	222.0	201.0	47.0	2.680.0	礫1、	128-5	

端部の土器埋設石器部から出土したもので、深鉢の胴部破片が内面を上に向けた状態で出土しており、埋設土器の底部に敷かれたもの、あるいは持ち去られた埋設土器の残片の可能性がある。その他に埋設土器および堆積土中から出土した土器を第17図に示した。石器はスクレイパー1点、二次加工のある剥片4点、微細剝離痕のある剥片6点、礫石器5点、石皿4点が出土しており、礫石器3点、石皿3点を第18図に示した。

SI602堅穴住居跡

【位置・検出面】第6次調査区西端部および第7次調査3区東端のG・H-26・27グリッドに位置し、N層上面で検出された。S I 601堅穴住居跡と同様に第6・7次の2カ年にわたって調査を行ったもので、周溝の重複やピッ



備考			
遺構	位番	土色	土性
堅穴	1	10YR5-3 黄褐色 粘土質シルト	V層砂少、炭化粒を微量含む。
	2	10YR5-3 黄褐色 粘土質シルト	V層砂少、炭化粒を微量含む。
堅窓	3	10YR3-3.5 黄褐色 粘土質シルト	V層砂少を少量含む。
	1	10YR5-3 黄褐色 粘土質シルト	炭化粒・焼土粒を微量含む。
	2	10YR5-2 黄褐色 粘土質シルト	炭化粒を微量含む。(柱孔跡)
	3	10YR5-4 黄褐色 粘土質シルト	V層砂少、炭化粒を微量含む。
	4	10YR4-4 黄褐色 粘土質シルト	V層砂少。(柱孔跡)
P1	1	10YR5-2 黄褐色 粘土質シルト	V層砂少、炭化粒を微量含む。

備考			
遺構	位番	土色	土性
P2	2	10YR3-3 黑褐色 粘土質シルト	炭化物・焼土粒を微量含む。(柱孔跡)
	3	10YR3-4 黑褐色 粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
P3	1	10YR2-3 黑褐色 粘土質シルト	V層砂少量、炭化粒を微量含む。
	2	10YR2-3 黑褐色 粘土質シルト	V層砂少量、炭化粒を微量含む。
	3	10YR2-4 黑褐色 粘土質シルト	V層砂少量、炭化粒を微量含む。
P7	2	10YR4-4 黑褐色 粘土質シルト	炭化物・焼土粒を微量含む。(柱孔跡)
	3	10YR4-4 黑褐色 粘土質シルト	V層砂少量含む。

第19図 SI602 A 堅穴住居跡

トの配置、また、ほぼ同一位置で方向が異なる炉跡が検出されていたこと等から拡張あるいは建て替えが想定され、整理時にSI 602B（古段階）→ SI 602A（新段階）とした。

SI 602A堅穴住居跡（第19・20図、図版7）

【新旧関係】SI 601・602B堅穴住居跡、SK 7080・7081土坑と重複関係にあり、本遺構はSI 602B堅穴住居跡、SK 7081土坑よりも新しく、SI 601堅穴住居跡、SK 7080土坑よりも古い。

【規模・平面形】平面形は南西側が搅乱や重複する造構により部分的に削平されているが、長軸7.2m、短軸6.5mの円形である。

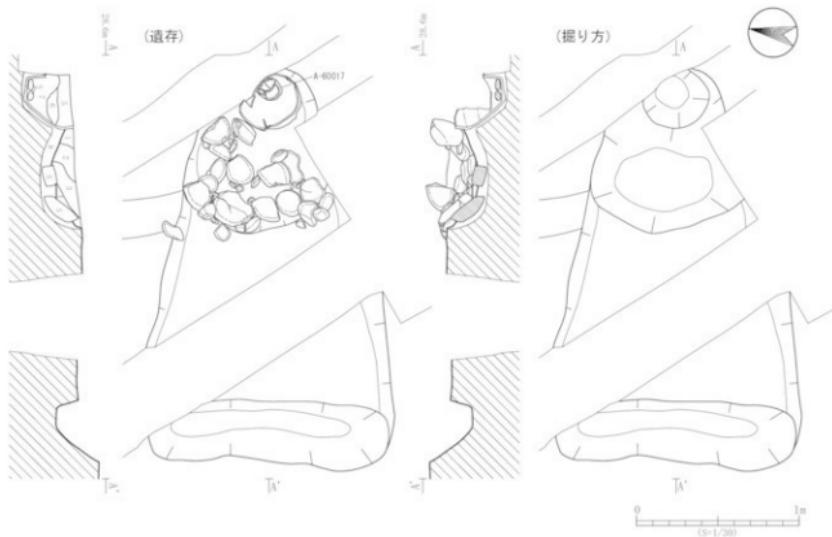
【堆積土】3層に大別され、暗褐色粘土質シルトを主体とし、周溝部分にはV層斑紋を含む。

【壁面】壁は周溝の底面からやや開き気味に立ち上がる。遺構検出面から床面までの深さは第6次調査時における壁断面の観察では28cmである。

【床面】掘り方底面のV層とSI 602B堆積土の一部を床面にしている。全体的にはほぼ平坦であり、特に目立った硬化面等は認められなかった。

【柱穴】床面および周溝内からビット15個が検出され、P1～3・7から柱痕跡が確認された。P1は炉の長軸方向の延長線上に位置し、P2とP7、P4とP5、P11または12とP14はこの炉の長軸を中心線とした場合には左右対称となる位置に存在する。周溝内から検出されたビットの機能は不明であるが、その規模から補助的なものと考えられる。

【周溝】周溝は搅乱部分以外で壁の内側を全周する。規模は幅9～34cm、深さ14～16cmで、底面はほぼ平坦である。



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
炉	1 10YR5/2 黒褐色	シルト質粘土	炭化粒を多量含む。		5 10YR5/4 始期	シルト質粘土	V層粘土を微量含む。		
	2 10YR5/4 始期	シルト質粘土	炭化粒少額、焼土粒を微量含む。		6 10YR5/4 始期	粘土	炭化粒少額、灰土粒を微量含む。		
	3 10YR17/1 黒褐色	粘土	炭化物が土壌化したような層。		7 10YR17/1 黒褐色	粘土	炭化物が土壌化したような層。		
	4 10YR17/4 黒褐色	粘土	2層の脱色層。		8 10YR5/4 始期	粘土	V層粘土を少量含む。		
掘り方									
SI-1/500									

第20図 SI 602A 堅穴住居跡複式炉

断面形はU字形を基調としたものである。

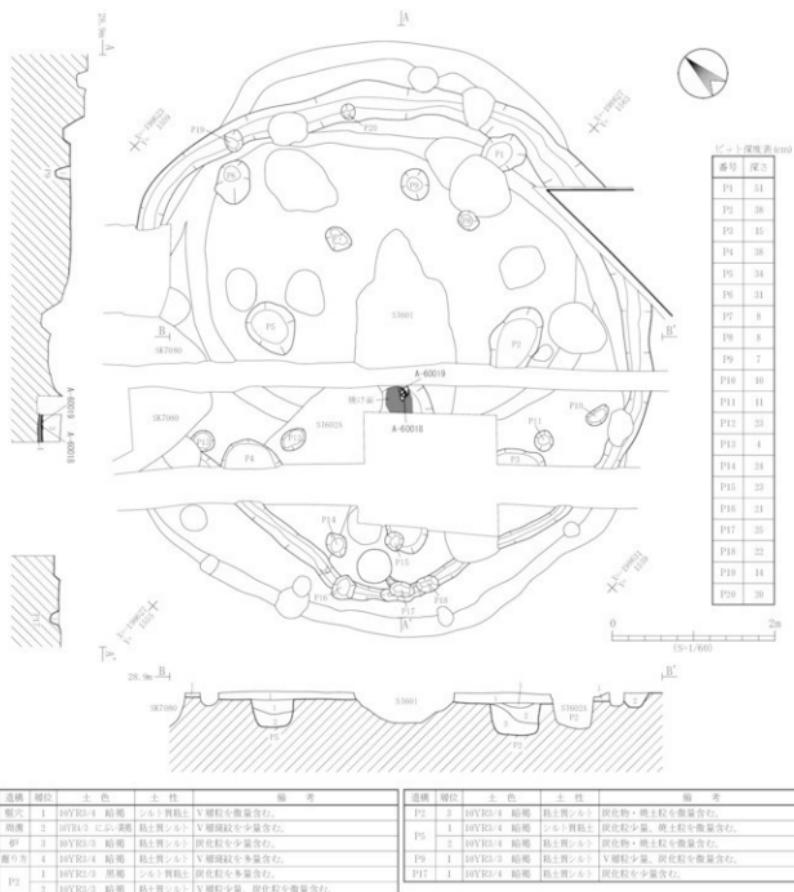
炉 (第20図)

【位置・方位】住居の西側に位置し、炉の先端部および中央部付近が擾乱によって削平されている。長軸方向はN -83° - Eである。

【規模・平面形】長さ250cm以上、最大幅152cm以上である。平面形は掘り込み部に向かって広がる釣鐘形である。

【構造】土器埋設敷石石組部、掘り込み部からなる複式炉である。SI 601堅穴住居跡と炉の形態や規模が類似していることから、削平された炉の東側には張り出し状の土器埋設部が存在していた可能性も考えられる。

【土器埋設敷石石組部】残存長で長さ・幅ともに94cmで床面から底面までの深さは15cmである。東側の先端部に深



第21図 SI602B 堅穴住居跡

鉢が正位の状態で埋設されているが東側は搅乱により失われている。堆積土は3層に分層され、土器内の底面から5～7cmの小礫が出土した。また、敷石石組部については南側部分の礫が搅乱によって取り除かれているが、それ以外では20cm前後の礫が残存し、底面および側面には平坦な面を上に向けた状態で敷設され、更にその間には10cm未満の礫が充填されている。

【掘り込み部】長さ156cm、幅152cm、床面から底面までの深さは16cmで、住居の外側に向かって緩やかに広がり平面形は台形となる。また西端部には長さ148cm、幅40cmの溝状の落ち込認められ、掘り込み部の底面からの深さは13cmである。

SI602B堅穴住居跡（第21図・図版7）

【新旧関係】S I 601・602A堅穴住居跡、SK7080・7081土坑と重複関係にあり、本遺構はSK7081土坑よりも新しく、その他の遺構より古い。

【規模・平面形】搅乱や重複する遺構によって大きく削平されており遺存状態が悪いが、平面形は長軸6.5m、短軸6.0mの円形である。

【堆積土】暗褐色シルト質粘土の単層で、V層粒を微量に含む。

【壁・面】壁は周溝の底面から若干開き気味に立ち上がり、検出面から床面までの深さは残存状況が最も良好な北東側の壁際で12cmである。

【床・面】掘り方の底面となるV層を直接床面にしている。全体的にはほぼ平坦で硬化面等は認められなかった。

【柱・穴】床面および周溝からピット32個が検出されているが、いずれも掘り方のみで柱痕跡は確認されていない。P 1～P 3とP 4～P 6はほぼ向かい合う位置に存在し、その配置から柱穴となる可能性がある。

【周・溝】壁の内側を全周する。規模は幅13～54cm、深さ15～30cmであり、断面形はU字形である。

炉

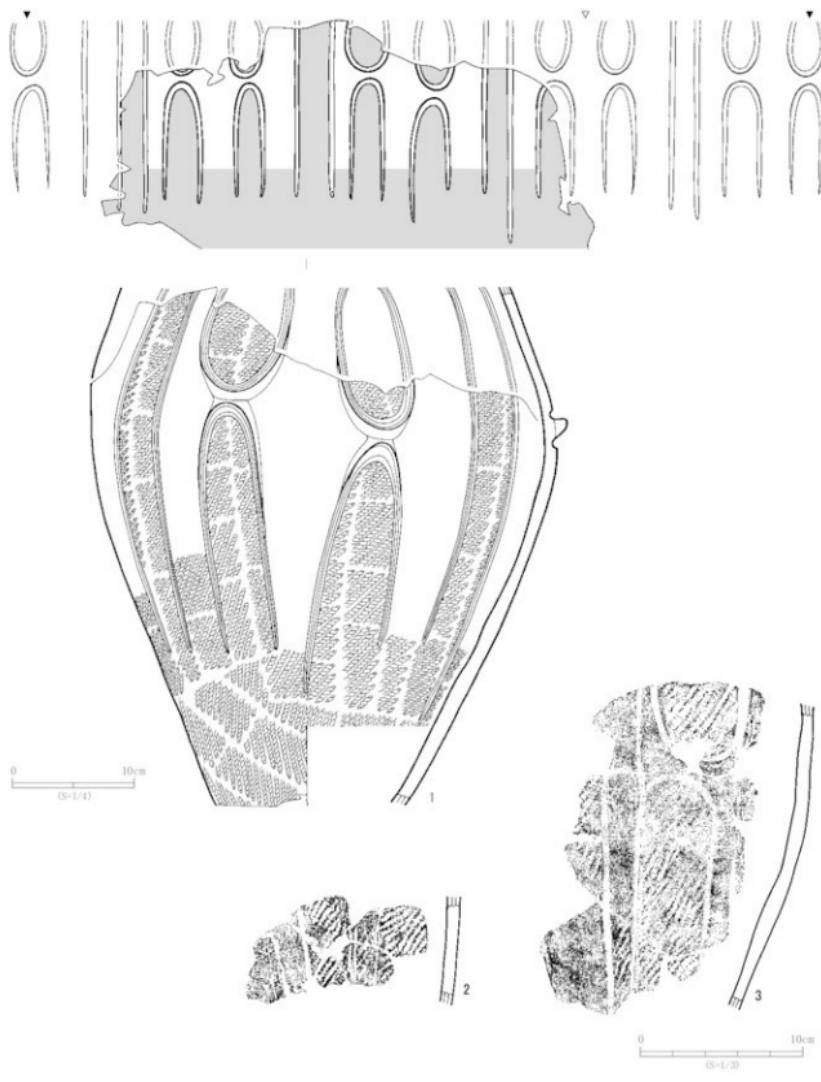
【位置・方位】住居の南西部分に位置し、炉の大半が搅乱によって削平されている。ピットP 1～P 3とP 4～P 6の間を炉の長軸方向と考えた場合、方向はN-47°-Eである。

【規模・平面形】搅乱により大きく削平されているため規模・平面形は不明である。

【構・造】S I 602A炉の東側で底面が赤変している落ち込みが確認されたことから炉跡と判断した。底面からは土器片が検出されており、土器埋設部等に用いられた土器の一部が残存したものと考えられる。底面は火熱の影響を受けて赤変している。

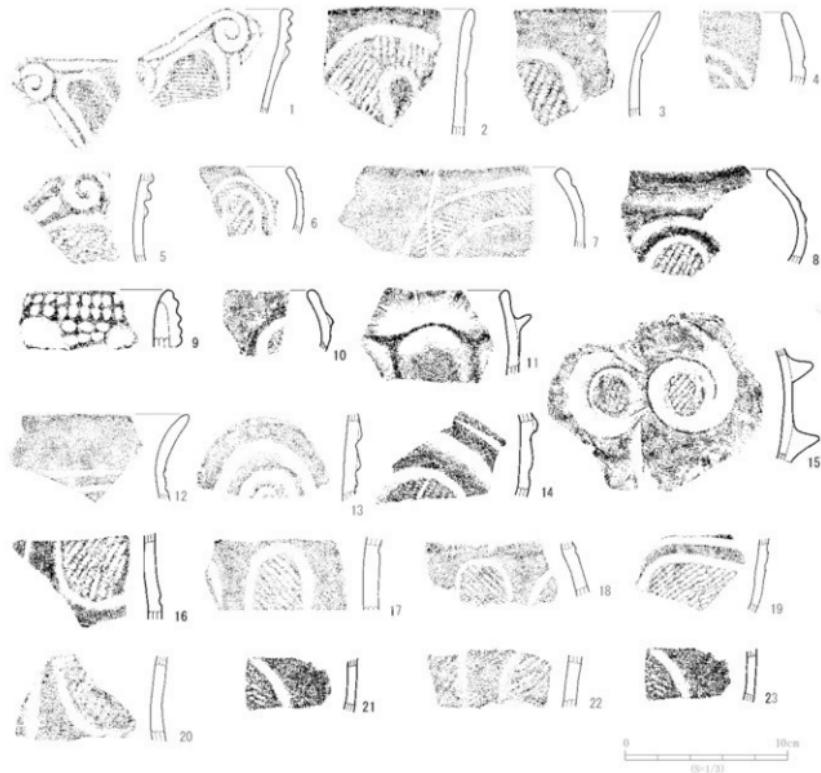
【出土遺物】（第22～25図、図版128～130）

S I 602堅穴住居跡は上記したように整理段階で2軒の建て替えが想定されたもので、S I 602Aと602Bの遺物が分離出来なかったことから、まとめてS I 602堅穴住居跡出土遺物として第22～25図に示した。第22図1（A-60017）はS I 602A炉の土器埋設敷石石組部の埋設土器、第22図の2・3（A-60018・60019）はB炉から出土した深鉢胴部の破片で搅乱によって失われた埋設土器の残存と考えられる。その他はいずれも堆積土中から出土したものである。土製品では土製円盤4点、ミニチュア土器2点などが出土している。石器は石鏃1点、石匙1点、スクレイバー6点、クサビ形石器1点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片8点、磨製石斧1点、礫石器4点が出土しており、石鏃1点、石匙1点、スクレイバー4点、磨製石斧1点、礫石器4点を第25図に示した。



第22図 SI602A・B 穫式住居跡出土遺物（1）

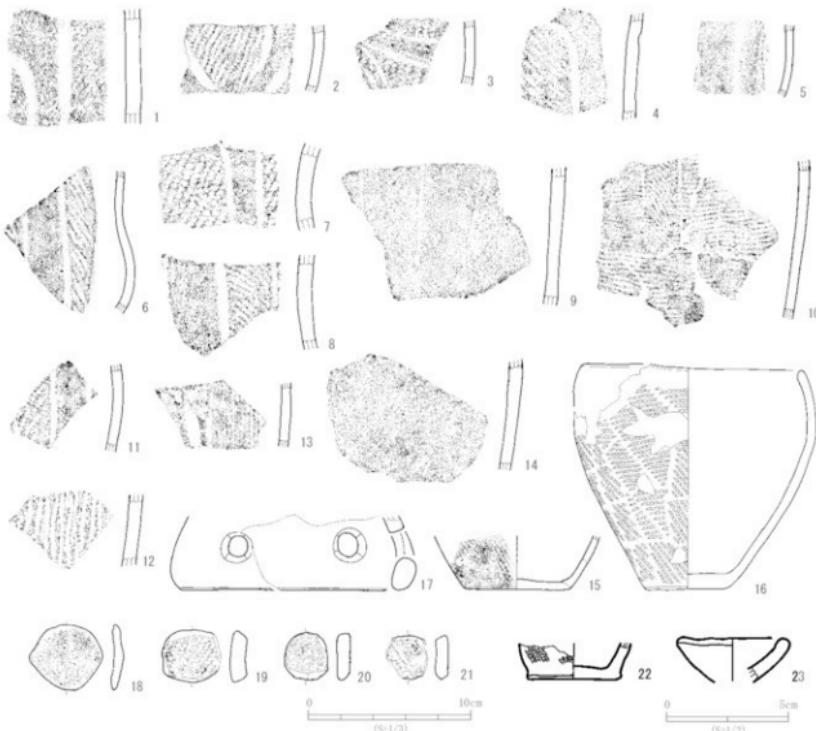
No.	試験番号	種類	形状・部位	文様等	備考	参考文献
1	A-60017	火葬・埋葬土器	深鉢・側部	U字・△形：共区画隣接面文、帶連續文回、網目施文。	S=1/4	129-1
2	A-60018	火葬・埋葬土器	深鉢・側部	網目施文文、帶連續文回、網目施文。	2之上同一個体	-
3	A-60019	火葬・埋葬土器	深鉢・側部	U字・△形：共区画・側面連續文文、帶連續文回、網目施文。	2之上同一個体	129-12



0
10cm
(0-1/2)

No.	登錄番号	種類	形態・部位	文様等	備考	写真回数
1	A-60020	伊・土器	深鉢・口縁部～側面	(口縁部～側面) 滲垂模様硫文、網文織文LR, 剥離無し。	剥離口縁。	129-7
2	A-60021	伊・施墨土	深鉢・口縁部	(口) 狹状硫文織文、網文織文LR, 剥離無し。		129-8
3	A-60022	伊・施墨土	深鉢・口縁部	網文沈硫文、野呂織文LR, 剥離無し。	剥離孔2ヵ所。下のもの129-9	129-9
4	A-60023	下槽	深鉢・口縁部	丸硫文。		129-10
5	A-60024	施墨土	深鉢・側面	滲垂模様硫文、網文織文LR, 剥離無し。	器面の厚減が激しい。	129-11
6	A-60025	施墨土	深鉢・口縁部	(口) 狹状硫文織文、網文織文LR, 剥離無し。	-	129-12
7	A-60026	施墨土	深鉢・口縁部	(口) 狹状硫文織文、網文織文LR, 剥離無し。	剥離口縁。	129-14
8	A-60027	施墨土	深鉢・口縁部	(口) 狹状硫文織文、網文織文LR, 剥離無し。	-	129-15
9	A-60028	施墨土	深鉢・口縁部	網文斜線硫文、光面斜線文。	-	129-16
10	A-60029	下槽	深鉢・側面	網文斜線硫文、光面織文LR, 剥離無し。	-	129-17
11	A-60030	施墨土	深鉢・側面	(口) 狹状硫文。舌状小突起。	剥離口縁。	129-18
12	A-60031	施墨土	深鉢・側面	網文沈硫文。	-	129-19
13	A-60032	下槽	深鉢・側面	滲垂模様硫文、区内側文LR, 剥離無し。	-	129-20
14	A-60033	施墨土	深鉢・側面	区内側文硫文、野呂織文LR, 剥離無し。	-	129-21
15	A-60034	施墨土	深鉢・側面	網文(?) 施跡斜線文、滲垂内織文LR, 剥離無し。	-	129-22
16	A-60035	施墨土	深鉢・側面	網文沈硫文、野呂織文LR, 剥離無し。	-	129-2
17	A-60036	施墨土	深鉢・側面	網文沈硫文、野呂織文LR, 剥離無し。	-	129-3
18	A-60037	下槽	深鉢・側面	網文沈硫文、野呂織文LR, 剥離無し。	-	129-4
19	A-60038	伊・施墨土	深鉢・側面	網文沈硫文、野呂織文LR。	-	129-5
20	A-60039	伊・施墨土	深鉢・側面	網文沈硫文、野呂織文LR, 剥離無し。	器面の厚減が激しい。	129-6
21	A-60040	伊・施墨土	深鉢・側面	網文沈硫文、野呂織文LR, 剥離無し。		129-7
22	A-60041	下槽	深鉢・側面	網文沈硫文、野呂織文LR, 剥離無し。		129-8
23	A-60042	施墨土	深鉢・側面	網文沈硫文、野呂織文LR, 剥離無し。	器面の厚減が激しい。	129-9

第23図 SI602A・B 穴竪住居跡出土遺物（2）



No.	目録番号	層位	部類・部位	文様等	備考	厚直角数
1	A-60043	堆積土	深鉢・側部	凸面状縫合、碧海織文L.R.継位施文。	前面の厚底が激しい。	129-10
2	A-60044	堆積土	深鉢・側部	凸面状縫合、碧海織文L.R.継位施文。		129-11
3	A-60045	堆積土	深鉢・側部	平行状縫合、碧海織文L.R.継位施文。		129-12
4	A-60046	堆積土	深鉢・側部	凸面状縫合、碧海織文L.R.継位施文。		129-13
5	A-60047	堆積土	浅鉢	凸面。		129-16
6	A-60048	堆積土	深鉢・側部	継位平行状縫合、碧海織文L.R.継位施文。		129-17
7	A-60049	堆積土	深鉢・側部	継位平行状縫合、碧海織文L.R.継位施文。		129-13
8	A-60050	堆積土	深鉢・側部	継位平行状縫合、碧海織文L.R.継位施文。		129-14
9	A-60051	上層	深鉢・側部	継位平行状縫合、碧海織文L.R.継位施文。		129-31
10	A-60052	中层	下層	継位平行状縫合、地又織文L.R.継位施文。		129-22
11	A-60053	堆積土	深鉢・側部	継位平行状縫合、碧海織文L.R.継位施文。		129-18
12	A-60054	下層	深鉢・側部	凸面文L.R.継位施文。		129-19
13	A-60055	下層	深鉢・側部	凸面文、輪廓状縫合織文。		129-23
14	A-60056	下層	深鉢・側部	凸面文L.R.継位施文。		129-26
15	A-60057	下層	深鉢・側部～底面	網目文L.R.継位施文、底面～ナデ。	前面の厚底が激しい。	129-28
16	A-60058	堆積土	小型深鉢・口縁部～底面	口縁部～側部、織文L.R.継位～斜位施文。		129-29
17	A-60059	下層	器台・台部	無文。	2孔1組で3ヶ所。	129-24
18	P-6001	堆積土	土質内盤	斜面破片利用、無文。	計10kg(引手裏部)可燃灰。	129-25
19	P-6002	堆積土	土質内盤	斜面破片利用、織文L.R.継位施文。	重さ 13.0kg。	129-26
20	P-6003	堆積土	土質内盤	斜面破片利用、無文。	重さ 7.7kg。	129-27
21	P-6004	堆積土	土質内盤	斜面破片利用、織文L.R.継位施文。	重さ 8.0kg。	129-28
22	P-6005	堆積土	二重アーチ型・側部～底面	網目文L.R.継位施文、底面～ナデ。	S=1/2,	-
23	P-6006	堆積土	二重アーチ型・側部～底面	網目文L.R.継位施文、底面～ナデ。	手捏Dz. S=1/2,	-

第24図 SI602A・B 積石住居跡出土遺物（3）



第25図 SI602A・B 穴住居跡出土遺物（4）

No.	登録番号	場所	圖版	石器	長さ (mm)			幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	写真番號
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)					
1	Ka-a-6001	海壁土	石器	珪質頁岩	17.6	13.0	3.2	0.60	表面はじび。			130-1
2	Ka-d-6001	海壁土	石器	珪質頁岩	36.7	7.5	3.5	0.65	断面。			130-2
3	Ka-e-6001	下層	スクレッパー	珪質頁岩	52.0	34.2	10.4	19.1				130-3
4	Ka-e-6002	海壁土	スクレッパー	珪質頁岩	47.8	29.7	9.8	12.1				130-4
5	Ka-e-6003	海壁土	スクレッパー	珪質頁岩	65.0	29.1	11.0	12.5				130-5
6	Ka-e-6004	海壁土	スクレッパー	珪質頁岩	56.0	41.0	7.7	17.0				130-6
7	Ka-e-6001	海壁土	磨製石斧	鰐頭質頁岩	104.0	(45.0)	(22.5)	自63.0	刃部欠損。			130-7
8	Kc-b-6001	海壁土	研磨器	安山岩	103.0	63.0	34.0	423.0	刃部欠損。			130-8
9	Kc-a-6001	海壁土	研磨器	安山岩	110.0	95.0	38.50	469.0	側 5 (横 2)			130-9

SI604堅穴住居跡（第26・27図、国版8）

【位置・検出面】第6次調査1区中央西寄りのH～J-22・23グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にはS I 605堅穴住居跡が存在する。住居跡北側は風倒木痕によって部分的に削平されている。

【新旧関係】本遺構と重複する遺構はない。

【規模・平面形】平面形は長軸7.3m、短軸6.7mの楕円形である。炉の重複と周溝が二重に巡ること等から建て替えが行われたものと考えられる。内側の周溝Bでの平面形は長軸5.9m、短軸5.0mの楕円形である。

【堆積土】暗褐色系土層を主体にして4層に分層される。

【壁・面】残存状況が最も良好な東側部分で検出面から床面までの深さは7cm程度である。南西側の一部では壁は確認されなかった。

【床・面】掘り方底面であるV層を直接床面にしている。若干凹凸が見られるが全体としてほぼ平坦であり、硬化面などは認められない。

【柱・穴】床面および周溝から合計54個のピットが検出された。規模や深さが様々で、柱痕跡が確認されたP10以外は全て掘り方のみの検出である。炉との位置関係および規模からそれぞれの炉に伴うピットの抽出を行った。炉Aでは、炉の長軸方向の延長線上にP2が存在し、さらにこれを主軸にした場合にP9とP39、P16とP48が左右対称となる位置に存在し、5本柱構造の主柱穴と考えられる。またP17とP47も同様の位置関係にあるため、これらに伴う補助的な柱になる可能性がある。炉Bでは同様に炉の長軸線上に位置するP1とP53を結んだ中軸線からP7とP38、P13とP46が左右対称となることから6本柱構造の主柱穴と考えられる。ピットから出土した遺物としてはP14・26からミニチュア土器、P34では底面から深鉢形土器の把手が出土した。

【周・溝】外側に巡るものを周溝A、内側のものを周溝Bとした。周溝Aは壁の内側に断続的に見られ、幅12～27cm、深さ6～20cmで、断面形はU字形である。周溝Bは南側では確認されず西側では周溝Aと重なる。一部途切れる部分が認められるが幅14～43cm、深さは4～12cmで、断面形はU字形である。周溝間の重複関係は不明である。

炉（第27図）

炉は住居のはば中央で確認された。石囲炉を炉A、またその南東側で検出された焼け面を炉Bとした。新旧関係は炉B（古段階）→炉A（新段階）である。

＜炉A（新段階）＞

【位置・方位】住居のはば中央で検出された。長軸方向はN-33°-Eである。

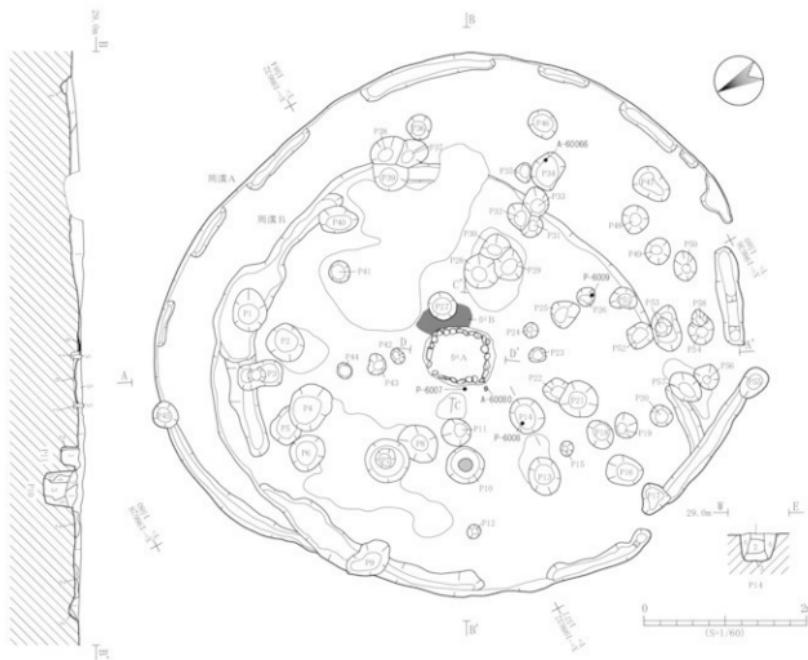
【規模・平面形】長軸90cm、短軸74cm、床面から火焼面までの深さは8cmである。平面形は方形である。

【構・造】7～13cmのやや小型の扁平な礫を方形に配した石囲炉である。北西隅では礫の一部が抜き取られているがそれ以外は全て残存しており、環状の炉の掘り方にに対して、礫は平らな面が壁に沿うように底面にはほぼ垂直な状態で設置されている。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層で、焼土・炭化物粒が少量含まれ、底面はほぼ平坦で火熱による赤変が若干認められた。

＜炉B（古段階）＞

【位置・方位】炉Aの北側で検出された。ピットP27と炉Aによって一部削平されている。長軸方向はN-20°-Eである。

【規模・平面形】残存する範囲は長軸70cm、短軸は現存長32cmで、平面形は楕円形を基調としたものである。



ピット深度表(cm)									
番号	深度	番号	深度	番号	深度	番号	深度	番号	深度
P1	44	P4	47	P11	31	P16	36	P21	45
P2	40	P7	68	P12	41	P17	27	P22	35
P3	46	P9	62	P13	55	P18	35	P23	19
P4	49	P9	29	P14	33	P19	29	P24	17
P5	38	P10	51	P15	33	P20	18	P25	29
								P30	47

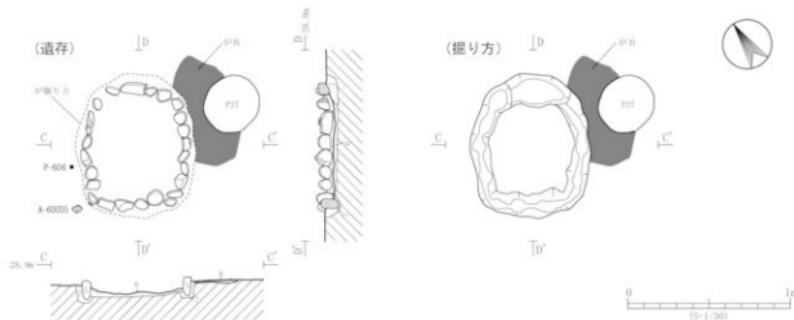
造形	埋位	土色	土性	検査
壁穴	1 BOYR2-4 埋施	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	1 BOYR2-4 埋施
	2 BOYR2-4 埋施	粘土質シルト	V縫隙を多量に含む。	2 BOYR2-4 埋施
	3 BOYR2-4 埋	シルト	炭化粒を微量含む。	3 BOYR2-4 埋
廻溝	4 BOYR2-4 埋	シルト	V縫隙を多量に含む。	4 BOYR2-4 埋
P10	5 BOYR2-3 埋施	粘土質シルト	焼土を多量、炭化粒を少量含む。	5 BOYR2-3 埋施
	6 BOYR2-3 埋	シルト	V縫隙を多量に含む。	6 BOYR2-3 埋
廻り方	7 BOYR2-4 埋	粘土	V縫隙を多量に含む。	7 BOYR2-4 埋
壁の面	8 MYR2-2 一二層	土	粘土質シルト	V縫隙を主体。
P11	1 BOYR2-2 埋施	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	1 BOYR2-2 埋施
	2 BOYR2-2 埋	シルト	V縫隙を多量に含む。	2 BOYR2-2 埋
P14	3 BOYR2-1 一二層	土	粘土質シルト	V縫隙を多量に含む。
	4 BOYR2-1 土	シルト	V縫隙を多量に含む。	4 BOYR2-1 土
	5 BOYR2-4 埋施	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。	5 BOYR2-4 埋施
	6 BOYR2-4 埋	シルト	炭化粒を少量含む。	6 BOYR2-4 埋
P16	7 BOYR2-4 埋	シルト	V縫隙を多量に含む。	7 BOYR2-4 埋
	8 BOYR2-4 埋	シルト	V縫隙を多量に含む。	8 BOYR2-4 埋

第26図 S1604 穴住居跡

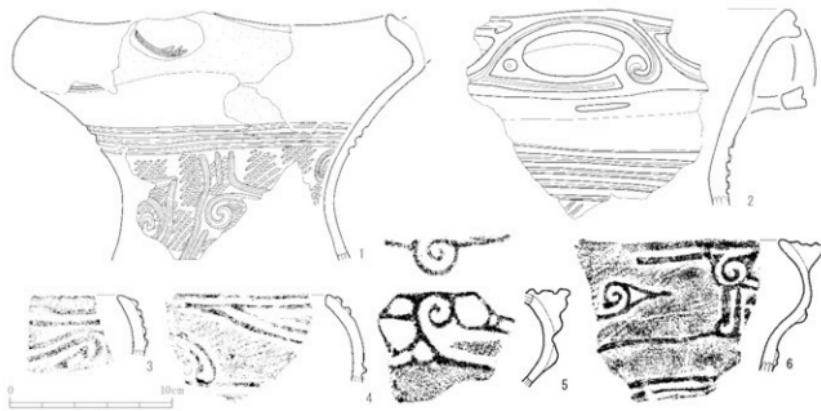
〔構・造〕床面を直接炉とした地床炉と考えられる。火熱により2cm下まで赤変した部分が認められた。

〔出土遺物〕(第28～34図、図版130～132)

本住居跡から出土した遺物を第28～34図に示した。第28図2(A-60061)はピットP34の底面から出土したもので大型の深鉢の突起部分である。また、P14・26から出土したミニチュア土器(P-6008・6009)がある。炉Aの南西側の床面から皮袋形土製品(P-6007)が出土している。石器では石鏃7点、石錐9点、石匙5点、スクレイバー4点、クサビ形石器2点、二次加工のある剥片6点、微細剝離痕のある剥片16点、礫石器16点、石皿1点、垂飾1点が出土しており、石鏃7点、石錐5点、石匙5点、クサビ形石器1点、スクレイバー3点、礫石器7点、石皿1点、垂飾品1点を第31～34図に示した。第34図4の垂飾品(Kd-f-6001)は堆積土の下層から出土した。

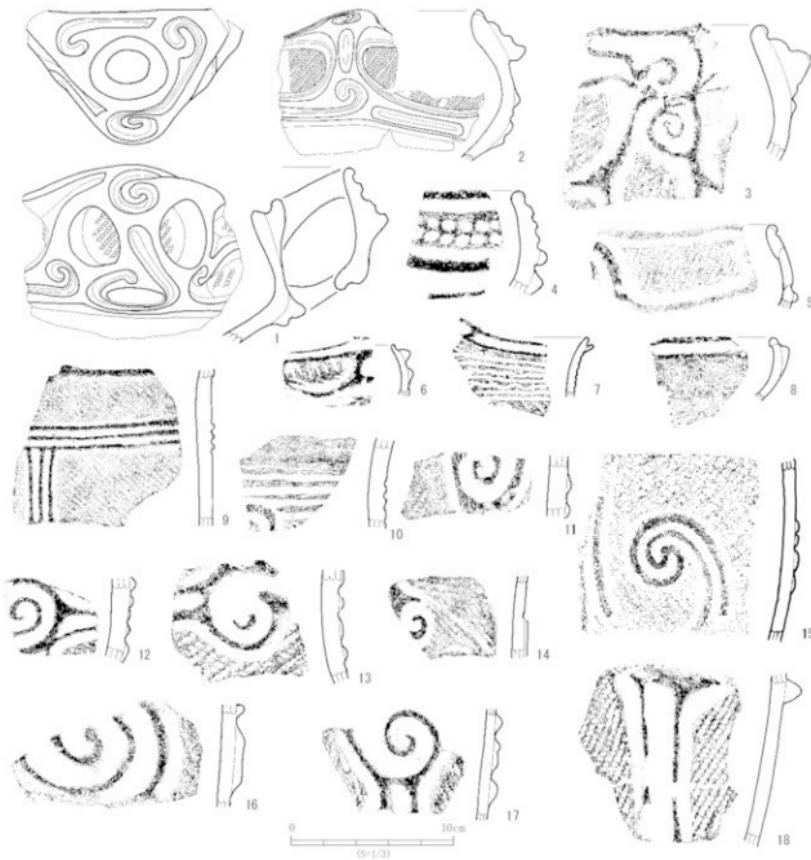


第27図 SI604 堆積土の下層から出土した遺物



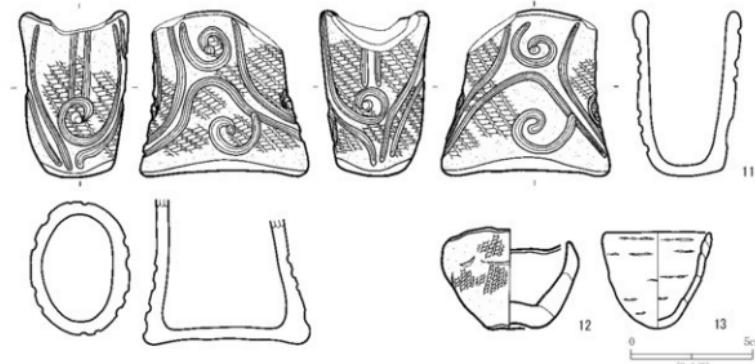
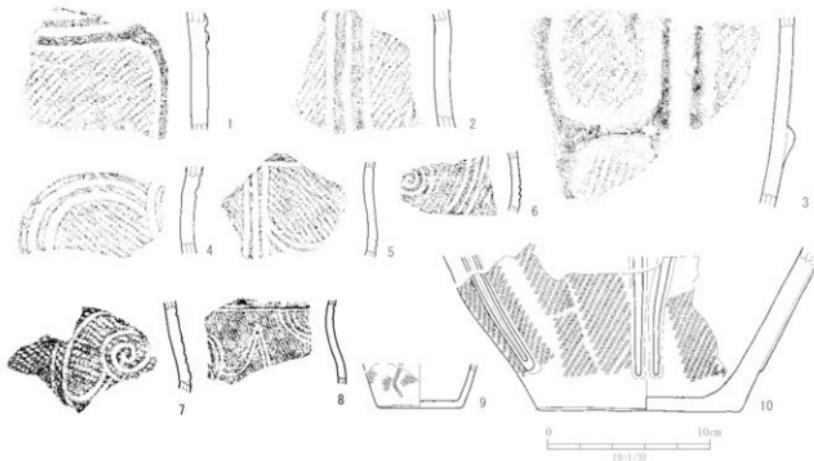
No.	登録番号	層位	細別・部位	文様等	特徴	参考文献
1	A-60060	堆積土	深鉢、口縁部～削頂部	口縁部：剥離焼成斑文、頭部：無文、削頂部：剥離斑有焼成斑文、地文織文有孔部斑文、口縫部：剥離斑文	口縫部の剥離斑有。	130-10
2	A-60061	堆積土	深鉢、口縁部～削頂部	口縫部：小空吹き、頭部：無文、削頂部：剥離焼成斑文、地文織文有孔部斑文。	頭部の摩滅が激しい。	130-11
3	A-60062	堆積土	深鉢、口縁部	剥離斑文、地文織文有孔部斑文。	頭部の摩滅が激しい。	130-12
4	A-60063	上層	深鉢、口縁部	剥離斑文、地文織文有孔部斑文。	頭部：無文。	130-13
5	A-60064	(層)	深鉢、口縁部～削頂部	口縫部：剥離斑有燒成斑文、地文織文有孔部斑文、頭部：無文。	頭部の摩滅が激しい。	130-14
6	A-60065	堆積土	深鉢、口縁部～削頂部	口縫部：有燒成斑有燒成斑文、地文織文有孔部斑文、頭部：無文、削頂部：剥離焼成斑文。	130-15	

第28図 SI604 堆積土の下層から出土した遺物 (1)



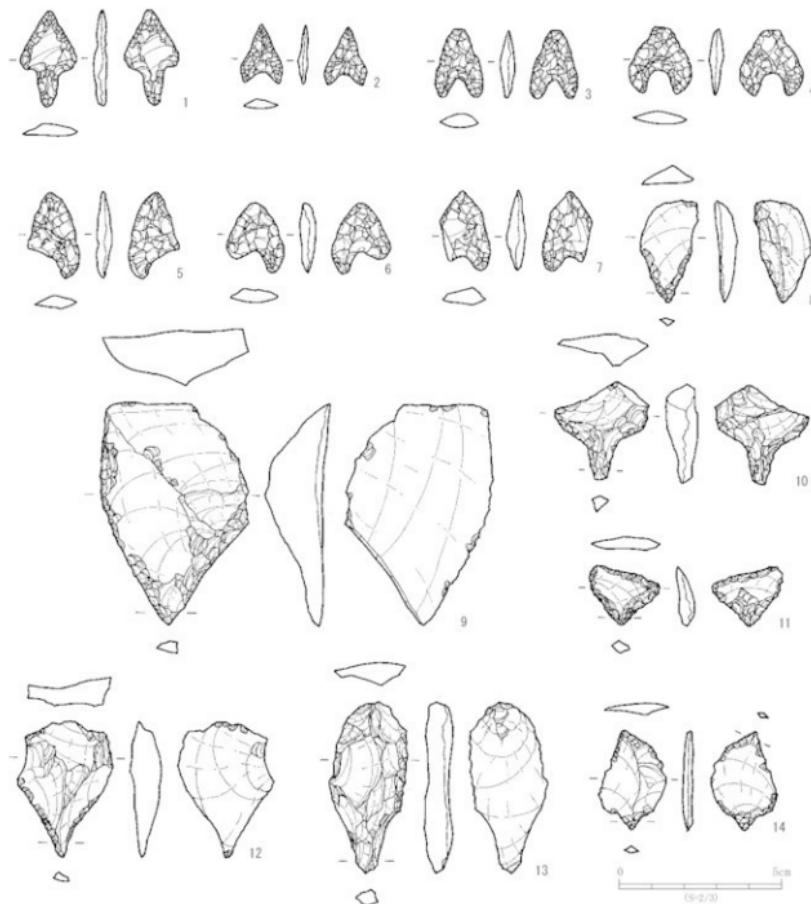
件名	種	部位	断形・模様	文様等	備考	平面図
1 A-60661	II型	陶土	深鉢・口縁部～斜部	口縁部：中空把手。底面沈漫文。頭部：無文。		136-16
2 A-60677	埴輪	陶土	深鉢・口縁部～斜部	口縁部：筒多孔隙沈漫文。地文織文LR。頭部無文。頭部：無文。		136-17
3 A-60688	下端	陶鉢	口縁部	筒多孔隙沈漫文。地文織文LR。頭部無文。		136-18
4 A-60689	下端	陶鉢	口縁部	筒多孔隙沈漫文。筒内面筒状凹凸線文。		136-19
5 A-60678	束帯	陶鉢	口縁部	筒多孔隙沈漫文。地文織文LR。頭部無文。	頭部の摩滅が激しい。	136-20
6 A-60611	上端	陶鉢	口縁部	筒沈漫文。筒内面光滑無文。	頭部の摩滅が激しい。	136-21
7 A-60612	上端	陶鉢	口縁部～斜部	口縁部：筒多孔隙文。頭部：横肋。斜部：沈漫沈漫文。頭部：地文織文LR。頭部無文。	頭部の摩滅が激しい。	136-22
8 A-60673	上端	陶鉢	口縁部～斜部	口縁部：筒多孔隙文。頭部：無文。		136-23
9 A-60674	I型	陶鉢	陶鉢	柄、頭部千行隆起沈漫文。地文織文LR。頭部無文。		136-25
10 A-60675	下端	陶鉢	頭部～斜部	頭部：無文。斜部：横肋。筒多孔隙沈漫文。地文織文LR。頭部無文。		136-24
11 A-60676	下端	陶鉢	陶鉢	筒多孔隙沈漫文。	頭部の摩滅が激しい。	136-1
12 A-60677	I型	陶鉢	陶鉢	筒多孔隙沈漫文。地文織文LR。頭部無文。		136-3
13 A-60678	I型	陶鉢	陶鉢	筒多孔隙沈漫文。地文織文LR。頭部無文。	筒頭削落。	136-2
14 A-60679	I型	陶鉢	陶鉢	筒多孔隙沈漫文。地文織文LR。頭部無文。	筒頭削落。筒底／傳達部に傷跡。	136-4
15 A-60680	下端	陶鉢	斜部	筒多孔隙沈漫文。地文織文LR。頭部無文。		136-5
16 A-60681	埴輪	陶土	陶鉢	筒多孔隙沈漫文。地文織文LR。リフ	頭部の摩滅が激しい。	136-7
17 A-60682	下端	陶鉢	斜部	筒多孔隙沈漫文。地文織文LR。頭部無文。		136-6
18 A-60683	下端	陶鉢	斜部	筒沈漫文。地文織文LR。頭部無文。		136-9

第29図 SI604 壺穴住居跡出土遺物（2）



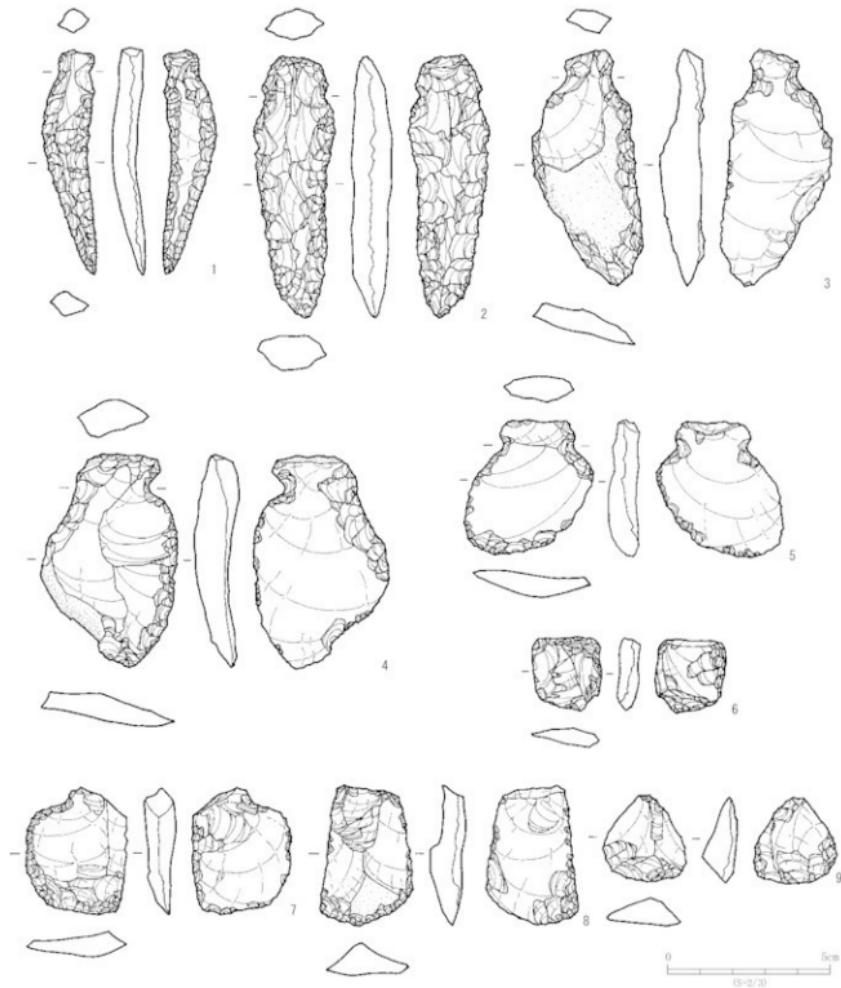
登錄番号	層位	類別・部位	文様等	備考	参考図
1 A-60084	堆積土	陶鉢・削部	区画焼付線文、地文織文LR 削部施文		131-9
2 A-60085	堆積土	陶鉢・削部	削部平行焼付線文、織文織文、削部施文		131-10
3 A-60086	堆積土	陶鉢・削部	区画焼付線文、地文織文LR、削部施文		131-11
4 A-60087	堆積土	陶鉢・削部	汽吹文、地文織文LR 削部施文		131-12
5 A-60088	既溝・堆積土	陶鉢・削部	網・網目、汽吹焼付線文、地文織文LR 削部施文		131-14
6 A-60089	堆積土	陶鉢・削部	汽吹焼付線文、地文織文LR、削部施文		131-15
7 A-60090	既溝・堆積土	陶鉢・削部	圓筒状焼付線文、地文織文LR、削部施文		131-16
8 A-60091	堆積土	陶鉢・削部	網目、有輪燒付線文、地文織文LR 削部施文		131-16
9 A-60092	堆積土	小型土器・削部～底部	削部、網目焼付焼付線文、地文織文LR 削部施文、底部：ナデ、ミガキ	器面の摩滅が激しい。	131-18
10 A-60093	堆積土	陶鉢・削部～底部	削部、網目焼付焼付線文、地文織文LR 削部施文、底部：ナデ、ミガキ		131-17
11 P-60057	炉・床面	灰陶質土器品	口縁部・削部、燒付焼付線文、地文織文LR 削部施文、底部：ナデ		131-21
12 P-60058	Pt上部	二ノ子・丁寧な縫合・縫合部・削部・織文・HL	縫合部・削部、織文・HL 削部施文	手捏ね	131-19
13 P-60059	Pt下部	二ノ子・丁寧な縫合・縫合部・削部・織文・HL	縫合部・削部、織文・HL	手捏ね、器面の摩滅が激しい。	131-20

第30図 SI604 積穴住居跡出土遺物（3）



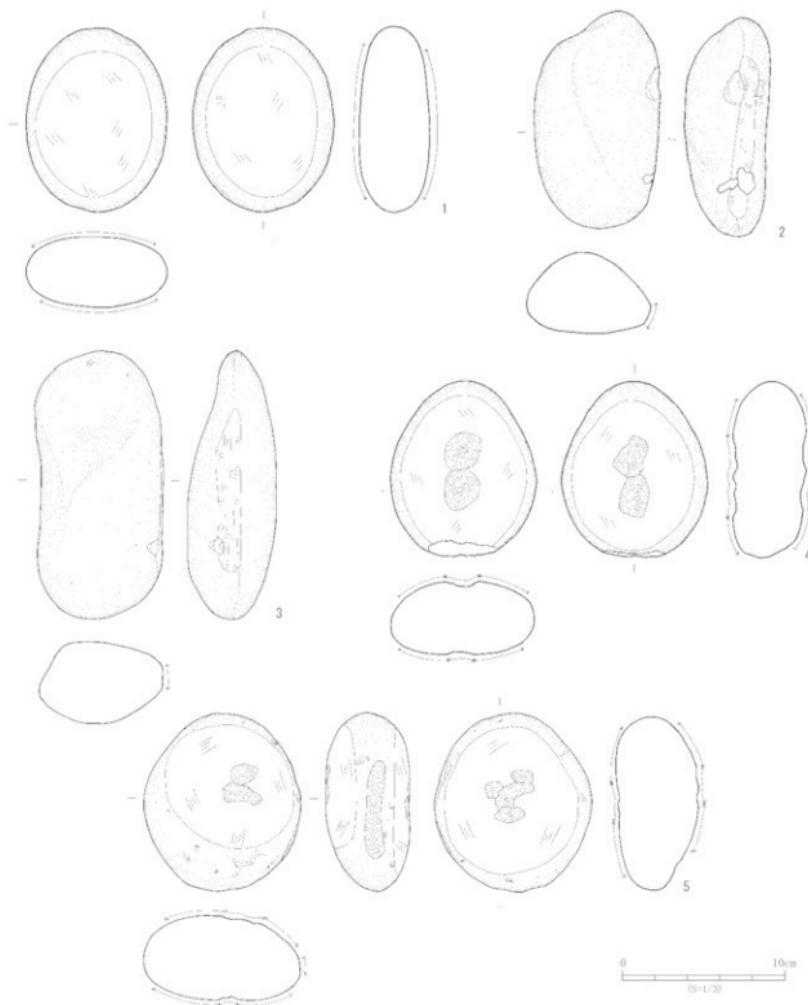
No.	發現地名	層位	圖版	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	参考文献
1	Ka-a-6001	海綿土	6	泥質岩	38.0	16.0	3.0	0.5	帶鑿石頭。	131-12
2	Ka-a-6001	海綿土	7	泥質岩	17.0	12.0	3.1	0.4		131-24
3	Ka-a-6001	7層	8	鈣玉	36.0	14.0	4.1	0.9		131-23
4	Ka-a-6001	海綿土	石頭	泥質岩	(20.2)	19.4	4.0	(1.1)	先端部欠損。	131-15
5	Ka-a-6001	海綿土	石頭	泥質岩	(25.0)	(15.0)	4.4	(1.0)	5脚部欠損。	131-26
6	Ka-a-6001	海綿土	石頭	泥質岩	(20.0)	(17.0)	4.5	0.9	6脚部欠損。	131-27
7	Ka-a-6001	海綿土	石頭	玉髓	(24.0)	(14.0)	6.0	(1.0)	6脚部欠損。	131-28
8	Ka-b-6001	海綿土	石頭	泥質岩	31.0	15.0	3.8	2.4		131-29
9	Ka-b-6001	1層	石頭	泥質岩	67.2	44.0	39.0	41.0		132-1
10	Ka-b-6001	海綿土	石頭	泥質岩	(30.0)	24.0	(6.0)	(4.0)	一生火頭・斷面欠損。	132-30
11	Ka-b-6001	海綿土	6	泥質岩	18.0	21.0	4.0	1.0		131-31
12	Ka-b-6001	海綿土	石頭	泥質岩	41.0	29.0	7.2	7.4		131-32
13	Ka-b-6001	海綿土	石頭	珪化木	51.0	23.0	8.7	7.9		131-33
14	Ka-b-6001	海綿土	石頭	泥質岩	36.0	18.0	2.0	1.5	斷面は上下2ヶ所。	131-34

第31図 SI604 穫穴住居跡出土遺物（4）



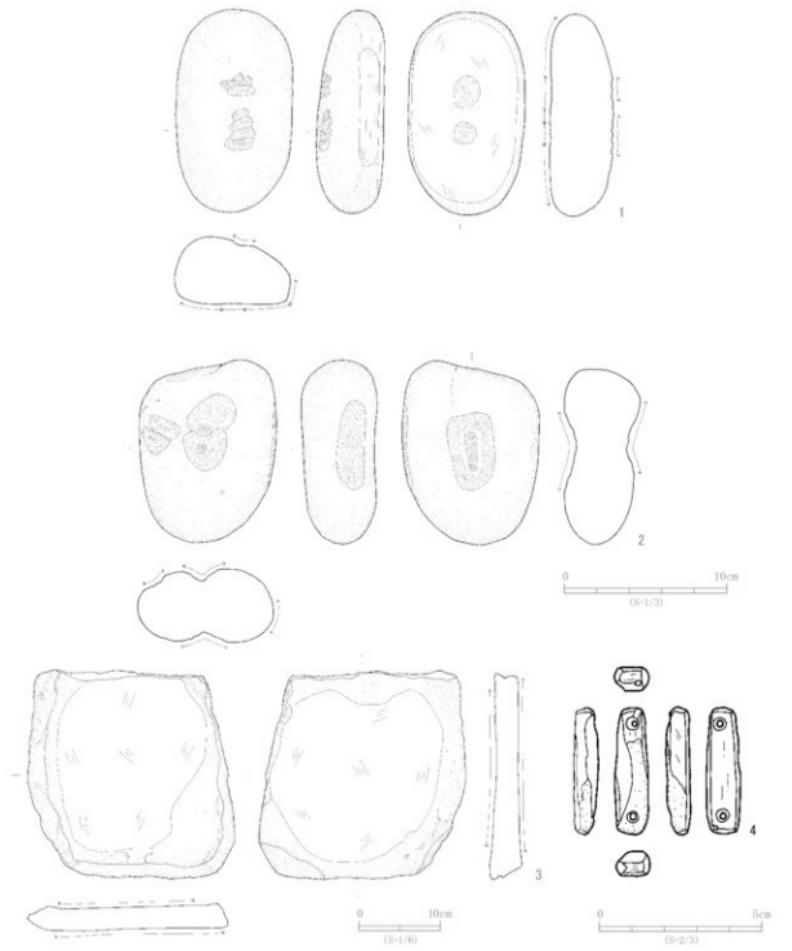
No.	登録番号	場所	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	写真用紙
1	[Ka-d-0001]	海綿土	石器	珪質頁岩	68.0	13.8	6.1	93	頭型。	132-2
2	[Ka-d-0002]	海綿土	石器	珪質頁岩	80.9	24.9	10.2	219	頭型。	132-3
3	[Ka-d-0003]	下層	石器	頁岩	72.4	30.9	9.2	287	頭型。	132-4
4	[Ka-d-0004]	海綿土	石器	珪質頁岩	65.9	41.4	10.2	253	頭型。	132-5
5	[Ka-d-0005]	海綿土	石器	珪質頁岩	48.6	32.2	6.2	64	頭型？	132-6
6	[Ka-e-0001]	海綿土	ツバメ形石器	珪質頁岩	22.4	20.0	6.2	3.0		132-7
7	[Ka-e-0002]	海綿土	スクリッパー	珪質頁岩	38.0	36.7	7.4	8.6		132-9
8	[Ka-e-0003]	海綿土	スクリッパー	珪質頁岩	42.9	27.2	9.2	10.7		132-10
9	[Ka-e-0004]	海綿土	スクリッパー	珪質頁岩	26.0	25.6	10.0	5.1		132-8

第32図 SI604 壁穴住跡出土遺物（5）



No.	登録番号	場所	器種	石質	長さ (mm)		幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (kg)	備考	(1) 既存
					長さ (mm)	幅 (mm)					
1	Kca-6001	1層	礫石器	安山岩	115.0	87.0	42.0	65.0	1.7		132-12
2	Kca-6002	-	礫石器	安山岩	134.0	77.0	50.0	70.5	0.6	石面器、側1(枚)、一部に火炎状付着物有り。	132-13
3	Kca-6003	1層	礫石器	安山岩	105.0	79.0	51.0	95.0	0.7	1(枚)	132-14
4	Kcd-6002	-	礫石器	安山岩	108.0	90.0	44.0	65.0	0.7	石面器、側2+2、下端部に剥離、表面変化あり。	132-15
5	Kcg-6001	下層	礫石器	安山岩	109.0	97.0	51.0	735.0	1.7	側2+4、側1(枚)	132-16

第33図 SI604 壁穴住跡出土遺物（6）



第34図 SI604 壺穴住居跡出土遺物（7）

No.	登録番号	地 位	器 種	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重 量 kg	備 考	(1) 現在
1	Kcd-4002	床面	鍛石器	安山岩	125.0	72.0	41.0	275.0	壺2(横1), 図4,	132-17
2	Kcd-4001	-	鍛石器	安山岩	115.0	85.0	47.0	615.0	石頭器, 図3, 越1(横).	132-18
3	Kd-a-6002	1層	石器	ディサイト	237.0	25.0	43.0	43,600.0	壺2, 上部火鉢, S-4/6.	132-19
4	Kd-a-6001	下層	車輪	流紋岩質輝沸石	38.2	10.2	7.0	2.0		132-11

SI605堅穴住居跡（第35図、図版9）

【位置・検出面】第6次調査1区西側南寄りのJ-22・23調査グリッドに位置する。上面がSX605風倒木痕により削平されおりV層上面で確認された。北側にはSI604堅穴住居跡が存在する。

【新旧関係】SX605風倒木痕に削平される他には調査区内で重複する遺構は存在しない。

【規模・平面形】遺構の北側の一部が確認されたのみで大半が南側の調査区外になることから全体の規模は不明である。平面形は円形を基調とするものと考えられる。

【堆積土】V層起源と考えられる灰黄褐色粘土質シルトで2層に分けられる。

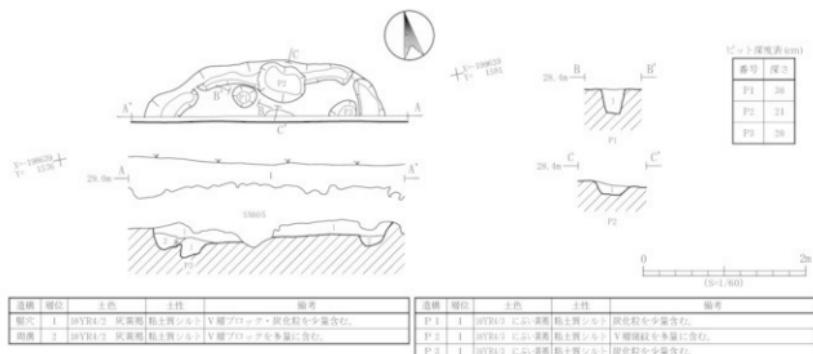
【壁面】壁は周溝の底面からやや開いた角度で立ち上がる。検出面から床面までの深さは20cmである。

【床面】掘り方底面であるV層を直接床面にしている。ほぼ平坦で、東側に向かって緩やかに傾斜する。

【柱穴】住居内でピット3個が検出された。柱痕跡が確認されたものはない。配置も不明であることから柱穴も明かではない。

【周溝】壁際で検出され、部分的に途切れている。幅27~32cm、深さ約30cmである。断面形はU字形であり、底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】繩文土器の小片と石皿1点が出土したが図化はしていない。



第35図 SI605 堅穴住居跡

SI612堅穴住居跡（第36・37図、図版9・10）

【位置・検出面】第6次調査3区南側のF・G-33・34グリッドに位置し、N層上面で確認された。北西側にSI613堅穴住居跡、東側にはSI723堅穴住居跡が存在する。住居の北側と南側が搅乱により大きく削平されている。

【新旧関係】北西部でSI613堅穴住居跡と重複しており、本遺構が古い。

【規模・平面形】南側が削平されていることから全体は不明であるが、平面形は南北5.05m以上、東西5.64mの、やや歪む円形を基調としたものと考えられる。

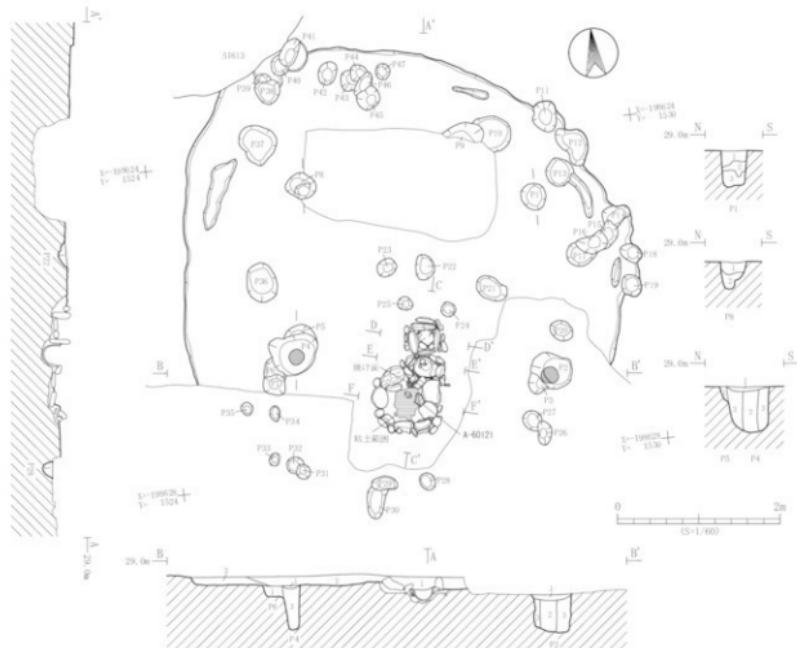
【堆積土】3層に分層され、堅穴の中央に堆積する1~2層には炭化物粒・焼土粒の混入が認められる。

【壁面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、最も残りの良い西側で検出面から床面までの深さは11cmである。

【床面】掘り方底面であるV層を直接床面にしている。ほぼ平坦で、目立った硬化面などは認められない。炉周辺で炭化物粒・焼土粒の分布が認められた。

【柱穴】住居内から47個のピットが検出された。P2・4では柱痕跡が確認されたがそれ以外は掘り方のみの検出である。P1とP8、P2とP4は炉の長軸方向を主軸にした場合に左右対称となり、その配置から本構造の主柱穴になるものと考えられる。また、壁際から検出された規模の小さなものは補助的な役割のものと考えられる。

【周溝】住居北側の壁のやや内側で部分的に検出されている。いずれも長さ46～88cmの小規模なもので、幅11～25cm、深さは5cm程度である。周溝の底面はほぼ平坦で、断面形はU字形～皿形となっている。



ピット深度表(cm)

番号	標示	番号	標示	番号	標示	番号	標示	番号	標示	番号	標示	番号	標示	番号	標示	番号	標示	番号	標示
P1	32	P2	18	P9	13	P13	12	P17	8	P21	9	P25	6	P29	31	P33	36	P37	10
P2	58	P6	9	P10	14	P14	8	P18	39	P22	5	P26	21	P30	36	P34	20	P37	13
P9	52	P7	29	P11	12	P15	35	P19	32	P23	25	P27	16	P31	35	P35	18	P38	12
P4	55	P8	26	P12	8	P16	37	P20	20	P24	6	P28	22	P32	24	P36	26	P41	7

遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考	
柱穴	1	IVYRC-2	黒褐色	粘土質シルト 売化粒・砂土粒を微量含む。	P2	3	IVYRC-4	褐色	粘土質シルト	V槽工作。
	2	IVYRC-2	褐色	粘土質シルト 売化粒少量、砂土粒を微量含む。		1	IVYRC-3	褐色	粘土質シルト	液化粒微量、砂土粒を微量含む。
	3	IVYRC-4	褐色	粘土質シルト V槽開口多量含む。	P4	2	IVYRC-3	褐色	粘土質シルト	液化粒を少量含む(柱痕)。
炉	4	IVYRC-2	黒褐色	粘土質シルト V槽開口多量含む。		3	IVYRC-4	褐色	粘土質シルト	V槽開口含む。
	5	IVYRC-2	灰褐色	粘土質シルト V槽開口多量含む。	P5	1	IVYRC-4	褐色	粘土質シルト	液化粒を微量含む。
	6	IVYRC-2	灰褐色	粘土質シルト 売化粒多量、液化粒を微量含む。	P6	1	IVYRC-3	褐色	粘土質シルト	V槽開口含む。
P 1	1	IVYRC-2	褐色	粘土質シルト 売化粒多量、液化粒を微量含む。	P8	1	IVYRC-3	褐色	粘土質シルト	液化粒を少量含む。
	2	IVYRC-2	褐色	粘土質シルト 売化粒を少量含む。	2	IVTR-2	灰褐色	粘土質シルト	V槽開口多量。	
	3	IVYRC-4	褐色	粘土質シルト 売化粒含む。	P22	1	IVYRC-4	褐色	粘土質シルト	上層にV槽アーチロック・埋設集中、液化粒を微量含む。
P 2	1	IVYRC-2	黒褐色	粘土質シルト 売化粒を少量含む(柱痕)。	P23	1	IVYRC-3	褐色	粘土質シルト	液化粒を少量含む。
	2	IVYRC-2	褐色	粘土質シルト 売化粒を微量含む。						

第36図 SI612 穴竪住居跡

炉（第37図）

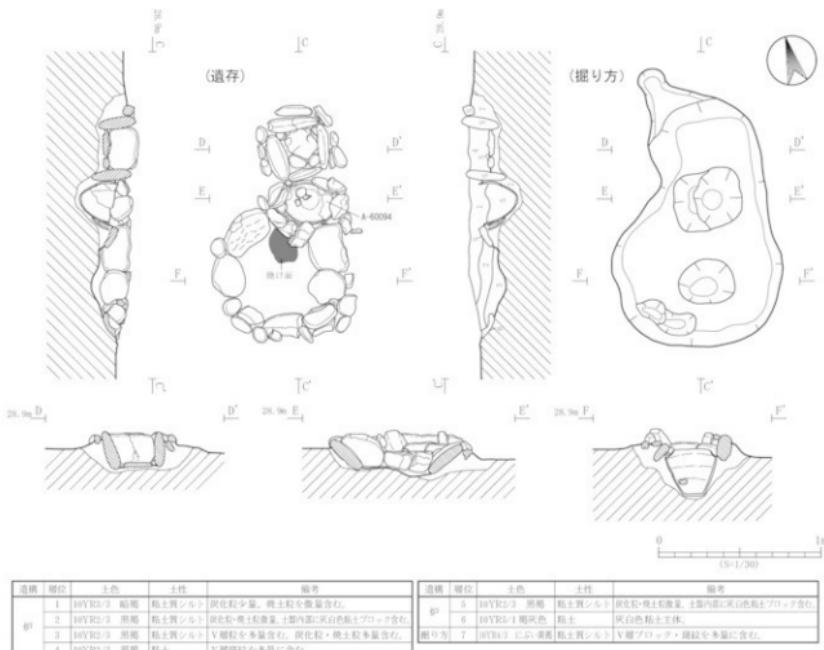
【位置・方位】住居南側に位置し、炉の長軸方向はN-6°-Eである。

【規模・平面形】規模は長軸144cm、短軸90cmである。平面形は土器埋設石組部でくびれるダルマ形である。

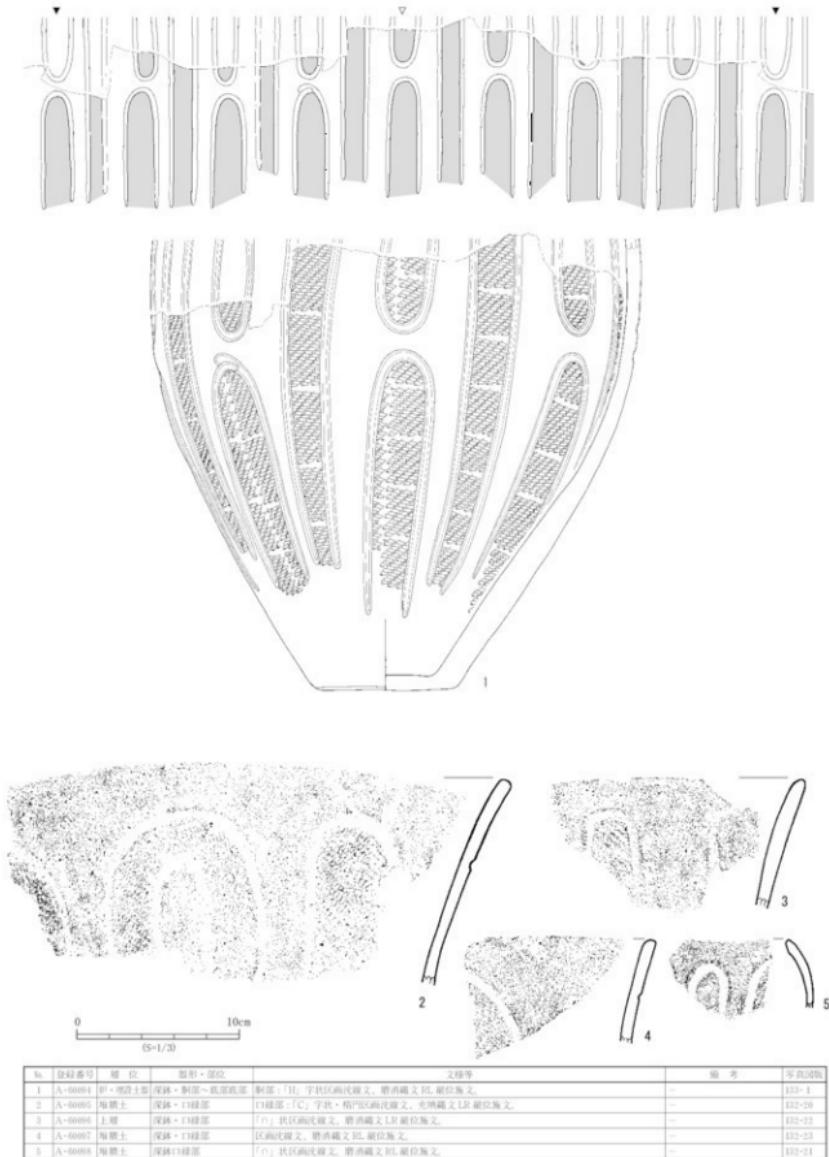
【構・造】敷石石組部、土器埋設石組部からなる複式炉である。炉の南側の床面が緩やかに傾斜していることから掘り込み部が擾乱の影響を受けて削平されてしまった可能性もある。

【敷石石組部】東西53cm、南北46cm、床面から敷石までの深さは12cmである。底面には礫が平坦面を上にした状態で敷かれ、側面は大型で扁平な礫4個が方形に組まれる。掘り方との間には10cm前後の小型の礫が据えられている。

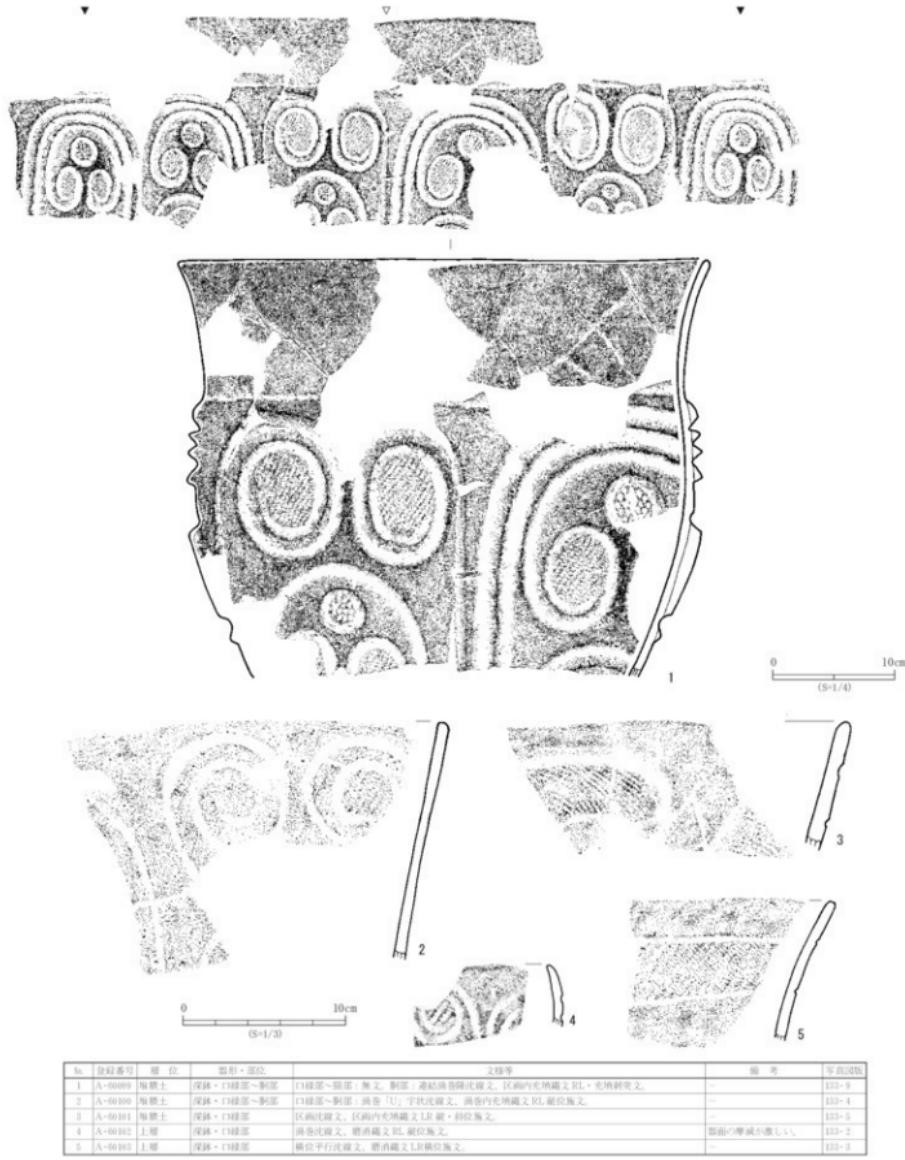
【石器土器埋設石組部】北側の土器埋設石組部と南側の石組部から構成され、長さ98cm、最大幅90cmである。土器埋設部は東西50cm、南北26cm、床面から底面までの深さは32cmである。炉の掘り方内に口縁～胴部上半を欠く深鉢が正位の状態で埋設され、土器の周囲は10～15cmの礫によって囲まれている。土器内の堆積土は炭化物粒・焼土粒を微量に含み、白色粘土ブロックの混入が認められた。また土器内の底面付近から礫が1点出土した。石組部は東西90cm、南北72cm、床面から底面までの深さは22cmである。堆積土中に炭化物粒・焼土粒が多量に含まれており、底面は北側部分を中心に火熱の影響による赤変が認められ、側面および土器埋設部との境にある礫は赤化およびひび割れが顕著である。側面には20～30cm程のやや大型の礫を主体にして円形に組まれ、縁石部分の石は底面から大きく外側に開いた角度で設置されている。北側の敷石石組部と土器埋設石組部の中心を結んだ方向と石組部の中心までの角度は28°東に傾いている。石組部の中央から南側付近では灰白色粘土がまとまった状態で検出された。



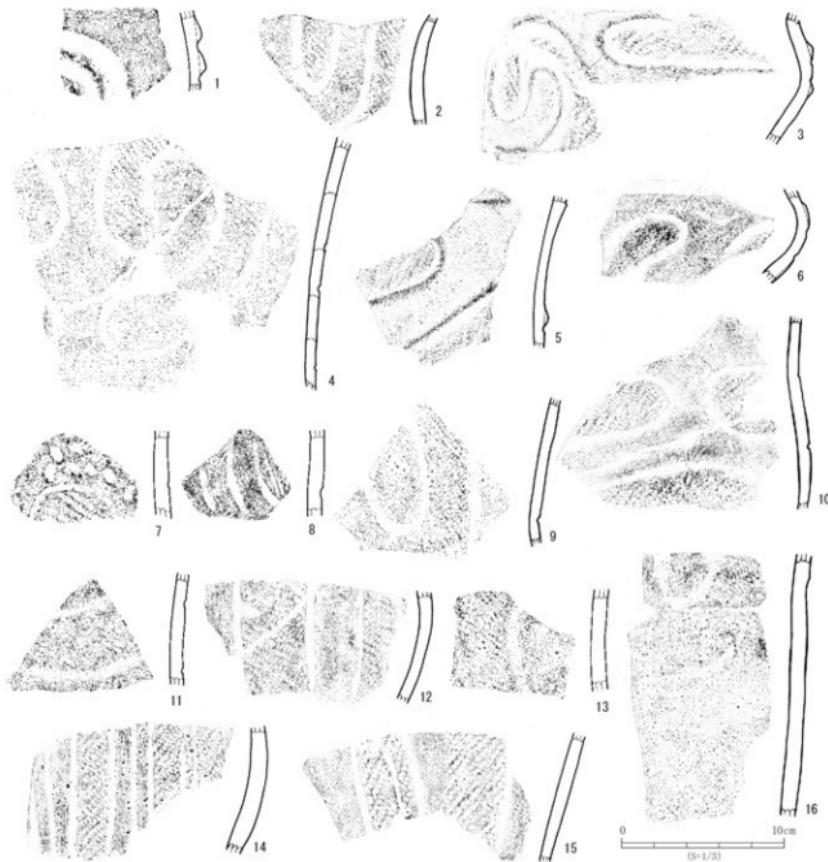
第37図 SI612 積石住居跡複式炉



第38図 SI612 壺穴住跡出土遺物（1）

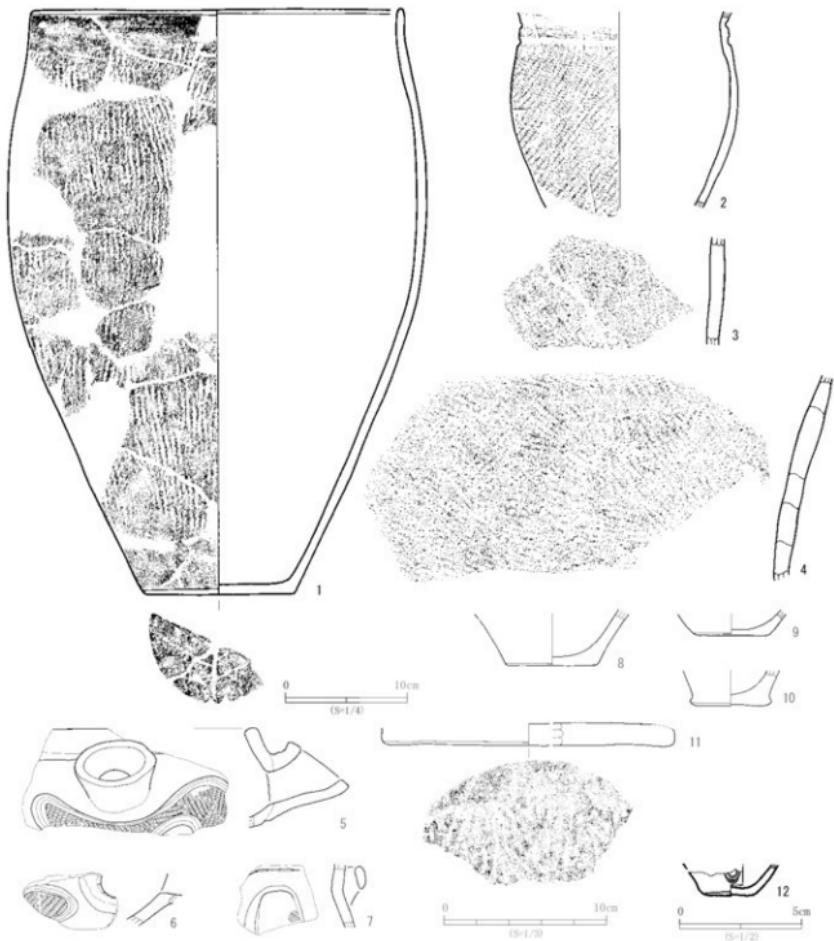


第39図 S1612 壺穴住跡出土遺物（2）



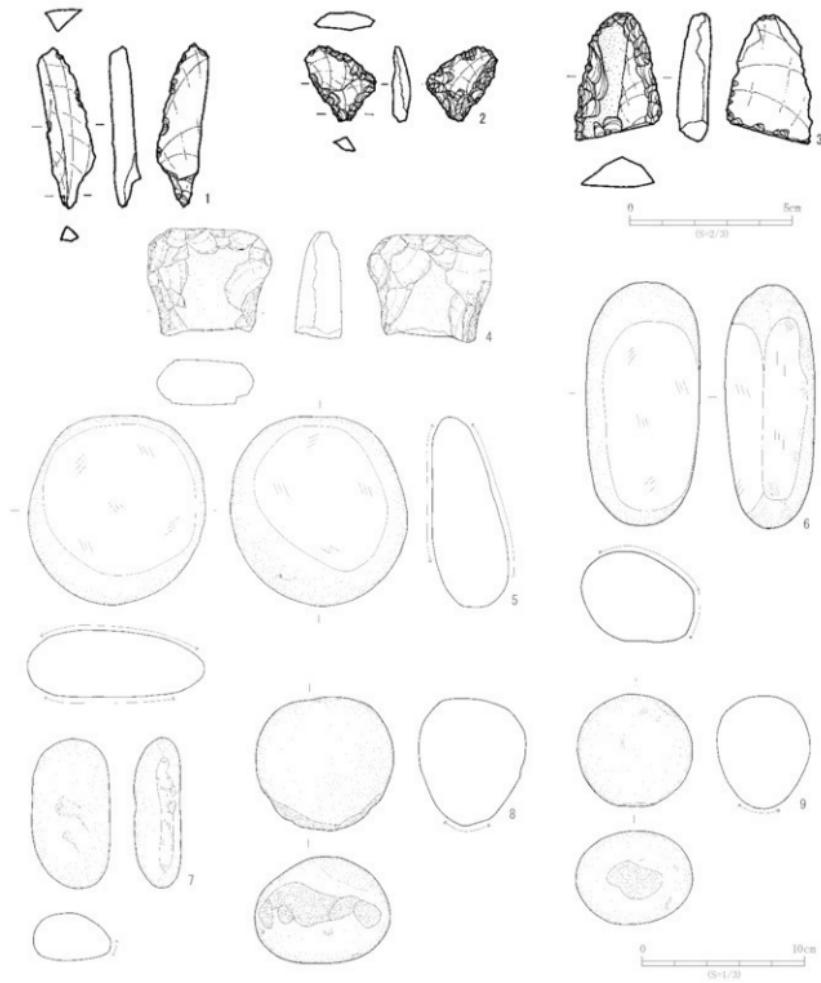
No.	登録番号	層位	細部・部位	文様等	備考	写真撮影
1	A-00104	堆積土	骨跡・口縁部	縦波文。	表面の摩滅小傷しい。	13-5
2	A-00105	堆積土	骨跡・側面	U字状凹凸波文。主溝織文LR斜位施文。	—	13-7
3	A-00106	上層	骨跡・側面	凸面斜波文。主溝織文RL斜位施文。	—	13-8
4	A-00107	堆積土	骨跡・側面	○字状凹凸波文。凹面内光沢織文LR斜・斜位施文。	—	13-1
5	A-00108	上層	骨跡・側面	凸面斜波文。主溝織文RL斜位施文。	—	13-2
6	A-00109	堆積土	骨跡・側面	凸面斜波文。主溝織文RL斜位施文。	表面の摩滅小傷しい。	13-2
7	A-00110	堆積土	骨跡・側面	凸面斜波文。主溝織文RL斜位施文。	—	—
8	A-00111	堆積土	骨跡・側面	凸面斜波文。主溝織文RL斜位施文。	—	13-5
9	A-00112	上層	骨跡・側面	U字状凹凸波文。主溝織文LR斜位施文。	—	13-4
10	A-00113	堆積土	骨跡・側面	凸面斜波文。主溝織文RL斜位施文。	—	13-8
11	A-00114	上層	骨跡・側面	凸面斜波文。主溝織文LR斜位施文。	表面の摩滅小傷しい。	13-6
12	A-00115	堆積土	骨跡・側面	斜位平行波文。主溝織文LR斜位施文。	—	13-7
13	A-00116	上層	骨跡・側面	凸面斜波文。主溝織文LR斜位施文。	—	—
14	A-00117	堆積土	骨跡・側面	斜位平行波文。主溝織文RL斜位施文。	—	13-9
15	A-00118	堆積土	骨跡・側面	斜位平行波文。主溝織文RL斜位施文。	—	13-10
16	A-00119	堆積土	骨跡・側面	U字状凹凸波文。主溝織文RL斜位施文。	表面の摩滅小傷しい。	13-11

第40図 SI162 積穴住居出土遺物（3）



第41図 S1612 壁穴住居跡出土遺物（4）

No.	登録番号	場所	图形・部位	文様等	備考	写真図版
1	A-60120	堆積土	深鉢・口縁部～底部	口縁部：無文。側面：直系文。側底部：無文。底面：木目紋。	S-1/4.	134-11
2	A-60121	伊・2層	鉢・底部～側面	側面：無文。側底部：柄位平行沈文。底文織文。BLR 側位施文。	-	134-14
3	A-60122	堆積土	深鉢・側面	織文。LR 側位施文。	-	134-12
4	A-60123	堆積土	深鉢・側面	織文。LR 側位施文。	-	134-16
5	A-60124	堆積土	注口上部・口縁部～側面	口縁部：無文。側面：変形筋内BLR 隆起文。BLR 植文。斜位施文。	注口外側に浮着。	135-1
6	A-60125	堆積土	注口上部・口縁部	側面：柄位凸出沈文。凸出内BLR 施文。側位施文。	-	134-17
7	A-60126	堆積土	鉢・側面	側面：横状把手。地文織文。LR 側位施文。	-	134-15
8	A-60127	堆積土	深鉢・側面～底部	側面：無文。底面：ナガ。	側面の摩減が激しい。	-
9	A-60128	堆積土	小型深鉢・側面～底部	側面：無文。底面：ナガ。	側面の摩減が激しい。	-
10	A-60129	堆積土	小型深鉢・側面～底部	側面：無文。底面：ナガ。	側面の摩減が激しい。	-
11	A-60130	上層	深鉢・底部	底面：網状。	側面の摩減が激しい。	135-3
12	P-6010	堆積土	(二つ)・土管・側面・底面	(二つ)・土管・側面・底面	S-1/2.	135-2

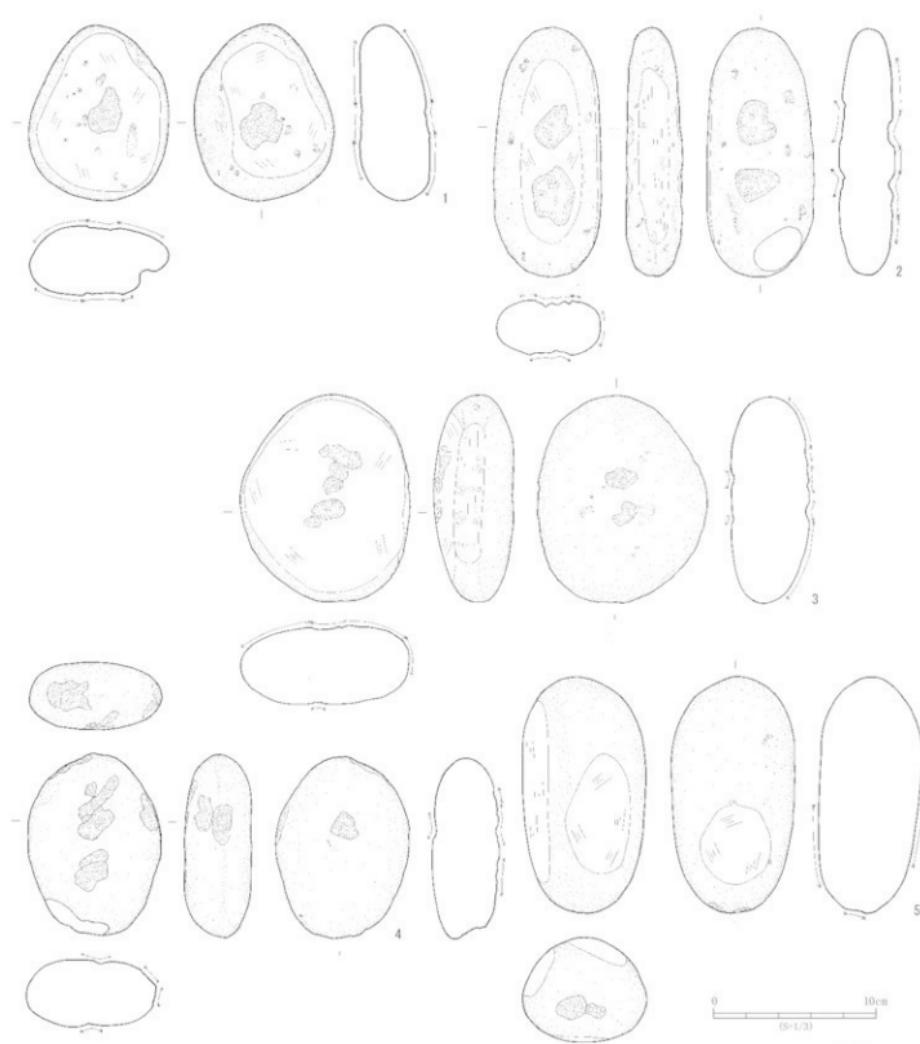


No.	登録番号	層位	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	場所	参考	写真番號
1	[Ka-b-0008]	地盤土	石器	頁岩	49.1	13.0	7.0	32			135-4
2	[Ka-b-0009]	地盤土	石器	珪質頁岩	34.0	14.0	8.0	23			135-5
3	[Ka-e-0008]	上層	スクレッパー	珪質頁岩	38.7	25.0	9.2	93	下平大頭塚の再生品。		135-6
4	[Ka-j-0001]	地盤土	打撃石斧	安山岩	68.0	27.0	(28.0)	382.0	底部残存。		135-7
5	[Kc-a-0007]	地盤土	ツバメ石	ディサイト	116.0	100.0	45.5	780.0	器 2.		135-8
6	[Kc-a-0008]	地盤土	ツバメ石	ディサイト	150.0	70.0	55.0	890.0	上部複数石頭部。器 2(標 1).		135-9
7	[Kc-a-0009]	地盤土	ツバメ石	ディサイト 鋼鐵灰岩	92.0	48.0	29.0	184.0	器 1(標).		135-10
8	[Kc-e-0001]	地盤土	ツバメ石	安山岩	82.0	85.0	66.0	650.0	器 1.		135-11
9	[Kc-e-0002]	上層	ツバメ石	安山岩	69.0	71.0	37.0	388.0	器 1.		135-12

第42図 SI612 壁穴住居跡出土遺物（5）

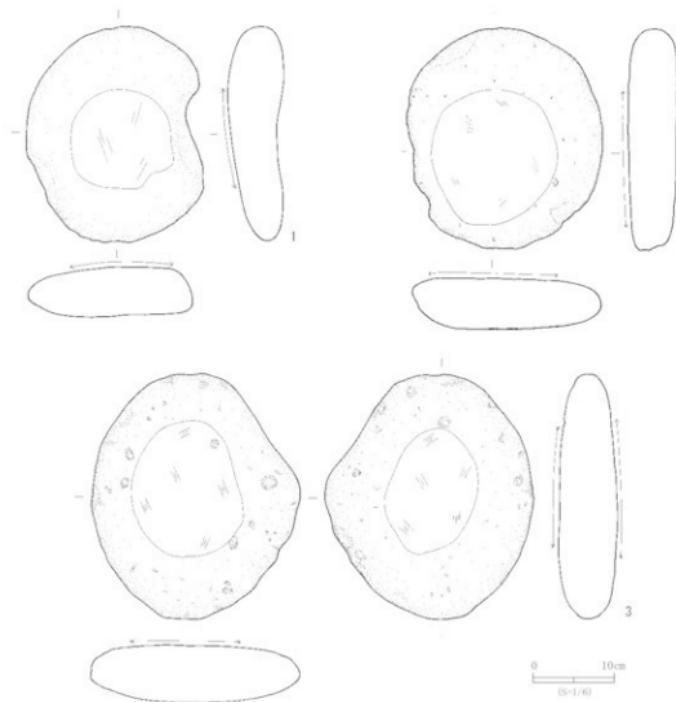


第43図 Si612 壘穴住居跡出土遺物（6）



第44図 SI612 壓穴住居跡出土遺物 (7)

No.	登録番号	場所	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	施 考	参考文献
1	Kcd-4406	海積土	砸石器	安山岩	105.0	37.0	4.0	44.0	骨2、附1-1。	130-17
2	Kcd-4407	-	砸石器	安山岩	153.0	66.0	35.0	472.0	石削土器理設石組築、附2(横1)、回2+2。周辺 部黒褐色変化有り。	130-18
3	Kcd-4408	海積土	砸石器	安山岩	127.0	104.0	4.0	882.0	骨2(横1)、回4+2。	130-19
4	Kcd-4409	海積土	砸石器	安山岩	111.0	82.0	4.0	635.0	門5+1。越2(横2上1)。	130-20
5	Kcd-4401	-	砸石器	安山岩	144.5	76.0	4.0	1,030.0	石削土器理設石組築、附2(下1)。	130-21



第45図 SI612 穫住居跡出土遺物（8）

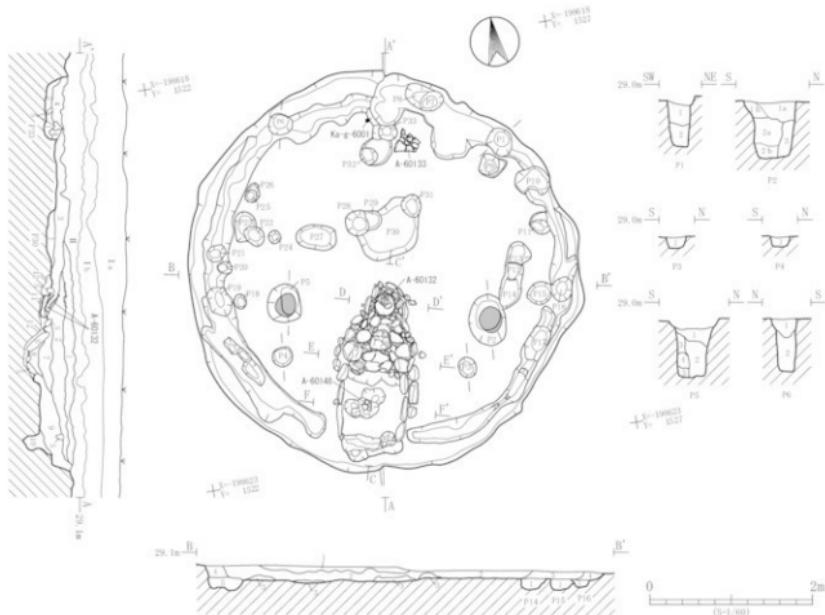
【出土遺物】(第38～45図、図132～135)

本遺構の堆積土および炉から出土した遺物を第38～45図に示した。第38図1 (A-60094) は複式炉³の石皿土器埋設石組部に埋設されていた土器である。口縁～胴部上半を欠き、胴部には「H」字状沈線文が描かれ、磨消縦文R Lが継ぎ施文される。第39図1 (A-60093) は渦巻「U」字・「○」字状区画隆沈線文によって文様が描かれるもので、堆積土中から出土した。石器では石錐3点、スクレイバー1点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片4点、打製石斧1点、礫石器53点、石皿8点、石棒1点が出土しており、石錐2点、スクレイバー1点、打製石斧1点、礫石器5点、礫石器15点、石皿3点を図示した。

SI613堅穴住居跡 (第46・47図・国版9・11・12)

【位置・検出面】 第6次調査3区中央のF・G-33・34グリッドに位置し、N層上面で確認された。当初、設定した調査区では住居の約半分が調査区外となることから西側部分を拡張して調査を行った。南側にはS I 612堅穴住居跡が存在する。

【新旧関係】 南西の周溝の一部がS I 612堅穴住居跡と重複しており、本遺構が新しい。



ピット深度表(cm)

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ		
P1	55	P4	6	P7	14	P10	11	P13	12	P16	10	P19	16	P22	14	P24	14	P26	5	P28	23
P2	76	P5	65	P8	13	P11	6	P14	13	P17	14	P20	21	P23	12	P25	8	P27	14	P29	17
P3	15	P6	68	P9	12	P12	18	P15	15	P18	7	P21	13								

遺構	位相	土色	土性	備考	遺構	位相	土色	土性	備考
堅穴	1 10YR0-2	褐色	粘土質シルト	炭化粒多量、焼土粒を少量含む。土質含み。	P2	2b 10YR4-6	褐色	砂	黄色砂上作。
	2 10YR0-2	褐色	粘土質シルト	炭化粒・焼土粒を多量に含む。		3 10YR4-4	褐色	粘土質シルト	V壁主体。
	3 10YR0-4	褐色	粘土質シルト	炭化粒少量、焼土粒を微量含む。	P3	1 10YR4-3	褐色	粘土質シルト	上端にV壁プロック・現紅茶中、泥瓦粒を微量含む。
	4 10YR0-4	褐色	粘土質シルト	V壁を多量に含む。	P4	1 10YR3-2	褐色	粘土質シルト	上端にV壁プロック・現紅茶中、泥瓦粒を微量含む。
	5 10YR1-1	褐色	粘土質シルト	V壁プロック・現紅茶中、泥瓦粒を多量に含む。		1 10YR4-2	褐色	粘土質シルト	炭化粒多量、焼土粒を微量含む。
	6 10YR2-2	黒褐色	粘土質シルト	炭化粒・焼土粒を多量に含む。		2 10YR2-1	褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。
	7 10YR2-2	黒褐色	粘土質シルト	炭化粒少量、焼土粒を微量含む。	P5	3 10YR3-1	褐色	粘土質シルト	V壁現紅茶含む。
	8 10YR2-2	褐色	粘土質シルト	炭化粒・焼土粒を少量含む。		4 10YR3-1	褐色	粘土質シルト	炭化粒微量、円錐窓む。
	9 10YR2-2	褐色	粘土質シルト	V壁プロック・現紅茶含む。		5 10YR4-1	褐色	砂	黄色砂上作。
	10 10YR2-2	黒褐色	粘土質シルト	炭化粒・焼土粒少量、V壁を微量含む。	P6	1 10YR3-4	褐色	粘土質シルト	炭化粒・V壁E2を多量に含む。
廻り方	11 10YR0-2	褐色	粘土質シルト	炭化粒・V壁を微量含む。		2 10YR4-4	褐色	粘土質シルト	黄色砂を多量に含む。
	1 10YR0-4	褐色	粘土質シルト	炭化粒・V壁を多量に含む。	P14	1 10YR4-6	褐色	粘土質シルト	V壁プロックを多量に含む。
	2 10YR4-4	褐色	粘土質シルト	黄色砂を多量に含む。	P15	1 10YR4-1	褐色	粘土質シルト	V壁現紅茶含む。
P1	1a 10YR0-2	褐色	粘土質シルト	炭化粒少量、泥瓦粒を微量に含む。		3 10YR4-4	褐色	粘土質シルト	V壁現紅茶含む。
	1b 10YR0-2	黒褐色	粘土質シルト	V壁プロック含む。	P16	1 10YR4-1	褐色	粘土質シルト	泥瓦粒多量。
	2a 10YR0-2	褐色	粘土質シルト	泥瓦粒微量、円錐窓む。	P17	1 10YR4-1	褐色	粘土質シルト	V壁現紅茶主体、炭化粒を微量含む。

第46図 SI613 堅穴住居跡

【規模・平面形】直径約4.8mの円形である。

【堆積土】暗～黒褐色粘土質シルトを主体にして10層に分層される。竪穴中央に分布する1～3層からは炭化物粒・焼土粒の他に多くの遺物が含まれている。

【壁面】壁は周溝の底面または床面からほぼ垂直に立ち上っている。検出面から床面までの深さは断面で確認した最も残存の良好な南側部分で37cmである。

【床面】北側では掘り方底面を直接床面にしている。やや凹凸が認められるがほぼ平坦である。

【柱穴】床面および周溝内から計33個のピットが検出された。柱痕跡はP2・5で確認され、それ以外は掘り方のみが検出されている。P1とP6、P2とP5は炉の長軸方向を主軸にして左右対称の位置に存在しており、その配置や規模から4本柱構造の主柱穴になるものと見られる。その他にも主軸の延長部分に位置するP31またはP32も柱穴とするならば5本柱構造のものとなる。その他の壁際から検出された浅いピットは補助的な役割のものと考えられる。

【周溝】壁のやや内側ではほぼ全周する。幅11～72cm、深さ18～31cmである。断面形はU字形である。

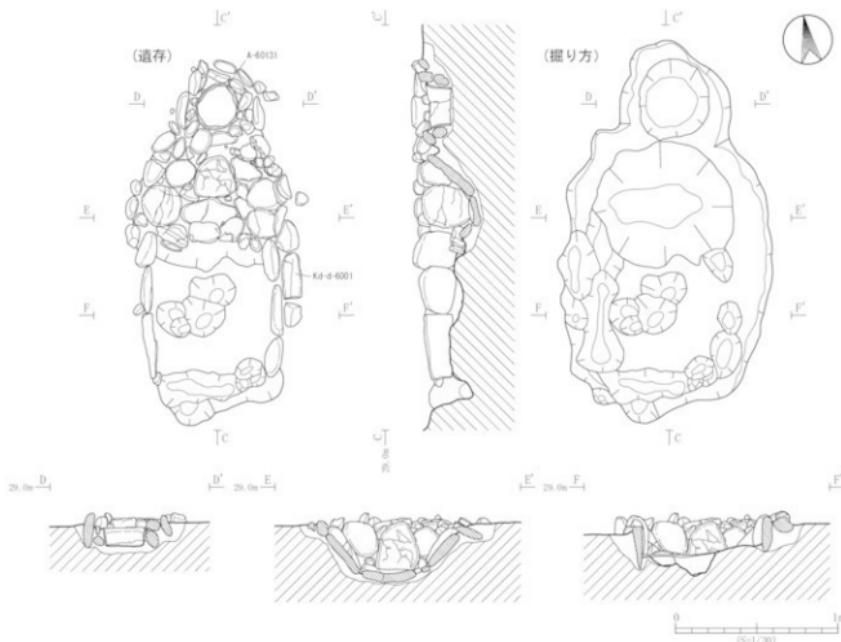
炉（第47図）

【位置・方位】住居の南側に位置する。長軸方向はN-17°-Eである。

【規模・平面形】長さ223cm、最大幅100cmである。平面形は敷石石組部との境にくびれを有するダルマ形である。

【構造】土器埋設石壠部、敷石石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

【土器埋設石壠部】長さ52cm、幅49cm、床面から底面までの深さは18cmである。まず掘り方内へ胴部～底部を欠い



第47図 SI613 竪穴住跡複式炉

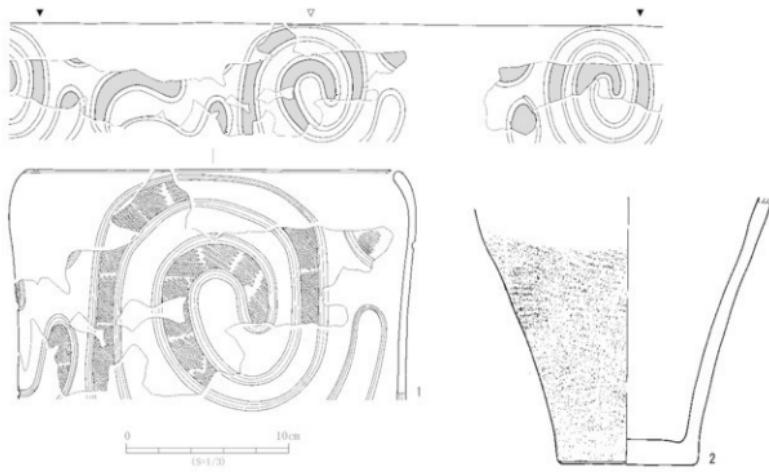
た深鉢（A-60131）が正位の状態で埋設され、その周囲に補強のために15cm程度の小型の礫を配し、さらに東西の外側に20cm前後のやや大型の扁平な礫がほぼ垂直な角度で敷設される。土器内の堆積土から口縁～胴部を欠く深鉢（A-60132）が出土している。

【敷石石組部】長さ104cm、幅73cm、床面から敷石面までの深さは30cmである。底面に20～30cmの扁平な礫が平坦面を上に向けた状態で敷設され、側面は底面に対して外側に大きく開いた角度で礫が据えられる。これらの礫には火熱の影響を受けて赤化しているものや割れているものも認められた。

【掘り込み部】長さ101cm、幅100cm、床面から底面までの深さは18cmである。平面形は方形である。側壁には30～40cmの大型扁平な礫が掘り方底面に対してほぼ垂直に敷設されており、東側では部分的に石が2列に配される。掘り込み部中央には径25cm前後、深さ12cmのピットが3個認められ、南端には長さ64cm、幅20cm、深さ12cmの溝状の落ち込みが認められた。堆積土中からは深鉢の胴部破片（A-60147）が出土した。

【出土遺物】（第48～55図、図版136～139）

堆積土および床面から出土した土器および石器を第48～55図に示した。第48図1（A-60131）は土器埋設石組部に埋設されていたもので胴部以下を欠損している。この埋設土器内からは第48図2（A-60132）の深鉢の胴～底部が出土した。第49図1（A-60133）の深鉢の口縁～胴部の大型破片は北側のP33脇で床面よりもやや高い位置から内面を上にした状態で出土した。石器では石鏃2点、石錐7点、石匙4点、スクレイバー4点、クサビ形石器2点、二次加工のある剥片5点、微細剥離痕のある剥片5点、礫石器21点、石皿17点、石棒1点、異形石器1点が出土しており、石鏃2点、石錐2点、石匙4点、スクレイバー3点、異形石器1点、礫石器12点、石皿5点、石棒1点を第51～55図に示した。第51図12の異形石器（Kag-6001）はP33西側の堆積土下層から出土したものであり、第55図6の石棒（Kd-d-6001）は複式炉掘り込み部の東側の側石として用いられていた。



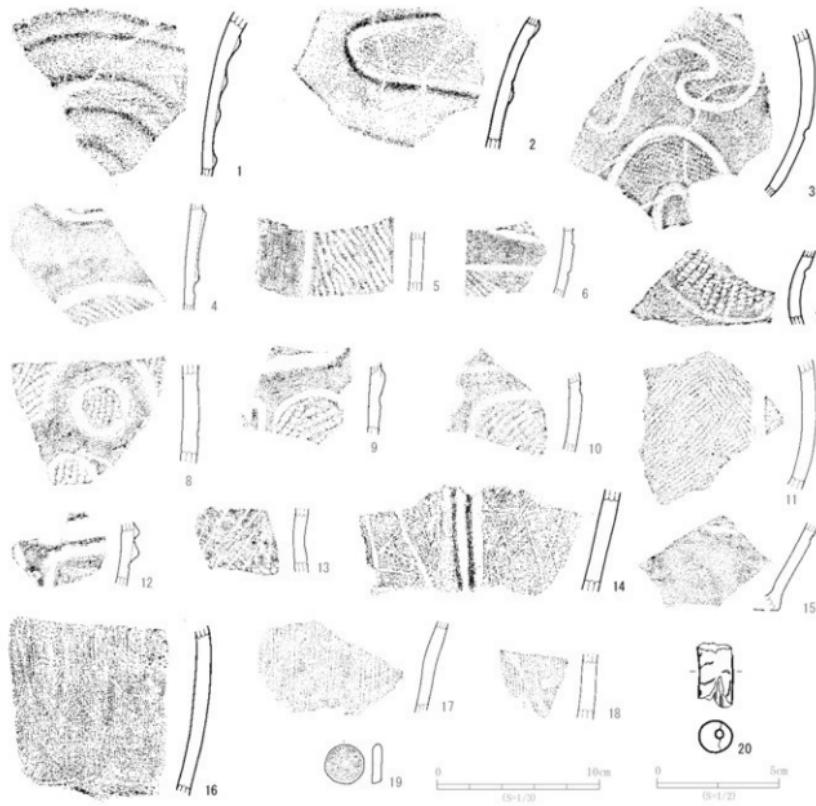
No.	登録番号	層位	断面・部位	2種等	地 点	実測値
1	A-60131	P・埋設土器	深鉢・口縁部～剥離	口縁部～剥離：薄削刃面光面文、先端繊維LR.		100-1
2	A-60132	P+上層	深鉢・剥離～底部	剥離：繊維LR面微粒化文、底部：ナゴ。		100-2

第48図 S1613 積穴住居跡出土遺物（1）



品名	登録番号	層位	图形・面紋	文様等	参考	写真図版
1	A-00133	3層	圓鉢・口縁部～側面	口縁部・側面「？」字模・S・丁狀降沈線文、猪の頭口縁・側面施文。	—	10c-3
2	A-00134	堆積土	圓鉢・口縁部	口面状模文、猪の頭口縁・側面施文。	器面の摩滅小激しい。	10c-4
3	A-00135	堆積土	圓鉢・口縁部	口面状模文、猪の頭口縁・側面施文。	—	10c-5
4	A-00136	1・2層	圓鉢・口縁部	口面状模文、口面内毛輪繩文L2・側面施文。	—	10c-6
5	A-00137	堆積土	圓鉢・口縁部	口面状模文、猪の頭口縁・側面施文。	—	10c-9
6	A-00138	堆積土	圓鉢・側面	口面状模文。	—	10c-7
7	A-00139	堆積土	圓鉢・口縁部	繩文L2・側面施文。	—	10c-8
8	A-00140	堆積土	圓鉢・口縁部	口面状模文、口面内毛輪繩文L2・側面施文。	S～11上同一個体。	10c-10
9	A-00141	7層	圓鉢・側面	口面状模文、口面内毛輪繩文・側面施文。	S～11上同一個体。	10c-12
10	A-00142	最上層	圓鉢・側面	口面状模文・猪の頭口縁・側面施文。	S～9・11上同一個体。	10c-12
11	A-00143	堆積土	圓鉢・側面	口面状模文、口面内毛輪繩文・側面施文。	S～10上同一個体。	10c-11
12	A-00144	堆積土	圓鉢・側面	口面状模文、毛輪繩文・側面施文。	—	10c-14

第49図 SI613 穴竪住居跡出土遺物（2）



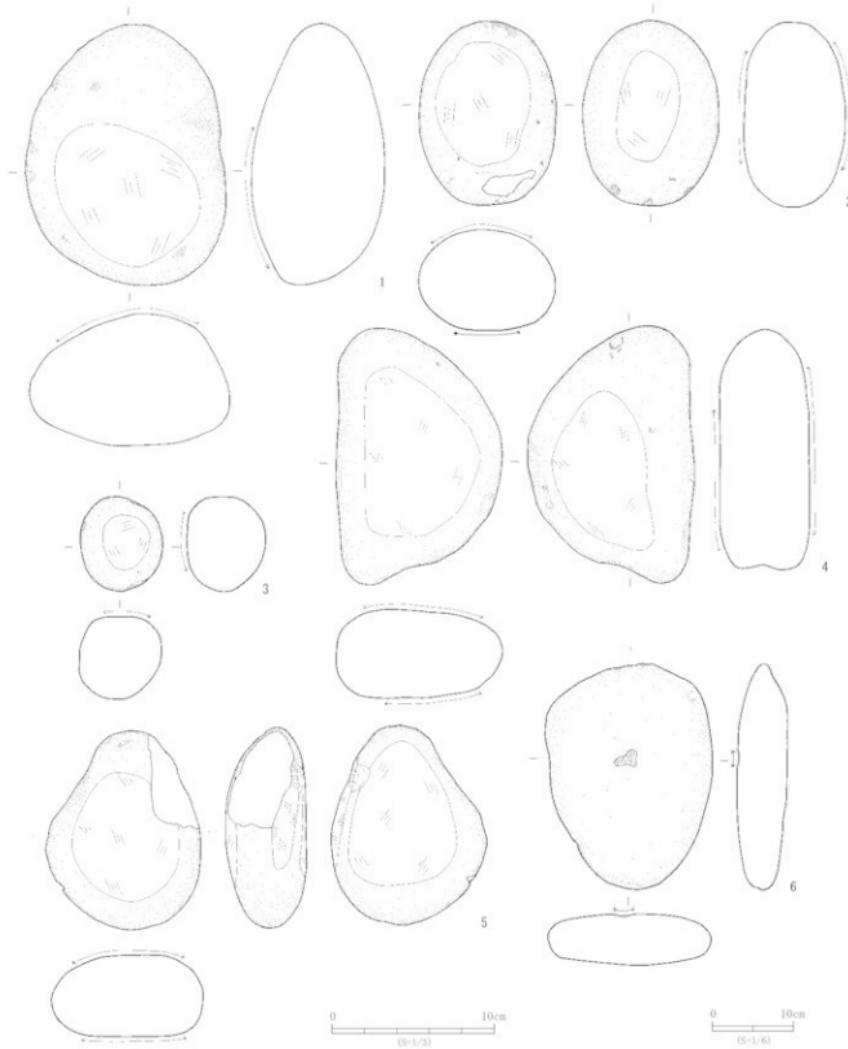
No.	登録番号	層位	類別・部位	文様等	備考	写真枚数
1	A-00143	堆積土	骨鉢・削部	黄褐色浅彫文。	表面の摩滅小傷なし。	135-15
2	A-00146	堆積土	骨鉢・削部	区画隠伏彫文、区画内に横彫文とL形彫文。	-	137-1
3	A-00147	积・S-1/2 内	骨鉢・削部	区画浅彫文、猪の面文と斜位彫文。	-	137-2
4	A-00148	堆積土	骨鉢・削部	区画隠伏彫文、光地彫文と彫位彫文。	-	137-3
5	A-00149	2層	骨鉢・削部	細粒区画彫文、猪の面文と斜位彫文。	-	137-4
6	A-00150	堆積土	骨鉢・削部	区画隠伏彫文、光地彫文と彫位彫文、光地刻変文。	-	137-5
7	A-00151	2層	骨鉢・削部	区画浅彫文、猪の面文と斜位彫文。	-	137-10
8	A-00152	堆積土	骨鉢・削部	太粒区画彫文、区画内に光地彫文と彫位・斜位彫文。	-	137-12
9	A-00153	堆積土	骨鉢・削部	区画隠伏彫文、区画内に横彫文とL形彫文。	-	137-9
10	A-00154	P2・堆積土	骨鉢・削部	区画浅彫文、猪の面文と斜位彫文。	-	137-13
11	A-00155	1・2層	骨鉢・削部	隠伏彫文、光地彫文とL形彫文。	-	137-6
12	A-00156	2層	骨鉢・削部	区画隠伏彫文、猪子目状斜行彫變文。	137と同一個体。	137-7
13	A-00157	3層	骨鉢・削部	猪子目状斜行彫變文。	137と同一個体。	137-11
14	A-00158	堆積土	骨鉢・削部	区画隠伏彫文、区画内猪子目状斜行彫變文。	-	137-8
15	A-00159	堆積土	骨鉢・削部	浅彫文。	-	137-14
16	A-00160	堆積土	骨鉢・削部	猪子目状斜行彫變文。	137と同一個体。	137-15
17	A-00161	堆積土	骨鉢・削部	猪子目状斜行彫變文。	137と同一個体。	137-16
18	A-00162	堆積土	骨鉢・削部	猪子目状斜行彫變文。	-	137-17
19	P-0011	堆積土	上削・縫合	剥離破片、無文。	重さ 27g.	137-18
20	P-0012	堆積土	管状土製品	-	重さ 423g. S-1/2.	-

第50図 SI613 壁穴住居跡出土遺物（3）



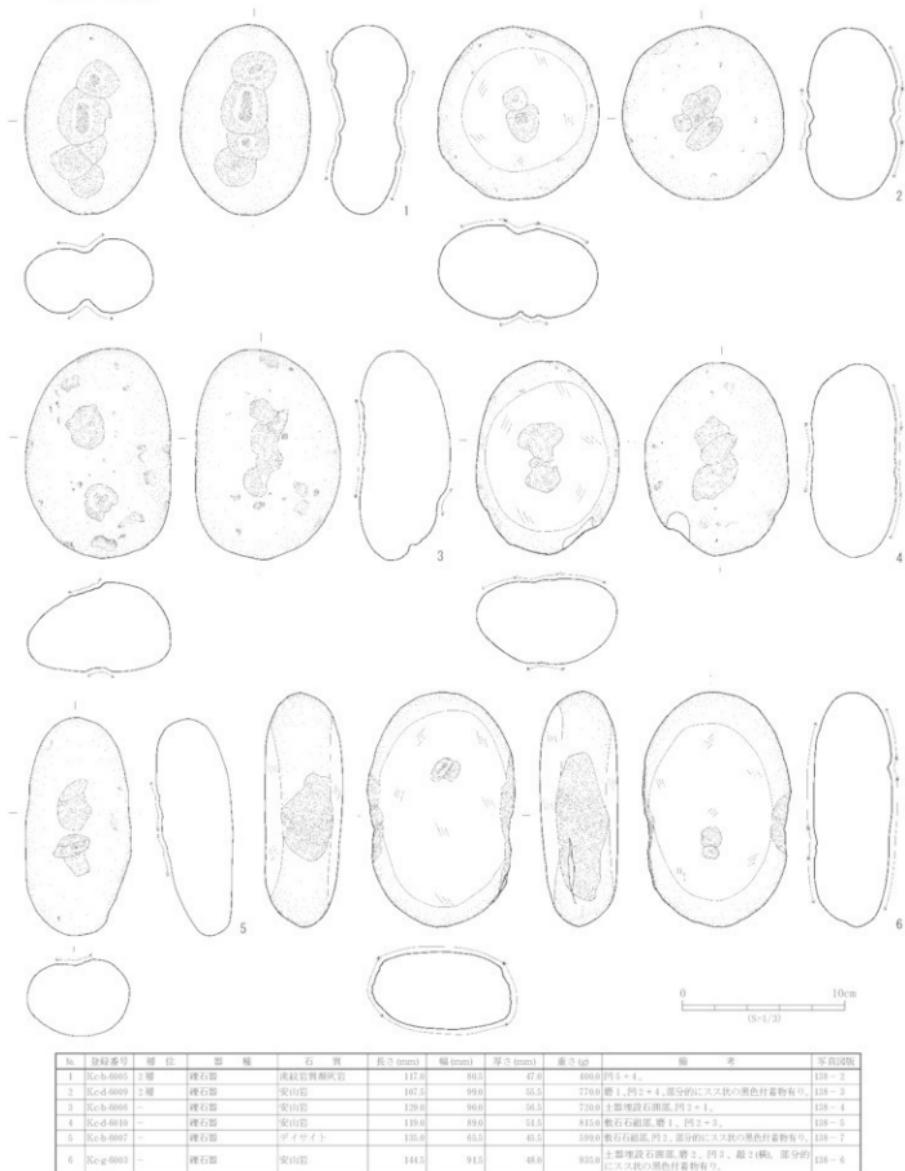
No.	登録番号	場所	目 標	石 器	長さ(mm)				幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	参考文献
					1	2	3	4					
1	Ka-a000	7層	石器	往西貢岩	14.2	11.1	2.0	0.7	18.0	1.5	6.7	薄刃に斜面を残す。	137-19
2	Ka-a010	2+1層	石器	往西貢岩	(20.7)	18.5	5.0	—	(17)	先端部欠損。タル付着。	137-20		
3	Ka-b010	2+1層	石器	玉鏡	(28.0)	18.7	7.1	(3.0)	—	—	—	—	137-21
4	Ka-b011	2+1層	石器	往西貢岩	26.7	15.9	4.7	1.1	—	—	—	—	137-22
5	Ka-d007	2+1層	石器	往西貢岩	59.2	27.4	8.5	—	13.7	鉋型(?)、右側縁ノッチ。	137-23		
6	Ka-d008	2+1層	石器	往西貢岩	51.0	15.7	5.6	4.0	—	鉋型。	137-24		
7	Ka-d009	2+1層	石器	往西貢岩	27.1	13.1	3.6	1.2	—	鉋型。	137-25		
8	Ka-d010	2+1層	石器	往西貢岩	57.4	49.6	10.4	18.1	—	鉋型。刃部直状。両端縫合。	137-26		
9	Ka-e000	海懸土	スクレーパー	玉鏡	48.7	27.0	11.0	17.0	—	—	—	—	137-27
10	Ka-e010	2+1層	スクレーパー	往西貢岩	29.4	27.4	4.5	3.7	—	—	—	—	137-28
11	Ka-e011	2+1層	スクレーパー	往西貢岩	43.2	26.8	7.0	11.9	—	—	—	—	137-29
12	Ka-g001	1層	異形石器	碧玉	50.3	25.4	9.0	16.7	—	—	—	—	—

第51図 SII613 壁穴住居跡出土遺物（4）

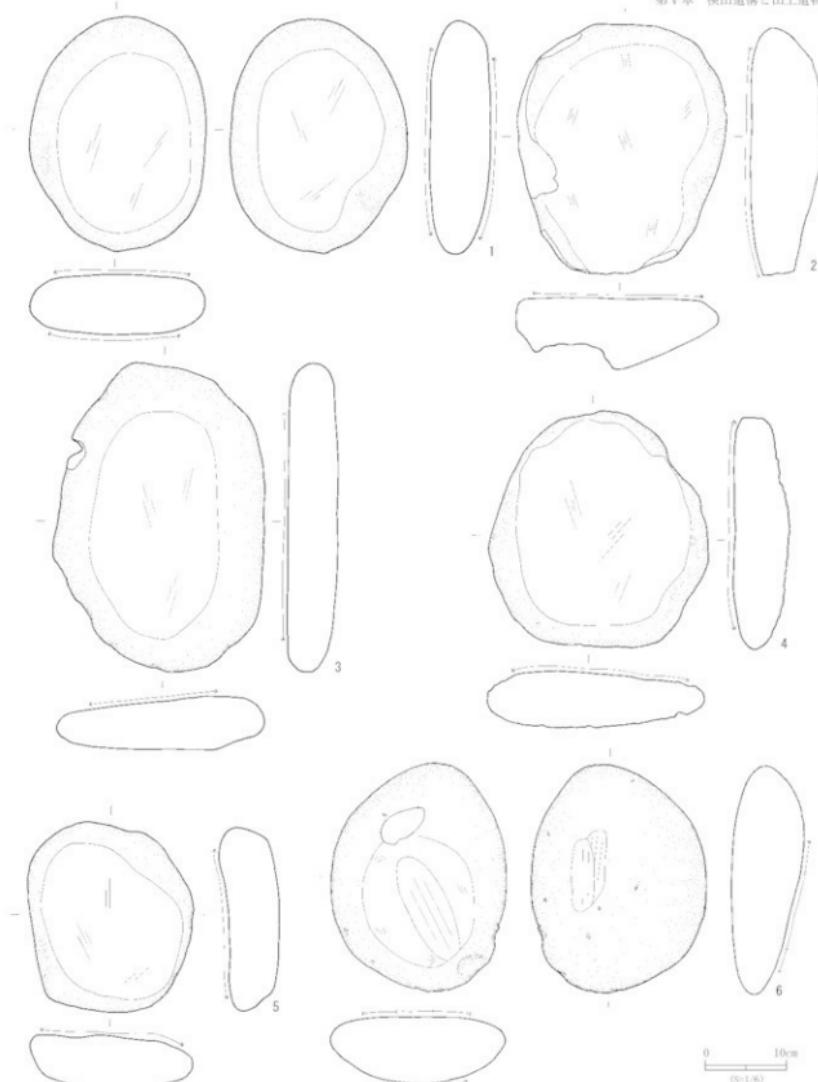


No.	登錄番号	発見位	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	保存状態
1	Kca-a010	-	礫石器	安山岩	151.0	122.0	8.0	1380.0	上型埋設石圓底. 備1。	良好
2	Kca-a011	埴地上	礫石器	安山岩	115.0	84.0	6.0	900.0	備2。部分的にスルツの黒色付着物有り。	良好
3	Kca-a012	埴地上	礫石器	花崗岩	58.0	51.0	4.0	190.0	備1。	良好
4	Kca-a013	-	礫石器	ダイサイト	108.0	102.0	5.0	1390.0	上型埋設石圓底. 備2。	良好
5	Kca-a014	-	礫石器	安山岩	123.0	96.0	5.0	(800.0)	上型埋設石圓底. 備3(備1)。	良好
6	Kch-b004	-	礫石器	安山岩	378.0	207.0	6.0	5322.0	上型埋設石圓底. 備4。部分的に著熱痕有り。	良好

第52図 S1613 壁穴住居跡出土遺物（5）



第53図 SI613 壺穴住跡出土遺物（6）



第54図 S1613 壁穴住跡出土遺物（7）

No.	登録番号	層位	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (kg)	備考	写真回数
1	Kd-a-6007	堆積土	石皿	ディサイト	288.0	217.0	75.0	7.420	壁2, S=1/9,	138-8
2	Kd-a-6008	2層	石皿	安山岩	307.0	237.0	65.0	9.650	壁1, S=1/9,	138-10
3	Kd-a-6009	-	石皿	安山岩	381.0	263.0	60.0	9.460	搬り石鉢底, 壁1, S=1/9,	138-9
4	Kd-a-6010	-	石皿	安山岩	291.0	273.0	65.0	8.760	搬り込入皿, 壁1, S=1/9,	138-11
5	Kd-a-6011	-	石皿	安山岩	322.0	294.0	65.0	5.260	1.搬り出石鉢底, 壁1, S=1/9,	138-12
6	Kd-c-5001	-	砥石	安山岩	281.0	217.0	80.0	0.900	搬り石鉢底, 壁2, 緑透の一部にスズ状の黒色変化	138-12



第55図 SI613 壘穴住居跡出土遺物（8）

No.	登録番号	場所	形態	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	(1) 所有	
									備考	登録年
1	Kd-a-6012	石棒	安山岩	269.0	23.0	34.0	17.130	搬り込み型、縫合、S-1.6.	129	1
2	Kd-a-6013	G型	安山岩	362.0	21.0	45.0	6.890	搬石不規則、縫合、黄褐色付着物有り、S-1.6.	129	2
3	Kd-a-6014	石棒	安山岩	360.0	22.0	44.0	4.890	搬石不規則、縫合、S-1.6.	129	3
4	Kd-a-6015	石棒	安山岩	283.0	18.0	56.0	4.270	搬石不規則、縫合、縫合時に火炎状の黑色変化有り、S-1.6.	129	4
5	Kd-a-6016	石棒	安山岩	215.0	17.0	54.0	3.090	搬石不規則、縫合、S-1.6.	129	5
6	Kd-d-6001	石棒	ディサイト	(290.0)	(14.0)	(12.0)	(6.560)	搬り込み型、縫合下口、S-1.6.	129	6

SI701堅穴住居跡（第56・57図、図版14）

【位置・検出面】 第7次調査1区西側中央から北寄りのD・E-41・42グリッドに位置する。Ⅲ層上面で複式炉のみを検出しており、堅穴や周溝など他の部分については不明である。第56図は複式炉およびその周辺のグリッドでⅣ層上面から検出されたピットを合成したものである。北東側にS I 707堅穴住居跡、南側にはS I 702堅穴住居跡が存在している。

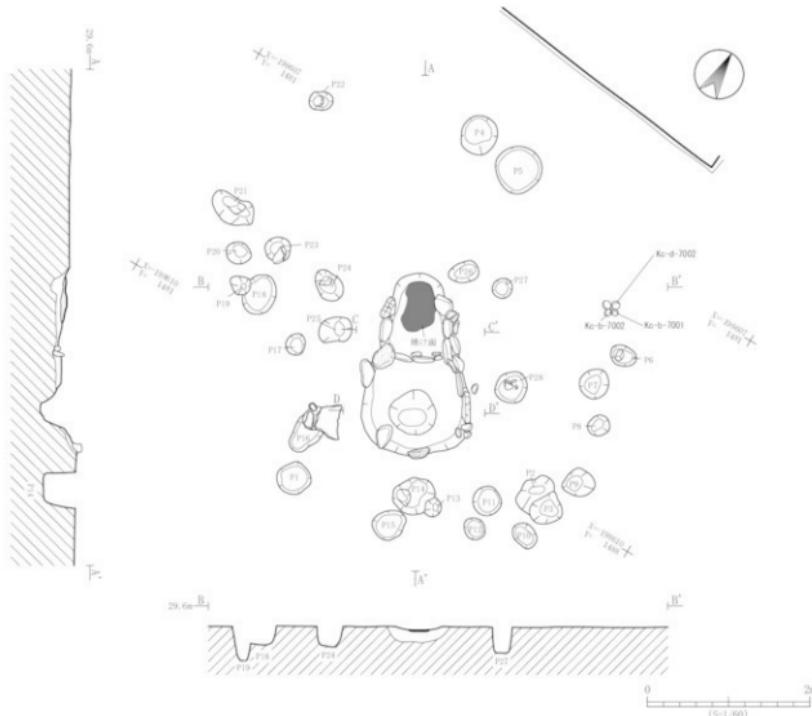
【新旧関係】 炉の北側からS X713・715埋設土器が検出されているが本遺構との新旧関係は不明である。

【規模・平面形】 壁や周溝が確認されていないため全体の規模・平面形は不明である。

【堆積土】 堅穴が確認されなかったことから不明であるが、炉周辺の堆積土は暗褐色系粘土質シルトを主体のⅢ層類似のものである。

【壁・面】 確認されなかった。

【床・面】 炉の検出面であるⅢ層を床面としたものと考えられる。特に周辺で硬化面等は認められなかった。



ピット深度表(cm)

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ		
P1	28	P4	43	P7	46	P9	53	P11	31	P13	42	P15	27	P17	29	P19	46	P21	38	P23	30	P25	43	P27	28
P2	48	P5	36	P8	31	P10	35	P12	35	P14	38	P16	32	P18	35	P20	30	P22	37	P24	31	P26	36	P28	29
P3	48	P6	44																						

第56図 SI701 堅穴住居跡

【柱穴】炉の検出面では確認されずV層上面まで掘り下げた段階でピットを検出した。いずれも掘り方のみで柱痕跡が確認されたものはない。炉との位置関係から柱穴を想定すると、正方形の配列となるP1・4・7・21の4本柱構造、あるいは二等辺三角形の配列になるP1・2・4の3本柱構造等が候補として考えられる。P6・23・28ではピット内から礫が出土し、P6の北側では集積状に礫石器3点、礫1個(Kc-d-7002, Kc-b-7001・7002)がまとまった状態で出土しているが掘り込みは確認されなかった。

【周溝】確認されなかった。

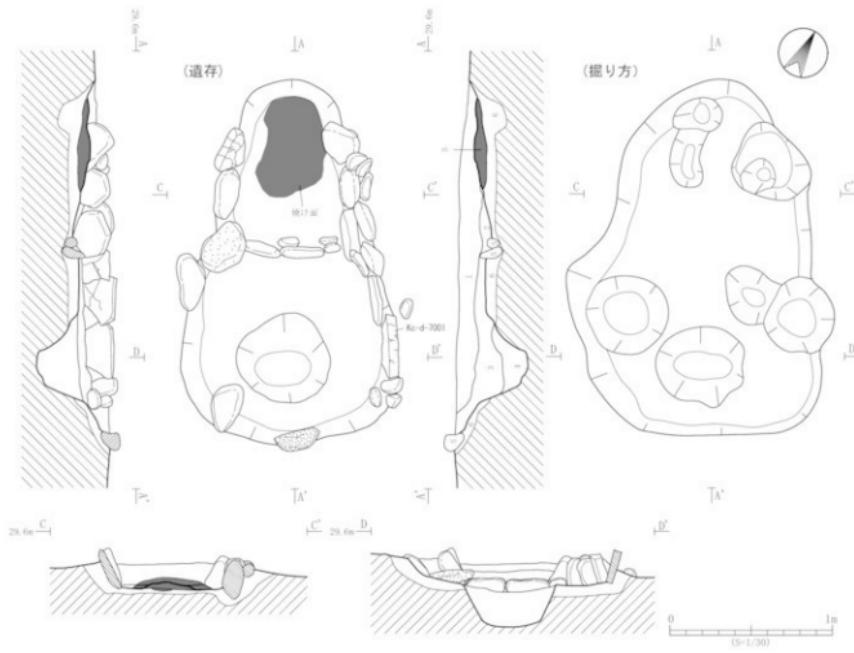
炉(第57図)

【位置・方位】住居の平面形が不明であり炉の位置関係も不明である。長軸方向はN-30°-Wである。

【規模・平面形】長さ224cm、最大幅134cmである。平面形は掘り込み部側が広がる釣鐘形である。

【構造】石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

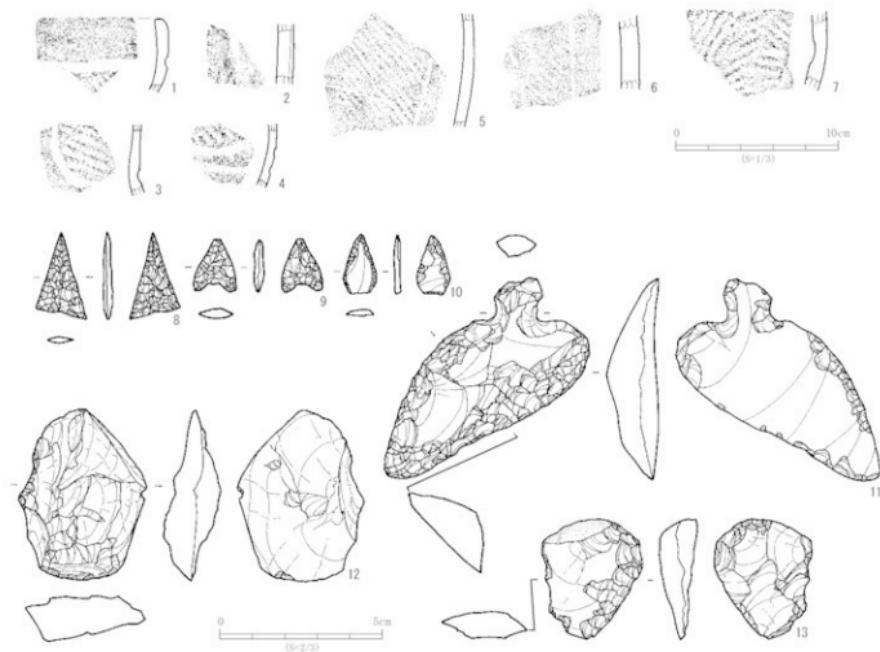
【石組部】長さ108cm、幅90cmである。両側壁には25~30cmのやや大型で扁平な礫が垂直へやや外側に傾いた状態で据えられており、東側では2列に石が配されている。また掘り込み部との境に小型の扁平な礫がほぼ垂直に据えられている。床面から底面までの深さは5cmと浅く、北側の先端部分では58cm×40cmの範囲に焼け面が認められ8



第57図 SI701 穴式住居跡複式炉

cm下まで火熱を受けて赤変している。焼け面付近の両側壁に据えられた礫は火熱を受けて赤化した脆弱な状態になっていた。

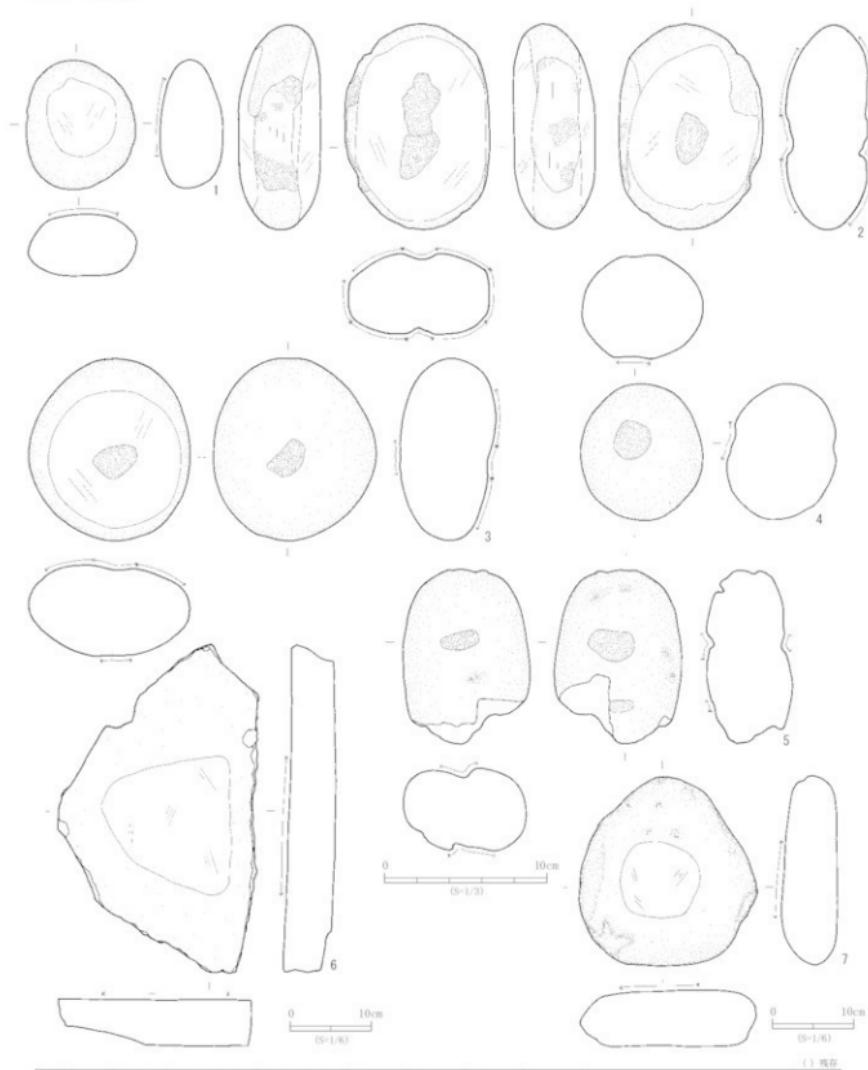
【掘り込み部】規模は長さ116cm、幅134cmである。石組部と同様に大型で扁平な礫がほぼ垂直な状態で据えられている。南北側では側壁部分の礫が残存していないか、P16上面で検出された礫の形状や大きさから判断して掘り込み部の同位置から抜き取られたものと考えられる。底面はほぼ平坦で検出面から底面までの深さは16cmである。掘



No.	登録番号	標 位	断形・部位	文様等	備 考	参考文献
1	A-70081	検出面	深鉢・口縁部	縞模沈刻文、縞模E形刻痕施文。	-	139- 7
2	A-70082	検出面	深鉢・側面	縞模文、斜突文。	-	139- 8
3	A-70083	検出面	深鉢・側面	（以前）沈刻文、野山織文E形刻痕施文。	-	139- 9
4	A-70084	検出面	深鉢・側面	（以前）沈刻文、野山織文E形刻痕施文。	-	139- 10
5	A-70085	検出面	深鉢・側面	（以前）沈刻文、野山織文E形刻痕施文。	-	139- 11
6	A-70086	検出面	深鉢・側面	（以前）沈刻文、野山織文E形刻痕施文。	-	139- 11
7	A-70087	検出面	深鉢・側面	縞模E形刻痕施文。	-	139- 12

No.	登録番号	標 位	断形・部位	石 壊	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (kg)	備 考	参考文献
8	Kae-7001	検出面	石礫	珪質頁岩	24.0	11.6	2.8	0.7	圓錐底欠損。	139- 13
9	Kae-7002	検出面	石礫	黒耀石	16.4	13.2	3.0	0.5	-	139- 14
10	Kae-7003	検出面	石礫	珪質頁岩	18.2	10.2	1.9	0.4	右側縁カツリ。平基盤。	139- 15
11	Kae-7004	検出面	石礫	珪質頁岩	38.0	74.4	13.0	31.0	極型。	139- 22
12	Kae-7005	検出面	スラング (I)	土礫	50.0	39.0	16.0	25.7	-	139- 26
13	Kae-7006	検出面	スラング (I)	珪質頁岩	27.0	31.0	11.0	9.1	-	139- 21

第58回 SI701 積穴住跡出土遺物（1）



第59図 SI701 壺穴住居跡出土遺物（2）

り込み部の南側では58cm×54cmのピットが検出されており、深さは26cmである。

〔出土遺物〕(第58・59図、図版139)

炉を検出した際に周辺から出土した遺物を第58・59図に示した。土器はほとんど検出されておらず小片を含めて深鉢の口縁～胴部の破片を第58図に示した。石器は石鏃3点、石匙1点、スクレイパー2点、礫石器11点、石皿2点、砥石1点が検出されており、石鏃3点、石匙1点、スクレイパー2点、礫石器5点、砥石1点、石皿1点を示した。なお、礫石器3点(Kc-b-7001・7002,Kc-d-7001)は遺構東側の集石状遺構より出土し、礫石器2点(Kc-a-7001,Kc-d-7002)はP28から出土したものである。

S1702堅穴住居跡(第60図、図版13・14)

〔位置・検出面〕第7次調査1区西側南寄りのF-41・42グリッドに位置し、Ⅲ層上面で確認された。北側にS1701堅穴住居跡、南側にはS1710堅穴住居跡が存在している。住居跡の一部は木根の影響により削平されている。

〔新旧関係〕SX704埋設土器と重複関係にあり、本遺構の堆積土中に存在していることから本遺構が古い。

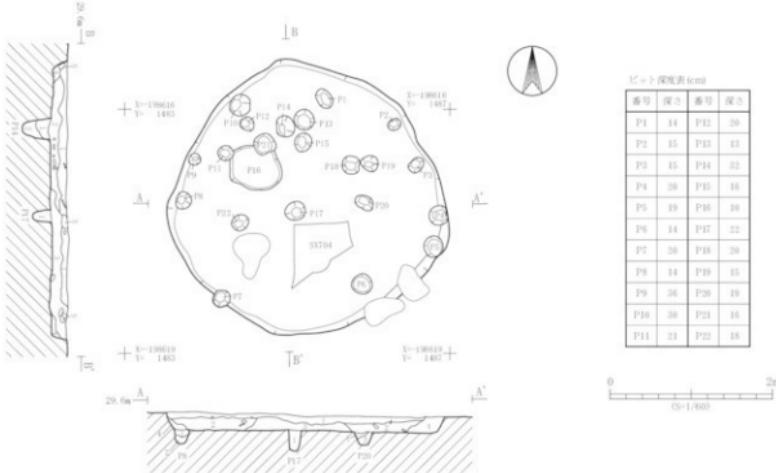
〔規模・平面形〕平面形は直径3.4mの不整な円形である。

〔堆積土〕黒～暗褐色系土を主体とする粘土質シルト層で4層に分層される。

〔壁面〕壁高は最も残存状況が良好な西側部分では23cmであり、床面から若干外側へ開き気味に立ち上がる。

〔床面〕N層を直接床面にしている。床面はほぼ平坦で硬化面等は認められない。

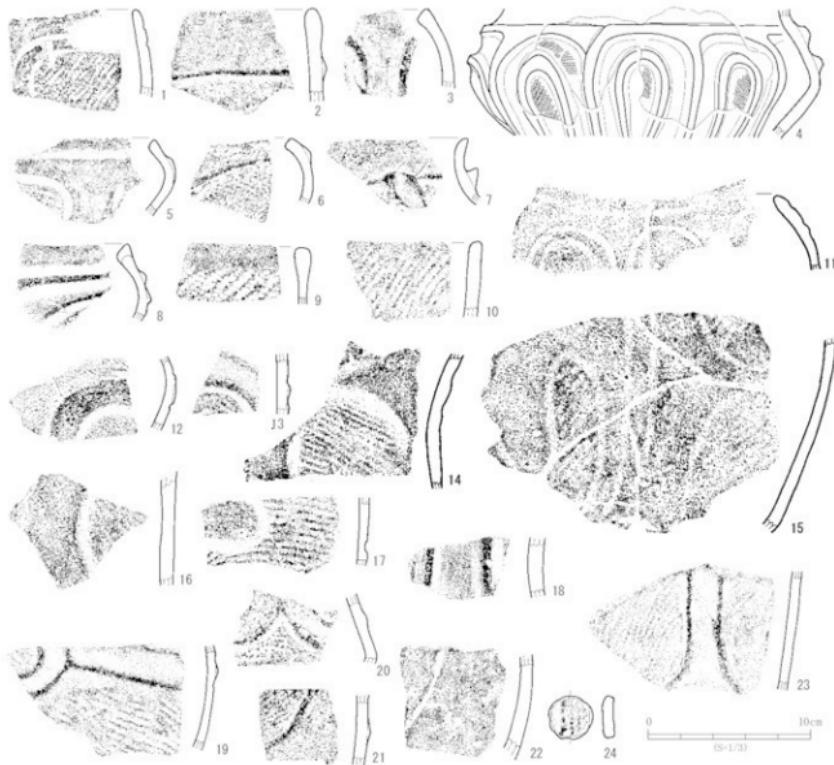
〔柱穴〕床面でピット21個が検出された。いずれも掘り方のみで柱痕跡が確認されたものはない。柱構造は不明であるが、壁際に存在しているピットを使って考えた場合、P2・4・6・7・8・10のような6本柱構造などが考えられる。



遺構	層位	土色	土性	備考
堅穴	1	HYR2-2 坚硬	粘土質シルト	V層堆积物・焼土粒・土塊を含む。上端部多く。
	2	HYR2-2 坚硬	粘土質シルト	炭化物・焼土粒少々、V層を含む。上端部多く。
	3	HYR2-3 坚硬	粘土質シルト	炭化物・焼土粒を微量含む。
	4	HYR2-2 坚硬	粘土質シルト	V層堆积物を微量含む。
P8	1	HYR2-2 坚硬	粘土質シルト	V層堆积物を微量含む。
	2	HYR2-4 坚硬	粘土質シルト	V層堆积物を微量含む。

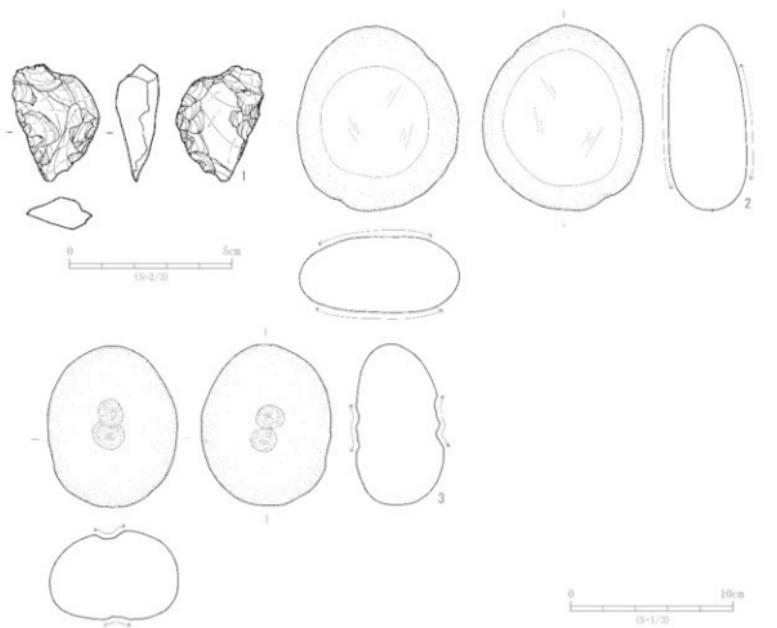
遺構	層位	土色	土性	備考
P14	1	HYR2-2 黑褐	シルト質粘土	V層堆积物を微量含む。
	2	HYR2-4 黑褐	シルト質粘土	褐色斑紋を多様に含む。
P18	1	HYR2-2 黑褐	シルト質粘土	V層堆积物を微量含む。
	2	HYR2-3 黑褐	粘土	V層堆积物を微量含む。

第60図 S1702 堅穴住居跡



號	登錄番号	層位	器形・部位	文様等	相考	参考文献
1	A-70008	1～3層	深鉢・口縁部	区ぬれ文、唇済織文R、継位施文。		100-1
2	A-70009	1層	深鉢・口縁部	継位施文。		100-2
3	A-70010	1層	鉢・口縁部	区ぬれ文。		100-3
4	A-70011	1～2層	鉢・肩部～側面	継位。無文。斜面：「△」。区ぬれ文R、唇済織文R、継位施文。		100-4
5	A-70012	1～3層	鉢・口縁部	口縁部：継位施文文、斜面：区ぬれ文R、唇済織文R、継位施文。		100-5
6	A-70013	1～3層	鉢・口縁部	継位文、織文LR、継位施文。		100-6
7	A-70014	1～3層	鉢・口縁部	継位。無文。斜面：区ぬれ文。舌状小突起。		100-7
8	A-70015	1～3層	深鉢・口縁部～側面	口縁部：無文。斜面：区ぬれ文R、唇済織文R、継位施文。		100-8
9	A-70016	1～3層	深鉢・口縁部	織文RL、継位施文。		100-9
10	A-70017	1～3層	深鉢・口縁部	継位文、継位施文。		100-11
11	A-70018	板標土	深鉢・口縁部	区ぬれ文。唇済織文LR、継位施文。		100-10
12	A-70019	1～3層	鉢・側面	区ぬれ文。唇済織文。継位施文。		100-14
13	A-70020	板標土	深鉢・側面	区ぬれ文。唇済織文LR、継位施文。		100-12
14	A-70021	上層	深鉢・側面	「△」。区ぬれ文。唇済織文LR、継位施文。斜面文。		100-15
15	A-70022	1～3～4層	深鉢・側面	「△」。区ぬれ文。唇済織文。継位施文。		100-13
16	A-70023	板標土	深鉢・側面	区ぬれ文。織文LR、継位施文。		100-16
17	A-70024	1～3層	深鉢・側面	区ぬれ文。織文LR、継位施文。		100-17
18	A-70025	1～3層	深鉢・側面	唇済織文。		100-18
19	A-70026	板標土	深鉢・側面	区ぬれ文。織文LR、継位施文。		100-19
20	A-70027	1～2層	深鉢・側面	区ぬれ文。織文LR、継位施文。		100-20
21	A-70028	1～3層	深鉢・側面	区ぬれ文。織文LR、継位施文。		100-21
22	A-70029	1～3層	深鉢・側面	区ぬれ文。		100-22
23	A-70030	1～3層	深鉢・側面	区ぬれ文。区ぬれ文RL、継位施文。		100-23
24	P-7001	板標土	土製円盤	斜面被利用。唇済織文。織文LR、継位施文。	高さ3.89g	100-24

第61図 SI702 壘穴住居跡出土遺物（1）



第62図 SI702 壁穴住居跡出土遺物（2）

【周溝】確認されなかった。

炉

確認されなかった。

〔出土遺物〕(第61・62図、図版140)

堆積土中から出土した土器および石器を第61・62図に示した。土器は大半が深鉢の破片であり、沈線文、隆沈線文により文様が描かれる。土製品では深鉢形土器の胴部破片を加工した土製円盤が1点出土した。石器はスクレイバー1点、礫石器8点が出土しており、スクレイバー1点、礫石器2点を図示した。

SI703堅穴住居跡（第63・64図、国版15）

【位置・検出面】第7次調査1区中央の北寄りのD・E-38グリッドに位置し、Ⅲ層上面で複式炉のみを検出した。第63図には炉およびV層上面で炉の周辺から検出されたピットを合わせて図化した。東側にS I 704堅穴住居跡、南西側にはS I 709堅穴住居跡が存在している。

【新旧関係】北側にS X741風倒木痕が存在するが本遺構との新旧関係は不明である。

【規模・平面形】壁や周溝が確認されなかっただため、全体の規模や平面形は不明である。

【堆積土】堅穴が確認されず不明であるが、炉の周辺にⅢ層を主体とする暗褐色系粘土質シルト層が認められた。

【壁・面】確認されなかった。

【床・面】炉の検出面であるⅢ層を床面としたものと考えられる。硬化面等は認められなかっただが、炉の周辺で炭化物・焼土の分布が認められた。

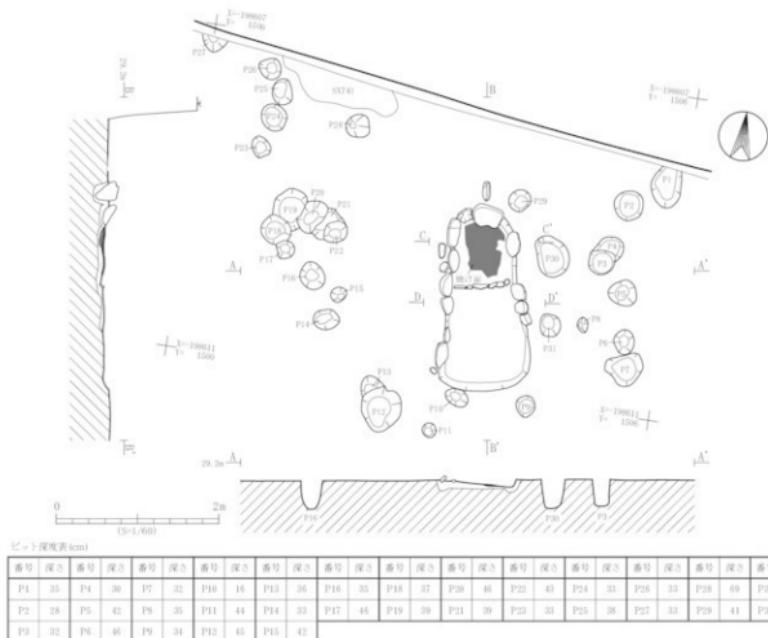
【柱・穴】炉の検出面では確認されず、V層上面まで掘り下げてピットを検出した。いずれも掘り方のみで柱痕跡が確認されたものはない。炉との位置関係および規模から四本柱構造と考えた場合、一例として北東隅が調査区外になるがP1・20・25が柱穴になる可能性がある。

【周・溝】確認されなかった。

炉（第64図）

【位置・方位】住居の平面跡が不明であり、炉の位置関係は不明である。長軸方向はN-18°-Wである。

【規模・平面形】長さ230cm、最大幅114cmである。平面形は掘り込み部に向かって緩やかに広がる釣鐘形となる。



第63図 SI703 堅穴住居跡

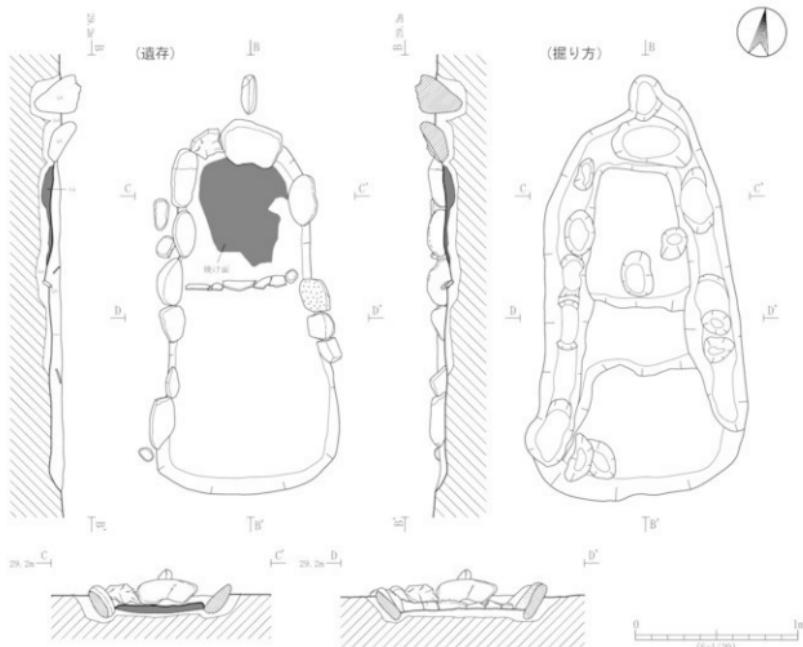
〔構造〕石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

〔石組部〕長さ・幅ともに84cmである。床面から焼け面までの深さは6cmである。東側の側壁の礫の一部が抜き取られているが、壁際に20~30cmの大型で扁平な礫が斜めに傾いた状態で設置されており、石組部と掘り込み部の境においても同様に10~15cmのやや小型の礫が掘り込み部側へやや傾けて敷設されている。石組部の中央から北側では67cm×54cmの範囲で焼け面が認められ、6cm下まで火熱の影響を受けて赤変している。その他に石組部北側の炉の長軸方向となる中軸線上から長さ30cmの大型の礫がほぼ垂直の立石状に検出された。

〔掘り込み部〕長さ126cm、幅114cm、床面から底面までの深さは8cmである。平面形は南東側が若干広がるが長方形を基調としたもので、東西の側壁には石組部と同様に大型の礫が外側に斜めに傾いた状態で設置されている。南東側では掘り方の状況から礫が抜き取られているものと思われる。底面はほぼ平坦で石組部の底面に比べて若干高くなっている。

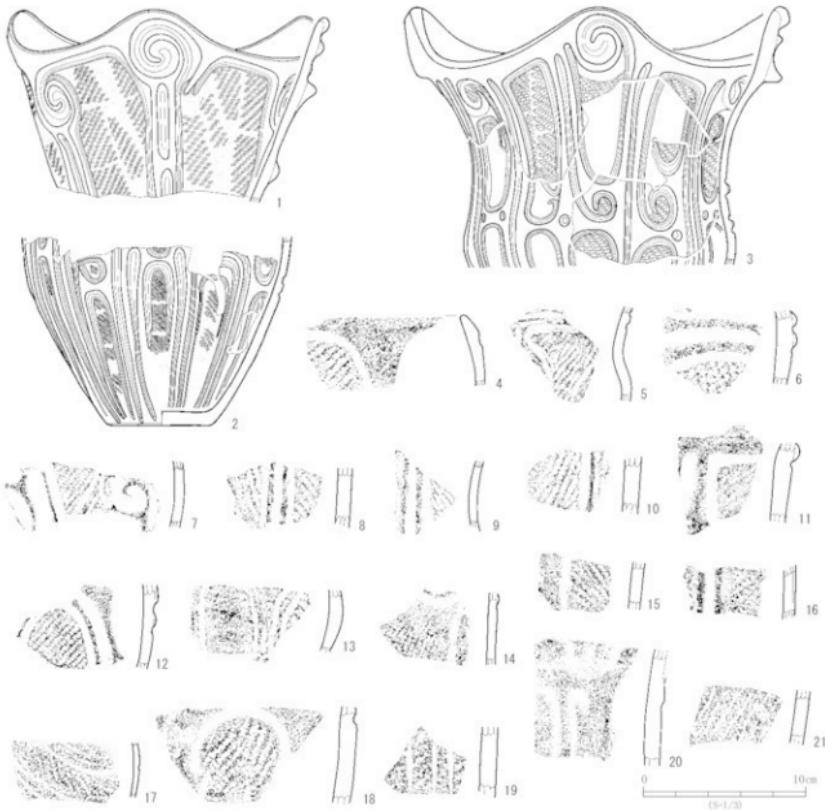
〔出土遺物〕(第65~67図、国版140・141)

炉を検出した際に周辺から出土した遺物を第66~67図に示した。石器は石鏟1点、石錐1点、石匙3点、スクレイバー2点、微細剥離痕のある剥片1点、礫石器8点、石皿1点、砥石1点が出土し、石鏟1点、石錐1点、石匙3点、スクレイバー1点、礫石器6点、砥石1点、石皿1点を図化した。



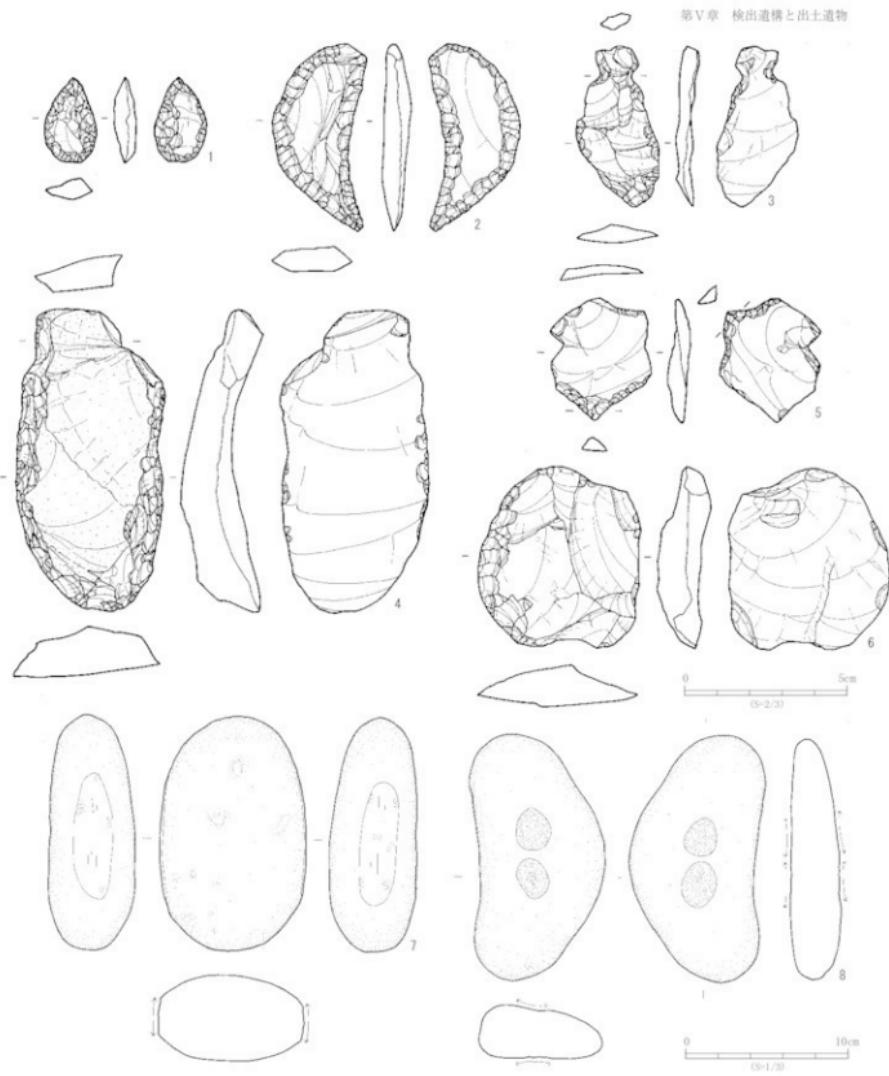
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
炉	1 10YR5/2 黄褐色	粘土質シルト	燒土粒・灰化物を少量含む。V型耐火土中に集中。		掘り方	3 10YR3/4 黄褐色	粘土	V型耐火土を多量に含む。	
掘り方	2 10YR4/6 棕褐色	粘土	燒土 1kg						

第64図 SI703 穴式住居跡複式炉



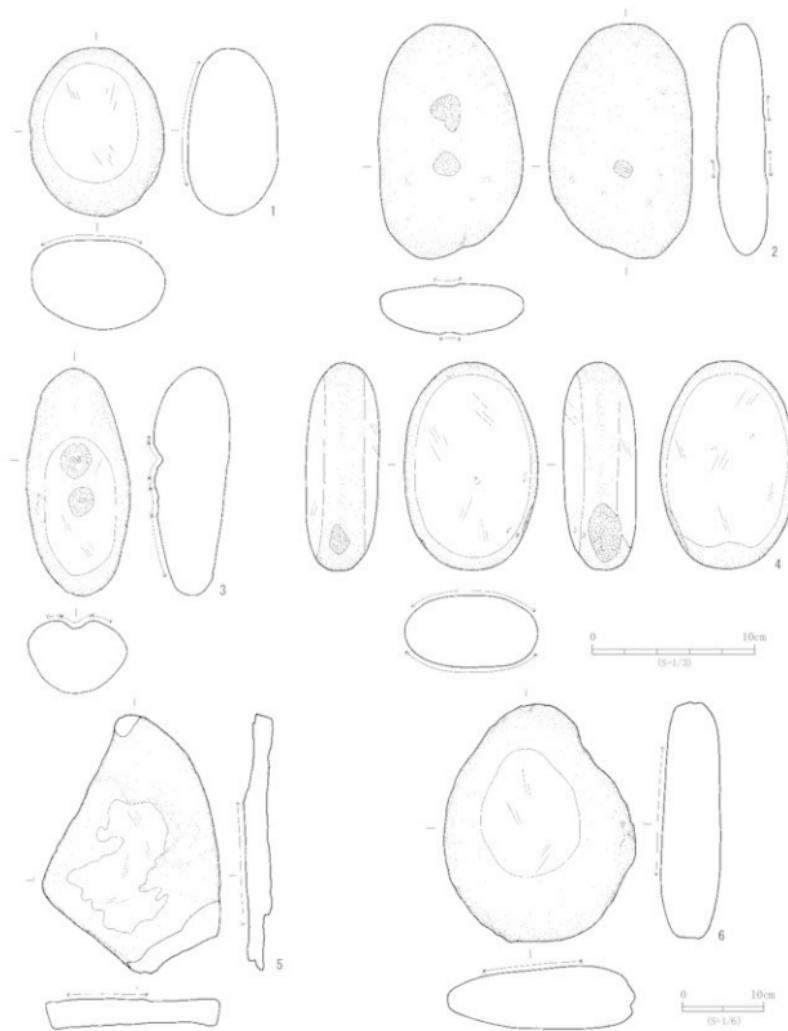
No.	登錄番号	規 型	胎形・表面	文様等	備 考	年代推測
1	A-70011	縹拂土	深鉢・口付浅・鉢形	(縹拂)内・外縁、縹拂区の縹拂文、縹拂内に地鐵文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、3単位。	140-29
2	A-70012	紗・1層	深鉢・鉢形・底足	縹拂、縹拂、(縹)、縹拂縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、1単位。	141-1
3	A-70013	紗・1層	深鉢・鉢形・底足	(縹拂)内・縹拂、(縹拂)縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	140-28
4	A-70014	秋山面	深鉢・口付浅	(縹拂)文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	140-29
5	A-70015	紗・1層	深鉢・鉢形	(縹拂)文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	140-31
6	A-70016	海螺土	深鉢・鉢形	縹拂文、縹拂内縹拂文。	透狀口縹、2単位。	140-32
7	A-70017	海螺土	深鉢・鉢形	縹拂区の縹拂文、縹拂、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	140-33
8	A-70018	秋山面	深鉢・鉢形	(縹拂)縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	140-34
9	A-70019	油道	深鉢・鉢形	(縹拂)縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-2
10	A-70040	油道	深鉢・鉢形	(縹拂)縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-3
11	A-70041	油道面	深鉢・鉢形	(縹拂)縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-4
12	A-70042	油道面	深鉢・鉢形	(縹拂)縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-5
13	A-70043	油道面	深鉢・鉢形	(縹拂)縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-6
14	A-70044	油道面	深鉢・鉢形	縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-7
15	A-70045	油道面	深鉢・鉢形	縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-8
16	A-70046	油道面	深鉢・鉢形	縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-9
17	A-70047	油道面	深鉢・鉢形	縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-10
18	A-70048	油道面	深鉢・鉢形	縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-11
19	A-70049	油道面	深鉢・鉢形	縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-12
20	A-70050	油道面	深鉢・鉢形	縹拂文、縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-12
21	A-70051	油道面	深鉢・鉢形	縹拂内縹拂文、縹拂縹拂文。	透狀口縹、2単位。	141-11

第6503 SI703 積穴住跡出土遺物（1）



No.	登録番号	種類	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	参考文献
1	Kca-7004	楕円面	石器	玉髓	26.0	15.0	6.7	2.4	内基層。	141-15
2	Kad-7002	楕円面	石器	碧玉	55.7	31.0	6.1	32.0	ツカミ部欠損。	141-17
3	Kad-7003	楕円面	石器	珪質頁岩	49.6	23.8	4.9	5.1	断面型。	141-18
4	Kad-7004	楕円面	石器	珪質頁岩	94.1	45.7	15.0	85.4	断面型。	141-19
5	Kab-7001	楕円面	石器	珪質頁岩	38.0	31.1	4.3	5.8	断面2+所有O。	141-10
6	Kae-7004	楕円面	スクリューバー	流紋岩	37.1	49.2	13.7	31.4		141-20
7	Kca-7002	楕円面	石器	安山岩	145.0	90.0	52.0	923.0	壁2枚11。	141-21
8	Kch-7004	卵+1層	礫石器	(ディサイ)	152.0	84.0	33.5	532.0	円2+2。	141-22

第66図 S1703 壁穴住居跡出土遺物（2）



第67図 SI703 壁穴住居跡出土遺物（3）

No.	登録番号	地 点	器 物	石 片	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備 考	参考文献
1	Kca-7001	椚田面	礫石器	花崗岩砾石 (ディサイ)	103.0	87.0	55.5	455.0	縫1。	141-21
2	Kcb-7002	椚田面	礫石器		144.0	89.0	30.5	825.0	縫2+1。裏面一部に被削痕有り。	141-24
3	Kcd-7003	椚田面	礫石器	砂岩 (ディサイ)	140.0	64.0	46.0	455.0	縫1、縫2。	141-25
4	Kce-7001	椚田面	礫石器		128.0	83.5	44.0	670.0	縫2、縫2(縫)。	141-26
5	Kdf-7002	-	砾石	(ディサイ)	319.0	220.0	39.0	6257.0	削り込み底。縫1、S-1/6。	141-27
6	Kdg-7002	-	石片	安山岩	293.0	227.0	74.0	7,460.0	削り込み底。縫1、S-1/6。	141-28

SI704堅穴住居跡 (第68・69図、国版15)

【位置・検出面】 第7次調査1区中央東寄りのE-37グリッドに位置する。Ⅲ層上面で複式炉のみを検出した。堅穴や周溝などについては不明である。第68図は炉およびその周辺のグリッドでV層上面から検出されたピットを合成したものである。西側にS I 603堅穴住居跡、南西側にはS I 609堅穴住居跡が存在している。

【新旧関係】 第68図に示した範囲では本遺構と重複する遺構は存在していない。

【規模・平面形】 壁や周溝が確認されておらず、全体の規模や平面形は不明である。

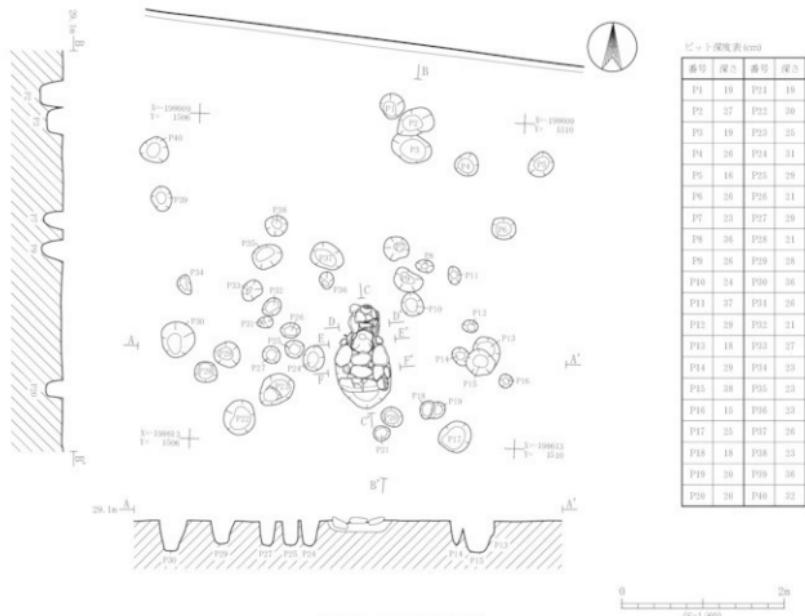
【堆積土】 炉周辺の堆積土はⅢ層に類似した暗褐色粘土質シルトで炭化物を含む。

【壁】 確認されなかった。

【床】 炉の検出面であるⅢ層を床面としたものと考えられる。硬化面等は認められなかったが、炉の周辺で炭化物・焼土の分布が認められた。

【柱穴】 炉の検出面では確認されず、V層上面まで掘り下げた段階でピットを検出した。いずれも掘り方のみで柱痕跡が確認されたものはない。炉との位置関係から柱穴を想定すると、三角形の配置となるP 1・15・29の3本柱構造、あるいはP 2・6・19・23・38の5本柱構造などが候補として考えられる。

【周溝】 確認されなかった。



第68図 SI704 堅穴住居跡

炉（第69図）

【位置・方位】住居の平面形が不明なため位置は明かではない。長軸方向はN-1°-Wである。

【規模・平面形】長さ126cm、最大幅68cmである。平面形は土器埋設部付近でくびれるダルマ形である。

【構造】敷石石組部、土器埋設敷石石組部からなる複式炉である。

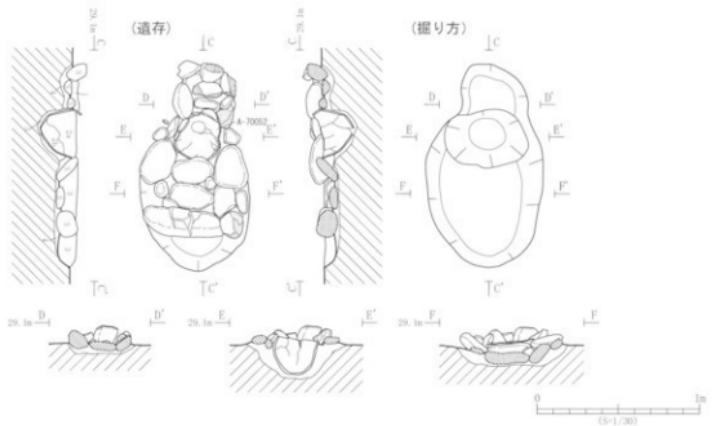
【敷石石組部】長さ26cm、最大幅34cmである。底面に小型の礫が平坦な面を上にした状態で敷設され、側壁には10~20cmの礫が直立からやや外側へ傾いた状態で方形に組まれる。石組部内は火熱の影響を受けて礫の表面が赤変しており、床面から敷石までの深さは4cm程度である。西側からは直径15cmの礫が検出されている（図版15）。

【土器埋設敷石石組部】規模は長さ100cm、幅68cmである。敷石石組部側には口縁部を欠いた深鉢が南側にやや傾いた斜位の状態で埋設され、底面および側壁には敷石石組部よりも大型の20~30cm大の礫が平坦な面を上または斜め上に向けた状態で敷設されている。埋設土器および石組部内の礫は火熱を受けて赤変している。堆積土は褐色のシルト層であり炭化物粒を微量に含む。床面から埋設土器底面までの深さは21cm、敷石までの深さは7cmである。

【掘り込み部】確認されなかった。

【出土遺物】（第70・71図、図版142）

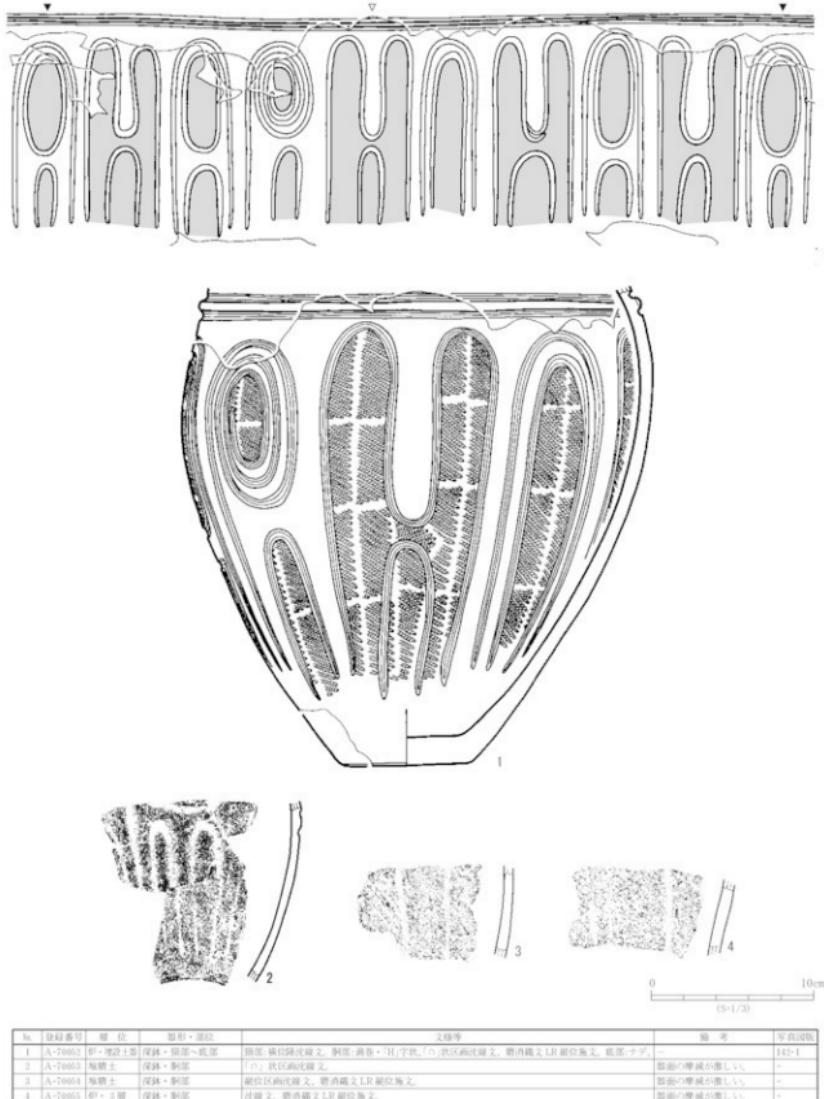
炉周辺および炉から出土した遺物を第70・71図に示した。第70図1（A-70052）は炉の土器埋設敷石石組部に埋設されていたものである。口縁部を欠いており、胴部～底部が残存していた。石器は石鏃1点、石匙1点、微細剥離痕のある剥片1点、石核1点、礫石器5点、石皿2点が出土しており、石鏃1点、石匙1点、礫石器2点、石皿1点を図示した。



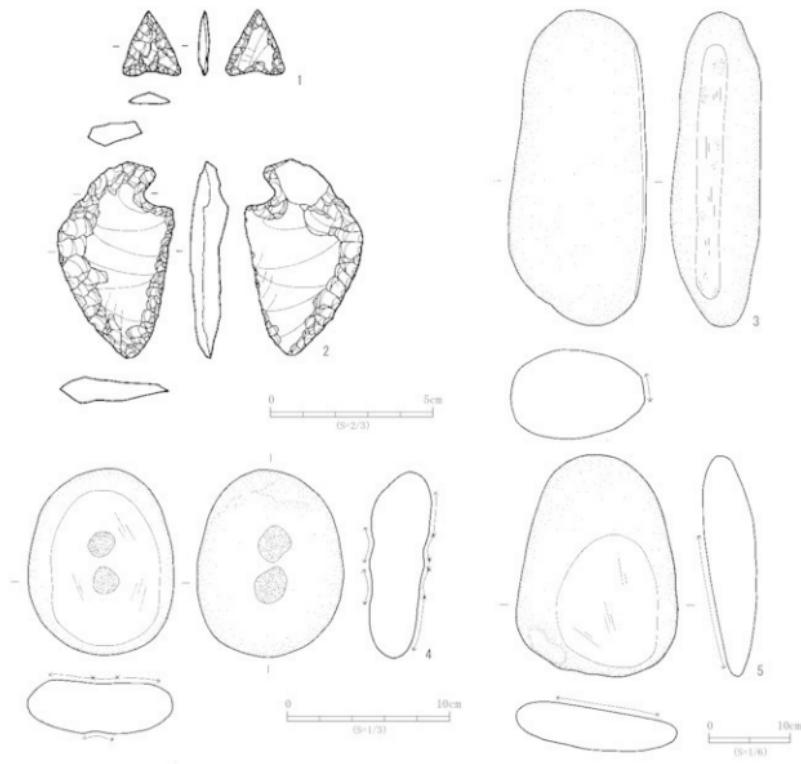
第69図 SI704 穴式住居跡複式炉

遺構	層位	土 色	土 性	備 考
①	1 10YR4/3 黒褐色 2a 10YR4/2 黑褐色 2b 10YR5/2 黑褐色	砂質シルト	堆積物を微量含む。 炭化物を少量化する。 層下部にV字型破壊面有る。	

遺構	層位	土 色	土 性	備 考
炉	3 10YR3/3 前期	砂質シルト	V字型破壊面有る。	
	4 10YR3/1 後期	砂質シルト	堆積物を多く含む。 土器を多量に含む。	



第70図 SI704 壁穴住跡出土遺物（1）



第71図 Si704 壓穴住居跡出土遺物（2）

No.	登録番号	種類	圖版	石器	長さ (mm)			幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	(1) 所有	参考文献
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)						
1	Ka-a700	柳葉面 石器	1	珪質頁岩	19.0	18.0	3.0	0.8					142-2
2	Ka-d700	柳葉面 石器	2	珪質頁岩	(66.0)	36.0	9.0	(38.2)	つまみ部欠損、縫合。				142-4
3	Kc-a700	— 砾石器	3	(ディサイ)	194.0	84.0	54.5	1,330.0	土型埋設物石石器、縫合。(縫合)、被熱痕有り。				142-6
4	Kc-d700	— 砾石器	4	安山岩	115.0	90.0	35.5	325.0	土型埋設物石石器、縫合。(縫合)2+2。				142-3
5	Kd-a700	— 石器	5	安山岩	274.0	260.0	70.0	4,860.0	被熱痕有り。(縫合)1-5-1-6。				142-5

SI705 穫穴住居跡 (第72・73図、国版16・17)

【位置・検出面】 第7次調査1区中央からやや南寄りのF・G-37・38グリッドに位置し、平成15年度確認調査7トレンチで確認されていたものである。調査所見では2軒以上の住居が重複している可能性が考えられていたが、本調査の結果、確認調査でS I 2とされた1軒のみの単独の遺構と確認された。Ⅲ層から遺構の確認作業を行ったが住居プランは確認されなかった。第72図は炉およびその周辺のV層上面で検出されたピットを合成したものである。北西にはS I 710竪穴住居跡、東側にはS I 711竪穴住居跡、西側にはS I 708竪穴住居跡が存在している。

【新旧関係】 第72図に示した範囲では本遺構と重複する遺構は存在しない。

【規模・平面形】 壁や周溝が確認されなかっただため、全体の規模や平面形は不明である。

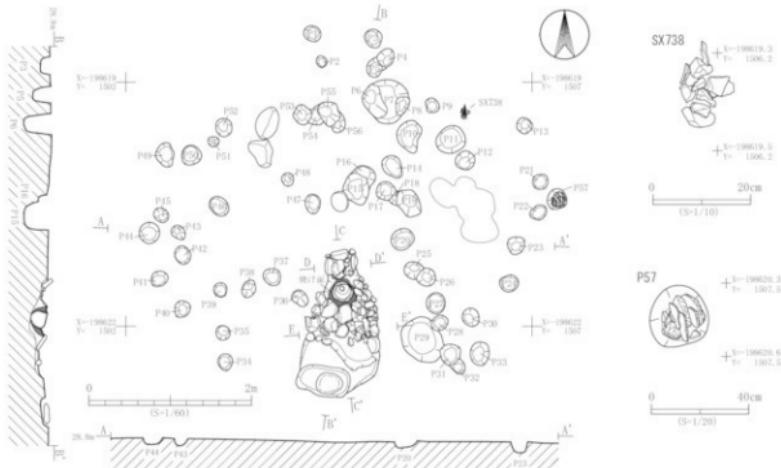
【堆積土】 炉周辺の堆積土はⅢ層に類似した暗褐色粘土質シルトで炭化物を含む。炉の北側から大型の礫とともに土器がまとまって出土した。

【壁・面】 確認されなかった。

【床・面】 炉の検出された面であるV層を床面にしたものと考えられる。硬化面等は認められなかった。

【柱・穴】 炉の周辺から検出された56個のピットを図示した。いずれも掘り方のみで柱痕跡が認められるものはない。炉との位置関係および規模から柱穴を想定した場合、炉の長軸方向の延長部分に位置するP55、またこれを主軸とした際に左右対称の位置関係にあるP25・37を結ぶと二等辺三角形の配置となることから三本柱構造の柱穴の可能性が考えられる。また、外側に存在しているものは壁柱穴の可能性もある。

【周・溝】 確認されなかった。



ピット深度表(cm)

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ		
P1	8	P6	31	P11	11	P16	15	P21	13	P26	13	P31	12	P36	30	P41	6	P46	10	P51	4
P2	11	P7	10	P12	26	P17	19	P22	14	P27	14	P32	12	P37	47	P42	5	P47	12	P52	6
P3	12	P9	11	P13	16	P18	11	P23	15	P28	14	P33	11	P38	13	P43	7	P48	7	P53	11
P4	34	P9	14	P14	9	P19	28	P24	9	P29	19	P34	7	P39	5	P44	4	P49	4	P54	11
P5	20	P10	6	P15	30	P20	8	P25	54	P30	20	P35	8	P40	7	P45	9	P50	11	P55	43

第72図 SI705 穫穴住居跡

【その他の施設】P11の北西付近でS X738石器集中部が確認された。炉の周辺の状況から床面をN層とした場合、これらは堆積土中に形成されたものと考えられる。石錐、スクレイバー等の石器を含む合計13点の剥片が19×12cmの範囲から集積された状態で検出された。石質はすべて珪質頁岩のもので、石錐、二次加工のある剥片、微細剝離痕のある剥片の3点が接合した。遺物の取り上げ後に下層の精査を行ったが掘り込み等は確認されなかった。

炉（第73図）

【位置・方位】住居の平面形が不明であり、炉の位置関係は不明である。敷石石畳部および土器埋設部の中心を通る炉の長軸方向はN-3°-Wである。

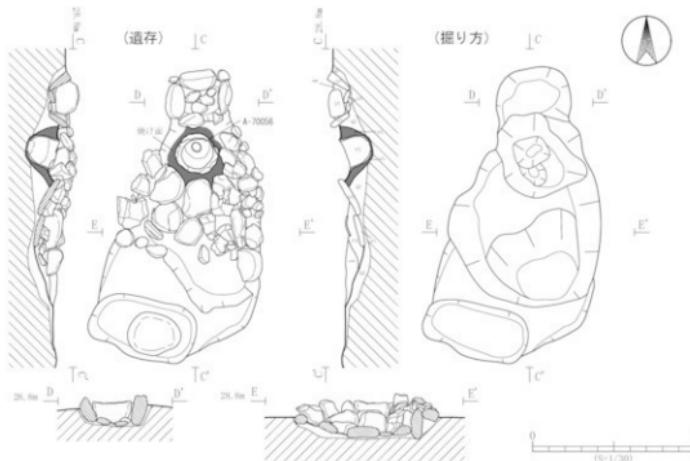
【規模・平面形】長さ176cm、最大幅100cmである。平面形は石組部と土器埋設部との境にくびれを有するダルマ形である。

【構造】敷石石組部、土器埋設敷石石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

【敷石石組部】長さ30cm、幅40cmである。底面に10cm程の礫が平坦な面を上にした状態で敷設されており、検出面から敷石までの深さは8cmである。側壁には東西南北にやや大型の偏平な礫を方形に組み、北東・北西コーナーには小型の礫が配される。石組部の内面は火熱の影響によって礫が赤変しており、堆積土中には焼土を含む。また石組部内からは20cm程の礫が検出されており（図版17）、S I 704竪穴住跡の複式炉の石組部と同じ出土状況である。

【土器埋設敷石石畳部】長さ76cm、幅86cmである。北側に底部が穿孔された深鉢が南側へ傾いた斜位の状態で埋設され、その南側には15～25cmの大型扁平な礫が底面および側壁に平坦な面を上に向けた状態で敷設され、側壁には10～15cm大の礫が2段から3段に積まれている。埋設土器および敷石石組部の内面は火熱の影響を受けて赤変しており、礫は一部破碎した状態にあるものも見られた。

【掘り込み部】規模は長さ70cm、幅100cmの不整形な掘り込みである。底面から壁は石組部側から南側に向かって緩やかに立ち上がり、南端部分には平面形が隅丸方形を基調とする規模64cm×35cmの掘り込みが認められ、中央から

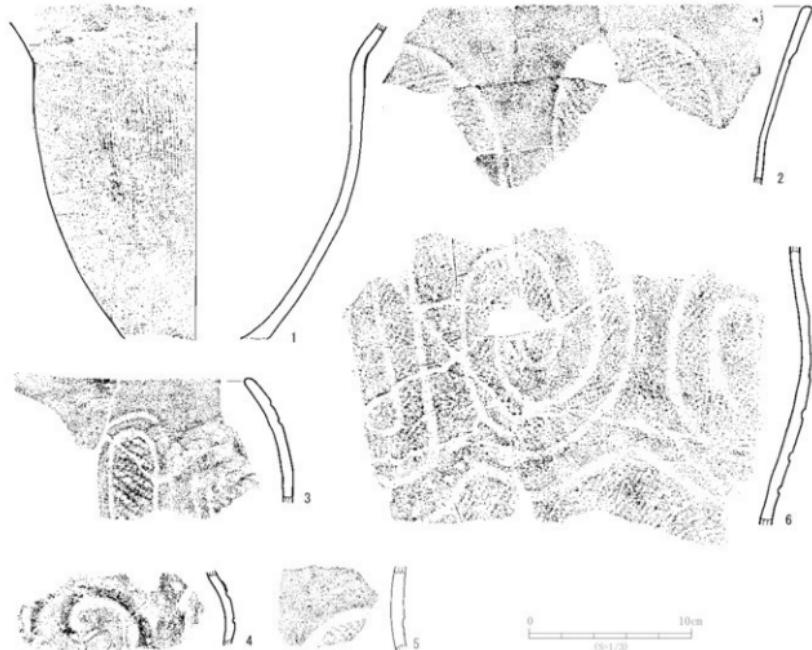


第73図 SI705 竪穴住跡複式炉

やや東によった部分には長軸33cmの大型の礫が据えられていた。

[出土遺物] (第74 ~ 81図、図版142 ~ 144)

本遺構では炉北側周辺の堆積土中から多くの遺物が出土し、第74図1 (A-70056) は複式炉の土器埋設敷石石組部に埋設されていたものである。口縁部を欠き、底部が穿孔されており、外面には縦位の櫛歯状条線文が施されている。第75図1 (A-70062) の深鉢は底面の数cm上からまとまと大型破片の状態で検出されたものであるが、接合した結果、完形品となつた。また確認調査時にS X 1・2埋設土器としたものは本調査で堆積土中の遺物と判断されたことから、第76図1 (A-70063)、2 (A-70064) としてそれぞれ示した。石器は石鎚4点、石錐3点、石斧1点、石匙5点、スクレイバー11点、クサビ形石器2点、二次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片11点、礫石器12点が出土しており、その他にP 11の北西側付近で検出されたS X 738石器集中からは石錐1点、スクレイバー1点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片7点、剥片2点が検出され3点が接合した。石器は第78 ~ 81図に示した。



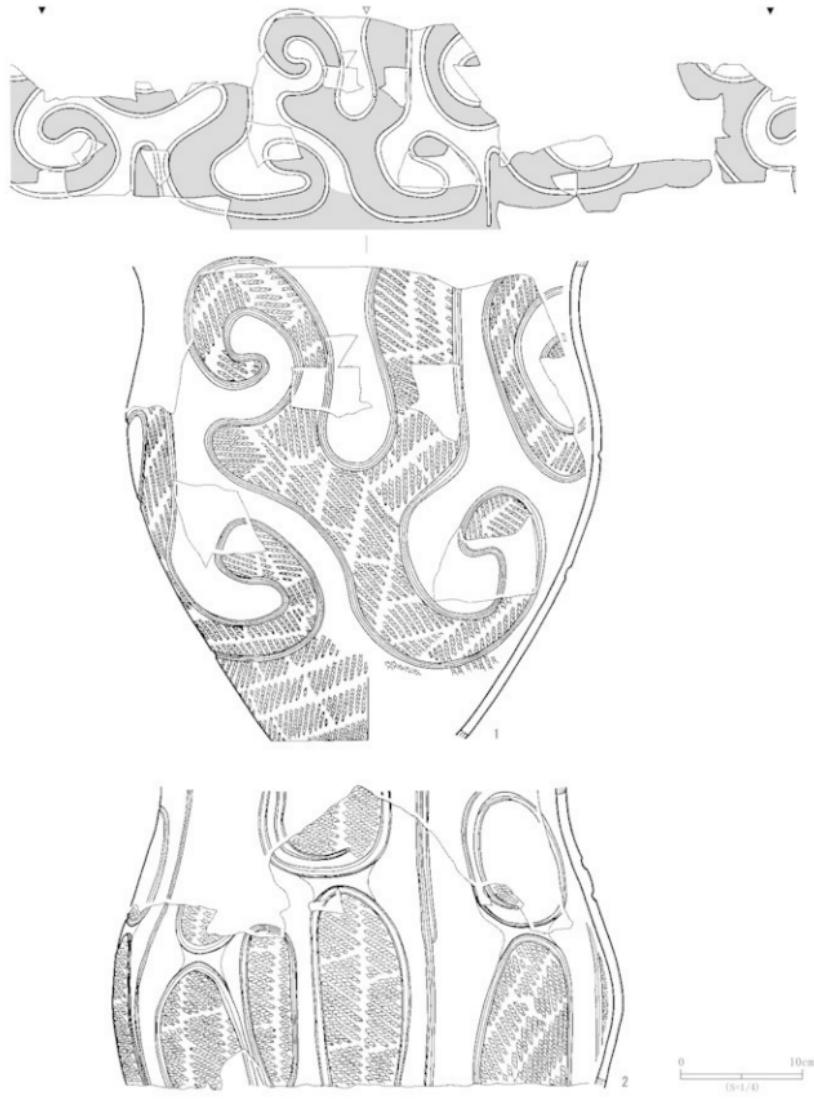
No.	登録番号	場所	形状・部位	文様等	備考	参考図版
1	A-70056	炉・埋設土器	底面・側面	網目櫛歯状条線文。	底面穿孔。	142-12
2	A-70062	堆積土	深鉢・口縁部	区画沈線文、区画内充填織文口縁～斜位施文。	-	142-7
3	A-70058	検出面	深鉢	(△) 狩获跡施文、区画内充填織文口縁～斜位施文。	-	142-8
4	A-70059	検出面	鉢	渦巻隨行施文。	疊壁鉢。	142-9
5	A-70060	検出面	深鉢・側面	区画隨行施文、区画内口縁施文。	-	-
6	A-70061	土器	深鉢・側面	(△) 予伏・区画沈線文、底面織文口縁～斜位施文。	-	142-13

第74図 SI705 壓穴住居跡出土遺物 (1)



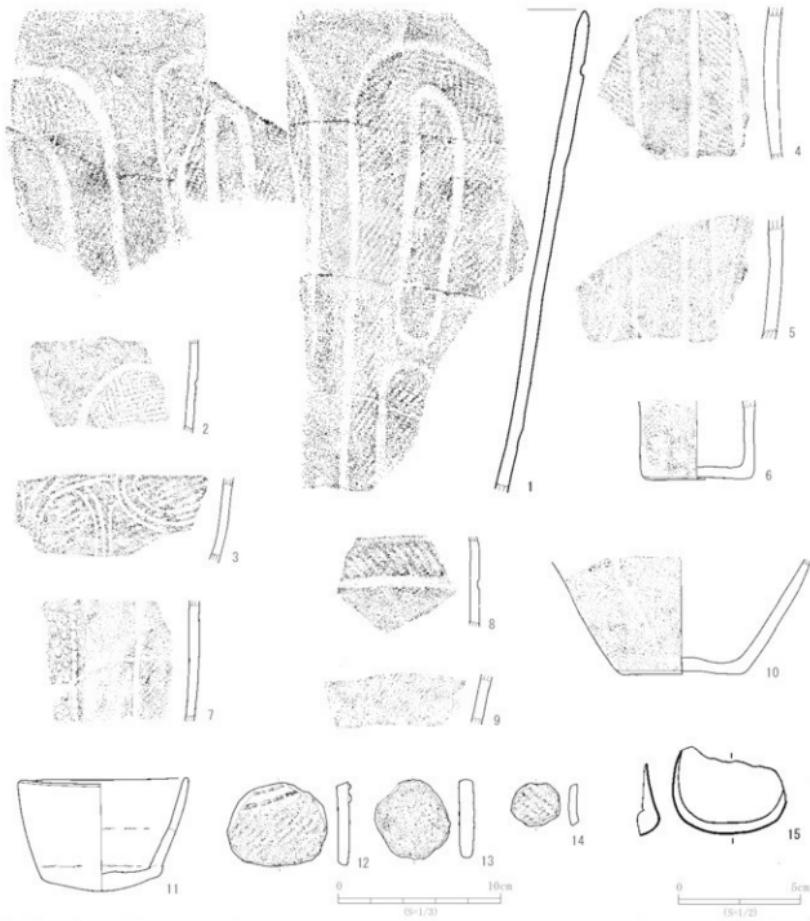
號	登錄番号	層位	器形・部位	文様等	備考	写真回数
1	A-70082	上層・下層	深鉢・口縁部～底部	施内・「C」字状凸面、施内波状浅文、斜消磨文(足部～鍋底施文)	5-1/4	140-1

第75図 SI705 壺穴住居跡出土遺物（2）



施	登記番号	場	位	图形・部位	文様等	施	考	等
1	A-70603	北側・下層	深鉢・側面	通點「△」×「○」	宇佐区面成模文、碧海區文上部面～側面施文	S-1/4.	143-2	
2	A-70604	北側・下層	深鉢・側面	通各・相門区面成模文	碧海區文上部面施文	S-1/4.	143-3	

第76図 SI705 壁穴住居跡出土遺物（3）



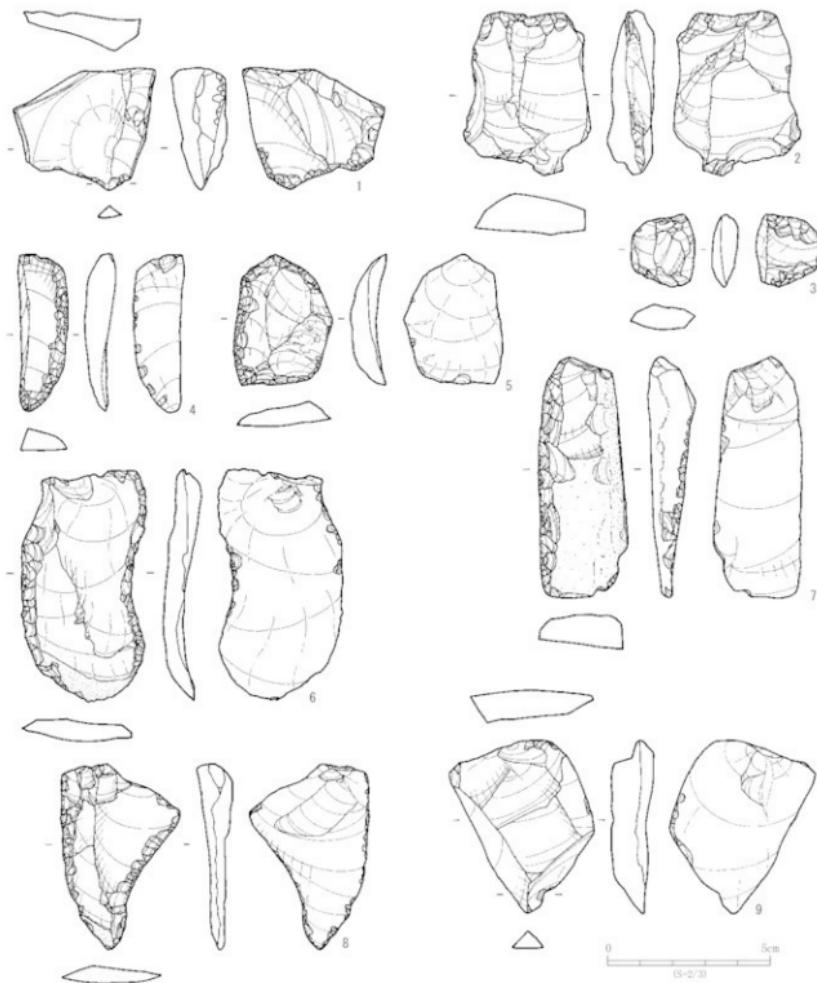
No.	登錄番号	種類	部位	器形・部位	文様等	備考	参考出版
1	A-70065	灰陶	深鉢	口縁部～鉢底	(六)字狀・箱内区向右旋文、唇凸面文RL、扇形位旋文。	-	142-4
2	A-70066	灰陶	深鉢	制底	区向右旋文、唇凸面文LR、扇形位旋文。	-	142-7
3	A-70067	灰陶	深鉢	制底	区向右旋文、扇形位旋文。	-	142-11
4	A-70068	灰陶	深鉢	制底	制底区向右旋文、唇凸面文LR、扇形位旋文。	-	142-5
5	A-70069	灰陶	深鉢	制底	制底区向右旋文、唇凸面文RL、扇形位旋文。	-	142-6
6	A-70070	灰陶	深鉢	制底～鉢底	制底、区向右旋文、唇凸面文LR、扇形位旋文、底部：十字。	-	142-10
7	A-70071	灰陶	深鉢	制底～鉢底	制底区向右旋文、区向右旋文、制底区向右旋文。	-	142-9
8	A-70072	灰陶	深鉢	制底	制底区向右旋文、唇凸面文RL、扇形位旋文。	-	142-8
9	A-70073	灰陶	深鉢	制底	制底、斜行弦文。	-	142-10
10	A-70074	灰陶	深鉢	制底～鉢底	制底、箱内左、制底斜文、底部：ナギ。	-	-
11	P-7001	木胎瓦上	鉢	制底～鉢底	制底、底之、底部：ナギ。	底部丸底。	-
12	P-7002	海螺壳	上制門殼		制底缺口利用。沈底文、縫文+扣、制底斜文。	重さ 29.5g。	142-1
13	P-7003	海螺壳	上制門殼		制底缺口利用。縫文+扣、制底。	重さ 24.5g。	142-2
14	P-7004	海螺壳	上制門殼		制底缺口利用。縫文+LR、縫文。	重さ 16g。	142-3
15	P-7005	海螺壳	土偶	骨部	ナギ。	S-1.3.	-

第77図 Si105 壺穴住居跡出土遺物（4）



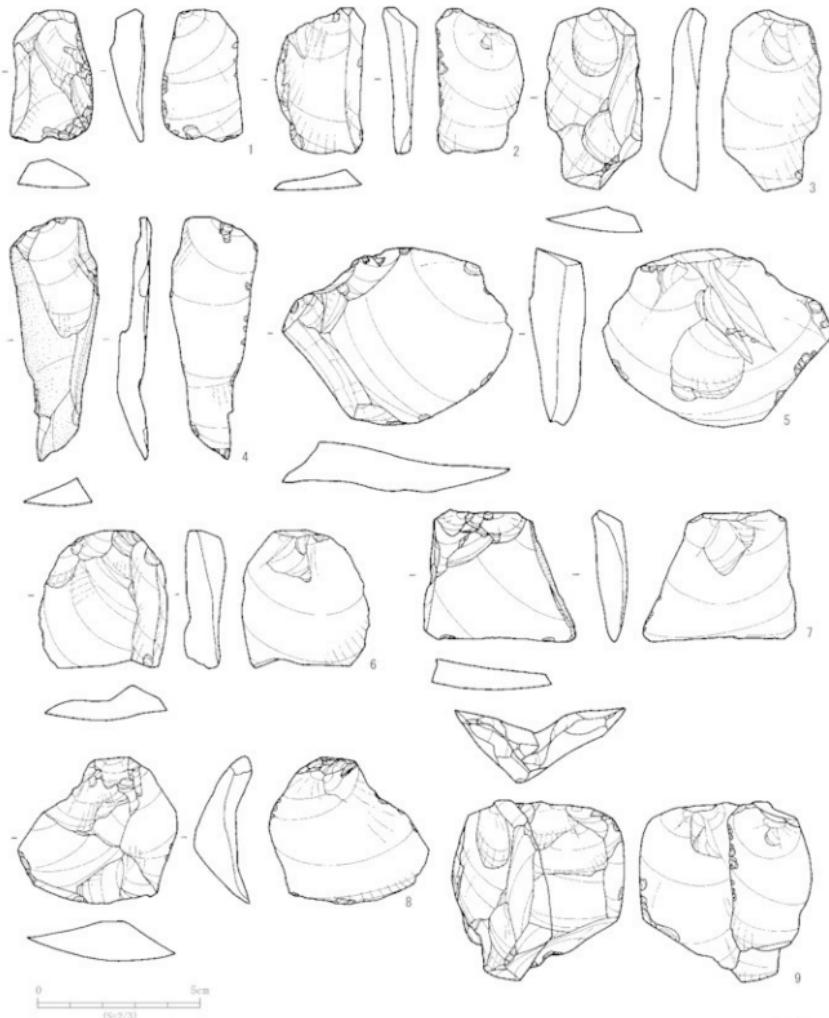
No.	登録番号	埋位	面種	石質	長さ (mm)				幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	施考	参考図版	
					最小	最大	中央	標準						
1	Kad-c-7001	下層	石器	珪質頁岩	58.9	27.9	14.0	26.2	1.9	0.6	0.5	尖頭品の再生（基部再生）。	144-4	
2	Kad-a-7005	下層	石器	珪質頁岩	21.7	13.2	3.9	6.6						144-5
3	Kad-a-7007	下層	石器	珪質頁岩	17.6	15.1	2.5	6.5	1.5	0.5	0.5	アズフルト付器。	144-6	
4	Kad-a-7008	下層	石器	珪質頁岩	21.0	(10.7)	2.6	6.0	1.5	0.5	0.5	右脚部火照。	144-7	
5	Kad-7009	下層	石器	頁岩	50.5	(7.0)	19.2	42.0	4.5	1.2	1.2	楕型、左脚部火照部分欠損。	144-8	
6	Kad-7007	下層	石器	珪質頁岩	122.4	24.0	11.1	31.8	4.5	1.2	1.2	楕型。	144-10	
7	Kad-7008	下層	石器	玉髓	48.0	29.6	6.6	9.2	4.5	1.2	1.2	楕型、右脚下半分剥落加工。	144-9	
8	Kad-7009	下層	石器	珪質頁岩	42.5	19.7	3.9	27.7	4.5	1.2	1.2	楕型。	144-10	
9	Kad-b-7002	下層	石器	珪質頁岩	70.4	33.7	14.2	28.5	5.5	1.2	1.2	楕型2±所有り。	144-12	

第78図 SI705 穫穴住居跡出土遺物（5）



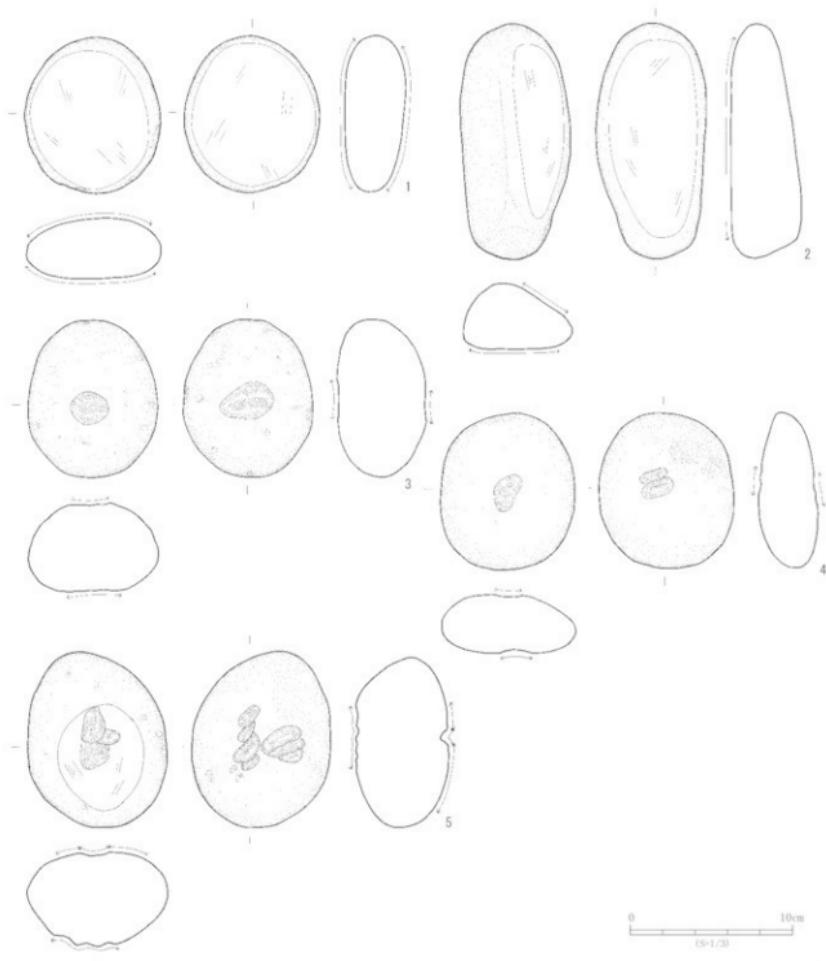
No.	發現番号	地 位	圖 版	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	地 帯	参考版
1	Kab-7001	下層	石頭	珪質頁岩	37.8	44.2	10.6	21.4		144-13
2	Kab-7001	下層	クサビ形石頭	珪質頁岩	56.0	39.0	13.9	26.6		144-14
3	Kab-7002	下層	クサビ形石頭	碧玉	22.0	19.7	7.0	3.8		144-11
4	Kae-7001	下層	スクレーパー	珪質頁岩	48.1	15.1	8.1	6.4		144-17
5	Kae-7001	下層	スクレーパー	珪質頁岩	46.0	20.0	8.0	9.9		144-15
6	Kae-7001	下層	スクレーパー	灰紋岩	76.0	25.0	8.0	22.2		144-18
7	Kae-7003	下層	スクレーパー	珪質頁岩	74.2	26.5	12.0	29.0		144-19
8	Kae-7003	下層	スクレーパー	珪質頁岩	57.1	27.4	9.9	12.5		144-20
9	Kab-7001	中上部	石頭	珪質頁岩	54.2	36.6	10.9	147	SI705 積穴住居跡出土遺物 (6)	144-21

第79図 SI705 積穴住居跡出土遺物 (6)



第80図 S1705 穴住居跡出土遺物（7）

No.	登録番号	場所	圖	種類	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	現存	場所	参考
1	Kae-7010	神田面	スクリュー	柱貫石	41.7	247	8.0	6.0	52.7	SX7-08	石器集中部、	144-23
2	Kab-7001	神田面	二枚加工の丸み削片	柱貫石	45.6	26.5	5.0	5.2	52.5	SX7-08	石器集中部、	144-33
3	Kai-7001	神田面	微細剥離痕のある薄片	柱貫石	56.2	29.7	11.8	11.5	99.5	SX7-08	石器集中部、	144-25
4	Kai-7002	神田面	微細剥離痕のある薄片	柱貫石	70.7	26.5	7.0	9.0	99.0	SX7-08	石器集中部、	144-24
5	Kai-7003	神田面	微細剥離痕のある薄片	柱貫石	54.7	19.9	12.0	10.9	54.0	SX7-08	石器集中部、	144-26
6	Kai-7004	神田面	微細剥離痕のある薄片	柱貫石	43.6	29.5	10.2	(13.9)	54.0	SX7-08	石器集中部、	144-27
7	Kai-7005	神田面	微細剥離痕のある薄片	柱貫石	46.2	47.0	7.7	9.7	54.0	SX7-08	石器集中部、	144-28
8	Kai-7006	神田面	微細剥離痕のある薄片	柱貫石	48.0	45.2	12.0	18.1	54.0	SX7-08	石器集中部、	144-29
9	Kab-7004+Kai-7001+Kai-7001	柱貫石			55.1	52.8	23.7	31.4	SX7-08	石器集中部、複合		144-30



第81図 SI705 壁穴住跡出土遺物（8）

No.	登録番号	場所	形	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	参考図版
1	Kcb-7001	床面	壁穴器	安山岩	96.5	83.0	38.0	445.0	図2。	144-31
2	Kcb-7002	—	壁穴器	安山岩	144.5	68.0	43.0	585.0	上部埋設壁穴器。図2。	144-32
3	Kcb-7003	上層	壁穴器	安山岩	96.5	80.0	35.0	388.0	図1+L. 被熱痕有り。	144-34
4	Kcb-7007	上層	壁穴器	安山岩	96.0	83.0	36.0	379.0	図1+2。	144-32
5	Kcd-7001	床面	壁穴器	(ディサイ)	108.0	84.0	39.0	627.0	図1。 図2+3。 被熱痕有り。	144-35

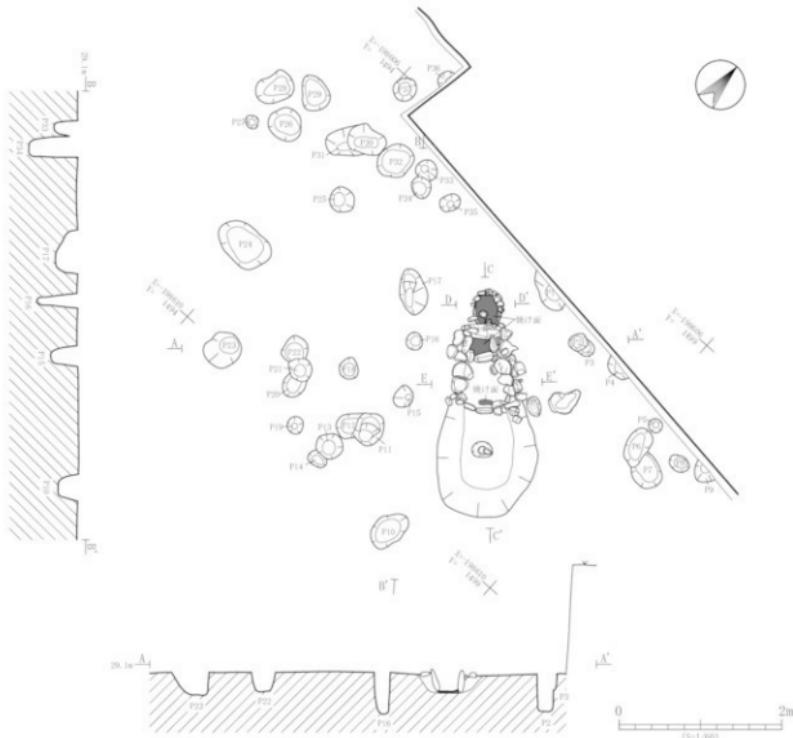
SI706堅穴住居跡（第82・83図、国版17）

【位置・検出面】 第7次調査1区中央北寄りのD-39グリッドに位置する。Ⅲ層上面で複式炉が確認されたが、その他の施設は確認されなかった。第82図はV層上面で炉の周辺から検出されたピットを合成したものである。本遺構周辺にはS I 709堅穴住居跡を始めとする多くの住居跡が存在している。

【新旧関係】 位置的に炉の西側に存在するS I 712堅穴住居跡と重複関係にあるものと考えられる。S I 712堅穴住居跡が本遺構の検出面よりも下面にあることから本遺構が新しいものと考えられる。

【規模・平面形】 壁や周溝が確認されなかったため全体の規模や平面形は不明である。調査区と炉の位置関係から見て北側の調査区外へ広がるものと考えられる。

【堆積土】 堅穴が確認されず不明であるが、炉の周辺の堆積土はⅢ層を主体とする暗褐色粘土質シルト層で、炭化



ピット深度表(cm)

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P1	23	P4	20	P7	7	P10	9	P13	13	P16	19	P19	17	P22	13	P25	20	P28	21	P31	13
P2	26	P5	14	P8	25	P11	15	P14	29	P17	31	P20	15	P23	17	P26	27	P29	21	P32	26
P3	12	P6	11	P9	13	P12	19	P15	17	P18	10	P21	19	P24	10	P27	24	P30	19	P33	18

第82図 SI706 堅穴住居跡

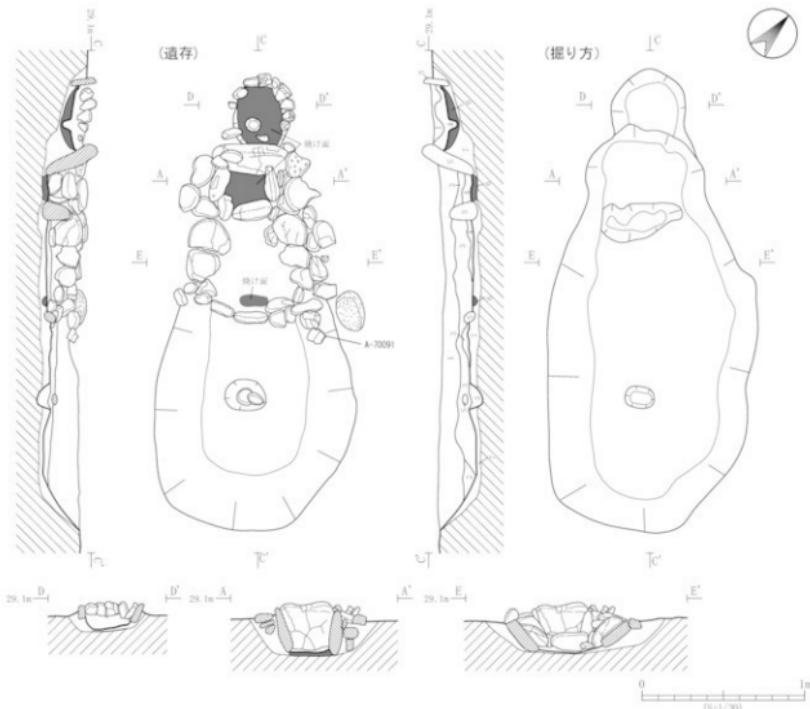
物を含んでいる。

【壁 面】確認されなかった。

【床 面】炉の検出された面からⅢ層を床面にしたものと考えられる。硬化面等は認められなかった。

【柱 穴】炉の検出面では確認されず、V層上面まで掘り下げてピットを検出した。いずれも掘り方のみで柱痕跡が確認されたものはない。炉の長軸方向を主軸にして左右対称になる位置関係のピットを考えた際に北東隅でいずれも調査区外となる部分にピットが存在するものと仮定した場合、正方形または方形の配置となるP1・17・32、またはP4・21・26の四本柱構造が考えられる。その他、P2とP16、P4とP18など左右対称になるものも存在している。

【周 溝】確認されなかった。



第83図 SI706 壁穴住居跡複式炉

炉（第83図）

【位置・方位】住居の平面形が不明であり、炉の位置関係は不明である。長軸方向はN-40°-Wである。

【規模・平面形】長さ276cm、最大幅132cmである。平面形は石組部との境にくびれを有するダルマ形である。

【構・造】石壠部、石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

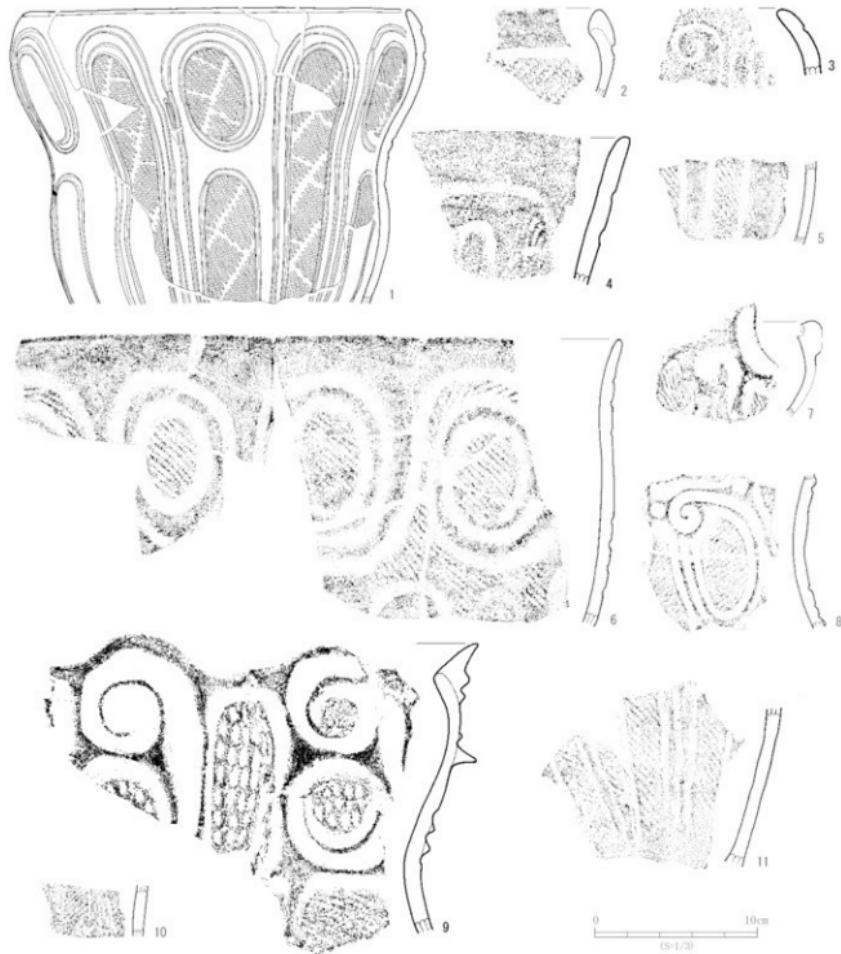
【石壠部】長さ40cm、幅30cm、床面から底面までの深さは8cmである。外側の石壠部分には10cm程の小型の礫が底面に対してほぼ垂直の状態で据えられており、南側では一部の礫が抜き取られている。底面は火熱を受けた影響によって赤変しており、中央からやや南西寄りの位置では直径8cm、深さ6cmの小ピットが検出された。土器は検出されていないものの中央に埋設土器が存在した可能性も考えられる。

【石組部】長さ108cm、幅86cmである。大型の扁平な礫を用いて方形に組まれた北側の石組部Aと、円形状に礫が配された南側の石組部Bとに分かれる。石組部は長さ42cm、幅85cmである。北側には長さ48cmの大型で扁平な礫が石壠部側に斜めに傾いた状態で設置され、東西および南側には25cm前後の扁平な礫が方形に組まれる。これらの外側には20cm未満の礫が配され、断面では掘り方の底面付近から礫が積み上げられていた状況が認められた。床面から底面までの深さは22cmで、底面および縁石内面は火熱の影響で赤変している。石組部Bの規模は長さ66cm、幅86cm、床面から底面までの深さは22cmである。両側の側石には20cm大の礫が扁平な面を上にした状態で底面から斜めに据えられ、掘り込み部との境には20cm大の礫が緩やかな弧状に配されている。底面は南側の一部で赤変した部分が見られるが火熱を受けた痕跡は顕著ではない。

【掘り込み部】長さ128cm、幅132cm、床面から底面までの深さは22cmで、平面形は隅丸梢円形である。底面はほぼ平坦であるが南東側に向かって緩やかに落ち込んでいる。底面のほぼ中央には梢円形の長さ25cm、幅19cm、深さ8cmのピットが存在し、上面から礫2点が出土した。

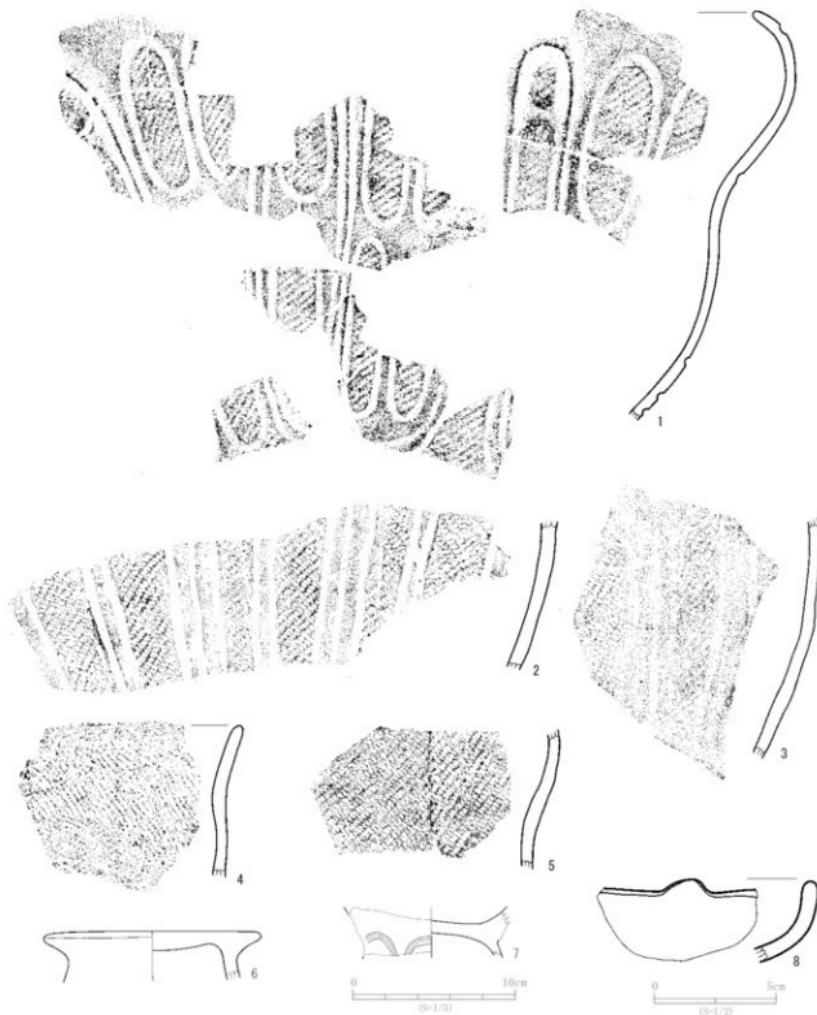
【出土遺物】（第84～87図、図版145・146）

炉の周辺から出土したものを第84～87図に示した。第84図1の深鉢（A-70076）は渦巻および「匁」字状沈線文によって文様が構成され、磨消礫文LRが斜位施文されている。第84図6（A-70082）は口縁部下に配置される渦巻沈線文が隣のものと連結して横「S」字状となる。石器は石鏨1点、石錐1点、石匙1点、スクレイバー3点、クサビ形石器1点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片6点、礫石器20点、石皿2点が検出されており、その中の石鏨1点、石錐1点、石匙1点、スクレイバー2点、礫石器7点、石皿2点を第86・87図に示した。



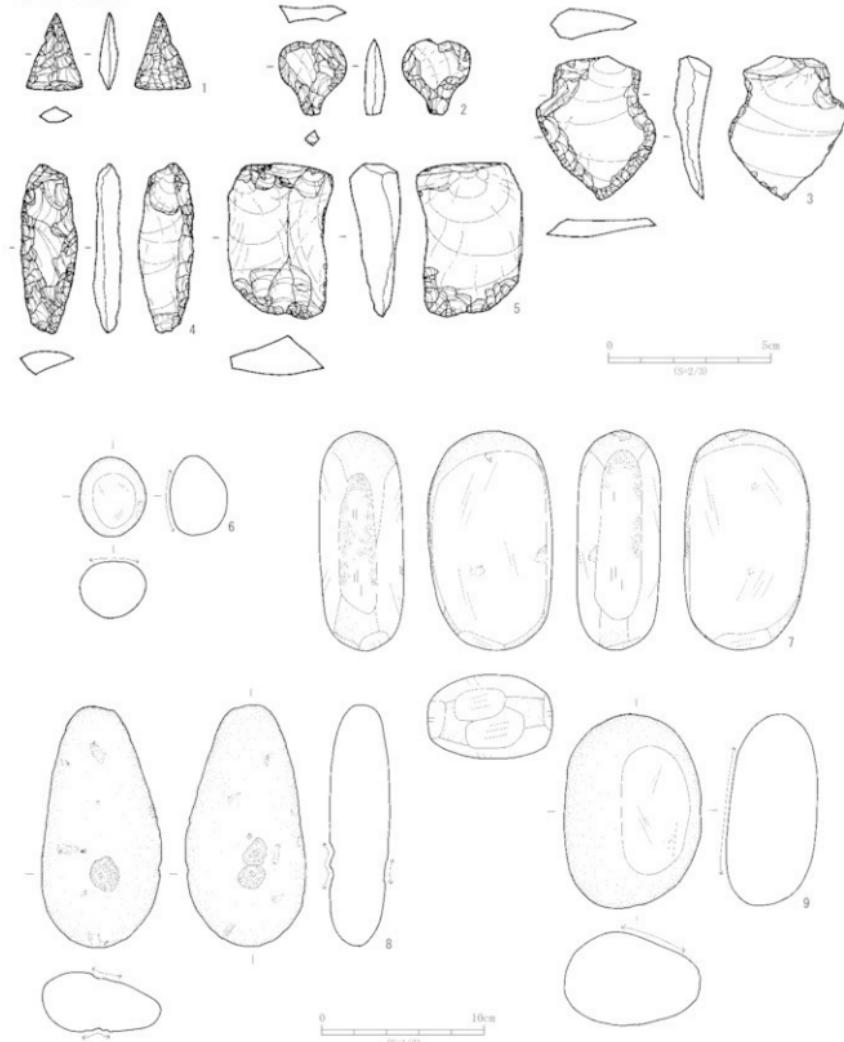
號	登錄番号	層	位	體形・部位	文様等	備考	字典記載
1.	A-70054	伊・Ⅲ.1		深鉢・口縁部～胴部	口縁部～胴部：抽象・「」状・橫田式燒成文、碧青釉文L記・耐候性灰。		145-1
2.	A-70058	伊・Ⅲ.1		深鉢・口縁部	抽象文、碧青釉L記・耐候性灰。		145-4
3.	A-70079	桃山		深鉢・口縁部	抽象・「」狀燒成文。		145-5
4.	A-70080	桃山		深鉢・口縁部	口面燒成文、碧青釉文L記・耐候性灰。		145-2
5.	A-70081	伊・Ⅲ.1		深鉢・胴部	被施平行口面燒成文、碧青釉文L記・耐候性灰。		145-7
6.	A-70082	伊・Ⅲ.1		深鉢・口縁部～胴部	口縫部～胴部：被施燒成文、碧青釉文L記・耐候性灰。		145-9
7.	A-70083	伊・Ⅲ.1		深鉢・口縁部	被施燒成文、碧青釉L記・耐候性灰。	粗執口縫・史超部有孔。	145-8
8.	A-70084	伊・Ⅲ.1		深鉢・胴部	抽象・橫田式燒成文樣文・「」狀燒成文。		145-2
9.	A-70085	伊・Ⅲ.1		深鉢・口縁部～胴部	口縫部～胴部：抽象・橫田式燒成文、碧青釉文L記・耐候性灰。		145-11
10.	A-70086	伊・Ⅲ.1		深鉢・胴部	抽象・「」狀燒成文。		145-4
11.	A-70087	桃山		深鉢・胴部	被施燒成文、碧青釉L記・耐候性灰。		145-10

第84圖 SI706 壓穴住居跡出土遺物（1）



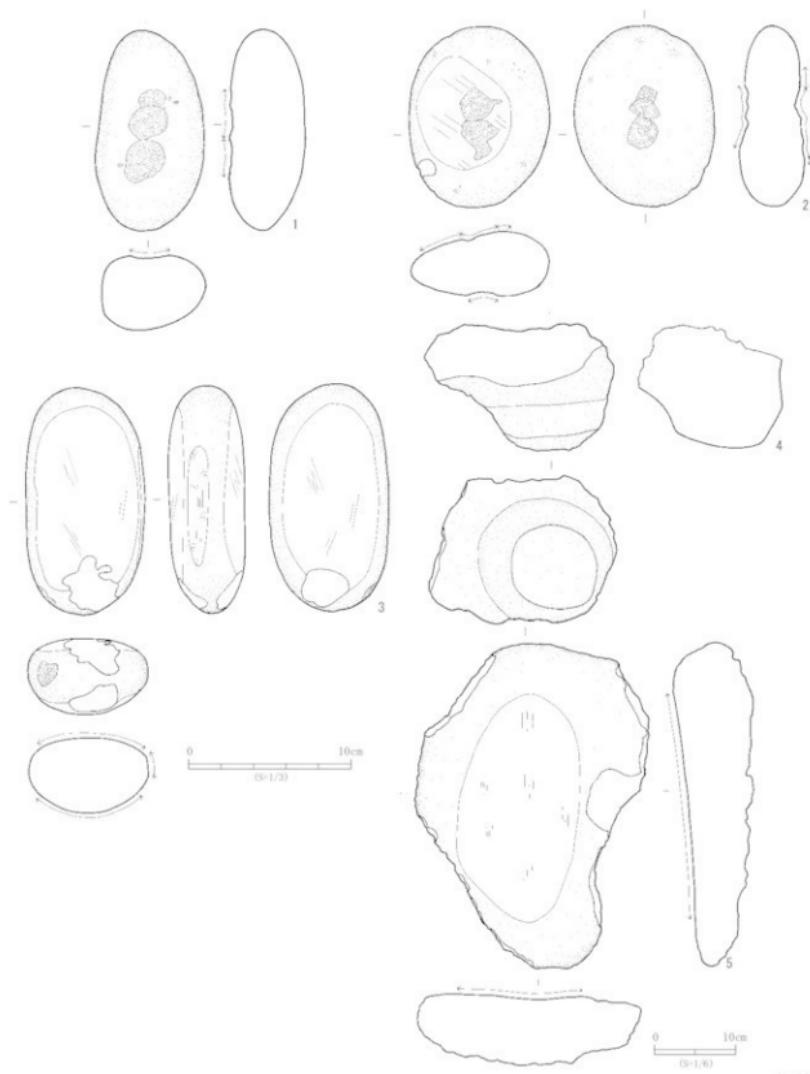
第85図 SI706 壺穴住居跡出土遺物（2）

No.	登録番号	場所	割別・部位	文様等	備考	写真箇所
1	A-70088	伊・浜上	壺跡・口縁部～胴部	横内凹曲線×「」、波状曲線波文、網目織文RL、網目施文。		140-1
2	A-70089	伊・浜上	壺跡・胴部	網目曲線波文、網目織文RL、網目施文。		140-12
3	A-70090	伊・浜上	壺跡・胴部	網目曲線波文、網目織文RL、網目施文。		140-10
4	A-70091	伊・浜上	壺跡・口縁部	網目LH、網目施文。		140-13
5	A-70092	浜田園	壺跡・胴部	網目RL、網目施文。		140-14
6	A-70093	伊・浜上	壺台・台部	無文。	外面に黒色鉛付着。	-
7	A-70094	伊・浜上	台付跡・台部	波状沈織文。	-	-
8	P-7006	伊・浜上	一二手アソ土器	小尖起、無文。	断面 平底切に鈍円。S-1-2	-



第86図 SI706 積穴住居跡出土遺物（3）

件	登録番号	埋 立	器 種	石 器	長 さ mm	幅 さ mm	厚 さ mm	重 量 g	場 所	（）参考
1	Ka-a-7009	印・1層	石器	珪質灰岩	23.8	17.6	0.2	1.3	二角器。	100-3
2	Ka-b-7005	印・1・2層	石器	ノマコ	(23.8)	26.8	5.4	(25.0)	圓頭矢頭。	100-4
3	Ka-d-7010	下層	石器	珪質灰岩	44.5	26.8	10.2	12.2	三角器。	100-5
4	Ka-e-7011	下層	スクレイバー	珪質灰岩	53.0	17.6	9.0	0.5	-	100-6
5	Ka-e-7012	印・1層	スクレイバー	珪質灰岩	47.0	31.0	16.0	21.0	-	100-7
6	Ka-e-7008	印・1層	擦石器	安山岩	49.0	41.0	35.0	85.0	標1。	100-13
7	Ka-e-7009	印・1層	擦石器	安山岩	130.6	76.5	51.5	994.0	標4(標2下2)。	100-8
8	Ka-b-7003	印・1・3層	擦石器	安山岩	148.5	74.0	36.0	478.0	[標1+2]。	100-9
9	Ka-b-7010	印・1層	擦石器	安山岩	119.0	85.0	57.5	835.0	[標1]。	100-10

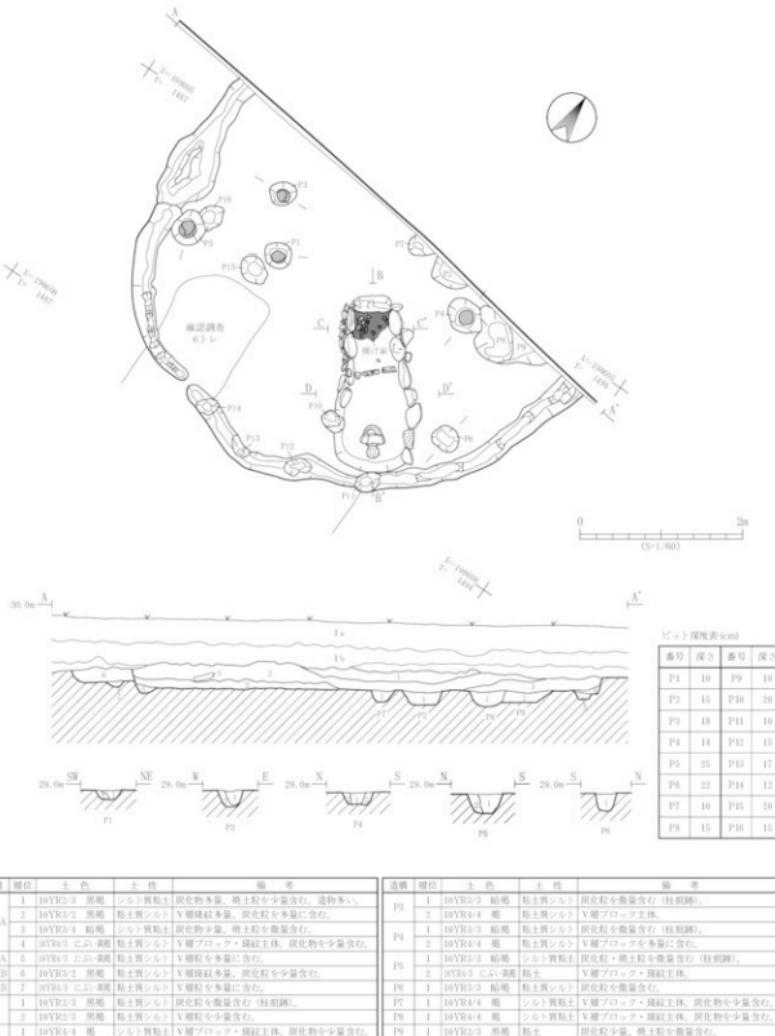


No.	登録番号	埋 紙	面 縞	石 刀	石 鋸	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	面 縞	石 刀	参考記録
1	Kcd-3009	07・1層	礫石器	(ディヤギ)		125.0	61.0	46.0	500.0	円2.5、一面に火入状付跡有り。		140-11
2	Kcd-3008	07・1層	礫石器	(ディヤギ)		111.0	86.0	38.0	500.0	圓1.5、凹2.5。		140-12
3	Kcd-3002	—	礫石器	(ディヤギ)		140.0	73.5	46.0	400.0	圓3.0、縁2.5(1)、縁1(1)下。		140-14
4	Kcd-3001	07・1・2層	石器	安山岩		178.0	116.0	75.0	400.0	側斜石器、鋒部残存、表面全て欠損。		140-13
5	Kcd-3003	1層	石器	安山岩		400.0	291.0	97.0	12,400.0	帶1、縁部欠損、S-1.4.		140-10

第87図 SI706 穫穴住居跡出土遺物 (4)

SI707堅穴住居跡

【位置・検出面】 第7次調査1区中央北西寄りのD-40・41グリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出された。平成15年度確認調査6トレンチで確認されていたものである。調査区の北壁際で炉が検出されたことから北側へ調査区を拡張したが、周溝がさらに北側に延びており全体は明らかにできなかった。東側にはS I 706・712堅穴住居跡、南西



第88図 SI707 A 堅穴住居跡

にS I 701堅穴住居跡が存在する。炉と周溝の重複および北壁断面の観察から建て替えが確認され、炉の新旧関係が明かであることからS I 707B（古段階）→S I 707A（新段階）として以下説明する。なお、ピットについてはどちらの住居に伴うものか判断出来ないため、住居平面図には同一のものを用いている。

【新旧関係】SK7003土坑と重複関係にあり、SK7003土坑が本遺構の上面で検出されたことから本遺構が古いが、SK7003土坑は本遺構のプランを検出する際には削平されている。

S I 707A 堅穴住居跡（第88・89図、国版8）

【規模・平面形】北側が調査区外となるため全体の規模は不明であるが、平面形は直径5.7m前後の円形を基調とするものと考えられる。

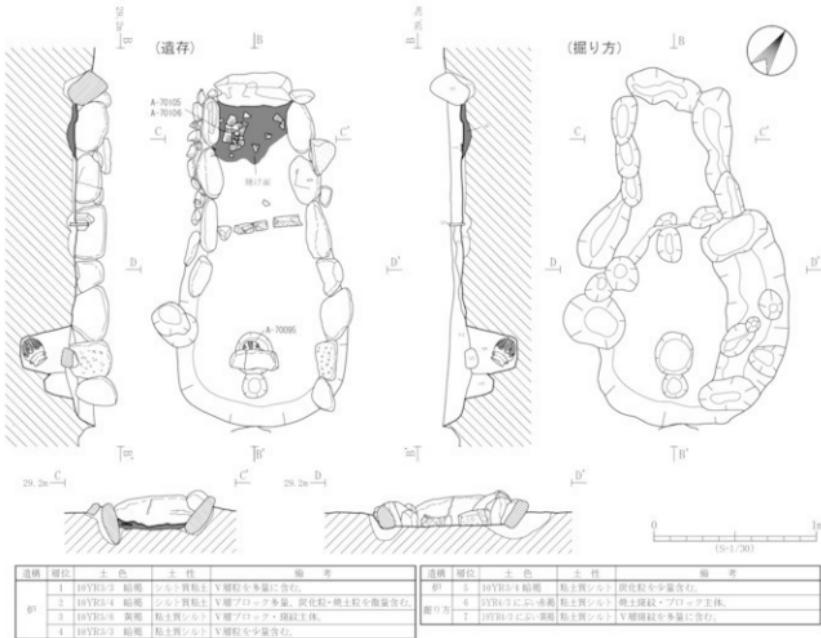
【堆積土】いずれもⅢ層を主体とする黒褐～暗褐色系のシルト質土を主体としており4層に分けられる。1層は炭化物を多く含み、遺物も多く出土している。

【壁面】壁高は最も残存状況の良い西側で25cmであり、周溝の底面からやや急角度で立ち上がっている。

【床面】掘り方の底面となるⅣ層を直接床面としておりほぼ平坦である。床面の一部はS I 707B堅穴住居跡の炉が埋まった部分から礫を抜き取り、その上を床面としている。

【柱穴】堅穴内から合計15個のピットが検出されており、P 1・3～5からは柱痕跡が確認された。北東側が調査区外のため柱穴構造は明確ではないが、検出された部分から炉の長軸方向を主軸にして考えた場合、P 1・15とP 2・7、P 6とP 12が左右対称の位置に存在しており柱穴となる可能性がある。

【周溝】確認調査6トレンチの部分で一部途切れる箇所も見られるが、壁の内側を全周している。規模は幅14～



第89図 S I 707A 堅穴住居跡複式炉

36cm、深さ6cmで断面形はU字形である。底面には凹凸が認められる小規模のビットも認められる。

炉（第89図）

【位置・方位】住居の中央から南東部で検出され、炉の長軸方向はN-34°-Eである。

【規模・平面形】長さ218cm、最大幅108cmである。平面形は釣鐘形である。

【構造】石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

【石組部】長さ98cm、幅78cm、床面からの深さは12cmである。北西側の先端部分には長さ約50cmの大型で扁平な礫が据えられ、側面には30cm前後の礫が掘り方に対してほぼ垂直あるいは斜めに傾けた状態で一列に並べて設置されている。西側では10cm未満の小型の礫が側石の外側に沿って据えられており、また掘り込み部との境には20cm未満の小型の角礫が用いられている。底面はほぼ平坦で、北側の約40cmの範囲で火熱の影響により赤変した部分が認められ、同一位置からは同じく火熱を受けた土器片（A-70105・70106）が破碎した状態で出土した。

【掘り込み部】長さ120cm、幅126cm、床面から底面までの深さは15cmである。側面には石組部から連なる大型で扁平な礫が外側にやや傾いた状態で据えられているが、南西側では縁石が一部抜き取られている。底面はほぼ平坦で、南側に向かって緩やかに傾斜している。南端部からビット2個が検出されており、北寄りのビットの底面から完形の壺（A-70095）が斜めに傾いた状態で出土した。このビットの上面からは長さ30cmのやや大型の礫がビット上面に被せられたような状態で出土した。

SI707B竪穴住居跡（第90図、図版18）

【規模・平面形】北側が調査区外となるため全体の規模は不明であるが、平面形は直径5.7～6.4mの円形を基調とするものと考えられる。

【堆積土】北壁断面の観察では黒褐色の粘土質シルト層で、V層を斑紋状に含む。

【壁面】壁高は15cmであり、壁は周溝の底面からやや急角度で立ち上がっている。

【床面】大部分がSI707Aに削平されているが、掘り方底面を直接床面としている。調査区北壁の断面ではSI707Aの床面より10cm程高くなっている。

【柱穴】床面および周溝から合計15個のビットが検出されており、P1・3～5からは柱痕跡が確認されている。SI707Aと同じように考えた場合、P3とP4、P5とP6、P12とP14が炉の長軸方向を主軸にして左右対称となる位置関係にあり柱穴になる可能性がある。

【周溝】西側の一部でのみ検出されており、その他の部分はSI707Aと同一かSI707A構築の際に削平されてしまった可能性がある。幅23～43cm、床面からの深さは7cmで、断面形はU字形である。

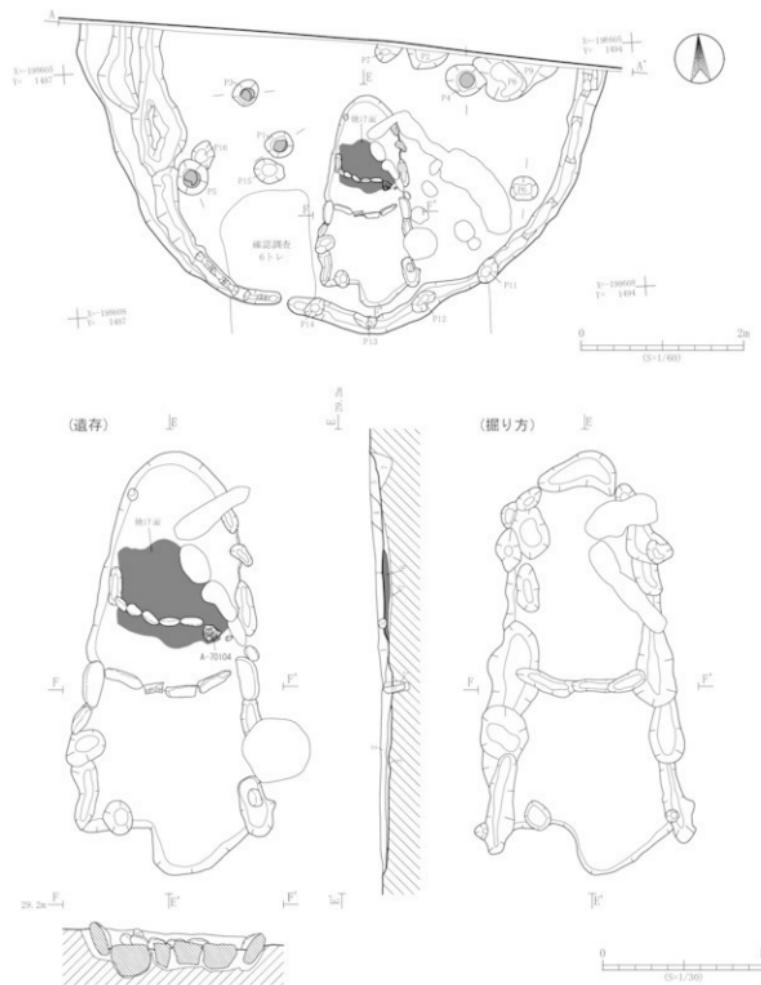
炉（第90図）

【位置・方位】住居中央から南側で検出されている。長軸方向はN-2°-Eでほぼ南北方向である。

【規模・平面形】規模は長さ262cm、最大幅116cmであり、平面形は掘り込み部側が緩やかに広がる釣鐘形である。

【構造】石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

【石組部】長さ152cm、幅100cmである。側壁の側石は大半が抜き取られていたが、掘り込み部との間にある境石は残存しており、20～30cmの角礫や扁平な礫を用いて緩やかな弧状に配置されている。これらの礫は底面に対してほぼ垂直に埋設されており、第90図の見通し図から掘り込み部の底面から露出する部分が10cm未満と僅かであるのに対して、深く埋め込まれた状況も見て取れる。底面はほぼ平坦で、中央部分の65cm×80cmの範囲では火熱の影響を受けて赤変した状況が顕著に認められた。また境石から50cm程北側では焼け面上で10cm前後の礫が弧状に並んだ配石が認められ、その周辺から注口付深鉢の注口部分（A-70104）が出土している。これらの状況からSI707B炉の焼け面が形成された後に配石がなされ、さらにSI707A竪穴住居跡床面を構築する際に縁石とともに配石の一部が取り除かれたものと考えられる。



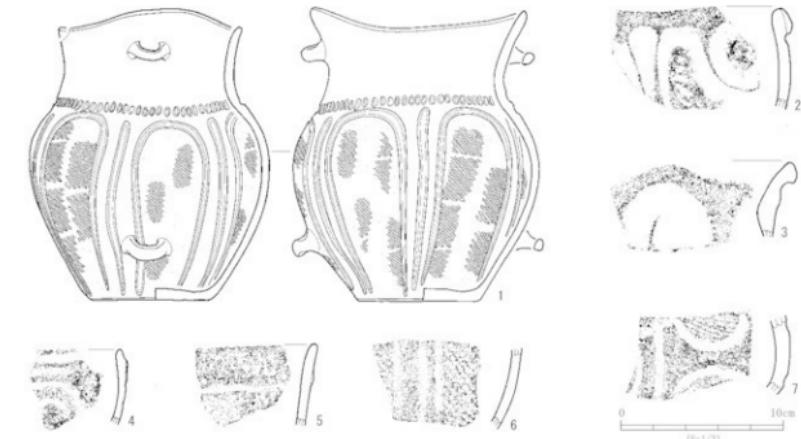
第90図 SI707B 積穴住居跡

遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
伊	1	HYR3/2 前期	粘土質シルト	黄褐色や少々、炭化物粒・骨質含む。表面に剥離した赤茶色風化皮膜。	4	DTR4/3 に亘る層	粘土質シルト	V層ブロック多量、炭化物粒・粘土粒や少々。(伊A埋土)	
	2	HYR3/2 前期	粘土質シルト	V層粒や少々、炭化物粒を少量含む。		DTR4/3 に亘る層	粘土質シルト	V層ブロック多量、炭化物粒少々。	
	3	HYR3/4 前期	粘土質シルト	V層粒を少量含む。	5	DTR4/4 に亘る層	シルト	堆土堆积・ブロック主体。	
掘り方	6	DTR4/4 に亘る層	粘土質シルト	V層粒や少々、炭化粒を少量含む。		7	10YR3/3 前期	粘土質シルト	V層粒や少々、炭化粒を少量含む。

【掘り込み部】長さ110cm、幅126cmである。境石の両側には約30cmの大型で扁平な礫がやや斜めに傾けた状態で設置されているが、その他の側石は残存しておらず側壁では石が抜き取られた痕跡と考えられる凹みが認められた。S I 707Bで検出された礫や抜き取り痕の規模から考えるとS I 707Aと同じ大きさの礫が用いられていた可能性が高い。底面は中央から北東側で礫層が部分的に露出しているため凹凸があるが、全体的には平坦で南側に向かって緩やかに立ち上っている。

〔出土遺物〕(第91~94図、図版147・148)

出土遺物は北壁断面の土層観察の所見からそのほとんどがS I 707A竪穴住居跡に帰属するものが多いものと考えられるが明確に分離出来ないため第91~94図に合わせて掲載した。第91図1(A-70095)は炉Aの掘り込み部のビットから出土した壺である。波状口で上面から見た場合には口形が橢円形となり、口縁部および胴部の上下には環状のつまみを一对有している。口縁部は無文であるが、頸部には刺突文が巡らされており胴部には「匁」字状沈線文と磨消繩文LRが縦位施文されている。第92図4・5・8(A-70105・10106・70109)は炉Bの石組部より出土した土器であるが火熱の影響を受けており残存状況は悪い。石器は石鎚1点、石錐3点、石箆1点、微細剝離痕のある剥片1点、石核1点、礫石器10点、石皿1点、砾石1点が出土しており、石鎚1点、石錐3点、石箆1点、礫石器5点、石皿1点を図示した。



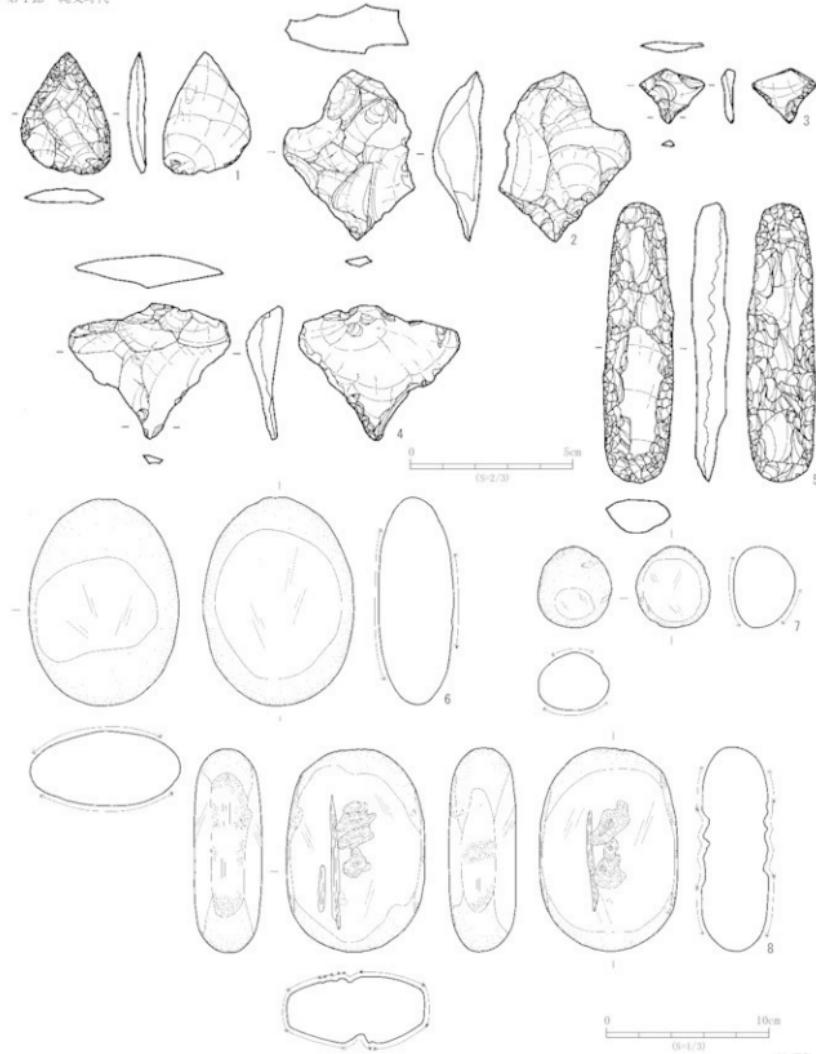
No.	登録番号	場所	形状・部位	文様等	参考	参考図版
1	A-70095	炉A	波状口内、垂・口縁部・底部	口縁部・無文、底部・刺突文、胴部・「匁」字・縦位区ぬれ縦文、磨消繩文LR縦位施文、底部・ナメ、底底口縁・つまみ上下2×2	147-1	
2	A-70096	炉構造	深鉢・口縁部	口縁部・区ぬれ縦文	3と同一	147-2
3	A-70097	上槽	深鉢・口縁部	口縁部区ぬれ縦文	波状口縁・2と同上	147-4
4	A-70098	上槽	深鉢・口縁部	底部・磨削光澤	—	147-5
5	A-70099	上槽	深鉢・口縁部	磨削文、繩文LR縦位施文	—	147-3
6	A-70100	炉構造	深鉢・底部	底部区ぬれ縦文、磨消繩文LR縦位施文	—	147-7
7	A-70101	上槽	深鉢・底部	底部・区ぬれ縦文、磨消繩文LR縦位施文	—	147-6

第91図 S I 707A・B 竪穴住居跡出土遺物(1)

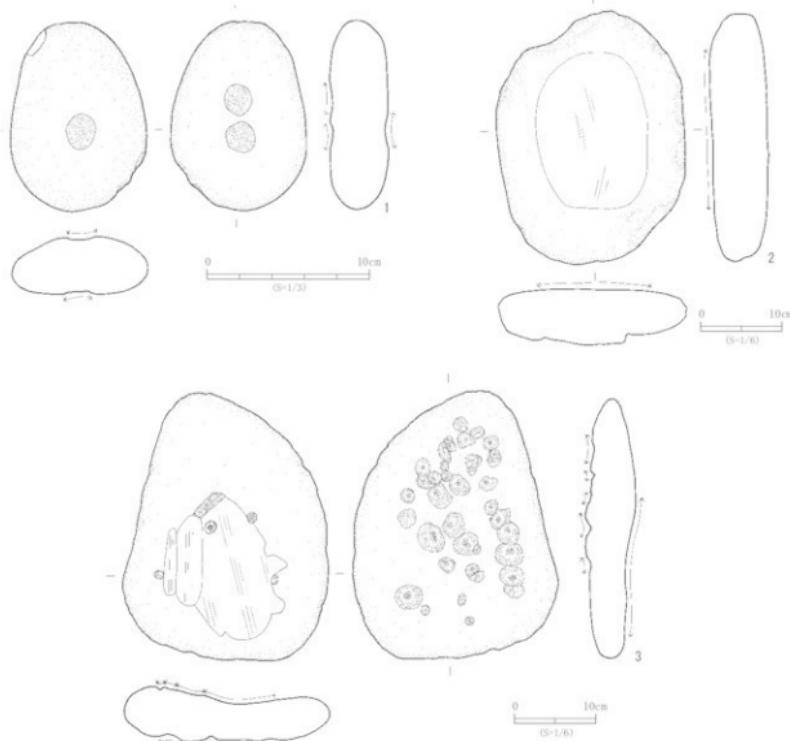


No.	目録番号	種 類	器形・部位	文様等	編 号	参考資料
1	A-7082	海螺壳	深鉢・口縁部～側部	白底墨・舟形の横線文、正面の横線文・側面の波線文、側面無文、側面「△」、側面斜面・側面無文、	-	147-8
2	A-7083	海螺壳	小型深鉢・口縁部～側部	口縫部・側面、鶴門の横線文、区画内横文・側面無文、頭部・無文。	-	-
3	A-7084	伊豆・真面	口縫部・深鉢・口縁部	頭部・波線文。	-	147-9
4	A-7085	伊豆・船形	深鉢・口縁部	輪位平行波線文、輪位圓波線文、輪位橫文・口縫部無文。	5+8+同一個体。	147-14
5	A-7086	伊豆・船形	深鉢・側部	鶴門・「△」、區画圓波線文、輪位橫文・側面無文。	4+8+同一個体。	147-17
6	A-7087	海螺壳	深鉢・口縁部～側部	口縫部・側面、輪位圓波線文、輪位橫文・側面無文。	-	147-13
7	A-7088	上端	深鉢・側面	頭部・波線文、輪位圓波線文。	-	147-10
8	A-7089	伊豆・船形	深鉢・側部	頭部・區画波線文、輪位圓波線・側面無文。	4+5+同一個体。	147-11
9	P-7007	上端	三角形土器品	側文。	S-1/2,	147-12
10	P-7008	伊豆・海螺壳	二字平ア字型	無文。	手形2,	S-1/2,
						-

第92図 SI707 A 積穴住居跡出土遺物（2）



第93図 SI707A・B 穴空き住居跡出土遺物（3）

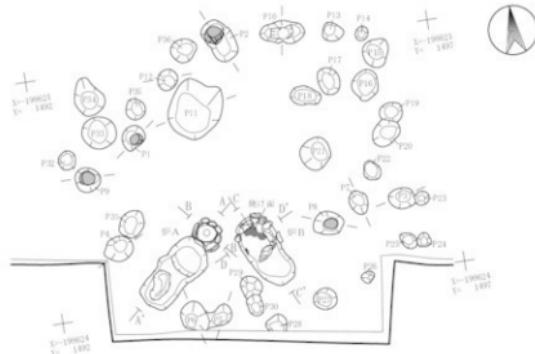


第94図 SI707A・B 穫穴住居跡出土遺物（4）

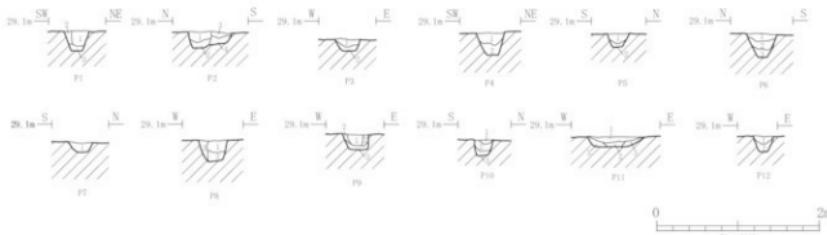
No.	登録番号	場所	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (kg)	備考	写真番號
1	Kob-7810	複體土	鍛石器	ディサイト	116.5	83.6	35.5	320.0	四1+2,	148-5
2	Kob-7808	複體土	石器	安山岩	312.5	234.0	70.0	7,600.0	四1, S-1/6,	148-6
3	Kob-7801	複體土	鍛石	砂岩	330.0	254.0	65.0	4,300.0	四2, 四7+27, S-1/6,	148-4

SI708堅穴住居跡（95～97図、図版19）

[位置・検出面] 第7次調査1区中央のG-39・40グリッドに位置し、N層上面で確認された。調査区南壁際で2基の炉跡が断面にかかって検出されたことから調査区の一部拡張を行い全体を明らかにした。壁が確認されなかったため第95図には炉およびその周辺から検出されたピットを合成して示している。炉が2基存在することから住居の建て替え、あるいは2軒の住居の重複が考えられるが炉同士の重複が見られず新旧関係が明確でないことから、便宜的に西側のものを炉A、東側のものを炉Bとした。北西方向にはS I 709堅穴住居跡、西側にS I 710堅穴住居跡が存在している。



ピット深度表(cm)					
番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P1	36	P13	13	P15	17
P2	39	P14	14	P26	13
P9	36	P16	15	P27	25
P4	32	P18	11	P28	14
P6	37	P19	22	P29	19
P8	36	P18	24	P30	13
P7	14	P19	15	P31	23
P8	36	P20	19	P32	16
P9	39	P21	33	P33	14
P10	38	P22	11	P34	12
P11	31	P23	11	P35	11
P12	38	P24	17	P36	17



遺構	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/2 黒褐色	粘土	炭化粒多量、燒土粒を少量含む。(柱痕跡)
	2	10YR2/2 黒褐色		V埋隙部を多量に含む。
	3	10YR4/4 黒	粘土	V埋隙部。
P2	1	10YR2/2 黒褐色	粘土	炭化粒・焼土粒を土粒に集中。(柱痕跡)
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土	V埋隙部を少量含む。(柱痕跡)
	3	10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土	V埋隙部を多量に含む。
P3	1	10YR2/2 黒褐色	粘土	炭化粒・焼土粒を土粒に集中。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土	V埋隙部を少量含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土	V埋隙部を多量に含む。
P4	1	10YR2/2 黒褐色	粘土	炭化粒少量、焼土粒を微量含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	粘土	V埋隙部を少量に含む。
	3	10YR2/2 黑褐色	粘土	炭化粒少量、燒土粒を微量含む。
P5	1	10YR2/2 黑褐色	粘土	炭化粒を多量に含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	粘土	V埋隙部を多量に含む。
	3	10YR2/2 黑褐色	粘土	炭化粒を多量に含む。
P6	1	10YR2/2 黑褐色	粘土	炭化粒を微量含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	粘土	炭化粒を微量含む。
	3	10YR2/2 黑褐色	シルト質粘土	V埋隙部を微量に含む。
遺構	層位	土色	土性	備考
P7	1	10YR3/3 細褐色	シルト質粘土	炭化粒・焼土粒を微量含む。
P8	2	10YR3/3 細褐色	シルト質粘土	V埋隙部を少量含む。(柱痕跡)
P9	3	10YR3/3 細褐色	粘土	炭化粒・焼土粒を微量含む。
P10	1	10YR2/2 黒褐色	粘土	炭化粒多量、燒土粒を微量含む。(柱痕跡)
P11	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化粒・焼土粒を微量含む。
P12	3	10YR4/5 黒	シルト	V埋隙部・ブロックを多量に含む。

第95図 SI708 堅穴住居跡

〔新旧関係〕第95図に示した範囲では本遺構と重複する遺構は存在していない。

〔規模・平面形〕壁や周溝が確認されなかったため、全体の規模や平面形は不明である。

〔堆積土〕炉の周辺の堆積土は暗褐色系の粘土質シルトを主体とするもので炭化物や遺物を多く含んでいる。

〔壁・面〕確認されなかった。

〔床・面〕炉を検出した面からM層を床面にしたものと考えられる。特に周辺で硬化面等は確認されなかった。

〔柱・穴〕第95図には炉の周辺で検出されたピット36個を示している。柱痕跡はP1・2・8・9で認められるが、それ以外はいずれも掘り方のみが検出されている。炉との位置関係から柱穴を考えた場合、炉Aでは長軸の延長線上に位置するP15、さらにこれを中軸線とした際に左右対称の位置関係にあるP2とP3、P1とP27の5本柱構造が考えられ、また掘り込み部の両脇に存在するP4とP6も柱穴になる可能性がある。炉Bにおいても長軸方向を主軸にして左右対称の位置関係にあるピットを見ると、P2とP32、P21と炉Aの掘り込み部底面に存在する落ち込み、P8とP5、さらに炉Bの南側に位置するP27とP28などが柱穴になる可能性が考えられる。

〔周・溝〕確認されなかった。

炉A（第96図・国版19）

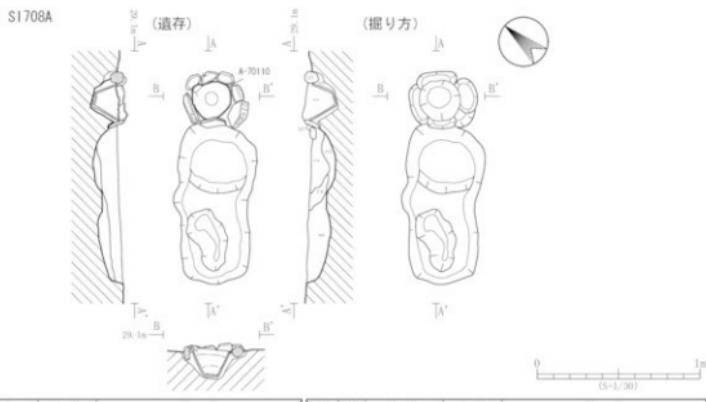
〔位置・方位〕住居の平面形が不明であり、炉位置関係も不明である。長軸方向はN-51°-Eである。

〔規模・平面形〕長さ132cm、最大幅52cmで、平面形は土器埋設石囲部でくびれるダルマ形である。

〔構・造〕土器埋設石囲部、掘り込み部からなる複式炉である。

〔土器埋設石囲部〕長さ32cm、幅36cm、床面からの深さは16cmである。中央には口縁部～胴部上半を欠く深鉢が正位の状態で埋設されており周囲は疊で閉まれている。土器の中央を境にして北東側には10cm台の円形または橢円形の礫を配し、一方の南西側ではそれよりも若干大きい20cm弱の割石および扁平な礫が用いられている。土器内の堆積土は炭化物粒・焼土粒を多量に含んでいた。

〔掘り込み部〕長さ100cm、幅52cmで、平面形は橢円形である。底面は土器埋設石囲部側が最も深くなつており床面からの深さは16cmである。この部分は敷石石組部の礫が抜き取られた可能性がある。また南西側には長さ38cm、幅23cmの不整形の落ち込みが認められ床面からの深さは14cmである。堆積土に炭化物粒・焼土粒を含む。



第96図 Si708 穴式住居跡複式炉A



第97図 SI708 穫穴住居跡複式炉B

炉B（第97図・図版19）

【位置・方位】炉Aと同じく位置関係は不明である。長軸方向はN-37°-Wである。

【規模・平面形】長さ96cm、最大幅48cmであり、平面形は橢円形である。

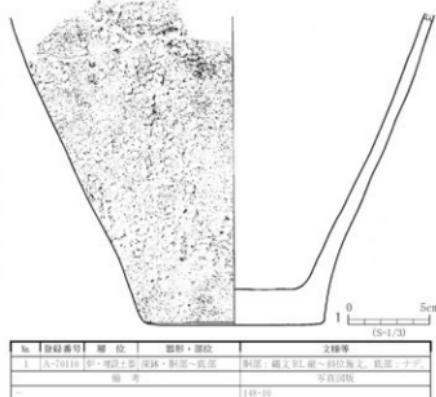
【構造】石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

【石組部】長さ50cm、幅48cmである。西側の礎は残存していないが、それ以外では20~30cmの大の扁平な礎や割石が掘り方の底面に対して垂直または若干開いた角度で方形に組まれ、コーナー部分はやや小型の礎を配している。底面はほぼ平坦であるが南側へ緩やかに傾斜しており、床面からの深さは16cmである。北側を中心とする長さ30cm、幅15cmの範囲で火熱により赤変した部分が認められ、北および東の側石もひびが入って割れた状態であった。

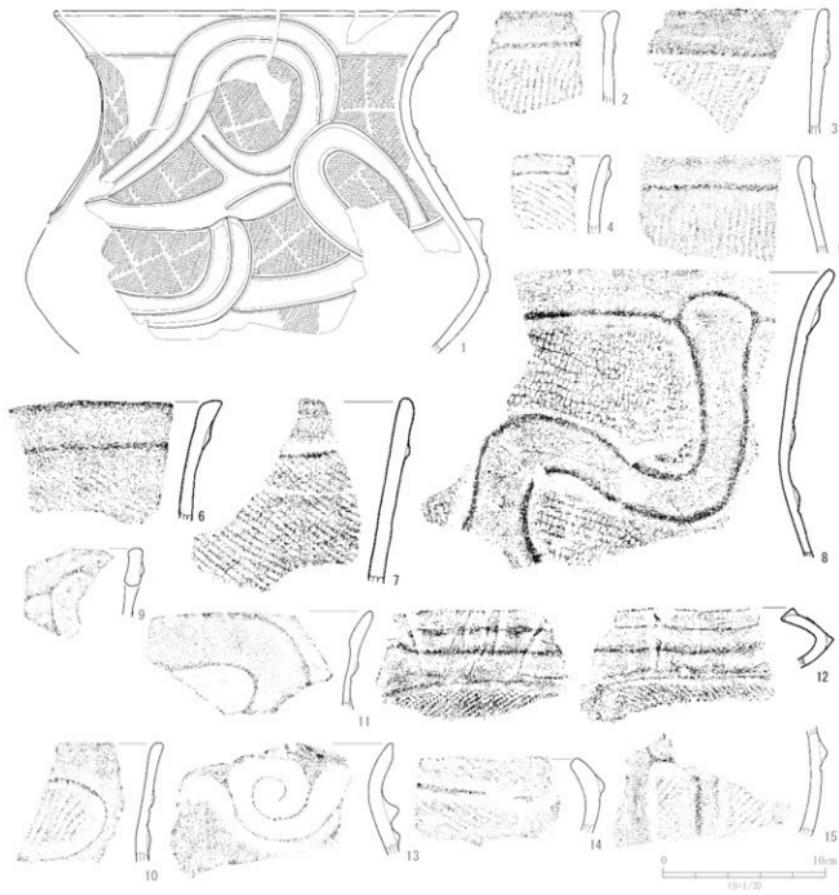
【掘り込み部】長さ46cm、幅36cmである。壁は底面から外側に開いて立ち上がり、断面形は台形である。底面はほぼ平坦で床面からの深さは16cmである。

〔出土遺物〕(第98~103図、図版148~150)

炉の周辺の堆積土中からは遺物がまとまって出土しており、土器・石器を第98~103図に示した。第98図1は炉Aの土器埋設石群部に埋設されていたもので、口縁部~胴部を欠いており地文繩文R-Lが施文されている。出土した土器は大半が深鉢あるいは鉢であるが、器台や土製円盤、土偶、ミニチュア土器も出土している。石器は石鏃1点、石錐1点、石匙4点、スクレイパー6点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片1点、疊石器36点、石皿2点、台石1点、砥石4点が検出されており、その内の石鏃1点、石錐1点、石匙4点、スクレイパー3点、疊石器9点、石皿1点、砥石4点、台石1点を図示した。

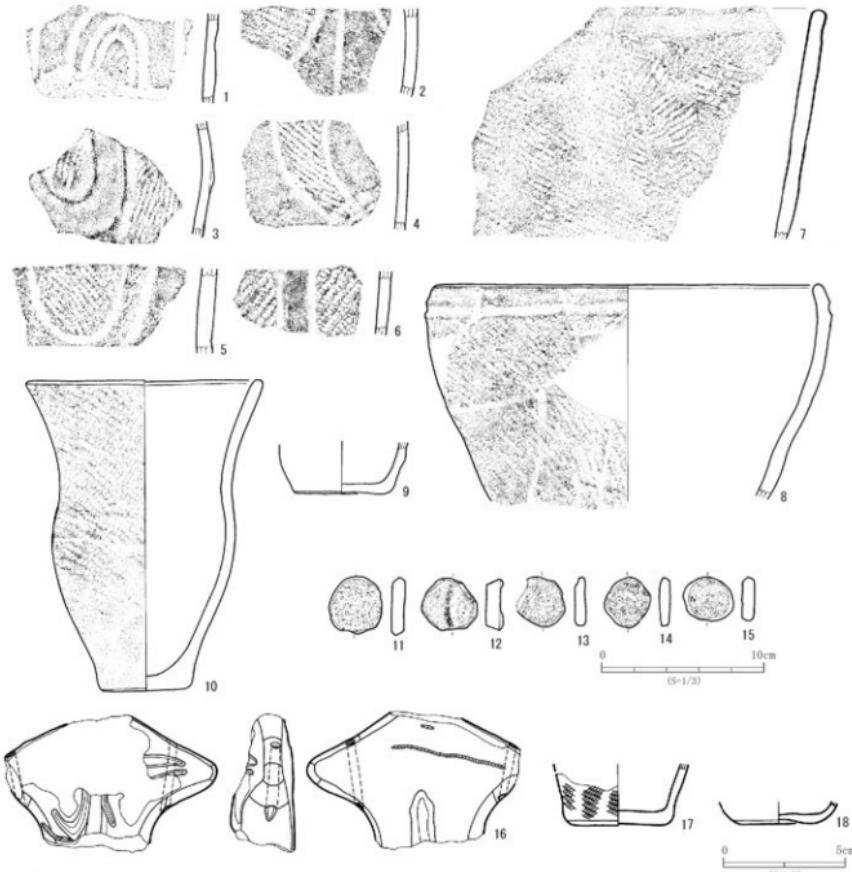


第98図 SI708 穫穴住居跡出土遺物（1）



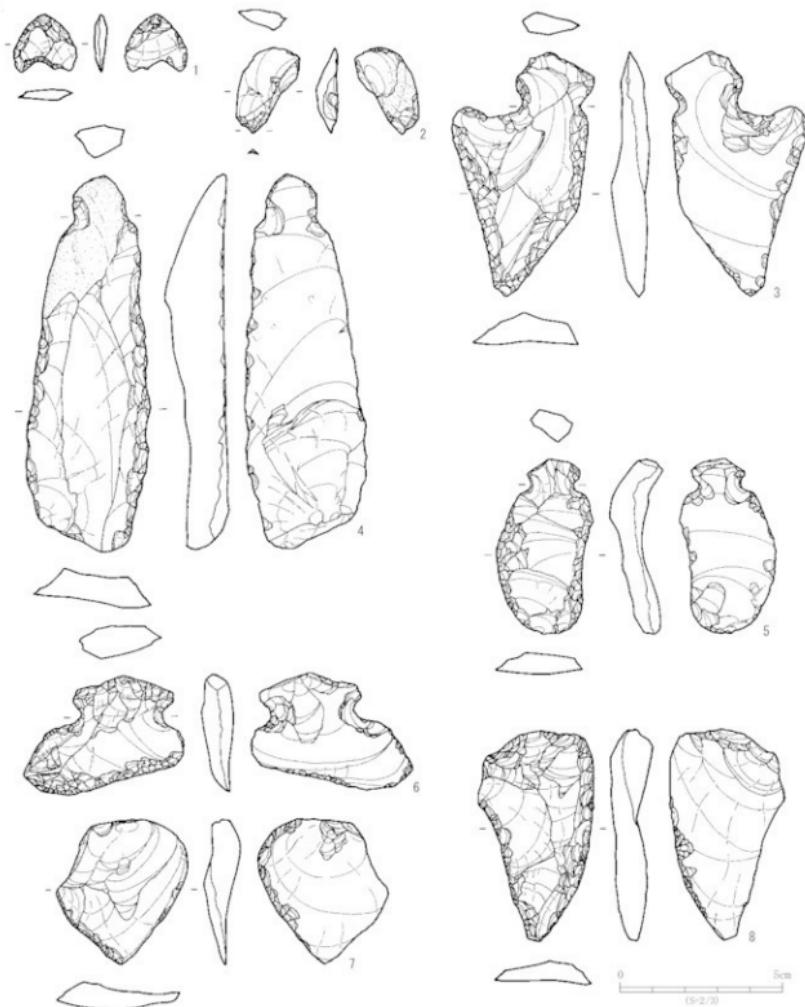
No.	目録番号	種 位	體形・部位	文様等	備 考	参考範例
1	A-70111	椚出面	深鉢・口縁部～胴部	口縁部：横肋・隣接文、胴部：通路区の隣接文、縄文LH・部位無文。		140-1
2	A-70112	椚出面	深鉢・口縁部	隣接文、縄文LH・部位無文。		140-2
3	A-70113	椚出面	深鉢・口縁部	隣接文、縄文LH・部位無文。		140-9
4	A-70114	椚出面	深鉢・口縁部	隣接文、縄文LH・部位無文。		140-8
5	A-70115	椚出面	深鉢・口縁部	隣接文・縄文LH・部位無文。		140-11
6	A-70116	椚出面	深鉢・口縁部	隣接文・縄文LH・部位無文。		140-12
7	A-70117	椚出面	深鉢・口縁部	隣接文・縄文LH・部位無文。		140-10
8	A-70118	椚出面	深鉢・口縁部～胴部	口縁部～胴部：弦紋・縄文時代縄文、縄文LH・部位無文。		140-2
9	A-70119	椚出面	浅鉢・口縁部	隕沈縊文。	提供口縁・孔有り。	140-13
10	A-70120	椚出面	深鉢・口縁部	口縫隙・口縊文、口縫内に縄文LH・部位無文。	-	140-14
11	A-70121	椚出面	深鉢・口縁部	口縫隙・口縊文、口縫内に縫織文。	器面の厚底小窓しい。	140-2
12	A-70122	椚出面	深鉢・口縁部	縫隙・口縫隙・縫織文。	-	140-1・5
13	A-70123	椚出面	深鉢・口縁部	縫隙・縫織文・縫縊文。	-	140-6
14	A-70124	椚出面	深鉢・口縁部	縫隙文、縄文LH・部位無文。	-	140-8
15	A-70125	椚出面	深鉢・胴部	口縫隙・縫織文、縄文LH・部位無文。	-	140-7

第99図 SI708 積立住居跡出土遺物（2）



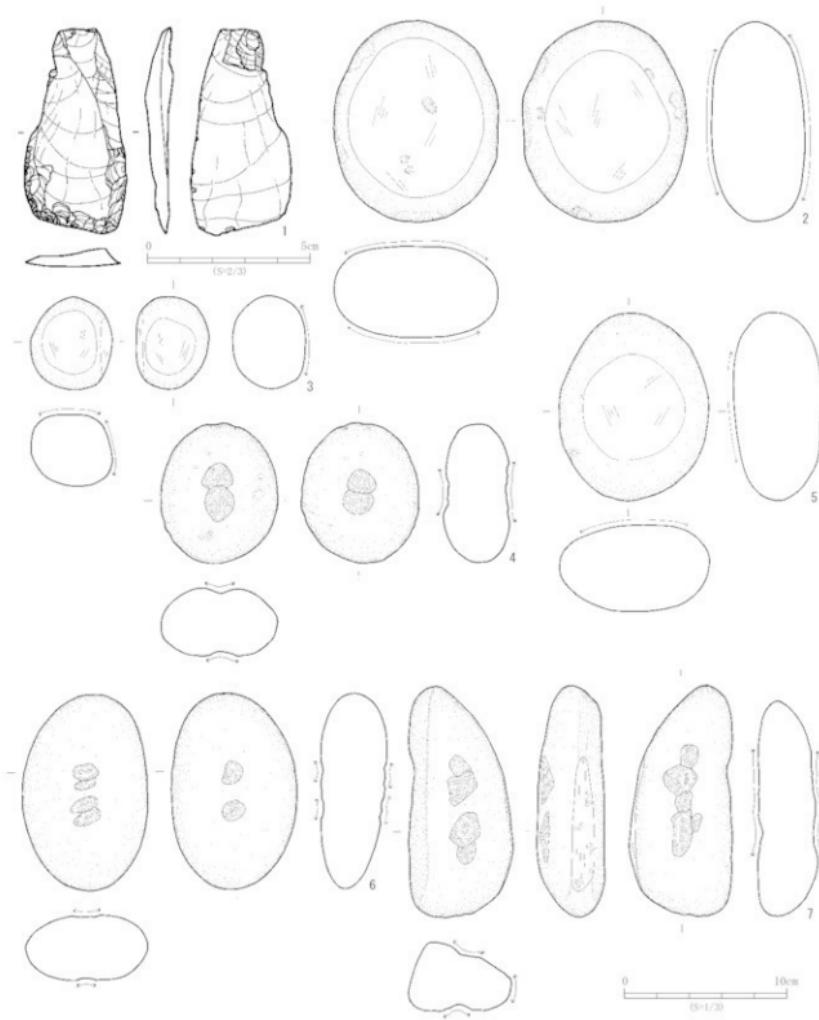
登錄番号	種類・部位	形態・部位	文様等	備考	参考図版
1 A-70126	楕円形	深鉢・削面	口縁：状況切妻線、区画内縦文、斜位施文。	-	140-6
2 A-70127	楕円形	深鉢・削面	区画内縦文、斜位施文。	-	140-10
3 A-70128	楕円形	深鉢・削面	口縁：状況切妻線文、縦文LR、斜位施文。	-	140-11
4 A-70129	楕円形	深鉢・削面	平行区画内縦文、区画内縦文とLR斜位施文。	-	140-12
5 A-70130	楕円形	深鉢・削面	口縁：状況切妻線文、区画内縦文とLR斜位施文。	-	140-14
6 A-70131	楕円形	深鉢・削面	平行区画内縦文、縦文LR、斜位施文。	-	140-16
7 A-70132	楕円形	深鉢・口縁部	縦文上に斜位施文。	-	140-15
8 A-70133	楕円形	深鉢・口縁部～削面	口縁部：無文、斜位施文。削面：縦文LRと斜文。	-	-
9 A-70134	楕円形	小型深鉢・斜面～執刀	斜面：無文、底部：ナデ。	器面の摩滅、小傷しい。	-
10 A-70135	楕円形	小型深鉢・口縁部～執刀	口縁部～削面：縦文LRと斜位施文。底部：ナデ。	-	140-13
11 P-7009	海螺壳	土割内縫	剥離破片利用。縦文LR、無文。	重量 10.8kg。	140-17
12 P-7010	海螺壳	土割内縫	剥離破片利用。斜縞文、縦文LR、無文。	重量 11kg。器面の摩滅が激しい。	140-18
13 P-7011	海螺壳	土割内縫	剥離破片利用。縦文不規。	重量 11g。器面の摩滅が激しい。	140-19
14 P-7012	海螺壳	土割内縫	剥離破片利用。無文。	重量 1.0kg。器面の摩滅が激しい。	140-20
15 P-7013	海螺壳	土割内縫	剥離破片利用。縦文LRと斜文。	重量 1.0kg。器面の摩滅が激しい。	140-21
16 P-7014	海螺壳	土偶・胸部～削面	横縞文、沈縞文、押付縞文と斜文。	器に孔有り。S-1/2。	140-22
17 P-7015	海螺壳	(二つ)ア土偶・執刀	削面：縦文LRと斜文。底部：ナデ。	S-1/2	-
18 P-7016	海螺壳	(二つ)ア土偶・執刀	ナデ。	S-1/2	-

第100図 Si708 壘穴住居出土遺物（3）



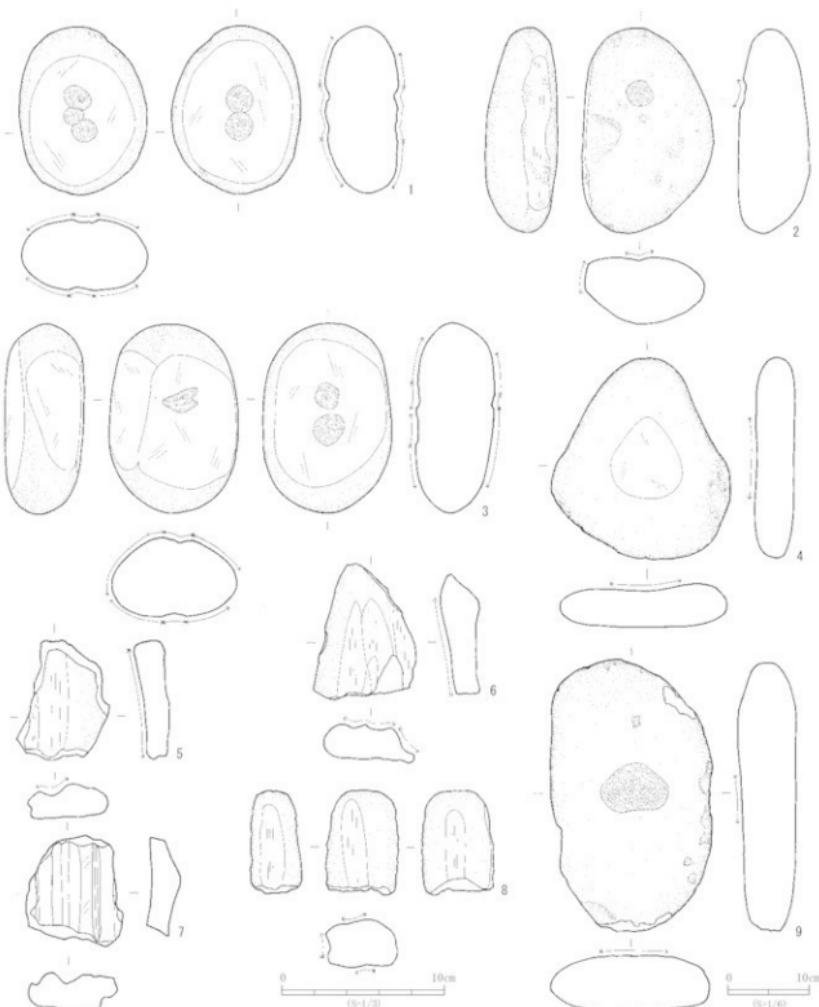
No.	發現番号	場所	面	種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	参考図版
1	Kao-7911	海側土	右側	石器	閃玉	17.9	19.1	3.5	1.1		図版-1
2	Kao-7909	海側土	左側	石器	珪質頁岩	27.0	14.0	6.0	2.2		図版-2
3	Kao-7911	海側土	右側	石器	珪質頁岩	76.0	41.0	10.5	36.5	縫型。	図版-1
4	Kao-7912	海側土	右側	石器	玉髓	110.0	37.5	10.0	94.0	縫型。	図版-9
5	Kao-7913	海側土	右側	石器	玉髓	54.0	27.2	10.0	14.9	縫型。木端刀頭内部。	図版-3
6	Kao-7914	海側土	右側	石器	珪質頁岩	31.0	50.1	9.8	12.9	縫型。	図版-5
7	Kao-7915	海側土	スクレーパー	石器	珪質頁岩	42.7	41.0	8.5	12.0		図版-6
8	Kao-7916	海側土	スクレーパー	石器	珪質頁岩	63.7	35.5	9.8	18.8		図版-7

第101図 S1708 積穴住居跡出土遺物（4）



No.	登録番号	層位	断面図	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	参考文献
1	Kca-7411	複層土	スクエアバー	珪質頁岩	63.4	31.2	6.3	182		150-8
2	Kca-7412	複層土	礫石器	安山岩	125.5	30.0	5.0	1.010	壁2.	150-11
3	Kca-7414	複層土	礫石器	「ティサイト」	51.0	50.0	4.0	173.0	壁2(横1).	150-14
4	Kcb-7411	複層土	礫石器	安山岩	90.5	23.0	4.0	201.0	壁2(横2).	150-15
5	Kca-7415	複層土	礫石器	安山岩	110.5	92.5	5.0	880.0	壁1.	150-12
6	Kcb-7412	複層土	礫石器	安山岩	120.5	77.0	4.0	225.0	壁4+2. 蒸熟陶有り.	150-13
7	Kcd-7408	複層土	礫石器	閃綠岩	142.0	64.0	4.0	634.0	壁1(横), 壁4+4.	150-16

第102図 Si1708 積穴住居跡出土遺物（5）



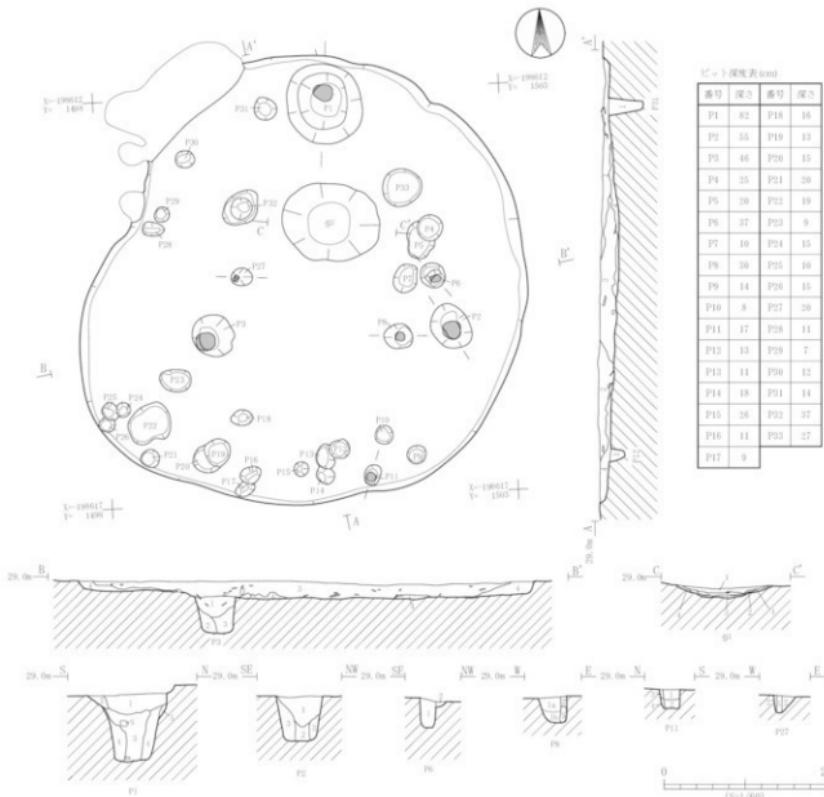
(上) 現存

No.	目録番号	場所	形態	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	参考地點
1	Kcd-37007	海側土	礫石器	ディオサイト	163.0	78.0	45.0	893.0	縦2、横3+2、波状底有り。	150-10
2	Kcd-37010	上層	礫石器	ディオサイト	126.0	80.0	44.0	585.0	縦1横1、凹1。	150-17
3	Kcd-37011	海側土	礫石器	ディオサイト	116.0	79.0	49.0	690.0	縦2横1、凹1+2。	150-18
4	Kcd-a-7001	海側土	石器	安山岩	248.0	229.0	54.0	4,060.0	縦1、S-1%。	150-19
5	Kcd-c-7001	海側土	石器	ディオサイト	174.0	65.0	25.0	671.0	縦2、有磨耗石。	150-20
6	Kcd-c-7002	海側土	石器	ディオサイト	183.0	65.0	27.0	694.0	縦2、有磨耗石。	150-22
7	Kcd-c-7003	下層	石器	ディオサイト	168.0	65.0	24.0	715.0	縦2、有磨耗石。	150-21
8	Kcd-c-7007	海側土	石器	安山岩	164.0	144.0	22.0	729.0	縦2、有磨耗石。	150-23
9	Kcd-b-7001	海側土	石器	安山岩	234.0	200.0	72.0	7,400.0	縦1、S-1%。	150-24

第103図 SI708 穫穴住居跡出土遺物（6）

SI709堅穴住居跡 (第104図、図版20)

[位置・検出面] 第7次調査1区中央のE・F-38・39グリッドに位置し、N層上面で確認された。本住居の周辺は西側を除いてS I 703堅穴住居跡をはじめとする多くの住居跡が存在している。北西部が風倒木痕により一部削



参考			
遺構	層位	土色	土性
堅穴	1	10YR5/2 黒褐色	粘土質シルト。焼土少量、灰化土を微量含む。
	2	10YR4/4 黒	V層貝殻を多量に含む。
	3	10YR2/2 黑褐色	灰化土多量、焼土を多く含む。
	4	10YR3/4 黑褐色	灰化土を微量含む。
B'	1	10YR2/2 黑褐色	灰化土・地土塊を多量含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	下層: 地土塊あり、灰化土多量 (クルミ含む)。
	3	10YR2/2 黑褐色	燒土・灰化土を微量含む。
	4	10YR3/4 黑褐色	V層貝殻主体。
P1	1	10YR2/2 黑褐色	シルト質粘土。焼土・焼土塊を多量に含む、焼土多い。
	2	10YR4/4 黑	V層貝殻を多量に含む。
	3	10YR2/2 黑褐色	灰化土・燒土を微量含む、燒土塊を微量含む (柱痕跡)。
	4	10YR2/4 黑褐色	シルト質粘土。V層・ブロック・焼土塊を多量に含む。
P2	1	10YR7/4 明黄色	砂質シルト。V層・ブロック・焼土塊を多量に含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	灰化土多量、燒土塊を少量化、土器片が多い。
	3	10YR4/4 黑	V層・貝殻を微量含む (柱痕跡)。
	4	10YR2/2 黑褐色	シルト質粘土。V層・貝殻を微量含む。

第104図 SI709 堅穴住居跡

平を受けている。

〔新旧関係〕 SK7016土坑、ピットと重複しており、本遺構はピットより古くSK7016土坑より新しい。

〔規模・平面形〕 東西5.45m、南北5.5mの南西側が張り出した不整な円形である。

〔堆積土〕 4層に分層され、中央に堆積している3層からは炭化物粒および土器片などが多数出土している。

〔壁面〕 壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、検出面からの深さは残存状況のもとと良好な東側で16cmである。

〔床面〕 掘り方の底面であるN層を直接床面にしており、住居の中央北側の炉に向かって緩やかに落ち込んでいる。

炉の周辺部分はその他の床面部分よりも若干硬く縮まっている。

〔柱穴〕 床面からピットが33個検出されており、P1～3・6・8・11・27で柱痕跡が確認された。P1～3の3本を結ぶと正三角形の配置となり、炉との位置関係から主柱穴になるものと考えられる。またP32・33はP1とP2、同様にP1とP3を結んだ中間付近に位置しておりP1と炉の中央を結んだ線を中軸線とすると左右対称の位置関係にあり、柱痕跡が確認されているP6・27などとともに主柱穴としたピットと何らかの関係があるものと考えられる。南側の壁際でピットが多く検出されているが、規模が小さく配置も不規則であることからピットの性格は明かではない。

〔周溝〕 検出されなかった。

炉

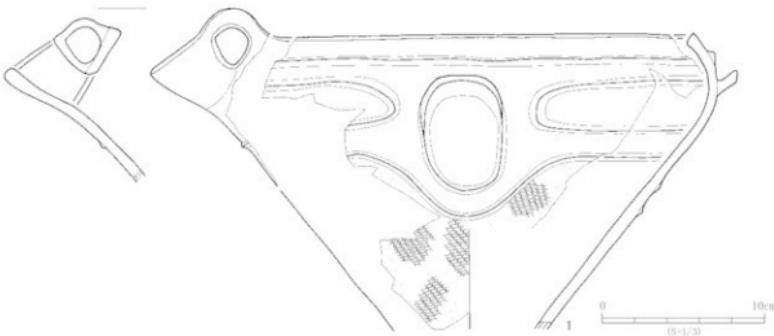
〔位置・方位〕 住居中央の北寄りで検出された。長軸方向はN-81°-Wである。

〔規模・平面形〕 長さ118cm、幅93cm、床面からの深さは13cmで、平面形は東西に長い梢円形である。

〔構造〕 床面を掘り窪めて直接火を焚いた地床炉である。底面が火熱の影響により若干赤変しているが範囲は明瞭でない。堆積土2層の下部には焼土ブロックが多量に含まれており、炭化物粒の中からはクルミも検出されている。

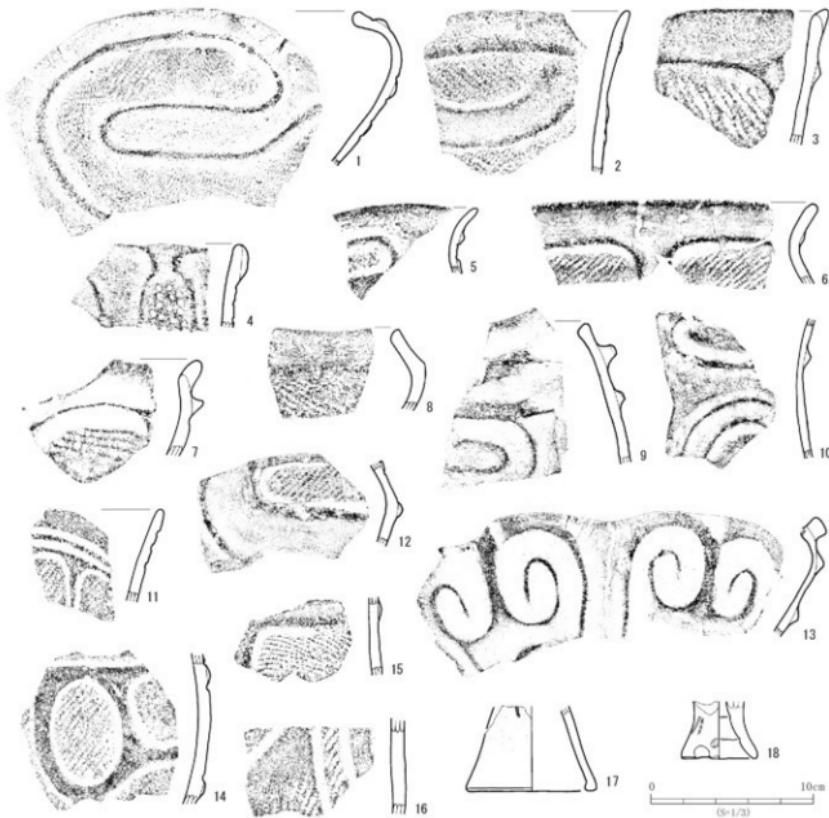
〔出土遺物〕 (第105～108図、図版150～152)

堆積土中および床面から出土した土器・石器を第105～108図に示した。いずれも堆積土中から検出されたもので、土器では主体となる深鉢・鉢の他、頸部が括れる壺形の器形のもの(A-70141)や台付鉢(A-70153・70154)などを見られ、土製品では土製円盤と土偶の脚部が出土している。石器は石鏃3点、石箋1点、石匙2点、スクレイバー5点、クサビ形石器1点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片10点、礫石器17点、石皿1



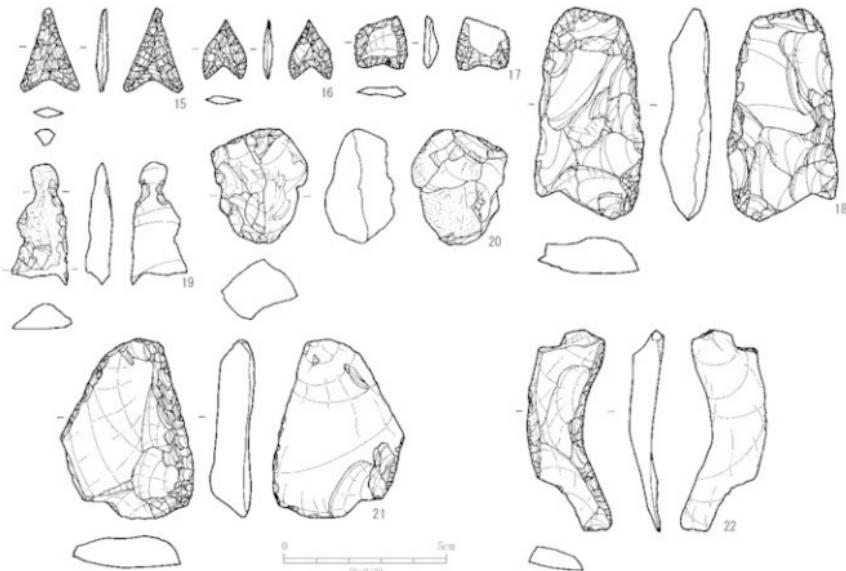
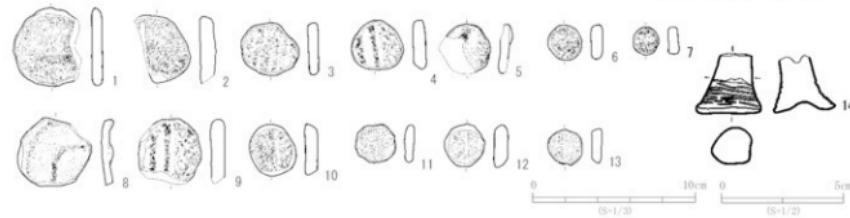
No.	登録番号	層位	器形・部位	文様等	備考	写真回数
1	A-70138	4層	江戸鉢・口縁落・脚部	口縁部・脚部・楕円区画時代文、縦文LR網目・斜め施文		154-1

第105図 SI709 積穴住居跡出土遺物（1）



號	登錄番号	場所	器形・部位	文様等	備考	参考範例
1	A-70137	1層	鉢・口縁部	(1)子代区網目硫文、先端縞文LR前～横位施文。	波狀口沿、二次燒成。	15b-27
2	A-70138	下層	深鉢・口縁部	波狀網目硫文、縞文LR前位施文。		15b-28
3	A-70139	4層	深鉢・口縁部	波狀網目硫文、縞文LR後位施文。		15b-25
4	A-70140	前下層	鉢・口縁部	波狀網目硫文、縞文。		15b-2
5	A-70141	4層	鉢・口縁部	波狀網目硫文、縞文RL施文。		15b-4
6	A-70142	2層	鉢・口縁部	波狀網目硫文、区面内縞文RL前位施文。		15b-8
7	A-70143	海鷲土	深鉢・口縁部	波狀網目硫文、区面内縞文LR前位施文。		15b-2
8	A-70144	下層	鉢・口縫部～斜部	口縫部・無文、斜部・縞文LR前位施文。		15b-9
9	A-70145	上層	鉢・口縫部	口縫部・無文。	把手割離。	15b-5
10	A-70146	上層	鉢・口縫部	口縫部・無文。		15b-10
11	A-70147	前下層	深鉢・口縫部	波狀、波状網目硫文、縞文縞文RL前位施文。	波狀口沿。	15b-6
12	A-70148	上層	深鉢・斜部	斜位区網目硫文、区面内縞文RL前位施文。		15b-12
13	A-70149	1層	鉢・斜部	波狀網目硫文。		15b-14
14	A-70150	前下層	深鉢・斜部	斜位、斜口網目硫文、縞文LR前位施文。		15b-11
15	A-70151	2層	深鉢・斜部	波狀網目硫文、縞文LR前位施文。		15b-7
16	A-70152	海鷲土	深鉢・斜部	平行波狀文、縞文RL前位施文。		15b-10
17	A-70153	下層	台形鉢・台盤	无縞文。	縞文の厚底小盤しない。	-
18	A-70154	1層	竹筒鉢・竹筒	沈縞文、斜突文。	縞文小盤。	-

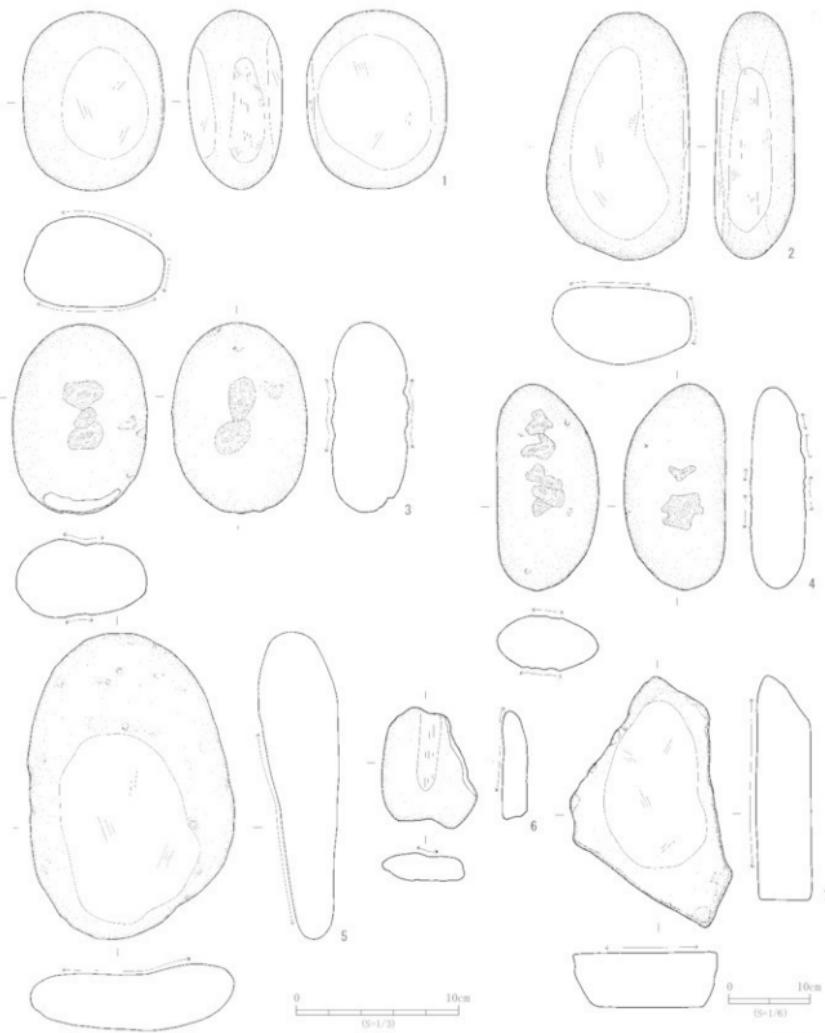
第106図 SiT09 積穴住居跡出土遺物（2）



No.	登録番号	場所	面影・部位	文様等	量	参考記録
1	P-7017	海側土	土削内盤	刮削破片利用。縞文不規。	重量 1.0g。表面の厚さ約1.5mm。	115-15
2	P-7018	上層	土削内盤	刮削破片利用。沈縞文。縞文上に施文。	重量 12.0g。	115-16
3	P-7019	下層	土削内盤	刮削破片利用。縞文 RL。施文。	重量 7.0g。	115-17
4	P-7020	最下層	土削内盤	刮削破片利用。施沈縞文。施太田。?施文。	重量 1.0g。表面の厚さ約1.5mm。	115-18
5	P-7021	上層	土削内盤	刮削破片利用。施縞文。	重量 0.05g。	115-19
6	P-7022	海側土	土削内盤	刮削破片利用。施文。	重量 3.0g。	115-20
7	P-7023	最下層	土削内盤	刮削破片利用。施文。	重量 2.0g。	115-21
8	P-7024	海側土	土削内盤	刮削破片利用。施縞文。	重量 11.5g。	115-22
9	P-7025	上層	土削内盤	刮削破片利用。施縞文。縞文 RL。新位施文。	重量 15.5g。	115-23
10	P-7026	最下層	土削内盤	刮削破片利用。施縞文 RL。施文。	重量 8.0g。	115-24
11	P-7027	上層	土削内盤	刮削破片利用。施文。	重量 3.7g。	115-25
12	P-7028	海側土	土削内盤	刮削破片利用。施縞文。	重量 5.0g。	115-26
13	P-7029	上層	土削内盤	刮削破片利用。施縞文。	重量 3.0g。	115-27
14	P-7030	上層	土偶・脚部	汎縞文。	S-1/3.	115-28

No.	登録番号	場所	面影	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	文様等	参考記録
15	Kao-7012	海側土	石器	珪質頁岩	15.0	17.0	3.0	0.05	垂直面欠陥。アスファルト付着。	115-29
16	Kao-7013	下層	石器	珪質頁岩	18.0	13.0	2.0	0.5	アスファルト付着。	115-30
17	Kao-7014	上層	石器	珪質頁岩	16.0	15.2	4.1	1.0	上半矢張。	115-31
18	Kao-7061	上層	石器	鈍玉	160.0	23.0	14.0	0.17	弓頭丸柄。部分的に被神丸有り。	115-32
19	Kao-7062	海側土	石器	鈍玉	168.0	17.0	1.8	0.05	縞型?。下半矢張。被神丸有り。	115-33
20	Kao-7063	上層	ツワビ形石器	鈍玉	34.0	29.7	20.8	18.1		115-34
21	Kao-7064	上層	ツワビ形石器	珪質頁岩	50.0	41.0	13.0	28.3		115-35
22	Kao-7065	海側土	ツワビ形石器	珪質頁岩	61.0	20.0	7.0	7.2		115-36

第107図 Si1709 穫穴住居跡出土遺物（3）



No.	登錄番号	場所	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	参考出典
1	Kcg-2010	廻下層	礫石器	安山岩	110.0	85.0	57.5	830.0	器2(楕1),	151-37
2	Kcg-2011	床面	礫石器	安山岩	125.0	85.0	49.5	890.0	器2(楕1),	151-38
3	Kcb-2012	廻下層	礫石器	安山岩	111.0	83.0	48.0	660.0	器2(楕2), 暫熱拵有り。	151-39
4	Kcb-2014	廻上層	礫石器	安山岩	127.0	63.0	34.0	290.0	器2(楕2),	151-40
5	Kdg-2008	廻上層	石器	安山岩	189.0	127.0	48.0	1,860.0	器1,	151-41
6	Kdg-2009	廻下層	石器	流紋岩	74.5	65.0	18.0	45.0	器1, 有漂砾石, 部分欠損,	152-2
7	Kdg-2007	下層	石器	安山岩	260.0	260.0	68.0	5,350.0	器1, S=1/6,	152-1

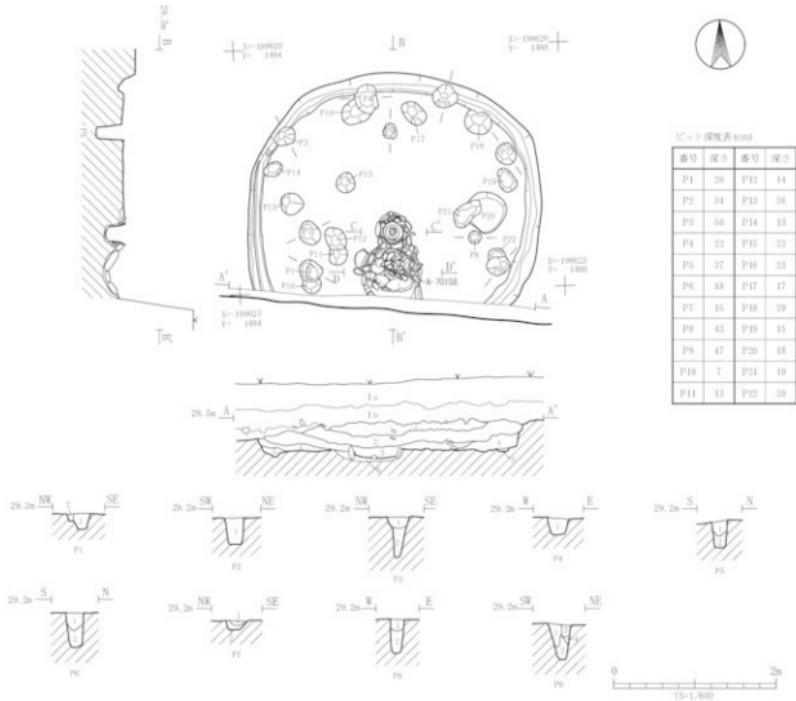
第108図 S1709 壁穴住跡出土遺物（4）

点、砥石2点が出土しており、その中から石鏃3点、石箟1点、石匙1点、クサビ形石器1点、スクレイバー2点、礫石器4点、石皿2点、砥石2点を図示した。

SI710堅穴住居跡（第109・110図、図版21）

【位置・検出面】第7次調査1区西側南寄りのG-41・42グリッドに位置し、M層上面で検出された。調査区の壁際で柱が検出されたことから南側には可能な限り調査区を拡張したが全体は明らかにできなかった。北側にはS I 702堅穴住居跡が存在している。

【新旧関係】SK7019土坑と重複しており、本遺構は土坑よりも古い。住居確認時に掘り下げを行った際に土坑は削平されてしまっていることから第109図の平面図には図示していない。



第109図 SI710 堅穴住居跡

遺構	場所	土色	土性	備考
堅穴	1 HYRK2 無機	粘土質シルト	地土少な、全体に深いV型の埋め戻しが広がる。	
	2 HYRK2 粘土	シルト質粘土	炭化物多量、V型埋め戻し、地土少な含む。	
	3 HYRK2 粘土	粘土質シルト	2層、細粒、各含物增加、遺物少。	
	4 HYRK2 粘土	粘土質シルト	炭化物多量、地土少な含む。V型埋め戻しがある。	
	5 HYRK2 C-E, 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粘土少量含む。	
壁の内	6 HYRK2 C-E, 黒褐色	粘土質シルト	地土少な含む。	
	7 HYRK2 粘土	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
P1	1 HYRK2 粘土	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
	2 HYRK2 粘土	粘土	V型埋め戻し少量含む。	
P2	1 HYRK2 無機	粘土	炭化物、地土少な含む。	
	2 HYRK2 粘土	粘土質シルト	炭化物を少含む。	
P3	1 HYRK2 C-E, 黑褐色	粘土質シルト	V型埋め戻し少量含む。	
	2 HYRK2 粘土	粘土	V型埋め戻し少量含む。	
P4	1 HYRK2 粘土	シルト質粘土	V型埋め戻し少量含む。	
	2 HYRK2 粘土	粘土	V型埋め戻し少量含む。	
	3 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	
	4 HYRK2 黑褐色	粘土	炭化物少量含む。	
P5	1 HYRK2 粘土	シルト質粘土	炭化物少量含む。	
	2 HYRK2 粘土	粘土	V型埋め戻し少量含む。	
	3 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	
	4 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	
P6	1 HYRK2 粘土	シルト質粘土	炭化物少量含む。	
	2 HYRK2 粘土	粘土	V型埋め戻し少量含む。	
	3 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	
	4 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	
P7	1 HYRK2 粘土	シルト質粘土	炭化物少量含む。	
	2 HYRK2 粘土	粘土	V型埋め戻し少量含む。	
	3 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	
	4 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	
P8	1 HYRK2 粘土	シルト質粘土	炭化物少量含む。	
	2 HYRK2 粘土	粘土	V型埋め戻し少量含む。	
	3 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	
	4 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	
P9	1 HYRK2 粘土	シルト質粘土	炭化物少量含む。	
	2 HYRK2 粘土	粘土	V型埋め戻し少量含む。	
	3 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	
	4 HYRK2 粘土	粘土	炭化物少量含む。	

〔規模・平面形〕南側の一部が調査区外となるため全体は不明であるが、平面形は南北2.8m以上、東西3.6mの円形を基調とするものと考えられる。

〔堆積土〕5層に分層される。住居中央に堆積する2～3層中から炭化物とともに多量の遺物が出土している。

〔壁面〕壁高は南壁断面で確認した西側の検出面から34cmであり、壁は周溝の底面からほぼ垂直またはやや開いた角度で立ち上がっている。

〔床面〕掘り方の底面であるN層を直接床面にしており、中央南側の炉に向かって緩やかに傾斜している。炉の周辺はその他の床面よりも若干硬く縮まっている。

〔柱穴〕床面から合計22個のピットが検出されているが、いずれも掘り方のみで柱痕跡が確認されたものはない。炉との位置関係や規模から柱穴を考えてみた場合にP3とP18、P2とP8、P4とP6など炉の長軸を主軸にした場合にはほぼ左右対称の位置関係にあり、またこの主軸線上に存在するP5などが主柱穴になる可能性がある。その他、壁際で検出されたピットは補助的な役割のものと考えられる。

〔周溝〕住居跡検出部分の壁際を全周している。規模は幅18cm、床面から底面までの深さは5cmであり、断面形はU字形である。

炉(第110図)

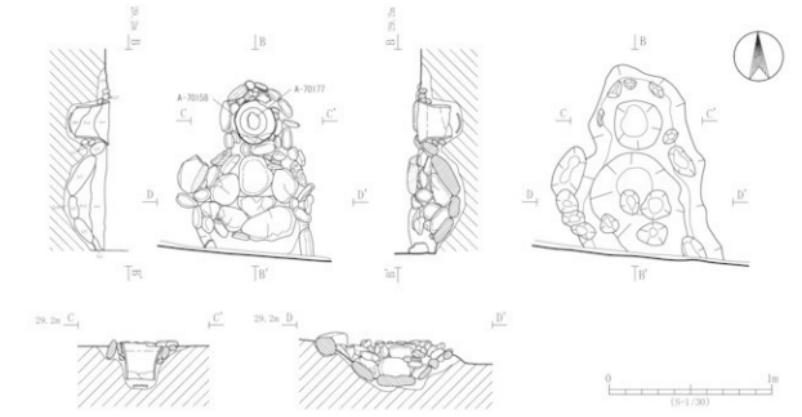
〔位置・方位〕住居中央から南側に存在している。長軸方向はN-2°-Eでほぼ南北方向である。

〔規模・平面形〕長さ108cm以上、最大幅96cmである。平面形は敷石石組部との境にくびれを有するダルマ形である。

〔構造〕土器埋設石壠部、敷石石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

〔土器埋設石壠部〕長さ40cm、幅39cm、床面から底面までの深さは24cmである。掘り方内には胴部下半～底部を欠いた深鉢(A-70158)が正位の状態で埋設され、その10cm外側には10～20cmの礫を配して土器との間に10cm未満の礫が充填されている。土器内の堆積土は3層に分層され、底面に深鉢の胴部破片(A-70177)が内面を上にした状態で設置されていた。

〔敷石石組部〕長さ54cm、幅96cm、床面から中央の敷石面までの深さは26cmである。20～30cm大の大型で扁平な礫



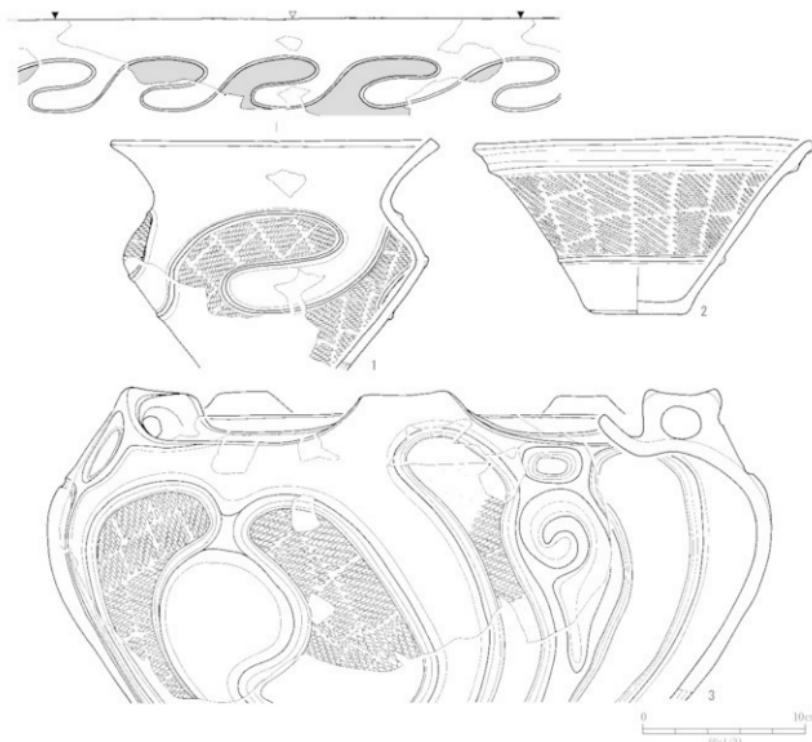
第110図 Si710 壁穴住居跡複式炉

を用いて底面および側面に平坦な面を上または斜めに傾けた状態で敷設し、これらの間には小型の礫を詰めている。中央の敷石から南側では火熱の影響を受けて礫が赤変した状況が認められる。堆積土に炭化物が含まれており、土器埋設石周辺部側からは土器と礫がまとった状態で出土している。

【掘り込み部】大部分が調査区外であり、長さ14cm以上、幅70cm以上、床面からの深さは5cmである。東側の壁際に大型で扁平な礫が底面に対して垂直に敷設されていたことから側壁には側石が伴うものと考えられる。

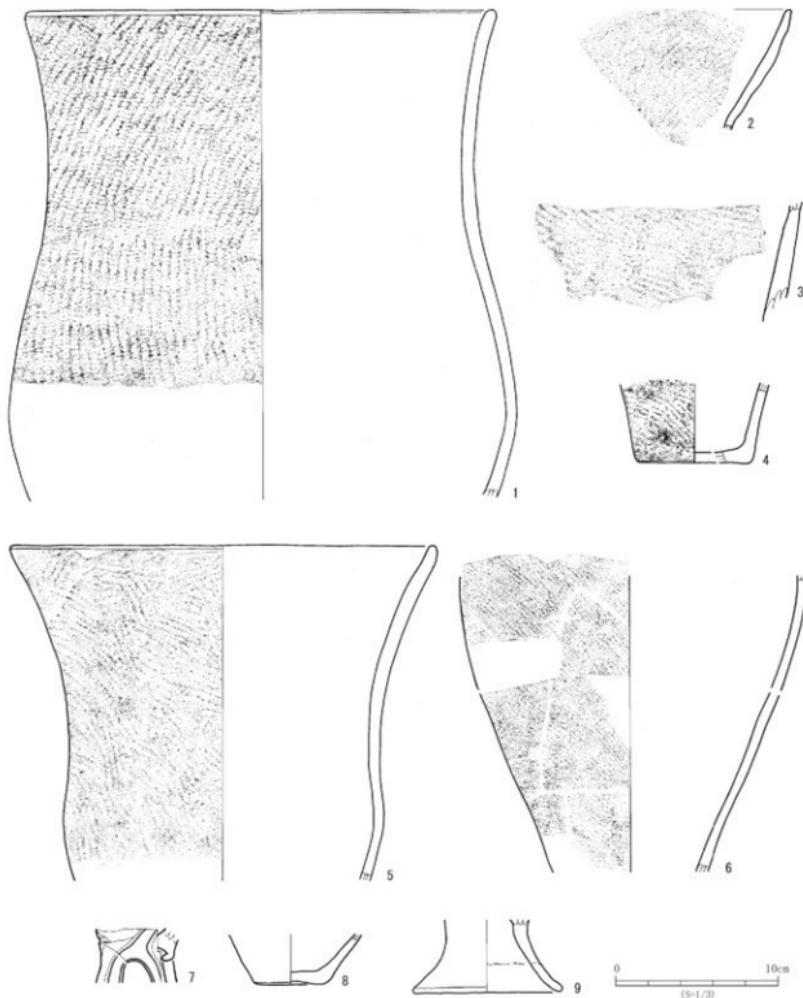
〔出土遺物〕(第111～114図、図版152・153)

堆積土中および炉や床面などから出土した土器・石器を第111～114図に示した。第111図の土器は床面で出土したものである。土製品では土製円盤と土偶が堆積土中から出土している。石器は石鎚1点、石錐1点、石匙1点、スクレイバー6点、二次加工のある剥片3点、微細剝離痕のある剥片9点、石核2点、礫石器12点、石皿2点が出土しており、石鎚1点、石錐1点、石匙1点、スクレイバー3点、礫石器3点、石皿1点を図示した。



第111図 SI710 積穴住居跡出土遺物（1）

No.	目録番号	層位	形状・部位	文様等	備考	参考範囲
1	A-79455	0~堆積土	鉢・口縁部~側底	口縁部・側底・無文・削部・溝付「」字状凹凸模様・縫文L形網・斜面無文		112-2
2	A-79456	床面	浅鉢・口縁部~側底	口縁部・側底・無文・削部・溝付縫文・縫文L形網無文		112-3
3	A-79457	床面	深鉢・口縁部~側底	側底・横内・C字状凹凸模様文・縫文内無文	把手1单位(縫文外側)寸引有り	112-3



第112図 SI710 積穴住居跡出土遺物（2）

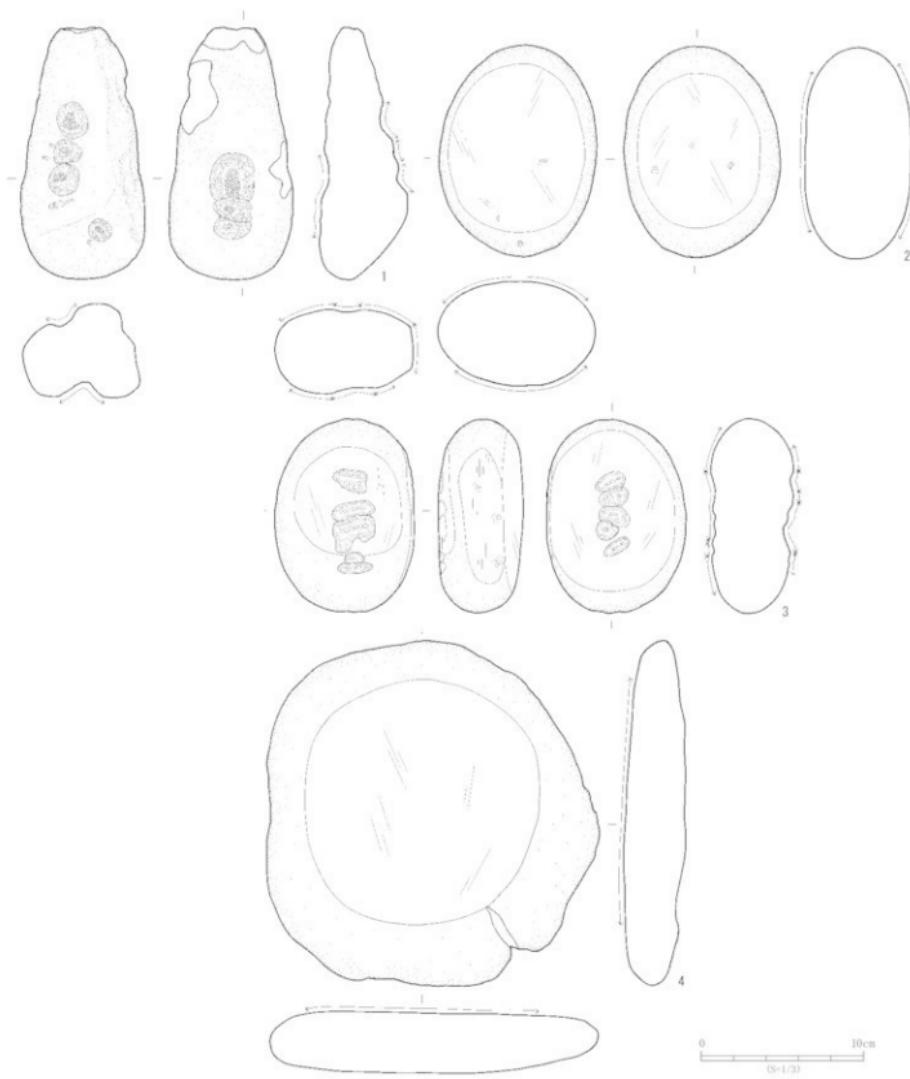


No.	登録番号	地	位	器形・断面	文様等	備考	参考文献
1.	A-70387	1~3層	跡・口縁部	網状隕面文。	—	—	152-7
2.	A-70388	1~3層	跡・口縁部	区画隕面文、区画内隕文RL斜位施文。	波状CHB。	—	152-8
3.	A-70389	1~3層	深跡・削部	区画隕面文、区画内隕文LR斜位施文。	—	—	152-10
4.	A-70390	1~3層	深跡・削部	区画隕面文、隕文RL斜位施文。	—	—	152-11
5.	A-70371	1~3層	深跡・削部	区画隕面文、隕文RL斜位施文。	—	—	152-13
6.	A-70372	1~3層	深跡・削部	区画隕面文、隕文RL斜位施文。	—	—	152-14
7.	A-70373	1~3層	深跡・削部	曲面、円柱形隕面施文、区画内隕文RL斜位施文。	—	—	152-15
8.	A-70374	1~3層	深跡・削部	区画平行沈隕文、隕文RL斜位施文。	—	—	152-16
9.	A-70375	1~3層	深跡・削部	区画隕面文、隕文RL斜位施文。	—	—	152-16
10.	A-70376	石面の上	深跡・削部	区画隕面文、隕文RL斜位施文。	—	—	152-17
11.	A-70377	伊・鉢面	跡・削部	区画隕面文、隕文RL斜位施文。	—	—	152-2
12.	P-70378	1~3層	土質凹盤	削痕被利用、隕文RL斜位施文。	重量775g。	—	152-3

（）複合

No.	登録番号	地	位	器形	石	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	参考文献
13.	Kab-2010	細砂土	石頭	珪質頁岩	15.2	12.7	2.8	0.5	—	—	152-4
14.	Kab-2010	細砂土	石頭	珪質頁岩	18.0	20.1	7.0	—	（2）隕面欠損。	—	152-5
15.	Kab-2010	細砂土	石頭	珪質頁岩	59.2	24.7	10.8	17.3	（2）ミミ部再生の可能性あり。	—	152-7
16.	Kae-2010	細砂土	スクレーパー	珪質頁岩	63.0	19.0	9.0	12.0	—	—	152-8
17.	Kae-2010	1層	スクレーパー	珪質頁岩	44.0	19.0	7.0	4.2	—	—	152-6

第113図 SI710 穫穴住居出土遺物（3）



品番	登録番号	埋 色	面 様	石 四	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	備 考	参考文献
1	Kcd-7015	海綿土	礫石器	ザイザイ	105.0	29.0	1.0	12.0	円4×3、部分欠損。	131-10
2	Kcd-7016	海綿土	礫石器	安山岩	130.0	37.0	0.5	118.0		131-9
3	Kcd-7012	海綿土	礫石器	安山岩	119.0	36.0	1.5	64.0	縦3横1), 円5×3。	131-11
4	Kcd-7009	海綿土	石器	安山岩	21.0	26.0	2.0	24.0	縦1、波状底有り。	131-12

第114図 SI110 積穴住居跡出土遺物（4）

SI711堅穴住居跡（第115・116図、国版22・110）

【位置・検出面】 第7次調査1区東側中央から南のF・G・36グリッドに位置し、N層上面で炉のみが確認されたものである。炉の北東側が搅乱によって大きく削平されているほか、炉の西側ではS X737風倒木痕の影響を受けている。第115図には炉および周辺からV層で検出されたピットを合成した。本遺構の西側にはS I 705堅穴住居跡が存在している。

【新旧関係】 第115図に示した範囲ではS X731焼土跡およびS X737風倒木痕が位置的に重複関係にあると思われるが、本遺構との直接の新旧関係は明確でない。

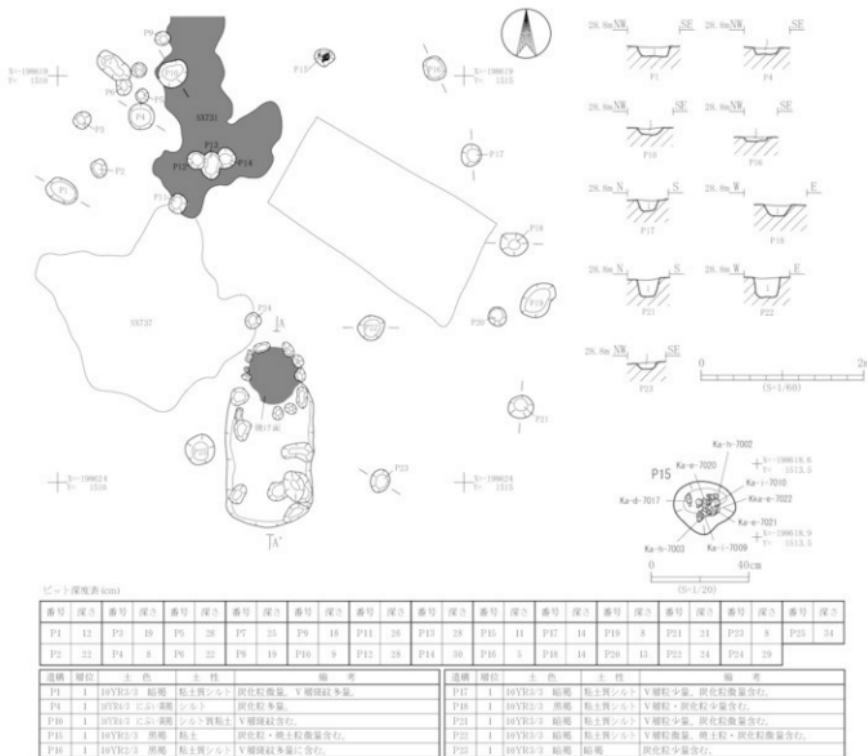
【規模・平面形】 壁や周溝が確認されず、全体の規模・平面形は不明である。

【堆積土】 炉の周辺の堆積土はⅢ層を基調とするものであり、炭化物を含んでいる。

【壁・面】 確認されなかった。

【床・面】 炉の検出面であるN層を床面にしていると考えられるが硬化面等は認められない。

【柱・穴】 第115図には炉の周辺から検出されたピット25個を示した。いずれも掘り方のみで柱痕跡が確認されたものはない。炉の長軸方向を中心とした左右対称になるピットなどは見られないが、南西側を除いた直径5.5～6.0m



第115図 SI711 堅穴住居跡

の環状にピットが検出されており壁柱穴である可能性も考えられ、この範囲が住居跡の範囲である可能性がある。

〔周溝〕確認されなかった。

炉（第116図）

〔位置・方位〕住居の平面形が不明であり、炉の位置関係も不明である。長軸方向はN-1°-Eではば南北方向である。

〔規模・平面形〕長さ228cm、最大幅108cmであり、平面形は掘り込み部に向かって広がる釣鐘形である。

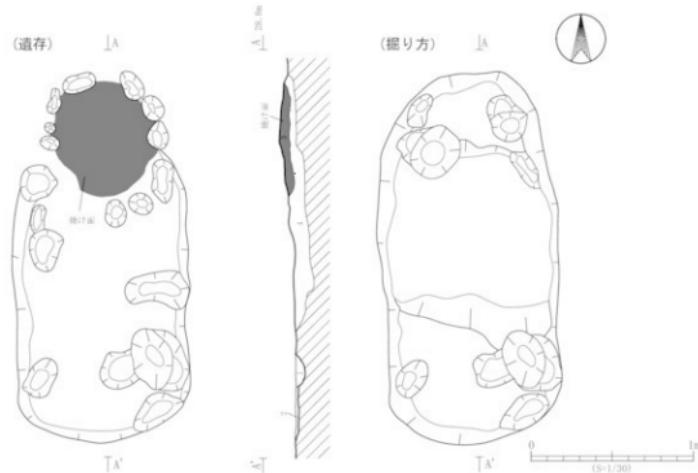
〔構造〕焼け面周辺の礫は残存していないが石畠部、掘り込み部からなる複式炉と考えられる。

〔石畠部〕長さ92cm、幅94cmである。中央には南北70cm、東西60cmの範囲に焼け面が広がり、断面では火熱の影響を受けて赤変する部分が7cm下までおよんでいた。南西側を除く周囲からはこれを囲む直径10～20cm、深さ5～10cmの小規模な凹みが検出されており、石畠部の礫が抜き取られたものと考えられる。

〔掘り込み部〕規模は136cm、幅108cmである。ほとんど掘り方に近い状態のため残存状態は非常に悪い。東西の壁際には直径20～30cm、深さ5～10cmの浅い凹みが認められ、これらの部分にも石畠部と同様に礫が敷設されていたものが抜き取られた可能性がある。

〔出土遺物〕（第117・118図、図版154）

炉を検出する際に周辺から出土した遺物を図示した。この中でP23から微細剥離痕のある剥片2点と剥片5点がまとめて検出され、第117図にその内の5点を図示した。また、P15（図版110）から石匙1点、スクレイバー4点、二次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片8点の計16点もの剥片石器が集積状に出土し、第117・118図にその内の13点を図示した。



第116図 SI711 墓穴住居跡複式炉

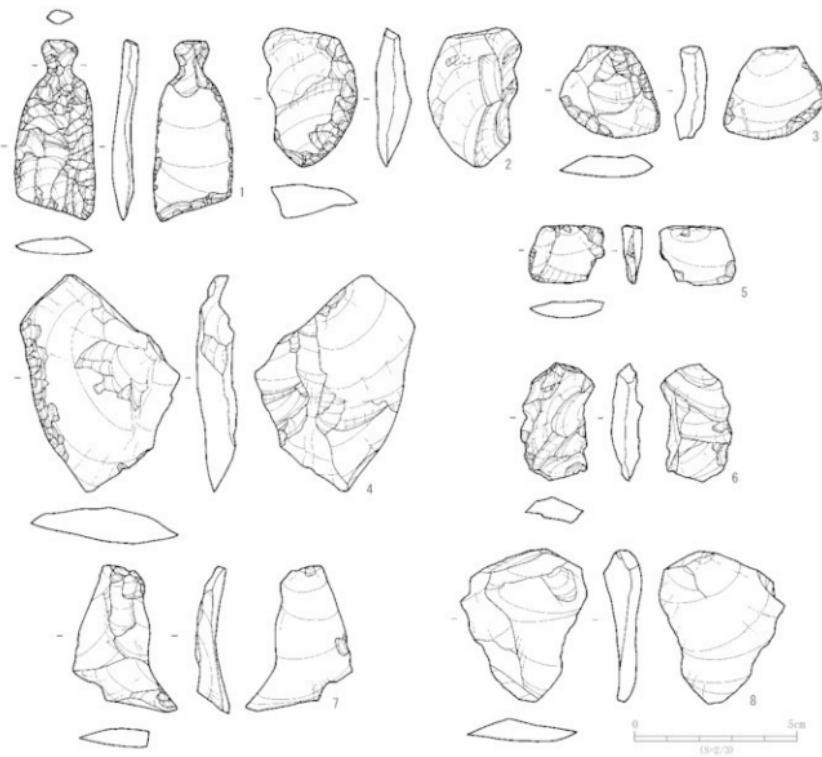
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
炉	1 10YR3/4 細砂	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。			2 10YR3/2 細砂	粘土	火熱による焼土化。	
	2 10YR4/4 粗	粘土質シルト	V型削刃工具。			4 10YR3/3 細砂	粘土質シルト	V型削刃量、炭化粒を微量含む。	



No.	登錄番号	場所	形状・部位	文様等	備考	参考図版
1	A-70178	板出面	深鉢・口縁部	抽象・区画隣接幾何、区画内不規則LR偏位。	-	154-1
2	A-70179	板出面	深鉢・口縁部	区画隣接幾何、織文LR偏位施文。	-	154-2
3	A-70180	板出面	深鉢・口縁部	隸書文、織文LR偏位施文。	-	154-3
4	A-70181	板出面	深鉢・口縁部	洪流文LR偏位施文。	-	154-4
5	A-70182	板出面	深鉢・制部	区画隣接幾何、織文LR偏位施文。	-	154-5
6	A-70183	板出面	深鉢・制部	区画隣接幾何、織文LR偏位施文。	-	154-6
7	A-70184	板出面	深鉢・制部	区画隣接幾何、織文不規。	器面の摩滅が激しい。	154-7
8	A-70185	板出面	深鉢・制部	抽象・区画隣接幾何、既成縞文LR偏位・斜位施文。	-	154-8
9	A-70186	板出面	深鉢・制部	区画隣接幾何、織文LR偏位施文。	-	154-9
10	A-70187	板出面	深鉢・制部	区画隣接幾何、織文LR偏位施文。	-	154-10
11	A-70188	板出面	深鉢・制部	区画隣接幾何、既成縞文LR偏位・斜位施文。	-	154-11
12	A-70189	板出面	深鉢・制部	区画隣接幾何、既成縞文LR偏位施文。	-	154-12

No.	登錄番号	場所	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	参考図版
13	Ka-17007	PIS堆積土	無縫隙陶片のある割れ	珪質砂岩	53.8	37.5	6.6	10.2	既耕状。	154-14
14	Ka-17008	PIS堆積土	無縫隙陶片のある割れ	珪質砂岩	57.0	36.5	5.5	10.2	既耕状。	154-15
15	Ka-17001	PIS堆積土	洞円	珪質砂岩	58.0	35.1	11.5	18.8	既耕状。	154-16
16	Ka-17002	PIS堆積土	洞円	珪質砂岩	41.6	27.3	6.9	7.5	既耕状。	154-17
17	Ka-17003	PIS堆積土	洞円	珪質砂岩	34.1	30.7	6.4	7.1	既耕状。	154-18

第117図 SI711 積穴住居出土遺物（1）



No.	登錄番号	場所	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	写真番号
1	Kad-7917	P15 残骸土	石器	珪質頁岩	55.5	24.5	5.9	8.2	集散状。	154-18
2	Kae-7836	P15 残骸土	スクレーパー	珪質頁岩	43.4	28.1	10.2	11.5	集散状。	154-19
3	Kae-7801	P15 残骸土	スクレーパー	珪質頁岩	38.9	27.4	7.8	7.8	集散状。	154-20
4	Kae-7822	P15 残骸土	スクレーパー	珪質頁岩	47.2	67.6	10.6	27.2	集散状。	154-22
5	Kah-7802	P15 残骸土	二次加工のあら削片	珪質頁岩	18.5	25.0	6.0	3.7	集散状。	154-21
6	Kah-7803	P15 残骸土	二次加工のあら削片	珪質頁岩	36.4	39.5	8.4	6.2	集散状。	154-23
7	Kah-7809	P15 残骸土	施前剥離面のあら削片(玉類)	珪質頁岩	50.0	27.0	7.5	8.0	集散状。	154-24
8	Kah-7810	P15 残骸土	施前剥離面のあら削片(珪質頁岩)	珪質頁岩	46.5	39.1	7.4	12.2	集散状。	154-25

第118図 SI711 積穴住居跡出土遺物（2）

SI712堅穴住居跡

【位置・検出面】第7次調査1区中央北寄りのD-39グリッドに位置し、SI706堅穴住居跡の調査後に周辺を掘り下げた結果、V層上面で複式炉のみが確認されたものである。また、炉の石囲部の北西側で検出されていた調査時にSX733焼土跡としたものは整理時に検討した結果、複式炉の残骸と判断されたことから、複式炉を伴う堅穴住居跡をSI712A堅穴住居跡、旧SX733焼土跡の炉を伴う堅穴住居跡をSI712B堅穴住居跡とした。新旧関係はSI712B堅穴住居跡（古段階）→SI712A堅穴住居跡（新段階）であるが、同一住居跡の炉の作り替えの可能性もある。第119・120図には炉および周辺からV層上面で検出されたピットを合成して示しているが、東側に隣接して存在するSI706堅穴住居跡のピットとの帰属も不明であることから、一部重複して掲載している。東側にはSI703、南西側にSI709、西側にSI707堅穴住居跡が存在している。

【新旧関係】位置的に東側に存在するSI706堅穴住居跡と重複関係にあると考えられる。SI706堅穴住居跡の炉が本遺構の検出面よりも上面であることから本遺構が古いものと考えられる。

SI712A堅穴住居跡（第119図、図版22）

【規模・平面形】壁や周溝が確認されておらず全体の規模や平面形は不明である。

【堆積土】SI706堅穴住居跡の炉の検出面から5cm程下げた段階で検出されているため堆積土はほとんど残存していないが、SI706堅穴住居跡と同じⅢ層を基調としたものと考えられる。炉の長軸方向の延長部分にあたる南側の50cm×25cmの範囲で厚さ5cm程の粘土がまとめて検出されている。

【壁・面】確認されなかった。

【床・面】炉の検出面であるN層を床面にしていると考えられるが硬化面などは認められない。

【柱・穴】炉の検出面では確認されなかったためV層上面まで掘り下げた段階でピットを検出しており、炉の周辺のピット35個を図示した。いずれも掘り方のみで柱痕跡が認められるものはない。炉の長軸方向を主軸とした場合に左右対称の配置となるピットでは、P4とP25、P15とP22、P2とP32等があり柱穴になる可能性もある。

【周・溝】確認されなかった。

炉（第119図）

【位置・方位】住居の平面形が不明であり、炉の位置関係も不明である。石囲部の南側と掘り込み部は重複するピットによって一部壊されている。長軸方向はN-14°-Eである。

【規模・平面形】長さ144cm、最大幅88cmで、平面形は梢円形である。

【構・造】石囲部、掘り込み部からなる複式炉である。

【石囲部】長さ76cm、最大幅88cmである。中央よりやや北側では扁平な礫を垂直に埋設した境石によって仕切りがされており北側を石囲部A、南側を石囲部Bとした。石囲部全体を覆うようにまとまって厚さ6cm前後の粘土が検出され、石囲部Aでは粘土下で炭化物が底面全体に広がっていた。石囲部Aは長さ32cm、幅56cm、床面から底面までの深さは14cmである。壁際の10cm前後の小型の礫には、火熱の影響による赤変が見られた。石囲部Bは長さ44cm、幅88cm、床面から底面までの深さは16cmである。側壁には石囲部A同様に10cm前後の小型の礫とやや大きめの20cm程の礫が用いられていた。

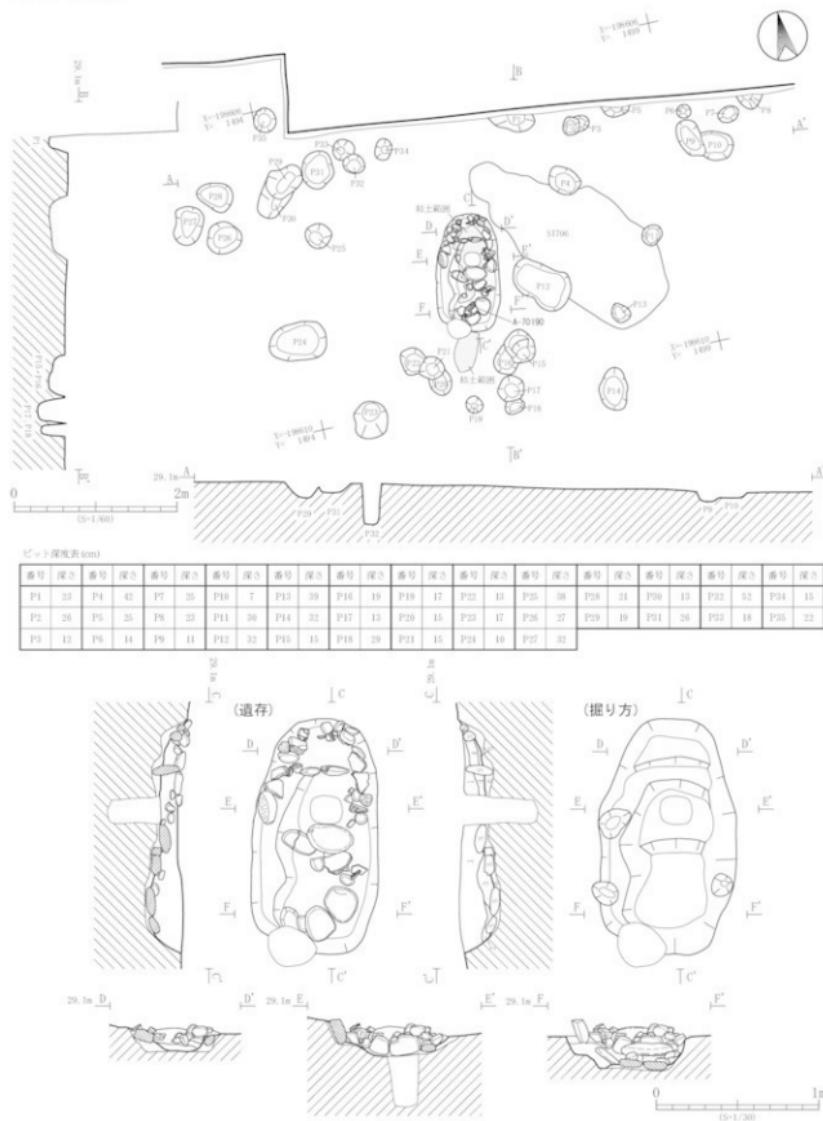
【掘り込み部】長さ68cm、幅78cm、床面から底面までの深さは16cmである。南側では20cm程の礫が平坦面を上にした状態で検出されているが、敷石石組部の残存あるいはSI712B堅穴住居跡の炉の残存である可能性もある。

SI712B堅穴住居跡（第120図、図版22）

【規模・平面形】壁や周溝が確認されておらず全体の規模や平面形は不明である。

【堆積土】SI712A堅穴住居跡に削平されて残存していないものと考えられる。

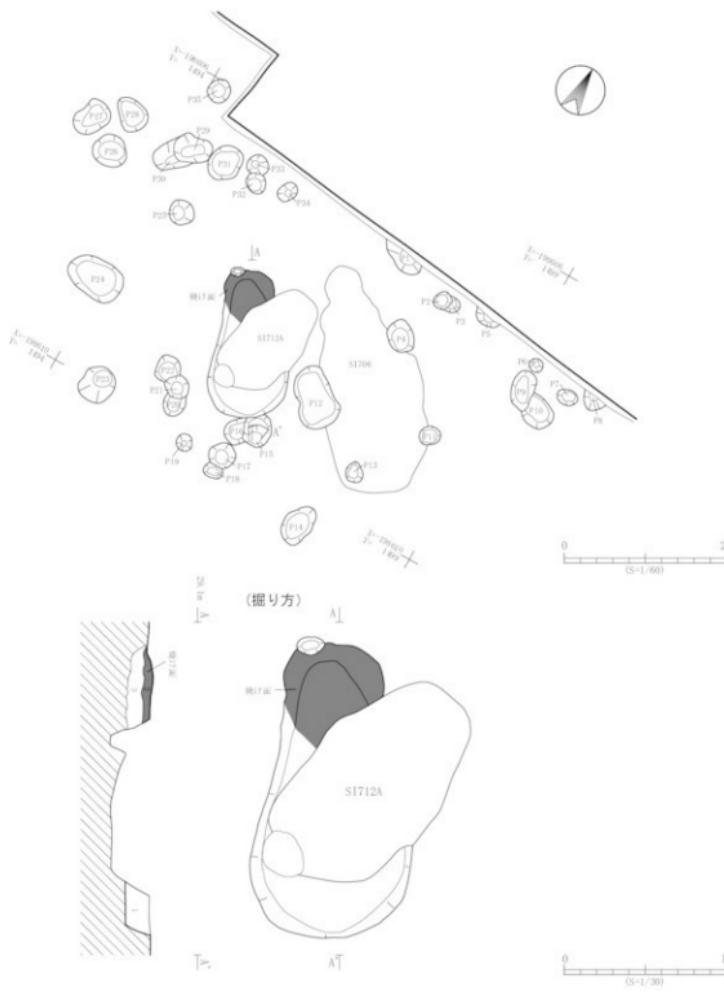
【壁・面】確認されなかった。



第119図 Si1712 A型穴住居跡

【床・面】炉の検出面であるN層を床面にしていると考えられるが硬化面などは認められない。

【柱・穴】SI712A堅穴住居跡と分離できなかったため、同じピットを図示した。炉の長軸方向を主軸として左右対称の配置となるピットではP1とP24、P12とP21等がある。住居跡北側が調査区外になっており不明な部分もあるがP27・35も柱穴になる可能性がある。



第120図 SI712 B 堅穴住居跡

【周溝】確認されなかった。

炉(第120図)

【位置・方位】住居の平面形が不明であり、炉の位置関係も不明である。長軸方向はN-29°-Wである。

【規模・平面形】長さ182cm、最大幅96cmで平面形は釣鐘形である。

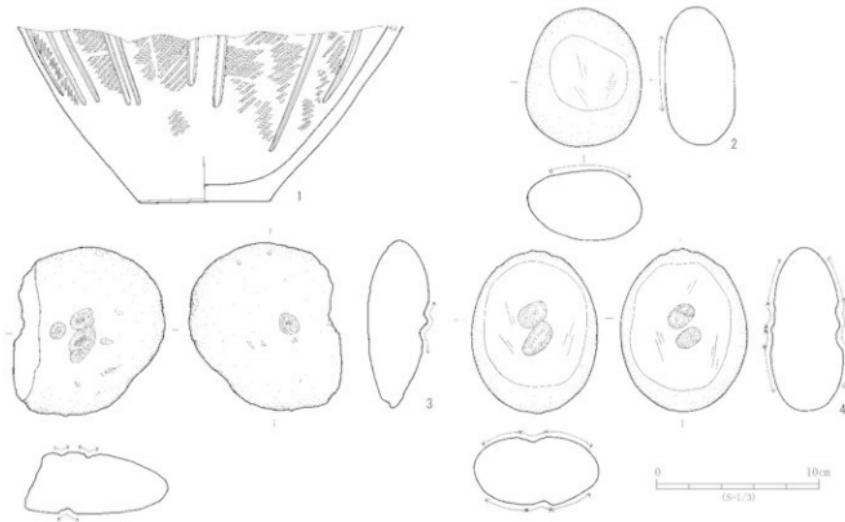
【構造】S I 712A堅穴住居跡の炉によって焼かれていることから遺存状態は悪いが、石組部、掘り込み部からなる複式炉と考えられる。

【石組部】長さ66cm、幅60cmの焼け面のみが検出されている。周囲から縁石は検出されていないが、S I 701・703堅穴住居跡の炉に類似していることなどから石組部と判断した。北側で一ヵ所だけ検出された凹みは礫が抜き取られた痕跡と考えられ、調査時には礫がまわるという認識がなかったことからその他の部分のものを見落としている可能性もある。

【掘り込み部】規模は長さ116cm、幅96cm、検出面から底面までの深さは14cmである。S I 712A堅穴住居跡炉で検出されている礫が本遺構の敷石であった場合は敷石石組部になる可能性もある。

【出土遺物】(第121図、図版154)

本遺構はS I 706堅穴住居跡の床面の下で検出されていることから、堆積土がほとんど残存していないため出土遺物は少ない。土器はS I 712A炉の掘り込み部で粘土とともに検出された土器1点を図示した。石器は礫石器5点、石皿2点が出土しており、礫石器3点を図示した。



No.	登録番号	場所	形状・部位	文様等	備考	参考文献		
1	A-I-70100	入野・海野上	深鉢・鉢部	縁位平行弦波文、滑赤面文B1、縁位施文		参考文献		
2	Kca-9119	海野上	礫石器	安山岩	84.2 70.0 84.2 70.0 84.2 70.0	42.0 305.0 42.0 305.0 42.0 305.0	縁1. 縁1. 縁1.	参考文献
3	Kcb-7010	海野上	礫石器	安山岩	107.0 187.0	77.0 (3,180.0) (79.4-1)	77.0 77.0	参考文献
4	Kcd-7012	海野上	礫石器	安山岩	100.0	77.0 42.5 411.0	77.0 77.0 77.0	参考文献

第121図 SI712A・B堅穴住居跡出土遺物

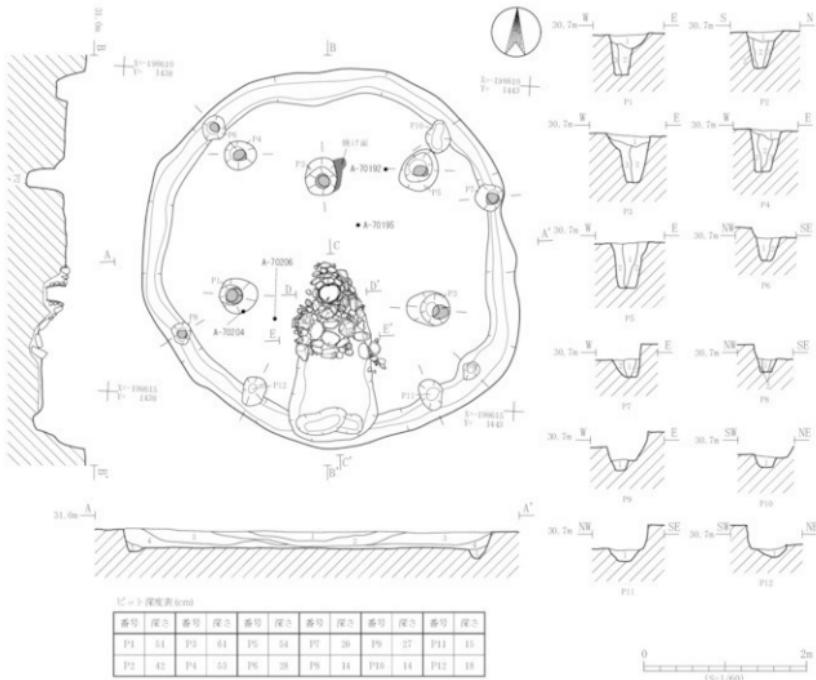
SI714堅穴住居跡（第122・123図、国版23）

【位置・検出面】 第7次調査2区中央南西寄りのE-50・51グリッドに位置し、VI層上面で検出された。西側にはS I 716堅穴住居跡をはじめとする4軒の堅穴住居跡が密集した状態で検出されている。

【新旧関係】 本遺構と重複する遺構はない。

【規模・平面形】 平面形は直径4.6mの円形である。

【堆積土】 暗褐～黒褐色粘土質シルト層を主体とするもので5層に分層される。1～2層の炉の上層にあたる部分では炭化物を多量に含み、多くの遺物が出土している。



第122図 SI714 堅穴住居跡

遺構	層位	土 色	土 性	備 考	遺構	層位	土 色	土 性	備 考
堅穴	1	HYRC-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、燒土板を少量含む。	1	HYRC-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	
	2	HYRC-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、V型縫を少量含む。小礫や多い。	2	HYRC-3 黒褐色	粘土質シルト	V型縫を少量含む(柱根跡)。	
	3	HYRC-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物少量、燒土板を微量含む。	3	HYRC-3 黑褐色	粘土質シルト	V型縫を多量に含む。	
	4	HYRC-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含むした焼土板を多量、燒土板を微量含む。	4	HYRC-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む(柱根跡)。	
廻溝	5	HYRC-2/4 黒褐色	粘土質シルト	V型縫を少量含む。	5	HYRC-2/4 黒褐色	粘土質シルト	V型縫を少量含む。	
	1	HYRC-2 黑褐色	砂質シルト	炭化物を多量に含む。	6	HYRC-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	
	2	HYRC-2 黑褐色	砂質シルト	炭化物少量、V型縫を少量含む(柱根跡)。	7	HYRC-2 (C-E) 黑褐色	砂質シルト	V型縫を少量含む。	
P1	1	HYRC-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	8	HYRC-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	
	2	HYRC-2 黑褐色	砂質シルト	V型縫を少量含む(柱根跡)。	9	HYRC-2 黑褐色	粘土質シルト	V型縫を少量含む。	
	3	HYRC-2 (C-E) 黑褐色	砂質シルト	V型縫を少量含む。	10	HYRC-2 黑褐色	粘土質シルト	V型縫を少量含む。	
P2	1	HYRC-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	11	HYRC-2 黑褐色	粘土質シルト	V型縫を少量含む。	
	2	HYRC-2 黑褐色	砂質シルト	V型縫を少量含む(柱根跡)。	12	HYRC-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む(柱根跡)。	
	3	HYRC-2 (C-E) 黑褐色	砂質シルト	V型縫を少量含む。	13	HYRC-2 (C-E) 黑褐色	砂質シルト	V型縫を少量含む。	
P3	1	HYRC-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	14	HYRC-2 黑褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む(柱根跡)。	
	2	HYRC-2 黑褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。	15	HYRC-2 黑褐色	砂質シルト	V型縫を少量含む(柱根跡)。	
	3	HYRC-2 (C-E) 黑褐色	砂質シルト	V型縫を少量含む。	16	HYRC-4 黑褐色	砂質シルト	V型縫を少量含む。	

【壁面】壁高は20cmで、壁は周溝の底面からやや開いた角度で立ち上がる。

【床面】掘り方の底面であるM層を直接床面にしているため細かい凹凸が認められるが全体的に平坦である。

【柱穴】床面および周溝から12個のピットが検出され、P1～8では柱痕跡が確認されている。炉の長軸方向を主軸とした場合にP1とP3、P4とP5が左右対称の位置関係にあり4本柱の主柱穴構造をもつものと考えられる。その他、主軸の延長線上に位置しているP2についてもこれらのピットと同等の規模を有している事などから主柱穴になる可能性もある。また周溝から検出されたP6とP10、P8とP9、P11とP12も左右対称の配置をとり、主柱穴の外側に位置している点で両者の関連性がうかがえる。

【周溝】炉の部分を除く壁の内側で検出された。幅17～41cm、深さ20～35cmで、M層を底面としていることから凹凸が認められるがほぼ平坦である。断面形はU字形である。

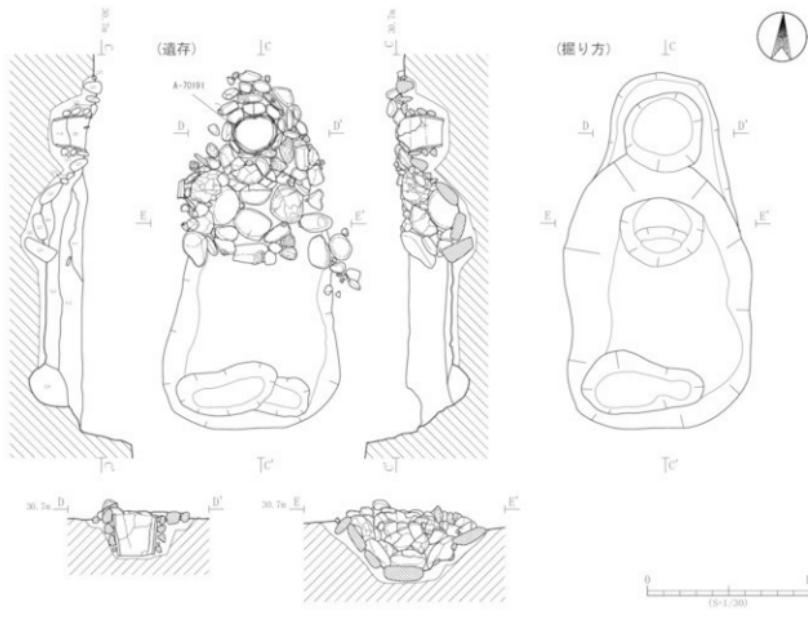
(その他の施設) P2東側で焼け面が1ヵ所確認されている。長さ40cm、幅15cmの範囲で火熱の影響により床面が4cm程赤変した状況が認められた。

炉 (第123図・図版23)

【位置・方位】住居南側に位置する。長軸方向はN-3°-Wのはば南北方向である。

【規模・平面形】長さ220cm、最大幅105cmである。平面形は掘り込み部側が「ハ」の字状に開く釣鐘形である。

【構造】土器埋設石組部、敷石石組部、掘り込み部からなる複式炉である。



遺構	場所	土色	土性	備考	遺構	場所	土色	土性	備考
炉	1 HYSR-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化灰、黒色樹皮少量、礫土粒を少量含む。		炉	5 HYSR-4 白褐色	粘土質シルト	炭化灰少量、礫土粒を微量含む。小磚・砂多い。	
	2 HYSR-2 白褐色	粘土質シルト	炭化灰少量、V形状を少量含む。小磚やや多い。			6 HYSR-4 白褐色	粘土質シルト	炭化灰少量、礫土粒を少量含む。	
	3 HYSR-2 白褐色	粘土質シルト	炭化灰少量、礫土粒を微量含む。小磚を含む。			7 HYSR-2 白褐色	粘土質シルト	炭化灰少量、礫土粒を少量含む。	
	4 HYSR-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化灰多量、炭化灰、礫土粒を微量含む。			8 HYSR-4 白褐色	粘土質シルト	砂粒少量、炭化灰を微量含む。	

第123図 Si714 堪住居跡複式炉

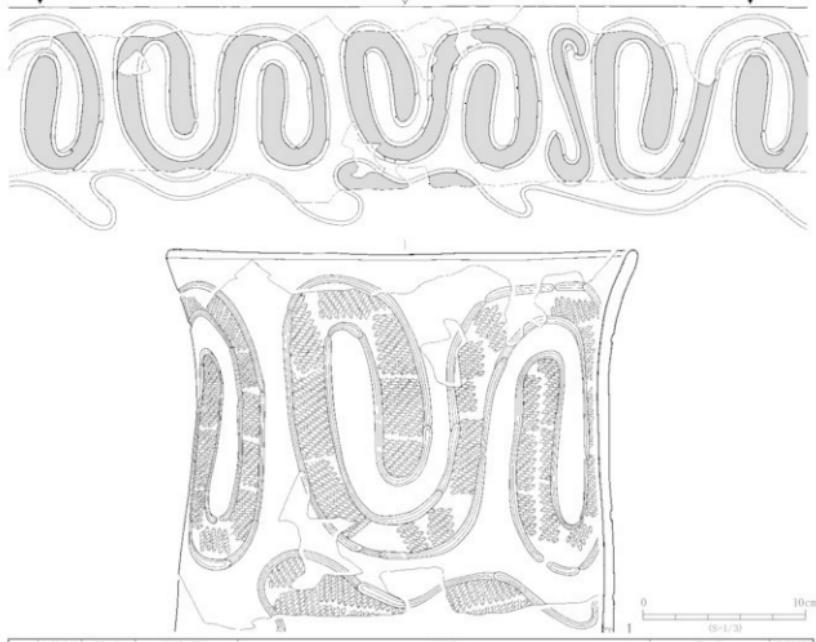
【土器埋設石圓部】長さ56cm、幅50cmであり、床面から埋設土器の底面までの深さは26cmである。胴部下半を欠いた深鉢（A-70191）が正位の状態で埋設され、その外側に10～15cmの礫を用いて一部は三重に囲まれ、掘り方と土器の間は底面付近まで小型の礫で埋められている。堆積土は2層に分層され、底面付近では火熱の影響により若干赤変した部分が認められる。

【敷石石組部】長さ60cm、幅86cmであり、床面から底面の敷石までの深さは32cmである。20～30cmの大型で扁平な礫を底面および側面に平坦な面を上または斜めに傾けた状態で敷設しており、これらの間は小型の礫によって埋められている。敷石の中央から南側では火熱の影響を受けて礫が赤変した状況が認められる。堆積土中から土器とともに多くの礫が検出された。

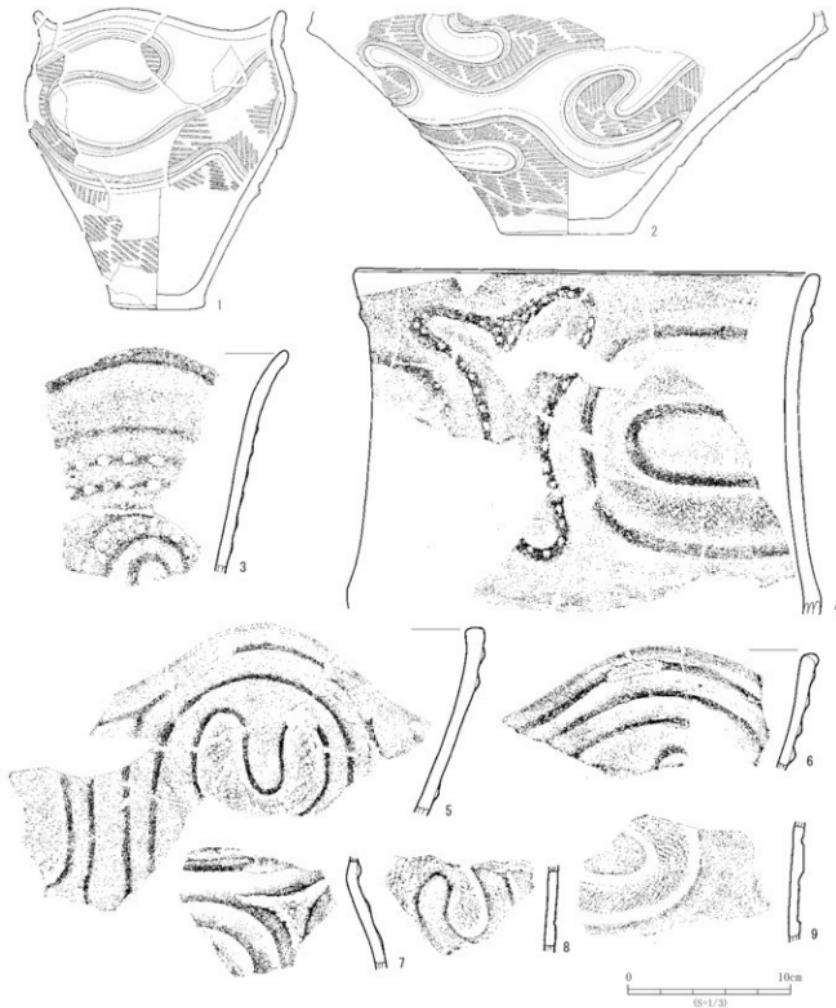
【掘り込み部】長さ104cm、幅105cm、床面から底面までの深さは30cmである。平面形は隅丸長方形で、側壁に側石は認められない。底面は概ね平坦である。南側の壁際では長さ48cm、幅30cmの梢円形が2基連結したような不整形の落ち込みが認められ、深さは12cmである。敷石石組部側の底面から深鉢の底部（A-70213）が出土した。

【出土遺物】（第124～130図、図版155～157）

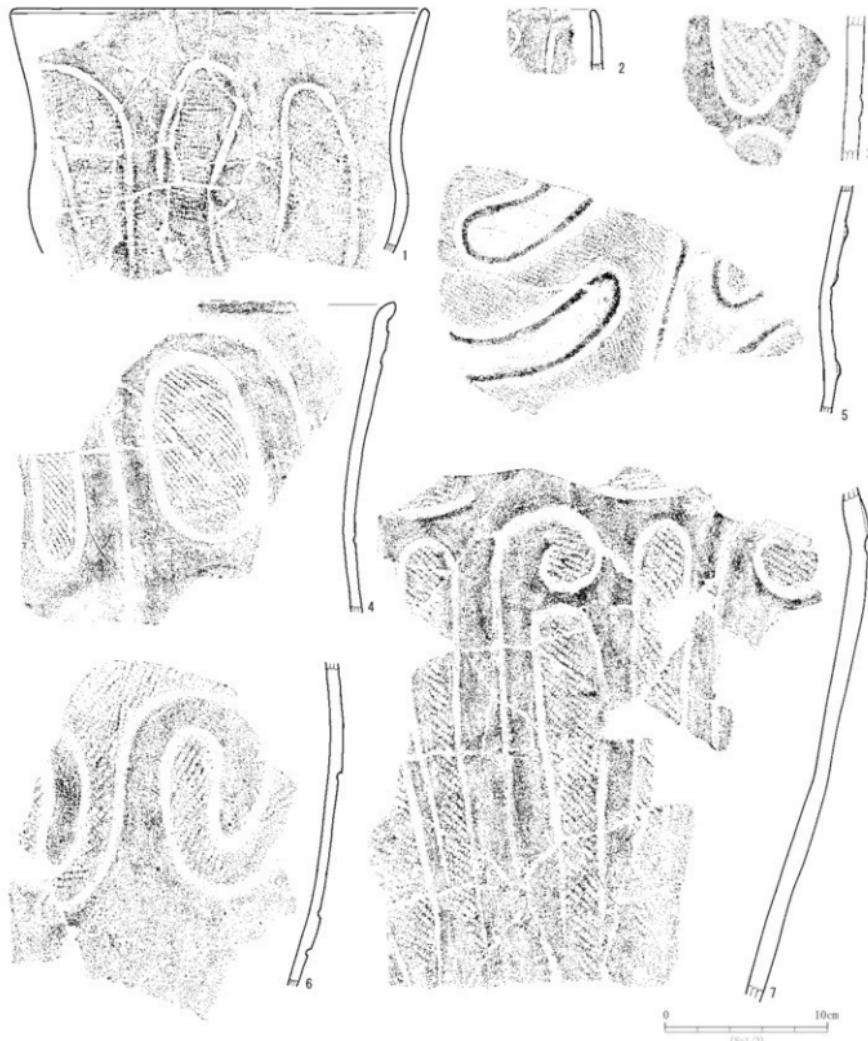
本遺構からは整理コンテナ10箱分の多量の遺物が出土している。堆積土中および床面から出土した土器・石器を第124～130図に示した。第124図（A-70191）のIは複式炉の土器埋設石圓部に埋設されていた土器である。胴部下半から底部を欠いており、「S」字状または横「S」字状沈線区画文内には磨消繩文RLが施される。堆積土中から出土した土器は深鉢・浅鉢が主体であるが、器台や台付きのものも見られる。土製品では土製円盤10点とミニチュ



第124図 SI714 積穴住居跡出土遺物（1）

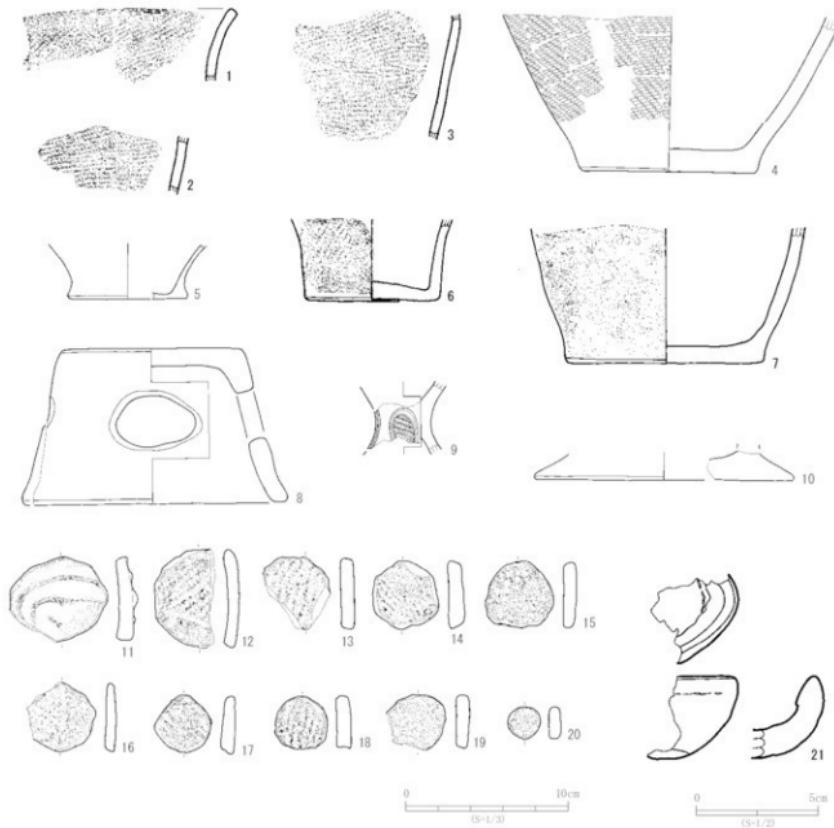


第125圖 Si714 嚴穴住居出土遺物（2）



No.	登録番号	層	性質	量形・面積	文様等	施考	参考地點
1	A-70301	下層	深鉢・口縁部～胴部	〔U〕字状・「△」状凸凹文、磨消繩文L前後部・斜位施文。	—	—	150-10
2	A-70302	椚出面	深鉢・口縁部	丸繩文。	—	—	150-2
3	A-70303	椚出面	深鉢・胴部	凸凹文、磨消繩文L前後部施文。	—	—	150-1
4	A-70304	积・上層	深鉢・口縁部～胴部	桶内・「△」状凸凹文、磨消繩文L前後部施文。	—	—	150-4
5	A-70305	3・4層	深鉢・胴部	凸凹文、繩文LR継続・斜位施文。	—	—	150-3
6	A-70306	4層	深鉢・胴部	〔U〕字凸凹文、丸繩文T部・斜位施文。	—	—	150-6
7	A-70307	3・4層	深鉢・胴部	桶多・「△」字状凸凹文、磨消繩文LR継続施文。	—	—	150-5

第126図 SI714 竪穴住居跡出土遺物（3）



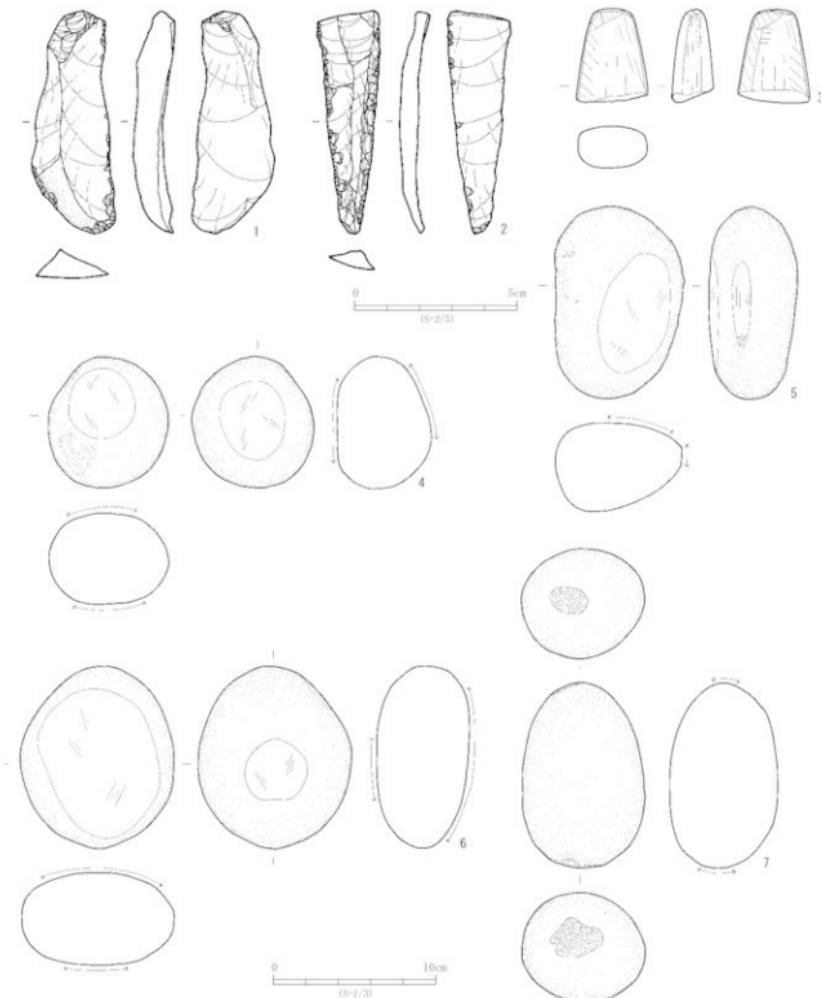
No.	發見番号	場所	器形・部位	文様等	備考	参考例
1	A-70308	2・3層	深鉢・口縁部	縫文B1, 領部無文。	2・3・4同。~	116-9
2	A-70309	3・4層	深鉢・制部	縫文B1, 領部無文。	1・2・3同。~	116-7
3	A-70310	3・4層	深鉢・制部	縫文B1, 領部無文。	1・2・3同。~	116-1
4	A-70311	伊・馬廄下	深鉢・制部~底部	制部：縫文LR, 領部無文。底部：ナデ。	~	117-4
5	A-70312	下層	深鉢・制部~底部	制部：無文。底部：ナデ。	~	~
6	A-70313	伊・道上	深鉢・制部~底部	制部：縫文B1, 領部無文。底部：ナデ。	~	117-2
7	A-70314	馬廄上	深鉢・制部~底部	制部：無文。底部：ナデ。	~	~
8	A-70315	馬廄上	台形・台面~脚部	台面：ナデ。脚部：無文。	孔有O。	117-3
9	A-70316	伊・道上	台形鉢・台部	(△) 狹区時代縫文。区向内縫文LR, 領部無文。	~	~
10	A-70317	3・4層	台形鉢・台部	無文。	台面：台部の可能性有り。~	~
11	P-70201	梯出面	土割内縫	制部破片利用。隣面文。	面積2.2g。	116-10
12	P-70202	梯出面	土割内縫	制部破片利用。沈縫文。縫文LR無文。	面積17.4g。	116-11
13	P-70203	梯出面	土割内縫	制部破片利用。縫文LR無文。	面積15.8g。	116-12
14	P-70204	梯出面	土割内縫	制部破片利用。縫文LR無文。	面積18.2g。	116-13
15	P-70205	梯出面	土割内縫	制部破片利用。縫文B1無文。	面積15.5g。	116-14
16	P-70206	梯出面	土割内縫	制部破片利用。縫文LR無文。	面積10.0g。	116-15
17	P-70207	馬廄上	土割内縫	制部破片利用。縫文LR無文。	面積5.8g。	116-16
18	P-70209	3・4層	土割内縫	制部破片利用。縫文LR無文。	面積14.0g。	116-17
19	P-70210	確認面	土割内縫	制部破片利用。縫文LR無文。	面積11.2g。	116-18
20	P-70241	下層	土割内縫	制部破片利用。無文。	面積3.7g。	116-19
21	P-7042	1層	ミネア・土器	無文。	S-1-20。	~

第127図 SI714 壺穴住居跡出土遺物（4）



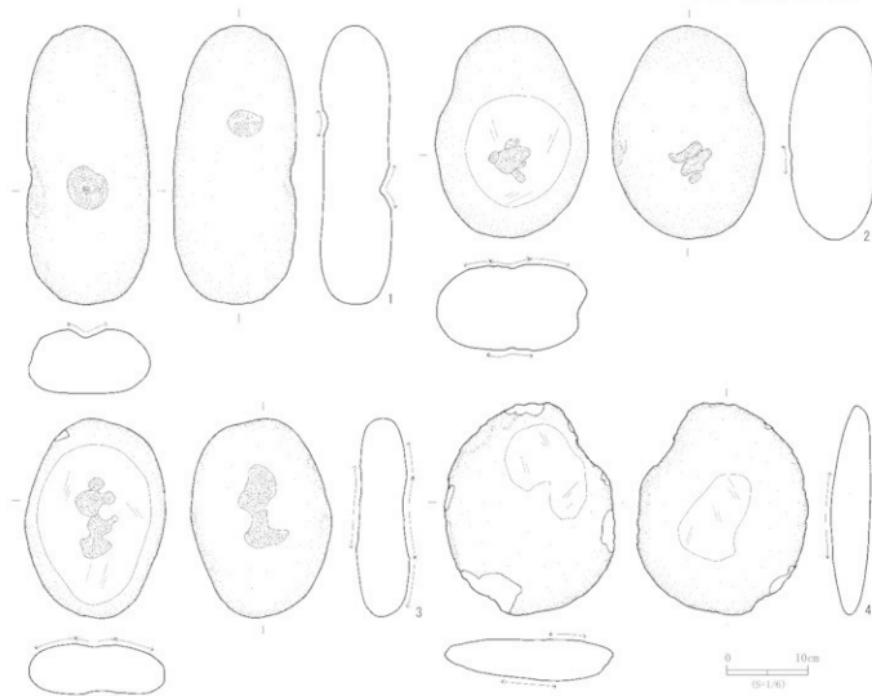
第128図 Si714 積穴住居跡出土遺物（5）

No.	登録番号	場所	器種	石質	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	備考	参考文献
1	Kae-7110	海螺土	石鏟	珪質頁岩	31.1	21.6	7.0	4.2		157-5
2	Kae-7117	上層	石鏟	灰紋岩	(28.7)	(16.3)	5.2	(1.0)先端・左側部欠損。		157-6
3	Kae-7111	海螺土	石鏟	珪質頁岩	18.6	23.1	9.0	2.6		157-7
4	Kae-7117	海螺土	石鏟	珪質頁岩	45.1	14.0	5.6	3.6		157-8
5	Kae-7117	下層	石鏟	珪質頁岩	48.5	43.2	8.3	10.0		157-9
6	Kae-7114	海螺土	石鏟	珪質頁岩	30.4	35.7	9.0	8.4		157-10
7	Kad-7115	石器	直削	珪質頁岩	72.1	23.9	13.8	19.9	網型。	157-11
8	Kad-7119	海螺土	石鏟	珪質頁岩	45.8	49.2	9.0	37.9	刃部端円・網型。	157-12
9	Kae-7022	上層	スクレーパー	珪質頁岩	48.0	19.2	4.6	2.7	下端欠損。	157-13
10	Kae-7024	下層	スクレーパー	珪質頁岩	46.2	25.2	6.9	16.8		157-14
11	Kae-7022	海螺土	スクレーパー	珪質頁岩	72.8	25.2	9.1	22.2		157-15



No.	登録番号	層位	圖版	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	参考文献
1	Kea-7010	堆積土	スケル/1-	珪質頁岩	67.5	23.2	9.0	15.1		157-16
2	Kea-7012	堆積土	スケル/1-	珪質頁岩	67.7	(19.4)	5.4	6.9	上端欠損,	157-17
3	Ka-7001	下層	磨制石器	珪質頁岩	69.2	(15.4)	(25.6)	(99.1)	刃面欠損,	157-18
4	Kea-7020	下層	磨石器	ディオイド(鰐鱚風岩)	81.0	21.0	37.5	494.0	標2,	157-19
5	Kea-7021	下層	磨石器	安山岩	118.2	80.0	53.0	207.0	標2(横1),	157-20
6	Kea-7022	下層	磨石器	ディオイド	112.0	94.5	37.0	309.0	標2,	157-22
7	Kca-7001	堆積土	磨石器	安山岩	114.0	76.0	47.0	295.0	標2(上・下),	157-23

第129図 SI714 壁穴住居跡出土遺物（6）



No.	登録番号	造形	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	参考図版
1	Xe-b-7011	球石器	泥炭岩質巖石	171.0	75.0	44.0	362.0	円1・1。風化によるひび割れ有り。	157-24	
2	Xe-d-7014	球石器	安山岩	132.5	94.0	53.5	960.0	管1、円1+1。	157-21	
3	Xe-d-7015	球石器	(ディサイ)	125.0	87.0	32.5	401.0	管1、円2+1。	157-25	
4	Xe-c-7010	丸石	安山岩	263.0	211.5	51.0	3,654.0	管2、部分剥落有り、S-1-K。	157-26	

第130図 SI714 壁穴住居跡出土遺物（7）

ア土器1点を示した。第127図21のミニチュア土器（P-7042）は上から見た場合に平面形が方形を基調とするものと考えられる。石器は石礫2点、石錐4点、石匙2点、スクレイパー7点、二次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片5点、石核2点、磨製石斧1点、疊石器17点、砥石1点が出土しており、石礫2点、石錐4点、石匙2点、スクレイパー5点、磨製石斧1点、疊石器7点、砥石1点を示した。

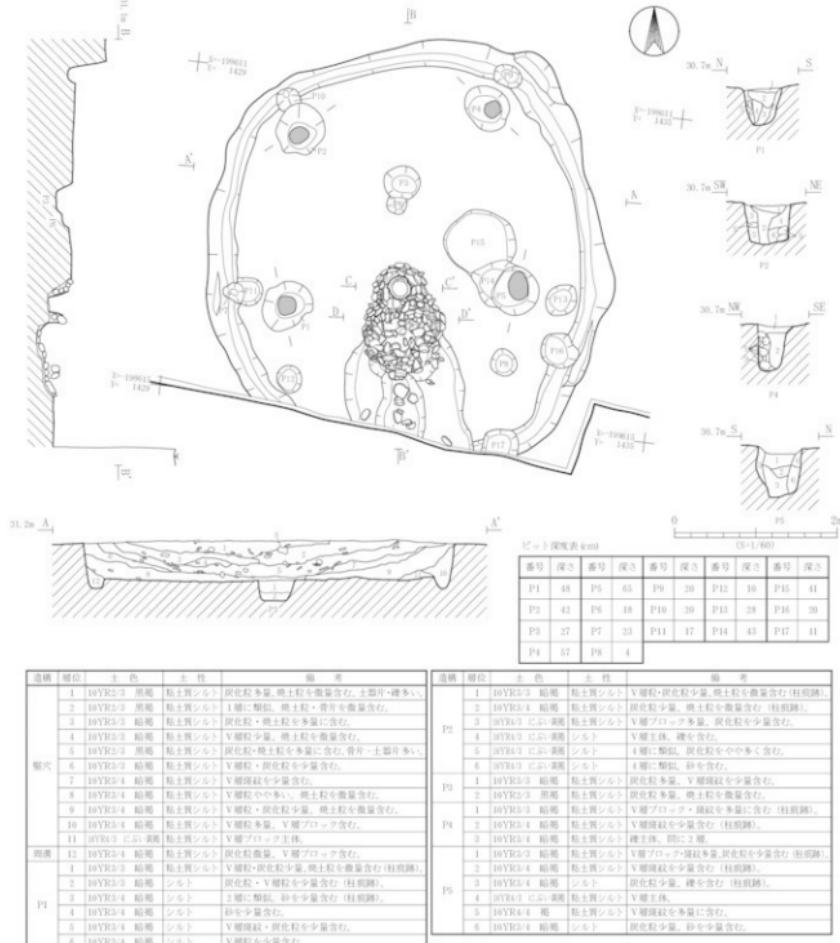
SI715堅穴住居跡 (第131図、図版24・25)

【位置・検出面】 第7次調査2区中央南寄りのE-52・53グリッドに位置し、V層上面で検出された。調査区の壁際で炉が検出されたことから南側の調査区の拡張を行ったが、炉と周溝の一部が調査区外となり全体は明らかに出来るなかった。本遺構の周辺では住居跡が密集して検出されており、東側にはS I 716・718堅穴住居跡等が存在する。

【新旧関係】 S I 716・718堅穴住居跡およびS K 7070土坑と重複しており、本遺構が最も新しい。

【規模・平面形】 平面形は南北4.8m以上、東西5.4mの円形を基調とするものと考えられる。

【堆積土】 黒褐色～暗褐色粘土質シルト主体で9層に分層される。中央付近に堆積する1～3層は炭化物を多量に



第131図 SI715 堅穴住居跡

含み、遺物も多く出土していることなどから人為堆積層と見られる。

【壁 面】壁高は45cmであり、壁は周溝の底面からほぼ垂直に立ち上がっている。

【床 面】掘り方の底面であるV層を直接床面にしている。炉の周辺の一部では硬く締まった部分も見られた。

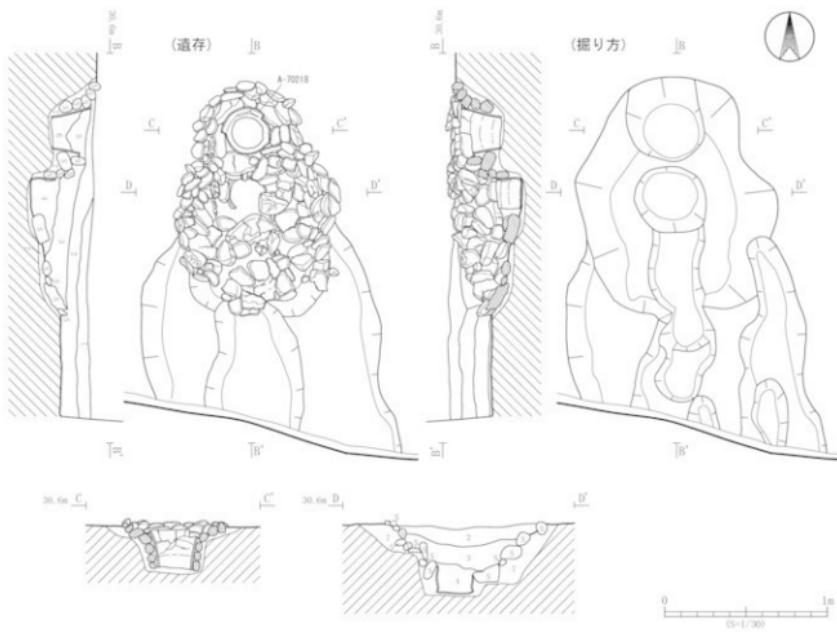
【柱 穴】床面および周溝から17個のピットが検出されており、P 1・2・4・5では柱痕跡が確認された。P 1・2・4では柱を据える際に埋土とともに埋め込まれたと考えられる礫が検出されている。これらは炉の長軸方向を主軸とした場合に左右対称の位置関係となり、その規模などから主柱穴と考えられる。また、これらの主柱穴の外側部分で検出されているP 9・10・11・13は位置関係から主柱穴と何らかの関係をもつものと推測され、その他にも正三角形の配置となる主軸の延長線上に存在するP 3、左右対称の位置関係にあるP 8・12は規模が小さく補助的な役割のものとも考えられる。

【周 溝】壁の内側を全周している。幅22~35cm、深さ8~14cmである。底面はほぼ平坦で、断面形はU字形である。

炉（第132図）

【位置・方位】住居南側に位置し、長軸方向はN-9°-Wである。

【規模・平面形】南側が調査区外であるため全体は不明であるが、長さ228cm以上、最大幅154cmである。平面形は土器埋設部付近でくびれるダルマ形である。



第132図 SI715 壁穴住居跡複式炉

遺構	層位	土 色	土 性	面 無
g)	1 10YR2-2 炉壁	粘土質シルト	炭化粒多量、焼土粒を微量含む。	
	2 10YR2-4 炉壁	粘土質シルト	炭化粒少々多い、焼土粒を少量含む。	
	3 10YR3-4 炉壁	粘土質シルト	炭化粒少量、焼土粒を微量含む。	
	4 10YR3-4 炉壁	粘土質シルト	V層相、炭化粒を少量含む。	

遺構	層位	土 色	土 性	面 無
壁	3 10YR3-4 炉壁	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
上盤	6 10YR3-3 炉壁	粘土質シルト	炭化粒・焼土粒を少量含む。	
掘り方	7 10YR3-3に近い実隙	粘土質シルト	V層間隙を多量に含む。	

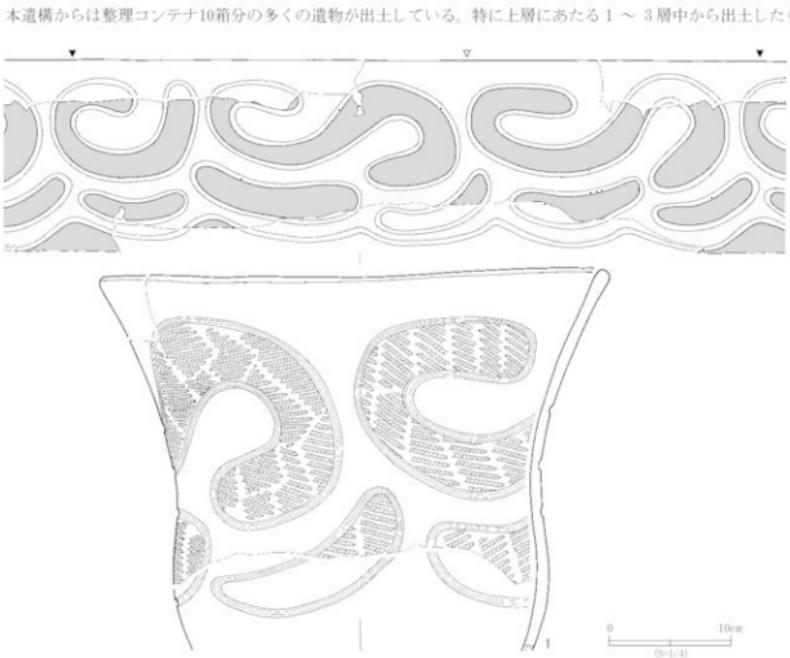
【構造】土器埋設石開部、土器埋設敷石石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

【土器埋設石開部】長さ50cm、幅64cm、床面から底面までの深さは30cmである。中央部分には胴部下半を欠いた深鉢形土器（A-70218）が正位の状態で埋設され、その周囲は10cm前後の礫によって囲まれている。断面では掘り方と埋設土器の間に底面付近から礫が積まれている状況が認められた。堆積土は2層に分層され炭化物粒・焼土粒を含む。また底面では火熱の影響を受けて赤変している状況が見られた。

【土器埋設敷石石組部】長さ86cm、幅100cm、床面から最も深い埋設土器底面までは42cmである。北側の土器埋設石開部側に口縁部および胴部下半～底部を欠いた深鉢（A-70220）が正位の状態で埋設されているが、南側を一部欠き、約3/4程残存している。掘り方の底面がⅥ層であるためか内部に敷石は認められない。10～15cmの小型の礫を多数底面および側面に敷設し、20cmを越えるやや大型のものは埋設土器の周辺の一部に用いられる状況であった。底面および側面の礫は火熱の影響によって赤変やひびが入って割れているものが多く認められ、床面から敷石までの深さは30cm程である。

【掘り込み部】長さ92cm以上、幅154cmである。床面から8～16cmの浅いテラス状に緩やかに落ち込み、中央の幅50～60cmの溝状になる部分では更に底面まで10cm程下がっている。断面形は漏斗形である。

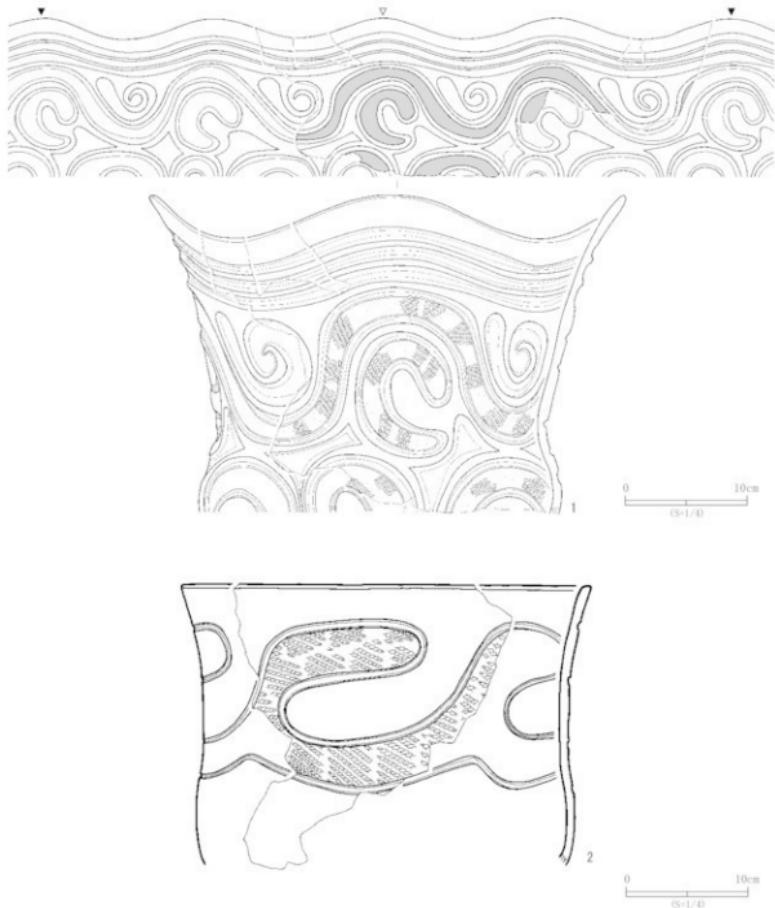
【出土遺物】（第133～146図、図版158～164）



No.	登録番号	種類	形状・部位	文様等	参考	写真図版
1	A-70218	印・埋設土器	深鉢・口縁部～胴部	口縁部内側縁文、縄文・井戸縁・羽目縁・斜縁文	S-1/L	158-1

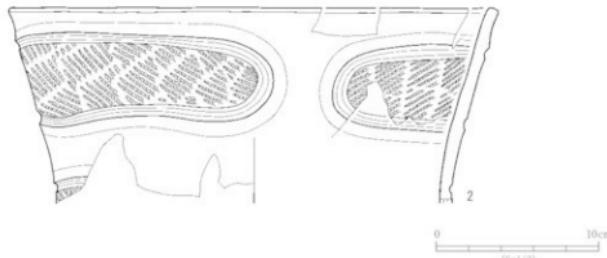
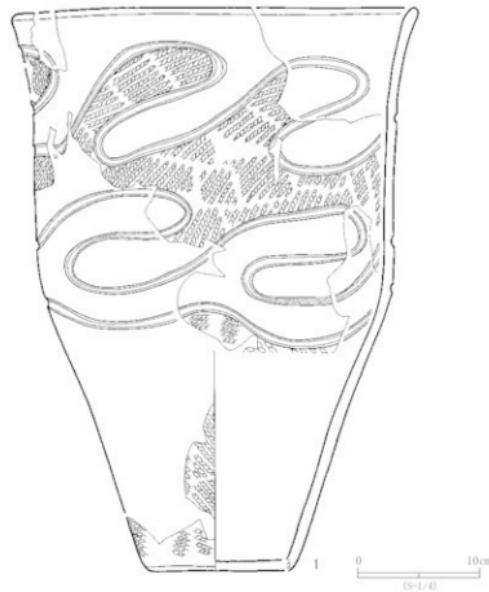
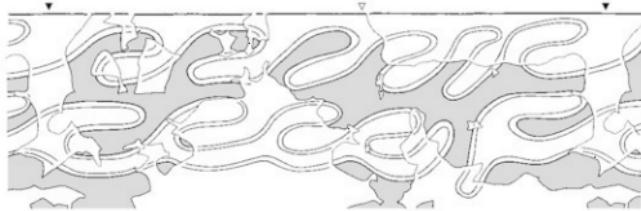
第133図 SI715 穴住居跡出土遺物（1）

のが多く、出土状況から人為的に遺物が投棄された状況とも考えられる。堆積土中および床面から出土した土器・石器を第133～146図に示した。第133図1(A-70218)は複式炉の土器埋設敷石石組部に埋設されていた土器で、胴部下半を欠いている。第134図1(A-70219)は土器埋設敷石石組部に埋設されていた土器である。石器では石鎚1点、石錐5点、石匙5点、スクレイバー11点、二次加工のある剥片7点、微細剥離痕のある剥片28点、磨製石斧3点、礫石器33点、石皿5点、台石1点、その他の石器2点が出土しており、その中から石鎚1点、石錐5点、石匙5点、スクレイバー7点、磨製石斧2点、礫石器7点、台石1点、石皿2点を図示した。



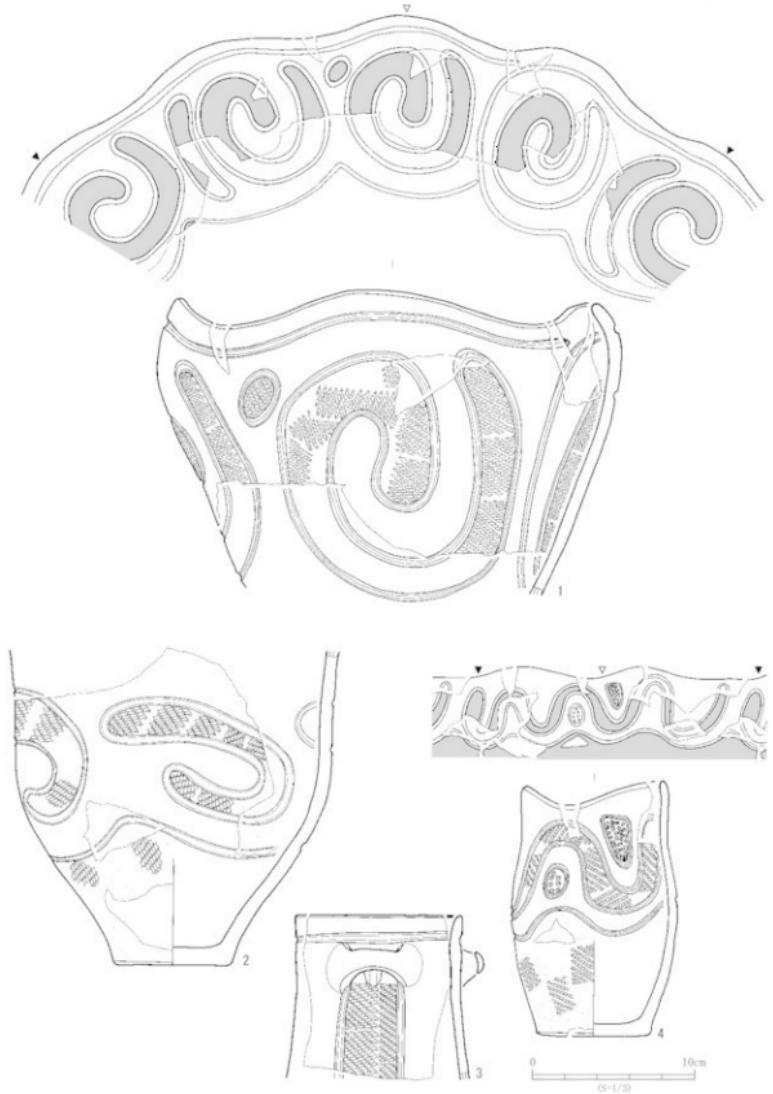
第134図 SI715 穫穴住居跡出土遺物（2）

No.	登録番号	場所	器形・部位	文様等	備考	参考文献
1	A-70219	Ⅲ・埋設土器	深鉢・口縁部～胴部	〔〕子供区画・波状沈痕文、織文LR面～横位施文	S-1/4	116-4
2	A-70220	Ⅲ・埋設土器	深鉢・口縁部～胴部	〔〕子供区画・波状沈痕文、織文LR面位施文	S-1/4	116-6



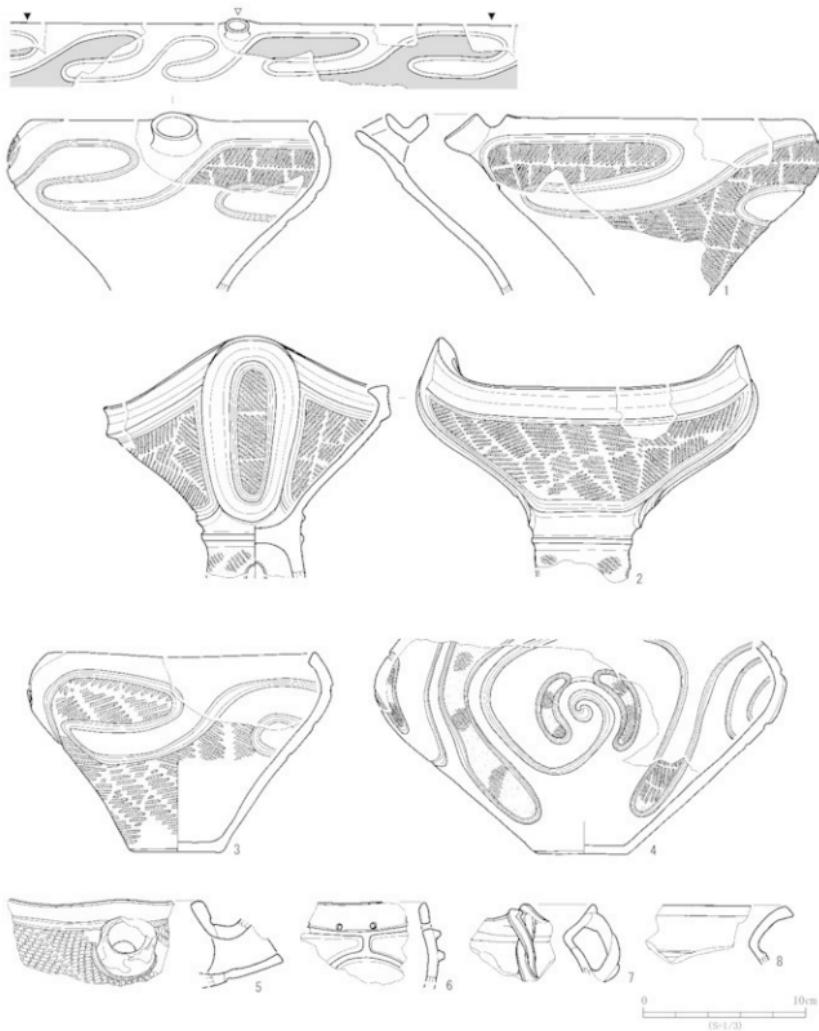
號	號	形	面	文樣等	號	等
1	A-70221	橫凹面	深跡・口緣面～側面	橫凹面附硫文、區域的內牆之部、斜～橫條施文。	S-1/L	100-1
2	A-70222	1～2層	深跡・口緣面	(1) 予低區面、黃灰底橫文、硫文LR斜面施文。		100-2

第135圖 SI715 壓穴住居跡出土遺物（3）

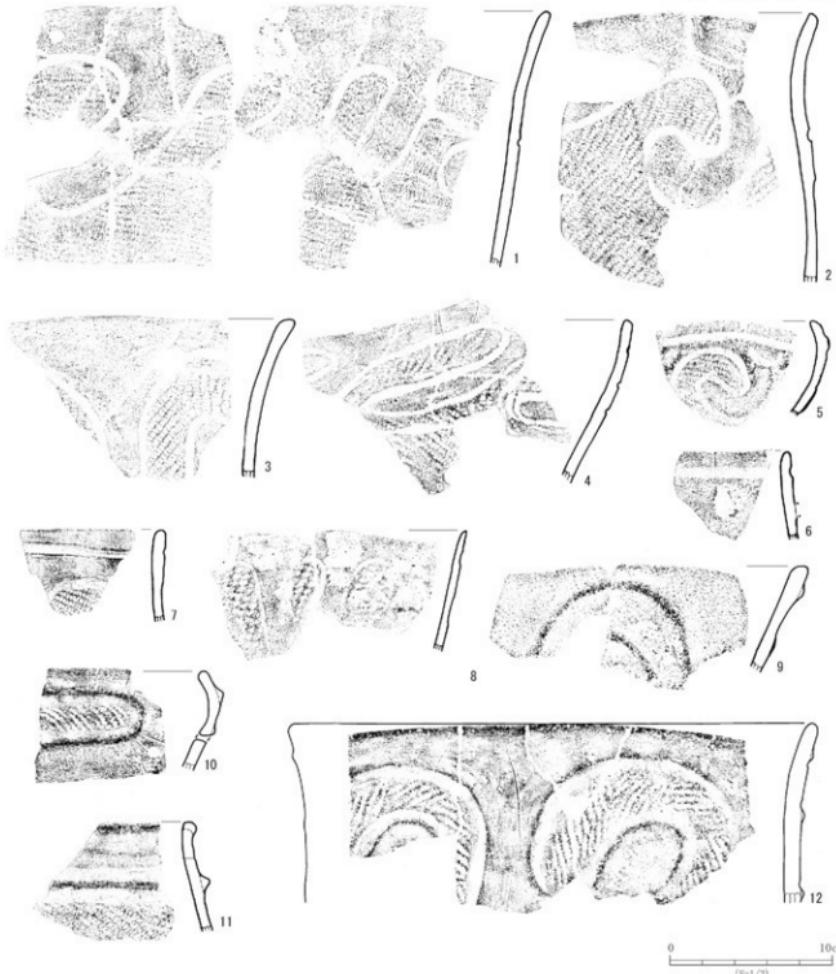


No.	遺跡番号	場所	形状・部位	文様等	参考	写真/図版
1	A-76223	横山面	深鉢・口縁部～側底	「丁」字・「C」字形・梢円凹面・圓文LR面～楕円無文。	横浜138、1単位。	109-2
2	A-76224	横面	深鉢・側部～底部	側部：「C」字形凹面・圓文LR面・圓文LR面無文。底部：ナギ。	—	109-3
3	A-76225	上縁	兼・口縁部～側部	口縁部：楕円凹面文・側部：圓文凹面文・圓文LR面無文。側底把手。	—	109-3
4	A-76226	下縁	浅状・三角形	横円凹面無文・区画内に溝状文・圓文LR面無文・側底把手。	横浜138、2単位。	109-3

第136図 SI715 穫穴住居跡出土遺物（4）



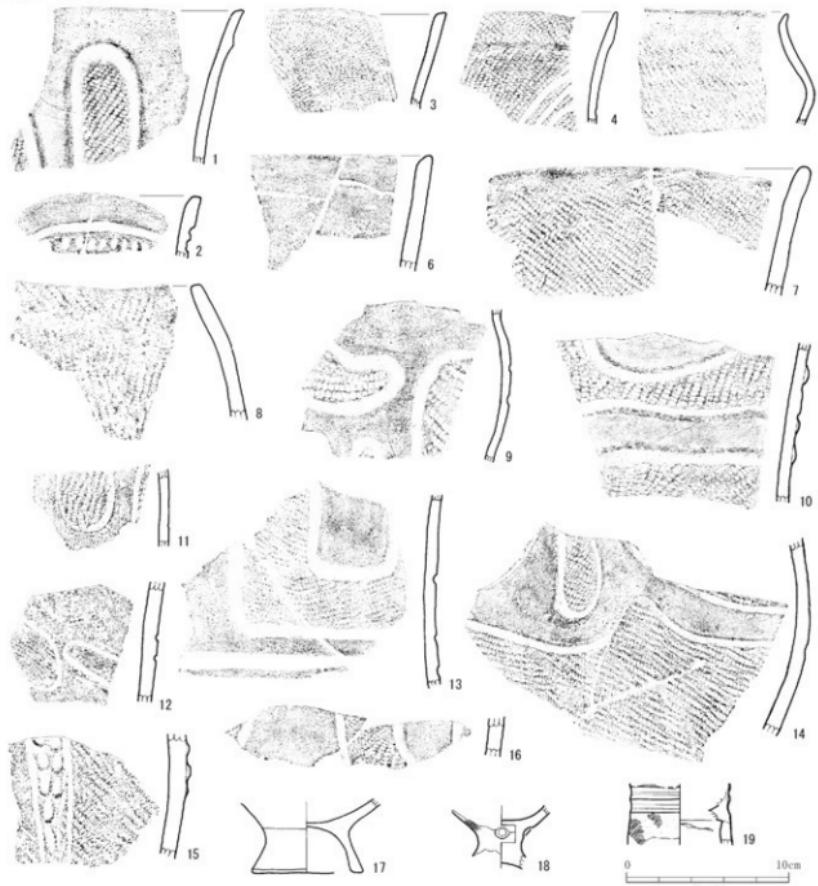
第137図 S1715 壁穴住居跡出土遺物（5）



0
(S=1/3)
10cm

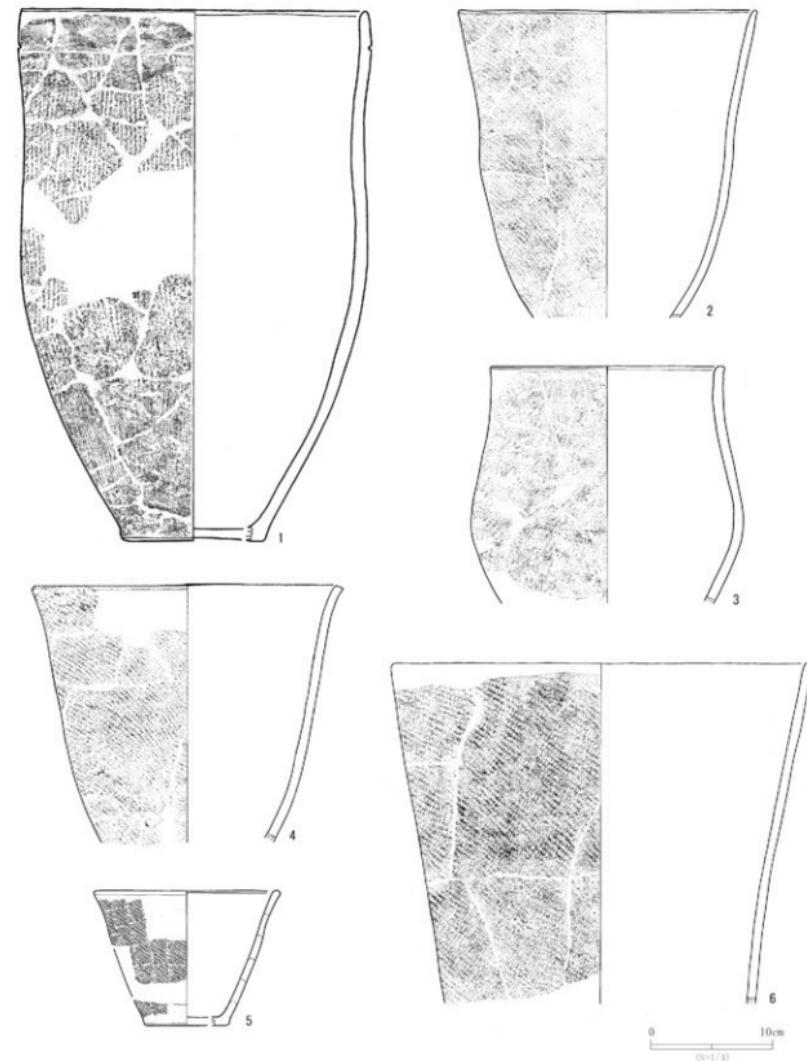
號	目錄番号	標 位	形狀・部位	文様等	物 質	年代推定
1.	A-76205	1・2層	深鉢・口縁部～側面	丁子状凸弦紋、繩文LR斜位施文。	埴輪孔有り。	100-9
2.	A-76206	複数土	深鉢・口縁部～側面	丁子状凸弦紋、繩文RL斜位～側面施文。		100-10
3.	A-76207	1・2層	深鉢・口縁部	凸弦状施文、齊内繩文SL斜位・繩位施文。		100-8
4.	A-76208	3・4層	車・口縫部～側面	丁子状凸弦紋、繩文SL斜位施文。	波状口縫。	100-1
5.	A-76209	3・4層	浅鉢・口縫部	丁子状凸弦紋、繩文LR斜位施文。		100-11
6.	A-76210	複数土	車・口縫部	繩位・丁子状凸弦紋、繩文SL斜位施文。	繩状把手倒壺。	100-10
7.	A-76211	1・2層	車・口縫部	繩位・丁子状凸弦紋、繩文LR斜位施文。		100-2
8.	A-76212	P12 与野土	深鉢・口縫部	丁子状凸弦紋、繩文SL斜位施文。		100-4
9.	A-76213	複数土	浅鉢・口縫部	凸弦状施文、繩文RL斜位施文。		100-5
10.	A-76214	1・2層	浅鉢・口縫部	凸弦状施文、齊内繩文LR斜位施文。	埴輪孔有り。	100-2
11.	A-76215	1・2層	深鉢・口縫部	繩位・繩文LR斜位施文。		100-6
12.	A-76216	秋田山	深鉢・口縫部	丁子状凸弦状施文、繩文LR斜～側位施文。		100-9

第138図 Si715 穫穴住居跡出土遺物（6）



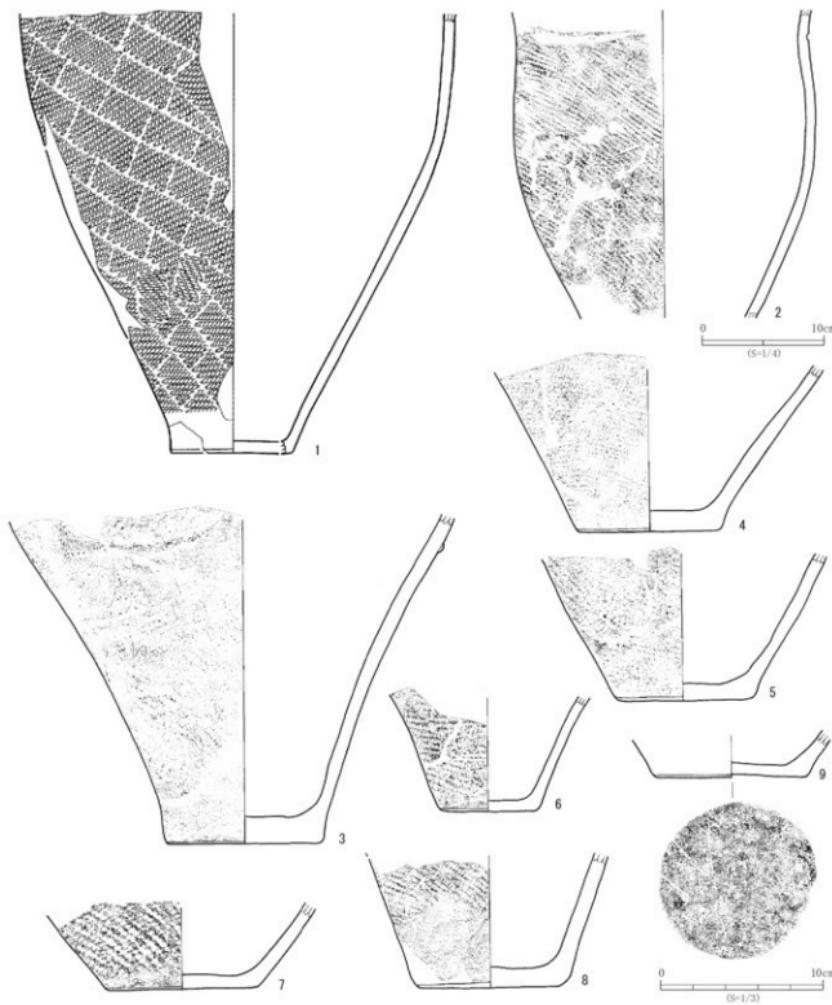
No.	登錄番号	量・位	器物・部位	文様等	備考	等級別
1.	A-70287	複體土	深鉢・口縁部	(口) 縱向波状紋文、繩彌文,斜位施文。		10-11
2.	A-70288	複體土	深鉢・口縁部	波狀文,斜位文。	波狀口緣。	10-12
3.	A-70289	1・2層	浅鉢・口縁部	繩文,LR斜位~斜位施文。		10-12
4.	A-70290	複體土	深鉢・口縁部	平行波狀文、繩文,LR斜位,橫位施文。		10-14
5.	A-70291	複體土	鉢・口縁部	繩文,LR斜位施文。		10-10
6.	A-70292	1・2層	深鉢・口縁部	無文。		10-10
7.	A-70293	1・2層	深鉢・側部	繩文,LR斜~橫位施文。		10-16
8.	A-70294	複體土	深鉢・口縁部	繩文,LR斜位,橫位施文。		10-14
9.	A-70295	複體土	深鉢・側部	圓孔紋,繩文,繩文,LR斜位,橫位施文。		10-17
10.	A-70296	1・2層	深鉢・側部	圓孔圓孔文,繩文,繩文,斜位施文~斜位施文。		10-18
11.	A-70297	P4 1層	深鉢・側部	圓孔波狀文,繩文,斜位施文。	14と同一。	10-22
12.	A-70298	1・2層	深鉢・側部	圓孔波狀文,繩文,繩文,斜位施文。		10-15
13.	A-70299	P4 1層	深鉢・側部	平行圓孔波狀文,繩文,繩文,斜位施文。		10-19
14.	A-70300	P4 1層	深鉢・側部	圓孔圓孔,波狀波狀文,繩文,繩文,斜位施文,長曲内唇波狀文,LR斜位施文。	14と同一。	10-20
15.	A-70261	複體土	深鉢・側部	繩位平行波狀文,斜位文,繩文,LR斜位施文。		10-21
16.	A-70262	1・2層	深鉢・側部	平行波狀文區隔,長曲内唇文,LR斜位施文。		+
17.	A-70263	1層	台仔輪・外部	無文。		+
18.	A-70264	複體土	台仔輪・外部	斜位文,繩文,LR斜位施文。		+
19.	A-70265	複體土	台仔輪・外部	弦波文,繩文,LR斜位施文。		+

第139図 SI15 壺穴住居出土遺物（7）



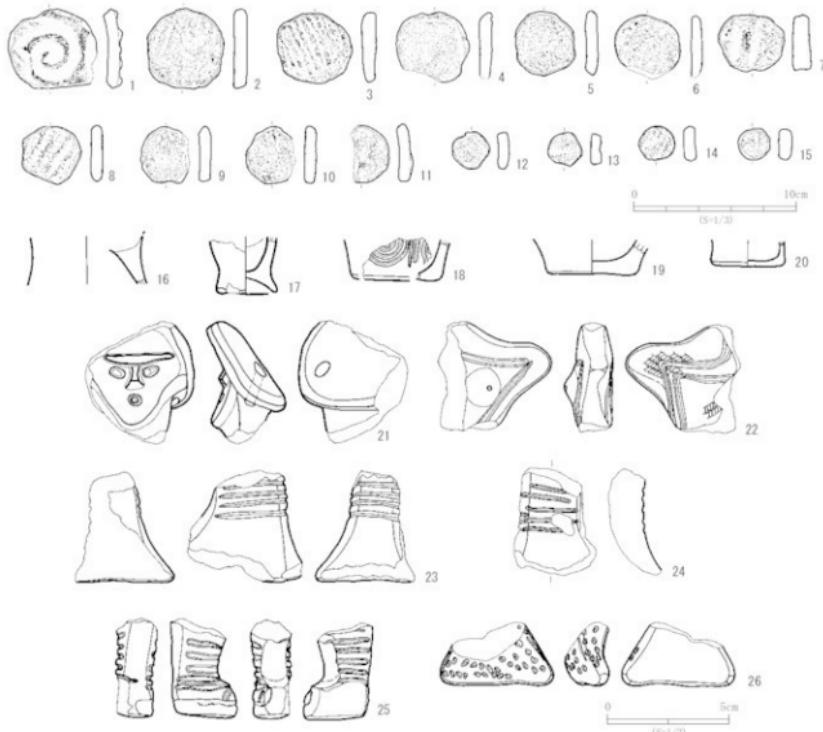
第140図 SI715 穫穴住居跡出土遺物（8）

No.	登録番号	層位	器形・部位	文様等	備考	実測寸法
1	A-76206	Ⅲ上層	深鉢・口縁部～底部	粗網、網目既成文、剥離、擦毛文し網目既成文、網目既成文、既成：ナゲ。	S-1-L	-
2	A-76207	椚出面	深鉢・側面	網文し網目既成文。	S-1-L	102-1
3	A-76208	椚出面	深鉢・側面	網文し網目既成文。	S-1-L	102-2
4	A-76209	椚出面	深鉢・側面	網文し網目既成文。	S-1-L	102-2
5	A-76210	I・II層	深鉢・側面	網文し網目既成文。	S-1-L	102-2
6	A-76211	I・II層	深鉢・側面	網文し網目既成文。	S-1-L	102-4



No.	目次番号	場所	器形・部位	文様等	施考	参考図版
1	A-7622	横川面	深鉢・側面～底面	縞文LR斜交彫文、底部：ナデ。	-	16-1
2	A-7623	床面	深鉢・側面	浅彫文、縞文LR斜交彫文。	5-1/4,	16-6
3	A-7624	横川面	深鉢・側面～底面	側面：縞文彫文、縞文LR斜交彫文。底部：ナデ。	-	16-5
4	A-7625	I層	深鉢・側面～底面	側面：縞文LR斜交彫文、底部：ナデ。	-	16-3
5	A-7626	I・II層	深鉢・側面～底面	側面：縞文LR斜交彫文、底部：ナデ。	器形の摩滅が激しい。	-
6	A-7627	越上層	深鉢・側面	側面：縞文LR斜交彫文、底部：ナデ。	-	16-4
7	A-7628	I・II層	深鉢・側面～底面	側面：縞文LR斜交彫文、ナデ、底面：木製机。	底部の摩滅が激しい。	-
8	A-7629	I層	深鉢・側面～底面	側面：縞文LR斜交彫文、底部：磨削面、ナデ。	-	-
9	A-7630	I層	深鉢・側面～底面	側面：無文、底部：木製机。	-	16-5

第141図 Si715 積穴住居跡出土遺物（9）



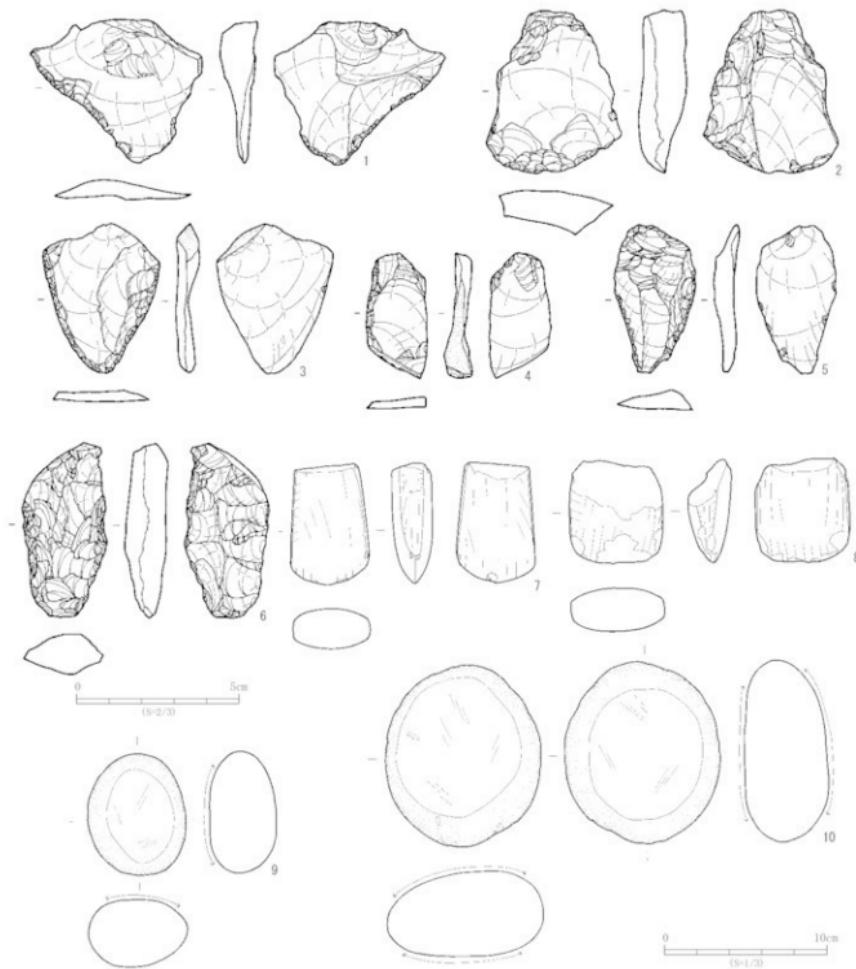
件名	登録番号	場所	形態・部位	文様等	備考	等級(目)
1	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。表面隆起状文、縦文LR無文。	重量 27.3kg。 高さ 14cm。	H3-6
2	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。縦文LR無文。	重量 24kg。	H3-7
3	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。表面文なし。	重量 19.1kg。	H3-8
4	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。沈文。	重量 27.4kg。	H3-9
5	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。無文。	重量 11.5kg。	H3-10
6	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。縦文LR無文。	重量 11.5kg。	H3-11
7	P-7061	上層	土製門檻	側面破片状。隆起状文、縦文LR無文。	重量 17.7kg。表面・背面に傷。	H3-12
8	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。縦文LR無文。	重量 11.5kg。	H3-13
9	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。無文。	重量 9.0kg。	H3-14
10	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。縦文LR無文。	重量 8.5kg。	H3-15
11	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。無文。	重量 6.5kg。	H3-16
12	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。縦文LR無文。	重量 2.0kg。	H3-17
13	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。沈文。	重量 2.5kg。	H3-18
14	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。縦文LR無文。	重量 4.0kg。	H3-19
15	P-7061	海賊土	土製門檻	側面破片状。沈文。	重量 3.5kg。	H3-20
16	P-7061	2・3・4層	「二二ア」土器・台座	側面。無文。	部分の側面が傷しく、剥離。	-
17	P-7061	海賊土	「二二ア」土器・側面・台座	側面。無文。	S-1/2.	H3-21
18	P-7061	海賊土	「二二ア」土器・側面・底盤	側面。沈文。底盤:無文。	S-1/2.	H3-22
19	P-7061	下層	「二二ア」土器・底盤	側面:無文。底盤:ナゲ。	S-1/2.	-
20	P-7061	海賊土	「二二ア」土器・底盤	ナゲ。	S-1/2.	-
21	P-7061	上層	土偶・頭部	種類文。沈文。側突起。	瓦有り。S=1/L.	H3-23
22	P-7061	砂・海賊土	土偶・胸部	沈文。縦文LR無文。	S-1/2.	H3-24
23	P-7061	上・下層	土偶・脚部	沈文。	S-1/2.	H3-25
24	P-7061	2・3・4層	土偶・脚部	沈文。	S-1/2.	H3-26
25	P-7061	海賊土	土偶・脚部	沈文。	S-1/2.	H3-27
26	P-7061	海賊土	三角形土製品	側面文。	S-1/2.	H3-28

第142図 SI715 整穴住居跡出土遺物（10）



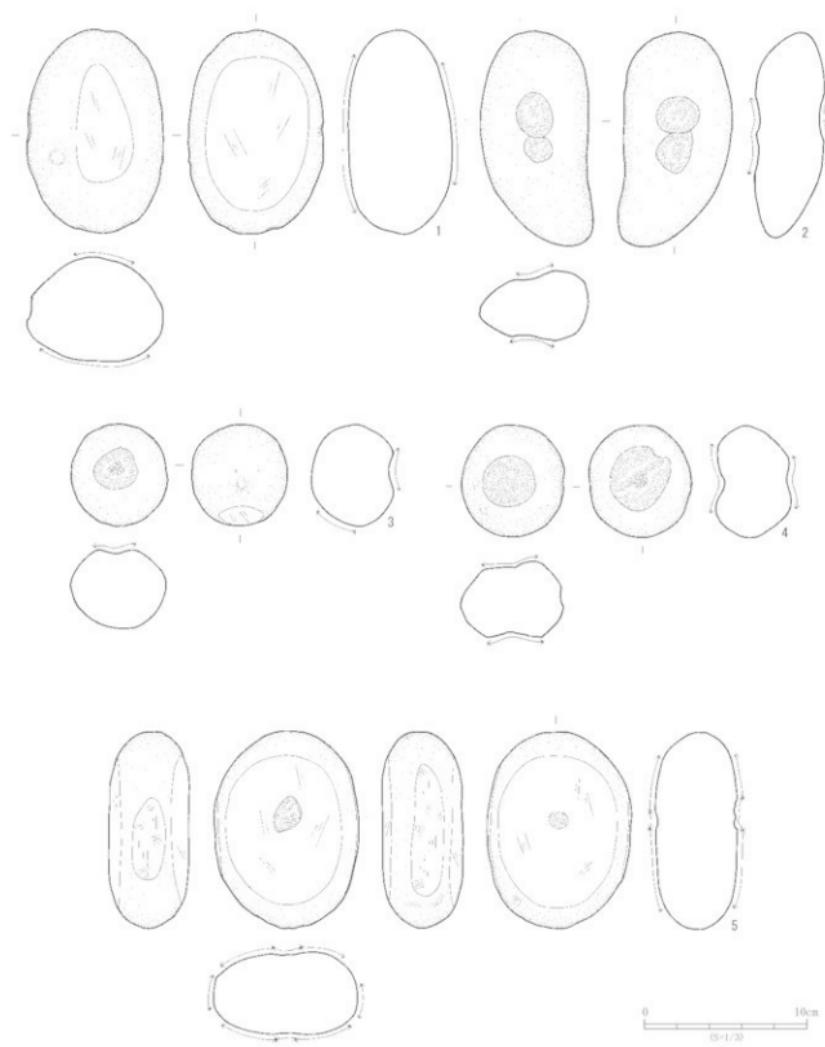
No.	登録番号	場所	断面	石種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	参考文献
1	Kab-7018	石巻	鶴玉	27.6	18.8	2.8	11.0	加工は先端部のみ、本物品、表面にハサケ有り	163-29	
2	Kab-7019	石巻	鶴玉	26.8	18.8	2.8	14		163-30	
3	Kab-7010	石巻	鶴玉	21.2	19.4	9.9	32		163-31	
4	Kab-7017 下巻	石巻	珪質頁岩	31.4	17.2	8.3	24		163-32	
5	Kab-7018	石巻	珪質頁岩	42.5	29.7	8.0	52		163-33	
6	Kab-7019	石巻	珪質頁岩	46.1	18.1	7.2	43		163-34	
7	Kab-7020 下巻	石巻	珪質頁岩	44.2	18.7	5.4	15.0	断型、表面にハサケによる横筋有り。	163-35	
8	Kab-7021	石巻	珪質頁岩	91.8	19.2	8.9	33.5	断型。	164-1	
9	Kab-7022	石巻	鶴玉	37.7	24.0	6.0	62		164-2	
10	Kab-7023	石巻	珪質頁岩	34.5	23.1	7.2	9.6	断型。	164-3	
11	Kab-7024	石巻	頁岩	67.8	27.6	12.9	26.9	断型、後述述べ組、下巻欠損の再生の可能性有り。	164-4	
12	Kae-7024	スクリーパー	珪質頁岩	77.7	38.8	13.9	36.8		164-5	

第143図 SI715 積穴住居跡出土遺物 (11)



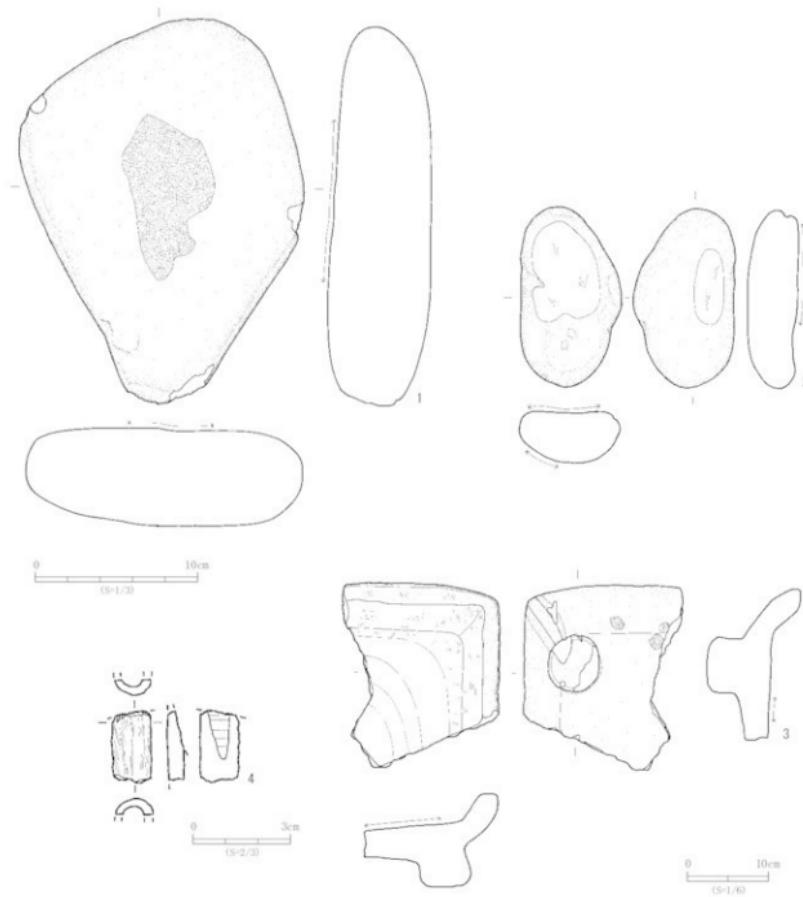
第144図 Si715 積穴住居跡出土遺物 (12)

No.	發現場所	地 位	圖 版	石 質	長 さ (mm)	幅 (mm)	厚 さ (mm)	重 さ (g)	地 質	参考 文献
1	Kae-7027	地盤上	スクラバー	珪質頁岩	43.1	53.0	9.4	133		164-6
2	Kae-7030	地盤上	スクラバー	珪質頁岩	49.1	41.0	13.2	265		164-7
3	Kae-7031	地盤上	スクラバー	珪質頁岩	40.7	39.5	7.3	74		164-8
4	Kae-7032	地盤上	スクラバー	玉髓	38.5	19.5	7.2	46		164-9
5	Kae-7033	地盤上	スクラバー	珪質頁岩	44.9	24.2	6.6	69		
6	Kae-7034	地盤上	スクラバー	珪質頁岩	53.0	25.7	12.0	187	上平柄,	
7	Kb-7002	地盤上	磨製石斧	安山岩質酸風化石	47.0	47.2	28.8	1020	中深火鉢,	164-10
8	Kb-7003	地盤上	磨製石斧	玄武岩質酸風化石	65.7	58.7	25.9	1380	深火鉢,	164-11
9	Kca-7022	地盤上	磨石器	安山岩	70.0	61.0	43.0	2010	帶 L.	164-12
10	Kca-7024	地盤上	磨石器	閃綠岩	115.0	96.0	51.0	3010	帶 L.	164-13



No.	登錄番号	埋立位	面	裏	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真選択
1	Ked-2022	「縫」	縫石器		安山岩	120.0	8.0	54.0	96.0	縫2。	164-14
2	Ked-2019	縫縫上	縫石器	(ディヤイ)		120.0	8.0	42.0	233.0	縫2+3。	164-15
3	Ked-2018	上縫～中縫	縫石器		安山岩	69.0	6.5	45.0	289.0	縫1+1。	164-16
4	Ked-2016	縫縫上	縫石器	(ディヤイ)		62.5	5.0	49.5	204.0	縫1、四1。	164-17
5	Ked-2017	縫縫土	縫石器		安山岩	121.0	8.0	50.0	343.0	縫4(横2)、四1+1。	164-18

第145図 SI15 縫穴住居跡出土遺物 (13)



第146図 SI715 積穴住居跡出土遺物 (14)

No.	目録番号	場所	面	幅	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	(1) 既存
1	Kd-b-7992	海側土	右石	安山岩		237.0	175.0	63.0	2,790.0	縫 1,	164-19
2	Kd-a-7946	1層	右頭	安山岩		222.0	125.0	61.0	2,494.0	縫 2, S=1/4,	164-20
3	Kd-a-7941	海側土	右頭	砂岩		227.0	195.0	116.0	12,500.0	側付石頭、頭内部に黒色付着物有り、S=1/6,	164-21
4	Kd-g-7941	海側土	右 A	角石		211.0	111.0	62.0	12.20	半分破片。	-

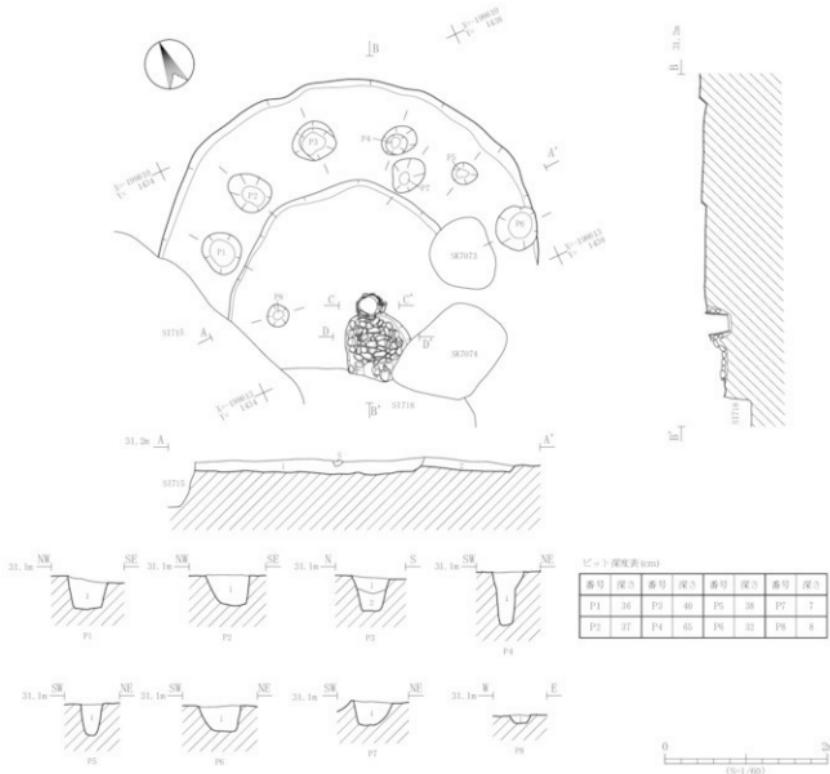
SI716堅穴住居跡 (第147・148図、国版26・27)

〔位置・検出面〕 第7次調査2区中央南寄りのE-51・52グリッドに位置し、M層上面で検出された。本遺構の周辺にはS I 714堅穴住居跡をはじめとする堅穴住居跡が密集して存在している。南側は重複するS I 715・718堅穴住居跡によって削平されている。

〔新旧関係〕 S I 715・718堅穴住居跡、SK7073・7074土坑と重複しており、本遺構が最も古い。

〔規模・平面形〕 南側が重複する遺構によって削平されており全体は不明であるが、平面形は東西4.7m、南北は3.7m以上の円形を基調とするものと考えられる。

〔堆積土〕 暗褐色粘土質シルトおよび砂・礫の層で2層に分層される。



遺構	層位	土色	土性	備考
堅穴	1	HYR3-4	粘稠	V型斜壁・削除板を少量含む。砂礫中や多い。
	2	HYR3-4	粘稠	砂・礫土体。V型・斜壁。
P1	1	HYR3-2	粘稠	暗褐色少量。削除板を少量含む。
P2	1	HYR3-4	粘稠	粘土質シルト。V型斜壁を少量含む。
P3	1	HYR3-4	粘稠	粘土質シルト。削除板を微量含む。
	2	HYR3-4	粘稠	砂。薄少。削除板を微量含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
P4	1	HYR3-4	粘稠	砂質(?)。
	2	HYR3-4	粘稠	粘土質シルト。
P5	1	HYR3-4	粘稠	砂質シルト。
	2	HYR3-4	粘稠	砂質シルト。
P6	1	HYR3-4	粘稠	V型斜壁を少量含む。
	2	HYR3-4	粘稠	砂質シルト。
P7	1	HYR3-4	粘稠	砂質シルト。
	2	HYR3-4	粘稠	砂質シルト。
P8	1	HYR3-4	粘稠	砂質シルト。
	2	HYR3-4	粘稠	砂質シルト。

第147図 SI716 堅穴住居跡

【壁・面】壁高は10cmであり、壁は床面からほぼ垂直に立ち上がっている。

【床・面】掘り方底面のⅥ層を直接床面にしている。底面はほぼ平坦であるが、ピットの内側の中央部が5cm程低くなっている。

【柱・穴】床面から8個のピットが検出されているが、いずれも掘り方のみで柱痕跡が確認されたものはない。ピットの配置から壁柱穴になる可能性が考えられる。

【周・溝】確認されなかった。

炉（第148図）

【位置・方位】住居南側に位置し、長軸方向はN-18°-Eである。

【規模・平面形】長さ110cm以上、幅80cmで、敷石石組部との境でくびれを有するダルマ形である。

【構・造】土器埋設石組部、敷石石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

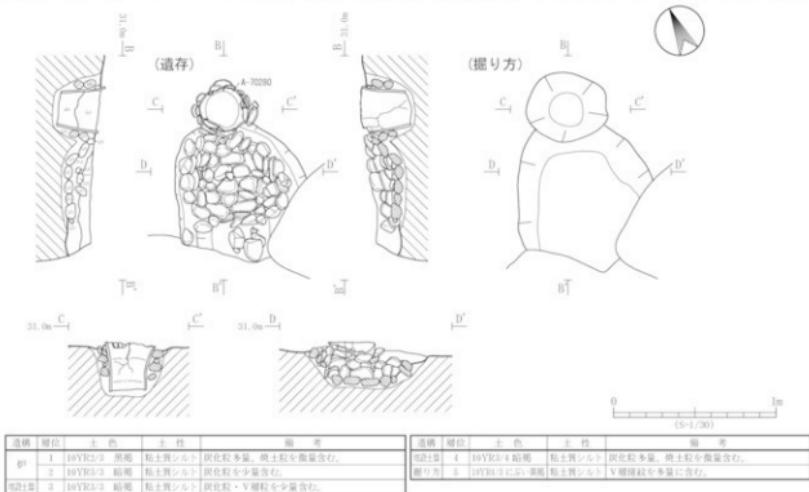
【土器埋設石組部】長さ32cm、幅42cmである。掘り方の中央には胴部下半へ底部を欠く深鉢が正位の状態で埋設され、周りは10cm前後の小型の礫によって囲まれている。掘り方と土器の間には胴部中位付近まで礫が積まれていた。床面から埋設土器の底面までの深さは26cmで、堆積土は2層に分層された。底面は火熱の影響を受けて赤変しており、炭化物も検出されている。

【敷石石組部】長さ56cm、幅80cmである。底面および側面には10～15cm前後の礫が敷設されている。床面から底面の敷石部までの深さは13cmである。底面の礫は火熱の影響により赤変しており、ひびが入ったものや割れたものが多く認められる。

【掘り込み部】大部分が重複する遺構によって削平されてしまっているため平面形は不明である。現存する部分では床面から底面までの深さは16cmである。

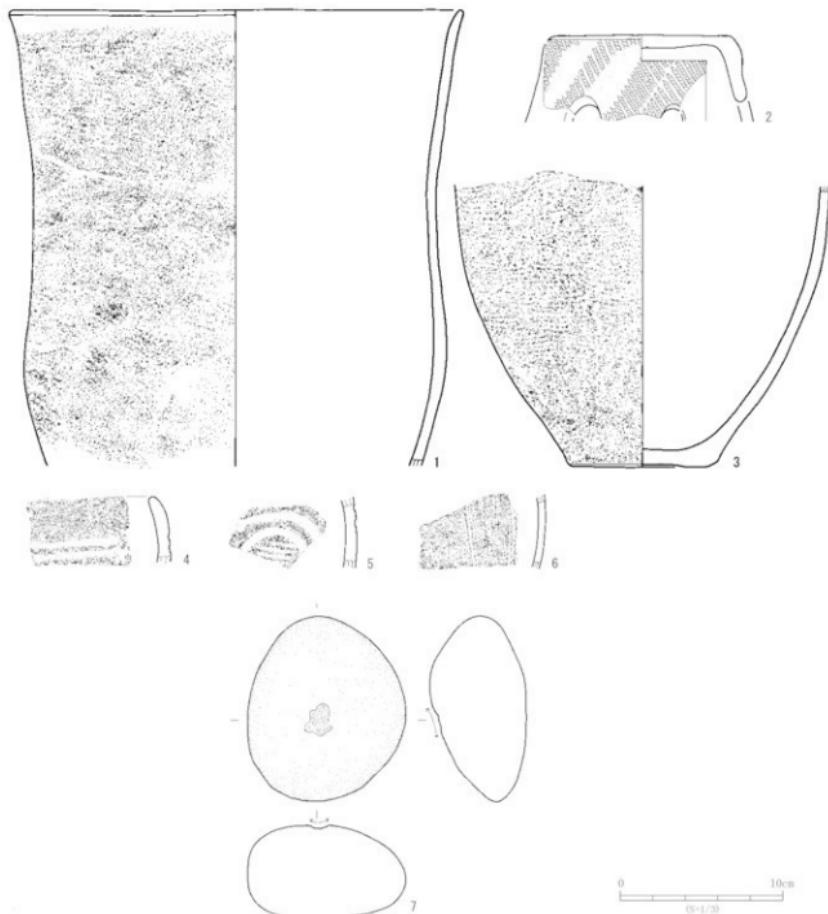
【出土遺物】（第149図、図版165）

炉および堆積土中から出土した土器・石器を第149図に示した。1（A-70281）は複式炉の土器埋設石組部から出土したもので、2（A-70282）の器台は複式炉の敷石石組部の堆積土中から出土したものである。石器は出土し



第148図 Si716 壁穴住居跡複式炉

た礫石器1点を図示した。



No.	登錄番号	場所	断面・部位	文様等	備考	参考図版
1	A-76281	伊・埋設2基	深鉢・口縁部～側部	硫文LR 斜位～側位施文		165-1
2	A-76282	伊・地盤上	盤台・台底～側部～側部	硫文LR 斜位施文	瓦上鏡子単位？	-
3	A-76283	突出面	深鉢・側面～底面	硫文LR 斜位施文		165-2
4	A-76284	伊・1層	深鉢・口縁部	側位複施文		165-3
5	A-76285	1層	深鉢・側面	側位複施文、硫文LR 斜位施文		165-4
6	A-76286	伊・1層	深鉢・側面	側面複施文		165-5

No.	登錄番号	場所	断面	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	参考図版
1	Kcb-7826	海賊土	礫石器	花崗岩類岩	114.0	38.0	58.5	304.0 (回1)		165-6

第149図 SI716 壁穴住居跡出土遺物

SI717 穫穴住居跡（第150図、図版27）

【位置・検出面】 第7次調査2区中央南東寄りのE・F-51グリッドに位置し、M層上面で検出された。遺構の大部分は南側の調査区外に広がっている。調査区内では竪穴と周溝の一部が確認されたのみで全体は不明であるが、周溝が3重に巡っていることから重複あるいは建て替えが想定される。中央のものを周溝A、外側のものを周溝B、内側のものを周溝Cとし、それぞれS I 717A、S I 717B、S I 717Cとした。南壁の断面観察からS I 717B・717C（古段階）→S I 717A（新段階）と考えられる。本遺構の周辺にはS I 714竪穴住居跡をはじめとする多くの竪穴住居跡が存在しており、特に遺構密度の高い地区といえる。

【新旧関係】 S I 718竪穴住居跡と重複しており本遺構が古い。

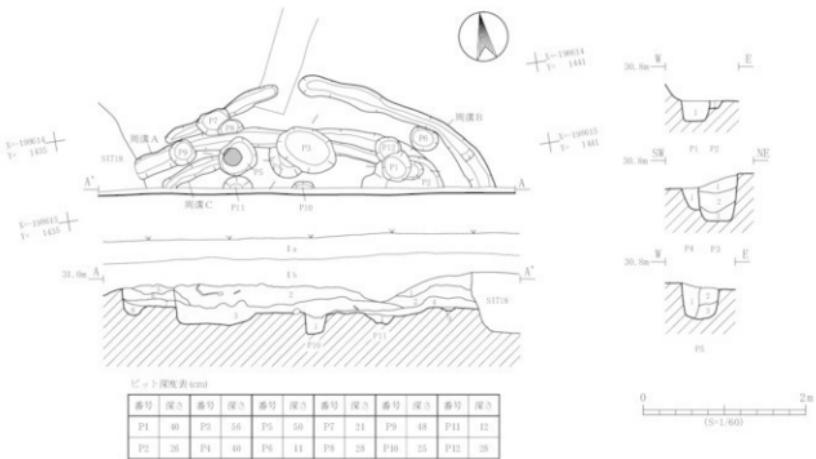
【規模・平面形】 全体は不明であるが、周溝Aが3.8m以上、周溝Bでは4.1m以上、周溝Cでは3.1mである。平面形はいずれも円形を基調とするものと考えられる。

【堆積土】 南壁の土層断面でS I 717Aは5層、S I 717Bは4層、S I 717Cは1層に分層される。2層は炭化物を多く含み、多くの遺物が出土している。

【壁面】 土層断面からS I 717Aは壁高40cm、S I 717Bは23cmであり、いずれも周溝の底面からほぼ垂直な角度で立ち上がっている。S I 717Cは周溝のみのため壁の立ち上がりは不明である。

【床面】 全体は不明であるがいすれも掘り方底面を直接床面にしており、ほぼ平坦である。

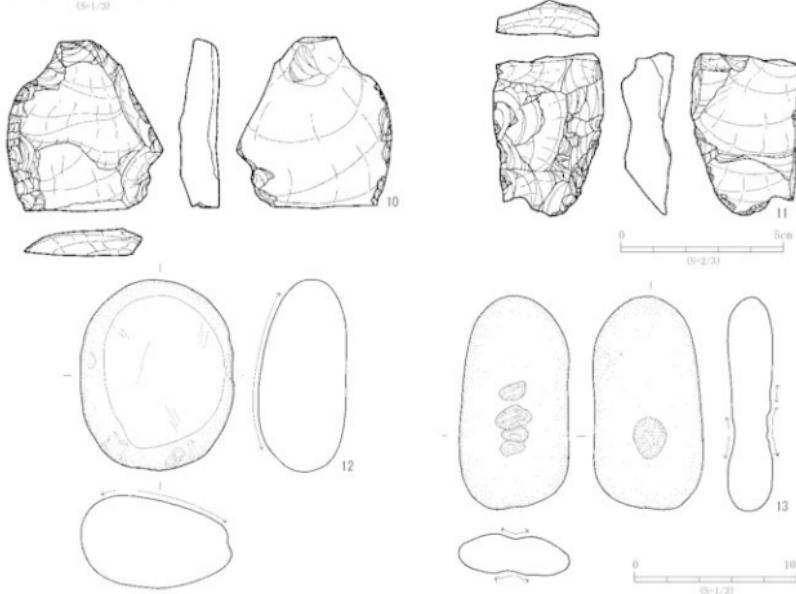
【柱穴】 竪穴および周溝内から合計12個のピットが検出されている。P 5で柱痕跡が確認された以外はいすれも掘り方のみである。柱穴構造は不明であるが、P 1・3・5などはその規模から柱穴になる可能性もある。



遺構	層位	土色	土性	備考
竪穴A	1	HYRK-2	粘土質シルト	炭化物少量、焼土を微量含む。
	2	HYRK-2	粘土質	粘土質シルト
	3	HYRK-2	粘土質シルト	炭化物少量、焼土を微量含む、骨片含む。
	4	HYRK-2	粘土質シルト	V槽形
	5	HYRK-2	粘土質シルト	炭化物、焼土を微量含む。
竪穴B	6	HYRK-4	粘土質シルト	炭化物少量、炭化物を微量含む。
	7	HYRK-3	じぶん土	粘土質シルト
周溝B	8	HYRK-2	じぶん土	粘土質シルト
周溝C	9	HYRK-4	粘土質シルト	V槽形少量、炭化物を微量含む。
P4	1	HYRK-2	粘土質シルト	炭化物少量、炭化物を微量含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
P2	1	HYRK-2	粘土質シルト	炭化物少量、V槽形を少量含む。
	2	HYRK-2	粘土質	粘土質シルト
P9	2	HYRK-3	粘土質	V槽形・炭化物を微量含む。
	3	HYRK-3	粘土質	粘土質シルト
P4	1	HYRK-3	粘土質	V槽形を少量含む。
	2	HYRK-2	粘土質シルト	炭化物少量、焼土を微量含む。
P5	1	HYRK-3	粘土質	砂質シルト
	2	HYRK-4	粘土質	V槽形
P10	1	HYRK-4	粘土質	粘土質シルト
	2	HYRK-4	粘土質	V槽形・V型
P11	1	HYRK-4	じぶん土	粘土質シルト

第150図 SI717 穫穴住居跡



No.	登錄番号	層位	形態・面積	文様等	編考	参考出典
1.	A-74287	複層土	深鉢・削器	縞波文、繩文L1、斜位施文。	-	166-7
2.	A-74288	1・2層	深鉢・削器	凸凹時紋施文、繩文L1、斜位施文。	-	166-4
3.	A-74289	1・2層	深鉢・削器	凸凹時紋施文、繩文L1、斜位施文。	-	166-10
4.	A-74290	複層土	深鉢・削器	凸凹時紋施文、繩文L1、斜位施文。	-	166-11
5.	A-74291	1・2層	深鉢・削器	斜位平行沈線文、縞波織文LR 斜位施文。	-	166-9
6.	A-74292	1・2層	深鉢・削器	縞波文。	-	166-12
7.	A-74293	複層土	小型L・口縁部	無文。	-	-
8.	A-74294	1・2層	深鉢・削器・底部	繩文L1、斜位施文。	-	-
9.	A-74295	1層	深鉢・削器・底部	繩文L1、斜位施文。	-	166-1

No.	登錄番号	層位	面 積	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備 考	参考出典
10.	Kce-7833	複層土	スクレーパー	桂賀頁岩	151.0	47.7	10.1	93.0	下手矢頭。	166-2
11.	Kce-7835	7層	スクレーパー	桂賀頁岩	148.0	55.2	13.4	95.1	上手矢頭。	166-2
12.	Kce-7836	1層	礫石器	安山岩	118.0	94.5	55.0	85.0	四 1.	166-4
13.	Kce-7831	1層	礫石器	安山岩	151.0	67.0	28.0	89.0	四 4+1.	166-5

第151図 S1717 穫穴住居跡出土遺物

【周溝】3条検出されている。周溝Aは幅20～25cm、床面からの深さは15cmである。底面の一部ではM層が露出しているため凹凸が認められるが概ね平坦であり、断面形はU字形である。周溝Bは周溝Aの北側に存在し、幅15～30cm、深さ12cmで断面形はU字形である。周溝Cは最も内側に位置しており、幅15cm、深さ5cmで断面形は皿形である。

戸

調査区内では確認されなかった。

〔出土遺物〕(第151図、図版165・166)

堆積土中から出土した土器・石器を第151図に示した。石器はスクレイパー2点、微細剥離痕のある剥片2点、礫石器4点が検出されており、スクレイパー2点、礫石器2点を図示した。

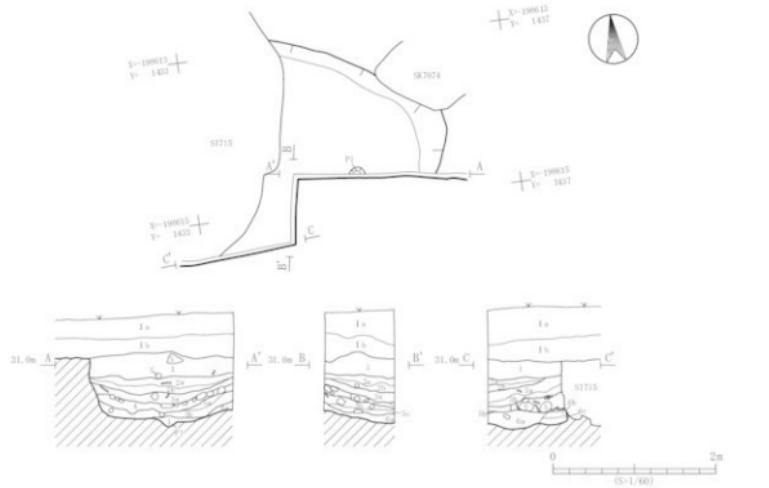
SI718堅穴住居跡(第152図、図版27)

〔位置・検出面〕第7次調査2区中央南寄りのE-51・52、F-52グリッドに位置し、V層上面で検出された。調査区内では堅穴の一部のみが検出され、全体は不明である。本遺構の周辺にはSI714堅穴住居跡をはじめとする堅穴住居跡が密集して存在している。

〔新旧関係〕SI715・717堅穴住居跡、SK7074土坑と重複関係にあり、本遺構はSI718堅穴住居跡・SK7074土坑より古く、SI717堅穴住居跡より新しい。

〔規模・平面形〕平面形は東西2.0m以上、南北2.5m以上の不整な円形を基調とするものと考えられる。

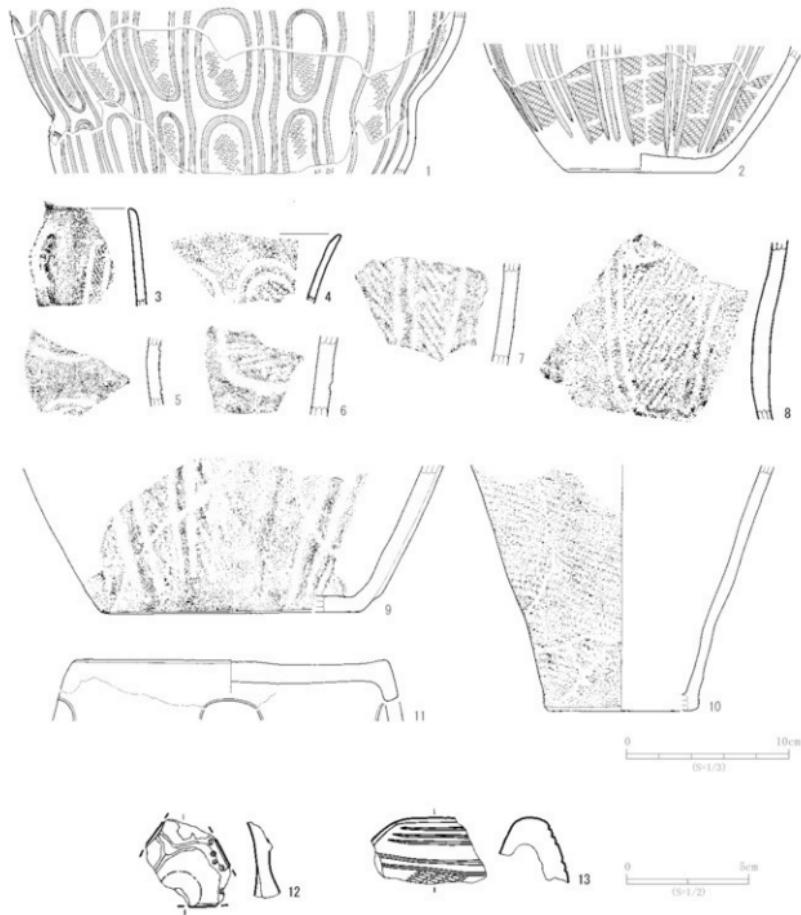
〔堆積土〕暗褐～黒褐色系粘土質シルトを主体として6層に分層される。4層は炭化物を多く含み遺物も多く検出



遺構			
層位	土 色	土 性	備 考
1	HYR3-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、焼土粒を微量含む。
2a	HYR3-4 黒褐色	粘土質シルト	1層に、粗粒、Y層型、炭化物を少量含む。
2b	HYR3-4 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。
3a	HYR3-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、焼土粒を少量含む。
3b	HYR3-4 黒褐色	粘土質シルト	炭化物や少々、Y層型灰・黒褐色斑紋を含む。
4	HYR3-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、3層間に埋・土器を含む。
5a	HYR3-4 黒褐色	粘土質シルト	Y層斑紋を少量含む。

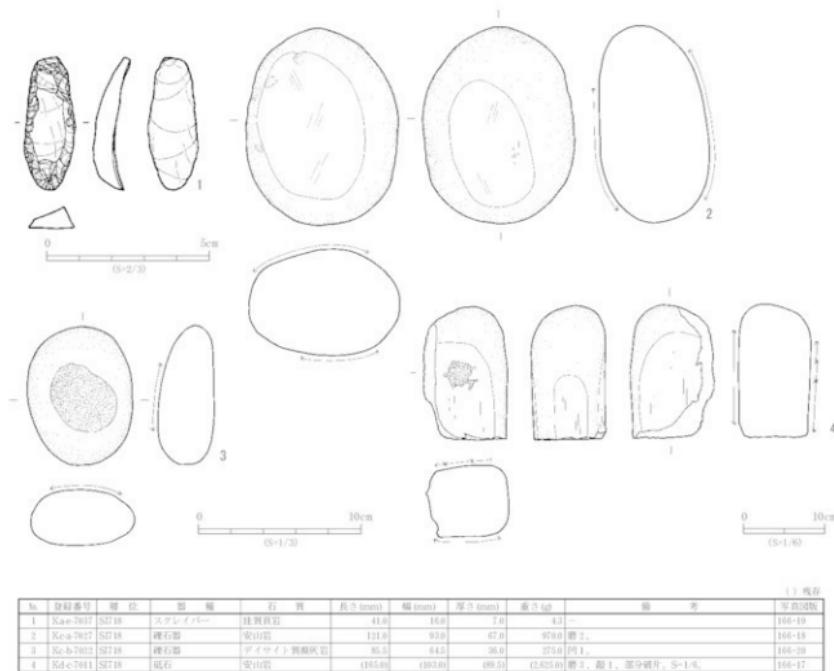
遺構			
層位	土 色	土 性	備 考
2c	HYR3-3 ないし 黒褐色	粘土質シルト	V層斑紋主体、炭化物を多量に含む。
5c	HYR3-4 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む、粒子が均一の細かい。
6a	HYR3-3 ないし 黑褐色	粘土質シルト	V層斑紋主体。
6b	HYR3-4 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。
6c	HYR3-4 黒褐色	粘土質シルト	砂中に粗粒、Y層斑紋を少量含む。
P1	1 HYR3-4 黒褐色	粘土質シルト	V層斑紋を少量含む。

第152図 SI718 堅穴住居跡



號	登錄番号	層位	器形・部位	文様等	備考	参考文献
1	A-76296	海綿土	深鉢・削底	網目・格子・曲線文、帶有齒文切削痕。	-	160-12
2	A-76297	下層	深鉢・削底～底部	網目平行波浪文、帶凸點文LR斜面施文。	-	160-11
3	A-76298	海綿土	單口緣部	以曲波浪文、帶凸點文LJR斜面施文。	鐵鉗把手刮擦。	160-6
4	A-76299	海綿土	深鉢・口緣部	以曲波浪文、帶凸點文LJR斜面施文。	鐵鉗刮擦。	160-7
5	A-76300	海綿土	深鉢・削底	以曲波浪文、帶凸點文LJR斜面施文。	-	160-9
6	A-76301	海綿土	深鉢・削底	以曲波浪文、帶凸點文LJR斜面施文。	-	160-10
7	A-76302	海綿土	深鉢・削底	網目波浪文、帶凸點文LJR斜面施文。	-	160-8
8	A-76303	1層	深鉢・削底	網目波浪文、帶凸點文LJR斜面施文。	-	160-10
9	A-76304	1層	深鉢・削底～底部	網目・橫汽旋文、齒文LJR斜面施文。	-	160-10
10	A-76305	海綿土	深鉢・削底～底部	網目・齒文LJR斜面施文、底面：テテ。	-	-
11	A-76306	4層	盤形・凸頂・削底	凸面：無文、削底：無文。	孔有刃。	-
12	P-7609	海綿土	三角形土鰐品	網文。	S-1/L	160-14
13	P-7610	海綿土	三角形土鰐品	沉底文、齒文LJR斜面施文。	S-1/L	160-10

第153図 Si1718 壺穴住居跡出土遺物（1）



第154図 SI718 壁穴住居跡出土遺物（2）

されている。

【壁 面】壁高は南壁の断面観察で77cmで、底面からほぼ垂直に立ち上がっている。

【床 面】掘り方の底面であるV層を直接床面にしている。硬化面などは認められなかった。

【柱 穴】南壁際で1個検出されたが柱痕跡も確認されておらず、柱穴構造は不明である。

【周 溝】確認されなかった。

炉

調査区内では確認されなかった。

【出土遺物】(第153・154図、図版166)

堆積土中から出土した土器・石器を第153・154図に示した。図化した土器は全て深鉢形土器であり、土製品では三角形土製品と三角墳形土製品が出土している。石器はスクリーパー1点、礫石器4点、砥石1点が出土しており、スクリーパー1点、礫石器2点、砥石1点を図示した。

SI719堅穴住居跡（第155図、図版28）

【位置・検出面】 第7次調査2区中央北寄りのB・C-51グリッドに位置し、M層上面で検出された。遺構は北側の調査区外に広がっており、堅穴の一部が確認されたのみで、全体は不明である。南側にはSI714堅穴住居跡をはじめとする住居跡が密集して存在している。

【新旧関係】 本遺構と重複関係にあるものはない。

【規模・平面形】 平面形は全体が不明であるが、東西6.2m以上、南北は2.1m以上の円形または椭円形を基調としたものと考えられる。

【堆積土】 黒褐～暗褐色系土層を主体にして14層に分層される。中央部分に堆積する2層は炭化物粒を多量に含み多くの遺物が出土している。

【壁・面】 底面からやや開いた角度で緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは西側で42cmである。

【床・面】 挖り方の底面であるVI層の上にV層を主体とするブロックを埋土して床面としており非常に硬く縮まっている。床面は西から東に向かって緩やかに傾斜しており、P1から南壁にかけて10cm程の段を有している。

【柱・穴】 床面でピット2個が検出されている。壁際の中央西で検出されたP1では柱痕跡が確認された。東西110cm、床面から底面までの深さは100cmと大規模であることから柱穴構造は不明であるが主柱穴の可能性が考えられる。

【周溝】 東側の壁際の一部で確認された。幅32cm、床面から底面までの深さは28cmで、断面形はU字形である。

【その他の施設】 堅穴の中央部分で10cm前後の礫を連ねた配石が認められた。調査区内では約110cmの長さで検出されており、さらに調査区外へと続いているものと考えられる。長軸方向はN-9°-Wである。下部からは長さ85cm、幅40cm、深さ110cmの溝状の落ち込みが検出された。また、P2の西側部分では角礫を主体としたコの字形に礫が配されている状況が見られた。

炉

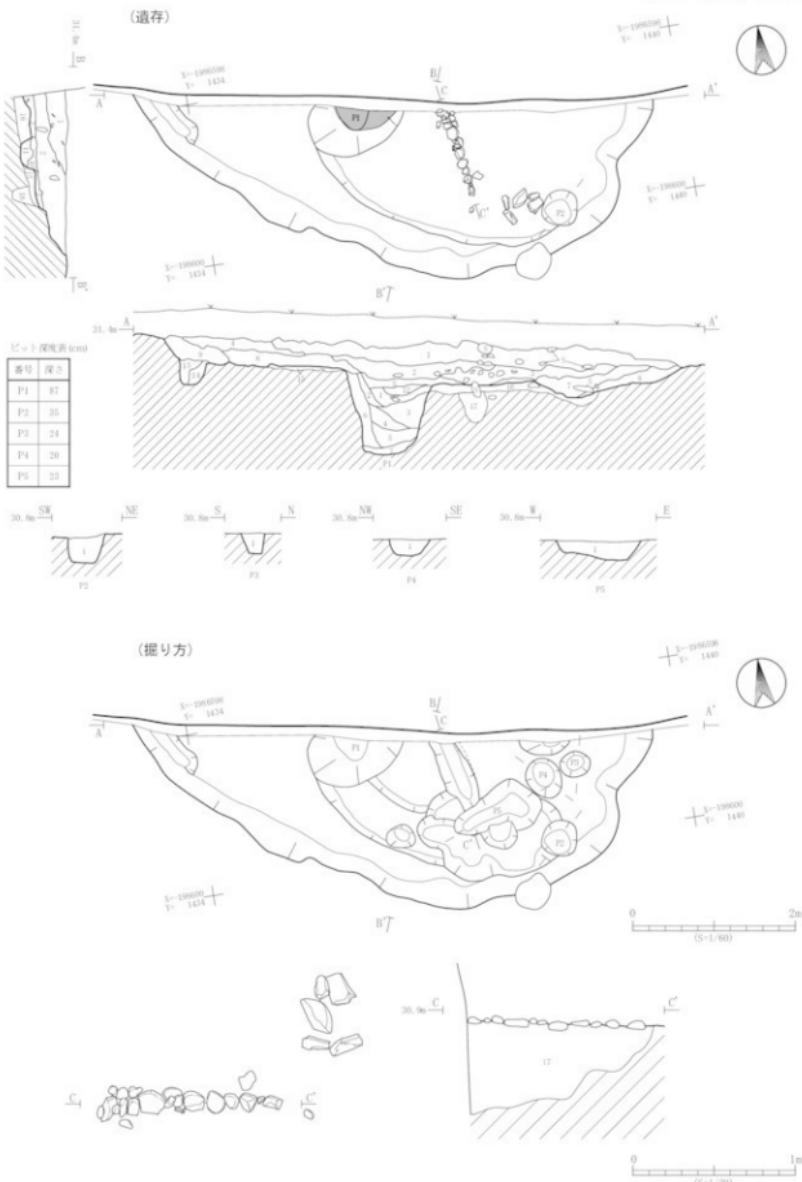
調査区内で炉は確認されなかった。

【出土遺物】（第156～159図、図版167・168）

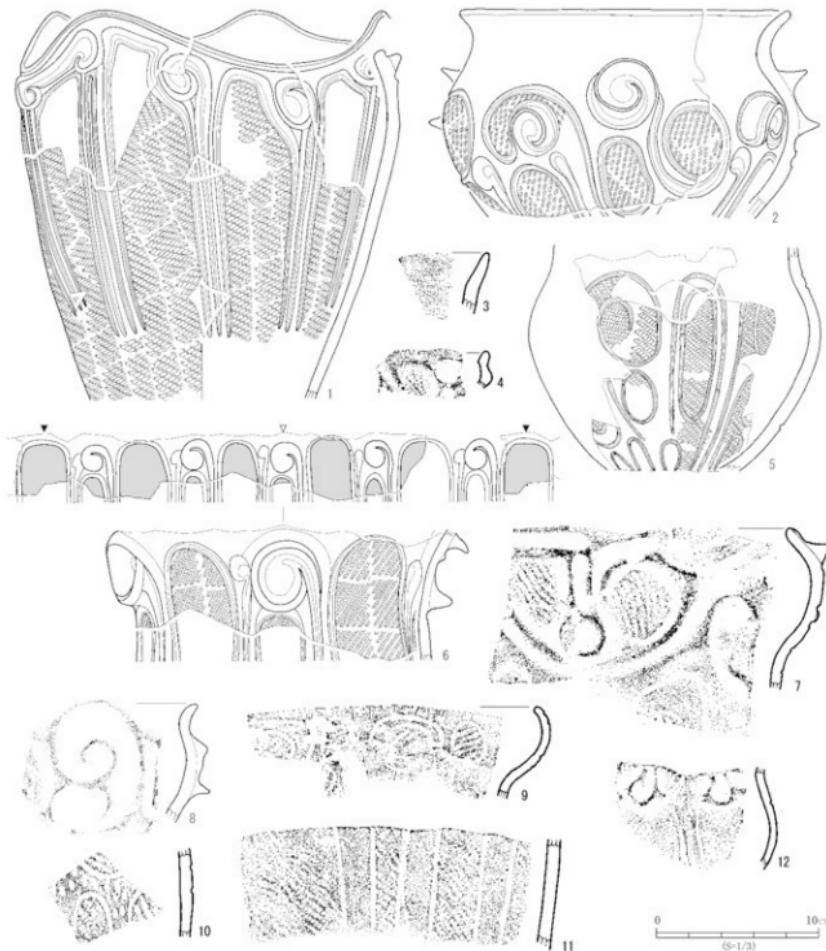
堆積土中から出土した土器・石器を第156～159図に示した。第158図4のミニチュア土器は手捏ねによって整形されており底面付近には孔が開けられている。石器は石鎚1点、石錐3点、石匙3点、スクレイバー3点、二次加工のある剥片1点、微細剝離痕のある剥片9点、石核2点、礫石器10点、石皿2点が出土しており、その内の石鎚1点、石錐3点、石匙3点、スクレイバー3点、礫石器3点、石皿1点を図示した。

SI719 堅穴住居跡土層説明

遺構	層位	土 色	土 性	備 考	遺構	層位	土 色	土 性	備 考
堅穴	1 HYSK2 上 鋼網	粘土質シルト	炭化物多量、熱土色少量、土粒子多く含む。		15 HYTR1-1 C-2 壁際	粘土質シルト	V層ブロックを多量に含む。粗粒の中多い。		
	2 HYTR2 上 鋼網	粘土質シルト	V層混入。炭化物多量、熱土色・粗粒を少量含む。		16 HYTR2-1 壁際	粘土質シルト	V層ブロック・炭化物を少量含む。		
	3 HYTR2 上 鋼網	粘土質シルト	炭化物類似・熱土色・粗粒を少量含む。		17 HYTR2-2 壁際	粘土質シルト	V層ブロック・炭化物を少量含む。		
	4 HYTR2 上 鋼網	粘土質シルト	V層混入・炭化物を含む。粒子のきのが細かい。		18 HYTR2-3 壁際	粘土質シルト	炭化物少量、砂含む。		
	5 HYTR2 上 鋼網	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。		1 H YTR2-4 壁際	粘土質シルト	V層ブロック・炭化物を少量含む。(柱頭跡)		
	6 HYTR2 上 鋼網	粘土質シルト	炭化物少量、熱土色微量、礫を含む。		2 H YTR2-5 壁際	粘土質シルト	V層・柱頭跡を少量含む。(柱頭跡)		
	7 HYTR2 上 鋼網	粘土質シルト	V層に細粒・V層粘少量、小礫を含む。		3 H YTR2-6 壁際	粘土質シルト	V層・柱頭跡・柱底含む。(柱頭跡)。		
	8 HYTR2 上 鋼網	粘土質シルト	V層・柱頭跡。		4 H YTR2-7 C-2 壁際	粘土質シルト	炭化物・V層粘を少量含む。(柱頭跡)。		
	9 HYTR2 上 鋼網	粘土質シルト	V層多量、炭化物を少量含む。		5 H YTR2-8 壁際	粘土質シルト	V層粘少量、小礫含む。(柱頭跡)。		
	10 HYTR2 上 鋼網	粘土質シルト	熱土質致密性。		6 H YTR2-9 壁際	粘土質シルト	V層粘少量、砂含む。		
	11 HYTR2 上 鋼網	粘土質シルト	炭化物少量、砂を少量含む。		7 H YTR2-10 壁際	粘土質シルト	V層・柱頭跡を少量含む。		
	12 HYTR2-1 C-2 壁際	粘土質シルト	V層ブロック多量、炭化物・熱土色を少量含む。		1 I YTR2-1 壁際	粘土質シルト	V層粘少量、炭化物・熱土色を微量含む。		
	13 HYTR2-1 C-2 壁際	粘土質シルト	V層粘含む。		2 I YTR2-2 壁際	粘土質シルト	V層粘少量、炭化物・熱土色を微量含む。		
	14 HYTR2-1 C-2 壁際	粘土質シルト	V層ブロック多量、炭化物・熱土色を少量含む。		3 I YTR2-3 壁際	粘土質シルト	炭化物上に礫・粗粒出る。		
	15 HYTR2-1 C-2 壁際	粘土質シルト	V層粘少量。		4 I YTR2-4 壁際	粘土質シルト	炭化物上に礫・粗粒出る。		

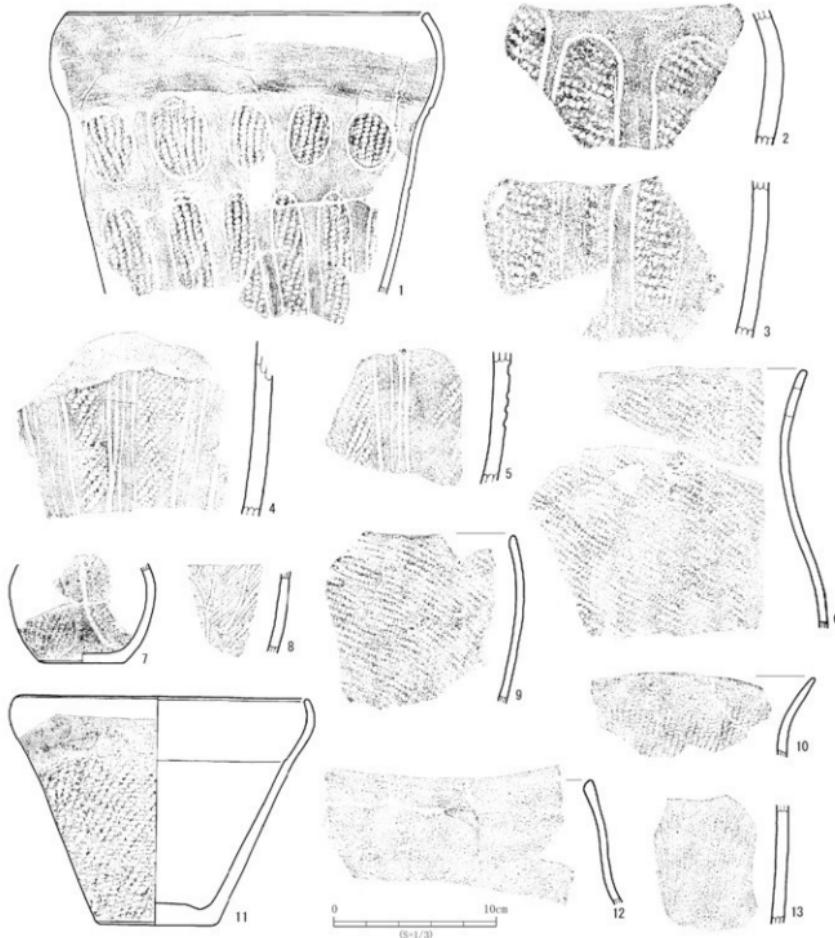


第155図 SI719 壁穴住居跡



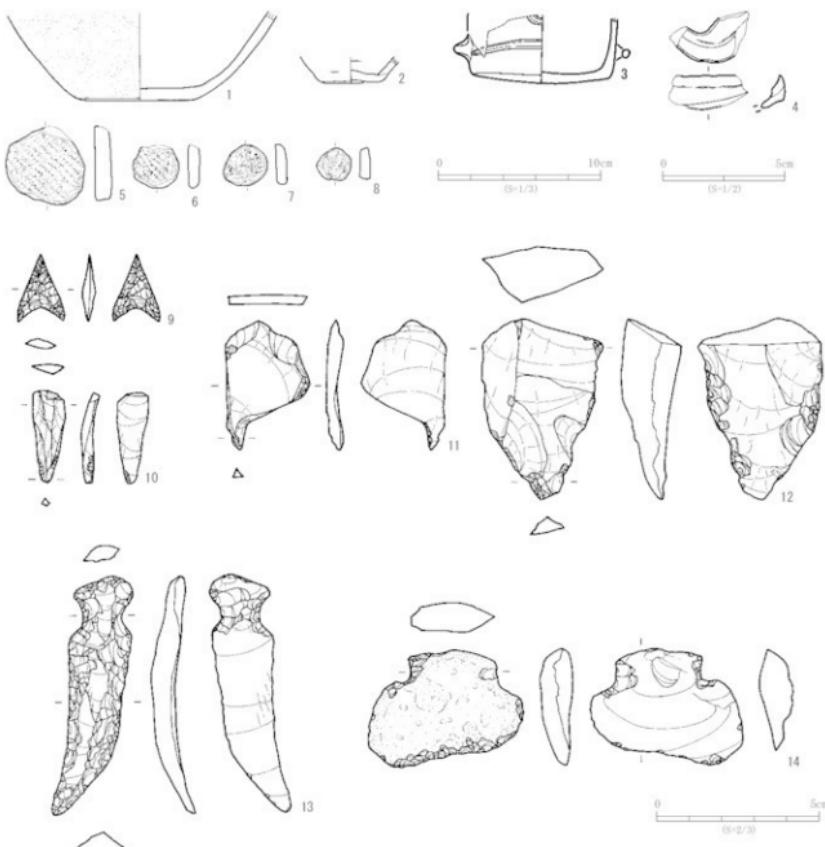
No.	登錄番号	標 位	部 形・部位	文様等	備 考	参考文献
1.	A-70307	2・3槽	深鉢・口縁部～側面部	口縁部～側面部：無文。側面部：縹文LR前～側面部。	無孔口縫。1単位。	162-1
2.	A-70308	1槽	鉢・口縁部～側面部	口縁部～側面部：無文。側面部：縹文。側面部：縹文。		162-2
3.	A-70309	2・3槽	深鉢・口縁部	縹曲状模擬文。		162-3
4.	A-70310	2・3槽	深鉢・口縁部	縹曲状模擬文。縹文LR前～側面部。	12上同。	162-4
5.	A-70311	1槽	鉢・縹部～側面部	縹部：無文。側面部：縹帶。10. 瓦紋模擬文。縹文LR前～側面部。		162-5
6.	A-70312	2・3槽	深鉢・側面部	縹帶：無文。10. 瓦紋模擬文。10. 瓦紋模擬文。縸文LR前～側面部。		162-6
7.	A-70313	1槽	深鉢・口縁部	縹帶：無文。10. 瓦紋模擬文。縸文LR前～側面部。		162-7
8.	A-70314	3槽	深鉢・口縫部	縹帶：無文。	無孔尖縫。	162-8
9.	A-70315	1槽	深鉢・口縫部～側面部	口縫部：縹帶。側面部：縹文LR前～側面部。側面部：無文。		162-9
10.	A-70316	1槽	深鉢・側面部	縹曲状模擬文。瓦紋模擬文。縸文LR前～側面部。		162-10
11.	A-70317	1槽	深鉢・側面部	縸曲状模擬文。縸文LR前～側面部。	12上同。	162-11
12.	A-70318	1槽	深鉢・側面部	縸各部：縸帶。縸文LR前～側面部。		

第156図 SI179 積穴住居跡出土遺物（1）



No.	登録番号	場所	形状・部位	文様等	備考	参考文献
1	A-76019	1層	深鉢・口縁部～胴部	口縁部：無文。底部～胴部：横内縦文。区段内縦文。斜一列位施文。		167-12
2	A-76020	1層	深鉢・胴部	口縫部：無文。胴部：LR斜位施文。		167-14
3	A-76021	1層	深鉢・胴部	口縫部：無文。胴部：LR斜位施文。		168-1
4	A-76022	1層	深鉢・胴部	胴部：無文。胴部：LR斜位施文。	5と同一	168-3
5	A-76023	1層	深鉢・胴部	胴部：無文。胴部：LR斜位施文。	4と同一	168-4
6	A-76024	1層	深鉢・口縁部～胴部	口縫部～胴部：横内縦文。胴部：LR斜位施文。		168-5
7	A-76025	2・3層	小型深鉢・胴部～底部	口縫部：横内縦文。胴部：LR斜位施文。底部：無文。		168-10
8	A-76026	4・5・6層	深鉢・胴部	口縫部：横内縦文。		168-11
9	A-76027	1層	深鉢・口縫部	胴部：LR斜位施文。		168-7
10	A-76028	1層	深鉢・口縫部	胴部：LR斜位施文。		168-8
11	A-76029	1層	鉢・口縫部～底部	口縫部：無文。胴部：横内縦文。底部：ナガ。		168-6
12	A-76030	1層	深鉢・口縫部	無文。		168-9
13	A-76031	2・3層	深鉢・胴部	胴部：横内縦文。		168-3

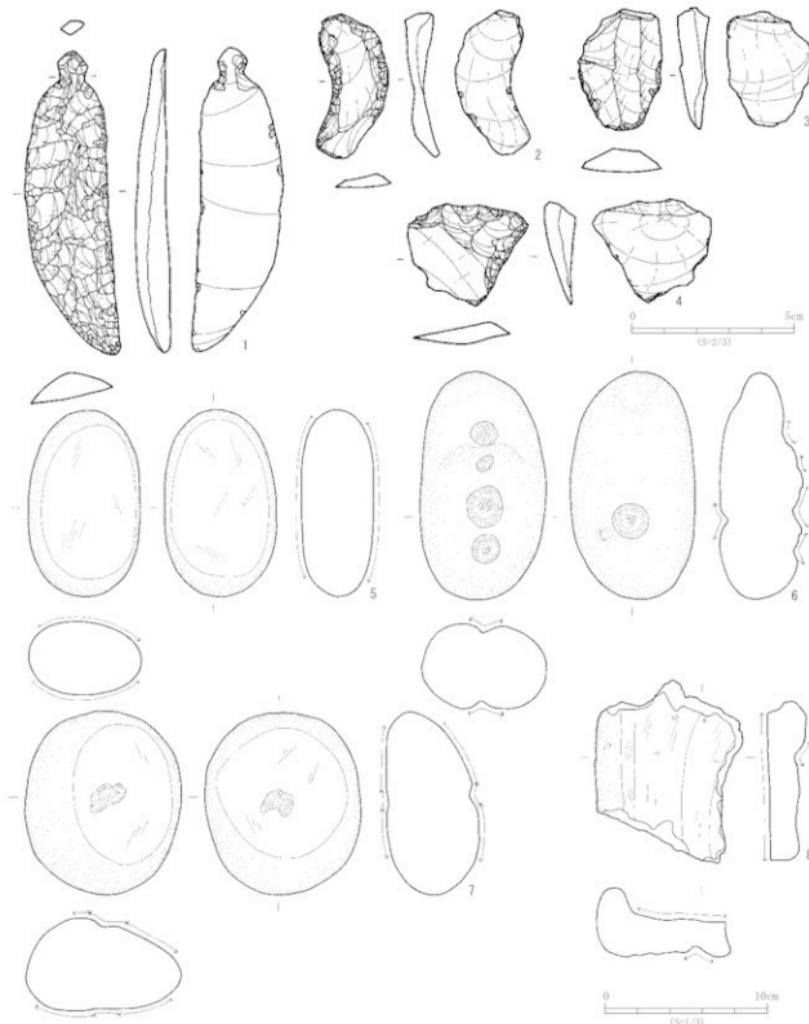
第157図 SI719 積穴住居跡出土遺物（2）



No.	登錄番号	地 帯	器形・部位	文様等	規 格	備 考	等級(鑑定)
1	A-76032	2+3層	深鉢・側面～底面	側面：礪文SL, 底部無文。底面：ナガ。	—	—	—
2	A-76033	1層	小型土器・側面～底面	側面：無文。底面：ナガ。	—	輪削み痕。	—
3	A-76034	2+3層	盆・側面～底面	側面：無文。柄狀把手。底面：ナガ。	—	—	—
4	P-7671	1層	不明土製品	ナガ。	孔有り。S-1/3。	—	—
5	P-7672	1層	土製内盤	側面破片利用。礪文LR, 無文。	重量 27.06g。	16B-12	
6	P-7673	1層	土製内盤	側面破片利用。礪文LR, 無文。	重量 5.75g。	16B-13	
7	P-7674	2+3層	土製内盤	側面破片利用。礪文LR, 無文。	重量 3.94g。	16B-14	
8	P-7675	1層	土製内盤	側面破片利用。無文。	重量 1.03g。器底の摩滅小傷なし。	16B-15	

No.	登錄番号	地 帯	石 器	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	規 格	等級(鑑定)
9	Ka-a-7619	海綿土	石器	柱状頁岩	26.6	14.7	4.1	0.6	—
10	Ka-b-7620	海綿土	石器	柱状頁岩	127.6	9.3	3.2	60.8	圓底火鉢。
11	Ka-b-7621	海綿土	石器	柱状頁岩	39.4	24.9	3.7	3.4	—
12	Ka-b-7622	海綿土	石器	柱状頁岩	654.0	(36.7)	16.7	(59.9)	圓底火鉢。
13	Ka-d-7623	1層	石器	柱状頁岩	70.2	18.9	12.7	19.2	網型。
14	Ka-d-7624	海綿土	石器	柱状頁岩	38.9	53.2	15.2	142	網型。表面自然面。

第158図 Si719 壘穴住居跡出土遺物（3）



No.	登録番号	遺構	面	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	参考文献
1	Kad-7417	海綿土	G面	珪質頁岩	94.1	28.1	8.0	282.2	破型。	168-21
2	Kae-7405	海綿土	スケレィバー	珪質頁岩	44.2	18.1	7.6	42.0		168-24
3	Kae-7409	土塊	スケレィバー	頁岩	137.0	26.0	9.2	17.20	細部火鉢。	168-25
4	Kae-7400	土塊	スケレィバー	珪質頁岩	32.1	26.6	8.9	7.6		168-23
5	Kea-7038	中～上層	礫石器	安山岩	115.0	69.0	44.0	271.0	壁2。	168-26
6	Kcb-7022	海綿土	礫石器	(ディサイ)	140.0	77.0	51.0	200.0	(壁4+1。	168-27
7	Kcd-7018	海綿土	礫石器	安山岩	115.0	69.0	58.5	302.0	壁2、回1+1。	168-28
8	Kda-7017	海綿土	石器	(ディサイ)	(112.0)	(69.0)	(43.0)	(287.0)	壁1、回1(裏)。	168-29

第159図 S1719 積穴住居跡出土遺物（4）

SI723堅穴住居跡 (第160・161図、国版29)

【位置・検出面】 第7次調査3区西側南端のH-31・32、I-31グリッドに位置し、N層上面で検出された。西および南側が調査区外に広がっている。東側にはS I 725堅穴住居跡、西側にはS I 612堅穴住居跡が存在する。

【新旧関係】 本遺構と重複関係にあるものはない。

【規模・平面形】 西および南側が調査区外となり全体は明らかでないが、平面形は東西4.35m以上、南北5.6m以上の隅丸方形に近い円形のものと考えられる。

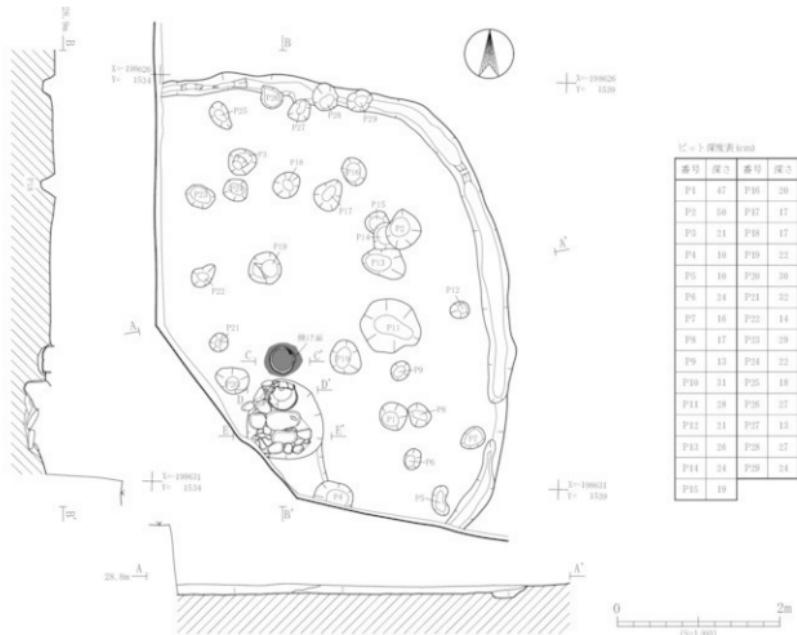
【堆積土】 2層に分層され、いずれも炭化物粒・焼土粒を含む。

【壁面】 壁高は10cm程で非常に浅く、壁は周溝の底面または床面から緩やかな角度で立ち上がっている。

【床面】 堅穴の掘り方底面を直接床面にしている。炉の周辺では若干硬化した部分が認められた。

【柱穴】 床面および周溝内から29個のピットが検出されているが柱痕跡が確認されたものではなく、いずれも掘り方のみが検出されている。今回の調査で検出された住居のピットの配列を参考にして柱穴を考えた場合に、炉との位置関係および規模からP1・P2が主柱穴になるものと考えられ、炉の長軸方向を主軸とした際に調査区外となる部分の左右対称となる位置にピットが存在するものと考えられる。またこの主軸線上に位置するP18や掘り込み部に存在するP4などの規則的な配置が見られる位置に存在するピットも検出されている。

【周溝】 東側の一部を除いて壁の内側をほぼ全周する。規模は幅18～32cm、床面からの深さ7～15cmであり、



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
堅穴	1 H-31G-2 基壇	粘土	炭化粒・焼土粒を少量含む。		堅穴	3 H-31K-4 地	粘土	V型削取土体、炭化粒を少量含む。	
	2 H-31G-4 基壇	粘土	炭化粒・焼土粒微量、V型削取土。						

第160図 SI723 堅穴住居跡

断面形はU字形である。

炉（第161図）

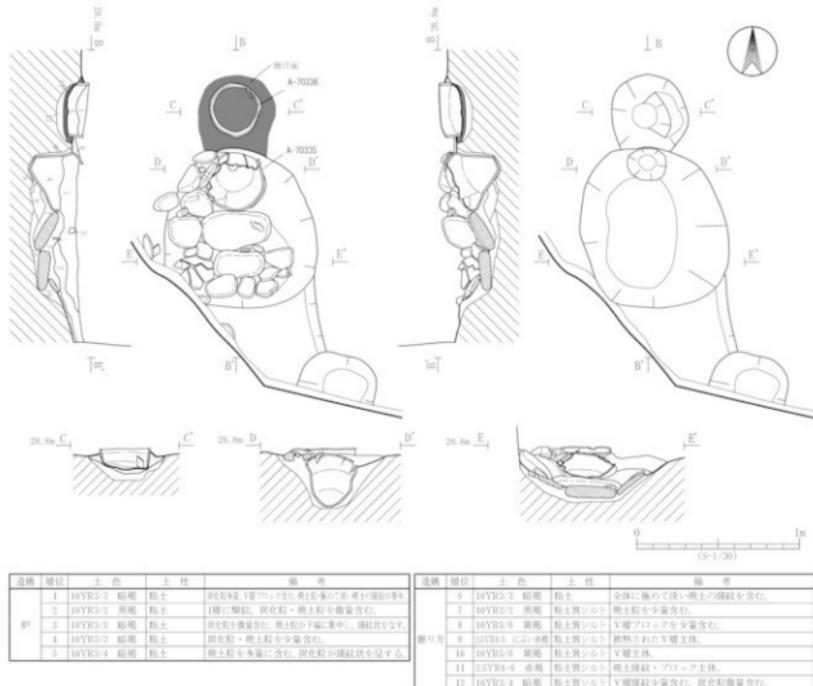
【位置・方位】住居の南側に位置しており、長軸方向はN-1°-Wのはば南北方向となる。

【規模・平面形】検出された部分では長さ202cm以上、幅100cm以上で、平面形は土器埋設部との境でくびれを有するダルマ形である。

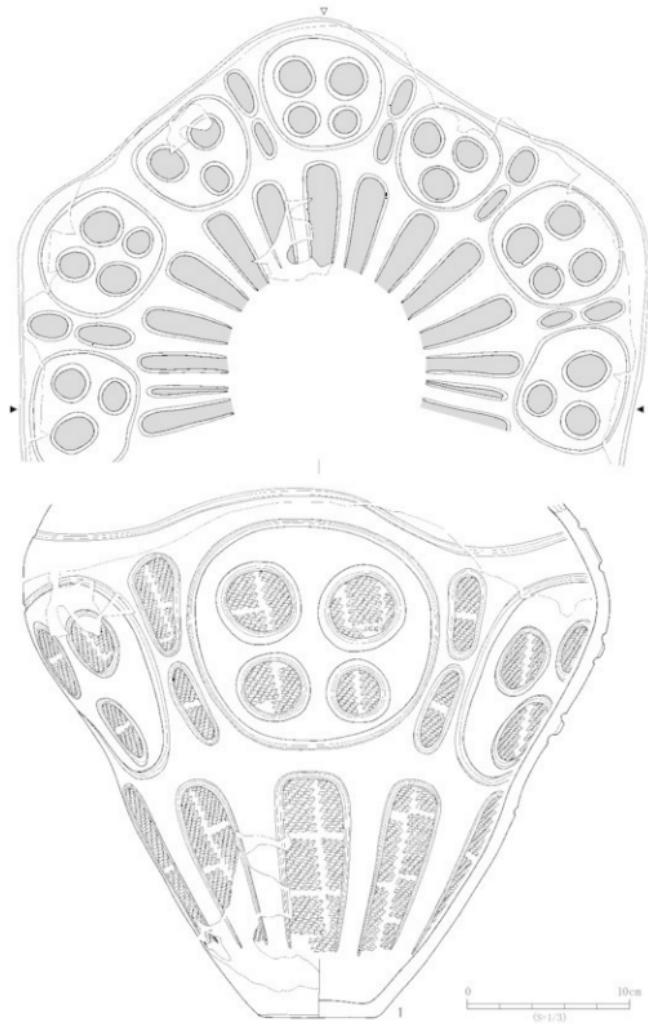
【構造】土器埋設部、土器埋設敷石石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

【土器埋設部】長さ44cm、幅46cm、床面から底面までの深さは8cmである。直径約49cm、深さ18cmの掘り方内に口縁部と胴部下半を欠いた深鉢形土器（A-70336）が正位の状態で埋設されていた。土器の周辺および底面は被熱の影響による赤変した状況が顕著である。

【土器埋設敷石石組部】長さ98cm、幅92cm、床面から底面までの深さは20cmである。土器埋設部側には口縁部を欠いた深鉢（A-70335）が南側へ斜めに傾けた斜位の状態で埋設され、周囲は10~15cmの小型の礫で囲まれている。また、底面と側面には30~40cmの大型で扁平な礫が平坦な面を上に向かた状態で敷設されている。側壁は底面から開いた角度で立ち上がっている。東側では礫が検出されず抜き取られたものと考えられる。埋設土器内の堆積土には炭化物粒・焼土粒が多量に含まれており、埋設土器の外側の掘り方部分まで被熱による赤変が認められた。敷石部についても礫が被熱のため赤変しているものや、ひび割れが生じたものが認められる。



第161図 SI723 壁住居跡複式炉



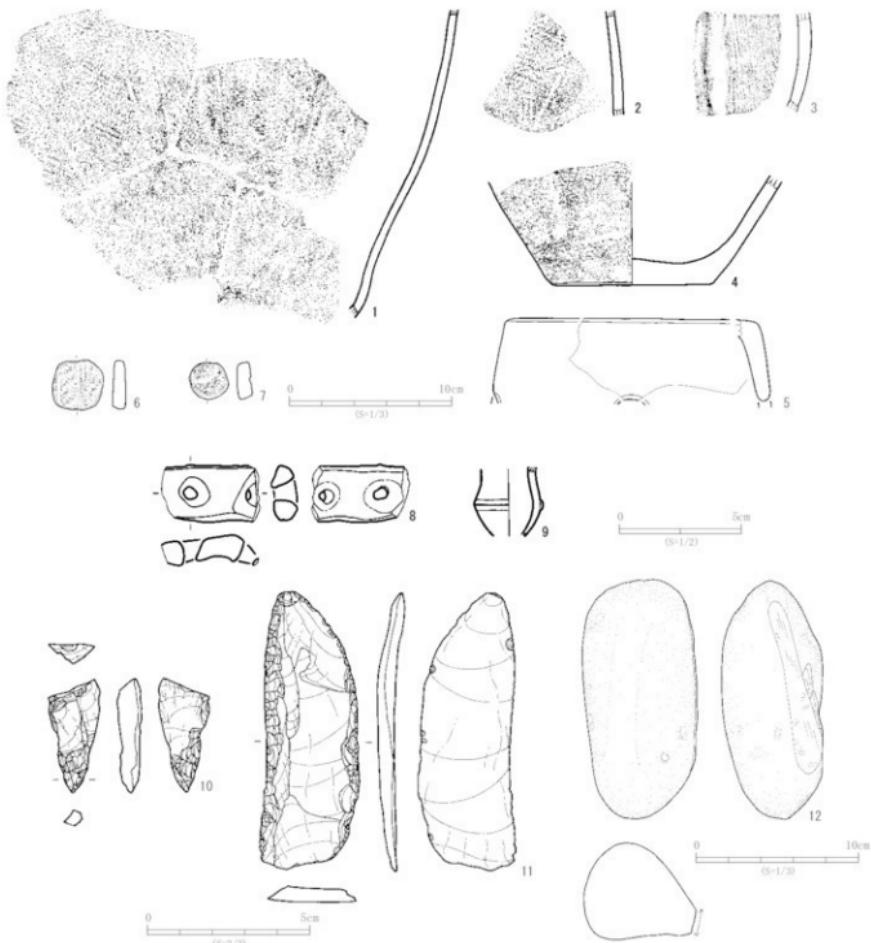
第162図 SI723 墾穴住居跡出土遺物（1）

No.	登録番号	場所	形態・部位	文様等	備考	写真(添付)
1	A-76505	伊・櫛溝上層	深林・頭頂一既復	網状、波状。柵門内側(外側)面内側(外側)面内側(外側)面内側(外側)面		10枚



No.	目録番号	種類	部位	文様等	文様等	備考	寸法(実物)
1	A-76336	砂・埋設土器	口縁部～胴部	口縁部：無文。胴部：「」印。内面底沈線文。区面内側面文及底位施文。			110-1
2	A-76337	埋設土器	底跡・口縁部	口縁部～底跡：無文。「」印。内面底沈線文。区面内側面文及底位施文。			110-2
3	A-76338	埋設土器	底跡	底跡：無文。柄先文。			110-3
4	A-76339	埋設土器	底跡・口縁部	口縁部：無文。区面内側面文及底位施文。			110-4
5	A-76340	埋設土器	底跡	口縁部：無文。区面内側面文及底位施文。			110-5
6	A-76341	埋設土器	底跡	口縁部：無文。区面内側面文及底位施文。			110-6
7	A-76342	埋設土器	底跡	口縁部：無文。区面内側面文及底位施文。			110-7
8	A-76343	埋設土器	底跡	口縁部：無文。区面内側面文及底位施文。			110-8
9	A-76344	埋設土器	底跡	口縁部：無文。区面内側面文及底位施文。			110-9
10	A-76345	埋設土器	底跡	口縁部：無文。区面内側面文及底位施文。			110-10
11	A-76346	埋設土器	底跡・口縁部～胴部	口縁部：無文。底跡・柄先：無位施文。胴部：内面底沈線文。区面内側面文及底位施文。	内面底沈線文。区面内側面文及底位施文。	底位口縫。	110-11
12	A-76347	埋設土器	底跡	口縁部：無文。区面内側面文及底位施文。			110-12
13	A-76348	埋設土器	底跡	口縁部：無文。区面内側面文及底位施文。			110-13
14	A-76349	埋設土器	底跡	口縁部：無文。区面内側面文及底位施文。			110-14

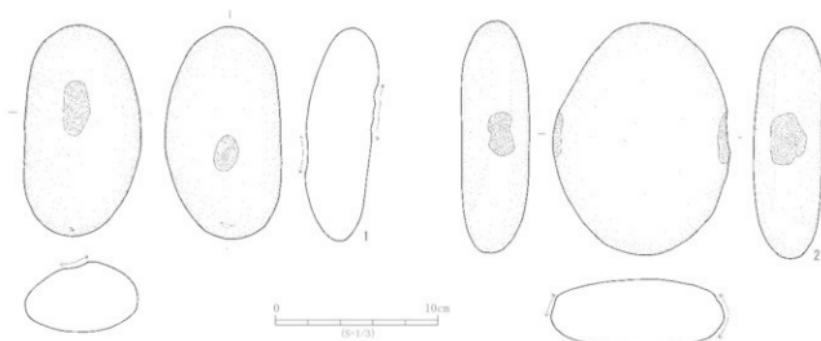
第163図 SiT23 積穴住居跡出土遺物（2）



No.	登錄番号	場所	形態・面相	文様等	備考	写真回数
1	A-76556	海綿土	深鉗・削器	網目状或波文、磨凸面LR面に施文。		169-3
2	A-76551	海綿土	深鉗・削器	網文R側に施文。		+
3	A-76552	海綿土	深鉗・削器	網文面。縦出状条痕文。		169-10
4	A-76553	砂・海綿土	深鉗・削器～鉋器	網文R側に施文。底部：ナゲ。		+
5	A-76554	P2海綿土	刮刀・台部・削器	台部～削器：無。		+
6	P-76721	海綿土	土割内盤	削器破片利用。波羅文、繩文R面文。	重量9.05g。	169-15
7	P-76727	海綿土	土割内盤	削器破片利用。波羅文、繩文LR面文。	重量5.54g。	169-16
8	P-76728	海綿土	不明・鉋品	無文。	孔2+周 S=1/2,	169-17
9	P-76729	〔二子〕ア土器・削器	削器	斜面文。	S=1/2,	+

No.	登録番号	場所	形態	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真回数
10	Kab-7023	海綿土	G型	黒耀石	30.0	15.0	6.0	2.0		169-18
11	Kae-7041	海綿土	スクレーパー	珪質頁岩	84.1	28.0	5.0	15.0		169-19
12	Kae-7042	海綿土	禮石器	(ディサイ)	147.0	71.0	62.0	800.0	縦1(横)	169-20

第164図 SI723 穫穴住居出土遺物（3）



第165図 SI723 穫穴住居跡出土遺物（4）

【掘り込み部】南側の大半が調査区外のために全体は明らかではないが、調査区内で検出された部分では長さが60cm以上、幅は土器埋設敷石組部の規模から想定して100cm程度と考えられる。平面形は東側壁の状況から「ハ」の字形に緩やかに広がる長方形のものと考えられる。底面は土器埋設敷石組部との境から緩やかに南側に向かって高くなり、床面からの深さは12cmである。

【出土遺物】(第162～165図、図版169・170)

堆積土中および炉から出土した土器・石器を第162～164図に示した。第162図1は複式炉の土器埋設敷石組部に埋設されていた土器である。土器では深鉢形土器の他に器台が出土している。土製品は土製円盤、有孔土製品、ミニチュア土器を図示した。石器は石錐1点、スクレイバー1点、微細剥離痕のある剥片2点、礫石器4点が出土しており、石錐1点、スクレイバー1点、礫石器3点を図示した。

SI725 穫穴住居跡 (第166図、図版30)

【位置・検出面】第7次調査3区東側中央のG-27・28グリッドに位置し、N層上面で検出された。周溝および炉の位置関係から全体の約1/3程が南側の調査区外になるものと考えられる。西側にSI723 穫穴住居跡、北東側にはSI601・602・726 穫穴住居跡が存在する。

【新旧関係】本遺構と重複関係にあるものはない。

【規模・平面形】全体の規模は不明であるが、平面形は直径4.4～4.6m程度の円形を基調とするものと考えられる。

【堆積土】8層に分層される。検出面から床面までの堆積土が浅く、V層粒・ブロックや斑紋などが多く含まれている。

【壁・面】床面または周溝の底面から緩やかに開いた角度で立ち上がりておらず、検出面から底面までの深さは5cm程度である。

【床・面】竪穴の掘り方底面を直接床面としている。炉の周辺の床面で若干硬化した部分が認められた。また住居北東部の炉の長軸の延長線上にあたる床面で直径44cmの大型の扁平な礫が出土した。

【柱・穴】竪穴および周溝内からビット21個が検出された。柱痕跡が確認されたものではなく、いずれも掘り方のみが検出されている。今回の調査で検出された良好な遺存状態の住居(SI714・715)の例を参考にして柱穴を見てみた場合にP3とP10が炉の長軸方向を主軸にして左右対称の位置関係にあり、またP18に対応するビットが調査

区外に有ることを想定した場合に四本柱の主柱穴構造になるものと考えられる。また周溝の周辺に存在するピットは壁柱穴になる可能性もある。

【周溝】北側の一部分を除いて壁直下またはそのやや内側を巡っている。幅は15~24cmで、床面からの深さは4



第166図 SI725 穴立住居跡

～6cmである。底面はほぼ平坦で、断面形はU字形である。

【その他】炉の東側で焼け面が2ヵ所確認された。炉の長軸方向の延長部分に存在するものを焼け面1、炉の東側に存在するものを焼け面2とした。焼け面1は40cm×15cmの範囲で平面形は橢円形である。焼け面2は80cm×60cmの不整形の範囲に広がっていた。いずれも被熱により床面が5cm程赤変していた。

炉（第166図）

【位置・方位】住居の南西側に位置し、長軸方向はN-53°-Eである。

【規模・平面形】長さ96cm以上、最大幅60cm以上である。平面形は石組部との境にくびれを有するダルマ形である。

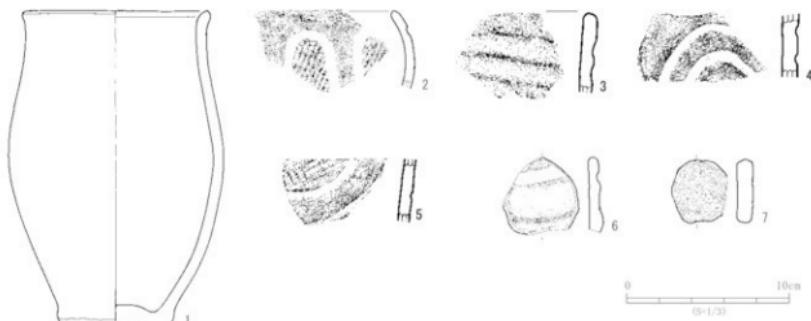
【構造】石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

【石組部】長さ36cm、幅34cm、床面から底面までの深さは14cmである。15cm前後の礫を方形に組み、北東側部分のみ石が2列に配されている。これに対して掘り込み部側では礫が存在していないが、掘り込み部の石組部側で検出された礫は形状や大きさから判断して、本来石組部にあったものが抜き取られて掘り込み部側に投棄されたものと考えられる。石組部内面は被熱を受けて割れた状態のものも見られ、堆積土中からは炭化物・焼土粒が微量に検出されている。

【掘り込み部】長さ60cm以上、幅60cm以上であり、平面形は橢円形あるいは円形を基調とするものと考えられる。中央はピット状に落ちこみ床面から最も深い部分までの深さは45cmである。南壁際では15cm以下の小型の礫が検出されているが、散漫である状況などから敷設されたものではなく投棄されたものと判断される。堆積土は2層に分層され、上層からは小型深鉢（A-70335）が出土した。

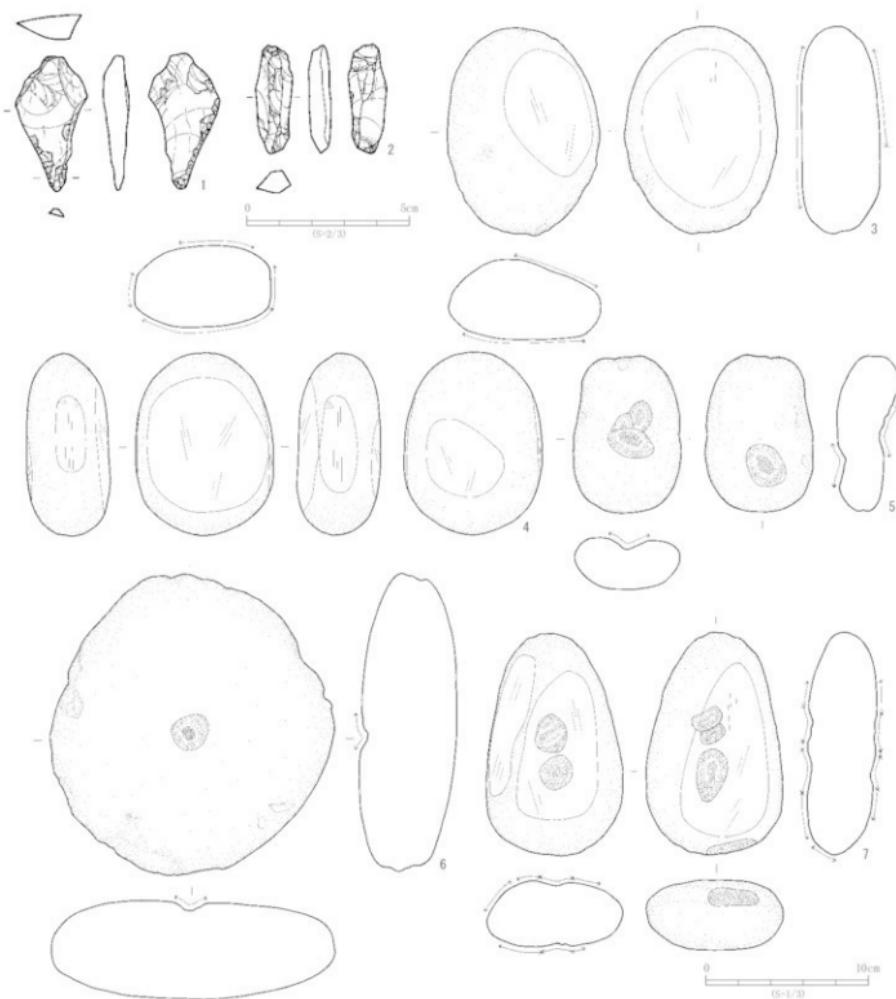
【出土遺物】（第167・168図、図版171）

炉および堆積土中から出土した遺物を第167・168図に示した。第167図1は複式炉の掘り込み部から出土した土器である。石器は石錐1点、クサビ形石器1点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片5点、礫石器17点が出土しており、石錐1点、クサビ形石器1点、礫石器5点を図示した。



No.	登録番号	種類	形状・部位	文様等	備考	参考図
1	A-76055	炉・堆積土	深鉢・口縁部～底面	白礫部～削面、無文、底面：ナメ。		171-1
2	A-76056	土器	深鉢・口縁部	凹凸模文、区画内斜溝横文1回、削面無文。		171-2
3	A-76057	土器直上	深鉢・口縁部	研磨文。		171-3
4	A-76058	土器直上	深鉢・削面	研磨文。		171-4
5	A-76059	炉・土器	深鉢・削面	区画削れ模文、区画内斜溝えLR面～横位施文。		171-5
6	P-7008	堆積土	土質判明	剥離部利用用、区画削れ模文。	重量 18.0kg.	171-6
7	P-7004	堆積土	土質判明	剥離部利用用、無文。	重量 16.0kg.	171-7

第167図 SI725 積穴住居跡出土遺物（1）



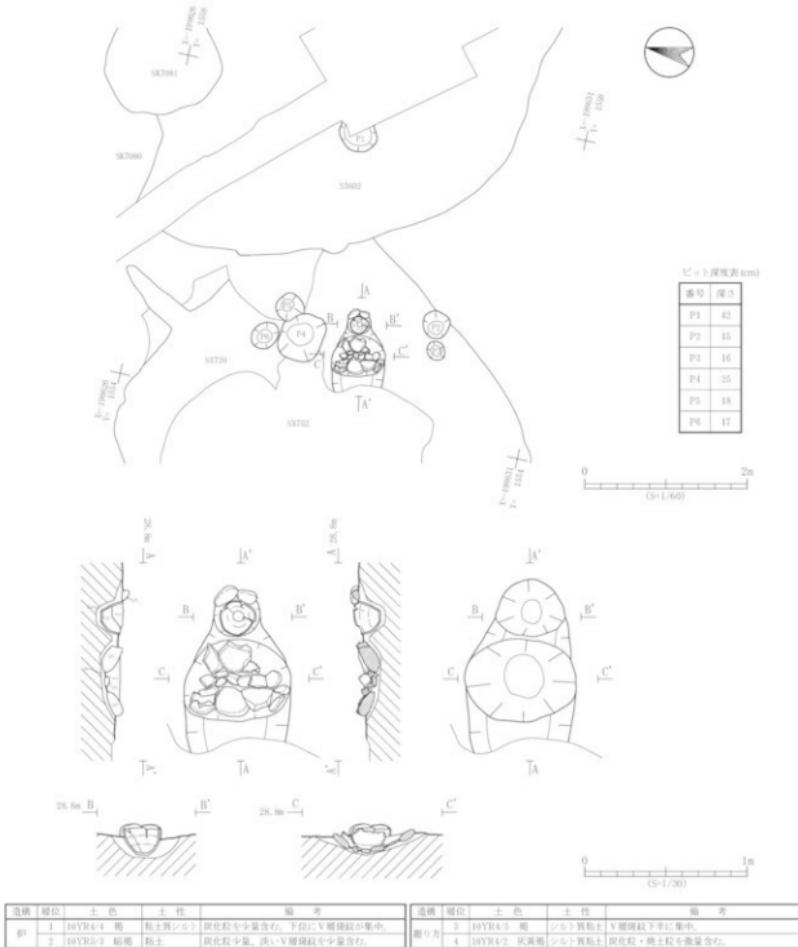
第168図 SI725 壁穴住居跡出土遺物（2）

SI726堅穴住居跡 (第169図、図版30)

〔位置・検出面〕 第7次調査3区東側南寄りのH-27・28グリッドに位置する。重複する古代のS I 720堅穴住居跡の床面の下から検出されたもので、同住居跡およびS X752風倒木痕により大きく削平されているため残存状況は悪い。東側にはS I 601・602堅穴住居跡、南西側にS I 725堅穴住居跡が存在する。

〔新旧関係〕 炉の位置関係からS I 601・602堅穴住居跡との重複関係にあるものと考えられるが、残存状況が悪く新旧は不明である。

〔規模・平面形〕 堅穴や周溝が確認されなかったため、全体の規模や平面形は不明である。



第169図 SI726 堅穴住居跡

【堆積土】 S I 720豎穴住居跡の床面の精査時に炉の一部が検出されており、堆積土が削平されているため不明である。

【壁・面】確認されなかった。

【床・面】炉の検出面が床面と考えられるが硬化面などは認められなかった。

【柱・穴】炉の周辺から検出されたピットを第169図に示した。P 1はS I 602豎穴住居跡内に存在するものであるが、炉の長軸方向の延長部分に位置していることから本遺構に伴うものとして抽出した。いずれも掘り方のみで柱痕跡が確認されたものはない。P 1・2・6は炉の長軸を挟んで左右対称となる二等辺三角形の配置となり柱穴となる可能性が考えられる。

【周・溝】確認されなかった。

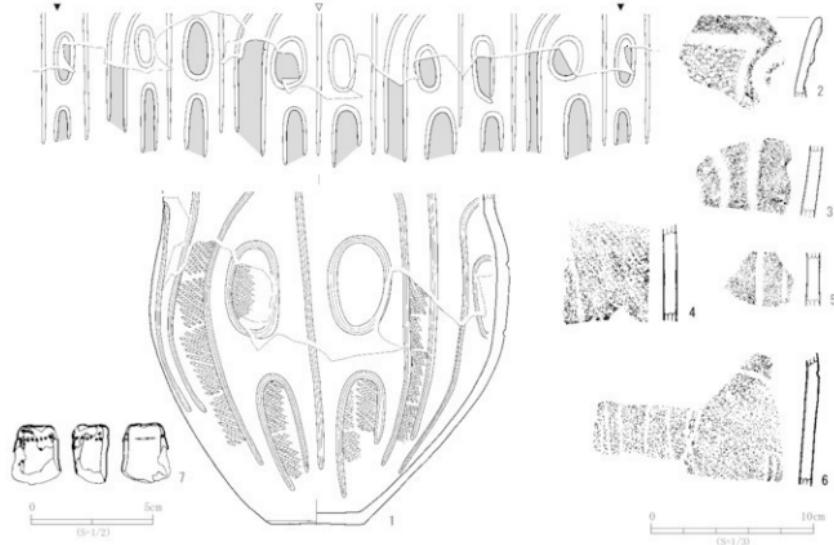
炉（第169図）

【位置・方位】住居の平面形が不明であり、炉の位置関係は不明である。長軸方向はN-80°-Eである。

【規模・平面形】平面形は長さは104cm以上、幅66cmである。

【構・造】土器埋設石群部、敷石石組部、掘り込み部からなる複式炉である。

【土器埋設石群部】長さ32cm、幅30cm、床面から埋設土器底面までの深さは12cmである。口縁～胴部上半を欠いた深鉢（A-70360）が正位の状態で埋設され、その周囲は疊で囲まれていたものと考えられるが、東側部分以外では検出されなかった。埋設土器内の堆積土は2層に分層され、下層は炭化物粒を少量含み粘性が強い。



No.	遺物番号	層・位	形・面	文様等	備考	学芸回数
1	A-70360	炉・地盤上部	深鉢・側面	(○)状・施丹頂凹面彫文、磨呂彫文LR面位無文		17-15
2	A-70361	検出面	深鉢・C面	撚沈彫文、施文頂・側位無文		17-18
3	A-70362	検出面	深鉢・側面	凸彫文		17-17
4	A-70363	検出面	深鉢・側面	凸彫文、磨呂彫文LR面位無文		17-18
5	A-70364	検出面	深鉢・側面	縦位平行沈彫文		17-19
6	A-70365	検出面	深鉢・側面	磨呂彫文、施文LR面位無文		17-20
7	P-7002	堆積土	三角形土器底	網突文	S-1/L	17-21

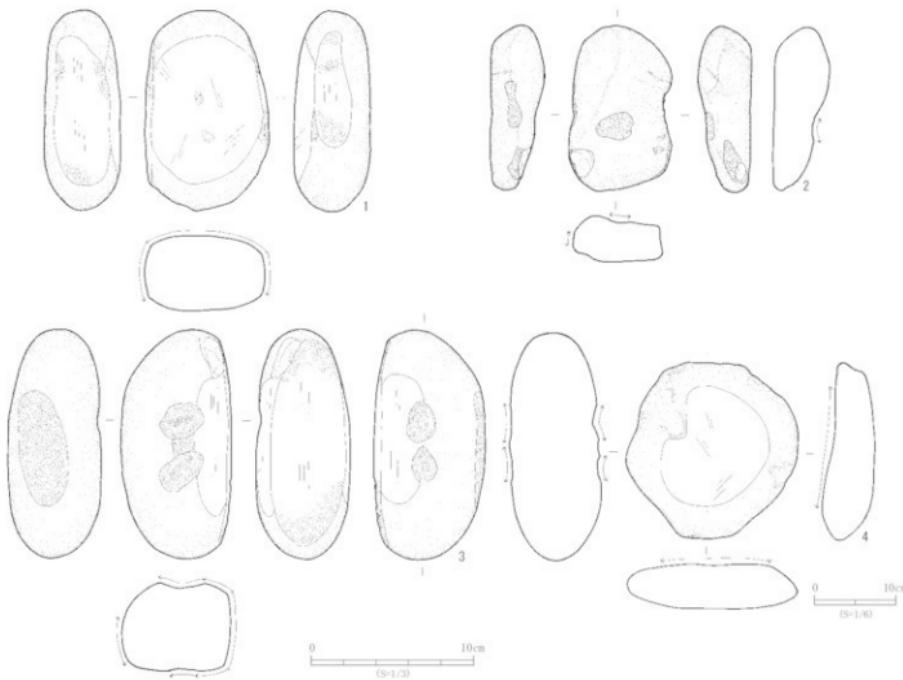
第170図 SI726 豊穴住居跡出土遺物（1）

【敷石石組部】長さ50cm、幅66cm、床面から中央の最も深い部分までの深さは12cmである。側面には大型で扁平な礫が平坦な面を上に向けた状態で敷設されており、底面および大型の礫の間は10cm未満の小型の礫によって埋められている。土器埋設石組部の東側では側面の礫が抜き取られたものと考えられる。側面の礫は底面から斜めに傾いた状態で設置されており、断面形は皿形である。

【掘り込み部】西側がS X752風倒木痕により削平されているため全体は不明である。長さ22cm以上、幅60cm、床面から底面までの深さは6cmである。底面はほぼ平坦であり断面形は皿形である。

【出土遺物】(第170・171図、図版21)

本遺構は上層で検出されたS I 720堅穴住居跡によって堆積土の大部分が削平されていたため出土遺物は少ない。土器は複式炉の土器埋設石組部の埋設土器(A-70360)とS I 720堅穴住居跡から検出されたものを第170・171図に示した。石器は微細剥離痕のある剥片1点、礫石器4点、石皿1点が出土し、礫石器3点、石皿1点を図示した。



No.	登録番号	場所	加工種	石 品	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	参考図版
1	Kca-7032	海螺土	礫石器	安山岩	125.5	78.5	46.5	628.0	礫3(個2),	171-22
2	Kcg-7301	海螺土	(ディヤイ)	-	102.0	63.0	33.0	260.0	円1, 磚2(個),	171-23
3	Kcg-7302	海螺土	礫石器	安山岩	141.0	68.0	56.0	785.0	礫3(個1), 円3+2, 磚1(個),	171-24
4	Kdg-7013	海螺土	石皿	安山岩	218.0	219.0	58.0	3,071.0	盤1, S-1/6,	171-25

第171図 SI720 堅穴住居跡出土遺物（2）

2. 土坑

土坑は第6次調査で264基、第7次調査で84基の合計348基が検出された。平成15年度に行われた確認調査の土層断面の観察結果では、遺構の掘り込みがⅢ層上面まで立ち上ることがから良好な土層堆積が認められた確認調査域の中央部分（およそ第6次調査1区から西側の第7次調査1区までの範囲）ではⅢ層上面での遺構確認が想定されていた。しかし、本調査ではⅢ層上面から遺構確認を行ったが掘り込み面と堆積土が酷似していたため、平面では遺構を検出することが非常に困難であったことから、Ⅳ層およびⅤ層上面で検出されたものが多い。平面形態では円形を基調とするものが多く見られ、断面形は壁が底面からオーバーハングして立ち上がるフ拉斯コ状のものや、ほぼ垂直に近い状態となる円筒形のものが多く認められた。土坑の分布は第6次調査2区ではほぼ全域から密集した状態で検出され、第7次調査では2区東側と西側とにまとまりを見ることができる。遺物の出土状態では底面付近から土器の大型破片や完形土器が出土しているものもある。その他、掘り込みが浅く配石を伴う長方形や橢円形の土坑が第7次調査1区などから多く検出されている。これから説明する土坑の堆積土について、人為堆積層としたものには、埋没の過程で人為堆積と自然堆積の両者の様相が認められるものが含まれる。Ⅴ層ブロックまたはⅥ層が主体となる層を人為堆積の根拠としているが、断面がフ拉斯コ状となる土坑の壁が自然崩落したものも人為堆積としたものに含まれている可能性がある。なお、遺構番号については古代以降のものを含めた通し番号であることから連続性に欠けており、また遺構・遺物図版等についても前後するものがあるため、第29～33表のSK土坑一覧表を参照されたい。土坑から出土した石器組成表を第23～25表に示した。以下、各土坑について説明する。

SK6001土坑（第172図、国版31）

第6次調査1区西側南寄りのI・J-23グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出された。東側にはS I 604堅穴住居跡、南側にSK6009土坑が存在する。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は147cm×124cmの橢円形で、長軸方向はN-60°-Eである。底面は中央部分が緩やかに落ち込んでおり、検出面からの深さは18cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は箱形である。底面中央部には46cm×39cm、深さ18cmの不整な橢円形のピットが検出された。堆積土は黄褐色シルトブロックを含む人為堆積層であり、4層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器71点が出土し、内6点を第223図、石器は石錐2点、スクレイバー2点を第296図に示した。

SK6002土坑（第172図、国版31）

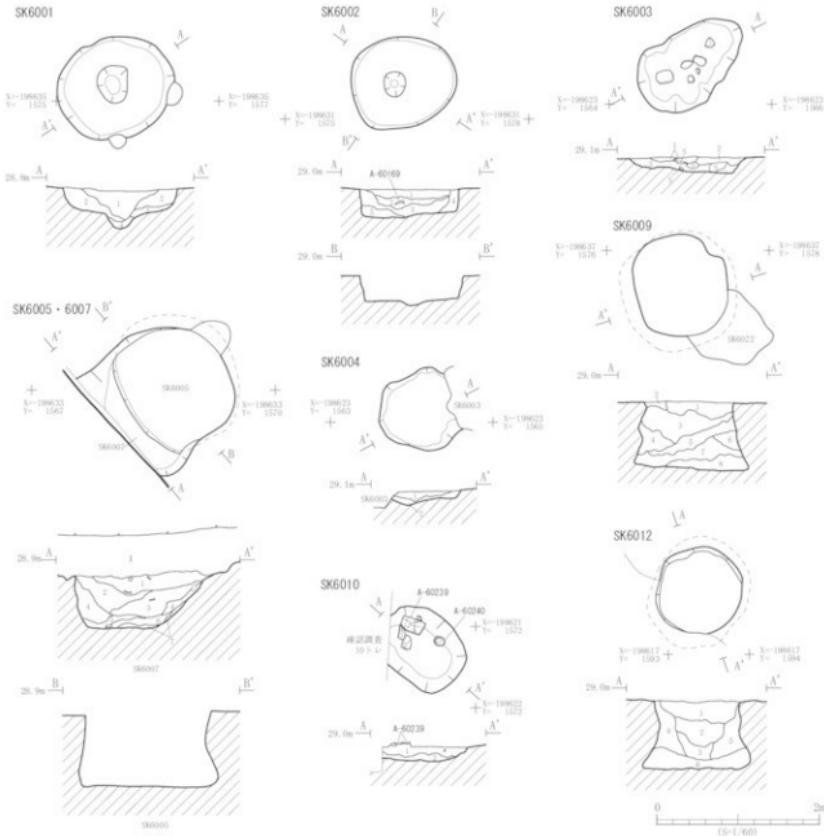
第6次調査1区西側南寄りのI-23グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出された。東側にはS I 604堅穴住居跡が存在する。平面形は130cm×111cmの橢円形で、長軸方向はN-78°-Eである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは30cmである。壁は底面から急な角度で立ち上がり、断面形は箱形である。底面の中央付近に30cm×26cmの橢円形の深さ6cm程の深いピットが検出された。堆積土はV層ブロックを含み5層に分層される。遺物は上層～中層から繩文土器78点が出土し、内15点を第223図、石器は石錐1点、石匙1点を第296図に示した。

SK6003土坑（第172図、国版31）

第6次調査1区西側中央のG-25・26グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出された。SK6004・6028・6035土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は145cm×90cmの不整な橢円形であり、長軸方向はN-55°-Eである。底面は凹凸が見られるがほぼ平坦で南東側へ向かって緩やかに傾斜している。検出面からの深さは19cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は人為堆積層と見られ、3層に分層される。堆積土の下層から炭化物・焼土粒とともに礫および繩文土器が出土している。遺物は堆積土中から繩文土器98点出土し、内10点を第224図、石器は石錐2点、スクレイバー2点、礫石器1点を第296・297図に示した。

SK6004土坑（第172図、国版31）

第6次調査1区西側中央のG-26グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出された。SK6003・6035土坑と重複関係に



SK	層位	土色	土性	備考	SK	層位	土色	土性	備考
6001	1	HYR0-2 黒褐色	粘土質シルト	V型縫合を少量含む。	6007	5	HYR2-1 黒褐色	粘土	炭化粒を多量、礫土塊量、土塑片を含む。
	2	HYR0-1 黒褐色	粘土質シルト	V型縫合を少量含む。		6	HYR3-1 こい深褐色	粘土質シルト	V型縫合。
	3	HYR0-4 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。		7	HYR1-2 黒褐色	粘土質シルト	V型縫合。
	4	HYR1-3 C.I. 黄褐色	粘土質シルト	V型縫合。		8	HYR0-1 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	5	HYR0-1 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合を少量含む。		9	HYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合。
6002	1	HYR0-1 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合を微量含む。	6009	2	HYR1-2 こい深褐色	粘土質シルト	V型縫合。
	2	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合を微量含む。		3	HYR0-1 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合を微量含む。
	3	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合を微量含む。		4	HYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合を多量に含む。
	4	HYR0-2 黄褐色	粘土質シルト	V型縫合を微量含む。		5	HYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。
	5	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合を微量含む。		6	HYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合。
6003	1	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	多量の土器片・礫を含む。	6010	7	HYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合を少量含む。
	2	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	少量の土器片・礫・礫石・炭化粒を微量含み、V型縫合を少量含む。土器片・礫を少量含む。		8	HYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	3	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量、土器片・礫を少量含む。		9	HYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	4	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。		10	HYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	5	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。		11	HYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
6004	1	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。		12	HYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合を少量含む。
	2	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。		13	HYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	1層・粗粒・小粒砂を少量含む。
	3	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。		14	HYR1-3 C.I. 黄褐色	粘土質シルト	砂の混入。
	4	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合を多量に含む。		15	HYR1-3 C.I. 黄褐色	粘土質シルト	V型縫合。
	5	HYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	V型縫合。		16	HYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。

第172図 繙文時代土坑（1）

あり、SK6003土坑よりも古く、SK6035土坑より新しい。東側の一部が削平されているが平面形は検出された部分から110cm以上×97cmの不整な楕円形を基調としたものである。底面には一部凹凸が認められ、検出面からの深さは18cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は黒～暗褐色粘土質シルト層で2層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器72点が出土し、内5点を第224図、石器は石匙1点を第298図に示した。

SK6005土坑（第172図、国版31）

第6次調査1区西側中央I-25グリッドに位置し、N層上面で検出された。当初、単独の土坑を想定して調査を行っていたものであるが、底面には段差が見られ南西側が調査区外へとのびていることなどから、重複する土坑としてこれを新たにSK6007土坑とした。新旧関係は不明である。平面形は明らかでないが底面の形から円形または椭円形を基調とするものと考えられる。残存部の規模は148×131cmで、検出面からの深さは93cmである。M層を底面とし、凹凸が認められるがほぼ平坦である。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層とみられ、暗褐色粘土質シルトを主体とし、V層ブロックや炭化物を含む。遺物は堆積土上層を中心に合計257点の縄文土器が出土し、内31点を第225・226図、石器は石錐1点、礫石器2点、石皿1点を第298図に示した。

SK6007土坑（第172図、国版31）

第6次調査1区中央北寄りのI-25グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK6005土坑と重複関係にあるが新旧関係は不明である。規模は調査区壁際付近で164cmであり、平面形は南西側が調査区外のため不明であるが底面の形状などから椭円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは68cmである。壁は底面からやや緩やかに立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は人為堆積層とみられ、7層に分層される。遺物は炭化物粒を含む1層及び下層にあたる5・6層中から縄文土器の破片が出土した。その他、堆積土中から縄文土器31点が出土し、内2点を第224図に示した。

SK6009土坑（第172図）

第6次調査1区西側南寄りのJ-23グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にS1605竪穴住居跡、北側にSK6001土坑が存在する。SK6022土坑と重複関係にあり本遺構が古い。平面形は125cm×114cmの不整な椭円形で、検出面からの深さは81cmである。底面はほぼ平坦で、壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土はV層ブロックを含む人為堆積層とみられ、8層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器209点が出土し、内8点を第227図、石器は石錐2点、石匙1点、礫石器1点を第299図に示した。

SK6010土坑（第172図、国版31）

第6次調査1区西側中央のG-24グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にSK6033土坑が存在する。西側の一部が確認調査10トレンチによって削平されているが、平面形は110cm以上×87cmの椭円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは17cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は2層に分層され、1層の北西側から深鉢形土器の大型破片（A-60239）や、胴部下半を欠く小型深鉢（A-60240）が正位の状態で出土した。その他、上層から縄文土器44点出土し、内5点を第227図に示した。

SK6012土坑（第172図、国版31）

第6次調査1区中央北寄りのF-20グリッドに位置し、N層上面で検出された。東側にSK6046土坑が存在する。南側が一部擾乱により削平されているが、平面形は直径約100cmの円形である。底面をM層とするかほぼ平坦で、検出面からの深さは84cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土はV層ブロックを含む人為堆積層と考えられ6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器9点が出土し、深鉢の胴部破片1点を第224図に示した。

SK6013土坑（第173図、国版31）

第6次調査1区西側中央のH-23・24グリッドに位置し、N層上面で検出された。西側にはSK6021土坑、南側にSK6032土坑が存在する。ピットと重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は126cm×103cmの不整な椭円形で、長軸方向はN-74°-Eである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは18cmである。壁は底面から緩やかに開いて立ち上がり、断面形はU字形である。南側の壁の立ち上がりの途中からは22cm×21cmで深さ14cmのピットが検出された。堆積土は2層に分層される。出土遺物は堆積土中から繩文土器片が出土しているが、國化できるものはなかった。

SK6014土坑（第173図、国版32）

第6次調査1区中央のH-22グリッドに位置し、N層上面で検出された。東側にSK6038土坑、南側にSK6024土坑、S I 604豎穴住居跡が存在する。平面形は123cm×102cmの椭円形で、長軸方向はN-38°-Eである。底面は平坦で、検出面からの深さは40cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は黒褐色シルトを主体とするもので5層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器351点が出土し、内5点を第228図、石器は石鏃1点、スクレイバー1点、礫石器2点を第297図に示した。

SK6015土坑（第173図、国版32）

第6次調査1区中央のG-21グリッドに位置し、N層上面で検出された。東側にはSK6085土坑、南側にSK6016土坑が存在する。南東側は確認調査12トレンチによって一部削平されているが、平面形は226cm×148cmの不整な椭円形で、長軸方向はN-45°-Eである。底面は平坦で、検出面からの深さは43cmである。底面の中央に28cm×29cm、深さ9cmの小ピットが検出された。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK6016土坑（第173図、国版32）

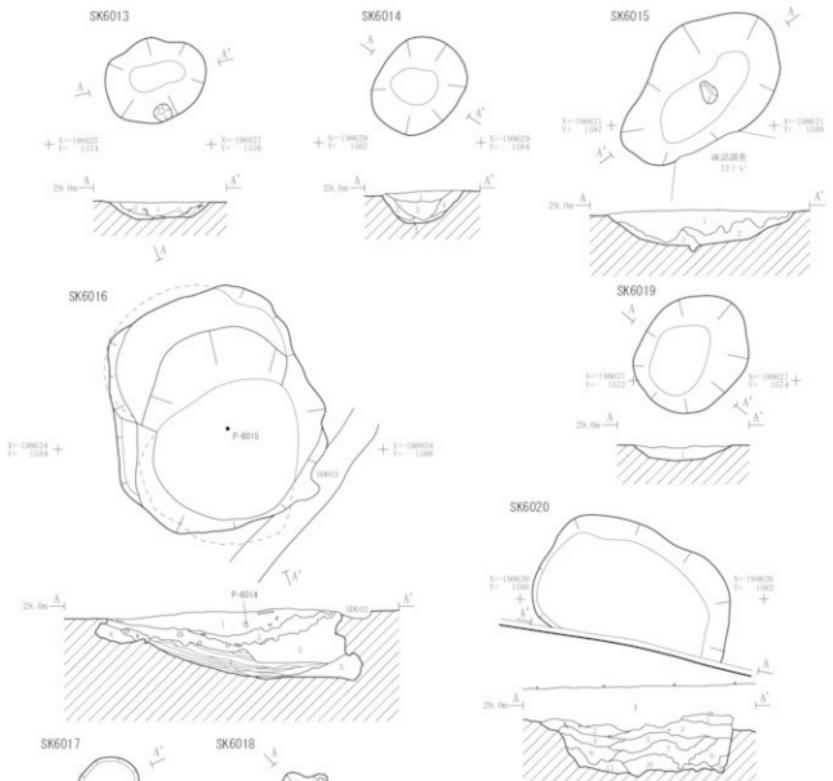
第6次調査1区中央のG-21グリッドに位置し、N層上面で検出された。北側にはSK6016土坑、南側にSX612焼土跡などが存在する。SD3溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。土坑の重複を想定して調査を行ったが土層断面の観察から1基の土坑と判断した。平面形は288cm×260cmの不整な長方形で、検出面からの深さは85cmである。長軸方向はN-24°-Wである。底面は南側へ向かって緩やかに傾斜している。また、北側には平坦部を有しており、検出面からの深さは30cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がっており断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に大別されるが、4層では炭化物粒や黄褐色シルト粒のラミナ状の堆積が認められた。また炭化物を含む1・2層中からは多くの繩文土器片が出土した。上層中心に合計676点が出土し、土器の他に土製品の三角墳形土製品(P-6015)とミニチュア土器を第228～231図に示した。石器は石鏃1点、石鏠5点、石錐5点、石匙3点、スクレイバー3点、クサビ形石器1点、礫石器5点、石皿1点を第299～301図に示した。

SK6017土坑（第173図）

第6次調査1区西側中央のH-24グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側には6018土坑、北西側にSK6023土坑が存在する。ピットと重複関係にあり本遺構が新しい。平面形は71cm×66cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは17cmである。壁は底面から急角度で立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は堆積土中から繩文土器10点が出土し、内1点を第231図に示した。

SK6018土坑（第173図、国版33）

第6次調査1区西側中央のH-23・24グリッドに位置し、N層上面で検出された。本遺構周辺にはSK6033土坑をはじめ多くの土坑が存在している。ピットと重複関係にあり本遺構が新しい。平面形は北西側が張り出す76cm×69cmの不整円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは26cmである。壁は北西側を除き底面からやや急な角度で立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層で、底面から11cm上から縁が出土



SK	層位	土 色	土 性	施 考
6013	1	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒少量、土壌片を含む。
	2	HYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層繩紋瓦を含む。
6014	1	HYR2-1 黒褐色	シルト	V層 プロックを少量含む。
	2	HYR2-2 黒褐色	シルト	炭化粒・焼土粒を微量含む。
	3	HYR2-1 黒褐色	シルト	炭化粒を微量含む。
	4	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	5	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを少量含む。
6015	1	HYR2-2 黒褐色	シルト	炭化粒を微量含む。
	2	HYR2-2 黒褐色	シルト	V層 プロックを微量含む。
	3	HYR2-2 黒褐色	シルト	炭化粒を微量含む。
6016	1	HYR2-2 黒褐色	シルト	炭化粒を微量含む。
	2	HYR2-2 黒褐色	シルト	V層繩紋瓦を含む。
6017	1	HYR2-2 黒褐色	シルト	V層 プロックを微量含む。
	2	HYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層繩紋瓦を含む。
6018	1	HYR2-2 黒褐色	シルト	V層 プロックを微量含む。
	2	HYR2-2 黒褐色	シルト	V層 プロックを微量含む。
6019	1	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	2	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	3	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	4	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	5	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	6	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	7	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	8	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層繩紋瓦を微量含む。
	9	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。
	10	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。
6020	1	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。
	2	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。

SK	層位	土 色	土 性	施 考
6016	3	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。炭化粒を微量含む。
	4	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。V層繩紋瓦を多量に含む。
6017	5	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層繩紋瓦を多量含む。
	6	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
6018	7	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。炭化粒を微量含む。
	8	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層繩紋瓦を微量含む。
6019	9	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。
	10	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。
6020	11	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。
	12	HYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。

第173図 繩文時代土坑（2）

している。遺物は土器は出土しておらず、堆積土中から出土した礫石器1点を第301図に示した。

SK6019土坑（第173図）

第6次調査1区西側中央のH-24グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にあるSK6021土坑ほか、周囲には多くの土坑が存在する。ピットと重複関係にあり本遺構が新しい。平面形は160cm×126cmの不整な楕円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは19cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は堆積土上層から縄文土器17点が出土し、土器片2点を第231図、石器は礫石器1点、石皿1点を第301図に示した。

SK6020土坑（第173図）

第6次調査1区中央南寄りのJ-22グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK605堅穴住居跡が存在する。SK605堅穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が新しい。南側が調査区外のため全体は不明であるが、平面形は249cm×151cmの隅丸方形を基調とするものと考えられる。長軸方向はN-65°-Wである。底面は細かい凹凸が見られるが平坦で、検出面からの深さは75cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がるが西～南西側はやや急角度となり、断面形は箱形である。堆積土は11層に分層されV層を含む。遺物は堆積土中から縄文土器203点が出土し、内12点を第232図、石器では石鏨2点、石錐4点、スクレイバー1点、礫石器2点、石皿1点を第302図に示した。

SK6021土坑（第174図）

第6次調査1区西側中央のH-24グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK6013土坑、西側にSK6019土坑が存在する。平面形は134cm×107cmの不整な楕円形で、長軸方向はN-75°-Eである。底面は中央に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは18cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は堆積土中から縄文土器17点が出土し、小型深鉢を第231図、石器は礫石器1点を第303図に示した。

SK6023土坑（第174図、国版33）

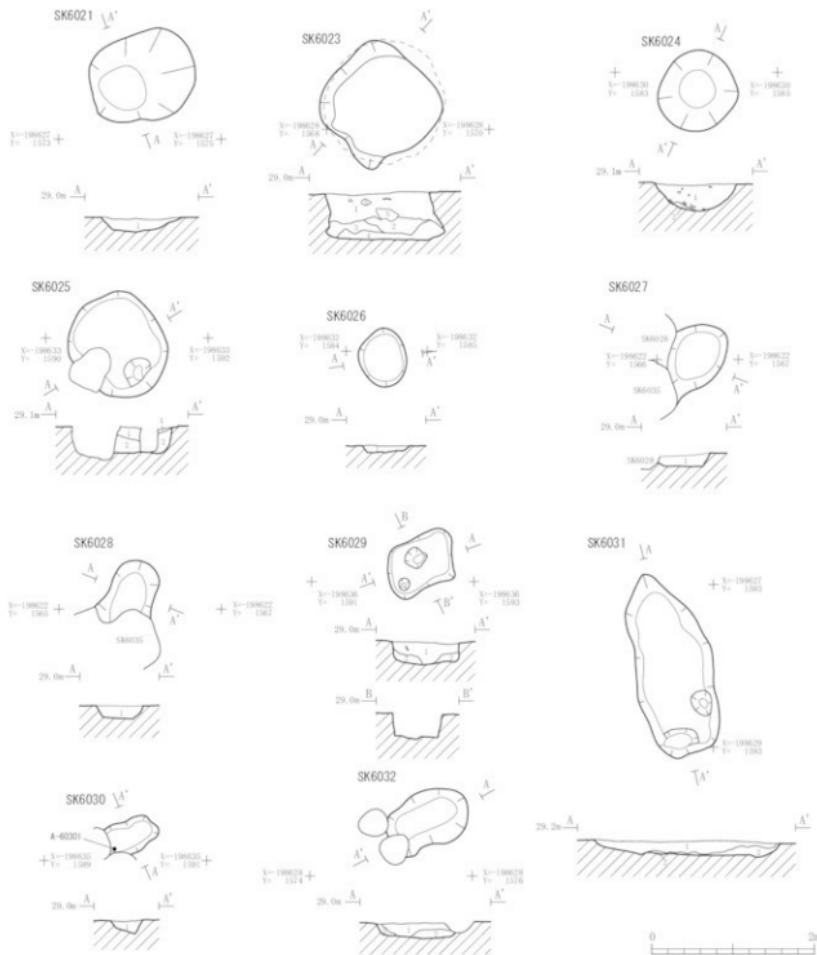
第6次調査1区西側中央のH-25グリッドに位置し、V層上面で検出された。南東側にはSK6017土坑、東側にはSK6018土坑が存在する。平面形は南側部分が崩落しており一部突出する部分も見られるが133cm×125cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは58cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフ拉斯コ状である。堆積土はV層ブロックを含む人為堆積層とみられ、4層に分層される。中層にあたる2層上面から約30cm程の礫が検出されている。遺物は堆積土中から縄文土器165点が出土し、内8点を第232・233図、石器はスクレイバー1点、礫石器2点を第303図に示した。

SK6024土坑（第174図、国版33）

第6次調査1区中央南寄りのH-I-22グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6014土坑、西側にSK604堅穴住居跡が存在する。ピットと重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は直径約100cmの不整な円形である。底面は中央部分に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは35cmである。壁は底面の中央付近から緩やかに立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は2層に分層され、1層から小礫の他に炭化物粒・焼土粒が検出されている。遺物は堆積土中から出土しており土器を第233図、石器は石錐1点を第303図に示した。

SK6025土坑（第174図、国版33）

第6次調査1区中央南寄りI-20グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側にSK6089土坑、南西側にSK6030土坑、南東側にSK6029土坑が存在する。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は131cm×115cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは32cmである。底面の南東側の壁際に38cm×32cm、深さ10cmの落ち込みが検出された。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は2層に分層され、1層には炭化粒・焼土粒を含み、人為堆積層とみられる。遺物は堆積土上層を中心に縄文土器321点が



	層位	土色	土性	備考
6031	1	HYR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粘土を微量含む。
	1	HYR2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化粘土を微量含む。土器片多い。
6033	2	HYR3/2-4 黒褐色	V型窓・ブロックを多量に含む。	
	3	HYR4/4 黒褐色	V型窓を含む。ブロック1体。	
	4	HYR3/2 黒褐色	炭化粘土を微量含む。	
6034	1	HYR2/2 黒褐色	炭化粘土を微量含む。	
	2	HYR2/5 黒褐色	粘土質シルト	炭化粘土を微量含む。
6035	1	HYR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粘土を微量含む。
	2	HYR3/4 黒褐色	粘土質シルト	炭化粘土を微量含む。
6036	1	HYR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粘土を微量含む。

	層位	土色	土性	備考
6037	1	HYR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粘土を微量含む。
6028	1	HYR2/3 黒褐色	粘土質シルト	壁下部にV型窓を設け集中して炭化粘土・焼土粒を微量含む。
6029	2	HYR2/4 黒褐色	粘土質シルト	V型窓・炭化粘土を微量含む。
6030	1	HYR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粘土を微量含む。
6031	1	HYR2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化粘土を微量含む。焼土粒を少量含む。
	2	HYR3/4 黑褐色	粘土質シルト	縦まり非常に強く硬い。粘土有り。
6032	1	HYR4/3 ぶい葉面	粘土質シルト	V型窓粒・ブロックが集中して炭化粘土・焼土粒を微量含む。
	2	HYR4/4 黑褐色	シルト	V型窓ブロックを多量に含む。

第174図 繩文時代土坑（3）

出土し、土器および土製品ではミニチュア土器1点を第233・234図、石器は石鏃3点、石錐3点、石匙3点、クサビ形石器1点を第304図に示した。

SK6026土坑（第174図）

第6次調査1区中央南寄りのI-22グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6024土坑、西側にSI604堅穴住居跡などが存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は72cm×59cmの橢円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは8cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK6027土坑（第174図）

第6次調査1区西側中央のG-25グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK6028・6035土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。そのため西側が削平されているが平面形は94cm以上×74cmの橢円形と考えられる。底面は平坦であるが東側へ緩やかに傾斜し、検出面からの深さは17cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層であり、炭化物粒を含む。遺物は出土していない。

SK6028土坑（第174図）

第6次調査1区西側中央のG-25グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK6027・6035土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6035土坑より古く、SK6027土坑よりも新しい。平面形は87cm以上×55cmの橢円形を基調としたものと考えられ、長軸方向はN-20°-Eである。底面は平坦で、検出面からの深さは20cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK6029土坑（第174図）

第6次調査1区中央南寄りJ-20グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側にはSK6025土坑が存在している。平面形は82cm×62cmのやや歪んだ不整長方形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは28cmである。底面の中央に24cm×23cm、深さ4cm、南西側に14cm×13cm、深さ7cmの浅い落ち込みが検出された。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器114点が出土し、内7点を第235図、石器は石鏃1点、石錐1点を第303図に示した。

SK6030土坑（第174図）

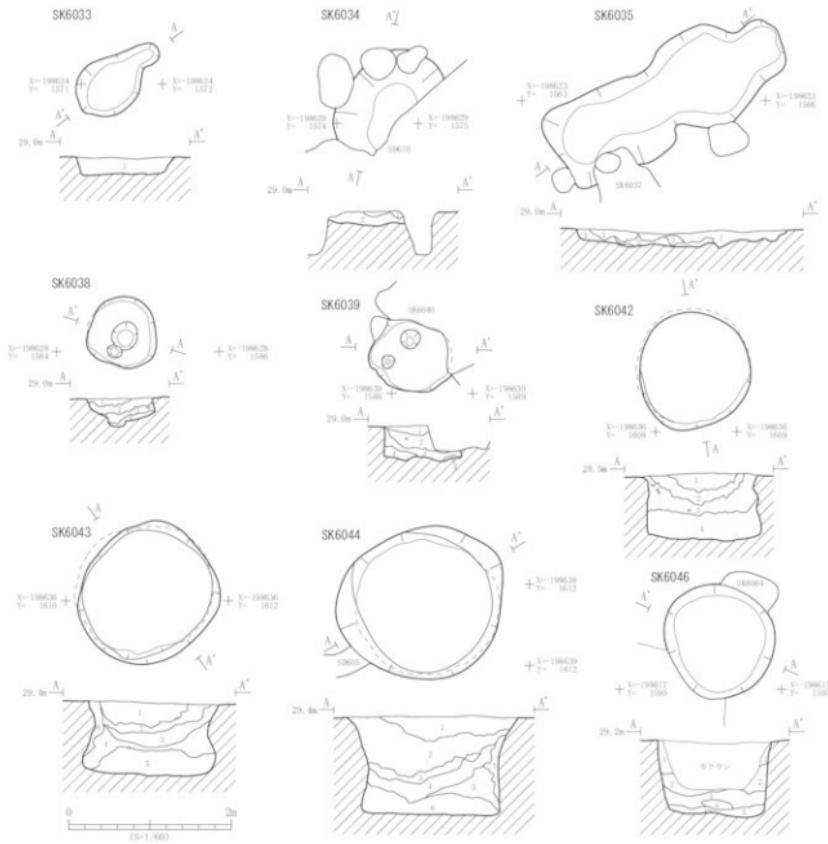
第6次調査1区中央南寄りのI-20・21グリッドに位置し、V層上面で検出された。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。西側は削平されているが、平面形は70cm以上×40cmの長方形を基調とするものと考えられる。底面は北側に向かって傾斜し、検出面からの深さは17cmである。壁は底面から開き気味に立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は堆積土中から縄文土器29点が出土し、内1点を第233図に示した。その他に疊石器1点が出土している。

SK6031土坑（第174図、図版33）

第6次調査1区中央のH-20グリッドに位置し、N層上面で検出された。南西側にはSK6029土坑が存在している。平面形は227cm×97cmの不整な橢円形で、長軸方向はN-15°-Wである。底面は若干凹凸が認められるがほぼ平坦であり、検出面からの深さは18cmである。底面の南側の東壁際で32cm×25cm、深さ9cm、南西隅で44cm×28cm、深さ5cmの浅い落ち込みが検出された。壁は底面から緩やかな角度で立ち上がり、断面形は皿形となる。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器170点が出土し、内12点を第235図、石器は石鏃1点、スクレイバー1点を第303図に示した。

SK6032土坑（第174図）

第6次調査1区西側中央のH-23グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはSK6013土坑、南側にはSK6034土坑が存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。西側の一部が削平されているが、平面形



	位相	土色	土性	備考
6033	1	HYVR-4	褐色	粘土質シルト 壁下部にV型埴段が集中。
	1	HYR1-3	(C)	褐泥
	1	HYR1-2	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
6034	1	HYVR-4	褐色	粘土質シルト 炭化粒を微量含む。
	2	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
	2	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
6035	1	HYVR-4	褐色	粘土質シルト 灰化粒少量、燒土粒を微量含む。
	2	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
	2	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
6038	1	HYVR-4	褐色	粘土質シルト 灰化粒を微量含む。
	2	HYVR-2	褐色	粘土質シルト 灰化粒を微量含む。
	2	HYVR-2	褐色	粘土質シルト 灰化粒を微量含む。
6039	1	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
	2	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
	2	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
6042	1	HYVR-5	褐色	粘土質シルト 灰化粒微量、燒土粒を微量含む。
	2	HYVR-5	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
	2	HYVR-5	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
6043	1	HYVR-5	褐色	粘土質シルト 灰化粒微量、燒土粒を微量含む。
	2	HYVR-5	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
	2	HYVR-5	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
6044	1	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
	2	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
	2	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
6046	1	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
	2	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。
	2	HYVR-4	褐色	粘土質シルト V型埴段を含む。

	位相	土色	土性	備考
6045	1	HYVR-4	褐色	V型埴段+ブロック+焼土B。
	2	HYVR-2	黒褐色	灰化粒を多量に含む。
	3	HYVR-2	黒褐色	壁全体に灰、V型埴段を含む。
	4	HYVR-3	褐色	灰化粒を少量含む。
	5	HYVR-4	褐色	V型埴段を含む。
	6	HYVR-4	褐色	V型埴段を少量含む。
	7	HYVR-2	褐色	灰化粒多量、燒土粒を微量含む。
	8	HYVR-4	褐色	灰化粒多量、V型埴段+ブロックを多量に含む。
	9	HYVR-2	黒褐色	V型の内輪埋土層、ブロックを主体。
	4	HYVR-4	褐色	V型埴段+ブロックを多量に含む。
	5	HYR1-2	褐色	壁下部にV型埴段+ブロック、焼土が見られる。
	6	HYR1-2	褐色	灰化粒を少量含む。
	7	HYR1-2	褐色	V型埴段を少量含む。
	1	HYR1-2	褐色	V型埴段、焼土層、灰化粒を微量含む。
	2	HYR1-2	褐色	上層、焼土、色濃いV型埴段。
	3	HYR1-2	褐色	40cm、台地、灰化粒を微量含む。
	4	HYR1-2	褐色	粘土質シルト
	5	HYR1-2	黒褐色	砂利を少量含む。

第175図 繩文時代土坑（4）

は106cm×70cmの長楕円形、長軸方向はN-65°-Eである。底面は平坦で、検出面からの深さは21cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK6033土坑（第175図）

第6次調査1区西側中央のG-24グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6010土坑、南側にSK6019土坑が存在している。平面形は北東側に張り出した120cm×71cmの瓢箪形で、長軸方向はN-52°-Eである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは21cmである。壁は底面から開いた角度で立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK6034土坑（第175図）

第6次調査1区西側中央のH-24グリッドに位置し、V層上面で検出された。ピット、SD610溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。南側は大きく削平されているが平面形は140cm以上×74cm以上の楕円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは17cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器12点が出土し、1点を第236図に示した。

SK6035土坑（第175図）

第6次調査1区西側中央のG-25・26グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK6027・6028・6037土坑、ピットと重複関係にあり、本遺構はSK6027・6028土坑よりも新しく、SK6037土坑およびピットよりも古い。平面形は310cm×127cmの不整な長楕円形で、長軸方向はN-62°-Eである。底面に凹凸が認められ、検出面からの深さは23cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土はV層ブロックを含み人為堆積層と見られ、4層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器9点が出土し、内1点を第236図に示した。

SK6038土坑（第175図）

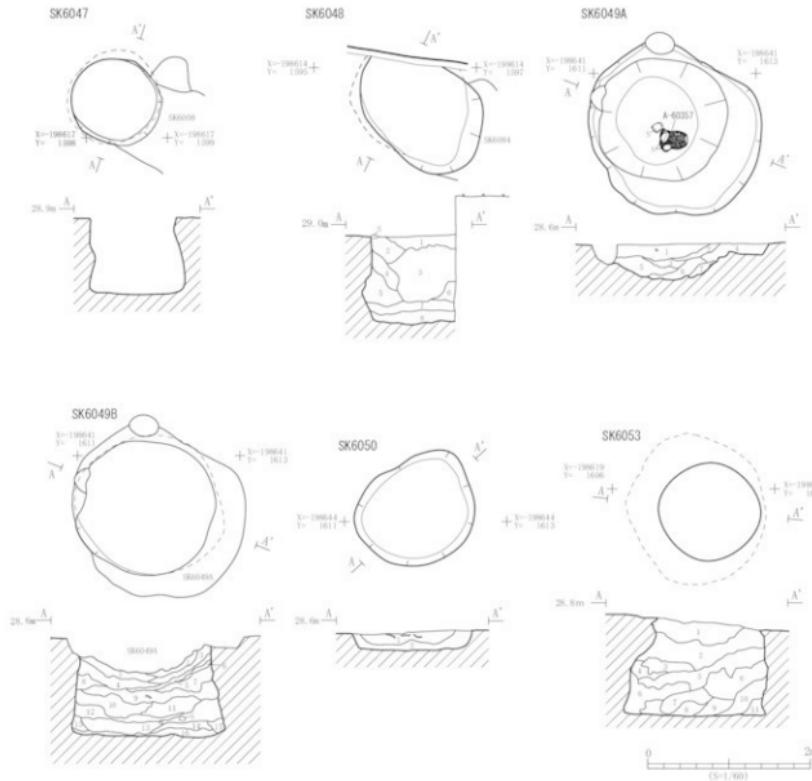
第6次調査1区中央のH-22グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側には6014土坑、南西側にSK6024土坑が存在し、上層でSX606埋設土器が検出されている。ピットと重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は直径85cmの不整な円形である。底面は中央に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは32cmである。底面の中央で35cm×32cm、深さ7cm、その南側で19cm×16cm、深さ14cmのピット2個が検出された。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がるが一部オーバーハングする部分も認められ、断面形は円筒形～フラスコ状である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器64点が出土し、内6点を第236図、石器は石鏃2点を第305図に示した。

SK6039土坑（第175図、国版33）

第6次調査1区中央のH-21グリッドに位置し、V層上面で検出された。本遺構周辺からは多数のピットが検出されている。SK6040土坑、ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は114cm×89cmの円形を基調としたものと考えられる。底面には凹凸が見られ、検出面から底面中央までの深さは47cmである。底面の中央北側に25cm×23cm、深さ7cm、西側に16cm×16cm、深さ7cmの浅い落ち込みが2箇所で検出された。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器126点が出土し、内4点を第236図、石器は石錐2点、礫石器1点を第304図に示した。

SK6042土坑（第175図、国版34）

第6次調査1区東側南寄りI・J-17グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK6043土坑が存在している。平面形は直径143～147cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは82cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層とみられ、3層に分層される。堆積土上～中層を中心に縄文土器74点が出土し、土器7点および土製品では土偶1点を第237図、石器は礫石器1点を第305図に示した。



SK	層位	土 色	性 質	備 考	SK	層位	土 色	性 質	備 考
6048	1	BYR1-4 黒	粘土質シルト	V層粒・炭化粒少量、礫土を微量含む。					
	2	BYR1-3 C.黒褐	粘土質シルト	V層ブロック多量、炭化粒を少量含む。					
	3	BYR1-2 黒褐	粘土質シルト	V層粒・炭化粒少量、小石及び砂含む。					
	4	BYR1-1 C.黒 褐斑	粘土質シルト	上段は小斜傾が中央集中し、下段はV層ブロックで多く含む。					
	5	BYR1-4 黒	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。縫・小斜が含む。					
	6	BYR1-3 黒褐	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。炭化粒が層全体に見られる。					
	7	BYR1-2 C.黒褐	粘土質シルト	小斜傾、北壁ではV層ブロックを多く含む。					
	8	BYR1-2 黑褐	粘土質シルト	粘土質シルト層がランダムに混じる。					
6049A	1	BYR1-4 黒	シルト	V層頂部土。					
	2	BYR1-3 C.黒褐	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を微量含む。					
	3	BYR1-2 黒褐	粘土質シルト	V層ブロックを含む。					
	4	BYR1-1 黒	シルト	V層土体。					
	5	BYR1-4 黑	シルト	V層粒・炭化粒を微量含む。					
	6	BYR1-3 黑褐	粘土質シルト	炭化粒を少量化。					
	7	BYR1-2 黑褐	シルト	V層粒・炭化粒を少量化。					
	8	BYR1-1 黒	シルト	V層粒・炭化粒を少量化。					
6049B	1	BYR1-4 黒	シルト	V層頂部土。					
	2	BYR1-3 C.黒褐	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を微量含む。					
	3	BYR1-2 黒褐	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を微量含む。					
	4	BYR1-1 黒	シルト	V層土体。					
	5	BYR1-4 黑	シルト	V層粒・炭化粒を微量含む。					
	6	BYR1-3 黑褐	粘土質シルト	炭化粒を少量化。					
	7	BYR1-2 黑褐	シルト	V層粒・炭化粒を少量化。					
	8	BYR1-1 黒	シルト	V層土体。					
6050	1	BYR1-4 黑	シルト	V層頂部土。					
	2	BYR1-3 黑褐	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を微量含む。					
	3	BYR1-2 黑褐	粘土質シルト	V層頂部・V層粒・炭化粒を多量含む。					
	4	BYR1-1 黑	シルト	V層土体。					
	5	BYR1-4 黑	シルト	V層粒・炭化粒を微量含む。					
	6	BYR1-3 黑褐	粘土質シルト	炭化粒を少量化。					
	7	BYR1-2 黑褐	シルト	V層粒・炭化粒を少量化。					
	8	BYR1-1 黑	シルト	V層土体。					
6053	1	BYR1-4 黑	シルト	V層頂部を少量化。					
	2	BYR1-3 黑褐	粘土質シルト	V層頂部・炭化粒多量、V層ブロック含む。					
	3	BYR1-2 黑褐	粘土質シルト	炭化粒を少量化。					
	4	BYR1-1 黑	シルト	V層土体。					
	5	BYR1-4 黑	シルト	V層粒を少量化。					
	6	BYR1-3 黑褐	粘土質シルト	炭化粒を少量化。					
	7	BYR1-2 黑褐	シルト	V層粒を少量化。					
	8	BYR1-1 黑	シルト	V層土体。					
	9	BYR1-4 黑	シルト	V層粒を少量化。					
	10	BYR1-3 黑	砂	炭化粒を少量化。					
	11	BYR1-4 黑	シルト	V層土体。炭化粒を少量化。					

第176図 繩文時代土坑（5）

SK6043土坑（第175図、国版34）

第6次調査I区東側南寄りのJ-16グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK6042土坑、南側にSK6044土坑、東側にSK6282土坑が存在する。ピットと重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は直径159～173cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは92cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフ拉斯コ状である。堆積土は6層に分層されるが、6層は壁の崩落土と考えられる。遺物は上～中層から繩文土器83点が出土し、内2点を第236図に示した。その他に、微細剥離痕のある剥片1点が出土している。

SK6044土坑（第175図、国版34）

第6次調査I区東側南寄りのJ-16グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6043土坑、北東側にSK6082土坑、東側にSK6291土坑などが存在している。SD605溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は213cm×185cmの椭円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは120cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、途中から開口部に向かって緩やかに外側へ開いて立ち上がり、断面形はフ拉斯コ状～朝顔形である。堆積土は人為堆積層と考えられ、7層に分層される。遺物は堆積土上層～中層から繩文土器83点が出土しており、内1点を第236図、石器は石窓1点を第305図に示した。

SK6046土坑（第175図、国版34）

第6次調査I区中央北寄りのF-19グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6048土坑、西側にSK6012土坑、東側にSK6047土坑が存在している。SK6064土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、南側は擾乱によって一部壊されている。平面形は直径131～141cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは94cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は人為堆積層とみられ、6層に分層される。遺物は出土していない。

SK6047土坑（第176図、国版34）

第6次調査I区中央北寄りのF-19グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にはSK6046土坑が存在する。SK6008土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は111cm×105cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは93cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフ拉斯コ状である。堆積土はV層ブロックを含む人為堆積層と見られ、暗褐色粘土質シルトを主体にするものである。遺物は出土していない。

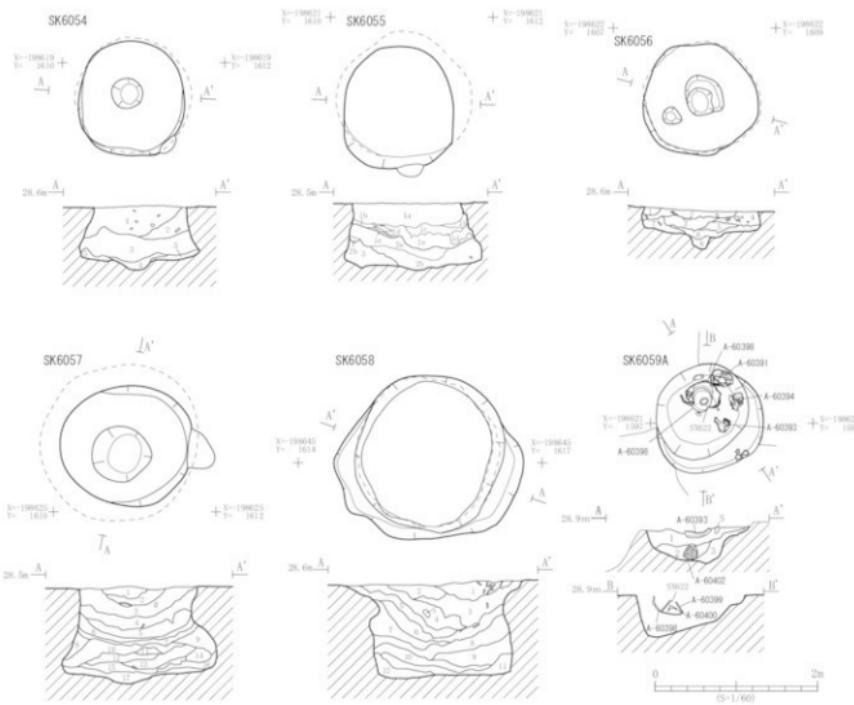
SK6048土坑（第176図）

第6次調査I区中央北寄りのE-19グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にはSK6046・6064土坑が存在する。SK6084土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。北側の一部が調査区外であるが、平面形は172cm×115cmの椭円形を基調とするもので、長軸方向はN-56°～Wと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは98cmである。底面はM層を掘り込んで構築され、細かい凹凸が認められる。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフ拉斯コ状である。堆積土は人為堆積層とみられ、8層に分層される。遺物は出土していない。

SK6049土坑（第176図、国版35）

第6次調査I区東側南寄りK-16グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にはSK6050土坑が存在する。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。本遺構は土坑を途中まで埋め、浅い凹み状にして新たに土坑として再利用したものと考え、完形土器が出土した浅い凹み部分をSK6049A土坑とし、下部のフ拉斯コ状土坑をSK6049B土坑とする。

SK6049A土坑の平面形は220cm×194cmの不整な椭円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは45cmである。また、南東側には浅いテラス状の平坦部を有しており、検出面からの深さは13cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形はU字形であるが、テラス状の平坦部では底面から開いた角度で立ち上がっており、断面



SK	層位	土 性	土 性	備 考	SK	層位	土 性	土 性	備 考
604	1	HYR6-2 黒泥	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒多量。燒土粒を少量含む。	605	8	IVYR2/2 黒泥	粘土質シルト	6層に類似。V層粒多量。炭化粒を微量含む。
	2	HYR6-2 黒泥	粘土質シルト	V層焼成・炭化粒多量。燒土粒を微量含む。	9	IVYR2/3 黒泥	粘土質シルト	炭化粒多量。V層焼成を含む。	
	3	HYR6-4 黒泥	シルト	V層ブロック・土主体。	10	IVYR2/4 黑泥	粘土質シルト	炭化粒多量。V層焼成を微量含む。	
	4	HYR6-2 黒泥	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を微量含む。	11	IVYR3/2 黒泥	粘土質シルト	V層焼成少量。V層ブロックを含む。炭化粒多量。燒土粒を微量含む。	
	5	HYR6-2 黒泥	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を微量含む。	12	IVYR3/4 黒泥	シルト	V層焼成少量。V層ブロックを含む。炭化粒多量。燒土粒を微量含む。	
605	1a	HYR6-4 黒	粘土質シルト	V層焼成土。炭化粒多量。	13	IVYR3/2 黒泥	粘土質シルト	炭化粒多量。V層粒多量。	
	1b	HYR6-2 黒泥	シルト	炭化粒を微量含む。	14	IVYR3/3 黒泥	粘土質シルト	炭化粒多量。	
	1c	HYR6-4 黒泥	シルト	V層焼成・ブロックを微量含む。	15	IVYR3/4 黑泥	粘土質シルト	V層ブロック。	
	1d	HYR6-2 黒泥	シルト	V層焼成・炭化粒を微量含む。	16	IVYR3/5 黑泥	粘土質シルト	V層焼成少量。炭化粒を微量含む。	
605	1e	HYR6-3 C-2 黒泥	粘土質シルト	V層焼成土。	17	IVYR3/2 黑泥	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
	2a	HYR6-2 黒泥	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。					
	2b	HYR6-2 黒泥	シルト	炭化粒・焼成を含む。					
605	3	HYR6-4 黑	粘土質シルト	V層ブロック・焼成を含む。					
	1	HYR6-2 黒泥	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。					
	2	HYR6-3 C-2 黑泥	シルト	V層焼成少量。燒土粒を微量含む。					
	3	HYR6-2 黑泥	粘土質シルト	V層焼成少量を含む。					
605	4	HYR6-2 黒泥	粘土質シルト	粘土質土。炭化粒多量。燒土粒を少量含む。					
	5	HYR6-3 C-2 黑泥	シルト	V層ブロック・土主体。大坪・焼成跡。					
	6	HYR6-4 黑泥	シルト	V層ブロック・炭化粒多量。燒土粒を少量含む。					
	7	HYR6-2 黑泥	粘土質シルト	炭化粒多量。燒土粒を少量含む。					
605	8	HYR6-3 C-2 黑泥	シルト	V層ブロック。					
	1	HYR6-2 黑泥	粘土質シルト	炭化粒少量。燒土粒を微量含む。					
	2	HYR6-2 黑泥	粘土質シルト	炭化粒多量。燒土粒を微量含む。土器片多い。					
605	3	HYR6-4 黑	シルト	V層ブロック・炭化粒多量。					
	4	HYR6-2 黑泥	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。					
	5	HYR6-2 黑泥	粘土質シルト	V層焼成・炭化粒を多量に含む。					
	6	HYR6-1 黑	粘土	炭化粒を多量に含む。					
605	7	HYR6-4 黑泥	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。					

第177図 繩文時代土坑（6）

形は皿形である。堆積土は人為堆積層と見られ、7層に分層される。出土遺物は下層の2層からは底部が穿孔された完形の深鉢（A-60357）が横位の状態で疊とともに出土しており、埋設されたものである可能性がある。

S K 6049 B土坑は平面形が直径159～165cmの不整な円形である。底面にはやや凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは123cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層とみられ、16層に分層される。遺物はA・B合わせて141点出土し、内6点を第238図に示した。その他に礫石器1点が出土している。

SK6050土坑（第176図、図版35）

第6次調査1区東側南寄りのK-16グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはS K 6049土坑が存在している。平面形は148cm×125cmの不整な楕円形で、長軸方向はN-56°-Eである。底面は平坦で、検出面からの深さは25cmである。壁は底面からやや急角度で開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土1層から繩文土器85点が出土しており、内6点を第239図に示した。その他に礫石器1点が出土している。

SK6053土坑（第176図、図版36）

第6次調査1区東側南寄りのF-17グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にS K 6054土坑、南側にはS K 6056土坑が存在する。平面形は直径120cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは120cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層とみられ、11層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器1223点が出土して、内3点を第238図、石器は石鎌1点、石匙1点を第306図に示した。

SK6054土坑（第177図、図版36）

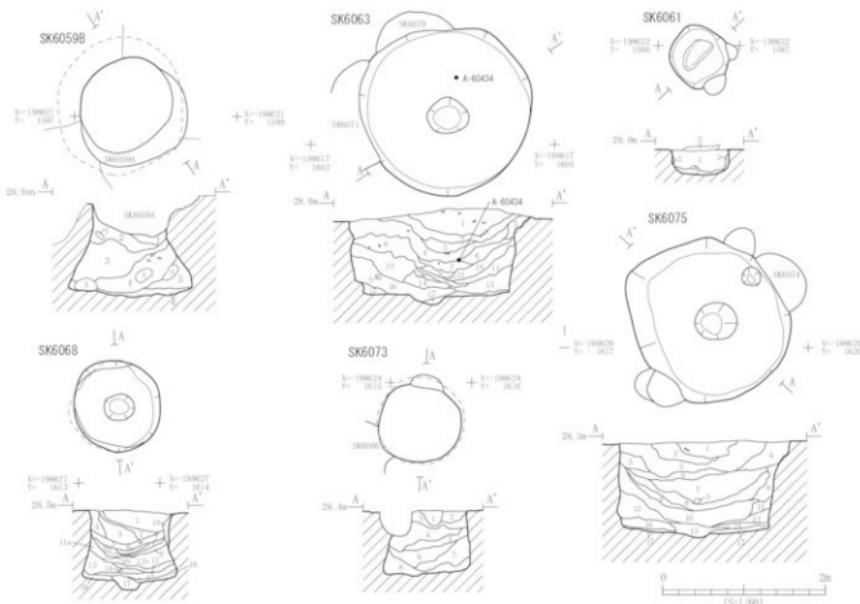
第6次調査1区東側北寄りのF-16グリッドに位置し、V層上面で検出された。平成15年度確認調査の14トレンチで土坑状プランとして検出されていたものである。西側にはS K 6053土坑、南側にはS K 6055土坑が存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は140cm×130cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは65cmである。底面の中央付近に直径36cm、深さ12cmのピットが検出された。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器61点が出土しており、内3点を第238・239図、石器は石鎌1点を第305図に示した。

SK6055土坑（第177図、図版38）

第6次調査1区東側北寄りのG-16グリッドに位置し、V層上面で検出された。平成15年度確認調査の14トレンチで土坑状プランとして検出されていたものである。北側にS K 6054土坑、西側にS K 6056土坑、南側にS K 6057土坑が存在する。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は150cm×135cmの不整な円形である。底面には凹凸が見られるがほぼ平坦で、検出面からの深さは82cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。遺物は2層中心に繩文土器54点が出土し、内2点を第238図、石器は石鎌1点、石錐1点、磨製石斧1点、礫石器2点を第306図に示した。

SK6056土坑（第177図、図版36）

第6次調査1区東側北寄りのG-17グリッドに位置し、V層上面で検出された。平成15年度確認調査の14トレンチで土坑状プランとして検出されていたものである。東側にS K 6055・6057土坑が存在している。平面形は直径135～140cmの円形である。底面は若干の凹凸が認められるが平坦であり、検出面からの深さは33cmである。底面の中央に50cm×45cm、深さ20cmのピットが検出され、北東側の一段高くなったテラス状の平坦部までの深さは6cmである。壁は底面からややオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器105点が出土し、内2点を第240図、石器は石錐2点、礫石器1点を第305図に示した。



SK	位番	土 色	土 性	縄 文	
				縄文	縄文
60598	1	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量、小磚を含む。	
	2	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量、土塊を多く含む。	
	3	HYR02-2 黒褐色	砂土質、灰化土多量、小磚を多く含む。		
	4	HYR02-4 黒褐色	砂質シルト	V型隙多量、土塊を多く含む。	
	5	HYR02-4 黒褐色	砂質シルト	砂吹きの黒褐色シルト層付し。疊合部。	
	6	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	砂吹き多量、小磚を含む。	
60603	1	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量、灰化土を含む。	
	2	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	砂吹きを少し含む。	
	3	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	砂吹き多量、灰化土を含む。	
60601	1	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	砂吹き多量、灰化土を含む。	
	2	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	砂吹き多量、灰化土を含む。	
	3	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	砂吹き多量、灰化土を含む。	
	4	HYR02-4 黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量、灰化土を含む。	
	5	HYR02-4 黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量、灰化土を含む。	
	6	HYR02-4 黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量、灰化土を含む。	
	7	HYR02-3 にじ黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量を含む。灰化土を少量含む。	
	8	HYR02-3 にじ黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量。	
	9	HYR02-3 にじ黒褐色	粘土質シルト	砂吹き多量、V型隙を少量含む。	
	10	HYR02-3 にじ黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量、灰化土を少量含む。	
	11	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙を含む。	
	12	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量、V型隙ブロックを少量含む。	
	13	HYR02-4 黒褐色	粘土質シルト	V型隙多量。	
	14	HYR02-4 黒褐色	粘土質シルト	1.上にV型隙ブロックで構成。灰化土を微量含む。	
	15	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙ブロックで構成。灰化土を少量含む。	
	16	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙ブロックで灰化土を微量含む。	
	17	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を微量含む。	

SK	位番	土 色	土 性	縄 文	
				縄文	縄文
60602	9a	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土多量、V型隙を少量含む。	
	9b	HYR02-4 黒褐色	粘土質シルト	V型隙ブロックで灰化土を少量含む。	
	10	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙ブロックを含む。	
	11a	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙ブロックで灰化土を少量含む。	
	11b	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙ブロックを含む。	
	12	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
60603	13	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙ブロックで灰化土を少量含む。	
	14	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙ブロックで灰化土を少量含む。	
	15	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙ブロックで灰化土を少量含む。	
	16	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	V型隙ブロックで灰化土を少量含む。	
	17	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	18	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	19	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	20	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	21	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	22	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
60604	1	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	2	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	3	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	4	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	5	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	6	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	7	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	8	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	9	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	10	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	11	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	12	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	13	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	14	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	15	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	16	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	
	17	HYR02-2 黒褐色	粘土質シルト	灰化土を含む。V型隙を少量含む。	

第178図 縄文時代土坑（7）

SK6057土坑（第177図、国版36）

第6次調査1区東側北寄りのG-16グリッドに位置し、V層上面で検出された。平成15年度確認調査の14トレンチで土坑状プランとして検出されていたものである。北側にSK6055土坑、西側にSK6056土坑が存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は162cm×148cmの円形である。底面はほぼ平坦であるが、若干中央に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは110cmである。また底面の中央には72cm×68cm、深さ10cm程の浅い落ち込みが検出された。壁は底面から内側に大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状となっている。堆積土は17層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器302点が出土し、内4点を第240図、石器は石錐3点、クサビ形石器2点を第307図に示した。

SK6058土坑（第177図、国版38）

第6次調査2区西側南寄りのK・L-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側にSK6201土坑が存在している。平面形は214cm×210cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは120cmである。壁は底面からやや内側にオーバーハングして立ち上がり、検出面付近では途中から大きく外側に向かって緩やかに開いており断面形はフラスコ状へ朝顔形となる。堆積土は12層に分層される。遺物は1層からやまとまって土器片が検出されている。その他、堆積土上層から縄文土器478点が出土し、内9点を第240・241図に示した。その他に、微細剥離痕のある剝片2点が出土している。

SK6059土坑（第177・178図、国版37）

第6次調査1区中央のG-19グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6086土坑が存在している。土器がまとまって検出された上層の浅い落ち込み部分をSK6059A土坑（第177図）、下層のフラスコ状土坑をSK6059B土坑（第178図）とする。

SK6059A土坑の平面形は135cm×130cmの円形である。底面は北東側に向かって傾斜しており、検出面から最も深い部分までの深さは45cmである。壁は外側に開いて立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は3層に分層される。遺物は主に北側からまとめて土器が検出されており、特に2層中からは浅鉢（A-60398）の上に底部穿孔された浅鉢（A-60399）が伏せた状態で検出され、SX622とした。

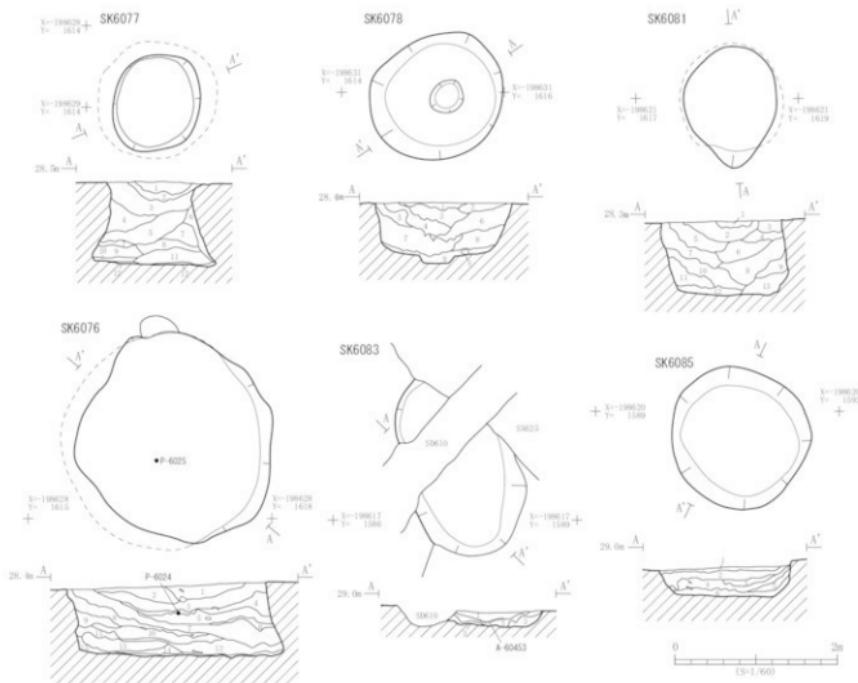
SK6059B土坑の平面形は118cm×106cmの円形である。VI層を掘り込んで底面が構築されているため凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは124cmである。壁の立ち上がりは底面から内側へ大きくオーバーハングしており、断面形はフラスコ状となっている。堆積土は6層に分層され、下層から床面付近では20~30cmの礫がやまとまって検出されている。遺物は堆積土中から縄文土器368点が出土し、内36点を第242~246図、土製品ではミニチュア土器を第246図、石器は石錐1点、スクレーパー1点、礫石器3点を第308図に示した。

SK6061土坑（第178図）

第6次調査1区中央南寄りのI-21グリッドに位置し、N層上面で検出された。西側にSK6026土坑が存在する。ピットと重複関係にあり、本遺構が古く、東側の一部が削平されている。平面形は73cm×70cmの不整な円形で、検出面からの深さは31cmである。底面は平坦で、壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は2層に分層される。検出面から、大型で扁平な50cmの礫が検出された。遺物は堆積土中から縄文土器22点が出土し、内2点を第246図に示した。

SK6063土坑（第178図、国版38）

第6次調査1区東側北寄りのF-18グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK6071・6079土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は213×210cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは108cmである。中央に50cm×44cm、深さ10cmのピットが検出された。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり断面形は円筒形となるが開口部では若干外側へ緩やかに開き、断面形は朝顔形である。堆積土は17層に分層され、中層から底部穿穴された



参考							
位別	土色	土性	備考	位別	土色	土性	備考
6076	1 MYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。	6078	3 DMY2-3 黒褐色	粘土質シルト	V層複数。炭化粒を含む。
	2 MYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を少量含む。		4 DMY2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。
	3 MYR2-2 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を多量に含む。		5 DMY2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を多量に含む。
	4 MYR2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を多量に含む。		6 DMY2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を多量に含む。
	5 MYR2-1 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を少量含む。		7 DMY2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	6 MYR2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を微量含む。		8 DMY2-1 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	7 MYR2-1 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を少量含む。		9 DMY2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	8 MYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		10 DMY2-2 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	9 MYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		11 DMY2-3 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	10 DMY2-3 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		12 DMY2-3 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
6077	11 MYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。		13 DMY2-3 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を多量に含む。
	12 MYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		14 DMY2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。
	13 MYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。		15 DMY2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。
	14 MYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を微量含む。		16 DMY2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。
	15 MYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		17 DMY2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。
	16 MYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を多量に含む。		18 DMY2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。
	17 MYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		19 DMY2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。
	18 MYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		20 DMY2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。
	19 MYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		21 DMY2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。
	20 MYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。				
6078	1 MYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。	6081	1 DMY2-3 黒褐色	粘土質シルト	V層複数。炭化粒を含む。
	2 MYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	V層粒・炭化粒を少量含む。		2 DMY2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	3 MYR2-2 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層粒を多量に含む。		3 DMY2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	4 MYR2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		4 DMY2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	5 MYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		5 DMY2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	6 MYR2-1 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		6 DMY2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	7 MYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		7 DMY2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	8 MYR2-1 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		8 DMY2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	9 MYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		9 DMY2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
	10 MYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。		10 DMY2-1 黒褐色	粘土質シルト	V層粒を少量含む。
6079	11 MYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。		11 DMY2-3 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	12 MYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	粘性強い・中空粘土化。炭化粒を多量に含む。		12 DMY2-3 黒褐色	粘土質シルト	V層土体。
	1 MYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。		3 DMY2-3 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	2 MYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。		4 DMY2-3 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	3 MYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。		5 DMY2-3 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	4 MYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。		6 DMY2-3 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	5 MYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。				
	6 MYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。				
	7 MYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。				
	8 MYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。				

第179図 繩文時代土坑（8）

浅鉢（A-6043）が出土した。遺物は堆積土上層から縄文土器582点が出土し、内10点を第247図、土製品では三角形土製品を第248図、石器は石錐1点、石匙2点、スクレイバー2点を第307図に示した。

SK6068土坑（第178図、国版39）

第6次調査1区東側中央のH-16グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側にSK6067土坑、北東側にSK6073土坑が存在している。平面形は111cm×107cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは87cmである。底面の中央には37cm×32cm、深さ11cmのピットが検出された。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は17層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器169点が出土し、内3点を第248図、石器は石錐1点を第308図に示した。

SK6073土坑（第178図、国版40）

第6次調査2区西側北寄りのG-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側にSK6068土坑、南東側にSK6076土坑が存在する。SK6066土坑、ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は101cm×99cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは80cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器の小片が僅かに出土しているが図化できるものはなかった。

SK6075土坑（第178図、国版39）

第6次調査2区西側北寄りのH-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側にSK6076土坑、南側にはSK6102土坑が存在している。SK6074土坑、ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は198cm×183cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは113cmである。底面の中央で52cm×45cm、深さ5cmの浅い落ち込みが、またその北東側からは24cm×23cm、深さ13cmのピットが検出された。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がって開口部付近で外側へと緩やかに開き、断面形は円筒形である。堆積土は人為堆積層と考えられ、17層に分層される。遺物は堆積土上～中層から縄文土器62点が出土し、内2点を第248図に示した。石器はスクレイバー他4点出土している。

SK6076土坑（第179図、国版39）

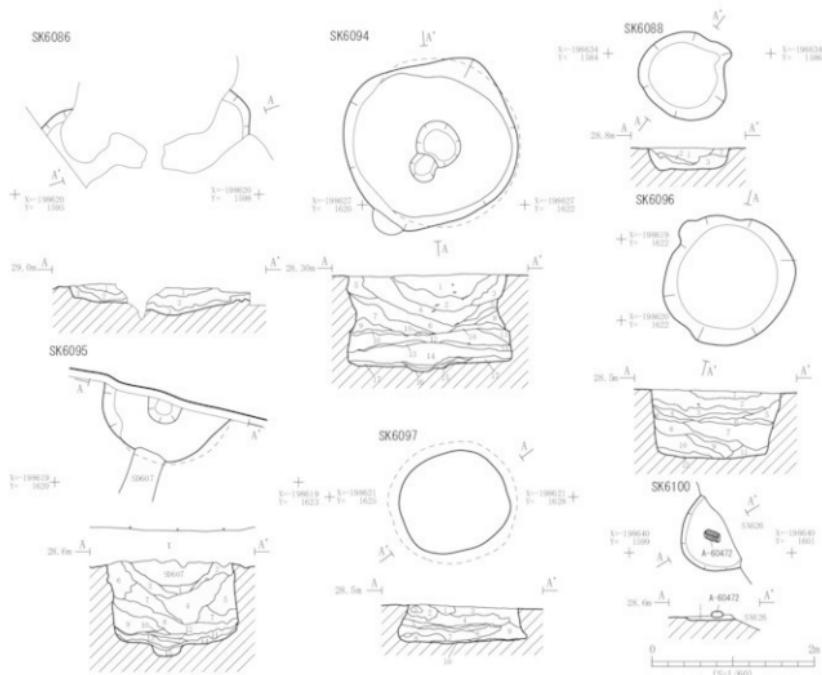
第6次調査2区西側北寄りのH-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西にはSK7075土坑、西側にはSK6068土坑などが存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は244cm×234cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは92cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層で14層に分層される。土層断面の観察では北西側から斜方向に土層の堆積が認められることから、位置関係より北西側に隣接するSK6075土坑掘削時に出土した土で埋土された可能性を考えられる。遺物では5層下部から土偶（P-6025）が検出された他、土器・石器が出土している。堆積土上～中層から縄文土器432点が出土し、土器8点および土製品を第249図に、石器は石錐1点、石錐1点、スクレイバー1点、碌石器3点を第309図に示した。

SK6077土坑（第179図、国版40）

第6次調査2区西側北寄りH-15・16グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側にSK6076土坑、南側にSK6078土坑が存在している。SK6072土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は117cm×108cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは103cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土はV層ブロックを含む人為堆積層と見られ、12層に分層される。遺物は3～5層から縄文土器42点が出土し、内1点を第248図、石器は碌石器2点を第310図に示した。

SK6078土坑（第179図、国版40）

第6次調査2区西側北寄りのI-15・16グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6077土坑が存在



SK	層位	土色	土性	備考	SK	層位	土色	土性	備考
6086	1	IVYR3-2 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒少量含む。	6092	8	IVYR2-3 黒褐色	粘土	炭化粒を少量含む。
	2	IVYR3-2 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒多量含む。					
	3	IVYR3-2 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒を少量含む。					
	4	IVYR3-2 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒を少量含む。					
6088	1	IVYR3-4 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒を少量含む。					
	2	IVYR3-4 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒多量含む。					
	3	IVYR3-4 (上) 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒を少量含む。					
	4	IVYR3-4 (下) 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒少量含む。					
6094	1	IVYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒少量含む。					
	2	IVYR2-4 黒褐色	シルト	V壁ブロック・炭化粒多量含む。					
	3	IVYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒多量含む。					
	4	IVYR2-2 (上) 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒少量含む。					
	5	IVYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V壁ブロック少量。					
	6	IVYR3-1 (上) 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック多量、炭化粒少量含む。					
	7	IVYR3-1 黑褐色	粘土	V壁ブロックを多量に含む。					
	8	IVYR3-1 (上) 黑褐色	シルト	V壁ブロック・主体。					
	9	IVYR4-4 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒少量含む。					
	10	IVYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロックを多量に含む。					
	11	IVYR4-4 黑褐色	シルト	V壁ブロック・主体。					
	12	IVYR4-6 黑褐色	シルト	V壁ブロック・焼け柱や下部、中央に暗褐色ブロックを含む。					
	13	IVYR2-2 黑褐色	粘土	V壁ブロックを多量に含む。					
	14	IVYR3-1 (上) 黑褐色	シルト	V壁ブロック・炭化粒を多量に含む。					
	15	IVYR2-2 黑褐色	粘土	炭化粒多量、V壁ブロックを少量含む。					
	16	IVYR3-4 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒少量含む。					
	17	IVYR2-2 黑褐色	粘土	V壁ブロックを多量に含む。					
6095	1	IVYR3-2 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒を少量含む。					
	2	IVYR3-4 黑褐色	シルト	V壁ブロックを少量含む。					
	3	IVYR3-1 (上) 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒少量含む。					
	4	IVYR3-4 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・炭化粒少量含む。					
	5	IVYR3-4 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。					
	6	IVYR3-1 (上) 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒多量、炭化粒を少量含む。					
	7	IVYR4-4 黑褐色	シルト	V壁ブロック・主体。					
6096	1	IVYR2-3 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・焼け柱、炭化粒を多量に含む。					
	2	IVYR2-4 黑褐色	シルト	V壁ブロック・焼け柱を多量に含む。					
	3	IVYR2-2 黑褐色	粘土	炭化粒を少量含む、V壁ブロック少量含む。					
	4	IVYR2-3 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・焼け柱を多量に含む。					
	5	IVYR2-2 黑褐色	粘土	V壁ブロック・焼け柱を少量含む。					
	6	IVYR2-2 黑褐色	粘土	炭化粒多量、V壁ブロック少量含む。					
	7	IVYR4-1 (上) 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・焼け柱を多量に含む。					
	8	IVYR2-2 黑褐色	粘土	V壁ブロック・焼け柱を多量に含む。					
	9	IVYR3-4 黑褐色	シルト	V壁ブロック・焼け柱を多量含む。					
	10	IVYR2-3 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。					
6097	1	IVYR2-3 黑褐色	シルト	柱子がための縫隙から、炭化粒を少量含む。					
	2	IVYR2-3 黑褐色	粘土	V壁柱・炭化粒を少量含む。					
	3	IVYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V壁柱を少量含む。					
	4	IVYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・焼け柱を少量含む。					
	5	IVYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V壁柱・炭化粒を少量含む。					
	6	IVYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V壁柱・焼け柱を少量含む。					
	7	IVYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V壁柱多量、炭化粒を少量含む。					
	8	IVYR3-1 (上) 黑褐色	粘土質シルト	V壁ブロック・焼け柱多量、炭化粒を微量含む。					
	9	IVYR2-3 黑褐色	粘土質シルト	V壁柱を少量含む。					
	10	IVYR2-3 黑褐色	粘土質シルト	既述直柱に隣接する帶状柱に属する。					
6100	1	IVYR2-3 黑褐色	粘土質シルト	V壁柱を少量含む。					

第180図 縱文時代土坑（9）

している。平面形は170cm×149cmの楕円形である。底面は中央部分に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは65cmである。底面の中央に44cm×36cm、深さ9cmの浅いピットが検出された。壁は底面からやや緩やかな角度で立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は9層に分層される。遺物は堆積土上～中層から縄文土器76点が出土し、内2点を第248図、石器は礫石器1点を第309図に示した。

SK6081土坑（第179図、国版40）

第6次調査2区西側北寄りのG-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。平面形は南側の壁が崩れているため150cm×115cmの楕円形であるが、底面の形から本来の平面形は円形を基調としたものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは93cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は13層に分層される。遺物は1～2層から縄文土器35点が出土し、内1点を第248図に示した。

SK6083土坑（第179図、国版40）

第6次調査1区中央北寄りのF-21グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にSK6015土坑が存在している。SD610溝跡、SX625溝状落ち込みと重複関係にあり、本遺構が古く大きく削平を受けている。平面形は235cm以上×137cmの長楕円形を基調とするもので、長軸方向はN-19°～Wである。底面がV層であることからやや凹凸が見られるがほぼ平坦で、検出面からの深さは26cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器57点が出土し、内1点を第248・250図、石器は石鏃1点を第308図に示した。

SK6085土坑（第179図）

第6次調査1区中央のF-G-20グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK6015土坑が存在している。SX625溝状の落ち込みと重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は171cm×167cmの円形である。底面がV層のため凹凸が見られるがほぼ平坦で、検出面からの深さは43cmである。壁は底面から緩やかな角度で立ち上がり、断面形は箱形となる。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器14点が出土し、内2点を第250図に示した。

SK6086土坑（第180図）

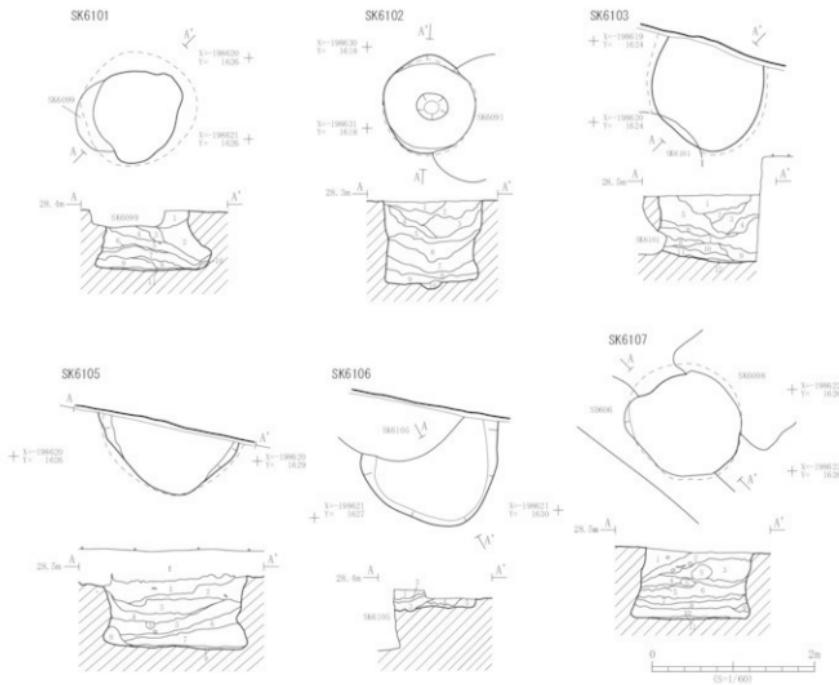
第6次調査1区中央北寄りのF-19グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にSK6059土坑が存在している。擾乱によって大きく削平されており残存状況は悪い。平面形は225cm以上×100cm以上の楕円形を基調とするものと考えられる。底面は凹凸が見られ中央がやや低くなっている、検出面からの深さは35cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器37点が出土し、内土器2点および土製品ではミニチュア土器を第250図、石器は礫石器1点を第309図に示した。

SK6088土坑（第180図）

第6次調査1区中央南寄りのI-21・22グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSI604堅穴住居跡、北側にSK6026土坑が存在し、上層ではSX607埋設土器が検出されている。平面形は113cm×107cmの楕円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは26cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は3層に分層される。堆積土中から遺物は出土していない。

SK6094土坑（第180図、国版41）

第6次調査2区西側北寄りのH-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6216土坑、南西側にSK6075土坑などが存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。北東側で開口部に崩れが見られるが、平面形は210cm×196cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは112cmである。底面の中央に56cm×43cm、深さ7cmのピット、その南西側に33cm×32cm、深さ8cmのピットが検出されている。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がるが、途中からは外側へ緩やかに開き気味に立ち上がり、断面形はフラスコ状～



SK	層位	土 色	土 性	備 考	SK	層位	土 色	土 性	備 考
6101	1	IIYR0-2 埋場	砂質シルト	炭化物多量、V型窓を少量含む。	9	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を少量含む。	
	2	IIYR0-1 にじ 黄褐色	砂質シルト	V型窓状土体、V型ブロックを多量に含む。	10	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型窓状土体、V型ブロックを少量含む。	
	3	IIYR0-4 埋場	砂質シルト	炭化物多量、V型ブロックを少額含む。	11	IIYR0-1 にじ 黄褐色	粘土質シルト	V型窓ブロックの下部に粘土層、炭化物を多量に含む。	
	4	IIYR0-4 埋場	砂質シルト	V型窓状土体、炭化物を少量含む。	12	IIYR0-1 にじ 黄褐色	粘土質シルト	V型窓・炭化物を多量に含む。	
	5	IIYR0-2 埋場	砂質シルト	炭化物多量、V型ブロックを少量含む。	1	IIYR0-1 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を少量含む。	
	6	IIYR0-2 埋場	粘土質シルト	炭化物多量、V型ブロックを少量含む。	2	IIYR0-1 埋場	粘土質シルト	V型窓・炭化物を少量含む。	
	7	IIYR0-4 埋場	砂質シルト	V型ブロック・炭化物多量、炭化物を少量含む。	3	IIYR0-2 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・少量含む。	
	8	IIYR0-3 にじ 黄褐色	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物多量、炭化物を少量含む。	4	IIYR0-3 にじ 黄褐色	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を多量に含む。	
	9	IIYR0-3 にじ 黄褐色	シルト	V型窓を少額含む。	5	IIYR0-2 黒褐色	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を少量含む。	
	10	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型ブロックを少額含む。	6	IIYR0-3 にじ 黄褐色	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を多量に含む。	
	11	IIYR0-2 埋場	粘土質シルト	V型ブロックを少額含む。	7	IIYR0-4 風化面	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を多量に含む。	
6102	1	IIYR0-4 埋場	シルト	V型窓多量、炭化物を少量含む。	8	IIYR0-4 風化面	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を多量に含む。	
	2	IIYR0-3 にじ 黄褐色	砂質シルト	V型窓・炭化物を少量含む。	9	IIYR0-2 黒褐色	粘土質シルト	粘化物・炭化物を多量に含む。	
	3	IIYR0-4 埋場	砂質シルト	V型ブロック・炭化物を少額含む。	10	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を少額含む。	
	4	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型窓少量、炭化物少量、V型窓状土体。	11	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を少額含む。	
	5	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型窓多量、炭化物を少額含む。	12	IIYR0-3 にじ 黄褐色	粘土質シルト	V型窓・炭化物を少額含む。	
	6	IIYR0-3 にじ 黄褐色	粘土質シルト	V型窓多量、炭化物を少額含む。	1	IIYR0-1 埋場	粘土質シルト	V型窓を多量に含む。	
	7	IIYR0-4 埋場	砂質シルト	V型ブロック・炭化物多量、炭化物を少量含む。	2	IIYR0-1 埋場	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
	8	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物少量含む。	3	IIYR0-1 埋場	粘土質シルト	炭化物多量、V型ブロックを含む。	
	9	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型窓多量、炭化物を少額含む。	4	IIYR0-1 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を多量に含む。	
	10	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型ブロックを少額含む。	5	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を少額含む。	
6103	1	IIYR0-4 埋場	砂質シルト	V型窓多量、炭化物を少額含む。	6	IIYR0-3 にじ 黄褐色	粘土質シルト	V型窓を多量に含む。	
	2	IIYR0-2 埋場	粘土質シルト	V型窓状土体、V型ブロックを少額含む。	7	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を多量に含む。	
	3	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型窓少量、炭化物を少額含む。	8	IIYR0-3 にじ 黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
	4	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型窓を多量に含む。	9	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を少額含む。	
	5	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型窓多量、炭化物を少額含む。	10	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を多量に含む。	
	6	IIYR0-3 にじ 黄褐色	粘土質シルト	V型窓を多量に含む。	11	IIYR0-2 黑褐色	粘土質シルト	V型ブロック・炭化物を多量に含む。	
	7	IIYR0-4 埋場	シルト	V型窓少量、炭化物を少額含む。					
	8	IIYR0-4 埋場	粘土質シルト	V型窓多量、炭化物を少額含む。					
	9	IIYR0-4 埋場	シルト	V型窓少量、炭化物を少額含む。					

第181図 繩文時代土坑（10）

朝顔形である。堆積土は人為堆積層と考えられ、17層に分層される。遺物は堆積土上～中層を中心に縄文土器190点が出土し、内3点を第250・251図、石器はクサビ形石器1点、礫石器1点を第310図に示した。

SK6095土坑（第180図、国版40）

第6次調査2区西側北寄りF-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側にSK6096土坑が存在している。SD607溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。北側が調査区外のため全体は不明であるが、平面形は直径159cmの円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦であるが緩やかに中央に向かって傾斜する。調査区北壁断面によると検出面からの深さは100cmである。底面の中央からは43cm×26cm以上、深さ14cmのピットが検出された。壁は底面からややオーバーハングしてほぼ垂直に立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は人堆積層と考えられ、15層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器の小片が1片出土したが図化はできなかつた。その他に石皿1点が出土している。

SK6096土坑（第180図、国版40）

第6次調査2区西側北寄りのF-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK6095土坑、東側にSK6101・6103土坑が存在している。平面形は163cm×152cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは85cmである。壁は底面から若干開き気味であるがほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は12層に分層される。遺物は堆積土上～中層から縄文土器94点が出土し、内3点を第251図、石器は石錐1点を第310図に示した。

SK6097土坑（第180図、国版41）

第6次調査2区西側北寄りG-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。本遺構周辺にはSK6101土坑をはじめとする多くの土坑が存在している。平面形は134cm×122cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは47cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器24点が出土し、内1点を第251図、石器は礫石器1点を第310図に示した。

SK6100土坑（第180図、国版41）

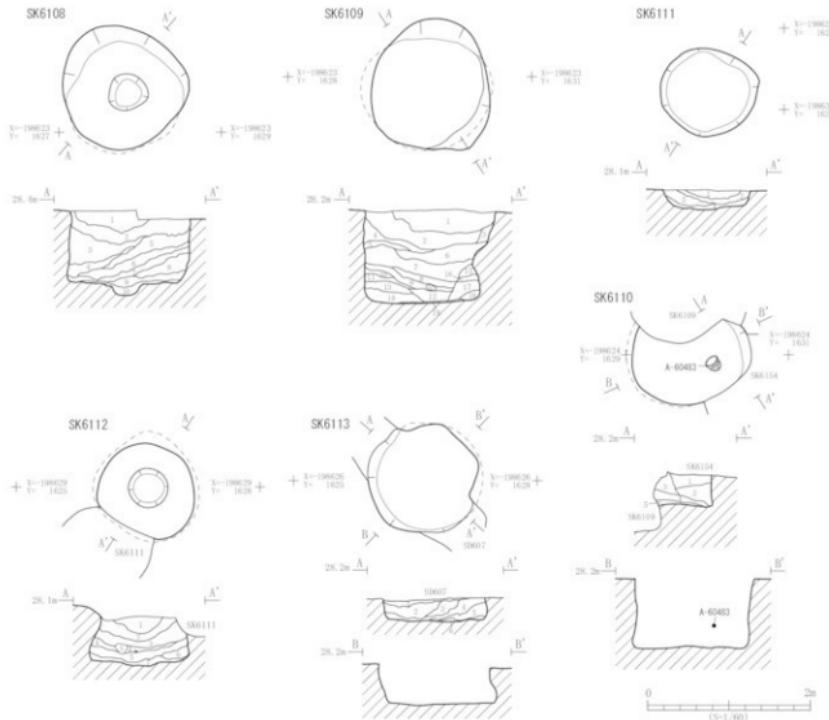
第6次調査1区中央南側のJ・K-18・19グリッドに位置し、V層上面で検出された。SX626溝状の落ち込みと重複関係にあり、本遺構が古く、東側部分が削平されている。平面形は101cm×61cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは4cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は土坑の中央から頸部から上半を欠損した深鉢胴部(A-60472)が横位で検出され、第251図に示した。

SK6101土坑（第181図）

第6次調査2区西側北寄りのG-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側にSK6103土坑が存在し、周囲は土坑によって囲まれている。SK6103土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。開口部に一部崩れが認められるが、平面形は113cm×103cmの円形を基調としたものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは73cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状となっている。堆積土は人為堆積層と考えられ、11層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器33点が出土し、内1点を第251図、石器は礫石器1点を第311図に示した。

SK6102土坑（第181図、国版42）

第6次調査2区西側中央のI-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6075土坑が存在しており、周囲は土坑によって囲まれている。SK6091土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は121cm×115cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは100cmである。底面の中央から39cm×33cm、深さ8cmのピットが検出されている。壁は底面から若干オーバーハングした後、途中からはほぼ垂直に、またはやや開き気味に立



参考					
	場所	土色	性状	備考	
6108	1	HYR6-4 地面	粘土質シルト	V層土体。	
	2	HYR6-4 地面	粘土質シルト	V層「プロック」、泥炭・炭化粒を多量に含む。	
	3	HYR6-4 地面	粘土質シルト	V層「プロック」、泥炭土体。	
	4	HYR6-4 地面	粘土	V層「プロック」、炭化粒を少量含む。	
	5	HYR6-4 地面	粘土質シルト	V層「プロック」、泥炭土体。炭化粒を少量含む。	
	6	HYR6-4 地面	粘土質シルト	V層「プロック」、炭化粒を少量含む。	
	7	HYR6-4 (上) 深層	粘土質シルト	V層「プロック」、炭化粒を多量に含む。	
	8	HYR6-4 地面	粘土質シルト	V層「プロック」中位に集中。	
	9	HYR6-4 地面	粘土質シルト	V層「プロック」、泥炭を少量含む。	
	10	HYR6-2 地面	粘土質シルト	粘土質シルト、V層粒・炭化粒を少量含む。	
6109	1	HYR6-2 地面	砂質シルト	V層炭粒を少量含む。	
	2	HYR6-2 黒層	V層土・炭化粒を少量含む。		
	3	HYR6-4 地面	砂質シルト	V層炭土体。	
	4	HYR6-2 地面	粘土質シルト	V層E1を微量含む。	
	5	HYR6-2 地面	粘土質シルト	V層「プロック」を少量含む。	
	6	HYR6-3 地面	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
	7	HYR6-3 (上) 深層	粘土質シルト	E1を微量含む。	
	8	HYR6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層「プロック」を多量に含む。	
	9	HYR6-2 地面	粘土質シルト	V層「プロック」を少量含む。	
	10	HYR6-4 地面	シルト	V層土体。	
	11	HYR6-2 地面	粘土質シルト	V層「プロック」を少量含む。	
	12	HYR6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層「プロック」を多量に含む。	
	13	HYR6-4 地面	砂質シルト	V層土体。	
	14	HYR6-4 地面	粘土質シルト	V層土体。	
	15	HYR6-4 地面	粘土質シルト	V層土体。	
	16	HYR6-4 地面	砂質シルト	V層「プロック」を少量含む。	

参考					
	場所	土色	性状	備考	
6110	17	DOY6-4 地面	砂質シルト	V層土体。	
	18	DOY6-4 地面	粘土質シルト	V層土体。	
	19	DOY6-4 細層	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。	
	1	DOY6-4 地面	砂質シルト	V層「プロック」土体。	
6111	2	DOY6-4 地面	粘土質シルト	V層「プロック」土体。	
	3	DOY6-4 細層	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。	
	4	DOY6-3 細層	粘土質シルト	油脂滴。	
	5	DOY6-3 細層	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。頭も色濃い。	
6112	1	DOY6-3 細層	砂質シルト	炭化粒を少量含む。頭も色濃い。	
	2	DOY6-3 細層	粘土質シルト	頭鐵板状土体。炭化粒を少量含む。	
	3	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層鐵板を少量含む。	
	4	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層「プロック」を少量含む。	
6113	5	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層「プロック」を多量に含む。	
	6	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層鐵板を多量含む。	
	7	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層「プロック」を少量含む。	
	8	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。	
6114	1	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層鐵板・炭化粒を多量含む。	
	2	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層鐵板を少量含む。	
	3	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層「プロック」を少量含む。	
	4	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。	
	5	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層鐵板。	
	6	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層「プロック」。	
6115	1	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層鐵板・炭化粒を多量含む。	
	2	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層鐵板。	
	3	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層鐵板土体。炭化粒を少量含む。	
	4	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	頭鐵板。	
	5	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層「プロック」多量。炭化粒を少量含む。	
	6	DOY6-3 (上) 深層	粘土質シルト	V層土体。	

第182図 繩文時代土坑 (11)

ち上がり、断面形はラスコ状～円筒形となる。堆積土は人為堆積層で、10層に分層される。遺物は堆積土上～中層から縄文土器13点が出土し、内1点を第251図に示した。

SK6103土坑（第181図、国版42）

第6次調査2区西側北寄りのF-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6101土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。北側が調査区外であるため全体は不明であるが、平面形は125cm以上×138cmの橢円形を基調とするものと考えられる。底面は北側に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは82cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は12層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器22点が出土し、内1点を第251図に示した。

SK6105土坑（第181図）

第6次調査2区西側北寄りのF-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6106土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。北側が調査区外のため全体は不明であるが、177cm以上×80cm以上の橢円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、調査区断面の観察では検出面からの深さは89cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、途中から外側に向かって緩やかに開き、断面形はラスコ状～円筒形となる。堆積土は人為堆積層と考えられ、9層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器90点が出土し、内2点を第251図に示した。石器は礫石他1点出土している。

SK6106土坑（第181図）

第6次調査2区西側北寄りのF-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6105土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、北西部が削平されている。北側が調査区外となり全体は不明であるが、平面形は160cm×136cm以上の円形または橢円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは25cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器15点が出土し、内1点を第251図に示した。

SK6107土坑（第181図、国版42）

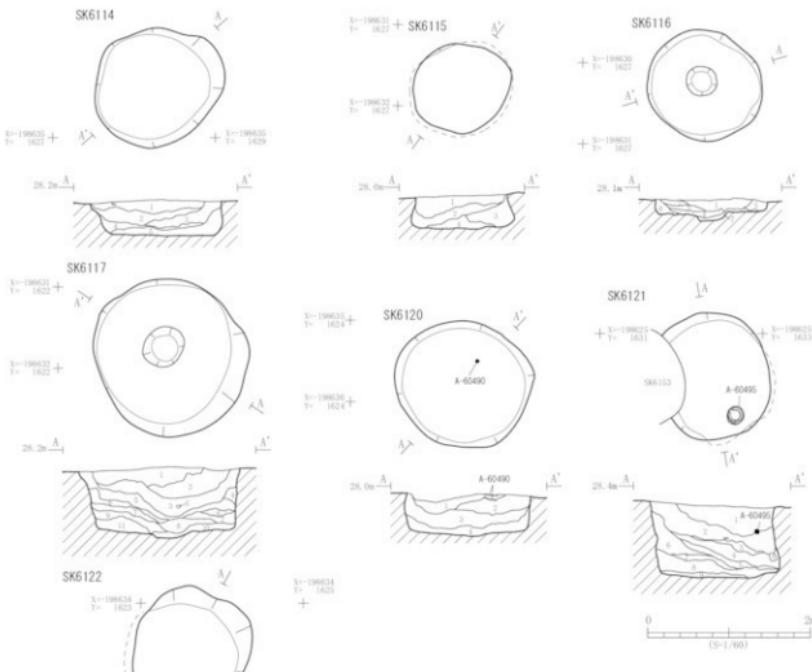
第6次調査2区西側北寄りのG-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK6098・6129土坑、SD606溝跡と重複関係にあり、本遺構はSK6098土坑、SD606溝跡よりも古く、SK6129土坑よりも新しい。平面形は直径127cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは87cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は11層に分けられ、中層から礫がやまとまって検出された。遺物は堆積土中から縄文土器71点が出土し、内3点を第251図、石器は石匙1点を第311図に示した。

SK6108土坑（第182図、国版42）

第6次調査2区西側北寄りG-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側にSK6097土坑が存在しており、周囲は土坑によって囲まれている。平面形は152cm×149cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは90cmである。底面の中央で48cm×45cm、深さ13cmのピットが検出された。壁は底面から一部オーバーハングした後ではほぼ垂直に立ち上がり、断面形はラスコ状～円筒形となる。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土上～下層から縄文土器23点が出土し、内2点を第252図に示した。石器はスクレイパー1点出土している。

SK6109土坑（第182図、国版43）

第6次調査2区西側北寄りのG-12・13グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK6110・6154・6225土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は161cm×148cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは113cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状～円筒形である。堆積土は19層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器42点が出土し、内3点を第252図に示した。石器は礫石器1点が出土している。



SK	層位	土色	土性	備考	
				層位	特徴
6114	1 HYR4-4 黏層	砂質シルト	V層薄少、炭化粒を少量含む。	1	
	2 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。	2	
	3 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層炭粒多量、炭化粒を少量含む。	3	
	4 HYR4-4 黏層	砂質シルト	V層土体。	4	
	5 HYR4-4 黏層	砂質シルト	V層土体。	5	
6115	1 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層薄少、粘土質ブロックを少量含む。	1	
	2 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。	2	
	3 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層ブロックを集中して含む。	3	
6116	1 HYR4-4 黏層	砂質シルト	V層土体、下部に粘土層薄く複数。	1	
	2 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層土体。	2	
	3 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。	3	
	4 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。	4	
	5 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層炭粒を少量含む。	5	
	6 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層炭粒を少量含む。	6	
	7 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。	7	
	8 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層炭粒を少量含む。	8	
6117	1 HYR4-4 黏層	砂質シルト	V層薄少、炭化粒を少量含む。	1	
	2 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。	2	
6120	1 HYR4-4 黏層	砂質シルト	V層薄少、炭化粒を少量含む。	1	
	2 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。	2	
	3 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層薄少、炭化粒を少量含む。	3	
	4 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層薄少、炭化粒を少量含む。	4	
	5 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層薄少、炭化粒を少量含む。	5	
6121	1 HYR4-4 黏層	砂質シルト	V層薄少、炭化粒を少量含む。	1	
	2 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層薄少、炭化粒を少量含む。	2	
	3 HYR4-4 黏層	粘土質シルト	V層薄少、炭化粒を少量含む。	3	

第183図 繩文時代土坑 (12)

SK6110土坑（第182図、国版43）

第6次調査2区西側北寄りのG-12・13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲には多くの土坑が存在している。SK6109・6154土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、西側部分以外は削平を受けている。平面形は148cm×71cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面には微細な凹凸がみられるがほぼ平坦で、検出面からの深さは38cmである。壁は底面からオーバーハングした後ではほぼ垂直に立ち上がり、断面形はラスコ状～円筒形である。堆積土は5層に分層される。遺物は中層部分から完形の小型土器（A-60483）が検出されている。その他に堆積土中から繩文土器12点が出土し、内2点を第252図に示した。

SK6111土坑（第182図、国版43）

第6次調査2区西側北寄りのH-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6112土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は119cm×108cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは24cmである。壁は底面から緩やかに開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は4層に分層された。遺物は堆積土中から繩文土器4点が出土し、内1点を第252図に示した。

SK6112土坑（第182図、国版43）

第6次調査2区西側北寄りのH-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6111土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、南側の開口部の一部が削平されている。平面形は121cm×107cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは69cmである。底面の中央で直径48cm、深さ6cmの浅い落ち込みが検出された。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は7層に分層され中層から下層で30cm程度の疊が2個重なった状態で検出された。遺物は堆積土中から繩文土器4点および石器が出土しているが、土器は小片のため図化できるものはなく、疊石器1点を第311図に示した。

SK6113土坑（第182図、国版44）

第6次調査2区西側北寄りのH-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。SD607溝跡と重複関係にあり、本遺構が古く。平面形は137cm×135cmの円形である。底面には若干の凹凸はみられるがほぼ平坦で、検出面からの深さは48cmである。壁は底面から北東側がオーバーハングしているが、南西側では外側に開いて緩やかに立ち上がり、断面形はラスコ状～円筒形である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器24点が出土し、内2点を第252図に示した。

SK6114土坑（第183図、国版44）

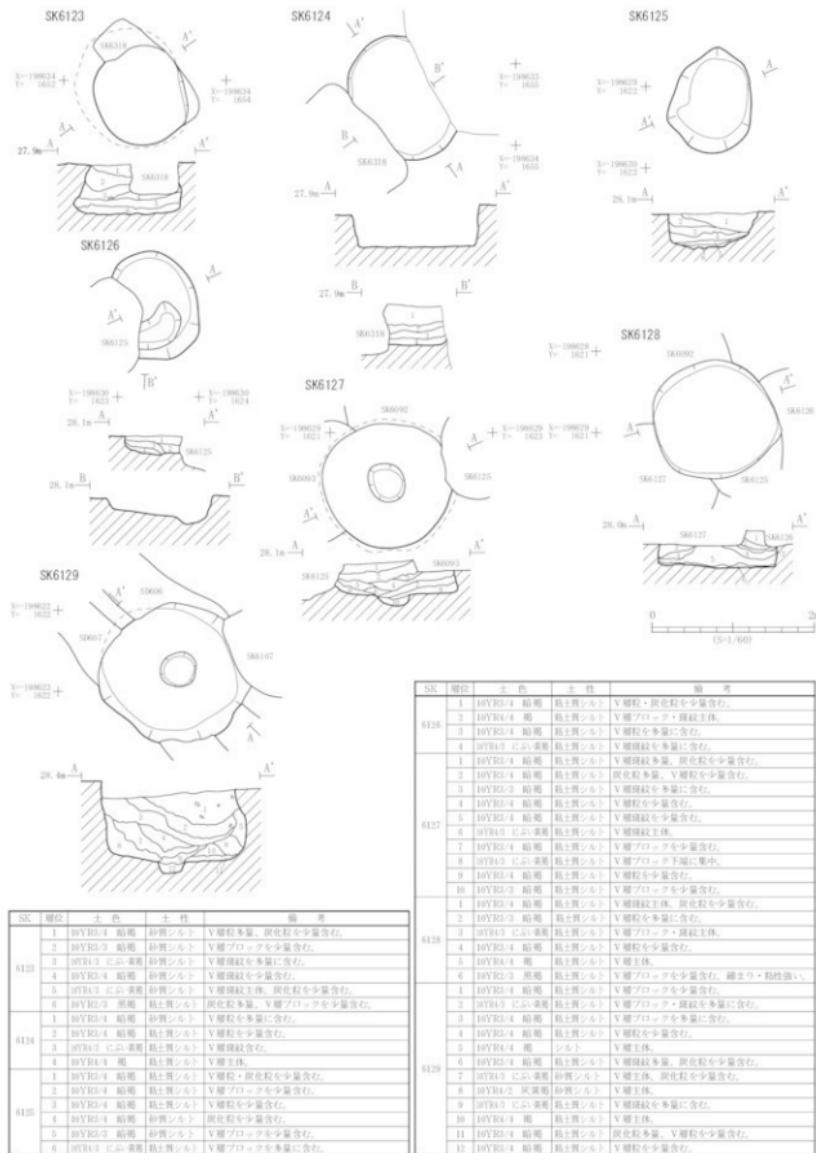
第6次調査2区西側中央のI-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は166cm×141cmの不整な橢円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは42cmである。壁は底面からほぼ垂直または緩やかな角度で立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は5層に分層される。遺物は出土していない。

SK6115土坑（第183図、国版44）

第6次調査2区西側中央のI-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は126cm×120cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは43cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器の小片1点が出土しているが、図化はできなかった。石器は微細剥離痕のある剥片1点が出土している。

SK6116土坑（第183図、国版44）

第6次調査2区西側中央のI-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にはSK6115土坑が存在しており、北側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6177土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は144cm×133cmの不整な円形である。底面は凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは19cmである。底



面の中央で36cm×37cm、深さ7cmのピットが検出された。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は7層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器11点が出土し、内1点を第252図に示した。

SK6117土坑（第183図、国版44）

第6次調査2区西側中央のI-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は195cm×179cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは77cmである。底面の中央で51cm×46cm、深さ8cmのピットが検出された。壁は底面からほぼ垂直または緩やかな角度で開いて立ち上がり、断面形は円筒形となる。堆積土は11層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器51点が出土し、内1点を第252図に示した。

SK6120土坑（第183図、国版45）

第6次調査2区西側中央のJ-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6272土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は168cm×155cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは53cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器12点が出土し、内1層から出土した小型深鉢を第252図に示した。

SK6121土坑（第183図、国版45）

第6次調査2区中央北寄りのH-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6153土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は156cm×140cmの円形を基調とするものである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは95cmである。壁は底面から一部オーバーハングしているがほぼ垂直に立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は人為堆積層とみられ、9層に分層される。遺物は1層下部から有孔鍔付土器（A-60495）が正位の状態で出土している。また中層となる4層では火熱を受けた疊などがまとまって検出されている。その他の遺物は堆積土中から繩文土器52点が出土し、内10点を第253・254図、石器は石鏃1点、疊石4点を第312図に示した。

SK6122土坑（第183図、国版46）

第6次調査2区西側中央のI-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6130土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は153cm×141cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは95cmである。壁は底面から一部オーバーハングしながらほぼ垂直に立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は9層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器8点が出土し、内1点を第252図に示した。

SK6123土坑（第184図、国版46）

第6次調査2区東側北寄りのI-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にはSK6134土坑、南側にSK6133土坑が存在している。SK6124・6318土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6124土坑よりも新しく、SK6318土坑よりも古い。北東側の上端部が一部削平されているが、平面形は119cm×110cmの不整な円形である。底面には凹凸が見られるがほぼ平坦で、検出面からの深さは64cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器18点が出土し、内1点を第252図に示した。

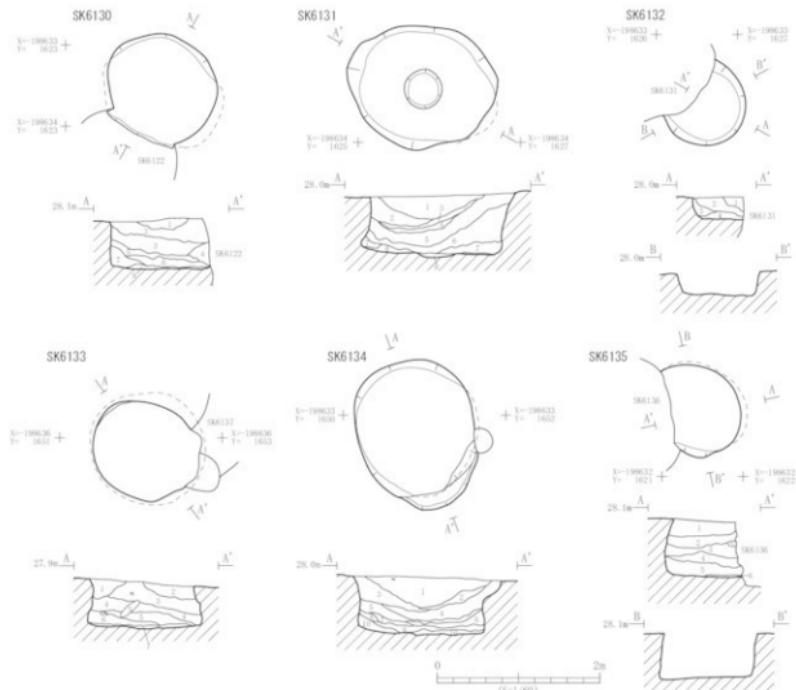
SK6124土坑（第184図、国版46）

第6次調査2区東側北寄りのI-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK6134土坑が存在する。SK6123・6318土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。南側は重複する遺構によって、また北側は擾乱により削平されており、平面形は157cm×84cm以上の楕円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは52cmである。壁は底面から若干開き気味に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は4層に分層され

る。遺物は堆積土中から土器および石器が出土しており、土器は小片のため國化できなかつたが、石器では石鏃1点を第311図に示した。

SK6125土坑（第184図）

第6次調査2区西側北寄りのH-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれてい



SK	層位	土色	土性	備考	SK	層位	土色	土性	備考
6130	1	HYVR-4	褐色	粘土質シルト。V層砂多量、灰白色を少量含む。	6135	3	HYVR-3	褐色	粘土質シルト。灰白色多量、V層プロトクル少量含む。
	2	HYVR-3	褐色	砂質シルト。V層砂少量、V層鐵鐵粉含む。		4	HYVR-2	黒褐色	灰白色多量、V層砂少量含む。
	3	HYVR-2	褐色	粘土質シルト。V層砂を少量含む。		5	HYVR-1	褐色	灰白色多量、V層砂を多量含む。
	4	HYR1-2	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		6	HYVR-1	褐色	灰白色多量、V層砂を多量含む。
	5	HYVR-2	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		7	HYVR-2	褐色	灰白色多量、V層砂を多量含む。
	6	HYVR-2	褐色	粘土質シルト。V層砂多量、V層砂を少量含む。		8	HYVR-2	褐色	灰白色多量、V層砂を少量含む。
	7	HYVR-4	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		9	HYVR-4	褐色	灰白色多量、V層砂を少量含む。
	8	HYVR-2	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		10	HYVR-2	褐色	灰白色多量含む。
6131	1	HYVR-4	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。	6136	1	HYR1-3	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	2	HYR1-3	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		2	HYR1-3	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	3	HYR1-2	褐色	灰白色を多量含む。		3	HYR1-3	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	4	HYR1-4	褐色	粘土質シルト。V層砂多量含む。		4	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	5	HYR1-4	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		5	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	6	HYR1-2	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		6	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	7	HYR1-2	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		7	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	8	HYR1-4	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		8	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
6132	1	HYR1-2	褐色	シルト。V層砂少量含む。	6137	1	HYR1-3	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	2	HYR1-4	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		2	HYR1-3	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
6133	1	HYR1-4	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。	6138	1	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	2	HYR1-3	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		2	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
6134	1	HYR1-4	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。	6139	1	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	2	HYR1-3	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		2	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
6135	1	HYR1-3	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。	6140	1	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。
	2	HYR1-2	褐色	粘土質シルト。V層砂少量含む。		2	HYR1-4	褐色	灰白色少量、V層砂少量含む。

第185図 繩文時代土坑（14）

る。SK6126～6128・6320土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は124cm×97cmの不整な楕円形である。底面には細かい凹凸が認められ、検出面からの深さは46cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器6点出土し、内2点を第254図に示した。その他に礫石器1点が出土している。

SK6126土坑（第184図）

第6次調査2区西側北寄りのH-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6125・6128・6320土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6128・6320土坑よりも新しく、SK6125土坑よりも古い。西側部分が削平されているが、平面形は136cm×69cm以上の円形または楕円形を基調とするものと考えられる。底面は凹凸が見られるが概ね平坦であり、検出面からの深さは35cmである。南壁際では63cm×40cm、深さ3cm程の浅い落ち込みが認められた。壁は底面からやや聞き気味に立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は4層に分層され、遺物は出土していない。

SK6127土坑（第184図、図版46）

第6次調査2区西側北寄りのH-I-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6092・6093・6125・6128・6320土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6128・6320土坑よりも新しく、SK6092・6093・6125土坑よりも古い。南側部分以外の開口部は一部削平されるが、平面形は161cm×153cmの円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは42cmである。底面の中央からは52cm×45cm、深さ13cmのビットが検出されている。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。底面北側の壁際で大きさが30cm程の礫が検出された。遺物は上～下層から繩文土器23点が出土し、内3点を第254図、石器は礫石器1点を第311図に示した。

SK6128土坑（第184図）

第6次調査2区西側北寄りのH-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6092・6125～6127土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、土坑の開口部は削平されている。平面形は160cm×146cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは46cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は6層に分層される。遺物は出土していない。

SK6129土坑（第184図）

第6次調査2区西側北寄りのG-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6101土坑が存在しており、周囲は土坑によって囲まれている。D606・607溝跡、SK6107土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は175cm×173cmの円形を基調とするものである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは99cmである。底面中央は46cm×41cm、深さ14cmのビットが検出された。壁は底面からオーバーハングまたはほぼ垂直に立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形となっている。堆積土は12層に分層される。中層が大きさが40cmの大型で扁平な礫が検出された。遺物は堆積土中から繩文土器27点が出土し、内1点を第254図に示した。その他に石皿1点が出土している。

SK6130土坑（第185図、図版46）

第6次調査2区西側中央のI-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6122土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、南側は削平されている。平面形は135cm×128cmの円形を基調としたものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは52cmである。壁は底面からオーバーハングまたはほぼ垂直に立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器1点が出土し、第254図に示した。

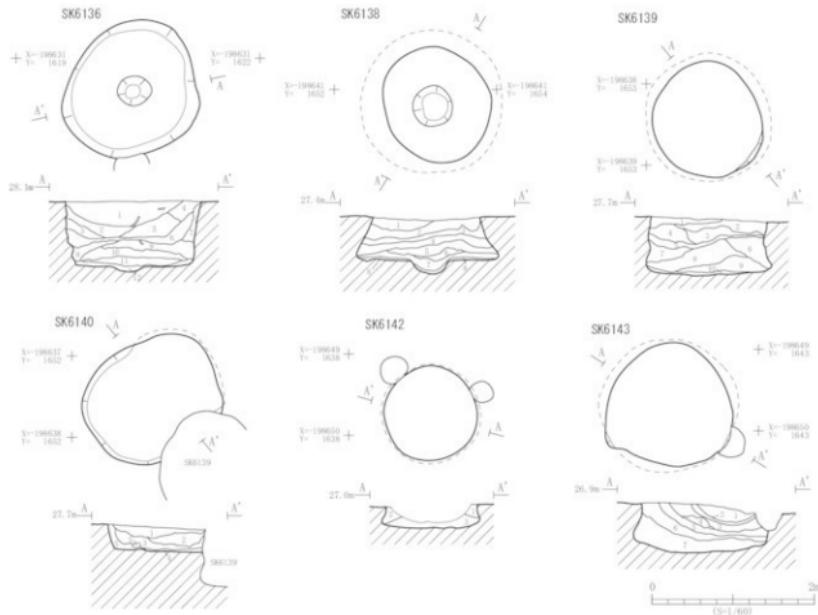
SK6131土坑（第185図、図版46）

第6次調査2区西側中央のI-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。

S K6132土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は184cm×153cmの東西に長い梢円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは74cmである。底面の中央には48cm×47cm、深さ5cmの浅いピットが検出された。壁はオーバーハングまたはほぼ垂直に立ち上がり、断面形はラブコ状～円筒形である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器2点が出土しており、内1点を第254図に示した。

SK6132土坑（第185図、国版46）

第6次調査2区西側中央のI-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。



SK	層位	土色	土性	備考
6136	1	赤Y6-4 黒斑	粘土質シルト	V層底・炭化粒を少量含む。
	2	赤Y6-4 黒斑	粘土質シルト	V層底斑・炭化粒を少量含む。
	3	赤Y6-3 C.赤 黑斑	粘土質シルト	V層底斑を多量に含む。
	4	赤Y6-3 C.赤 黑斑	粘土質シルト	V層底斑・炭化粒を少量含む。
	5	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底。
	6	赤Y6-2 黒斑	粘土質シルト	V層底。
	7	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底。
	8	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・炭化粒を少量含む。
	9	赤Y6-3 C.赤 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層ブロックを少量含む。
	10	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・炭化粒を少量含む。
	11	赤Y6-5 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層ブロックを多量に含む。
	12	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層ブロックを少量含む。
6138	1	赤Y6-2 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層ブロックを多量・炭化粒を少量含む。
	2	赤Y6-2 黑斑	粘土	炭化粒多量、V層ブロックを微量含む。
	3	赤Y6-2 C.赤 黑斑	粘土質シルト	V層底斑。
	4	赤Y6-4 黑斑	粘土	V層底・V層ブロックを多量に含む。
6139	5	赤Y6-3 C.赤 黑斑	粘土質シルト	V層底斑・V層底斑・炭化粒を微量含む。
	6	赤Y6-2 黑斑	粘土	粉砂質含む、炭化粒を少量含む。
	7	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑・炭化粒を少量含む。

SK	層位	土色	土性	備考
6139	1	赤Y6-3 C.赤 黑斑	粘土質シルト	V層底斑を少量含む。
	2	赤Y6-3 C.赤 黑斑	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。
	3	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底斑。
	4	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底斑・V層底斑。
	5	赤Y6-3 C.赤 黑斑	粘土質シルト	V層底斑・V層底斑・炭化粒を多量に含む。
	6	赤Y6-2 黑斑	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。
	7	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底斑を多量に含む。
	8	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底斑。
	9	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底斑・V層底斑・炭化粒を少量含む。
	10	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底斑・V層底斑・炭化粒を少量含む。
	11	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底斑・V層底斑・炭化粒を少量含む。
	12	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底斑・V層底斑・炭化粒を少量含む。
6140	1	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑・炭化粒を少量含む。
	2	赤Y6-3 黑斑	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。
	3	赤Y6-2 黑斑	粘土質シルト	V層底。
	4	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑を多量に含む。
6142	5	赤Y6-3 C.赤 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑・炭化粒を少量含む。
	6	赤Y6-3 C.赤 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑。
	7	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑・炭化粒を多量に含む。
	8	赤Y6-2 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑。
6143	9	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑・炭化粒を少量含む。
	10	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑・炭化粒を少量含む。
	11	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑・炭化粒を少量含む。
	12	赤Y6-4 黑斑	粘土質シルト	V層底・V層底斑・炭化粒を少量含む。

第186図 繩文時代土坑（15）

S K6131土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、北西側は削平されている。平面形は104cm×65cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面には若干の凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは30cmである。壁は底面からやや開き気味に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK6133土坑（第185図、国版46）

第6次調査2区東側中央のJ-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にS K6123土坑、南東側にS K6140土坑などが存在している。S K6137土坑、ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は130cm×116cmの円形を基調とするものである。底面には凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは62cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は7層に分層され人為堆積層とみられる。中層からは大型で扁平な疊が検出されている。遺物は堆積土中から縄文土器2点が出土し、内1点を第254図に示した。

SK6134土坑（第185図、国版46）

第6次調査2区東側中央のI-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にはS K6123・6124土坑が存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は189cm×145cmの南北方向に長い椭円形である。底面には凹凸が認められるがほぼ平坦で、底面までの深さは72cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状となっているが、南側部分では壁の立ち上がりの途中から外側に大きく開いた朝顔形のものとなっている。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が検出されているが、小片のため図化できるものはない。石器は礫石器1点等が出土している。

SK6135土坑（第185図、国版47）

第6次調査2区西側中央のI-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。S K6136土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、西側部分が削平されているが、平面形は123cm×100cm以上の円形を基調とするものである。底面は平坦で、検出面からの深さは55cmである。壁はオーバーハングして立ち上がり断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が検出されているが、小片のため図化できるものはない。

SK6136土坑（第186図、国版47）

第6次調査2区西側中央のI-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。S K6091・6135土坑・ピットと重複関係にあり、本遺構はS K6135土坑より新しく、S K6091土坑・ピットより古い。平面形は177cm×159cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは81cmである。底面の中央から43cm×37cm、深さ7cmのピットが検出されている。壁は底面からやや開き気味に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は12層に分層される。遺物は堆積土上～中層から縄文土器30点が出土し、内1点を第255図に示した。その他に石剣1点が出土している。

SK6138土坑（第186図、国版47）

第6次調査2区東側中央のK-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはS K6139、西側にS K6187土坑が存在している。平面形は144cm×130cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは54cmである。底面の中央に50cm×49cm、深さ16cmのピットが検出された。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は8層に分層される。堆積土中から出土した縄文土器は小片のため図化できるものはないが、石器は礫石器2点を第312図に示した。

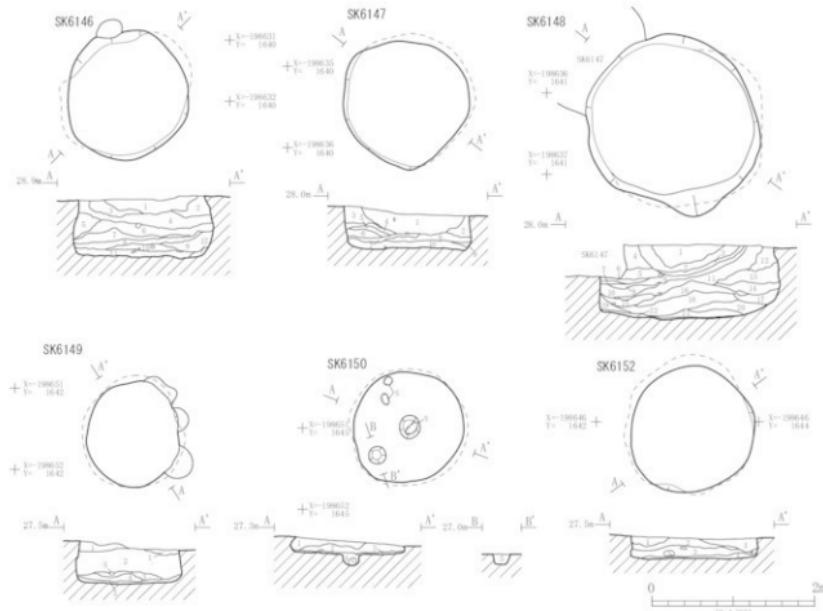
SK6139土坑（第186図、国版47）

第6次調査2区東側中央のJ-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にS K6139土坑が存在している。S K6140土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は140cm×131cmの円形である。底面はほぼ平坦で、

検出面からの深さは73cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土中から柵文土器8点が出土し、内1点を第255図に示した。

SK6140土坑（第186図、国版47）

第6次調査2区東側中央のJ-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側にSK6133土坑が存在して



SK	層位	土色	土性	備考
1	YVRD-1	褐色	粘土質・砂質	V層底に多量に含む。
2	YVRD-2	褐色	粘土質・砂質	V層底付近、炭化粒を少量含む。
3	YVRD-3	赤褐色	砂質シルト	Y層シルト・炭化粒を少量含む。
4	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層・プロック・焼成土体。
5	YVRD-4	褐色	砂質シルト	Y層・プロック・炭化土体。
6	YVRD-4	褐色	粘土質・砂質	V層底付近、炭化粒を少量含む。
7	YVRD-4	褐色	粘土質・砂質	V層底付近、炭化粒を少量含む。
8	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層・プロック・炭化土体。
9	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を少量含む。
10	YVRD-4	赤褐色	砂質シルト	V層・プロックを少量含む。
11	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層・プロックを多量に含む。
12	YVRD-4	褐色	砂質シルト	炭化粒を少量含む。
13	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を少量含む。
14	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を少量含む。
15	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を少量含む。
16	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を微量含む。
17	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層底付近。
18	YVRD-4	褐色	砂質シルト	炭化粒を微量含む。
19	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層底付近。
20	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層・プロックを含む。
21	YVRD-4	褐色	砂質シルト	V層底付近。
22	YVRD-5	黒褐色	砂質シルト	炭化粒を少量含む。
1	YVRD-5	褐色	砂質シルト	V層・プロック・炭化粒を多量に含む。
2	YVRD-5	褐色	砂質シルト	V層底付近。
3	YVRD-5	褐色	砂質シルト	炭化粒を多量、V層底を少量含む。
4	YVRD-5	褐色	砂質シルト	V層・プロックを少量含む。
5	YVRD-5	褐色	砂質シルト	炭化粒を多量に含む。
6	YVRD-5	褐色	砂質シルト	V層・プロック・炭化粒を少量含む。
7	YVRD-5	褐色	砂質シルト	炭化粒を多量、炭化粒を少量含む。
8	YVRD-5	褐色	砂質シルト	V層底付近土体、V層・プロックを含む。
9	YVRD-5	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を少量含む。
10	YVRD-5	褐色	砂質シルト	V層底付近土体。
1	YVRD-6	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を少量含む。
2	YVRD-6	褐色	砂質シルト	炭化粒を少量含む。
3	YVRD-6	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を少量含む。
4	YVRD-6	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を少量含む。
5	YVRD-6	褐色	砂質シルト	炭化粒を少量含む。
6	YVRD-6	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を少量含む。
7	YVRD-6	褐色	砂質シルト	V層底付近。

SK	層位	土色	土性	備考	
6146	8	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量、V層底に微量含む。
6146	9	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層・プロック・炭化粒を微量含む。
6146	10	YVRD-4	褐色	シルト	V層・プロック・土体。
6146	11	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層底を多量、炭化粒を少量含む。
6146	12	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層・プロックを多量に含む。
6146	13	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
6146	14	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層・土体。
6146	15	YVRD-4	褐色	シルト	V層・土体。
6147	16	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層底を多量、炭化粒を微量含む。
6147	17	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層・土体。
6147	18	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
6147	19	YVRD-4	褐色	シルト	V層・土体。
6147	20	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層・土体、V層・プロックを含む。
6147	21	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層・土体。
6147	22	YVRD-5	黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
6148	1	YVRD-5	褐色	粘土質シルト	V層・プロック・炭化粒を多量に含む。
6148	2	YVRD-5	褐色	粘土質シルト	V層・土体。
6148	3	YVRD-5	褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量、V層底を少量含む。
6148	4	YVRD-5	褐色	砂質シルト	V層・プロックを少量含む。
6148	5	YVRD-5	褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。
6148	6	YVRD-5	褐色	粘土質シルト	V層・土体。
6148	7	YVRD-5	褐色	砂質シルト	炭化粒を多量、炭化粒を少量含む。
6148	8	YVRD-5	褐色	粘土質シルト	V層・土体、V層・プロックを含む。
6148	9	YVRD-5	褐色	砂質シルト	V層底付近、炭化粒を少量含む。
6148	10	YVRD-5	褐色	粘土質シルト	V層底付近土体。
6149	1	YVRD-6	褐色	粘土質シルト	V層・土体。
6149	2	YVRD-6	褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量、V層底を少量含む。
6149	3	YVRD-6	褐色	砂質シルト	V層・土体。
6149	4	YVRD-6	褐色	砂質シルト	砂質・シルト。
6149	5	YVRD-6	褐色	粘土質シルト	V層・プロックを少量含む。
6149	6	YVRD-6	褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。
6149	7	YVRD-6	褐色	粘土質シルト	V層・プロックを多量、炭化粒を少量含む。
6149	8	YVRD-6	褐色	粘土質シルト	V層・土体。
6149	9	YVRD-6	褐色	砂質シルト	V層・土体。
6149	10	YVRD-6	褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。
6150	1	YVRD-6	褐色	粘土質シルト	V層・土体。
6150	2	YVRD-6	褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む。
6150	3	YVRD-6	褐色	砂質シルト	V層・土体。
6150	4	YVRD-6	褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。
6152	1	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層・プロック・炭化粒を少量含む。
6152	2	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層・土体。
6152	3	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層・プロック・炭化粒を多量に含む。
6152	4	YVRD-4	褐色	粘土質シルト	V層・プロックを少量含む。

第187図 織文時代土坑（16）

いる。SK6139土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は169cm×143cm以上の橢円形を基調としたもので、長軸方向はN-53°-Eである。底面は平坦で、検出面からの深さは34cmである。壁は底面から一部オーバーハングするが開き気味に立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。

SK6142土坑（第186図、国版47）

第6次調査2区中央南寄りのL-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は直径115～117cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは28cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が検出されているが図化できるものはない。

SK6143土坑（第186図、国版47）

第6次調査2区東側南寄りのL-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にはSK6149土坑をはじめ多くの土坑が存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は157cm×150cmの橢円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは60cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は7層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。

SK6146土坑（第187図、国版48）

第6次調査2区中央のI-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は156cm×154cmの円形である。底面には凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは77cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は11層に分層される。遺物は底面から縄文土器が出土しており、堆積土上～中層から縄文土器27点が出土し、内1点を第255図に示した。

SK6147土坑（第187図、国版48）

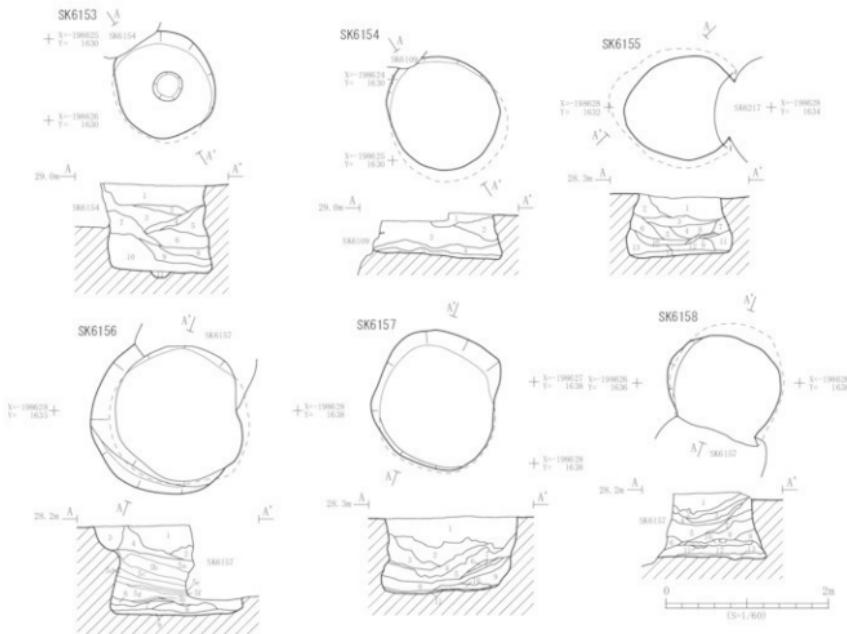
第6次調査2区東側中央のJ-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6148土坑、SD608溝跡と重複関係にあり、本遺構はSK6148土坑よりも新しく、SD608溝跡よりも古い。平面形は直径151cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは54cmである。壁は底面からオーバーハングまたはほぼ垂直に立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土1層～10層から縄文土器82点が出土し、内5点を第255図、石器は石鏨1点、スクレイバー1点、礫石器1点を第313図に示した。

SK6148土坑（第187図、国版48）

第6次調査2区東側中央のJ-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6237土坑、西側にSK6179土坑などが存在している。SK6147土坑、SD608溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は217cm×209cmの不整な円形である。底面に凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは92cmである。壁は底面からオーバーハングまたはほぼ垂直に立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は22層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器2点が出土し、内1点を第255図に示した。その他に礫石器1点出土している。

SK6149土坑（第187図、国版49）

第6次調査2区東側南寄りのM-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は130cm×113cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは53cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は5層に分層され人為堆積とみられる。ピット内および底面で縄文土器が検出された。遺物は堆積土中から縄文土



	位相	土 色	主 性	備 考
6153	1 HYR3-4 基壠	砂質シルト	V層細粒・炭化粒を少量含む。	
	2 HYR3-4 基壠	砂質シルト	1層の細粒、少々粗粒を多い。	
	3 HYR3-3 二重 基壠	砂質シルト	炭化粒を少量含む。	
	4 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。	
	5 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。	
	6 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。	
	7 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層細粒・炭化粒を少量含む。	
	8 HYR3-2 二重 基壠	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。	
	9 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層細粒。	
	10 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層細粒・炭化粒を少量含む。	
6154	11 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。	
	1 HYR3-2 二重 基壠	砂質シルト	V層細粒多量、炭化粒を少量含む。	
	2 HYR3-4 基壠	砂質シルト	炭化粒を微量含む。	
	3 HYR3-3 二重 基壠	砂質シルト	V層細粒多量、炭化粒を少量含む。	
	4 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層プロックを多く含む。	
	5 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	V層プロックを多く含む。	
	1 HYR3-4 基壠	砂質シルト	V層細粒多量、炭化粒を少量含む。	
	2 HYR3-4 基壠	砂質シルト	V層細粒。	
	3 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層プロック・炭化粒を少量含む。	
	4 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	繊維を多く含む、粘性有り。	
6155	5 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層プロックを少量含む。	
	6 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	V層細粒多量、炭化粒を少量含む。	
	7 HYR3-4 基壠	砂質シルト	V層細粒。	
	8 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層プロックを微量含む。	
	9 HYR3-2 基壠	砂質シルト	V層プロックを微量含む。	
	10 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層プロック・炭化粒を少量含む。	
	11 HYR3-4 基壠	砂質シルト	V層細粒。	
	12 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層プロック・炭化粒を少量含む。	
	13 HYR3-4 基壠	砂質シルト	V層細粒多量に含む。	
	14 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層プロックを少量含む。	
6156	1 HYR3-2 二重 基壠	砂質シルト	V層プロックを微量含む。	
	2 HYR3-4 基壠	砂質シルト	V層細粒多量。	
	3 HYR3-3 二重 基壠	砂質シルト	炭化粒を少量含む。	
	4 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層プロックを多く含む。	
	5 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
	6 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層細粒。	
	7 HYR3-2 二重 基壠	砂質シルト	V層細粒。	
	8 HYR3-4 基壠	砂質シルト	V層細粒多量。	
	9 HYR3-3 二重 基壠	砂質シルト	炭化粒を微量含む。	
	10 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層プロックを多く含む。	
	11 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
	12 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層細粒。	

	位相	土 色	主 性	備 考
6157	1 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層細粒・炭化粒を微量含む。	
	2 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	炭化粒を少々含む。	
	3 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	色調がV層と導入層で断続して分離される。	
	4 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	V層細粒を少量、炭化粒を微量含む。	
	5 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層細粒を少々含む。	
	6 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	V層細粒を微量含む。	
	7 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層細粒を微量含む。	
	8 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	V層細粒を微量含む。	
	9 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層細粒・炭化粒を微量含む。	
	10 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
6158	1 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層細粒・炭化粒を微量含む。	
	2 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
	3 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層細粒を微量含む。	
	4 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
	5 HYR3-4 基壠	粘土質シルト	V層細粒を微量含む。	
	6 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
	7 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層細粒・炭化粒を微量含む。	
	8 HYR3-3 二重 基壠	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
	9 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層細粒を微量含む。	
	10 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層細粒。	
	11 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層プロックを微量含む。	
	12 HYR3-2 基壠	粘土質シルト	V層プロックを微量含む。	

第188図 繩文時代土坑（17）

器が出土しているが、小片のため國化できるものはない。

SK6150土坑（第187図、國版49）

第6次調査2区東側南寄りのM-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK6149土坑、北側にSK6162土坑が存在している。平面形は144cm×133cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは21cmである。底面の中央に規模29cm×25cm、深さ14cm、南西に直径21cm、深さ10cmのビットが検出されている。壁はオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は4層に分層され、底面及びビット内から礫が検出された。遺物は出土していない。

SK6152土坑（第187図、國版49）

第6次調査2区東側南寄りのL-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはSK6172・6178・6203土坑が存在している。平面形は157cm×151cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは28cmである。壁はオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は4層に分層された。底面から複数の礫が検出されている。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、國化できるものはない。石器は礫石器1点出土している。

SK6153土坑（第188図、國版45）

第6次調査2区中央北寄りのH-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6121・6154土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6154土坑より古く、SK6121土坑より新しい。平面形は128cm×120cmの円形を基調とするものである。底面は平坦であるが北側に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは104cmである。底面の中央から直径35cm、深さ8cmのビットが検出された。壁はオーバーハングしながら一部はやや開き気味に立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は11層に分層された。遺物は堆積土中から繩文土器13点が出土し、内1点を第255図に示した。その他に礫石器1点が出土している。

SK6154土坑（第188図）

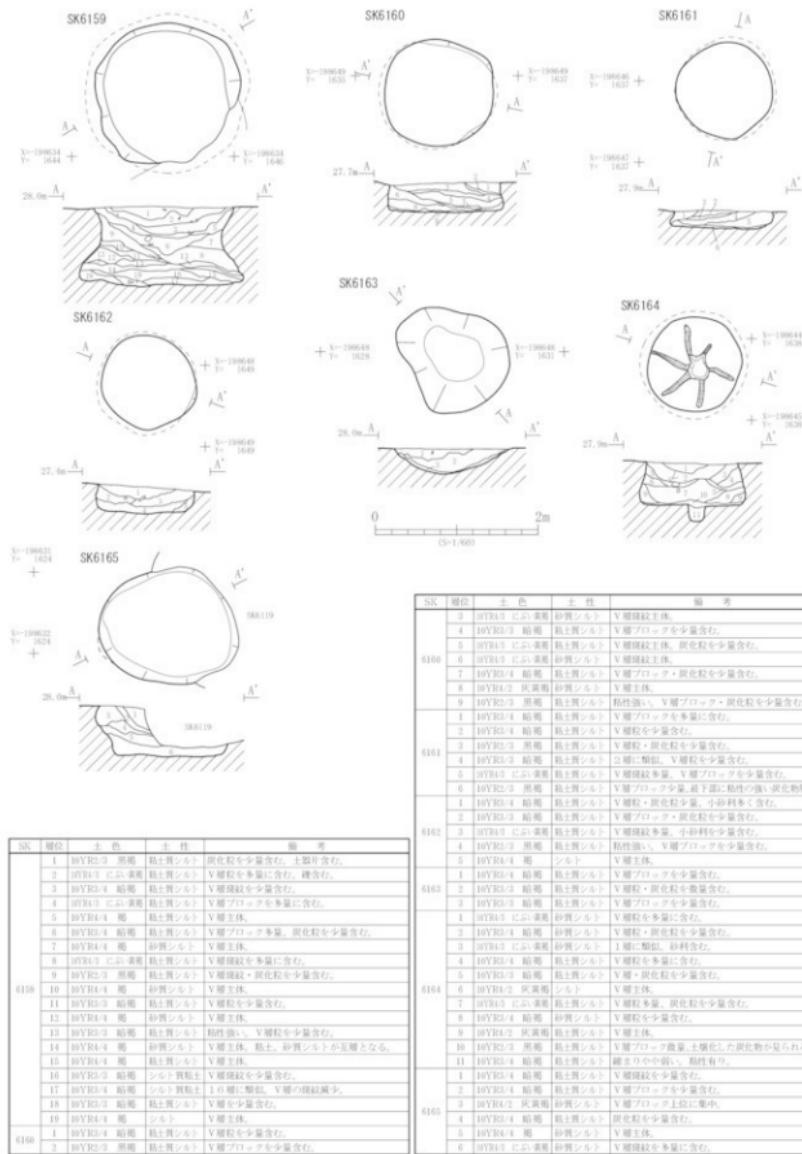
第6次調査2区中央北寄りのG-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6109・6110・6153土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6109土坑より古く、SK6110・6153土坑より新しい。平面形は147cm×134cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは53cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器11点が出土し、内1点を第255図に示した。

SK6155土坑（第188図）

第6次調査2区中央北寄りのH-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6217土坑と重複関係にあり、本遺構が古いため東側が削平されている。平面形は140cm以上×127cmの橢円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦であるが南側に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは79cmである。壁はオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は14層に分層された。遺物は堆積土中から繩文土器35点が出土し、内3点を第255図に示した。その他、礫石器2点が出土している。

SK6156土坑（第188図、國版49）

第6次調査2区中央北寄りのH-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6157土坑と重複関係にあり、本遺構が古いため一部削平されているが、平面形は195cm×85cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは110cmである。壁は底面から大きくオーバーハングしているが壁の途中からは緩やかに外側に向かって開いて立ち上がり、断面形はフラスコ状～朝顔形である。堆積土は9層に分層され、5層では暗褐色土層とV層粒を主体とする層が交互に堆積しており



第189図 繩文時代土坑 (18)

a ~ h の 8 層に細分された。遺物は縞石器が 1 点出土している。

SK6157土坑（第188図、国版49）

第 6 次調査 2 区中央北寄りの H - II グリッドに位置し、V 層上面で検出された。東側を除き周囲は土坑によって囲まれている。S K 6156・6158 土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は 165cm × 150cm の不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは 95cm である。壁は底面からオーバーハングしながら、または緩やかな角度で立ち上がり、断面形はラスコ状～円筒形となる。堆積土は 11 層に分層された。遺物は堆積土中～下層から縞文土器 9 点が出土し、内 2 点を第 255 図に示した。

SK6158土坑（第188図）

第 6 次調査 2 区中央北寄りの H - II グリッドに位置し、V 層上面で検出された。東側を除き周囲は土坑によって囲まれている。S K 6157・6180 土坑と重複関係にあり、本遺構は S K 6157 土坑より古く、S K 6180 土坑より新しい。平面形は南側部分が削平されているが 141cm × 118cm 以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは 83cm である。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は 13 層に分層される。遺物は堆積土中から縞文土器 10 点が出土し、内 3 点を第 256 図に示した。

SK6159土坑（第189図、国版50）

第 6 次調査 2 区東側北寄りの I - 9・10 グリッドに位置し、V 層上面で検出された。本遺構の北側から西側にかけて多くの土坑が密集して検出されている。南側の一部は攪乱のため削平されており、平面形は 179cm × 173cm 以上の円形を基調としたものと考えられる。底面がⅥ 層であることから凸凹がみられるがほぼ平坦で、検出面からの深さは 98cm である。壁の立ち上がりは底面から大きくオーバーハングした後に壁の途中から外側に向かって緩やかに開いて立ち上がり、断面形はラスコ状～朝顔形である。堆積土は 19 層に分層される。遺物は堆積土中から縞文土器 13 点出土し、内 1 点を第 256 図、石器は縞石器 1 点を第 313 図に示した。

SK6160土坑（第189図、国版50）

第 6 次調査 2 区中央南寄りの L - II グリッドに位置し、V 層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は 134cm × 131cm の不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは 36cm である。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は 9 層に分層される。遺物は上～下層から縞文土器 2 点が出土し、内 1 点を第 256 図に示した。

SK6161土坑（第189図、国版50）

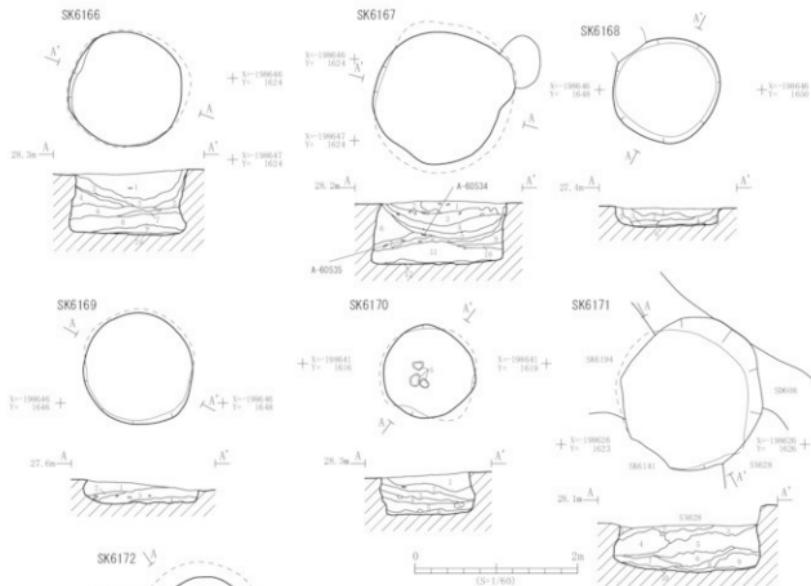
第 6 次調査 2 区中央南寄りの L - II グリッドに位置し、V 層上面で検出された。南西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。平面形は 120cm × 117cm 不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは 22cm である。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は 6 層に分層される。遺物は出土していない。

SK6162土坑（第189図、国版50）

第 6 次調査 2 区東側南寄りの L - 9 グリッドに位置し、V 層上面で検出された。北側には S K 6168 土坑、南側には S K 6150 土坑が存在している。平面形は 119cm × 111cm の円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは 37cm である。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は 4 層に分層される。遺物は堆積土中から縞文土器 3 点が出土し、内 1 点を第 256 図に示した。

SK6163土坑（第189図）

第 6 次調査 2 区西側南寄りの L - 13 グリッドに位置し、V 層上面で検出された。南西側には S K 6338 土坑、北側に S K 6174 土坑などが存在している。平面形は 144cm × 130cm の南側に張り出した梢円形である。底面は中央に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは 32cm である。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形であ



SK	埋位	土色	土性	備考	
				層位	層位
6166	1	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。	
	2	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。	
	3	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層・炭化粒を少量含む。	
	4	BYR2-4 黒褐色	砂質粘土	炭化粒を含む。	
	5	BYR2-4 黒褐色	砂質シルト	V層	V層
	6	BYR2-1 C. 黄褐色	粘土質シルト	V層	V層
	7	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層・炭化粒を少量含む。	
	8	BYR2-1 C. 黄褐色	粘土質シルト	V層・炭化粒を多量含む。	
	9	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層・炭化粒を少量含む。	
	10	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。	
6167	1	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。土塊が多い。	
	2	BYR2-1 C. 黄褐色	粘土質シルト	V層	V層
	3	BYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	粘性強い、炭化粒を微量含む。	
	4	BYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層・炭化粒を少量含む。	
	5	BYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。	
	6	BYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	V層・炭化粒を多量含む。	
	7	BYR2-4 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。	
	8	BYR2-1 黄褐色	砂質シルト	V層	V層
	9	BYR2-1 C. 黄褐色	砂質シルト	V層	V層
	10	BYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。	
	11	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層	V層
	12	BYR2-2 黑褐色	粘土質シルト	V層を少量含む。	

SK	埋位	土色	土性	備考
6168	1	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	2	BYR2-1 C. 黄褐色	粘土質シルト	V層ブロックを多量含む。
	3	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。
	4	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を少量含む。
	5	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを多量含む。
	6	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む。
	7	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を少量含む。
	8	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を含む。
	9	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を少量含む。
	10	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を含む。
6169	1	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を含む。
	2	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を含む。
	3	BYR2-1 C. 黄褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を含む。
	4	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒少量。粘土を少量含む。
	5	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を含む。
	6	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を含む。
	7	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を含む。
	8	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を含む。
	9	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を含む。
	10	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。粘土を含む。
6170	1	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	2	BYR2-1 C. 黄褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	3	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	4	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	5	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	6	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	7	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	8	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	9	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	10	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
6171	1	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	2	BYR2-1 C. 黄褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	3	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	4	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	5	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	6	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	7	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	8	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	9	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	10	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
6172	1	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	2	BYR2-1 C. 黄褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	3	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	4	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	5	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	6	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	7	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	8	BYR2-4 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	9	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。
	10	BYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層粒少量。炭化粒を微量含む。

第190図 織文時代土坑 (19)

る。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器20点が出土し、内1点を第256図、石器はスクリイバー1点を第313図に示した。

SK6164土坑（第189図、国版50）

第6次調査2区中央南寄りのK-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にはSK6161土坑、西側にはSK6202土坑が存在している。平面形は120cm×113cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは54cmである。底面の中央に29cm×26cm、深さ19cmのピットが存在し、そこから外側に向かって放射状に伸びる長さ22cm～53cm、幅4～8cm、深さ3～5cmの溝状の落ち込みが6条検出されている。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は11層に分層された。遺物は縄文土器が検出されているが、小片のため図化できるものはない。石器は礫石器1点が出土している。

SK6165土坑（第189図、国版51）

第6次調査2区西側中央のI-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6119土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、東側が大きく削平されている。平面形は174cm以上×143cm以上の楕円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは62cmである。壁は底面からやや開き気味にはば垂直に立ち上がり、壁の途中でオーバーハングする部分も認められ、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は6層に分層された。遺物は出土していない。

SK6166土坑（第190図、国版51）

第6次調査2区西側南寄りのL-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはSK6184土坑、東側にはSK6167土坑が存在している。平面形は149cm×137cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは80cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器34点が出土し、内2点を第256図に示した。

SK6167土坑（第190図、国版51）

第6次調査2区西側南寄りのL-13・14グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にはSK6166土坑、北側にはSK6184土坑が存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は162cm×155cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは77cmである。壁はオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は12層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器127点が出土し、内7点および土製品を第257図に示した。なお、第257図7の土製品（P-6027）は中空の断面三角形のもので、底面から穿孔が施され、外面には縄文LRが施されており、三角墳形土製品と考えられる。

SK6168土坑（第190図、国版51）

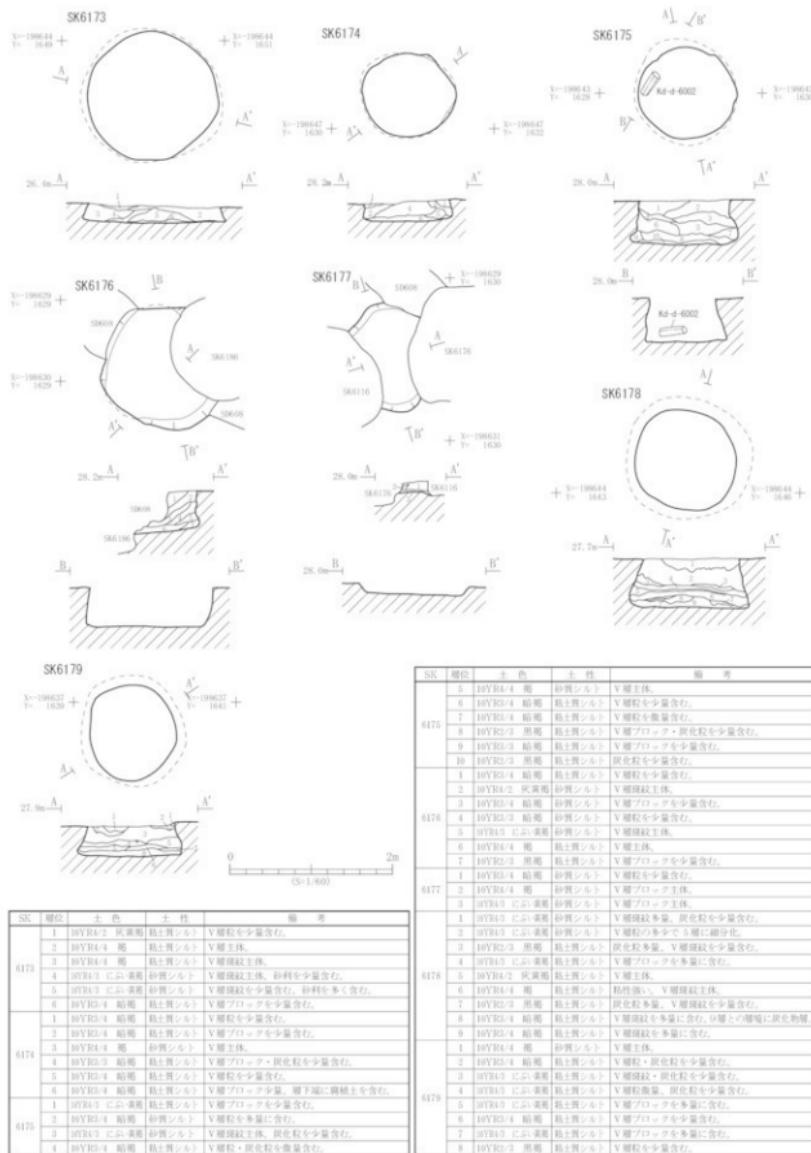
第6次調査2区東側南寄りのL-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK6162・6169・6173土坑により囲まれている。平面形は137cm×130cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは25cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は6層に分層される。遺物は縄文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。

SK6169土坑（第190図、国版51）

第6次調査2区東側南寄りのL-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にはSK6168土坑が存在している。平面形は142cm×134cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは29cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK6170土坑（第190図、国版52）

第6次調査2区西側南寄りのK-15・16グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側にSK6201・6314土坑が存在している。平面形は直径114cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは52cmである。壁は底面



第191図 繩文時代土坑 (20)

からオーバーハングして立ち上がり断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層され底面からまとめて礫が検出されている。遺物は1・2層から繩文土器6点が出土し、内3点を第256図に示した。

SK6171土坑（第190図、国版52）

第6次調査2区西側北寄りのG・H-13・14グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にはSK6113土坑が存在している。本遺構は古代以降の時期に属する遺構と多数重複しており、大半が削平されている。残存する部分で平面形は179cm以上×172cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面には凹凸が認められるがほぼ平坦であり、検出面からの深さは82cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。遺物は出土していない。

SK6172土坑（第190図、国版52）

第6次調査2区東側中央のK-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は124cm×112cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは56cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層され、1層から礫が重なって検出された。遺物は堆積土中から繩文土器1点が出土し、第258図に示した。その他に礫石器1点が出土している。

SK6173土坑（第191図、国版52）

第6次調査2区東側南寄りのK・L-8・9グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側にはSK6168・6169土坑が存在している。平面形は157cm×152cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは24cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は出土していない。

SK6174土坑（第191図、国版52）

第6次調査2区中央南寄りのL-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は115cm×103cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは27cmである。壁はオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は出土していない。

SK6175土坑（第191図、国版53）

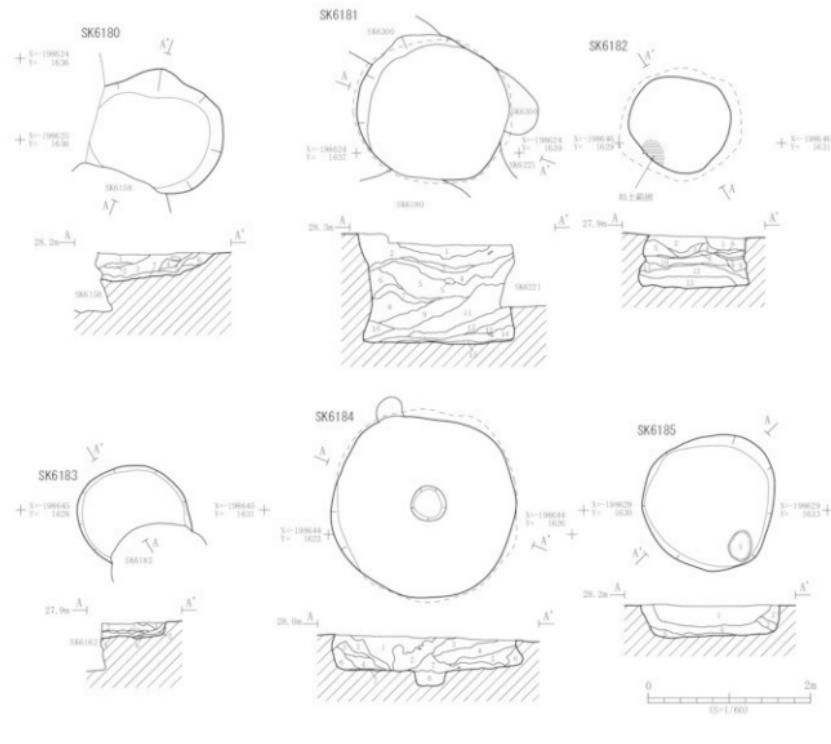
第6次調査2区西側南寄りのK-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にはSK6182・6183土坑が存在している。平面形は直径114cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは55cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層され、底面から7cm上より石棒が出土している。土器は出土しておらず、石棒1点を第313図に示した。

SK6176土坑（第191図、国版53）

第6次調査2区中央北側のH・I-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6177・6186・6224土坑、SD608溝跡と重複関係にあり、本遺構はSK6186土坑、SD608溝跡より古く、SK6177・6224土坑より新しい。北東が大きく削平されているが、平面形は56cm×144cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは53cmである。壁は垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は7層に分層される。遺物は出土していない。

SK6177土坑（第191図）

第6次調査2区西側北寄りのH・I-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6116・6176土坑、SD608溝跡と重複関係にあり、本遺構はSK6116・6176土坑、SD608溝跡より古く、大きく削平されている。平面形は137cm×40cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは14cmである。壁は底面から緩やかな角度で外側に開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。



SK	層位	土色	土性	備考	SK	層位	土色	土性	備考
6180	1	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・泥化粒を少量含む。	6182	6	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	上掌撲した痕跡を多量に含む。
	2	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型ブロック多量、泥化粒を少量含む。		7	BYEY-4 黒褐色	砂質シルト	V型主体。
	3	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁を少含む。		8	BYEY-4 黒褐色	粘土質シルト	V型瓦と筒瓦の土壌。
	4	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型ブロックを少含む。		9	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	中央部にV型壁瓦集中、泥化粒を少量含む。
	5	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を量含む。		10	BYEY-4 黒褐色	粘土質シルト	V型主体。
	6	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を量含む。		11	BYEY-2 黒褐色	シルト質シルト	粘性泥・V型壁瓦を少量含む。
	7	BYEY-2 一二二層	粘土質シルト	V型ブロック・球状物を量含む。		12	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦多量、泥化粒を少量含む。
	8	BYEY-4 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を量含む。		13	BYEY-2 黒褐色	粘土	粘性泥・V型ブロックと泥化粒を含む。
	9	BYEY-4 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を量、泥化粒を少量含む。		14	BYEY-2 黑褐色	粘土質シルト	上掌撲した痕跡を多量に含む。
6181	10	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・泥化粒を少量含む。	6183	1	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少含む。
	11	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁を少含む。		2	BYEY-4 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少含む。
	12	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		3	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を量含む。
	13	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を量含む。		4	BYEY-2 一二二層	粘土質シルト	V型壁瓦主体。
	14	BYEY-2 一二二層	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少量含む。		5	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。
	15	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・泥化粒を少量含む。		6	BYEY-2 一二二層	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。
	16	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少量含む。		7	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。
	17	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		8	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を量含む。
	18	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		9	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。
6182	19	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少量含む。	6184	1	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少含む。
	20	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		2	BYEY-4 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少含む。
	21	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		3	BYEY-2 一二二層	粘土質シルト	V型壁瓦を量含む。
	22	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		4	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少含む。
	23	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		5	BYEY-2 一二二層	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。
	24	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		6	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。
6183	25	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・泥化粒を少量含む。	6185	1	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少含む。
	26	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		2	BYEY-4 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少含む。
	27	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		3	BYEY-2 一二二層	粘土質シルト	V型壁瓦を量含む。
	28	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		4	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁・V型ブロックを少含む。
	29	BYEY-2 黒褐色	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。		5	BYEY-2 一二二層	粘土質シルト	V型壁瓦を少含む。

第192図 繩文時代土坑 (21)

SK6178土坑（第191図、国版53）

第6次調査2区東側中央のK-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側を除き周囲は土坑によって囲まれている。平面形は125cm×120cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは61cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は9層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器2点が出土し、内1点を第258図に示した。

SK6179土坑（第191図）

第6次調査2区中央のJ-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6211土坑をはじめ多くの土坑が存在している。SK6211土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は117cm×107cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは42cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器16点が出土し、内1点を第258図に示した。

SK6180土坑（第192図）

第6次調査2区中央北寄りのG・H-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6158・6181・6322土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は117cm×107cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは42cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器6点が出土し、内1点を第258図に示した。

SK6181土坑（第192図、国版54）

第6次調査2区中央北寄りのG-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6180・6215・6221・6300土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、一部削平されているが、平面形は186cm×172cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは127cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、外側に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは34cmである。壁は底面から外側へ向かって開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は7層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器6点が出土し、内1点を第258図に示した。

SK6182土坑（第192図、国版54）

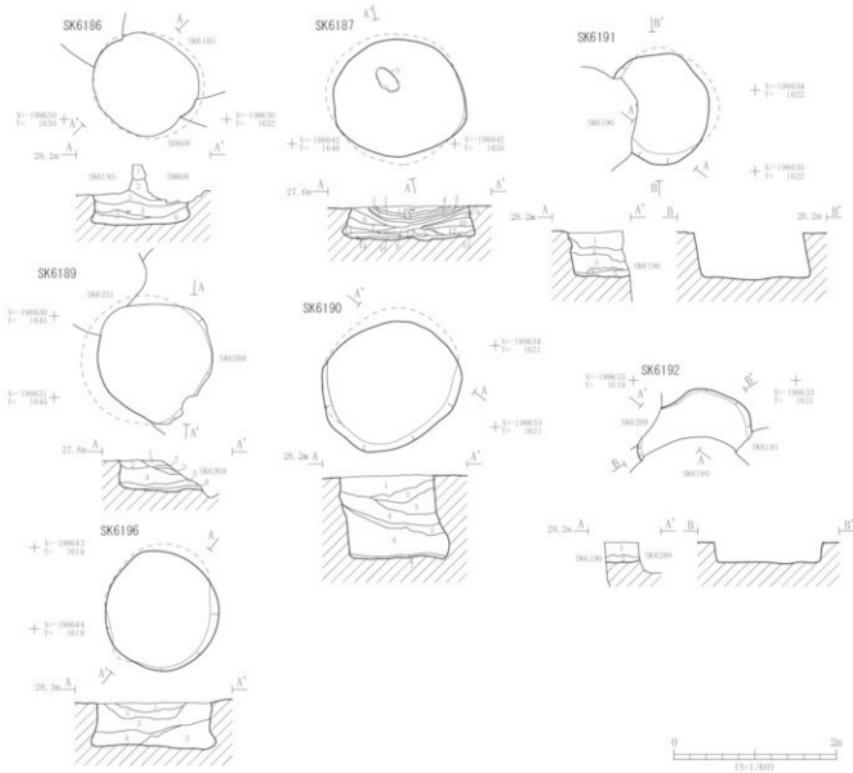
第6次調査2区中央南寄りのL-12・13グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6175土坑、南西側にSK6174土坑が存在している。SK6183土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は123cm×117cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは66cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり断面形はラスコ状である。堆積土は13層に分層され、6層は炭化物を多量に含む。南側底面から粘土塊が検出された。遺物は堆積土上層を中心に縄文土器22点が出土し、内2点を第258図に示した。

SK6183土坑（第192図、国版54）

第6次調査2区西側南寄りのL-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6175土坑、南西側にSK6174土坑が存在している。SK6182土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。そのため南側が削平されているが、平面形は133cm×78cm以上の円形を基調とするものである。底面はやや凹凸がみられるがほぼ平坦で、検出面からの深さは20cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器16点が出土し、内1点を第258図に示した。

SK6184土坑（第192図、国版54）

第6次調査2区西側南寄りのK-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にSK6166・6167土坑が存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は224cm×220cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは45cmである。底面の中央から直径43cm、深さ18cmのピットが検出されている。壁は底面からオ-



SK	層位	土 色	土 性	備 考
6186	1	BYTG-4 黒褐色	砂質シルト	V層被覆多量、炭化粒を少量含む。
	2	BYTG-2 黒褐色	粘土質シルト	V層プロックを少量含む。
	3	BYTG-2 黒褐色	砂質シルト	V層被覆多量、炭化粒を少量含む。
	4	BYTR1-2 にじ 黄褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	5	BYTR2-2 黒褐色	粘土質シルト	V層被覆を多量含む。
	6	BYTR2-2 黒褐色	粘土質シルト	+ V層被覆を多量含む。
	7	BYTR2-2 黒褐色	粘土質シルト	+ V層被覆を多量含む。
	8	BYTR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
	9	BYTG-4 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	10	BYTG-4 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
6187	11	BYTG-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒多量、V層を少量含む。
	12	BYTR1-2 にじ 黄褐色	砂質シルト	V層プロック・疊起・炭化粒を少量含む。
	13	BYTR2-2 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒多量、燒土塊・紡錘形・紡錐形を含む。
	14	BYTR4-4 黑褐色	粘土質シルト	燒土塊・炭化粒を多量含む。
	15	BYTR4-4 黑褐色	粘土質シルト	V層工作。
	16	BYTR4-4 黑褐色	粘土質シルト	炭化粒多量、燒土塊を少量含む。
	17	BYTR4-4 黑褐色	粘土質シルト	V層被覆少、炭化粒を微量含む。
	18	BYTR4-4 黑褐色	粘土質シルト	+ V層被覆少。
	19	BYTR4-4 黑褐色	粘土質シルト	+ V層被覆少。
	20	BYTR4-4 黑褐色	粘土質シルト	+ V層被覆少。
6189	21	BYTR1-2 にじ 黄褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	22	BYTR1-2 にじ 黄褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	23	BYTR1-2 にじ 黄褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	24	BYTR1-2 にじ 黄褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	25	BYTR1-2 にじ 黄褐色	砂質シルト	V層被覆少。
6190	26	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	27	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	28	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	29	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	30	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
6191	31	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	32	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	33	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	34	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	35	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
6192	36	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	37	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	38	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	39	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	40	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
6193	41	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	42	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	43	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	44	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	45	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
6196	46	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	47	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	48	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	49	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。
	50	BYTR1-2 黑褐色	砂質シルト	V層被覆少。

第193図 繩文時代土坑 (22)

バーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は8層に分層され底面及びピット内から疊が検出された。遺物は堆積土中から縄文土器33点が出土し、内3点をを第258図に示した。

SK6185土坑（第192図、国版53・54）

第6次調査2区中央北寄りのH-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6186土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は172cm×168cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは40cmである。壁は底面からほぼ垂直または若干開き気味に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は5層に分層される。底面の南西側で40cm×28cmの大型で扁平な疊が検出された。遺物は堆積土中から縄文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはなかった。石器は石皿1点が出土している。

SK6186土坑（第193図、国版53）

第6次調査2区中央北寄りのH-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6176・6185・6224土坑、SD608溝跡と重複関係にあり、本遺構はSK6185土坑、SD608溝跡より古く、SK6176・6224土坑より新しい。重複する遺構により一部削平されているが、平面形は127cm×118cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは73cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器7点が出土しており、土器を第259図に示した。

SK6187土坑（第193図、国版55）

第6次調査2区東側中央K-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはSK6214土坑が存在している。SX632風倒木痕と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は167cm×145cmの円形である。底面は凹凸が認められるが平坦で、検出面からの深さは43cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は16層に分層され、上層の1～5層では炭化物粒や焼土粒を含む薄い層の重なりが観察される。底面の中央やや北側から長さ35cmのやや大型で扁平な疊が検出されている。遺物は堆積土中から縄文土器31点が出土し、内2点を第259図に示した。その他に微細剥離痕のある剥片が1点出土している。

SK6189土坑（第193図）

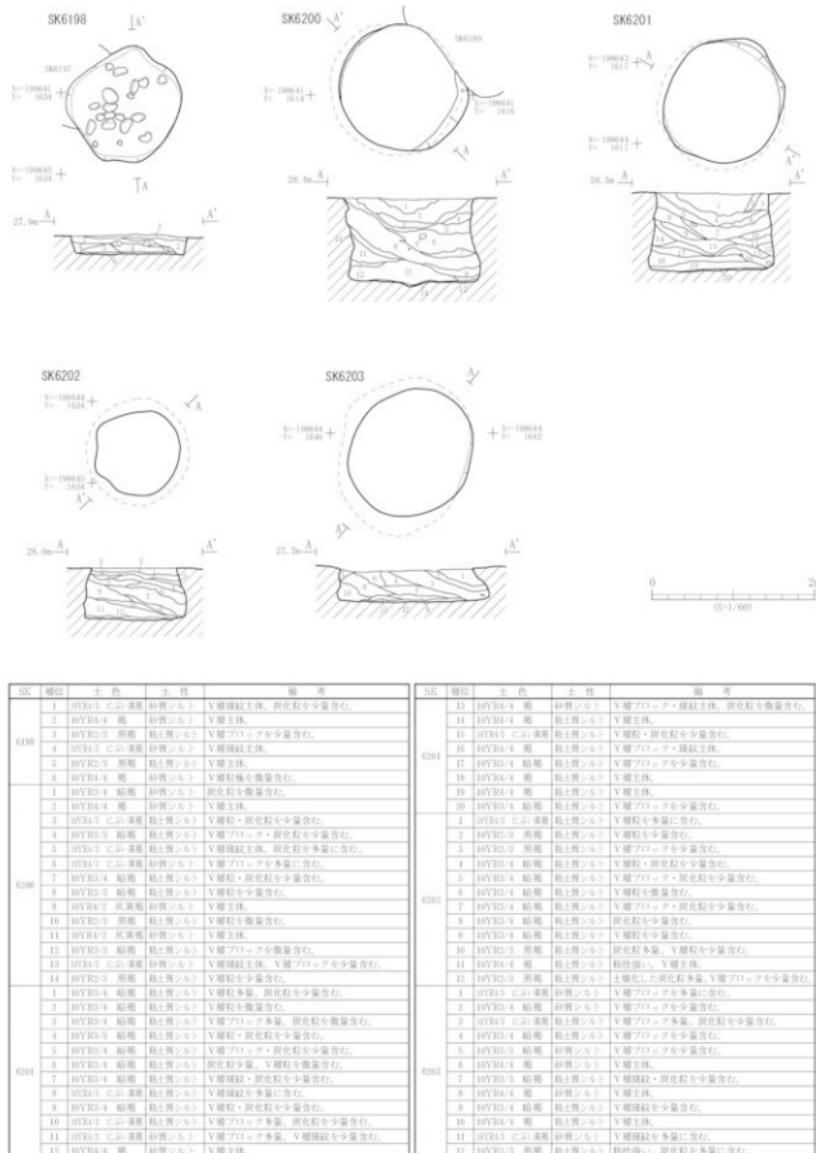
第6次調査2区東側北寄りのI-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にはSK6204土坑をはじめ規模の大きな土坑が多く存在している。SK6251・6269土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。そのため一部削平されているが、平面形は141cm×140cmの円形である。底面には凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは38cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。石器は微細剥離痕のある剥片が2点出土している。

SK6190土坑（第193図、国版55）

第6次調査2区西側中央のI-14・15グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6191・6192土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は175cm×148cmの椭円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは102cmである。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形となる。堆積土は7層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器67点が出土し、内4点を第259図に示した。石器は疊石器1点等が出土している。

SK6191土坑（第193図）

第6次調査2区西側中央I・J-14・15グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6090・6192土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6192土坑より新しく、SK6190土坑より古い。西側が削平されているが、平面形は135cm×120cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出



第194図 縱文時代土坑 (23)

面からの深さは54cmである。壁は底面から垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器27点が出土し、内2点を第259図に示した。

SK6192土坑（第193図）

第6次調査2区西側中央のI-14・15グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6190・6191・6289土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。そのため一部削平されているが、平面形は145cm×55cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは25cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。

SK6196土坑（第193図、図版55）

第6次調査2区西側南寄りのK-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は147cm×140cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは57cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器74点が出土し、内5点を第259図に示した。その他に微細剥離痕のある剥片3点が出土している。

SK6198土坑（第194図、図版55）

第6次調査2区中央南寄りのK-11・12グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはSK6249・6255土坑などが存在している。SK6197土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、西側の一部が削平されている。平面形は135cm×129cm以上の円形を基調とするものである。底面は平坦で、検出面からの深さは24cmである。壁は底面からやや開き気味に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は6層に分層され、底面直上からは疊がまとった状態で検出された。堆積土中からは土器は検出されておらず、石器は礫石器2点を第314図に示した。

SK6200土坑（第194図、図版55）

第6次調査2区西側南寄りのK-15・16グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑により囲まれている。SK6119土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、北東側の一部が削平されている。平面形は159cm×145cmの円形である。底面は凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは108cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は14層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器25点が出土し、内1点を第260図に示した。

SK6201土坑（第194図、図版56）

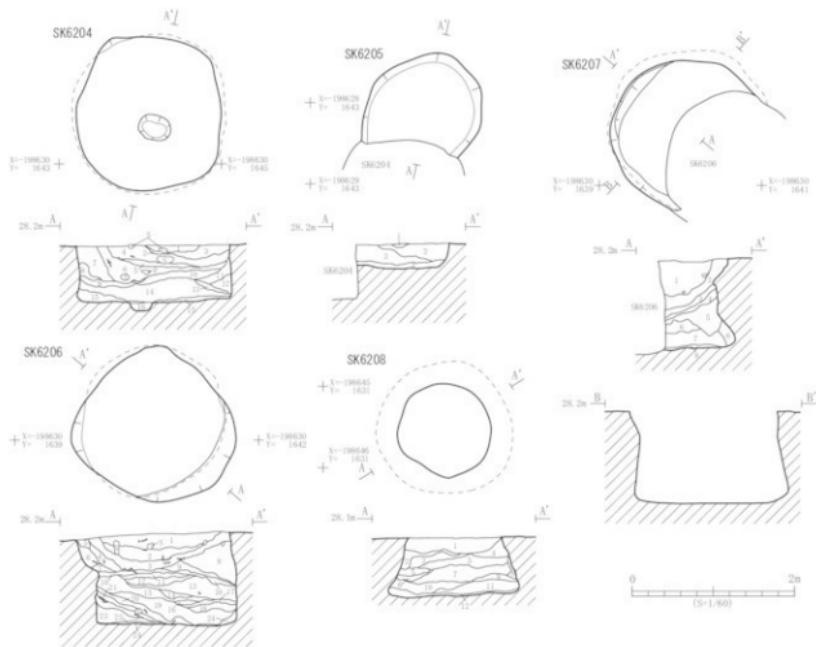
第6次調査2区西側南寄りのK-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側を除いて周囲は土坑によつて囲まれている。SK6314土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は158cm×141cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは97cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は20層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器7点が出土し、内1点を第260図に示した。その他に二次加工のある剥片1点を出土している。

SK6202土坑（第194図、図版56）

第6次調査2区中央南寄りのK-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK6164土坑、西側にはSK6208土坑などが存在している。平面形は直径103cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは64cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は12層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が1点出土しているが、小片のため図化できなかった。

SK6203土坑（第194図、図版55）

第6次調査2区東側中央のK-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK6164土坑、東側にSK6172土坑などが存在している。平面形は164cm×148cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは41cmであ



SK	埋位	土色	土性	場所
6204	1	HYR0-2	粘土	V型槽・炭化粒を少量含む。
	2	HYR0-4	粘土	V型槽・炭化粒・炭化物を少量含む。
	3	HYR0-4	粘土	V型槽・炭化物を少量含む。
	4	HYR0-2	粘土	粘土質シルト・炭化粒を微量含む。
	5	HYR0-4	粘土	粘土質シルト・V型ブロック・炭化粒を少量含む。
	6	HYR0-2	粘土	粘土質シルト・炭化粒を少量含む。
	7	HYR0-2	粘土	炭化粒多量・V型槽を少量含む。
	8	HYR0-2	粘土	V型槽・V型ブロック含む。
	9	HYR0-2	粘土	V型ブロック・炭化粒少量・炭化粒を微量含む。
	10	HYR0-4	粘土	V型槽多量・炭化粒を少量含む。
	11	HYR0-4	粘土	V型槽・炭化粒を微量含む。
	12	HYR0-4	粘土	砂質シルト・V型槽。
	13	HYR0-2	粘土	V型槽・炭化粒を微量含む。
	14	HYR0-4	粘土	V型槽・炭化粒を微量含む。
6205	1	HYR0-4	粘土	V型槽・炭化粒を微量含む。
	2	HYR0-4	粘土	炭化粒を微量含む。
	3	HYR0-4	粘土	炭化粒を微量含む。
	4	HYR0-2	粘土	炭化粒を微量含む。
	5	HYR0-4	粘土	炭化粒を微量含む。
	6	HYR0-2	粘土	炭化粒多量・V型槽を微量含む。
	7	HYR0-4	粘土	炭化粒多量・V型槽を微量含む。
	8	HYR0-4	粘土	炭化粒多量・V型槽を微量含む。
	9	HYR0-2	粘土	V型槽を少量含む。
	10	HYR0-4	粘土	粘土質シルト・炭化粒を少量含む。
	11	HYR0-2	粘土	V型槽・炭化粒を少量含む。
	12	HYR0-3	粘土	V型ブロック・炭化粒少量・砂利を含む。

SK	埋位	土色	土性	場所
6206	13	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽ブロックを少量含む。
	14	HYR0-3	粘土	V型槽・砂質シルト・小砂利を多量に含む。
	15	HYR0-3	粘土	V型槽砂質シルト。
	16	HYR0-3	粘土	V型槽砂質シルト。
	17	HYR0-3	粘土	V型槽砂質シルト。
	18	HYR0-3	粘土	V型槽砂質シルト・V型ブロックを少量含む。
	19	HYR0-3	粘土	18号・傾斜・炭化粒を少量含む・土器片多い。
	20	HYR0-3	粘土	V型槽・アラバ・土器片多い。
	21	HYR0-3	粘土	20号・傾斜・炭化粒を少量含む・土器片多い。
	22	HYR0-3	粘土	V型槽・アラバ・アラバを少量含む。
	23	HYR0-4	粘土	V型槽。
	24	HYR0-2	粘土	V型ブロックを微量含む。
	25	HYR0-2	粘土	炭土砂質シルト。
	26	HYR0-3	粘土	V型槽を多量に含む。
6207	2	HYR0-3	粘土	V型槽砂質シルトを少量含む。
	3	HYR0-3	粘土	V型槽砂質シルト。
	4	HYR0-3	粘土	V型槽砂質シルト。
	5	HYR0-3	粘土	V型槽。
	6	HYR0-4	粘土	炭化粒を微量含む。
	7	HYR0-4	粘土	V型槽。
	8	HYR0-3	粘土	V型槽砂質・V型ブロックを少量含む。
	9	HYR0-3	粘土	砂質シルト・炭化粒多量・V型槽を微量含む。
	10	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質。
	11	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽を微量含む。
	12	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽を微量含む。
	13	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽多量・V型ブロックを微量含む。
	14	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
6208	1	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽多量・V型槽を微量含む。
	2	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
	3	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
	4	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
	5	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
	6	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
	7	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
	8	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
	9	HYR0-4	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
	10	HYR0-4	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
	11	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。
	12	HYR0-3	粘土	砂質シルト・V型槽砂質・V型槽を微量含む。

第195図 繩文時代土坑 (24)

る。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は12層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が1点出土しているが、小片のため國化できなかった。石器は硯石器1点が出土している。

SK6204土坑（第195図、国版56）

第6次調査2区東側北寄りのH・I-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6205・6241土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は190cm×178cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは71cmである。底面の中央から40cm×32cm、深さ11cmのピットが検出されている。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状～円錐形である。堆積土は16層に分層される。遺物は堆積土上～中層を中心に縄文土器96点が出土し、内7点を第260図、石器は硯石器1点を第315図に示した。

SK6205土坑（第195図、国版56）

第6次調査2区東側北寄りのH-9・10グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6204土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、南側が削平されている。平面形は160cm×133cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは30cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器2点が出土し、内1点を第262図に示した。

SK6206土坑（第195図、国版57）

第6次調査2区東側北寄りのH・I-10・11グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6207土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は189cm×175cmの不整な円形である。底面には凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは114cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は24層に分層される。遺物は堆積土上層を中心に縄文土器307点が出土し、内10点を第261図、石器はクサビ形石器1点、硯石器2点を第314図に示した。

SK6207土坑（第195図、国版57）

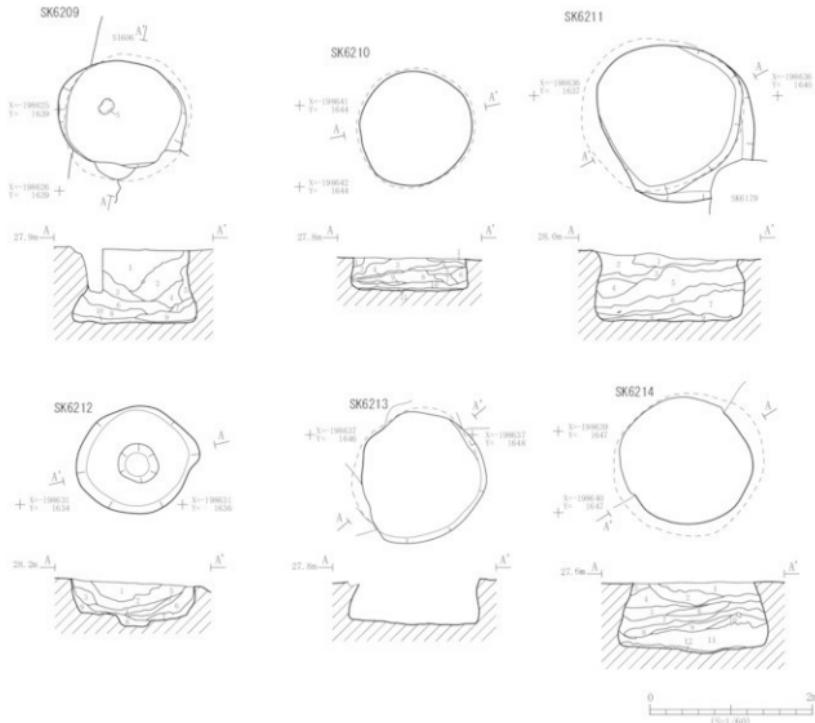
第6次調査2区東側北寄りのH-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6206土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、南東側が削平されている。平面形は185cm×91cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは113cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は8層に分層される。遺物は出土していない。

SK6208土坑（第195図、国版56）

第6次調査2区中央南寄りのL-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK6202土坑、西側にはSK6174土坑などが存在している。平面形は116cm×115cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは74cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層とみられ、12層に分層される。遺物は硯石器1点が出土している。

SK6209土坑（第196図、国版57）

第6次調査2区中央北寄りのG・H-10・11グリッドに位置し、V層上面で検出された。S1606竪穴住居跡、ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は158cm×128cmの楕円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは94cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土はV層を含む人為堆積層とみられ、10層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器2点が出土し、内1点を第260図に示した。その他に硯石器1点が出土している。



試番	場所	土 性	土 性	断 面
6209	1 沖縄2 一二二、東側	粘土質。	V型底部。炭化物少量。原灰土を微量含む。	
	2 沖縄2 一二二、東側	粘土質。	炭化物多量。V型底部を少量含む。	
	3 沖縄2 一二二、東側	粘土質。	V型底部。	
	4 沖縄2 一二二、東側	粘土質。	V型プロック。炭化物を少量含む。	
	5 沖縄2 一二二、東側	粘土質。	V型底部を微量含む。	
	6 沖縄2 一二二、東側	粘土質。	V型底部多量。炭化物を微量含む。	
	7 沖縄2 一二二、東側	粘土質。	V型底部を微量含む。	
	8 沖縄2 一二二、東側	粘土質。	V型底部多量。V型プロックを含む。	
	9 沖縄2 一二二、東側	粘土質。	V型底部多量。V型プロックを含む。	
	10 沖縄2 一二二、東側	粘土質。	炭化物多量。V型底部を少量含む。	
6210	1 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	2 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	3 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	4 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	5 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	6 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	7 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	8 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	9 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	10 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
6211	1 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	2 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	3 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	4 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	5 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	6 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	7 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	8 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	9 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	10 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
6212	1 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	2 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	3 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	4 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	5 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	6 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	7 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	8 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	9 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	10 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
6213	1 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	2 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	3 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	4 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	5 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	6 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	7 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	8 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	9 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	10 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
6214	1 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	2 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	3 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	4 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	5 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	6 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	7 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	8 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	9 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	
	10 沖縄4 一二一、南側	粘土質。	V型底部。	

第196図 繩文時代土坑（25）

SK6210土坑 (第196図、国版58)

第6次調査2区東側中央のK-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK6187土坑、西側にSK6235土坑などが存在している。平面形は143cm×134cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは40cmである。壁は底面からややオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は11層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器1点が出土し、第260図に示した。

SK6211土坑 (第196図、国版58)

第6次調査2区中央のJ-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側にSK6257土坑、南西側にSK6249土坑などが存在している。SK6179土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、南東側の一部が削平されている。平面形は214cm×190cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは86cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は9層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器54点が出土し、内2点を第260図に示した。その他に微細剥離痕のある剝片1点が出土している。

SK6212土坑 (第196図、国版58)

第6次調査2区中央のI-11・12グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6156土坑、南側にSK6258土坑が存在している。平面形は154cm×132cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは51cmである。底面の中央で50cm×46cm、深さ8cmのピットが検出された。壁は底面からやや開いて立ち上がり、断面形は円筒形となる。堆積土は8層に分層される。遺物は2層上面から縄文土器1点が出土し、第262図に示した。

SK6213土坑 (第196図、国版58)

第6次調査2区東側中央のJ-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側にSK6236土坑、南西側にSK6214土坑が存在している。南東側は搅乱により削平されているが、平面形は151cm×150cmの円形である。底面は凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは57cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体にしてV層をブロック状に含む。遺物は堆積土中から縄文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。石器は二次加工のある剝片1点が出土している。

SK6214土坑 (第196図、国版58)

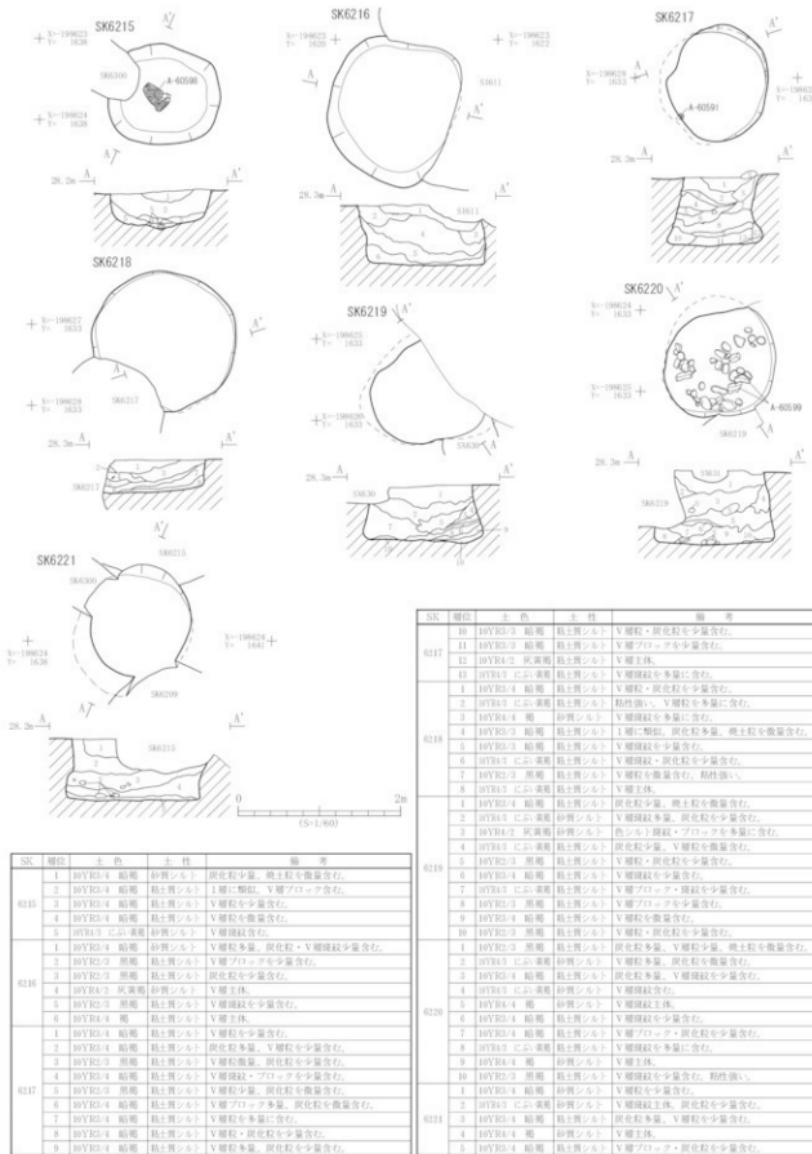
第6次調査2区東側中央のJ・K-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側にSK6213土坑、南東側にSK6187土坑が存在している。北西側は搅乱によって削平されているが、平面形は165cm×154cmの円形である。底面は凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは88cmである。壁はオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は12層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器11点が出土し、内2点を第262図に示した。

SK6215土坑 (第197図、国版58)

第6次調査2区中央北寄りのG-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6181・6221・6300土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6181・6221土坑より新しく、SK6300土坑より古い。平面形は138cm×123cmの橢円形である。底面は中央が緩やかに落ち込み、検出面からの深さは47cmである。壁は底面からやや開き気味に立ち上がり断面形は円筒形である。堆積土は5層に分層され、底面直上からほぼ完形の深鉢(A-60597)が横位に潰れた状態で出土しており、第263図に示した。

SK6216土坑 (第197図、国版59)

第6次調査2区西側北寄りのG-14・15グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にはSK6094土坑、北東側にはSK6219土坑などが存在している。S1611堅穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が古く、一部削平されるが、平面形は175cm以上×153cm以上の円形を基調とするものである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは73



第197図 繩文時代土坑 (26)

cmである。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が41点出土し、内1点を第262図に示した。

SK6217土坑（第197図、国版59）

第6次調査2区中央北寄りのH-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6155・6218土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は144cm×126cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは88cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層とみられ、13層に分層される。北東側の上～中層では30cm程のやや大型の礫がまとまって検出された。南西側の底面直上から小型の深鉢（A-60591）が出土しており、第262図に示した。その他にスクレイパー1点が出土している。

SK6218土坑（第197図、国版59）

第6次調査2区中央北寄りのH-11・12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6217・6263土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6217土坑より古く、SK6263土坑より新しい。重複する遺構によって一部削平されているが、平面形は178cm×173cmの円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは41cmである。壁は底面から一部オーバーハングする部分も認められるがほぼ垂直に立ち上がっており、断面形は円筒形である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器7点が出土し、内1点を第262図に示した。

SK6219土坑（第197図、国版60）

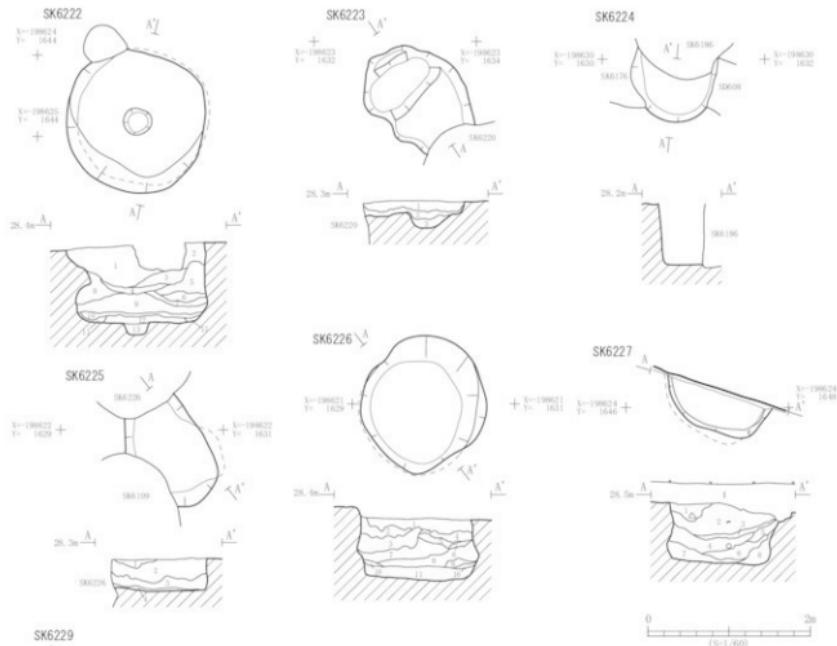
第6次調査2区中央北寄りH-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6220・6263土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。北東側は擾乱により大きく削平されており、平面形は97cm以上×128cmの楕円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは72cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器29点が出土し、内3点を第264図、石器は礫石器1点を第315図に示した。

SK6220土坑（第197図、国版59）

第6次調査2区中央北寄りH・G-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6219・6223土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6223土坑より新しく、SK6219土坑より古い。また東側は擾乱によって大きく削平されている。平面形は139cm×127cmの円形を基調とするものである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは91cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。底面から下層にかけて礫がまとまって検出されており、中央やや南西部で深鉢の突起部分が礫で囲まれた状態で出土している。他の遺物は堆積土中から縄文土器67点が出土し、内2点を第264図、石器は礫石器3点を第315図に示した。

SK6221土坑（第197図、国版58）

第6次調査2区中央北寄りのG-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6181・6209・6215・6300土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6181土坑より新しく、SK6209・6215・6300土坑より古い。平面形は138cm×120cmの円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは76cmである。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器4点が出土し、内1点を第264図に示した。その他に礫石器が2点出土している。



SK6229: Plan view shows a large, irregular structure. Section view shows a deep pit with a stepped base. Labels include X=199621 Y=1640, X=199622 Y=1638, X=199623 Y=1630, and various A' and A'' labels.

SK	層位	土色	土性	細胞
6225	1	DOYR3-4	粘土質	粘土質少。V層ブロック・炭化粒を少量含む。
	2	DOYR3-3	粘土質	粘土質少。V層炭化粒を多量に含む。
	3	DOYR3-3	粘土質	粘土質少。V層ブロック・炭化粒を少量含む。
	4	DOYR3-2	粘土質	V層灰・炭化粒を少量含む。
	5	DOYR3-2	粘土質	粘土質少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	6	DOYR3-2	粘土質	V層灰を多量に含む。
	7	DOYR3-2	粘土質	V層灰・炭化粒を多量に含む。
	8	DOYR3-2	粘土質	V層灰・炭化粒を多量に含む。
	9	DOYR3-2	粘土質	V層灰・炭化粒を多量に含む。
	10	DOYR3-2	粘土質	V層灰・炭化粒を多量に含む。
6226	1	DOYR3-3	粘土質	粘土質少。V層灰・炭化粒を多量含む。
	2	DOYR3-3	粘土質	粘土質少。V層灰・炭化粒を多量に含む。
	3	DOYR3-3	粘土質	粘土質少。V層灰・炭化粒を多量に含む。
	4	DOYR3-2	粘土質	V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	5	DOYR3-2	粘土質	V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	6	DOYR3-2	粘土質	V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	7	DOYR3-2	粘土質	V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	8	DOYR3-2	粘土質	V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
6227	1	DOYR3-2	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	2	DOYR3-2	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	3	DOYR3-2	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	4	DOYR3-2	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	5	DOYR3-2	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	6	DOYR3-2	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	7	DOYR3-2	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	8	DOYR3-2	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
6228	1	DOYR3-4	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	2	DOYR3-4	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	3	DOYR3-4	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	4	DOYR3-4	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	5	DOYR3-4	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	6	DOYR3-4	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。
	7	DOYR3-4	粘土質	粘土質少。V層灰少。V層灰・炭化粒を少量含む。

第198図 繩文時代土坑 (27)

SK6222土坑（第198図、国版60）

第6次調査2区東側北寄りのG・H-9・10グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはSK6232・6227土坑などが存在している。S I 607堅穴住居跡、ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は171cm×170cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは98cmである。底面の中央で35cm×32cm、深さ15cmのピットが検出されている。南側の壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、途中から外側に緩やかに開いて立ち上がっているが、その他の部分では底面からはほぼ垂直に立ち上がる。断面形はラスコ状～円筒形である。堆積土は13層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器5点が出土し、内1点を第264図に示した。

SK6223土坑（第198図）

第6次調査2区中央北寄りのG-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6220土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、一部削平されているが、平面形は144cm以上×103cmの楕円形を基調とするものと考えられ、長軸方向はN-37°-Wである。底面は平坦で、検出面からの深さは15cmである。底面の中央から北側に100cm×59cmの範囲で落ち込みが認められ、深さは18cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形～U字形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、図化できるものはなかった。石器はスクレイパー1点が出土している。

SK6224土坑（第198図、国版53）

第6次調査2区中央のI-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6176・6186土坑、SD608溝跡と重複関係にあり、本遺構が古く。北側が大きく削平されているが平面形は55cm以上×103cm以上の楕円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは42cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体にするものでV層ブロックを含む。遺物は出土していない。

SK6225土坑（第198図、国版60）

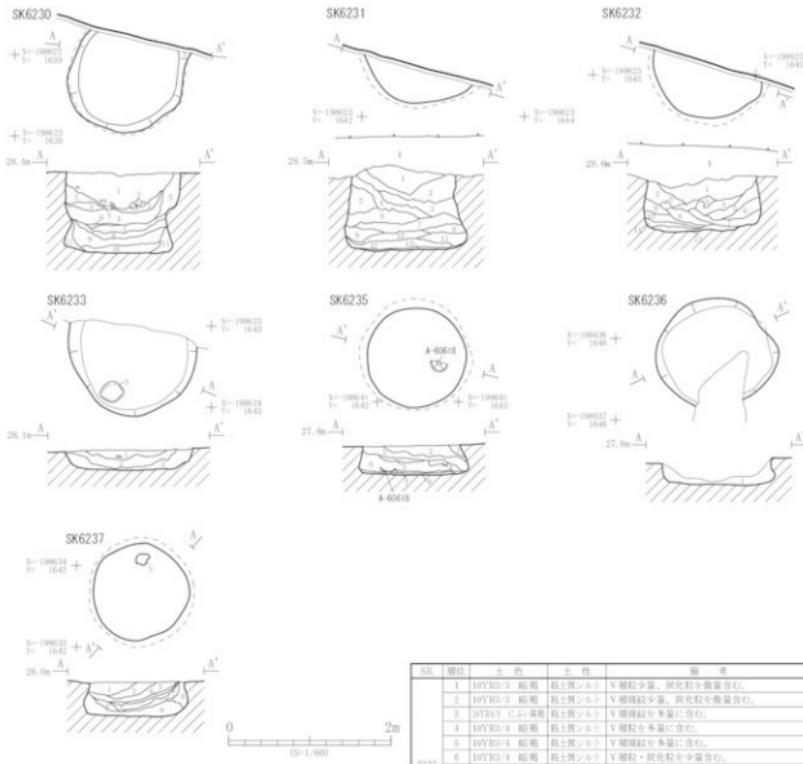
第6次調査2区中央北寄りのG-12・13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6109・6226・6264土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6109・6226土坑より古く、SK6264土坑より新しい。重複する遺構により一部削平されているが、平面形は残存値で128cm以上×72cm以上の楕円形を基調とするものと考えられ、長軸方向はN-21°-Wである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは40cmである。壁は底面からはほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状～円筒形である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器31点が出土し、内2点を第264図に示した。

SK6226土坑（第198図、国版60）

第6次調査2区中央北寄りのG-12・13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑により囲まれている。SK6225・6264土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は190cm×154cmの不整な楕円形である。底面は凸凹が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは91cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は11層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器30点が出土し、内2点を第264図に示した。

SK6227土坑（第198図、国版60）

第6次調査2区東側北寄りのG-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側にSK6222土坑、南東側にはSK6292土坑などが存在している。北側が調査区外となるため全体は不明であるが、平面形は133cm以上×46cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、調査区北側壁の土層断面の観察では検出面からの深さは77cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器26点が出土し、内2点を第264図に示した。



SK	層位	土色	土性	備考	
				層厚	
6230	1	HVRG-1 茶褐色	砂質シルト	V層板・炭化粒少量、下に礫を多量含む。	
	2	HVRG-2 黒褐色	粘土質シルト	V層プロック・炭化粒を少量含む。	
	3	HVRG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層炭酸塩・炭化粒を少量含む。	
	4	HVRG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層炭酸塩を多量に含む。	
	5	HVRG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層炭酸塗・炭化粒を少量含む。	
	6	HVRG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層を多量含む。	
	7	HVRG-4 C.茶褐色	砂質シルト	V層炭酸塩・炭化粒を少量含む。	
	8	HVRG-2 黑褐色	V層プロック・炭化粒を少量含む。		
	9	HVRG-2 黑褐色	粘土質シルト	V層を多量含む。	
	10	HVRG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層プロックを多量含む。	
	11	HVRG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層プロックを多量に含む。	
6231	1	HVRG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層E・炭化粒少量、小石を含む。	
	2	HVRG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層プロック・炭化粒を少量含む。	
	3	HVRG-3 C.茶褐色	粘土質シルト	V層E・炭化粒少量、V層炭酸・炭化粒を少量含む。	
	4	HVRG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層Eを多量含む。	
	5	HVRG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層E・炭化粒を微量含む。	
	6	HVRG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層Eを多量含む。	
	7	HVRG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層Eを多量含む。	
	8	HVRG-2 C.茶褐色	V層Eを多量含む。		
	9	HVRG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層Eを多量含む。	
	10	HVRG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層Eを多量含む。	
	11	HVRG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層Eを多量含む。	
	12	HVRG-2 黑褐色	V層E・V層E2少量・炭化粒を微量含む。		
	13	HVRG-2 黑褐色	粘土質シルト	V層Eを少量含む。	

SK	層位	土色	土性	層厚
6232	1	HVEG-3 茶褐色	粘土質シルト	V層板少量・炭化粒を微量含む。
	2	HVEG-3 茶褐色	粘土質シルト	V層板少量・炭化粒を微量含む。
	3	HVEG-3 C.茶褐色	粘土質シルト	V層板を多量に含む。
	4	HVEG-4 茶褐色	粘土質シルト	V層板を多量に含む。
	5	HVEG-4 茶褐色	粘土質シルト	V層板を多量に含む。
	6	HVEG-4 茶褐色	粘土質シルト	V層板を多量に含む。
	7	HVEG-4 黑褐色	粘土質シルト	V層板を多量に含む。
	8	HVEG-2 黑褐色	粘土質シルト	V層板を多量に含む。
	9	HVEG-2 黑褐色	粘土質シルト	V層板を多量に含む。
	10	HVEG-2 黑褐色	粘土質シルト	V層板を多量に含む。
	11	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板を多量に含む。
	12	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板を多量に含む。
	13	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板を多量に含む。
6233	1	HVEG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層板を多量・V層プロック・炭化粒を微量含む。
	2	HVEG-2 黑褐色	粘土質シルト	V層板を多量・V層板を少量含む。
	3	HVEG-1 C.茶褐色	砂質シルト	V層板を多量・V層プロック・炭化粒を微量含む。
	4	HVEG-1 C.茶褐色	砂質シルト	V層板を少量含む。
	5	HVEG-1 C.茶褐色	砂質シルト	V層板を少量含む。
	6	HVEG-1 C.茶褐色	砂質シルト	V層板を少量含む。
	7	HVEG-1 黑褐色	粘土質シルト	V層板・炭化粒を少量含む。
	8	HVEG-1 黑褐色	粘土質シルト	V層板・炭化粒を少量含む。
	9	HVEG-1 黑褐色	粘土質シルト	V層板・炭化粒を少量含む。
	10	HVEG-1 黑褐色	粘土質シルト	V層板・炭化粒を少量含む。
	11	HVEG-1 黑褐色	粘土質シルト	V層板・炭化粒を少量含む。
	12	HVEG-1 黑褐色	粘土質シルト	V層板・炭化粒を少量含む。
	13	HVEG-1 黑褐色	粘土質シルト	V層板・炭化粒を少量含む。
6234	1	HVEG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	2	HVEG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	3	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・炭化粒を微量含む。
	4	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	5	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	6	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	7	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	8	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	9	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	10	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	11	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	12	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	13	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
6235	1	HVEG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層板少量・炭化粒を微量含む。
	2	HVEG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層板少量・炭化粒を微量含む。
	3	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層プロック・炭化粒を微量含む。
	4	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	5	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	6	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	7	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	8	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	9	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	10	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	11	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	12	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	13	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
6236	1	HVEG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	2	HVEG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	3	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	4	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	5	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	6	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	7	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	8	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	9	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	10	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	11	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	12	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	13	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
6237	1	HVEG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層板少量・炭化粒を微量含む。
	2	HVEG-3 黑褐色	粘土質シルト	V層板少量・炭化粒を微量含む。
	3	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	4	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	5	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	6	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	7	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	8	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	9	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	10	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	11	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	12	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。
	13	HVEG-3 C.茶褐色	砂質シルト	V層板少量・V層Eを微量含む。

第199図 繩文時代土坑 (28)

SK6229土坑（第198図、国版60）

第6次調査2区中央北寄りのG-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6230・6299土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6230土坑より古く、SK6299土坑より新しい。重複する遺構によって東側の一部が削平されており、北側は調査区外となるため全体は不明である。平面形は240cm以上×95cm以上の円形または橢円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面から底面までの深さは63cmである。南西側の壁際から62cm×51cm、深さ13cmのピットが検出された。壁は底面から外側に開きながら立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は7層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器49点が出土し、内2点を第264図に示した。石器は礫石器1点等が出土している。

SK6230土坑（第199図、国版60）

第6次調査2区東側北寄りのG-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6229土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。北側が調査区外となるため全体は不明であるが、平面形は直径140cmの円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは100cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は11層に分層され、1層下部からは礫がまとまって検出された。遺物は1層から出土した小型土器（A-60614）を第265図に示した。

SK6231土坑（第199図、国版60）

第6次調査2区東側北寄りのG-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。北側が調査区外となるため全体は不明であるが、平面形は直径137cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは92cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は13層に分層される。遺物は出土していない。

SK6232土坑（第199図、国版61）

第6次調査2区東側北寄りのG-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。北側が調査区外となるため全体は不明であるが、平面形は直径139cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは68cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は12層に分層される。遺物は出土していない。

SK6233土坑（第199図、国版61）

第6次調査2区東側北寄りのG-10グリッドに位置している。南側を除き周囲は土坑によって囲まれている。S I 606竪穴住居跡の床面で検出されたことから、本遺構がS I 606竪穴住居跡より古い。北側部分が搅乱によって削平されているため全体は不明であるが、平面形は直径159cmの円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは29cmである。壁は底面から開き気味に緩やかに立ち上がっており、断面形は皿形である。堆積土は3層に分層され、底面南側で30cmの礫が検出された。遺物は堆積土中から繩文土器14点が出土し、内2点を第265図に示した。

SK6235土坑（第199図、国版61）

第6次調査2区東側中央のK-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にはSK6210土坑、南側にはSK6172土坑などが存在している。平面形は直径123cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは38cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は8層に分層される。遺物は底面から半分を欠損した浅鉢（A-60618）が1点出土しており、第265図に示した。

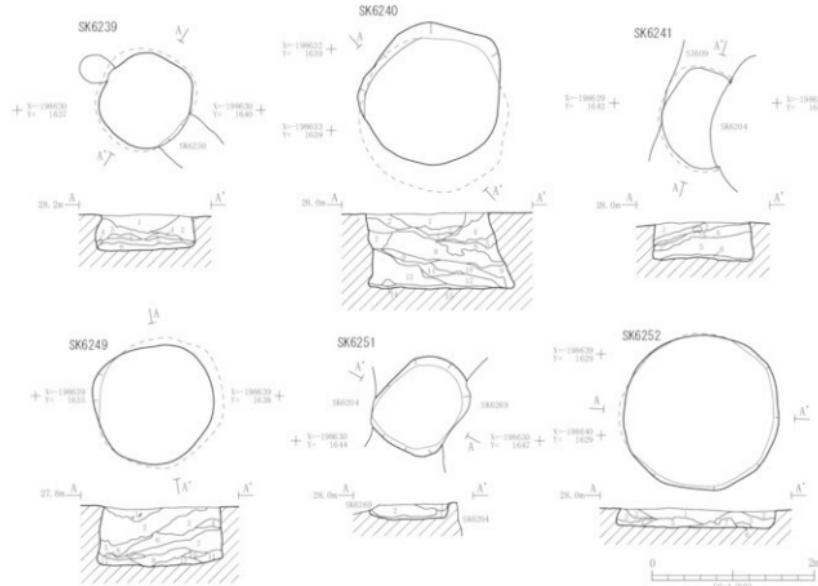
SK6236土坑（第199図）

第6次調査2区東側中央のJ-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6134土坑、南西側にはSK6213土坑などが存在している。南側の一部が搅乱によって削平されているが、平面形は149cm×134cmの円形で

ある。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは34cmである。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形は円筒形～フラスコ状である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK6237土坑（第199図、国版61）

第6次調査2区東側北寄りのI-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。南東側を除き周囲は土坑によって囲まれている。平面形は直径118cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは42cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は9層に分層され、底面からは



第200図 繩文時代土坑（29）

SK	層位	土 色	土 性	備 考
6239	1	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を多量に含む。
	2	HYR4-3 深黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量含む。
	3	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量含む。
	4	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を多量に含む。
	5	HYR4-3 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量含む。
	6	HYR4-2 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	7	HYR4-2 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	8	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
6240	9	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を多量に含む。
	10	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を多量に含む。
	11	HYR4-2 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。粘性弱い。
	12	HYR4-3 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。
	13	HYR4-4 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。
	14	HYR4-2 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。
	15	HYR4-2 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰を少量化含む。
	16	HYR4-3 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	17	HYR4-3 こぶ茶褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	18	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	19	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	20	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	21	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
6241	22	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	23	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	24	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	25	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	26	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	27	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	28	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
SK	層位	土 色	土 性	備 考
6249	1	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	2	HYR4-3 深黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	3	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	4	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	5	HYR4-3 深黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	6	HYR4-2 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	7	HYR4-2 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	8	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	9	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	10	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
6251	11	HYR4-2 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。粘性弱い。
	12	HYR4-3 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。
	13	HYR4-4 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。
	14	HYR4-4 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。
	15	HYR4-4 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。
	16	HYR4-4 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。
	17	HYR4-4 黄褐色	シント質粘土	V層骨灰・灰化粘土を少量化含む。
SK	層位	土 色	土 性	備 考
6252	1	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	2	HYR4-3 深黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	3	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	4	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	5	HYR4-3 深黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	6	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。
	7	HYR4-4 黄褐色	粘土質シルト	V層骨灰を少量化含む。

第200図 繩文時代土坑（29）

直径17cmの礫が1点検出されている。遺物は出土していない。

SK6239土坑（第200図、国版61）

第6次調査2区東側北寄りのH・I-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑により囲まれている。SK6250土坑、ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は直径約110cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは43cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。

SK6240土坑（第200図）

第6次調査2区東側北寄りのI-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6279土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は187cm×166cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは94cmである。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形は円筒形～フラスコ状である。堆積土は15層に分層される。遺物は堆積土上層を中心に繩文土器38点が出土し、内1点を第265図に示した。その他にスクリイバーが1点出土している。

SK6241土坑（第200図、国版56）

第6次調査2区東側北寄りのH-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6204土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、東側が大きく削平されていることから全体は不明であるが、平面形は124cm×64cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は中央がやや盛り上がり、断面形は円筒形～フラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は出土していない。

SK6249土坑（第200図、国版62）

第6次調査2区中央のJ-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側にSK6256土坑、南西側にSK6198土坑などが存在している。平面形は直径約145cmの円形である。底面は中央に向かって若干傾斜しているが平坦で、検出面からの深さは73cmである。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形は円筒形～フラスコ状である。堆積土は13層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器50点が出土し、内2点を第265図に示した。

SK6251土坑（第200図、国版56）

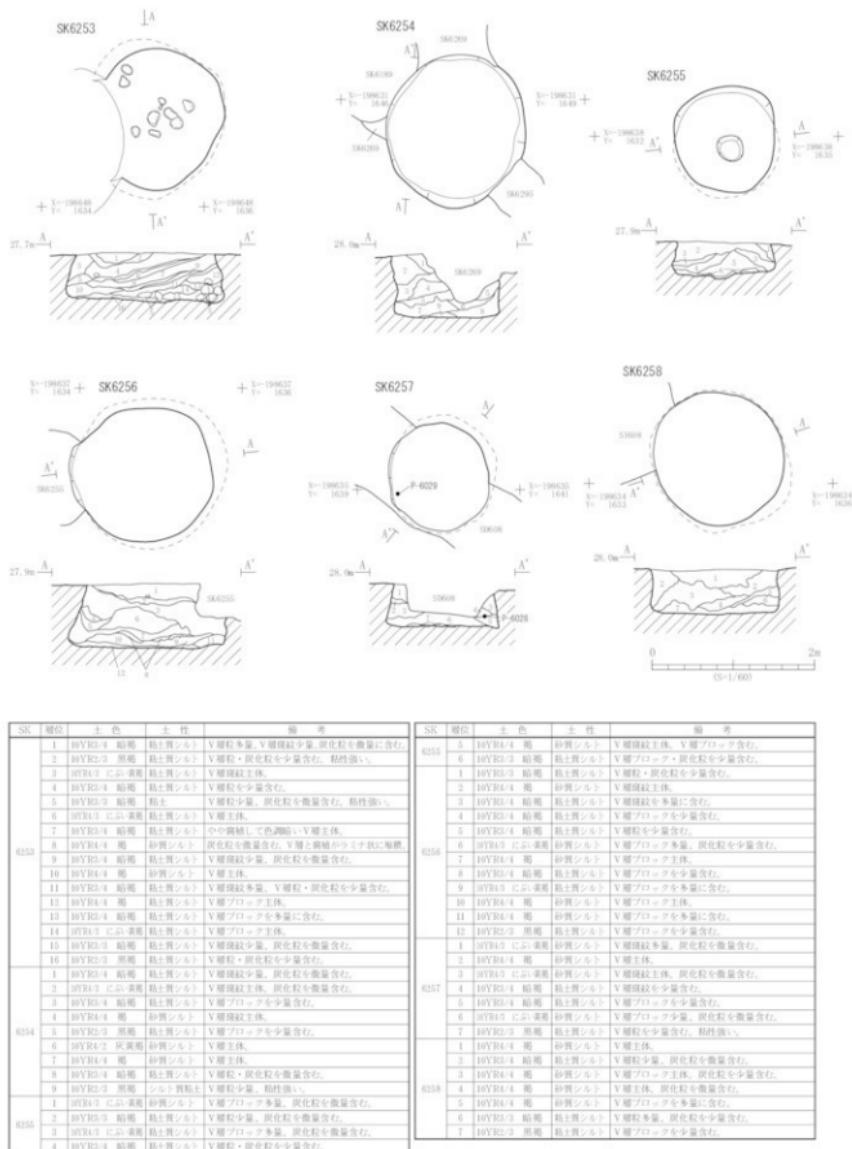
第6次調査2区東側北寄りのH-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6204・6269土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は123cm×96cmの楕円形で、長軸方向はN-33°-Eである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは20cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器6点が出土し、内1点を第265図に示した。

SK6252土坑（第200図、国版62）

第6次調査2区西側南寄りのK-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側にSK6268土坑、南側にSK6175土坑などが存在している。平面形は直径約190cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは23cmである。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形は円筒形～フラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器14点が出土し、内1点を第265図に示した。

SK6253土坑（第201図、国版62）

第6次調査2区中央南寄りのL-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。西側部分が擾乱によって削平されており全体は不明であるが、平面形は169cm×152cmの円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは60cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は16層に分層され、底面からは礫がまとまって検出されている。遺物



第201図 繩文時代土坑(30)

は堆積土中から繩文土器が出土しているが、小片のため國化できるものはない。

SK6254土坑（第201図、図版62）

第6次調査2区東側北寄りのI-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。南東側にはSK6159土坑が存在している。SK6189・6269・6295土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は184cm×170cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは78cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は9層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器27点が出土し、内1点を第265図、石器は石鏃1点、スクレイパー2点、礫石器1点を第316図に示した。

SK6255土坑（第201図、図版62・63）

第6次調査2区中央のJ-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6256土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は132cm×125cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは38cmである。底面の中央から35cm×30cm、深さ7cmのビットが検出されている。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器29点が出土し、内1点を第265図に示した。その他にスクレイパー1点が出土している。

SK6256土坑（第201図、図版62・63）

第6次調査2区中央のJ-11・12グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6255土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、西側が一部削平されているが、平面形は174cm×164cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは80cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は12層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器3点が出土し、内1点を第265図に示した。

SK6257土坑（第201図、図版63）

第6次調査2区中央のI・J-11・12グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SD608溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は133cm×124cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは53cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は7層に分層され、下層から土偶1点（P-6029）が出土した。その他には遺物が出土していない。

SK6258土坑（第201図、図版63）

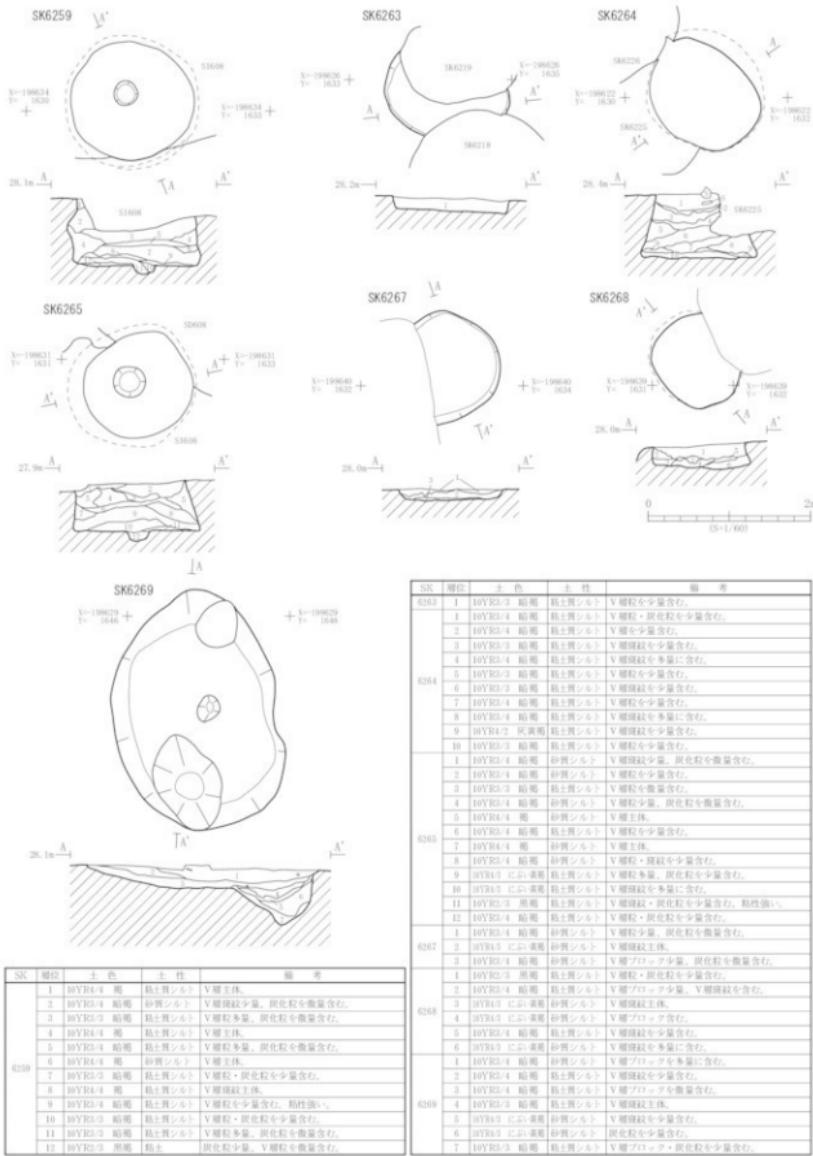
第6次調査2区中央のI-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはSK6212土坑、西側にSK6259土坑などが存在している。SI608竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が古い。北西側が一部削平されているが、平面形は164cm×158cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは55cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は7層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器11点が出土し、内1点を第266図、石器はクサビ形石器1点を第316図に示した。

SK6259土坑（第202図、図版64）

第6次調査2区中央のI-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SI608竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が古く、北側部分が大きく削平されている。平面形は152cm×145cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは80cmである。底面の中央からやや北側に直径30cm、深さ12cmのビットが検出されている。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は12層に分層される。遺物は出土していない。

SK6263土坑（第202図）

第6次調査2区中央北寄りのH-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれてい



第202図 縄文時代土坑 (31)

る。SK6218・6219土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、大きく削平されていることから全体は不明である。平面形は155cm×44以上cmの円形または橢円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは23cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は堆積土中から繩文土器9点が出土し、内1点を第266図に示した。

SK6264土坑（第202図、国版64）

第6次調査2区中央北寄りのG-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6225・6226土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は142cm×117cmの橢円形であり、長軸方向はN-47°-Wである。底面は凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは79cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器22点が出土し、内4点を第266図に示した。

SK6265土坑（第203図、国版64）

第6次調査2区中央のI-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはSK6185土坑をはじめとする土坑群が密集して存在している。S I 608竖穴住居跡、SD608溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は132cm×124cmの円形である。底面は凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは63cmである。底面の中央で直径40cm、深さ12cmのピットが検出されている。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は12層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。

SK6267土坑（第202図）

第6次調査2区中央のJ-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。西側は搅乱により削平されているが、平面形は133cm×89cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは15cmである。壁は底面から外側に向かって緩やかに開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK6268土坑（第202図）

第6次調査2区中央のJ-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。北東側は搅乱によって削平されているが、平面形は114cm×80cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは33cmである。壁はオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は出土していない。

SK6269土坑（第202図）

第6次調査2区東側北寄りのI-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK6204土坑、南側にはSK6159土坑などが存在している。SK6189・6251・6254土坑、ピットと重複関係にあり、本遺構はSK6189・6251・6254土坑より新しく、ピットより古い。平面形は287cm×201cmの橢円形で、長軸方向はN-10°-Wである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは30cmである。底面の中央で33cm×26cm、深さ7cm、南西隅で120cm×77cm、深さ43cmのピットが検出されている。壁は外側に開いて緩やかに立ち上がっており、断面形は皿形である。堆積土は7層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器33点が出土し、内1点を第266図、石器は石器1点を第316図に示した。

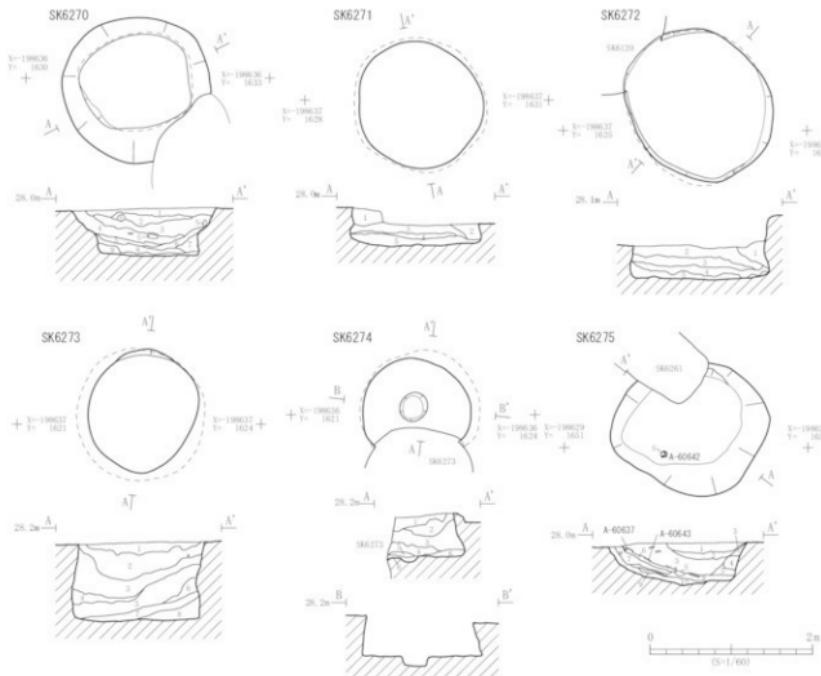
SK6270土坑（第203図、国版64）

第6次調査2区中央のJ-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。南東側の一部が搅乱によって削平されているが平面形は182cm×179cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは59cmである。壁は底面からややオーバーハング気味に立ち上がるが、途中からは外側に向かって

緩やかに開いて立ち上がり、断面形は円筒形～フラスコ状～朝顔形である。堆積土は9層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。

SK6271土坑（第203図、図版64）

第6次調査2区西側中央のJ-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側を除き周囲は土坑によって



参考				
層位	土色	土性	備考	
1	HYR4-1 ～ 2 黄褐色 砂質シルト	V層付近、灰化物を微量含む。		
2	HYR4-2 ～ 3 黄褐色 砂質シルト	V層プロックを多量に含む。		
3	HYR5-2 黄褐色 砂質シルト	V層プロック・灰化物を多量含む。		
4	HYR6-4 黄褐色 粘土質シルト	V層付近多量、灰化物を微量含む。		
5	HYR6-2 黄褐色 粘土質シルト	V層付近・灰化物を微量含む。		
6	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層・プロックを多量に含む。		
7	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近・灰化物を微量含む。		
8	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
9	HYR6-2 黄褐色 粘土質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
1	HYR4-1 ～ 2 黄褐色 粘土質シルト	V層付近上部、灰化物を微量含む。		
2	HYR5-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
3	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
4	HYR6-1 ～ 2 黄褐色 砂質シルト	V層付近灰化物中に集中、V層プロック含む。		
5	HYR6-2 黄褐色 粘土質シルト	V層付近、灰化物を微量含む。		
6	HYR6-4 黄褐色 粘土質シルト	V層付近、灰化物を微量含む。		
7	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
8	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
9	HYR6-2 黄褐色 粘土質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
1	HYR4-1 ～ 2 黄褐色 粘土質シルト	V層付近上部、灰化物を微量含む。		
2	HYR5-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
3	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
4	HYR6-1 ～ 2 黄褐色 砂質シルト	V層付近灰化物中に集中、V層プロック含む。		
5	HYR6-2 黄褐色 粘土質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
6	HYR6-4 黄褐色 粘土質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
7	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
8	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
9	HYR6-2 黄褐色 粘土質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
1	HYR4-1 ～ 2 黄褐色 砂質シルト	V層付近多量、灰化物を微量含む。		
2	HYR5-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
3	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
4	HYR6-1 ～ 2 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
5	HYR6-2 黄褐色 粘土質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
6	HYR6-4 黄褐色 粘土質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
7	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
8	HYR6-4 黄褐色 砂質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		
9	HYR6-2 黄褐色 粘土質シルト	V層付近少量、灰化物を微量含む。		

参考				
層位	土色	土性	備考	
6278	1 HYR4-1 黄褐色 砂質シルト	V層主体。		
2 HYR4-4 黃褐色 砂質シルト	V層主体。			
3 HYR5-1 黄褐色 砂質シルト	V層プロック多量、灰化物を少量含む。			
4 HYR5-4 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を少量含む。			
5 HYR6-1 黄褐色 粘土質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
6279	1 HYR4-1 黄褐色 砂質シルト	V層主体。		
2 HYR4-4 黃褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
3 HYR5-1 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
4 HYR5-4 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
5 HYR6-1 黄褐色 粘土質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
6280	1 HYR4-1 黄褐色 砂質シルト	V層主体。		
2 HYR4-4 黃褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
3 HYR5-1 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
4 HYR5-4 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
5 HYR6-1 黄褐色 粘土質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
6281	1 HYR4-1 黄褐色 砂質シルト	V層主体。		
2 HYR4-4 黃褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
3 HYR5-1 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
4 HYR5-4 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
5 HYR6-1 黄褐色 粘土質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
6282	1 HYR4-1 黄褐色 砂質シルト	V層主体。		
2 HYR4-4 黃褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
3 HYR5-1 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
4 HYR5-4 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
5 HYR6-1 黄褐色 粘土質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
6283	1 HYR4-1 黄褐色 砂質シルト	V層主体。		
2 HYR4-4 黃褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
3 HYR5-1 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
4 HYR5-4 黄褐色 砂質シルト	V層・灰化物を微量含む。			
5 HYR6-1 黄褐色 粘土質シルト	V層・灰化物を微量含む。			

第203図 繩文時代土坑（32）

囲まれている。平面形は157cm×150cmの円形である。底面には若干凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは47cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。

SK6272土坑（第203図、国版65）

第6次調査2区西側中央のJ-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6120土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は193cm×167cmの椭円形で、長軸方向はN-40°-Wである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは79cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器2点が出土し、内1点を第266図に示した。

SK6273土坑（第203図、国版65）

第6次調査2区西側中央のJ-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。南東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6274土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は152cm×134cmの円形である。底面は中央が僅かに高くなっているがほぼ平坦で、検出面からの深さは97cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器34点が出土し、内1点を第266図に示した。

SK6274土坑（第203図）

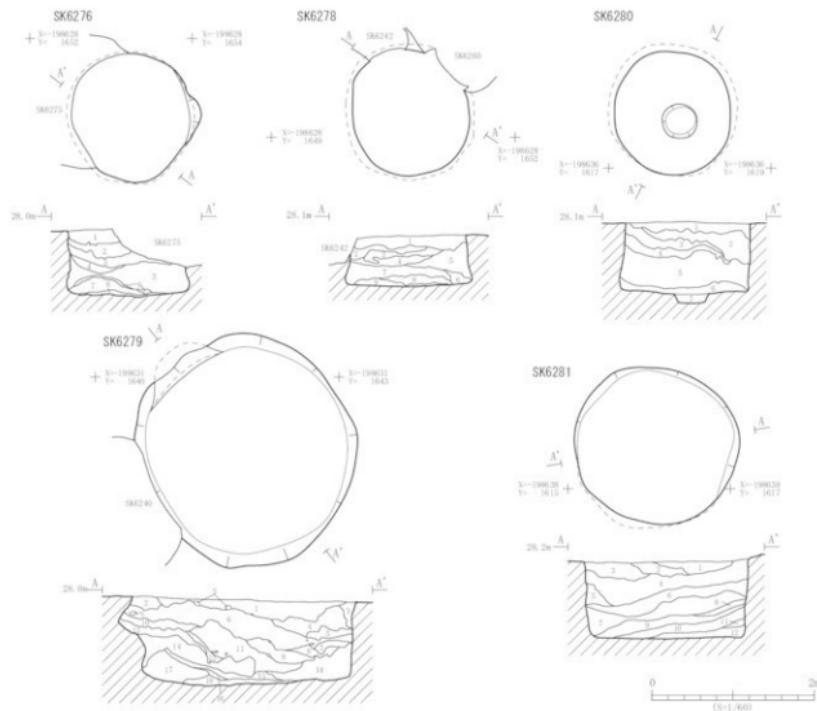
第6次調査2区西側中央のJ-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。南東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6273土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、南側が削平されている。平面形は133cm×85cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは50cmである。底面の中央で36cm×32cm、深さ12cmのピットが検出された。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。

SK6275土坑（第203図、国版65）

第6次調査2区東側北寄りのH-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6261・6276・6297・6302土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6276・6297・6302土坑より新しく、SK6261土坑より古い。平面形は175cm×160cmの円形を基調とするものである。底面は北西側に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは53cmである。西側の壁は底面から緩やかな角度で立ち上がり、それ以外ではやや急角度となっているため、断面形は皿形へ円筒形である。堆積土は人為堆積層とみられ、10層に分層される。5～7層は多量の炭化物粒と多くの遺物が出土し、黒曜石のチップ等も多く認められた。また、底面から胴部下半で打ち割られて底部が残存している。土器（A-60642）が礫で蓋をされたような状態で出土した。この土器は堆積土中から出土した口縁部破片を接合している。なお、この土器内の土壤は水洗して微細遺物の抽出を試みたが、遺物は検出されなかった。堆積土および底面から検出された土器を第267図、石器は石鎚4点、石錐2点、スクレイパー2点、礫石器2点を第317図に示した。

SK6276土坑（第204図、国版66）

第6次調査2区東側北寄りのH-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6275・6297土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6297土坑より新しく、SK6275土坑より古い。重複する遺構により一部削平されているが、平面形は158cm×152cmの円形である。底面は凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは82cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器2点が出土し、内1点を第266図、石器は礫石



	SK	層位	土色	土性	備考
6276	1	HYR1-2	褐色	粘土質	V壁微弱、炭化粒を少量含む。
	2	HYR1-4	褐色	粘土質	V壁薄。
	3	HYR1-2	褐色	シント質粘土	V壁微弱を含む。粘性強い。
	4	HYR1-2	褐色	シント質粘土	V壁微弱を含む。粘性強い。
	5	HYR1-2	灰褐色	シント質粘土	V壁微弱を含む。
	6	HYR1-4	褐色	粘土質	V壁薄を含む。
	7	HYR1-3	灰褐色	粘土質	V壁薄。
	8	HYR1-2	褐色	シント質粘土	粘性強い。V壁薄。
6278	1	HYR2-4	褐色	粘土質	V壁微弱、炭化粒を少量含む。
	2	HYR2-4	褐色	粘土質	V壁薄。
	3	HYR2-4	褐色	粘土質	V壁薄を含む。
	4	HYR1-3	灰褐色	粘土質	V壁微弱多量、炭化粒を少量含む。
	5	HYR1-4	褐色	粘土質	V壁微弱を含む。
	6	HYR2-2	褐色	粘土質	V壁薄。
	7	HYR1-3	灰褐色	粘土質	V壁微弱を含む。
	8	HYR1-4	褐色	砂質	V壁薄。
6279	9	HYR2-2	褐色	粘土質	炭化粒多量。V壁薄。
	1	HYR2-4	褐色	砂質	V壁薄。
	2	HYR2-4	褐色	砂質	V壁薄。
	3	HYR1-3	灰褐色	砂質	V壁薄。
	4	HYR1-4	褐色	砂質	V壁薄。
	5	HYR1-4	褐色	砂質	V壁薄。
	6	HYR1-4	褐色	砂質	V壁薄。
	7	HYR1-4	褐色	砂質	V壁薄。
	8	HYR1-4	褐色	砂質	V壁薄。
	9	HYR1-4	褐色	砂質	V壁薄。

	SK	層位	土色	土性	備考
6280	1	HYR1-4	褐色	砂質	V壁薄。
	2	HYR2-2	褐色	粘土質	V壁微弱。
	3	HYR1-2	褐色	粘土質	V壁微弱を含む。
	4	HYR1-2	褐色	粘土質	V壁薄。
	5	HYR1-2	褐色	粘土質	V壁薄。
	6	HYR2-4	褐色	粘土質	V壁薄。
	7	HYR1-4	褐色	粘土質	V壁薄。
	8	HYR2-2	褐色	粘土質	V壁薄。
6281	9	HYR1-3	灰褐色	砂質	V壁薄。
	1	HYR2-4	褐色	粘土質	V壁薄。
	2	HYR2-4	褐色	粘土質	V壁薄。
	3	HYR2-4	褐色	砂質	V壁薄。
	4	HYR2-4	褐色	砂質	V壁薄。
	5	HYR1-3	灰褐色	砂質	V壁薄。
	6	HYR2-2	褐色	砂質	V壁薄。
	7	HYR1-3	灰褐色	砂質	V壁薄。
	8	HYR1-4	褐色	砂質	V壁薄。
	9	HYR1-3	灰褐色	砂質	V壁薄。
	10	HYR2-2	褐色	粘土質	V壁薄。
	11	HYR2-4	褐色	粘土質	V壁薄。
	12	HYR1-4	灰褐色	砂質	V壁薄。

第204図 繩文時代土坑 (33)

器 2 点を第316図に示した。

SK6278土坑（第204図、国版66）

第6次調査2区東側北寄りのH-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6242・6260土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、北側が一部削平されている。平面形は153cm×143cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは62cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は9層に分層される。遺物は堆積土中から出土しており、石鎚1点を第318図に示した。

SK6279土坑（第204図、国版66）

第6次調査2区東側北寄りのI-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6240土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は275cm×263cmの円形である。底面は凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは108cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は円筒形であるが、北西側では壁の途中でオーバーハングする部分もみられた。堆積土は18層に分層される。遺物は疊石器1点が出土している。

SK6280土坑（第204図、国版66）

第6次調査2区西側中央のJ-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。平面形は151cm×142cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは89cmである。底面の中央や南西寄りでは直径43cm、深さ10cmのピットが検出されている。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は7層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器39点が出土し、内1点を第266図に示した。その他に微細剥離痕のある剥片が1点出土している。

SK6281土坑（第204図、国版66）

第6次調査2区西側中央のJ-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。平面形は200cm×190cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは95cmである。壁は底面からはば垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形は円筒形～フラスコ状である。堆積土は12層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器37点が出土し、内3点を第268図に示した。

SK6282土坑（第205図、国版66）

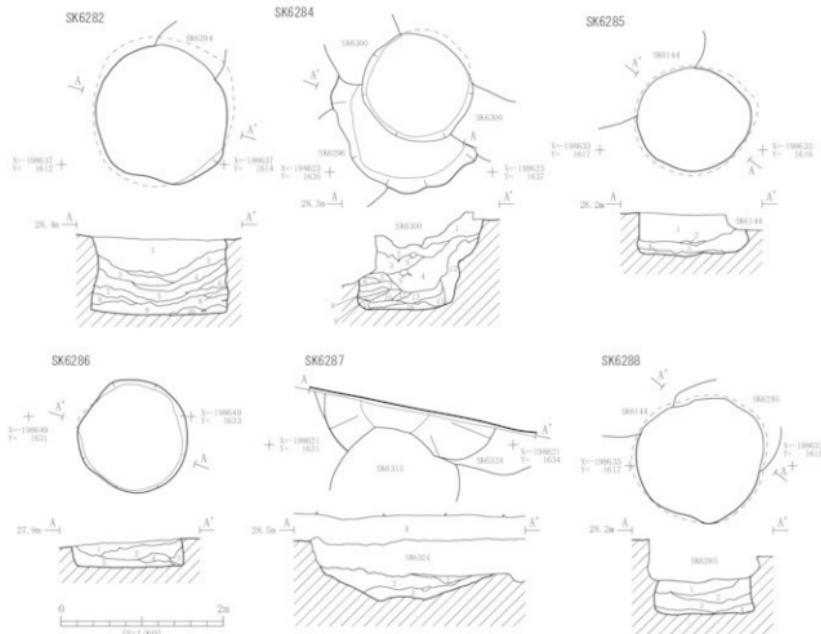
第6次調査1区東側南寄りのJ-16グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6294土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は164cm×158cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは93cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器84点が出土し、内2点を第268図、石器は石鎚1点を第318図に示した。

SK6284土坑（第205図、国版66・124）

第6次調査2区中央北寄りのG-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6296・6300土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、上部は削平されている。平面形は195cm×124cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは120cmである。北東側の壁の立ち上がりは底面からオーバーハングしており、それ以外では底面からはば垂直またはやや開き気味に立ち上がる。南～西側では壁の途中から更に角度が緩やかになって外側に向かって開いて立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形～朝顔形である。堆積土は16層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器26点が出土し、内2点を第268図、石器は石皿1点を第318図に示した。

SK6285土坑（第205図、国版67）

第6次調査2区西側中央のI-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6144・6288・6289土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6288・6289土坑より新しく、SK6144土坑より本遺構が古い。北西側が削平されているが、平面形は138cm×127cmの円形である。底面に凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは51cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はプラスコ状である。堆積土は4層に分層される。遺物は1層を中心に入甕土器64点が出土し、内6点を第259・269図、石



SK	場所	土色	土性	備考
6282	1	HYR4-2 黄土・赤土 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	2	HYR4-4 赤褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	3	HYR4-2 黄土・赤土 砂質シルト	V層板を多量に含む。	
	4	HYR4-4 赤褐色 砂質シルト	V層板。	
	5	HYR4-4 赤褐色 砂質シルト	板・質・薄・V層・ワッフル・炭化粧を少量含む。	
	6	HYR4-4 赤褐色 砂質シルト	V層板。	
	7	HYR4-2 赤褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	8	HYR4-4 赤褐色 砂質シルト	V層板。	
	9	HYR4-2 赤褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	10	HYR4-2 赤褐色 砂質シルト	V層板。	
6284	1	HYR3-2 赤褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	2	HYR4-4 黄褐色 砂質シルト	V層板。	
	3	HYR4-4 赤褐色 砂質シルト	V層板。	
	4	HYR4-4 赤褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	5	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板。	
	6	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	7	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	8	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	9	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	10	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板。	
	11	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	12	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	13	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
6285	1	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	2	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	3	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	4	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	5	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	6	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	7	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	8	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	9	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	10	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板。	
6288	1	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	2	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	3	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	4	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	5	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	6	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	7	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	8	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	9	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	10	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	11	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	12	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	13	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	
	14	HYR4-2 黄褐色 砂質シルト	V層板・炭化粧を少量含む。	

第205図 織文時代土坑（34）

器は石匙1点を第314図に示した。

SK6286土坑（第205図、国版67）

第6次調査2区中央南寄りのL-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側を除き周囲は土坑によって囲まれている。平面形は直径135cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは33cmである。壁は底面から垂直または一部オーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状～円筒形である。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が検出されているが、図化できるものはなかった。

SK6287土坑（第205図）

第6次調査2区中央北寄りのG-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6315・6324・6235土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6325土坑より新しく、SK6315・6324土坑より古い。北側が調査区外であり、重複する遺構により削平されているため全体は不明である。平面形は212cm以上×45cm以上の円形を基調としたものと考えられる。底面にはやや凹凸が認められ中央に向かって緩やかに落ち込み、検出面からの深さは65cmである。壁は底面から外側に開いて立ち上がり、断面形は皿形となっている。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が検出されているが、小片のため図化できるものはない。石器は礫石器1点が出土している。

SK6288土坑（第205図）

第6次調査2区西側中央のI-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6144・6285土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。北側が削平されているが平面形は155cm×152cmの不整な円形である。底面は凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは89cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK6289土坑（第206図）

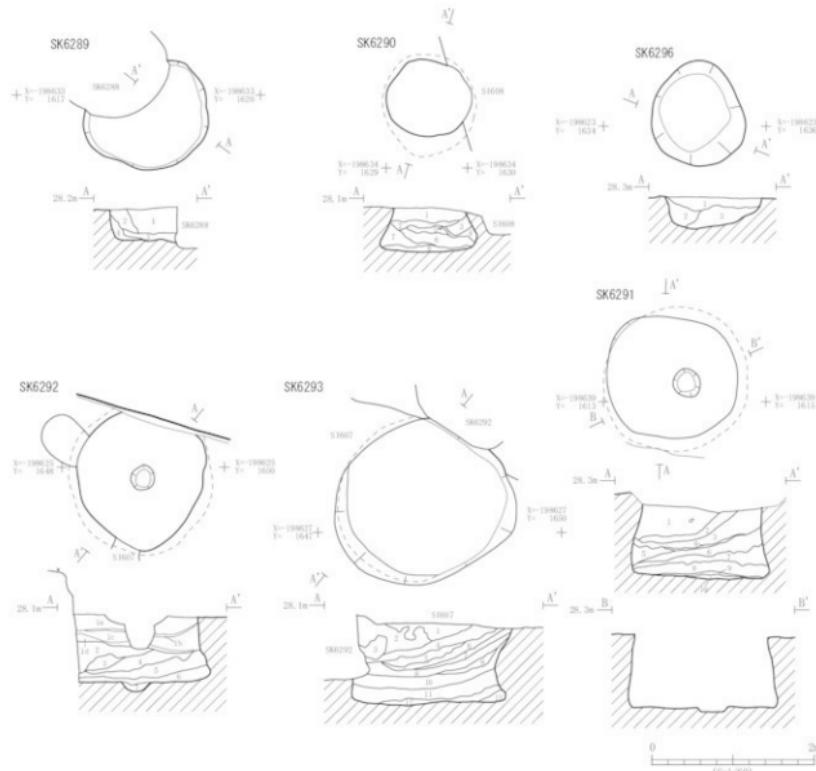
第6次調査2区西側中央のI-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6192・6288土坑と重複関係にあり、SK6288土坑より古く、SK6192より新しい。北西側が削平されているが、平面形は154cm×83cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面には凹凸が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは40cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器18点が出土し、内1点を第268図に示した。その他にスクレイバー1点が出土している。

SK6290土坑（第206図、国版67）

第6次調査2区西側中央のI-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SI608竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が古い。東側が一部削平されているが、平面形は105cm×93cmの不整な円形である。底面は中央に向かって緩やかに傾斜しているがほぼ平坦であり、検出面からの深さは54cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はラスコ状である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器12点が出土し、内1点を第268図に示した。

SK6291土坑（第206図、国版67）

第6次調査1区東側南寄りのJ-16グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は154cm×148cmの不整な円形である。底面は凹凸があるがほぼ平坦で、検出面からの深さは105cmである。底面中央やや東寄りで37cm×31cm、深さ7cmのピットが検出されている。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面はラスコ状である。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器39点が出土し、内1点を第268図に示した。



SK	位別	土色	土性	施 考	SK	位別	土色	土性	施 考
6289	1	新YR3-4 埋蔵	粘土質シルト	V層頂部を少量含む。	1c	DYR3-3 埋蔵	粘土質シルト	1aに類似。	
	2	新YR3-2 埋蔵	粘土質シルト	V層底を微量含む。	1d	DYR3-4 埋蔵	粘土質シルト	V層頂部を多量に含む。1bに類似。	
	3	HYR4-3 にぶい・柔軟	粘土質シルト	V層底段を少量含む。	2	DYR3-3 埋蔵	粘土質シルト	V層プロック・焼化粧粘土を少量含む。	
	4	HYR4-3 にぶい・柔軟	粘土質シルト	V層主体。	3	DYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層頂部を多量に含む。	
6290	1	HYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層・頂部少量含む。	4	DYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層頂部・ブロックを少量含む。	
	2	HYR4-2 柔軟	砂質シルト	V層底段を多量に含む。	5	DYR4-2 柔軟	砂質シルト	V層・底段を含む。	
	3	HYR4-2 柔軟	砂質シルト	V層底段を少量含む。	6	DYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層・頂部を少量含む。	
	4	HYR4-2 柔軟	砂質シルト	V層・ブロックを少量含む。	7	DYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層頂部を少量含む。	
	5	HYR4-2 C-S 柔軟	砂質シルト	V層底段を少量含む。	8	DYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層主体。	
	6	HYR4-2 C-S 柔軟	砂質シルト	V層・ブロックを少量含む。	9	DYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層頂部を多量に含む。	
	7	HYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層主体。	10	DYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層主体。	
	8	HYR4-2 柔軟	砂質シルト	V層・ブロックを少量含む。	11	DYR4-4 柔軟	砂質シルト	V層主体。	
	9	HYR4-2 柔軟	砂質シルト	V層・底段を含む。	12	DYR2-4 埋蔵	粘土質シルト	DY化粧少量・V層ブロックを微量含む。粘性強い。	
6291	10	HYR4-2 C-S 柔軟	砂質シルト	V層底段を微量含む。	13	DYR2-4 埋蔵	粘土質シルト	DY化粧を微量含む。	
	11	HYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層底段・底段を少量含む。	1	DYR2-4 埋蔵	粘土質シルト	V層頂部・底段を微量含む。	
	12	HYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層底段を微量含む。	2	DYR2-4 埋蔵	粘土質シルト	V層頂部・底段を微量含む。	
	13	HYR4-4 埋蔵	砂質シルト	V層頂部・底段を微量含む。	3	DYR3-3 にぶい・柔軟	砂質シルト	V層主体。	
6292	1a	HYR4-4 埋蔵	粘土質シルト	V層頂部を多量に含む。					
	1b	HYR4-4 埋蔵	粘土質シルト	V層頂部を少量含む。					

第206図 繩文時代土坑(35)

SK6292土坑（第206図、国版67）

第6次調査2区東側北寄りのH-G-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側を除き周囲は土坑によって囲まれている。S I 607堅穴住居跡、SK 6293・6303土坑、ピットと重複関係にあり、本遺構はSK 6293土坑より新しく、S I 607堅穴住居跡、SK 6303土坑、ピットより古い。北側の一部が調査区外であるが、平面形は155cm×152cmの円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは84cmである。底面のほぼ中央から31cm×29cm、深さ12cmのピットが検出されている。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は7層に分層される。遺物は堆積土上層を中心に縄文土器63点が出土し、内1点を第268図、石器は石皿1点を第318図に示した。

SK6293土坑（第206図、国版67・68）

第6次調査2区東側北寄りのH-G-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。S I 607堅穴住居跡、SK 6292土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、一部削平されているが、平面形は220cm×190cmの円形を基調とするものである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは100cmである。壁は底面から大きくオーバーハングした後に途中から緩やかに外側へ向かって開いて立ち上がり、断面形はフラスコ状～朝顔形である。堆積土は12層に分層される。遺物は上層から縄文土器8点が出土し、内1点を第268図に示した。

SK6296土坑（第206図）

第6次調査2区中央北寄りのG-H-11・12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK 6298土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は130cm×116cmの南側がやや幅広となる卵形のものである。底面はほぼ平坦であるが北側に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは40cmである。壁は底面から緩やかに開きながら立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器8点が出土し、内1点を第268図に示した。

SK6297土坑（第207図、国版68）

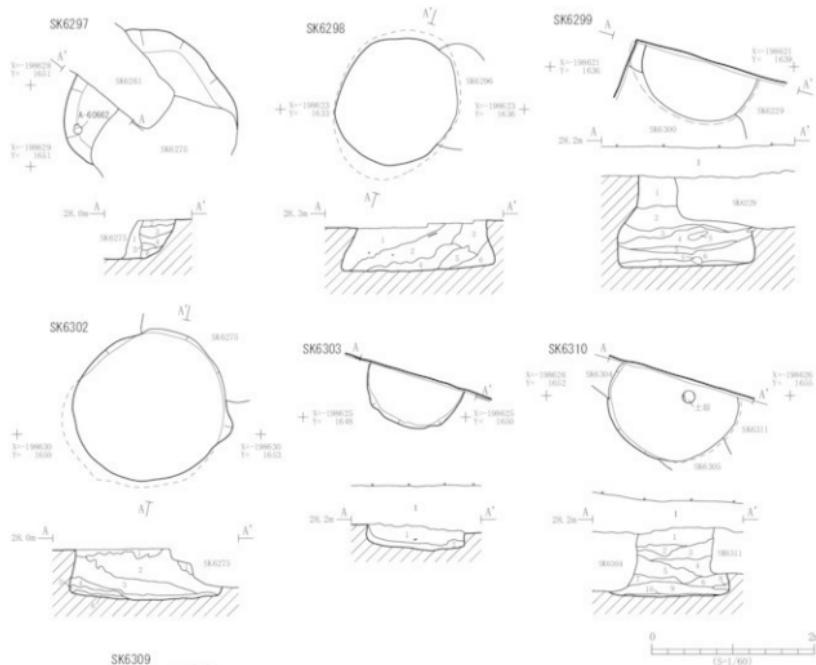
第6次調査2区東側北寄りのH-G-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK 6261・6275・6276土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、大きく削平を受けているが、平面形は196cm×162cm以上の円形または椭円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは47cmである。壁は底面から緩やかに外側へ開きながら立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は人為堆積層と考えられ、6層に分層される。遺物は西側の壁際下層付近から完形の小型壺（A-60662）が1点出土した。なお、この土器内の土壤については水洗確認を行ったが遺物は検出されなかった。土器を第268図に示した。

SK6298土坑（第207図、国版68）

第6次調査2区中央北寄りのG-H-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK 6296土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、東側の一部が削平されているが、平面形は160cm×141cmの椭円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは61cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器35点が出土し、内1点を第270図に示した。

SK6299土坑（第207図）

第6次調査2区中央北寄りのG-H-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK 6229・6300土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、大きく削平されており、また北側は調査区外であるため全体は不明である。平面形は直径143cmの円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、調査区北壁の土層断面では検出面からの深さは111cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は7層に分層され、中～下層で疊が検出されている。遺物は堆積土中から縄文土器9点



0
(5-1, 60)
2m

SK	位相	土 色	土 性	備 考
6299	1	HYRE-3 黄褐色	粘土質シルト	V型側壁式土坑。
	2	HYRE-3 こい葉面	砂質シルト	V型側壁少量、炭化粒を微量含む。
	3	HYRE-4 黄褐色	粘土質シルト	V型側壁、炭化粒を少量含む。
	4	HYRE-4 黄褐色	粘土質シルト	V型側壁、炭化粒を微量含む。
	5	HYRE-2 黄褐色	粘土質シルト	V型側壁を少量含む。
	6	HYRE-2 こい葉面	粘土質シルト	V型側壁を微量含む。
6302	1	HYRE-3 黄褐色	粘土質シルト	V型側壁少量、炭化粒を微量含む。
	2	HYRE-3 黄褐色	砂質シルト	V型側壁を微量含む。
	3	HYRE-3 こい葉面	砂質シルト	炭化粒を微量含む。
	4	HYRE-2 黑褐色	粘土質シルト	V型側壁・炭化粒を微量含む。
	5	HYRE-2 黑褐色	粘土質シルト	V型側壁を微量含む。
	6	HYRE-2 黑褐色	粘土質シルト	V型側壁を微量含む。
6303	1	HYRE-1 黄褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	2	HYRE-1 黄褐色	砂質シルト	V型側壁少量、炭化粒を微量含む。
	3	HYRE-1 黄褐色	砂質シルト	V型側壁少量、炭化粒を微量含む。
	4	HYRE-1 黄褐色	砂質シルト	V型側壁少量、炭化粒を微量含む。
	5	HYRE-1 黄褐色	砂質シルト	V型側壁少量、炭化粒を微量含む。
	6	HYRE-1 黄褐色	砂質シルト	V型側壁少量、炭化粒を微量含む。
6309	1	HYRE-3 黄褐色	粘土質シルト	V型側壁少量、V型側壁少量含む。
	2	HYRE-1 黄褐色	シルト	V型土壁、炭化粒を微量含む。
	3	HYRE-1 黄褐色	粘土質シルト	V型側壁・炭化粒少量、粘土土を微量含む。
	4	HYRE-1 黄褐色	シルト	V型側壁少量、V型側壁少量含む。
	5	HYRE-1 黄褐色	シルト	V型側壁少量、V型側壁少量含む。
	6	HYRE-1 黄褐色	シルト	V型側壁少量、V型側壁少量含む。
6310	1	HYRE-3 黄褐色	粘土質シルト	V型側壁少量、炭化粒を微量含む。
	2	HYRE-3 黄褐色	シルト	V型土壁、炭化粒を微量含む。
	3	HYRE-3 黄褐色	粘土質シルト	V型側壁少量、炭化粒を微量含む。
	4	HYRE-3 黄褐色	シルト	V型側壁少量、V型側壁少量含む。
	5	HYRE-3 黄褐色	粘土質シルト	V型側壁少量、V型側壁少量含む。
	6	HYRE-3 黄褐色	シルト	V型側壁少量、V型側壁少量含む。

第207図 繩文時代土坑 (36)

が出土し、内2点を第270図に示した。

SK6302土坑（第207図、国版68）

第6次調査2区東側北寄りH-I-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6275土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、北東側が削平されているが、平面形は190cm×181cmの円形である。底面は中央が緩やかに落ち込んでいるがほぼ平坦で、検出面からの深さは53cmである。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形は円筒形～フラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器23点が出土し、内2点を第270図、石器はスクレイバー1点を第318図に示した。

SK6303土坑（第207図）

第6次調査2区東側北寄りのG-9グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6292土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。北側は調査区外となり全体は不明であるが、平面形は直径120cmの円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦であるが東側に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは32cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK6309土坑（第207図、国版68）

第6次調査2区西側中央のJ-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SX640風倒木痕と重複関係にあり、遺本構が古く、一部削平されている。平面形は150cm×145cmの円形である。底面は中央が緩やかに窪んでいるが概ね平坦で、検出面からの深さは82cmである。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングしながら立ち上がっており、断面形は円筒形～フラスコ状である。堆積土は8層に分層され、人為堆積層とみられる。遺物は堆積土中から縄文土器34点が出土し、内1点を第270図、石器は礫石器1点を第318図に示した。

SK6310土坑（第207図）

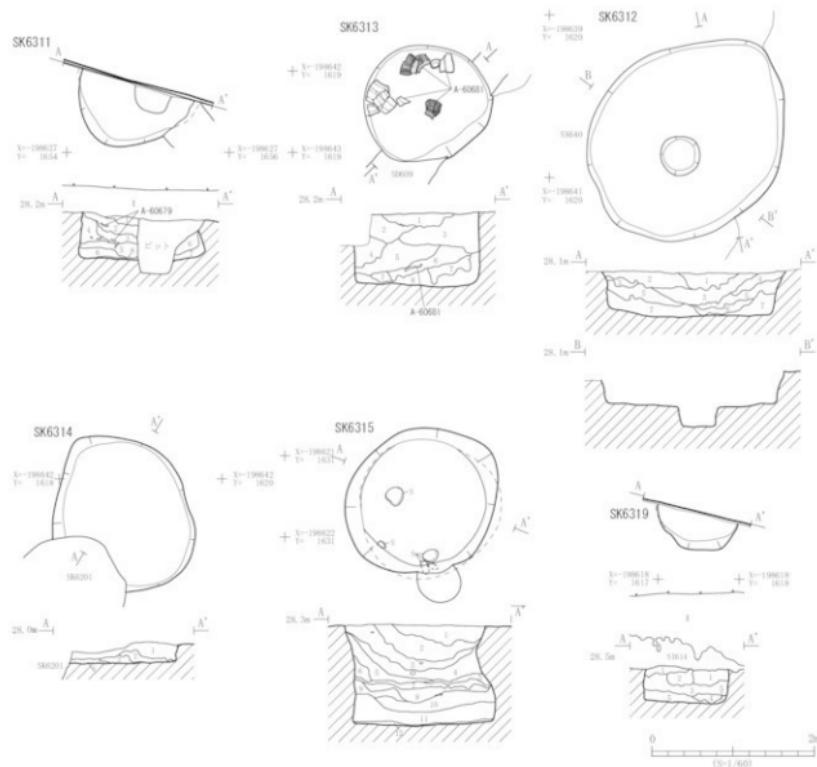
第6次調査2区東側北寄りのH-8グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6304・6305・6311土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、南西側の一部以外の開口部は削平されている。北側が調査区外であるが、平面形は直径約160cmの円形基調としたものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは84cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分層される。遺物は底面中央や東側の位置で、二次焼成を受けて内外面ともに赤変して荒れた状態の縄文土器の深鉢底部破片が出土しているが、残存状況が悪く図化はしていない。

SK6311土坑（第208図）

第6次調査2区東側北寄りのH-7・8グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6310土坑、ピットと重複関係にあり、本遺構はSK6310土坑より新しく、ピットより古い。北側が調査区外のため全体は不明であるが、平面形は直径約137cmの円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは58cmである。壁は底面からほぼ垂直またはオーバーハングして立ち上がり、断面形は円筒形～フラスコ状である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器17点が出土し、内2点を第273図に示した。

SK6312土坑（第208図、国版68）

第6次調査2区西側南寄りのK-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。SD609溝跡・SX640風倒木痕と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は280cm×227cmの橢円形で、長軸方向はN-42°-Eである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは54cmである。底面の中央から直径48cm、深さ23cmのピットが検出されている。壁は底面からやや開いて立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は人為堆積層とみられ、7層に分層される。遺物は上層から底部を欠いた深鉢と浅鉢が2個並んだ状態で出土し、その他に縄文土器177点が出土した。内4点を第



SK	總位	土	色	土性	備考	SK	總位	土	色	土性	備考					
6311	1	HYR4-4	粘土	粘土質シルト	V層繩紋少量、炭化粒を微量含む。	6318	1	DYR4-4	泥	シルト	V層土体。	1	DYR4-4	泥	シルト	V層土体。
	2	HYR4-3	粘土	粘土質シルト	V層繩紋少量、炭化粒を微量含む。		2	DYR4-3	泥	シルト	V層土シルト。	2	DYR4-3	泥	シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。
	3	HYR4-2	粘土	粘土質シルト	V層繩紋少量、炭化粒を微量含む。		3	DYR4-2	泥	シルト	V層土体。	3	DYR4-2	泥	シルト	V層ブロック・炭化粒を微量含む。
	4	HYR4-2	粘土	粘土質シルト	V層繩紋・炭化粒を微量含む。		4	DYR4-2	泥	シルト	V層ブロック・炭化粒を微量含む。	4	DYR4-2	泥	シルト	V層ブロック・炭化粒を微量含む。
	5	HYR2-4	黒泥	粘土質シルト	V層ブロック・炭化粒を微量含む。		5	DYR4-4	泥	シルト	V層繩紋少量、炭化粒を微量含む。	5	DYR4-4	泥	シルト	V層繩紋少量、炭化粒を微量含む。
	6	HYR2-4	粘土	粘土質シルト	V層繩紋を微量含む。		6	DYR4-2	泥	シルト	V層土シルト。	6	DYR4-2	泥	シルト	V層ブロック・炭化粒を微量含む。
	7	HYR2-4	粘土	粘土質シルト	V層繩紋少量、炭化粒を微量含む。		7	DYR2-2	泥	シルト	V層土体。	7	DYR2-2	泥	シルト	V層ブロック・炭化粒を微量含む。
	8	HYR2-2	黒泥	粘土質シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。		8	DYR2-2	泥	シルト	V層土体。	8	DYR2-2	泥	シルト	V層ブロック多量、炭化粒を微量含む。
6312	1	HYR4-4	泥	シルト	V層ブロック多量、炭化粒を微量含む。	6315	1	DYR4-4	泥	シルト	V層土体。	1	DYR4-4	泥	シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。
	2	HYR4-4	粘土	粘土質シルト	V層繩紋少量、炭化粒を微量含む。		2	DYR4-3	泥	シルト	V層土体。	2	DYR4-3	泥	シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。
	3	HYR4-4	泥	シルト	V層繩紋少量。		3	DYR4-3	泥	シルト	V層土体。	3	DYR4-3	泥	シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。
	4	HYR4-2	粘土	粘土質シルト	V層繩紋・炭化粒を微量含む。		4	DYR4-2	泥	シルト	V層土体。	4	DYR4-2	泥	シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。
	5	HYR2-2	粘土	粘土質シルト	V層繩紋少量、炭化粒を微量含む。		5	DYR4-4	泥	シルト	V層土体。	5	DYR4-4	泥	シルト	V層繩紋多量、炭化粒を微量含む。
	6	HYR2-2	粘土	粘土質シルト	V層繩紋多量、炭化粒を微量含む。		6	DYR4-4	泥	シルト	V層土体。	6	DYR4-4	泥	シルト	V層土体。
	7	HYR4-4	泥	シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。		7	DYR4-4	泥	シルト	V層土体。	7	DYR4-4	泥	シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。
6313	1	HYR4-4	粘土	粘土質シルト	V層ブロック多量、炭化粒を微量含む。		8	DYR4-2	泥	シルト	V層土体。	8	DYR4-2	泥	シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。
	2	HYR4-4	泥	シルト	V層ブロック・アース。		9	DYR4-3	泥	シルト	V層土シルト。	9	DYR4-3	泥	シルト	V層ブロック・アース。
	3	HYR4-4	粘土	粘土質シルト	V層ブロック・アース。		10	DYR4-2	泥	シルト	V層土シルト。	10	DYR4-2	泥	シルト	V層ブロック多量、炭化粒を微量含む。
	4	HYR4-4	粘土	粘土質シルト	V層ブロック・アース。		11	DYR4-4	泥	シルト	V層土体。	11	DYR4-4	泥	シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。
	5	HYR4-4	泥	シルト	V層ブロック・アース。		12	DYR2-2	泥	シルト	V層土体。	12	DYR2-2	泥	シルト	V層土を少量含む、粘性強い。
	6	HYR4-4	泥	シルト	V層ブロック多量、炭化粒を微量含む。		1	DYR4-4	泥	シルト	V層ブロック・アース。	1	DYR4-4	泥	シルト	V層ブロック・アース。
	7	HYR4-4	粘土	粘土質シルト	V層ブロック多量、炭化粒を微量含む。		2	DYR4-3	泥	シルト	V層ブロック・アース。	2	DYR4-3	泥	シルト	V層ブロック・アース。
	8	HYR4-4	泥	シルト	V層ブロック少量、炭化粒を微量含む。		3	DYR4-2	泥	シルト	V層土シルト。	3	DYR4-2	泥	シルト	V層ブロック・アース。

第208図 繩文時代土坑 (37)

271・272図、石器は礫石器1点を第318図に示した。

SK6313土坑（第208図、国版69）

第6次調査2区西側南寄りのK-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。S D609溝跡と重複関係にあり、本遺構が古く、一部削平されているが、平面形は155cm×144cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは99cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土はV層ブロックを含む人為堆積層とみられ、8層に分層される。遺物は底面から繩文土器の大型破片（A-60681）が多数検出されており、接合の結果、同一個体であることが判明した。第273図3（A-60681）は口縁部下にくぐれを有して胴部が膨らんだ深鉢形の器形、外面には縦線の条線文が口縁部から胴部下半まで施されている。遺物は堆積土中から繩文土器が出土し、40点中3点を図化した。その他に礫石器1点が出土している。

SK6314土坑（第208図）

第6次調査2区西側南寄りのK-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。S K6201土坑とS X640風倒木痕と重複関係にあり、本遺構が古く、南西側の一部が削平されているが、平面形は198cm×170cmの楕円形で、長軸方向はN-26°-Wである。底面は凸凹が認められるがほぼ平坦で、検出面からの深さは23cmである。壁は底面からほぼ垂直へやや開き気味に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK6315土坑（第208図、国版69）

第6次調査2区中央北寄りのG-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。S K6287・6324・6325土坑、ピットと重複関係にあり、本遺構はS K6287・6324・6325土坑より新しく、ピットより古い。南側が一部削平されているが、平面形は202cm×175cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは123cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層とみられ、12層に分層される。また、底面から10～20cmの礫5個が検出された。遺物は堆積土中から繩文土器2点が出土し、第273図に示した。

SK6319土坑（第208図）

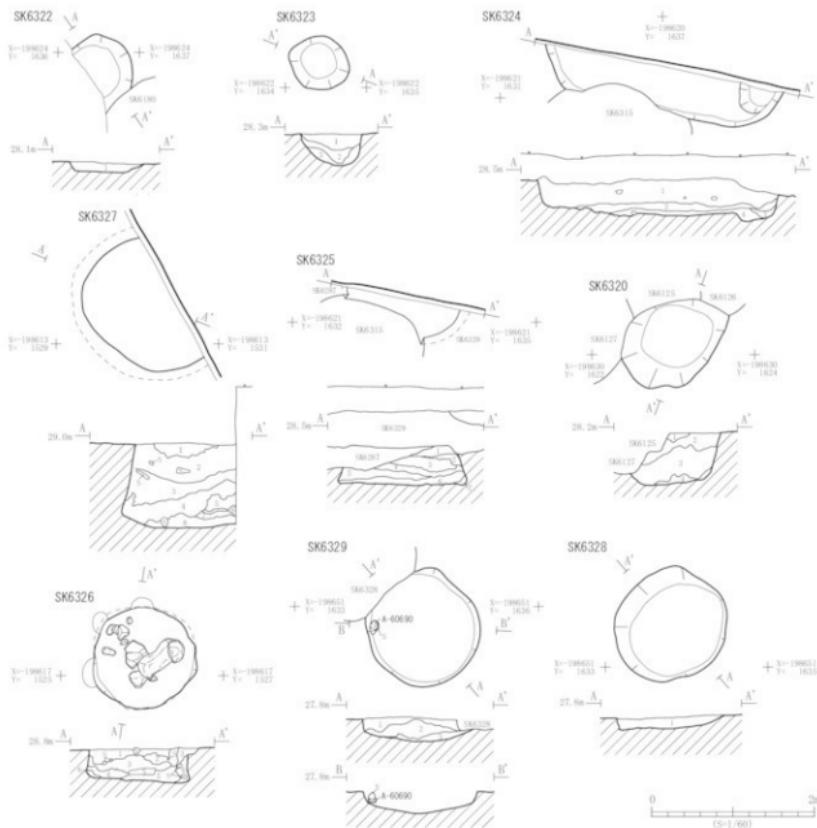
第6次調査2区西側北寄りのF-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。S I 614堅穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が古い。北側が調査区外のために全体は不明であるが、平面形は直径100cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは54cmである。壁は底面からやや急角度で立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は5層に分層される。遺物は出土していない。

SK6320土坑（第209図）

第6次調査2区西側北寄りのH-14グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。S K6125～6127土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、北側部分が削平されている。平面形は138cm以上×125cmの楕円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦であるが北側に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは77cmである。壁は底面からやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK6322土坑（第209図）

第6次調査2区中央北寄りG-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。S K6180土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。搅乱によって西側が大きく削平されているために全体は不明であるが、平面形は92cm以上×52cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは12cmである。壁は底面から緩やかに開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



SK	層位	土色	土性	備考
6320	1 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、炭化粒を微量含む。	
	2 HYR0-4 埋蔵	シルト	V層 1体。	
	3 HYR0-2 埋蔵	シルト	V層 プロック多量、炭化粒を微量含む。	
	4 HYR0-2 埋蔵	シルト	V層 プロック1体。	
6322	1 HYR0-2 埋蔵	砂質シルト	V層 多量、炭化粒を微量含む。	
	2 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 多量、炭化粒を微量含む。	
	3 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 多量、炭化粒を微量含む。	
	4 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、V層 プロックを含む。	
6323	1 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 多量、炭化粒を微量含む。	
	2 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 1体。	
	3 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、炭化粒を微量含む。	
	4 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、V層 褐鐵鉄を含む。	
6324	1 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、V層 褐鐵鉄を含む。	
	2 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 1体。	
	3 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、V層 褐鐵鉄を含む。	
	4 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、V層 褐鐵鉄を含む。	
6325	1 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、炭化粒を微量含む。	
	2 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 1体。	
	3 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、炭化粒を微量含む。	
	4 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、V層 1体。	
6326	1 HYR0-1 埋蔵	粘土質シルト	V層 多量、炭化粒を微量含む。	
	2 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 多量、炭化粒を微量含む。	
	3 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 多量、炭化粒を微量含む。	
	4 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、V層 褐鐵鉄を含む。	
	5 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、V層 褐鐵鉄を含む。	
	6 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、V層 褐鐵鉄を含む。	
	7 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロック少量、V層 1体。	

SK	層位	土色	土性	備考
6327	1 HYR0-3 埋蔵	粘土質シルト	球状土塊と、熱土粒を微量含む。	
	2 HYR0-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 プロックを少量含む。	
	3 HYR0-2 黒褐色	シルト	V層 1体。	
	4 HYR0-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む、熱性強い。	
	5 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 褐鐵鉄を少量含む、熱土粒を微量含む。	
	6 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを少量含む。	
	7 HYR0-5 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを多量に含む。	
6328	1 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	球状土塊と、熱土粒を微量含む。	
	2 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを少量含む。	
	3 HYR0-4 埋蔵	シルト	V層 1体。	
	4 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
	5 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。	
	6 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを多量に含む。	
	7 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを多量に含む。	
6329	1 HYR0-2 埋蔵	粘土質シルト	球状土塊と、熱土粒を微量含む。	
	2 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを少量含む。	
	3 HYR0-2 黒褐色	シルト	炭化粒を少量含む、V層 プロックを含む。	
	4 HYR0-2 黒褐色	粘土質シルト	V層 褐鐵鉄を少量含む。	
	5 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを少量含む。	
	6 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 1体。	
	7 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを少量含む。	
6330	1 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	球状土塊と、熱土粒を微量含む。	
	2 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを少量含む。	
	3 HYR0-4 埋蔵	シルト	V層 1体。	
	4 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。	
	5 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。	
	6 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 1体。	
	7 HYR0-4 埋蔵	粘土質シルト	V層 プロックを微量含む。	

第209図 繩文時代土坑 (38)

SK6323土坑（第209図）

第6次調査2区中央北寄りのG-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は77cm×66cmの円形である。底面は中央部分に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは38cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器1点が出土し、第273図に示した。

SK6324土坑（第209図）

第6次調査2区中央北寄りのG-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6287・6300・6315・6325土坑と重複関係にあり、本遺構はSK6287・6325土坑より新しく、SK6300・6315土坑より古い。南側は重複する遺構によって削平されており、北側は調査区外であることから全体は不明である。平面形は295cm以上×60cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は若干凹凸が認められるが概ね平坦で、検出面からの深さは43cmである。底面の東壁際で47cm×32cm、深さ12cmの落ち込みが認められた。壁は底面からやや外側に開いて立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器42点が出土し、内土器2点および土製品では土偶を第274図、石器はスクレイバー1点を第319図に示した。

SK6325土坑（第209図）

第6次調査2区中央北寄りのG-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6287・6315・6324土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。開口部分の大半が削平されており、北側も調査区外であることなどから全体は不明である。平面形は141cm×45cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面には凹凸が認められるが概ね平坦で、検出面からの深さは70cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は7層に分層される。遺物は出土していない。

SK6326土坑（第209図、図版70）

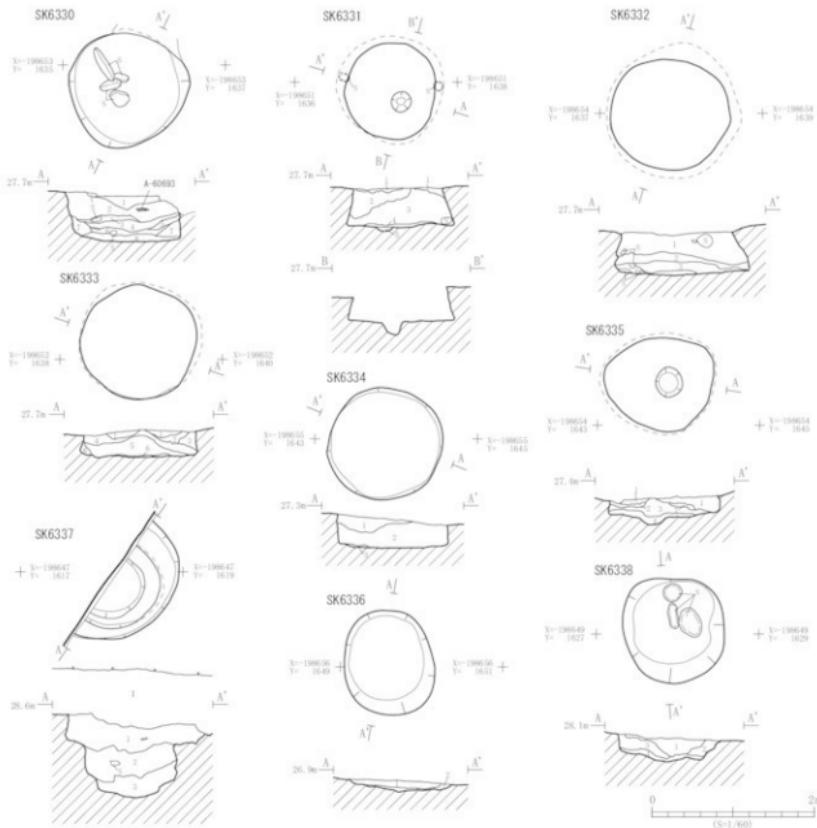
第6次調査3区中央のF-33グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にS1613堅穴住居跡が存在している。平面形は127cm×125cmの円形である。底面はほぼ平坦で緩やかに北側に向かって傾斜し、検出面からの深さは40cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。底面中央から北西の中層から下層にかけて40cm程の大型の礫を中心に礫がまとった状態で検出された。遺物は堆積土中から縄文土器24点が出土し、内1点を第274図、石器はスクレイバー1点、石皿1点を第319図に示した。

SK6327土坑（第209図）

第6次調査3区北寄りのE-32・33グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK7983土坑、南西側にSK6326土坑が存在している。北東側が調査区外であるため全体は不明であるが、平面形は直径123cmの円形を基調とするものと考えられる。底面は中央付近に向かって緩やかに傾斜するがほぼ平坦で、検出面からの深さは103cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は8層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器25点が出土し、内2点を第274図、石器は礫石器1点を第320図に示した。

SK6328土坑（第209図、図版70）

第6次追加調査区中央のL・M-12グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側を除いて周囲は土坑によつて囲まれている。SK6329土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は142cm×138cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは13cmである。壁は底面から外側に開きながら緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土の単層である。遺物は堆積土中から縄文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。石器は二次加工のある剥片2点が出土している。



SK	層位	土色	土性	参考	SK	層位	土色	土性	参考
6330	1	HYR0-2 黒褐色	粘土	灰白色多量、灰白色微量、V層ブロック、鐵錫合む。	4	HYR0-4 黏土	粘土	V層ブロック、鐵錫を多量に含む。2層に類似。	
	2	HYR0-4 黑	シント質粘土	V層土体。	5	HYR0-5 黄褐色	シルト	V層ブロック2件。	
	3	HYR0-2 黒褐色	粘土	灰白色多量、V層鐵錫合む。	6	HYR0-4 黏土	粘土	V層シルト土。	
	4	HYR0-3 黑	砂質粘土	砂質土体。	7	HYR0-4 黑褐色	シルト	V層ブロック多量。	
	5	HYR0-4 黑	シルト	V層土体。	8	HYR0-4 黑褐色	シルト質粘土	V層ブロック2件。	
	6	HYR0-2 黑褐色	シルト質粘土	灰白色多量、V層鐵錫合む。	9	HYR0-4 黑褐色	シルト	V層土体。	
	7	HYR0-4 黑	シルト	V層鐵錫合む。	10	HYR0-4 黑褐色	シルト質粘土	V層ブロック多量、灰白色多量含む。	
	8	HYR0-3 黑褐色	シルト質粘土	V層鐵錫土体。	11	HYR0-4 黑褐色	粘土	V層ブロック多量、灰白色多量含む。	
6331	1	HYR0-4 黑褐色	粘土	V層ブロック多量、原化鉱を微量含む。	12	HYR0-5 黑褐色	シルト	V層ブロック、黒土を微量含む。	
	2	HYR0-5 黑	粘土	V層土体、原化鉱を微量含む。	13	HYR0-4 黑褐色	粘土	砂泥多量、灰白色を微量含む。	
	3	HYR0-4 黑褐色	粘土質シルト	V層土体。	14	HYR0-4 黑褐色	粘土	砂泥多量、V層土体。	
	4	HYR0-2 黑褐色	粘土	V層鐵錫多量、灰白色を微量含む。	15	HYR0-4 黑褐色	粘土	原化鉱を少量含む。層下部にV層ブロック集中。	
6332	1	HYR0-5 黑	シルト	V層ブロック多量、原化鉱を少量含む。	16	HYR0-4 黑褐色	粘土	原化鉱を少量含む。	
	2	HYR0-2 黑褐色	シルト質粘土	V層鐵錫少量、灰白色を微量含む。	17	HYR0-4 黑褐色	粘土	V層シルト。	
	3	HYR0-3 黑褐色	粘土	V層鐵錫多量、灰白色を微量含む。	18	HYR0-4 黑褐色	粘土	V層ブロック多量、原化鉱・粘土を微量含む。	
6333	1	HYR0-5 黑	シルト	V層ブロック土体。	19	HYR0-5 黑褐色	粘土	明黄色砂ブロック含む。	
	2	HYR0-2 黑褐色	粘土	V層鐵錫多量、灰白色を微量含む。	20	HYR0-5 黑褐色	シルト質粘土	黄褐色砂ブロックを多量に含む。	
	3	HYR0-4 黑	粘土質シルト	V層鐵錫を多量に含む。					

第210図 繩文時代土坑 (39)

SK6329土坑（第209図、国版70）

第6次追加調査区東側のM-12・13グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。SK6328土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。北西側は重複する遺構により一部削平されているが、平面形は139cm×134cmの円形である。底面はほぼ平坦であるが中央が緩やかに落ち込み、検出面からの深さは29cmである。壁は底面からほぼ垂直あるいは若干外側へ開き気味に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は3層に分層される。遺物は底面の西壁際で繩文土器の台付土器部が蓋をされた状態で出土した。土器内の土塊は水洗確認を行ったが遺物は検出されなかった。他の遺物は1層から繩文土器1点が出土し、土器を第274図（A-60690）に示した。その他に石錐1点が出土している。

SK6330土坑（第210図、国版70）

第6次追加調査区中央のM-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側を除き周囲は土坑によって囲まれている。SK6341土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は143cm×141cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは57cmである。壁は底面からオーバーハングまたは若干外側に開き気味に立ち上がり、断面形はフラスコ状～円筒形である。堆積土は8層に分層される。底面中央～北西側から礫が集中して検出された。遺物は堆積土中から繩文土器2点が出土し、土器を第274図、石器は礫石器4点を第320図に示した。

SK6331土坑（第210図、国版70）

第6次追加調査区中央のM-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は119cm×110cmの円形である。底面は凹凸が見られるがほぼ平坦で、検出面からの深さは48cmである。底面の中央やや南東で直径25cm、深さ17cmのピットが検出されている。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は5層に分層され、底面の東西の壁際からは礫が検出されている。遺物は出土していない。

SK6332土坑（第210図、国版71）

第6次追加調査区中央のM-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。平面形は145cm×137cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは52cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層と考えられ、4層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、器面の摩滅が激しく図化できるものはない。石器はスクレイバー1点が出土している。

SK6333土坑（第210図、国版71）

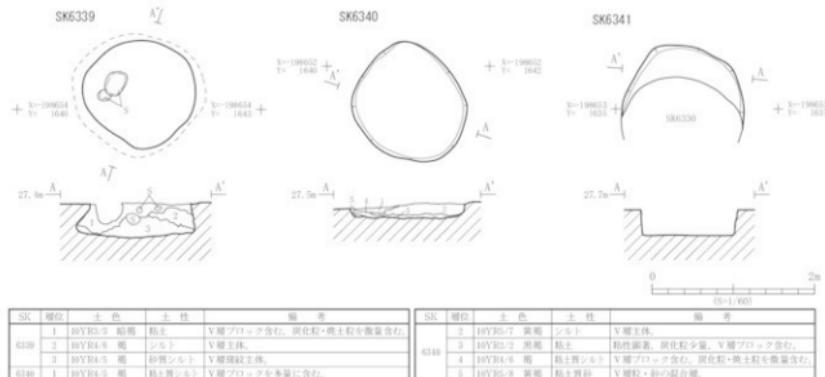
第6次追加調査区中央のM-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は140cm×138cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは33cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、器面の摩滅が激しく図化できるものはない。

SK6334土坑（第210図、国版71）

第6次追加調査区中央のM-N-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6335土坑、北西にはSK6339土坑が存在している。平面形は直径138cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは42cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器1点が出土しているが、小片のため図化できなかった。

SK6335土坑（第210図、国版71）

第6次追加調査区中央のM-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側を除いて周囲は土坑によって囲まれている。平面形は134cm×118cmの不整な梢円形である。底面は凹凸が認められるが概ね平坦で、検出面からの



第211図 繩文時代土坑（40）

深さは24cmである。底面の中央で37cm×33cm、深さ9cmのピットが検出されている。壁は底面から若干オーバーハングしながら立ち上がっており、断面形はフラスコ状である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK6336土坑（第210図）

第6次追加調査区東端のN-9グリッドに位置し、VI層で検出された。平面形は130cm×110cmの南側がやや広がる卵形であり、長軸方向はN-10°-Wである。底面がVI層であることから凹凸が認められるがほぼ平坦で中央に向かって緩やかに傾斜し、検出面からの深さは9cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK6337土坑（第210図、図版71）

第6次追加調査区西側のL-15グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK6201土坑、西側にはSK6058土坑が存在している。西側が調査区外となるため全体は不明であるが、平面形は110cm×58cm以上の円形を基調としたものと考えられる。底面には凹凸が認められ、中央が最も深くなっていることから、調査区壁の土層断面の観察では検出面からの深さは72cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっており、壁の途中では2段のテラス状の平坦部を有して緩やかに開いて立ち上がる。断面形は円筒形へ朝顔形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、図化できるものはない。

SK6338土坑（第210図、図版72）

第6次追加調査区西側のL-13グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側にSK6163土坑が存在している。平面形は129cm×124cmの不整な円形である。底面がVI層であることから凹凸が認められ、検出面からの深さは28cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は4層に分層される。また、底面中央から北側で疊3個が検出されている。遺物は堆積土中から繩文土器が出土しているが、小片のため図化できるものはない。

SK6339土坑（第211図、図版72）

第6次追加調査区東側のM-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側を除き周囲は土坑によって囲まれている。平面形は138cm×128cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは42cmである。壁は底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は3層に分層される。また、底面中央の西寄りで疊2個が検出されている。遺物は出土していない。

SK6340土坑（第211図、国版72）

第6次追加調査区東側のM-10グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。平面形は145cm×130cmの不整な円形である。底面はM層であるが概ね平坦で、検出面からの深さは18cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は5層に分層される。遺物は出土しなかった。

SK6341土坑（第211図）

第6次追加調査区中央のM-11グリッドに位置し、V層上面で検出された。周囲は土坑によって囲まれている。SK6330土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、南側が大きく削平されているため全体は不明である。平面形は140cm×120cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは23cmである。壁は底面からやや急に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は黄褐色シルトが主体であり、底面付近には暗褐色粘土質シルトが薄く堆積していた。遺物は出土していない。

SK7001土坑（第212図、国版73）

第7次調査1区東側北寄りのE-34グリッドに位置し、N層上面で検出された。SK7006土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は123cm×118cmの不整な円形である。底面は概ね平坦で、検出面からの深さは13cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は炭化物粒を含み2層に分層される。遺物は1層から縄文土器10点が出土し、内1点を第275図に示した。その他に疊石器1点等が出土している。

SK7002土坑（第212図、国版73）

第7次調査1区中央北寄りのD-42・43グリッドに位置し、N層上面で検出された。北側にはSK7004土坑が存在する。平面形は179cm×167cmの不整梢円形で、検出面からの深さは24cmである。底面は凹凸があるがほぼ平坦で、壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体とするもので2層に分層され、底面の北西側から直径37cm、幅16cmの礫が検出されている。遺物は堆積土中から縄文土器13点が出土し、内1点を第275図に示した。その他に疊石器1点が出土している。

SK7003土坑（第212図）

第7次調査1区中央北寄りのD-41グリッドに位置し、III層上面で検出された。S1707竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は144cm×90cmの梢円形で、長軸方向はN-9°-Eである。検出面からの深さは15cmで、底面は東側に向かって緩やかに傾斜している。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は1層から縄文土器4点が出土し、内1点を第275図に示した。その他に疊石器1点が出土している。

SK7004土坑（第212図、国版73）

第7次調査1区中央北寄りのD-42・43グリッドに位置し、N層上面で検出された。南側にはSK7002土坑が存在する。平面形は149cm×117cmの梢円形である。底面に段を有しており、検出面からの深さは16cmであるが中央付近は更に15cm程度下がっている。壁は底面から外側に開いて立ち上がり断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルト層を主体にしてV層粒やブロックを含んでおり3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器24点が出土し、内1点を第275図に示した。

SK7005土坑（第212図、国版73）

第7次調査1区中央南寄りのF-G-43グリッドに位置し、N層上面で検出された。北側にSX702埋設土器が存在する。北側の一部が複乱により削平されているが、平面形は145cm×95cmの梢円形であり、長軸方向はN-14°-Wである。底面は凹凸があるがほぼ平坦で、検出面からの深さは20cmである。壁は底面から開き気味に立ち上がり断面形は皿形である。堆積土は3層に分層され、1層には小礫が混入している。遺物では中央からやや南寄りの位置から直径30cmの礫が出土し、また南西の壁際では胴部上半を欠く深鉢（A-70375）が伏せた状態で出土した。

他の遺物は堆積土上層を中心に繩文土器96点が出土し、4点を第275図、石器は石錐1点を第321図に示した。

SK7006土坑（第212図、国版74）

第7次調査1区中央北寄りのE-34グリッドに位置し、N層上面で検出された。SK7001土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。南東側が削平されているが平面形は、123cm以上×99cmの楕円形と考えられ、長軸方向はN-56°-Eである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは12cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は2層に分層され、V層斑紋を含んでおり、北西の壁際から長軸35cmと25cmの礫が検出された。遺物は繩文土器が1点出土しているが小片のため図化できなかった。

SK7007土坑（第212図、国版74）

第7次調査1区中央のF-35グリッドに位置し、N層上面で検出された。南側にSX736焼土跡が存在している。平面形は116cm×100cmの隅丸方形で、長軸方向はN-38°-Eである。検出面からの深さは14cmであり、底面はほぼ平坦である。壁は底面から広き気味に立ち上がり断面形は皿形である。南側には2個のピットが存在し、中央のものは33×28cm、底面からの深さは15cm、西側の壁際のものは25×25の円形で底面からの深さは15cmである。堆積土は3層に分層される。また、底面の北東の壁際から長さ43cmの大型の礫が検出された。遺物は出土していない。

SK7008土坑（第212図、国版74）

第7次調査1区中央北寄りのD-E-37グリッドに位置し、N層上面で検出された。SK7017土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は90cm×78cmの不整な円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは48cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層とみられ、5層に分層され、2層以下にはV層ブロックを含む。底面の北側からは直径18cmの礫が検出された。遺物は下層を中心に繩文土器84点が出土し、内7点を第276図、石器は石錐1点、スクレイバー1点を第321図に示した。

SK7009土坑（第212図、国版74）

第7次調査1区中央南寄りのG-42グリッドに位置し、N層上面で検出された。本遺構の周辺にはSK7010土坑を始めとする多くの土坑が存在する。平面形は104cm×72cmの楕円形で、長軸方向はN-43°-Eである。底面は平坦で、検出面から底面までは深さは11cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。底面の中央からやや南西寄りで礫が検出されている。遺物は出土していない。

SK7010土坑（第213図、国版74）

第7次調査1区中央南寄りのF-G-42グリッドに位置し、N層上面で検出された。東側にSK7009・7012・7019土坑、西側にSK7005土坑が存在する。平面形は118cm×73cmの隅丸長方形であり、長軸方向はN-34°-Eである。底面は平坦で、検出面からの深さは10cmである。壁は外側に開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層であり、底面中央のやや北寄りで15cm程の礫が検出された。遺物は出土していない。

SK7011土坑（第213図、国版75）

第7次調査1区中央南寄りのF-41グリッドに位置し、N層上面で検出された。東側にSX709・710埋設土器が存在している。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は98cm×69cmの楕円形であり、長軸方向はN-81°-Wである。底面は中央部分に向かって緩やかに傾斜し、検出面からの深さは29cmである。壁は底面から緩やかな角度で立ち上がっており、断面形は皿形である。堆積土は3層に分層され、1・2層から土器がまとまって検出された。第277図に深鉢2点、土製円盤1点を示した。石器は練石器1点等を出土している。

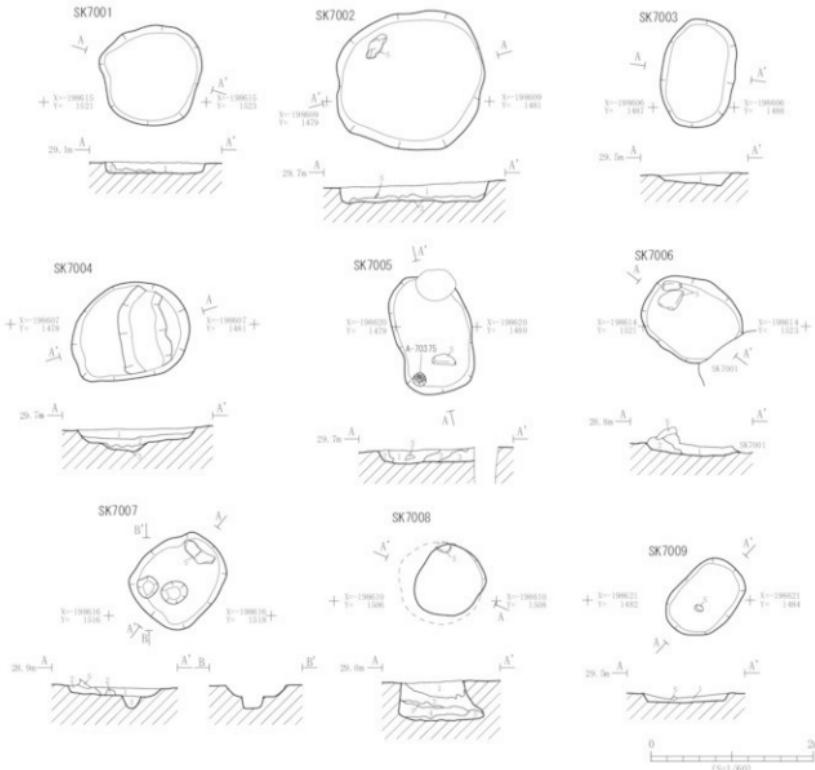
SK7012土坑（第213図、国版75）

第7次調査1区中央南寄りのF-G-42グリッドに位置し、N層上面で検出された。南側にSK7009・7010・7019土坑、S1710堅穴住居跡などが存在している。平面形は132cm×88cmの隅丸長方形で、長軸方向はN-48°-Eである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは19cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形

である。堆積土は暗褐色系粘土質シルトを主体とし3層に分層される。また、北西の壁際に直径12cmの礫が検出された。遺物は堆積土中から繩文土器の小片が1点出土しているが、摩滅が激しく図化はしていない。

SK7013土坑 (第213図、図版75)

第7次調査I区東側南寄りのG-35グリッドに位置し、N層上面で検出された。南西側にはS X728埋設土器が存在している。平面形は112cm×96cmの不規則形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは11cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層であり、炭化物の粒を多



SK	層位	土 色	土 性	施 工
7001	1 帆場	RYR2-3	砂質シルト	炭化物を少量含む。
	2 こい漁場	HTB2-3	砂質シルト	V層糊状多量、V層ブロックを少量含む。
7002	1 帆場	RYR2-3	粘土質シルト	V層糊状を少量含む。
	2 こい漁場	RYR2-4	粘土質シルト	V層ブロック・糊状を含む。
7003	1 帆場	RYR2-3	粘土質シルト	V層糊状を少量含む。
	2 帆場	RYR2-3	粘土質シルト	V層糊状を少量含む。
7004	1 帆場	RYR2-4	粘土質シルト	V層糊状を少量含む。
	2 帆場	RYR2-4	粘土質シルト	V層糊状を少量含む。
7005	1 帆場	RYR2-3	砂質シルト	V層糊状を少量含む。
	2 こい漁場	HTB2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
7006	1 帆場	RYR2-3	砂質シルト	V層糊状を少量に含む。
	2 こい漁場	HTB2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
7007	1 帆場	RYR2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
	2 こい漁場	HTB2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
7008	1 帆場	RYR2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
	2 こい漁場	HTB2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
7009	1 帆場	RYR2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
	2 こい漁場	HTB2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。

SK	層位	土 色	土 性	施 工
7005	1 帆場	RYR2-3	砂質シルト	V層糊状を少量含む。
	2 こい漁場	HTB2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
7007	1 帆場	RYR2-4	砂質シルト	V層糊状を少量含む。
	2 こい漁場	HTB2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
7008	1 帆場	RYR2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
	2 こい漁場	HTB2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。
7009	1 帆場	RYR2-3	砂質シルト	V層糊状を少量含む。
	2 こい漁場	HTB2-3	砂質シルト	V層糊状を多量に含む。

第212図 繩文時代土坑 (41)

量に、焼土粒を微量に含んでいる。また、底面の南東側から長さ46cmの大型の縄が横倒しになった状態で検出されている。遺物は堆積土中から繩文土器28点が出土し、内1点を第275図に示した。

SK7014土坑（第213図、国版75）

第7次調査1区中央南寄りのG-40グリッドに位置し、N層上面で検出された。SK7020土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は92cm×89cmの不整な円形である。底面は若干凹凸があるがほぼ平坦で、検出面から床面までの深さは17cmである。底面の北西側から25cm×22cm、底面からの深さは28cmのピットが検出された。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は黒～暗褐色粘土質シルトで3層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器14点が出土し、内1点を第275図に示した。

SK7015土坑（第213図、国版76）

第7次調査1区東側中央のF-36グリッドに位置し、N層上面で検出された。SX726埋設土器と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は108cm×94cmの不整円形である。底面は緩やかに中央が落ち込んでおり、検出面からの深さは47cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は炭化物および焼土の混入が顕著に認められ人為堆積層と考えられ、4層に分層される。底面から縄2点が検出された。堆積土中からは骨片や炭化したクルミなども検出されている。遺物では繩文土器332点が出土し、内10点を第278図、石器は石匙1点、礫石器2点を第321図に示した。

SK7016土坑（第213図、国版76）

第7次調査1区中央のE-38グリッドに位置し、S I 709竪穴住居跡と重複関係にあり、S I 709竪穴住居跡の床面下から検出されたことから、本遺構が古い。平面形は123cm×112cmの不整円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは47cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層と見られ、V層ブロックを含み、5層に分層される。また、底面に47cmの大型の縄が倒れたような状態で検出されている。遺物は堆積土中から繩文土器23点が出土し、内1点を第275図に示した。

SK7017土坑（第213図、国版74）

第7次調査1区中央北寄りのD-37グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK7008土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、南側部分が一部削平されている。平面形は154cm×116cmの楕円形を基調とするもので、長軸方向はN-50°-Eである。底面は凹凸が見られるがほぼ平坦で、検出面からの深さは17cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色系粘土が主体で4層に分層され、V層ブロックや斑紋がみられる。遺物は出土していない。

SK7018土坑（第213図、国版76）

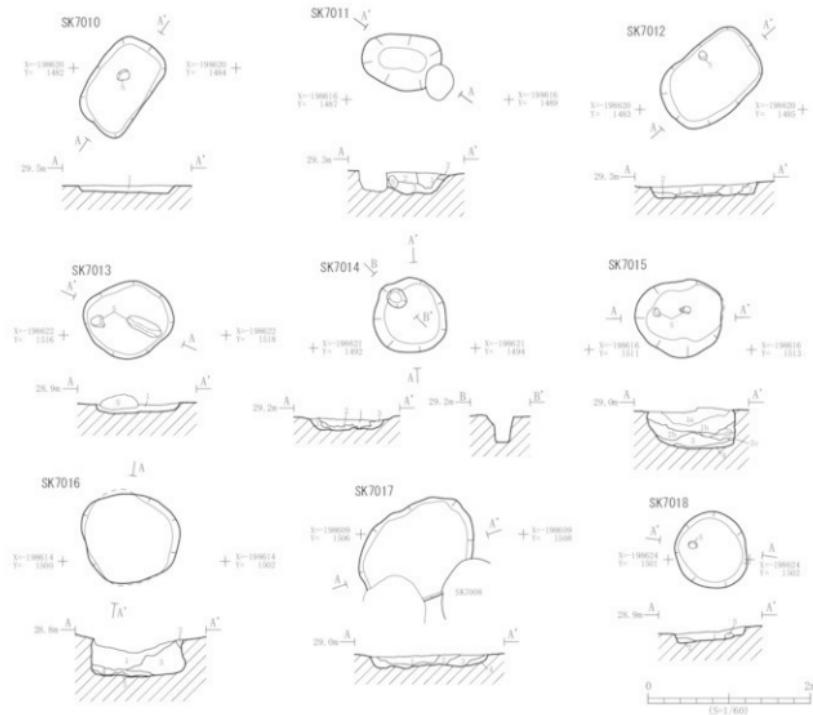
第7次調査1区中央南寄りのG-38グリッドに位置し、V層上面で検出された。北東側にS I 705竪穴住居跡が存在する。平面形は95cm×89cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは17cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は褐色系の粘土層で2層に分層される。縄石器1点が出土したが図化はしていない。遺物は出土していない。

SK7019土坑（第214図）

第7次調査1区西側南寄りのG-41・42グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK7009・7010・7012土坑が存在している。S I 710竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が古く、南側が削平されている。平面形は101cm×75cm以上の楕円形を基調とするものと考えられ、長軸方向はN-52°-Eである。底面は凹凸が見られるがほぼ平坦で、検出面からの深さは10cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色砂質シルトを主体として2層に分層される。遺物は出土していない。

SK7020土坑(第214図、図版6)

第7次調査1区中央のF-40グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK7014土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は80cm×56cmの楕円形で、長軸方向はN-79°-Eである。底面はやや西側が低くなっている。検出面からの深さは33cmである。壁は底面から東側の一部がオーバーハングしているが他ではほぼ垂直に立ち上がり



SK	層位	土色	土性	備考	SK	層位	土色	土性	備考
7010	1 剛堀	10YR3/4	粘土質シルト	V層腐植を少量含む。	7015	2b 埋場	2.5YR4/8	粘土質シルト	堆土粒多量、V層腐植少量、炭化粒少量含む。
	1 黒泥	10YR2/2	粘土	炭化粒・斑点・斑状を含む。		3c 埋場	10YR3/4	粘土質シルト	骨片少量含む。
	2 剛堀	10YR3/3	粘土質シルト	V層腐植を少量含む。		2a 埋場	10YR3/4	粘土質シルト	堆土層でV層プロックを多量に含む。堆土粒はV層との境線に集中して見られる。
	3 黒泥	10YR2/2-3	粘土	V層腐植を少量含む。		3 黑泥	10YR2/2	砂質シルト	炭化粒・粘土粒を多量に含む。骨片がやや多い。3層最下部では炭化粒の半純層が見られ、種子(アメニ)等遺存状態の良好なものも見られる。
7011	1 黒泥	10YR2/2	粘土質シルト	炭化粒・粘土粒を多量含む。V層腐植下部に集中。		4 埋場	10YR3/4	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。上部にV層腐植が集中。
	2 剛堀	10YR3/3	シルト質粘土	層厚に従い、V層腐植を少量含む。		2 c 埋場	10YR3/3	粘土質シルト	炭化物を微量含む。上部にV層腐植が集中。
	3 黒泥	10YR2/2	シルト質粘土	炭化物を少量含む。		4 埋場	10YR4/4	粘土質シルト	V層プロックを多量に見入する。
	4 埋場	10YR4/4	粘土質シルト	V層プロックを多量含む。		5 埋場	10YR4/4	粘土質シルト	V層腐植・炭化粒を少量含む。
7012	1 黒泥	10YR2/2	粘土質シルト	炭化物を多量、地土粒多く含む。	7016	1 埋場	10YR3/4	粘土質シルト	V層腐植上部。
	2 剛堀	10YR3/3	粘土質シルト	炭化物・地土粒を少量含む。小砂利を少量含む。		2 埋場	10YR4/4	粘土質シルト	V層プロックを強烈。
	3 埋場	10YR2/2	シルト質粘土	I層と3層の混合土。		3 埋場	10YR3/4	粘土質シルト	V層腐植上部。
	4 埋場	10YR4/4	粘土質シルト	V層腐植を少量含む。		4 埋場	10YR3/4	粘土質シルト	地土の砂利含む。下部にV層腐植が集中。
7013	1a 黒泥	10YR2/2	砂質シルト	地土粒多量、地土粒を少量含む。土器・石器・種子が散在。	7017	1 埋場	10YR3/4	粘土	地土の砂利含む。強烈なV層プロック・硬核土体。
	2 剛堀	10YR3/3	粘土質シルト	地土粒多量、地土粒を少量含む。小砂利を少量含む。		2 埋場	10YR2/3	粘土	地土の砂利含む。強烈なV層プロック・硬核土体。
	3 埋場	10YR2/2	粘土質シルト	I層と3層の混合土。		3 埋場	10YR4/4	粘土	V層腐植土体。
	4 埋場	10YR3/4	粘土質シルト	V層腐植を少量含む。層全体が小砂利がかかる。		4 埋場	10YR3/5	粘土	V層腐植土体。
7014	1a 黒泥	10YR2/2	砂質シルト	地土粒多量、地土粒を少量含む。土器・石器・種子が散在。		1 埋場	10YR3/4	粘土	地土の砂利含む。下部にV層腐植が集中。
	2 剛堀	10YR3/2	粘土質シルト	I層に類似。炭化物・地土粒は1層より少ない。地土粒微量。V層腐植を少量含む。層全体が小砂利がかかる。		2 埋場	10YR4/4	粘土	地土の砂利含む。強烈なV層プロック・硬核土体。
7015	1a 埋場	10YR3/2	砂質シルト	I層に類似。炭化物・地土粒は1層より少ない。地土粒微量。V層腐植を少量含む。層全体が小砂利がかかる。		3 埋場	10YR3/2	粘土	地土の砂利含む。強烈なV層プロック・硬核土体。
	2a 埋場	10YR3/2	粘土質シルト	V層腐植微量。V層プロックを多量に含む。		4 埋場	10YR4/4	粘土	V層腐植土体。
7016	1 埋場	10YR3/4	粘土質シルト	V層腐植を少量含む。		5 埋場	10YR4/5	粘土	炭化物を多量含む。
	2 埋場	10YR3/3	粘土質シルト	V層腐植を少量含む。		6 埋場	10YR4/5	粘土	V層腐植微量。
7017	1 埋場	10YR3/4	粘土質シルト	V層腐植を少量含む。		7 埋場	10YR4/5	粘土	炭化物を多量含む。
	2 埋場	10YR3/3	粘土質シルト	V層腐植を少量含む。		8 埋場	10YR4/5	粘土	V層腐植微量。
7018	1 埋場	10YR3/2	粘土質シルト	V層腐植微量。		9 埋場	10YR4/5	粘土	V層腐植微量。
	2 埋場	10YR3/2	粘土質シルト	V層腐植微量。		10 埋場	10YR4/5	粘土	V層腐植微量。

第213図 織文時代土坑(42)

り、断面形は円筒形である。堆積土は人為堆積層とみられV層を主体とするもので3層に分層される。遺物は出土していない。

SK7021土坑（第214図、国版77）

第7次調査1区中央のF-39グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK7022・7023土坑が存在している。平面形は83cm×70cmの不整橢円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは11cmである。底面の北側に45cm×28cmの楕円形、深さ7cmのビットが検出された。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層で、中央から南西寄りで25cm程の角礫が検出されている。遺物は出土していない。

SK7022土坑（第214図、国版77）

第7次調査1区中央のF-39グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側には7021土坑、東側に7023土坑が存在する。平面形67cm×59cmの不整橢円形である。底面は中央から南西側が一段低くなっている。検出面からの深さは北側部分で5cm、南西側では8cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。底面から5cm上の堆積土中から扁平な礫が検出されている。その他の遺物は堆積土中から繩文土器17点が出土しており、内1点を第278図に示した。石器は礫石器2点が出土している。

SK7023土坑（第214図、国版77）

第7次調査1区中央のF-38グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK7021・7022土坑が存在している。平面形は56cm×53cmの不整橢円形である。底面は南側に傾斜しており、検出面からの深さは17cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体とし、2層に分層される。検出面から長さ30cmの礫が検出された。遺物は出土していない。

SK7027土坑（第214図、国版77）

第7次調査2区西側北寄りのB-62グリッドに位置し、V層上面で検出された。平面形は99cm×90cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは26cmで、壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は暗褐色シルトを主体として3層に分層され、下層から礫が検出された。遺物は出土していない。

SK7028土坑（第214図、国版77）

第7次調査2区西側中央のC・D-62・63グリッドに位置し、V層上面で検出された。検出面が畑耕作跡により削平されていたことから堆積土の一部が削平されている。平面形は102cm×98cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは45cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は、人為堆積層とみられ暗褐色シルト層を主体として2層に分層される。遺物は出土していない。

SK7029土坑（第214図、国版77）

第7次調査2区西側南寄りのD-59グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にはSK7031・7033土坑が存在する。上層は搅乱により削平されているが、平面形は115cm×102cmの楕円形である。底面はほぼ平坦で、遺構検出面からの深さは92cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層とみられ暗褐色シルト層でV層を含み、3層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器11点が出土しており、内1点を第278図に示した。

SK7030土坑（第214図、国版77）

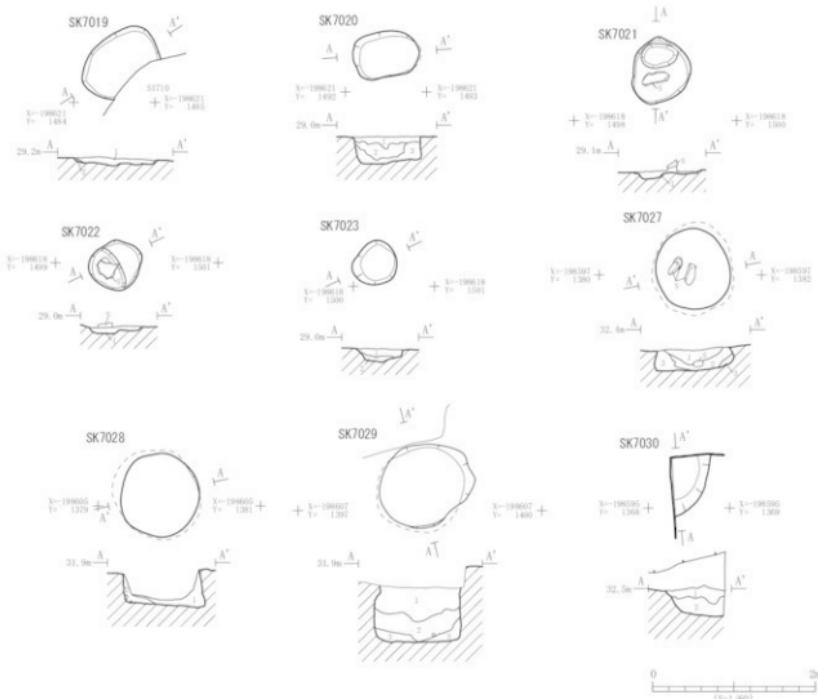
第7次調査2区北西隅のA-65グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側にSK7024土坑が存在する。北側および東側が調査区外であるが平面形は70cm以上×48cm以上の円形または楕円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは32cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土層で2層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器1点が出土し、第278図に示した。

SK7031土坑(第215図、国版78)

第7次調査2区西側中央のC-D-59グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK7029・7033土坑が存在している。上層が擾乱によって削平されているが、平面形は136cm×131cmの円形である。M層を底面とするところから凹凸が見られるがほぼ平坦で、検出面からの深さは114cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円錐形である。堆積土は人為堆積層と見られ、V層ブロックを含み5層に分層される。1層では大きさが40cm程の大型で扁平な礫が斜位の状態で検出され、底面付近からは複数の礫がまとまって検出された。遺物は堆積土中から繩文土器11点が出土しており、内2点を第279図に示した。鍛石器1点は図示しなかった。

SK7032土坑(第215図、国版78)

第7次調査2区西側中央のC-58・59グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にSK7033土坑などが存



SK	層位	主 色	主 性	備 考
7019	1 動植物	BYTR2-2	砂質シルト	V層ブロックを少量含む。
	2 二つの葉茎	BYTG2-4	砂質シルト	シルト感。
7020	1 動	BYTR4-4	粘土質シルト	鉄化物微細な量含む。
	2 動	BYTR4-5	粘土	鉄化物・矽酸鉄鉱主体。
7021	1 動	BYTR4-4	粘土	V層鉱灰土。
	2 動	BYTR2-2	砂質シルト	V層鉱灰土を含む。
7022	1 動	BYTR3-4	砂質シルト	V層鉱灰土を少量含む。
	2 動	BYTR2-2	粘土質シルト	鉄化物を微量含む。
7023	1 動	BYTR3-4	砂質シルト	V層鉱灰土を少量含む。
	2 動	BYTR2-2	粘土	V層鉱灰土を含む。
7027	1 動	BYTR2-2	シルト	鉄化物微量含む。
	2 動	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
7028	1 動	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
	2 動	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
7029	1 動	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土や少々。
	2 動	BYTR2-2	シルト	鉄化物を少量含む。
7030	1 動	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土や少々。
	2 動	BYTR2-2	粘土	鉄化物微量含む。

SK	層位	主 色	主 性	備 考
7021	1 動植物	BYTR2-2	シルト	鉄化物微量、V層鉱灰土を少量含む。
	2 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
7022	1 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
	2 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
7023	1 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
	2 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
7027	1 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
	2 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
7028	1 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
	2 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
7029	1 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
	2 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土を少量含む。
7030	1 動植物	BYTR2-2	シルト	V層鉱灰土や少々。
	2 動植物	BYTR2-2	粘土	鉄化物微量含む。

第214図 繩文時代土坑(43)

在している。平面形は北側が一部崩れているが153cm×133cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは46cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は5層に分層され、V層および炭化物を含む。遺物は縞石器3点が出土している。

SK7033土坑（第215図、国版78）

第7次調査2区西側中央のC-D-58・59グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK7032土坑、南側にSK7029土坑が存在する。上層の一部は搅乱により削平されているが、平面形は140cm×128cmの橢円形である。底面はVI層であることから凹凸があるがほぼ平坦で、検出面からの深さは102cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層され、V層ブロックなどを含む。1層からは注口付きのミニチュア土器（P-7086）が礫によって埋まれた状態で出土し、底面からやや大型の礫が北側を中心まとめて検出されている。その他に堆積土中から縄文土器39点が出土し、内2点の土器および土製品を第279図、石器は磨製石斧1点を第321図に示した。

SK7034土坑（第215図、国版79）

第7次調査2区西側中央のC-58グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にSK7035土坑、東側にSK70447土坑が存在する。平面形は115cm×113cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは79cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層され、2層に炭化物が多く見られた。遺物は出土していない。

SK7035土坑（第215図）

第7次調査2区西側中央のC-58グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK7034土坑が存在する。平面形は97cm×92cmの不整円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは15cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルト主体で3層に分層される。遺物は出土していない。

SK7036土坑（第215図）

第7次調査2区西側中央のC-57グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK7047・7048土坑が存在する。平面形は115cm×118cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは14cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。断面形はV層を含むシルト層で2層に分層される。遺物は出土していない。

SK7037土坑（第215図、国版79）

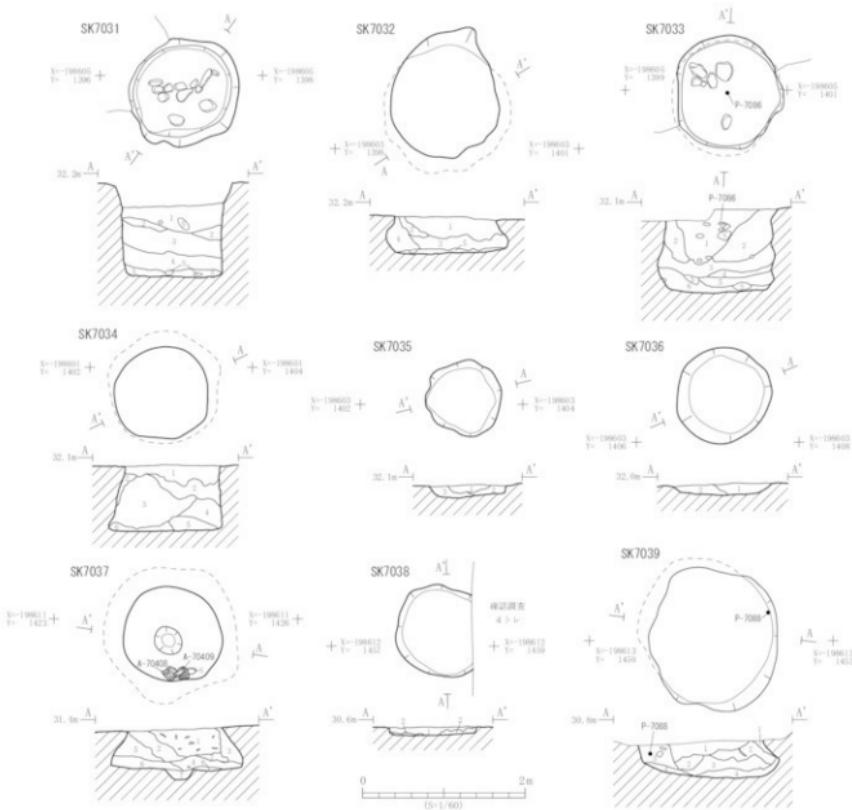
第7次調査2区中央南寄りのE-54グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にはSI715竪穴住居跡が存在している。平面形は123cm×114cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは50cmである。中央で37cm×32cm、深さ12cmの円形のビットが検出された。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は黒～暗褐色粘土質シルトを主体として7層に分層される。遺物は中層の南側付近からほぼ完形の注口土器（A-70409）と小型深鉢（A-70408）が礫とともに遺棄されたような状態で出土している。なお、これらの土器内の土壤について水洗して確認を行ったが遺物は検出されなかった。その他に堆積土中から縄文土器292点が出土し、内4点を第280図、石器は石錐1点を第321図に示した。

SK7038土坑（第215図、国版80）

第7次調査2区東側中央のE-47グリッドに位置し、V層上面で検出された。北西側にSK7059土坑が存在している。東側が削平されているが、平面形は直径110cm程の円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは11cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土はV層を含み2層に分層される。遺物は出土していない。

SK7039土坑（第215図、国版80）

第7次調査2区東側南寄りのE-48グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK7043土坑、西側にS



SK	層位	土色	土性	備考
7031	1	こい. 黒葉. HYR3-3	シルト	V層 ブロック・土を多量に含む。
	2	黒葉.	HYR3-2	V層 ブロックを少量含む。
	3	こい. 黑葉.	HYR3-2	1層: ブロック・土質ブロック・泥炭土・砂・砂利多い。
	4	黒葉.	HYR3-2	V層 土を多量。泥炭土を少量含む。
	5	黒葉.	HYR3-2	V層 土を少量含む。底面直上に10~25cm大的の塊の集団が見られる。
7032	1	黒葉.	HYR3-4	シルト V層砂や土。
	2	黒葉.	HYR3-2	V層 土を多量。底面砂を少量含む。
	3	黒葉.	HYR3-4	シルト 岩石地盤。V層砂を少量含む。
	4	黒葉.	HYR3-2	底面砂を少量含む。
	5	黒葉.	HYR3-2	粘土質シルト V層砂を微量含む。
7033	1	こい. 黑葉.	HYR3-2	シルト V層砂直上。5~70cm大的の塊を多数含む。
	2	黒葉.	HYR3-2	V層 ブロックを少量含む。
	3	こい. 黑葉.	HYR3-2	V層砂直上。
	4	黒葉.	HYR3-2	V層砂を少量含む。
	5	黒葉.	HYR3-4	V層砂を少量含む。礫石側にやや集中。
7034	6	黒葉.	HYR2-3	シルト 腐食粒を少量含む。
	1	粘土.	HYR2-3	シルト V層粒を少量含む。
	2	粘土.	HYR2-3	V層粒を少量含む。
	3	粘土.	HYR2-4	粘土質シルト V層粒を少量含む。
	4	粘土.	HYR2-4	粘土質シルト V層粒を少量含む。
7035	5	こい. 黑葉.	HYR3-2	シルト V層砂直上。
	6	黒葉.	HYR2-3	シルト 腐食粒を少量含む。
	7	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
	8	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
	9	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
7036	10	こい. 黑葉.	HYR3-2	シルト V層粒を多量に含む。
	11	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
	12	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
	13	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
	14	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
7037	15	こい. 黑葉.	HYR3-2	シルト V層砂直上。
	16	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
	17	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
	18	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
	19	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。
7038	20	こい. 黑葉.	HYR3-2	シルト V層粒を多量に含む。縦まり・相性有り。
	21	粘土.	HYR2-4	粘土質シルト V層粒を多量に含む。腐食粒・小礫多い。
	22	粘土.	HYR2-4	粘土質シルト V層粒を少量含む。小礫含む。
	23	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。縦まり・相性無し。
	24	粘土.	HYR2-3	粘土質シルト V層粒を少量含む。底面直上。

第215図 繩文時代土坑 (44)

K7041土坑が存在する。搅乱によって上層が削平されているが、平面形は165cm×156cmの不整な円形である。Ⅵ層を底面としており、東側に向かって緩やかに傾斜し、検出面からの深さは45cmである。壁は底面からオーバーハンプグして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は暗褐色系粘土質シルトが主体で4層に分層される。遺物は東側の3層から土偶の脚部（P-7088）が出土している。その他の堆積土中からは繩文土器135点が出土し、内3点を土製品とともに第279図に示した。石器では微細割離痕のある剥片が出土している。

SK7040土坑（第216図、国版80）

第7次調査2区東側南寄りのE-48グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK7064・7059土坑が存在する。平面形は83cm×80cmの円形である。底面は凸凹がみられ、西側に向かって傾斜し、検出面からの深さは59cmである。壁は底面からオーバーハンプグして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器8点が出土し、内1点を第279図に示した。

SK7041土坑（第216図、国版80）

第7次調査2区東側南寄りのE-49グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK7042土坑が存在する。平面形は154cm×142cmの不整梢円形である。底面は北側に平坦部があり、検出面からの深さは21cm、南側では深さ52cmである。壁は北側は急角度、南側は緩やかな角度で立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器が124点出土し、内1点を第279図に示した。石器は國化していない。

SK7042土坑（第216図、国版81）

第7次調査2区東側南寄りのE-49グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側にSK7041土坑、東側にSK7043土坑が存在する。平面形は102cm×81cmの梢円形である。底面はほぼ平坦であるが中央が緩やかに落ち込んでおり、検出面からの深さは67cmである。壁は底面からオーバーハンプグしており、断面形はフラスコ状となるが、西側の開口部付近では外側に開いて立ち上がっている。堆積土は暗褐色系粘土質シルトを主体にして8層に分層される。遺物は1～3層中から繩文土器76点が出土し、内2点を第282図に示した。その他にも礫石器2点が出土している。

SK7043土坑（第216図、国版81）

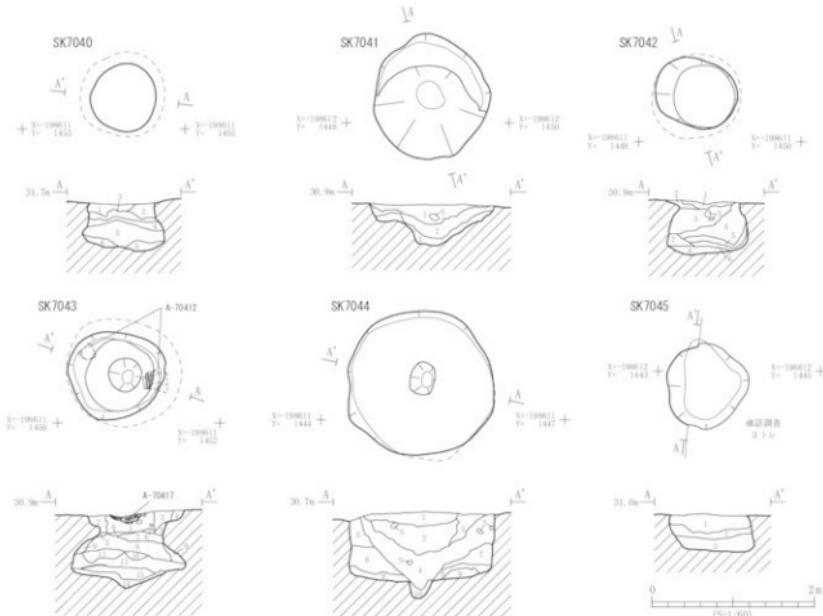
第7次調査2区東側中央のD・E-48グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にはSK7041・7042土坑が存在している。平面形は118cm×108cmの不整な円形である。底面は中央部分に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは84cmである。中央で直径40cm、深さ11cmピット状の落ち込みが検出された。壁は底面からオーバーハンプグして立ち上がっているが、途中からは開いた角度で立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層とみられV層を含み、14層に分層される。1層から炭化物とともに土器片が多数検出されており、10層は灰白色の粘土塊である。遺物は底面から深鉢の大型破片（A-70412）が出土しており、その他の堆積土および底面から出土した繩文土器116点の内6点を第281・282図、石器はスクレイバー1点を第321図に示した。

SK7044土坑（第216図、国版82）

第7次調査2区東側南寄りのD・E-49・50グリッドに位置し、平成15年度確認調査3トレンチのⅥ層上面で検出されていたものである。南西側にSK7045土坑が存在する。平面形は177cm×176cmの円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは82cmである。中央で直径40cm、深さ11cmの円形のピットが確認されている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形であるが、本来フラスコ状であったものがⅥ層を壁としているために崩落している可能性を考えられる。堆積土は10層に分層されるが、2～4層は砂を主体としており底面中央のピットに向かって逆円錐状に堆積している状況が認められ、5～10層の暗褐色土を主体とする堆積土とは大きく異なっている。遺物は堆積土中から繩文土器65点が出土し、内4点を第282図に示した。石器は二次加工のある剥片が1点出土している。

SK7045土坑（第216図、国版80）

第7次調査2区東側南寄りのE-50グリッドに位置し、M層上面で検出された。西側にS1714堅穴住居跡、北西方向にSK7044土坑が存在する。東側が平成15年度確認調査3トレンチによって削平されているが、平面形は105cm×100cmの不整円形である。底面はほぼ平坦で、西側の検出面からの深さは45cmである。壁は北側では一部オーバーハングして立ち上がっているが、その他の部分ではやや開き気味に立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体にしており、3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器18点が出土し、内2



施 考				
SK	層位	土 色	土 性	
7040	1 坪場	HYR03-2	粘土質シルト	V層ブロック、炭化粒を少量含む。
	2 坪場	HYR03-2	シルト	V層粗粒土、V層弱少粒、V層ブロックを含む。
	3 坪場	HYR03-2	粘土質シルト	粘土質シルト、V層灰・礫を少量含む。炭化粒が多い。
	4 黒場	HYR03-2	粘土質シルト	砂・礫を多く含む。
7041	5 黒場	HYR4-4	シルト質シルト	繊維状・粘土質弱。
	6 黒場	HYR03-2	シルト質シルト	炭化粒を少量含む。V層及び礫を含む。
	1 坪場	HYR03-2	粘土質シルト	粘土質シルト、炭化粒を多量含む。土塊化やすい。
	2 ない裏渠	HYR03-2	粘土質シルト	粘土質シルト、砂を少量含む。
7042	3 黒場	HYR03-4	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。土塊化多い。
	2 ない裏渠	HYR03-3	シルト	V層ブロックを多量含む。砂を少量含む。
	3 黑場	HYR03-2	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。砂を少量含む。
	4 黑場	HYR03-2	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。砂を少量含む。
7043	5 黒場	HYR03-2	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。V層ブロックをやや多く含む。
	6 黒場	HYR03-2	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。V層ブロックをやや多く含む。
	7 黒場	HYR03-2	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。V層ブロックをやや多く含む。
	8 黒場	HYR03-2	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。V層ブロックをやや多く含む。
7044	1 坪場	HYR03-4	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。V層ブロックを少量含む。
	2 ない裏渠	HYR03-3	シルト	砂を多量含む。V層ブロックを多量含む。
	3 黑場	HYR03-2	粘土質シルト	砂を多量含む。V層ブロックを少量含む。
	4 黑場	HYR03-2	粘土質シルト	砂を多量含む。V層ブロックを少量含む。
7045	5 黒場	HYR03-2	粘土質シルト	炭化粒を多量含む。V層ブロックを少量含む。
	6 黑場	HYR03-2	粘土質シルト	砂を多量含む。V層ブロックを少量含む。
	7 黒場	HYR03-2	粘土質シルト	砂を多量含む。V層ブロックを少量含む。
	8 黒場	HYR03-2	粘土質シルト	砂を多量含む。V層ブロックを少量含む。

第216図 縄文時代土坑(45)

点を第282図に示した。

SK7046土坑（第217図、国版82）

第7次調査2区中央のD-52・53グリッドに位置する。平成15年度確認調査2トレンチで確認されたものであり、M層上面で検出された。東側にSK7058土坑、南側にSK7070土坑が存在する。平面形は200cm×196cmの円形である。M層が底面であることから凹凸が見られるが概ね平坦で、検出面からの深さは18cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は堆積土中から繩文土器61点が出土しており、内2点を第282図に示した。石器は礫石器5点が出土した。

SK7047土坑（第217図、国版82）

第7次調査2区西側北寄りのB・C-57・58グリッドに位置し、M層上面で検出された。東側にSK7048土坑、西側にはSK7034土坑などが存在する。平面形は132cm×102cmの不整橢円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは38cmである。壁は東側部分が一部オーバーハングしているが、その他は底面から緩やかに立ち上がり断面形は円筒形である。堆積土は5層に分層され、炭化物粒・焼土粒を含む。遺物は堆積土中から繩文土器21点が出土し、内1点を第282図に示した。

SK7048土坑（第217図、国版82）

第7次調査2区西側北寄りのB・C-57グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK7047土坑、南側にSK7036土坑が存在する。上層の一部が搅乱により削平されており、平面形は145cm×125cmの不整橢円形である。底面は中央に向かって傾斜しており、検出面からの深さは70cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は暗褐色シルトを主体にして4層に分層される。遺物は堆積土中から繩文土器31点が出土し、内1点を第282図に示した。

SK7049土坑（第217図、国版82）

第7次調査2区中央北寄りのB-54グリッドに位置し、M層上面で検出された。北側が調査区外のため全体は不明だが、平面形は直径125cm程の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは70cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり断面形はフラスコ状である。堆積土はV層ブロック等を含む人為堆積層と見られ、8層に分層される。遺物は出土していない。

SK7050土坑（第217図、国版82）

第7次調査2区東側北寄りのB・C-49グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK7071土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。西側が一部搅乱により削平されているが平面形は119×109の円形を基調とするものである。底面は平坦で、検出面からの深さは22cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は7層に分層され、中層からは深鉢（A-70436）が横位に潰れた状態で出土した。深鉢ほか破片2点を第283図に示した。石器は微細剥離痕のある剝片が2点出土している。

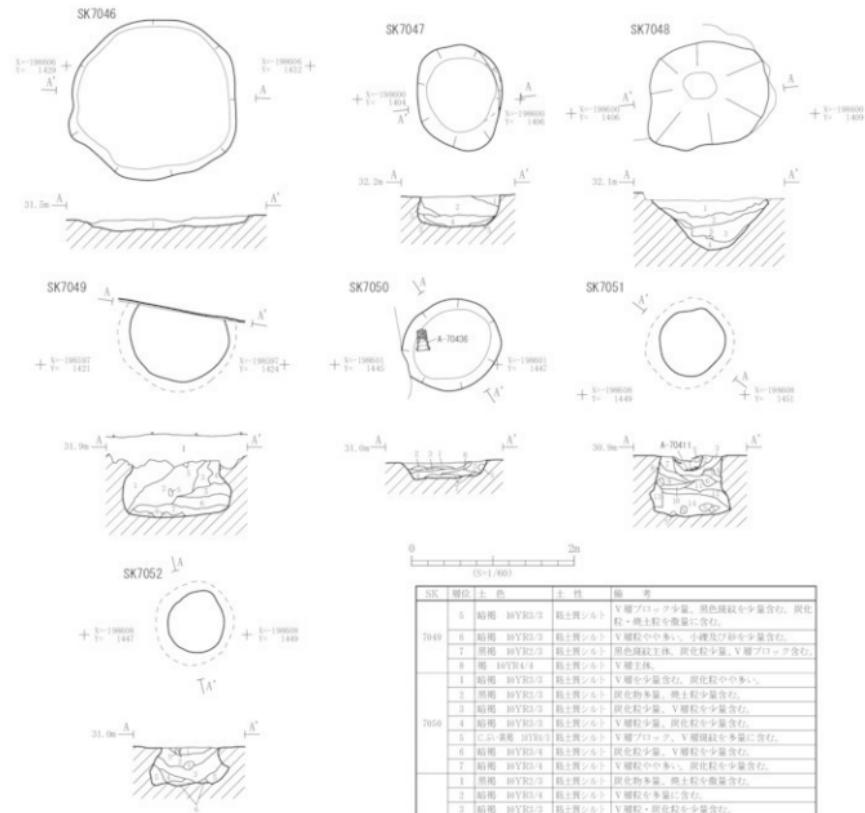
SK7051土坑（第217図、国版83）

第7次調査2区東側中央のD-48グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にSK7060土坑、西側にSK7052土坑が存在する。平面形は82cm×78cmの不整な円形である。底面は中央がやや落ち込んでいるがほぼ平坦で、検出面からの深さは75cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層と見られ、14層に分層される。1層は炭化物・焼土粒を多量に含み、胴部上半を欠いた深鉢の周囲から土器片が多数検出されている（A-70441）。また、底面付近からは礫が複数検出された。堆積土中から繩文土器80点が出土し、内5点を第284図に示した。石器は礫石器1点、石皿1点が出土している。

SK7052土坑（第217図、国版83）

第7次調査2区東側中央のD-49グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK7051土坑、南側にSK

7042土坑が存在している。平面形は78cm×70cmの不整な円形である。底面は凹凸がみられるがほぼ平坦で、検出面からの深さは47cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層され、底面付近から灰白色粘土ブロックが検出された。断面で礫が検出された2層下部と同じレベルで胸



SK	場所	土色	土性	備考
7046	1. 脊周	10YR3/2	粘土質シルト	Y型ブロック少量。黒色鐵錆を少量含む。
	2. こいの葉葉	10YR3/2	シルトト	V型鐵錆多量。V型錆を少量含む。
	3. 脊周	10YR3/3	シルトト	褐色粘土質。地土形鉱物。V型錆を少量含む。
7047	1. こいの葉葉	10YR3/1	シルトト	1層の鉄錆。V型錆がや多い。V型錆を少量含む。
	4. 脊周	10YR3/2	粘土質シルト	褐色粘土質。地土粒が少量含む。
	5. 脊周	10YR3/4	シルトト	V型鐵錆少量。褐化粒を少量含む。
7048	1. 脊周	10YR3/2	シルトト	V型鐵錆や少。褐化粒を少量含む。
	2. 脊周	10YR3/4	シルトト	V型鐵錆多量。褐土質を少量含む。
	3. 脊周	10YR3/4	シルトト	褐色粘土質。V型錆を少量含む。
7049	4. 脊周	10YR3/2	シルトト	V型鐵錆や少。褐化粒を少量含む。
	5. 脊周	10YR3/4	粘土質シルト	V型鐵錆や少。褐化粒を少量含む。
	6. 脊周	10YR3/4	粘土質シルト	褐色粘土質。V型錆を少量含む。

SK	場所	土色	土性	備考
7049	5. 脊周	10YR2/3	粘土質シルト	V型ブロック少量。黒色鐵錆を少量含む。炭化粒を少量含む。
	6. 脊周	10YR2/3	粘土質シルト	V型錆がや多。小塊及び砂を少量含む。
	7. 脊周	10YR2/3	粘土質シルト	黑色鐵錆主体。炭化粒少量。V型ブロック含む。
	8. 脊周	10YR4/4	粘土質シルト	V型錆。
	1. 脊周	10YR2/3	粘土質シルト	V型錆を少量含む。炭化粒や多い。
	2. 脊周	10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。地土粒を少量含む。
	3. 脊周	10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒を少量。V型錆を少量含む。
7050	5. (こいの葉葉)	10YR3/2	粘土質シルト	V型錆。V型錆を少量含む。
	6. 脊周	10YR2/4	粘土質シルト	炭化粒を少量。V型錆を少量含む。
	7. 脊周	10YR2/4	粘土質シルト	V型錆をや多。炭化粒を少量含む。
	8. 脊周	10YR2/4	粘土質シルト	炭化物を少量。地土粒を少量含む。
	9. 脊周	10YR2/3	粘土質シルト	V型錆を少量含む。
	10. 脊周	10YR2/3	粘土質シルト	V型錆や少。炭化粒を少量含む。円錆少量含む。
	11. 脊周	10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒。砂。鉄錆が少。V型ブロックを含む。
	12. 脊周	10YR2/2	粘土質シルト	炭化粒を少量。V型錆を少量含む。
	13. 脊周	10YR2/2	粘土質シルト	V型錆。アラミド。炭化粒を少量含む。
	14. 脊周	10YR2/2	粘土質シルト	炭化粒を少量。地土粒を少量。V型錆を少含む。
	1. 脊周	10YR3/2	粘土質シルト	V型錆を少量含む。炭化粒。地土粒が多。
	2. 脊周	10YR3/4	粘土質シルト	V型錆。炭化粒を少量含む。
	3. 脊周	10YR3/4	粘土質シルト	V型錆が多い。炭化物多量。V型錆を少量含む。
	4. 脊周	10YR3/4	粘土質シルト	(こいの葉葉) V型錆をや多。
	5. 脊周	10YR3/4	粘土質シルト	炭化物を少。V型錆を少量含む。

第214図 繩文時代土坑(46)

部上半を欠いた深鉢（A-70430）が潰れた状態で出土している。底面の位置から潰れる前は正位の状態であったものと推測される。縄文土器14点が出土し、内1点を第283図、石器は礫石器2点を第322図に示した。

SK7053土坑（第218図、国版83）

第7次調査2区東側中央北寄りのB・C-56グリッドに位置し、M層上面で検出された。北側にS X743性格不明遺構が存在する。東側が搅乱によって削平されているが、平面形は143cm×124cmの不整南北形である。底面は中央から北側に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは72cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形はU字形である。堆積土は暗褐色シルト層を主体にした5層に分層される。堆積土中から縄文土器8点が出土した。

SK7054土坑（第218図、国版83）

第7次調査2区西側北寄りのB-58グリッドに位置し、V層上面で検出された。平面形は140cm×125cmの楕円形である。底面は中央に向かって緩やかに落ち込んでいるが平坦で、検出面からの深さは38cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は4層に分層されV層ブロック等を含む。遺物は出土していない。

SK7055土坑（第218図、国版83）

第7次調査2区中央北寄りのC-52グリッドに位置し、M層で検出された。南側にSK7058土坑が存在する。SK7056土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は195cm×168cmの楕円形である。底面がM層であるため凹凸が見られるがほぼ平坦で、検出面からの深さは12cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は2層に分層され、炭化粒・焼土粒を含む。遺物は堆積土中から縄文土器49点が出土し、内3点を第283図、石器はスクレイバー3点を第322図に示した。

SK7056土坑（第218図、国版83）

第7次調査2区中央北寄りのC-52グリッドに位置し、M層上面で検出された。SK7055土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、西側部分が削平されている。平面形は147cm×89cm以上の円形である。M層が底面であることから凹凸がみられるがほぼ平坦で、検出面からの深さは8cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK7057土坑（第218図、国版84）

第7次調査2区東側北寄りのC-47グリッドに位置し、V層上面で検出された。ピットと重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は98cm×87cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは54cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土はV層ブロックを含む人為堆積層とみられ10層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器3点が出土し、内2点を第285図に示した。その他二次加工のある剥片1点が出土している。

SK7058土坑（第218図、国版83・84）

第7次調査2区東側中央のC・D-52グリッドに位置し、M層上面で検出された。北側にSK7055・7056土坑が存在している。平面形は203cm×187cmの不整な円形である。底面がM層であるため凹凸がみられるがほぼ平坦で、検出面からの深さは37cmである。壁は北側で部分的にテラス状の段差が認められるがその他の部分では底面から急角度で立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体にして5層に分層される。遺物は堆積土上層を中心に縄文土器42点が出土し、内1点を第285図、石器は台石1点を第323図に示した。

SK7059土坑（第218図、国版84）

第7次調査2区東側北寄りのD-47グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK7061・7040・7064土坑が存在する。平面形は103cm×97cmの不整な円形である。底面は若干凹凸があり、中央に向かって緩やかに傾斜し、

検出面からの深さは23cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色系粘土質シルトを主体にして3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器23点が出土し、内1点を第285図に示した。

SK7060土坑（第218図、国版85）

第7次調査2区東側北寄りのC・D-48グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK7062土坑、南側にSK7051土坑が存在する。平面形は87cm×81cmの円形である。底面は中央が緩やかに落ち込み、検出面からの深さは80cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり断面形はフラスコ状である。堆積土は9層に分層され、1～2層は炭化物を含み、土器片が多く出土した。また、南西側の底面からは完形土器や大型破片がまとめて出土しており、第286図の底部を欠いた深鉢（A-70447）は南側に倒れた状態で出土し、第287図の完形の深鉢（A-70448）は正位の状態で出土した。これらの土器内の土壤については水洗確認を行ったが遺物は検出されなかった。その他に堆積土中から縄文土器83点が出土し、内8点を第286～288図、石器は石匙1点を第323図に示した。

SK7061土坑（第218図、国版84）

第7次調査2区東側中央のD-48グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK7064土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は78cm×74cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは68cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は人為堆積層と見られ、暗褐色粘土質シルトを主体にしてV層ブロックを含み、7層に分層される。3～4層付近から大きさが50cm程の大型で扁平な礫が検出された。底面直上から出土した土器1点を第285図に示した。

SK7062土坑（第219図、国版84）

第7次調査2区東側中央のD-48グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK7063土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は223cm×159cmの東側に張り出した瓢形である。底面には凹凸がみられるがほぼ平坦で、検出面からの深さは29cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は9層に分層され、炭化物粒・焼土粒を多く含む。遺物は東側の張り出し部分に逆位の状態で浅鉢（A-70458）が出土した。その他に縄文土器63点が出土しており、7点を第288～290図に示した。石器は図化したものはない。

SK7063土坑（第219図、国版85）

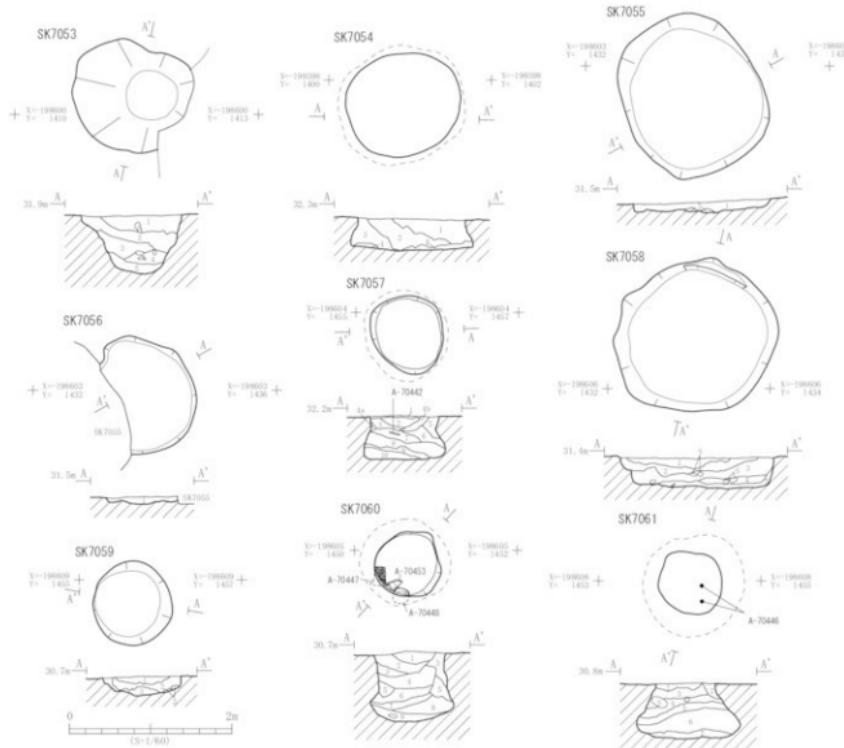
第7次調査2区東側中央のD-48グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK7062土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、西側が一部削平されている。平面形は84cm×67cmの円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは78cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土はV層を含む人為堆積層とみられ、9層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器24点が出土し、内3点を第290図、石器は石錐1点を第323図に示した。

SK7064土坑（第219図）

第7次調査2区東側中央のD-48グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK7061土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は156cm×89cmの不整形である。底面は中央が落ち込んで比高差10cm程の段差を有し、検出面から底面中央までの深さは22cmである。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体にして4層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器12点が出土し、内1点を第290図に示した。

SK7065土坑（第219図、国版86）

第7次調査2区東側北寄りのD-46グリッドに位置し、平成15年度確認調査のNトレンチV層で検出されたものである。平面形は123cm×71cmの隅丸長方形で、長軸方向はN-84°-Wである。底面はやや凹凸があるがほぼ平坦で、検出面からの深さは51cmである。壁は西側が一部オーバーハングしているが、その他は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は暗褐色系粘土質シルトを主体にして4層に分層される。遺物は出土していない。



SK	埋位	土色	性	施		備考
				層位	層	
7053	1 埋場	HYR3/2	シント	V型地少量、穂を少量含む。		
	2 埋場	HYR3/2	シント	1層に細粒、V型地少量、炭化物を少量含む。		
	3 埋場	HYR3/4	シント	V型地少々量、炭化物を少量含む。		
	4 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	穂さき有り、穂や多く、穂を少量含む。		
	5 埋場	HYR3/4	シント	穂を多く、V型地ブロック、粘土の集中が見られる。		
7054	1 埋場	HYR3/2	粘土	炭化物微量、V型地少量含む。		
	2 二重裏裏	HTB2/2	二重裏裏	V型地少量、V型地を少量含む。		
7055	3 埋場	HYR3/4	粘土	V型地を少含む。下にV型地紋が見られる。		
	4 埋場	HYR3/4	粘土	V型ブロック多量、炭化物を少量含む。		
	5 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	炭化物多量、粘土地微細、V型地を少量含む。		
	6 二重裏裏	HTB2/2	二重裏裏	V型地微量や多い。炭化物を少量含む。		
7056	1 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	炭化物微量、V型地を少量含む。		
	2 埋場	HYR3/4	シント	炭化物地微量、V型地を少量含む。		
	3 埋場	HYR3/4	シント	炭化物を少含む。下にV型地紋が見られる。		
	4 埋場	HYR3/4	シント	V型ブロック多量、炭化物を少量含む。		
	5 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	炭化物多量、粘土地微細、V型地を少量含む。		
	6 二重裏裏	HTB2/2	二重裏裏	V型地微量や多い。炭化物を少量含む。		
	7 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	炭化物微量、V型地を少量含む。		
	8 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	7層に粗粒、炭化物が増加し、表面に粗粒化する。		
	9 埋場	HYR4/4	粘土質シルト	V型ブロック主体。		
7057	10 黒場	HYR2/2	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。中位にV型地ブロック集中。		
	1 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	炭化物や少く、V型地を少量含む。小破片含む。		
	2 埋場	HYR3/4	粘土質シルト	炭化物や少く。		
7058	8 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	7層に粗粒、炭化物が増加し、表面に粗粒化する。		
	9 埋場	HYR4/4	粘土質シルト	V型ブロック主体。		
	10 黒場	HYR2/2	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。中位にV型地ブロック集中。		
	1 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	炭化物や少く、V型地を少量含む。小破片含む。		
	2 埋場	HYR3/4	粘土質シルト	1層に粗粒、中V型地を多く含む。		

第218図 繩文時代土坑 (47)

SK	埋位	土色	土性	施		備考
				層位	層	
7058	3 二重裏裏	HTB2/2	粘土質シルト	V型地微量、炭化物を少量含む。穂や多い。		
	4 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	炭化物多量含む。穂や少含む。		
	5 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	炭化物や少、穂や多くの含む。土器を含む。		
	6 埋場	HYR3/2	粘土質シルト	V型地微量含む。炭化物や少。灰白色の粘土質地。		
	7 埋場	HYR2/2	粘土質シルト	粘土質微量、炭化物微量含む。		
7059	1 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	2 埋場	HYR2/2	粘土	炭化物微量、V型地を少量含む。		
	3 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	4 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	5 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
7060	1 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	2 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	3 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	4 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	5 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	6 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	7 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
7061	1 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	2 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	3 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	4 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	5 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	6 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		
	7 埋場	HYR2/2	粘土	V型地微量、V型地を少量含む。		

SK7067土坑（第219図、国版86）

第7次調査2区東側南寄りのF-46グリッドに位置し、V層上面で検出された。北側にS X764焼土跡が存在する。南側が調査区外のため全体が明らかではないが、平面形は146cm×81cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは35cmである。壁は底面からやや開き気味に立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は3層に分層される。堆積土中から繩文土器11点が出土したが小片のみで復元できるものはない。石器では石皿1点が出土した。

SK7068土坑（第219図、国版86）

第7次調査2区東側南寄りのF-45グリッドに位置し、V層上面で検出された。ピットと重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は113cm×93cmの楕円形で、長軸方向はN-74°-Eである。底面は平坦で、検出面からの深さは13cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は2層に分層され、V層ブロックを含む。遺物は堆積土中から繩文土器5点が出土し、内1点を第290図に示した。

SK7069土坑（第219図）

第7次調査2区東側中央のD-50グリッドに位置し、V層上面で検出された。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は147cm×131cmの楕円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは32cmである。東壁際に46cm×38cm、深さ15cmのピットが存在する。壁は底面から緩やかに開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体に4層に分層される。遺物は出土していない。

SK7070土坑（第220図、国版86）

第7次調査2区中央南寄りのD-E-52グリッドに位置する。平成15年度確認調査2トレンチで確認されたものであり、VI層上面で検出された。S I 715堅穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が古く、南側が一部削平されている。平面形は169cm以上×190cmの円形を基調とするものである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは99cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土はV層を含む人為堆積層とみられ、10層に分層される。土層断面で2～10層が南側から斜方向に堆積する状況が認められた。遺物は堆積土中から繩文土器32点が出土し、内3点を第290図、石器は石鏃1点、石器1点を第323図に示した。

SK7071土坑（第220図）

第7次調査2区東側北寄りのB-C-49グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK7050土坑と重複関係にあり、本遺構が古く、搅乱により遺構の一部が削平されているが、平面形は104cm以上×93cm以上の楕円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは23cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は5層に分層され、V層粒・斑紋を含む。遺物は堆積土中から繩文土器474点が出土しており、内7点を第291図、石器は石鏃1点、スクレイバー1点、鍛石器2点、石皿1点を第324図に示した。

SK7072土坑（第220図）

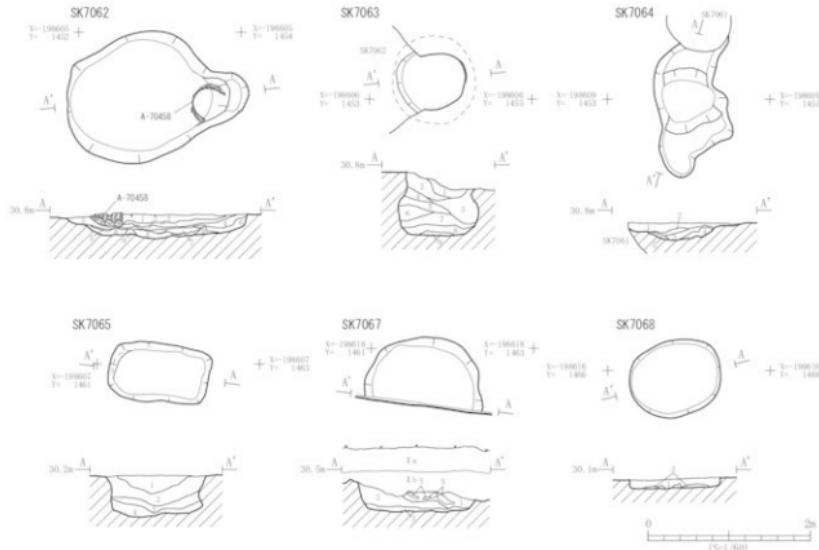
第7次調査2区中央のE-51・52グリッドに位置する。S I 715・716・718堅穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が最も新しく、3軒の堅穴住居跡上面で検出された。平面形は123cm×90cmの楕円形で、長軸方向はN-68°-Wである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは52cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土はV層を主体とする人為堆積層とみられ、3層に分層される。遺物は出土していない。

SK7073土坑（第220図、国版86）

第7次調査2区中央南寄りのE-51グリッドに位置し、S I 716堅穴住居跡の床面下のM層で検出されたことから、S I 716堅穴住居跡より本遺構が古い。平面形は90cm×75cmの不整な円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは65cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は褐色砂主体で2層に分層される。遺物は出土していない。

SK7074土坑(第220図、国版6)

第7次調査2区中央南寄りのE-51グリッドに位置する。S I 716竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は125cm×95cmの梢円形で、長軸方向はN-64°-Eである。底面は南西側に向かって緩やかに傾斜し、検出面からの深さは50cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は3層に分層され



SK	層位	土色	土性	備考
7062	1 動層 10YR2/2	粘土質シルト	炭化粒や多い、灰白色粘土層・ブロックを含む。	
	2 動層 10YR2/4	粘土質シルト	V層・プロック少量、炭化粒を少量含む。	
	3 動層 10YR2/2	粘土質シルト	砂土粒微量、V層ブロックを少量含む。	
	4 動層 10YR4/4	粘土質シルト	黄色ブロック1個。	
	5 こぶ・表面 HYR4/5	粘土質シルト	V層微粒・炭化粒を少量含む、砂を含む。	
	6 動層 10YR2/4	粘土質シルト	炭化粒多量、炭土粒微量、炭化粒を少量含む、粘土層を含む。	
	7 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒多量、粘土粒を少量含む、層全体の粒子が少く細かい。	
	8 こぶ・表面 HYR4/5	粘土質シルト	V層・ブロックや多い、鉱物を少量含む。	
	9 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒多量、粘土層含む。	
7063	1 動層 10YR2/2	粘土質シルト	V層粒を少量含む。	
	2 動層 10YR2/2	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	3 動層 10YR2/2	粘土質シルト	V層粒微量、V層粒を少量含む。	
	4 動層 10YR2/4	粘土質シルト	V層粒微量、炭土粒微量、炭化粒を少量含む。	
	5 こぶ・表面 HYR4/5	粘土質シルト	V層微粒や多い、V層ブロック含む。	
7064	1 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	2 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	3 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	4 動層 10YR2/4	粘土質シルト	V層粒微量、V層粒を少量含む。	
	5 こぶ・表面 HYR4/5	粘土質シルト	V層粒微量、V層粒を多量含む。	
7065	1 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	2 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	3 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	4 動層 10YR4/4	粘土質シルト	V層・ブロック1個。	
	5 動層 10YR2/3	粘土質シルト	V層粒微量、V層粒を少量含む。	
7067	1 動層 10YR2/2	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	2 動層 10YR2/2	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	3 動層 10YR2/2	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	4 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
	5 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒微量、V層粒を少量含む。	
7068	1 動層 10YR2/2	粘土質シルト	V層粒微量、V層粒を少量含む。	
	2 動層 10YR2/4	粘土質シルト	V層・ブロック微量。	
	3 動層 10YR2/4	粘土質シルト	V層・ブロック微量。	
	4 動層 10YR2/4	粘土質シルト	砂土粒微量、V層粒を少量含む。	
	5 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒多量、粘土粒を微量含む、砂を含む。	
7069	1 動層 10YR2/2	粘土質シルト	V層粒微量、V層粒を少量含む。	
	2 動層 10YR2/2	粘土質シルト	1層に颗粒、砂を含む。	
	3 動層 10YR2/4	粘土質シルト	V層粒微量、炭化粒を少量含む。	
	4 動層 10YR2/4	粘土質シルト	砂土粒微量、V層粒を少量含む。	
	5 動層 10YR2/3	粘土質シルト	炭化粒多量、粘土粒を微量含む、砂を含む。	

第219図 繩文時代土坑(48)

る。遺物は堆積土中から縄文土器1点が出土し、第290図に示した。

SK7075土坑（第220図、国版87）

第7次調査2区中央南寄りのE-52グリッドに位置し、S I 715竪穴住居跡の床面下のM層で検出されたことから、S I 715竪穴住居跡より本遺構が古い。平面形は130cm×74cm以上の楕円形を基調とするものと考えられ、長軸方向はN-25°-Wである。底面は緩やかに南側へ向かって傾斜し、検出面からの深さは28cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器35点が出土し、内1点を第290図に示した。その他に礫石器1点が出土している。

SK7076土坑（第220図、国版87）

第7次調査3区東側南寄りのI-27・28グリッドに位置し、N層上面で検出された。北東側にSK7076土坑が存在する。平面形は190cm×146cmの楕円形で、長軸方向はN-15°-Wである。底面には凹凸が認められ、中央に向かって緩やかに傾斜し、検出面からの深さは25cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は人為堆積層とみられ4層に分層される。中央には40cmの大型礫が横倒しの状態で検出され、その周囲に小型の礫が散乱していた。遺物は堆積土中から縄文土器4点が出土し、第290図に示した。石器はスクレイバー1点、微細剝離痕のある剥片1点が出土した。

SK7077土坑（第220図、国版87）

第7次調査3区東側南寄りのI-27グリッドに位置し、V層上面で検出された。南西側にSK7076土坑が存在している。平面形は106cm×99cmの不整円形である。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは13cmである。壁は底面から緩やかに開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は2層に分層される。底面中央から30~40cmの大型の礫がまとまって検出されている。石器は石皿1点が出土した。

SK7078土坑（第221図、国版87）

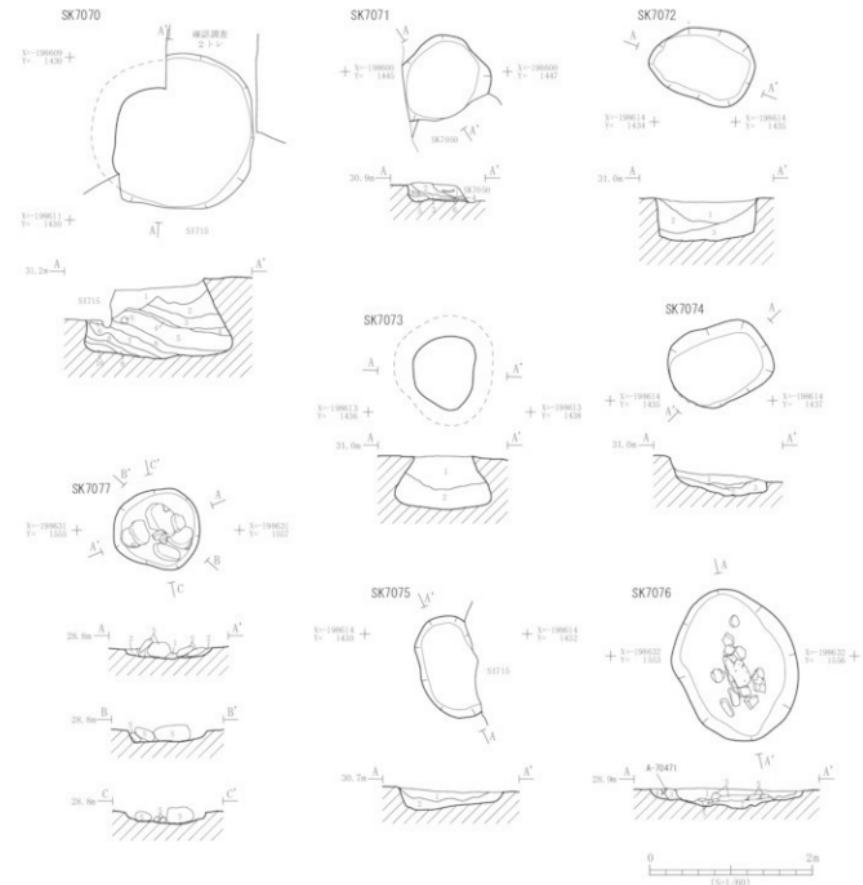
第7次調査3区東側中央のG-27グリッドに位置し、N層上面で検出された。南~西側を搅乱によって削平されている。平面形は110cm×105cm以上の円形を基調とするものである。底面はほぼ平坦で、検出面からの深さは43cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は円筒形である。堆積土はV層を含んでおり、2層に分層される。底面から20~30cmの礫がまとまって検出されている。遺物は堆積土中から縄文土器105点が出土し、内4点を第292図、石器は石錐1点を第323図に示した。

SK7079土坑（第221図、国版87）

第7次調査3区中央南寄りのH-29グリッドに位置し、N層上面で検出された。南側にS I 725竪穴住居跡が存在している。平面形は162cm×141cmの楕円形である。底面は平坦で検出面からの深さは12cmである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっており、断面形は箱形である。堆積土は黒~暗褐色系粘土質シルト層で6層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器11点が出土しており、内1点を第292図に示した。

SK7080土坑（第221図）

第7次調査3区中央南寄りのG・H-27グリッドに位置し、N層上面で検出された。S I 602竪穴住居跡・SK7081土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。中央が搅乱により大きく削平されているため残存状況は悪いが、平面形は224cm×189cm以上の不整な楕円形を基調としたものと考えられる。底面は凹凸が見られるがほぼ平坦で、検出面からの深さは59cmである。壁は底面から緩やかに開いて立ち上がり断面形は皿形である。堆積土は6層に分層され、3層では炭化物を多く含み、全長20mm以下の棒状の粘土塊が多数検出された。遺物は堆積土中から縄文土器270点が出土しており、内9点を第291図に示した。石器は礫石器他4点が出土している。



SK	層位	土色	土性	場所	
				1	2
7070	1	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	炭化粒多量、焼土軽多量、V層灰を多く含む。
	2	黒褐色	HYR3-2	1層に細粒、色調不明らしく。	
	3	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	2層に細粒、V層灰プロックを含む。
	4	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	灰化粒とV層灰を含む。
	5	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	V層灰プロックを主体、炭化粒を少量含む。
	6	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	灰化粒や少量化。
	7	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	V層灰を含む。
	8	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	V層灰多量。
	9	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	粘土質灰く、炭化粒や少量化。
	10	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	V層灰を含む。
7071	1	黒褐色	HYR3-2	繊維状有り、繊維状有り、炭化粒が多くなる。	
	2	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	繊維状・韧性有り、炭化粒多量、焼土軽を微量含む。
	3	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	炭化粒を多量に含む、黑色鐵紋土。
	4	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	V層灰を少量含む。
	5	こいの葉形	HYR3-2	粘土質シルト	V層灰を含む。
	6	黒褐色	HYR3-2	粘土質シルト	V層灰を少量含む。

SK	層位	土色	土性	場所	
				1	2
D7072	1	褐色	BYR3-3	粘土質シルト	炭化粒を少量含む。
D7072	2	こいの葉形	BYR3-3	こいの葉形	V層灰を多量に含む。
D7073	2	褐色	BYR4-4	シルト	V層プロックを多量に含む。
D7074	1	褐色	BYR4-4	シルト	
D7074	2	褐色	BYR4-4	シルト	45cm深幅。
D7075	2	褐色	BYR4-4	シルト	褐褐色土からラブナ付見られる。
D7076	1	褐色	BYR5-2	粘土質シルト	粘土和骨粉、V層灰少量、炭化粒を少量含む。
D7076	2	褐色	BYR4-4	粘土質シルト	V層プロック主体、炭化粒を微量含む。
D7076	3	褐色	BYR4-4	粘土質シルト	炭化粒を少量化。
D7077	1	褐色	BYR5-2	粘土質シルト	炭化粒微量、V層プロックを多量に含む。
D7077	2	褐色	BYR5-2	粘土質シルト	炭化粒微量、V層灰を少量含む。
D7077	3	褐色	BYR5-2	粘土	V層灰を多量に含む。
D7077	4	褐色	BYR4-4	シルト質粘土	褐色土・韧性・柔軟性に強い。
D7077	5	褐色	BYR4-4	粘土質シルト	V層灰を多量に含む。
D7077	6	褐色	BYR4-4	シルト質粘土	炭化粒を少量含む、V層鐵紋が上位に集中。
D7077	7	褐色	BYR5-2	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。

第220図 繩文時代土坑(49)

SK7081土坑（第221図、国版87）

第7次調査3区東側南寄りのH-27グリッドに位置し、V層上面で検出された。SK7081土坑、S I 601・602堅穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が古く、これらの遺構や搅乱により上部が削平されている。平面形は137cm×134cmの円形である。底面に凹凸がみられるがほぼ平坦で、検出面からの深さは53cmである。壁は底面からオーバーハングまたはほぼ垂直に立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は2層に分層され、炭化物・焼土を含む。遺物は1・2層から縄文土器2片が出土したが小片のため図化しなかった。礫石器1点が出土している。

SK7082土坑（第221図、国版88）

第7次調査3区中央のG・H-30グリッドに位置し、V層上面で検出された。古代のS I 1722堅穴住居跡の床面下で検出されたことから、本遺構がS I 1722堅穴住居跡より古い。北側の一部は搅乱により削平されている。平面形は163cm×96cm以上の楕円形を基調とするもので、検出面からの深さは32cmである。底面は平坦で、壁は東側では一部オーバーハングする部分もみられるが、ほぼ垂直に立ち上がり断面形は箱形である。堆積土は暗褐色系粘土質シルト層を主体にして6層に分層される。遺物は出土していない。

SK7083土坑（第221図、国版88）

第7次調査3区西側北寄りのE-31グリッドに位置し、V層上面で検出された。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は200cm×121cmの不整楕円形である。底面は平坦で、検出面からの深さは43cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色粘土で3層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器が11点出土しているが小片のため図化できなかった。石器は礫石器9点を第325・326図に示した。

SK7084土坑（第221図、国版88）

第7次調査3区中央のG-28グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK7085土坑が存在する。搅乱によって削平されているため残存状況は悪いが、平面形は129cm以上×97cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは43cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土はV層を含む人為堆積層とみられ、6層に分層される。遺物は縄文土器21点が出土したが、図化できるものはなかった。石器は礫石器1点が出土した。

SK7085土坑（第222図、国版88）

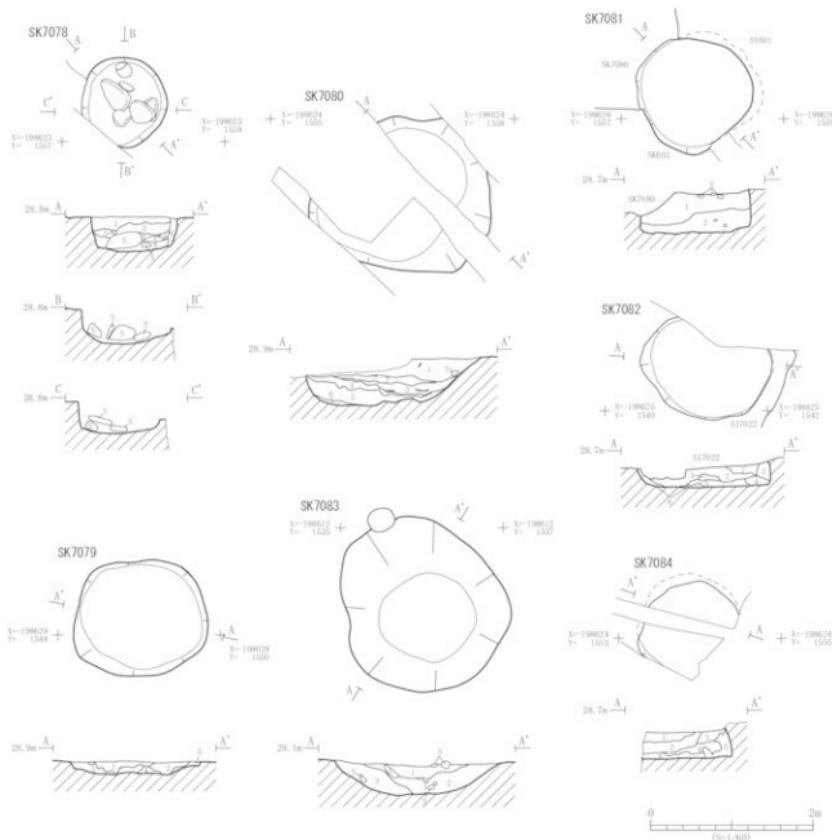
第7次調査3区中央のG-28グリッドに位置し、V層上面で検出された。東側にSK7084土坑が存在する。南北を搅乱によって削平されており残存状況は悪いが、平面形は120cm×59cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは45cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は6層に分層される。遺物は底面中央から深鉢の大型破片が出土している。その他の遺物は堆積土中から縄文土器8点が出土し、内2点を第295図、石器は礫石器2点を第326図に示した。

SK7086土坑（第222図、国版87）

第7次調査3区西側中央のF・G-30グリッドに位置し、V層上面で検出された。南側が搅乱により削平されている。平面形は143cm×107cm以上の円形を基調とするものと考えられる。底面は平坦で、検出面からの深さは37cmである。壁は底面から垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。堆積土は3層に分層されV層を含んでいる。遺物は堆積土中から縄文土器110点が出土し、内8点を第293図に示した。

SK7087土坑（第222図、国版88）

第7次調査3区西側中央のF・G-31グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側にSK7088土坑が存在する。平面形は178cm×122cmの楕円形で、長軸方向はN-29°-Wである。底面は若干凹凸があるがほぼ平坦で、検出面からの深さは68cmである。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状である。堆積土は炭化物粒・焼土粒を含む人為堆積層と考えられ、10層に分層される。遺物は堆積土中層から完形の深鉢（A-70506）



SK	層位	土 色	土 性	備 考
7078	1 動層 HYTR2-2	シント質粘土	炭化木・焼け柱を量に含む。	
	2 黒泥 HYTR2-2	シント質粘土	V層繊維柱を量含む。土塊小碎片含む。	
	3 黒泥 HYTR2-2	粘土	炭化木・焼け柱を量含む。	
	4 黒泥 HYTR2-2	粘土	炭化木多量・焼け柱微量。V層ノックを含む。	
	5 黒泥 HYTR2/2-3	粘土	織き立・粘土非常少・強。炭化柱を少量含む。	
	6 黒泥 HYTR2-4	シント質粘土	V層ノックを含む。	
7079	1 黒泥 HYTR2-2	シント質粘土	炭化柱・焼け柱を量含む。	
	2 黒泥 HYTR2-2	粘土質シルト	V層繊維柱を量含む。土塊小碎片含む。	
	3 黒泥 HYTR2-2	粘土	炭化木・焼け柱を量含む。	
	4 黒泥 HYTR2-4	シルト	層全体がV層の織紋状。	
	5 黒泥 HYTR2-4	シルト	織き立・粗粒性有り。層全体がV層の織紋状。	
7080	1 動層 HYTR2-2	シント質粘土	炭化木多量・燒け柱を量含む。土塊小碎片含む。	
	2 黒泥 HYTR2-2	粘土	炭化柱が土壌化してようう層。骨片を少量含む。	
	3 動層柱 5TR3-2	粘土	焼エフロ・焼け柱多量に含む。	
	4 黒泥 HYTR2-1	シント質粘土	炭化柱を多量に含む。	
	5 動層 HYTR2-4	粘土質シルト	V層ノックを少量含む。	
	6 黒泥 HYTR2-4	粘土質シルト	V層ノック・焼け柱・焼柱含む。	

SK	層位	土 色	土 性	備 考
7081	1 動層 HYTR2-2	粘土	V層繊・ブロック多量・焼け柱・炭化柱を少量含む。	
	2 動層 HYTR2-2	粘土シルト	炭化柱多量・土塊柱多量に含む。	
	3 黒泥 HYTR2-2	粘土シルト	子体とV層・炭化柱・土塊柱・焼け柱のブロックが集中。	
	1 黒泥 HYTR4-4	粘土質シルト	V層柱・ブロック多量・焼け柱少量含む。	
	2 黒泥 HYTR4-4	砂質シルト	子体とV層・炭化柱・土塊柱・焼け柱少量含む。	
	3 黒泥 HYTR4-4	シルト・質粘土	子体少・V層・炭化柱・土塊柱を微量含む。	
7082	4 黑泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	炭化柱多量・V層の織紋柱を含む。	
	5 黑泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	V層柱多量・炭化柱を微量含む。	
	6 黑泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	V層柱多量・炭化柱多量に含む。	
	7 黑泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	V層柱多量・炭化柱を微量含む。	
	8 黑泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	V層柱多量・炭化柱を微量含む。	
7083	1 黒泥 HYTR2-2	粘土	V層柱少・焼け柱・土塊柱・炭化柱を少量含む。	
	2 黒泥 HYTR2-2	粘土シルト	炭化柱多量・土塊柱多量に含む。	
	3 黒泥 HYTR2-2	粘土	子体とV層・炭化柱・土塊柱・焼け柱のブロックが集中。	
	4 黒泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	V層柱多量・焼け柱少量含む。	
	5 黒泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	子体少・V層・炭化柱・土塊柱を微量含む。	
7084	6 黒泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	炭化柱多量・V層の織紋柱を含む。	
	7 黑泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	V層柱多量・炭化柱を微量含む。	
	8 黑泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	V層柱多量・炭化柱多量に含む。	
	9 黑泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	V層柱多量・炭化柱を微量含む。	
	10 黑泥 HYTR2-2	シルト・質粘土	V層柱多量・炭化柱を微量含む。	

第221図 繩文時代土坑(50)

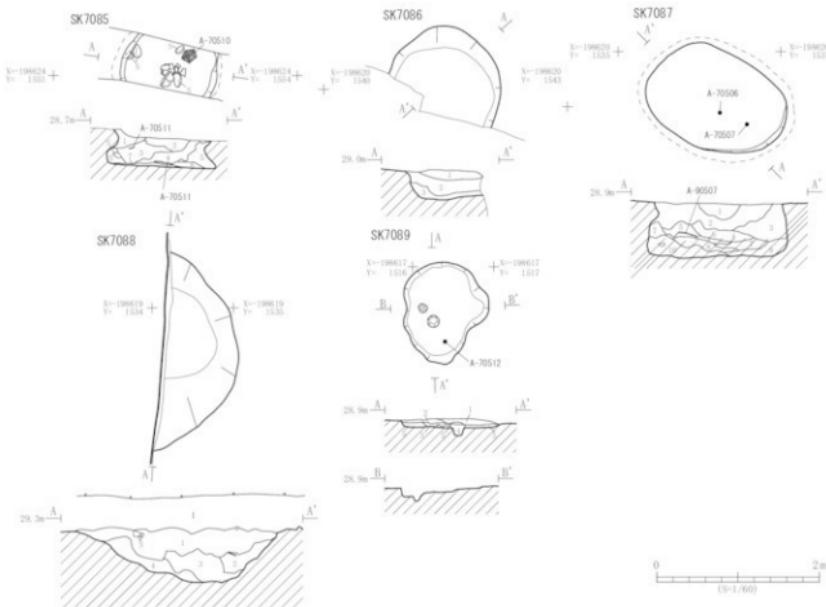
が横位の状態で出土している。その他に堆積土中から縄文土器48点が出土し、内1点を第294図、石器は疊石器2点を第326図に示した。

SK7088土坑（第222図）

第7次調査3区西側中央のF-31・32グリッドに位置し、V層上面で検出された。西側が調査区外となるため全体は不明である。平面形は244cm以上×90cm以上で円形を基調とするものと考えられる。底面は北側に向かって緩やかに傾斜しており、検出面からの深さは62cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土中から縄文土器194点が出土し、内5点を第292図に示した。

SK7089土坑（第222図、国版111）

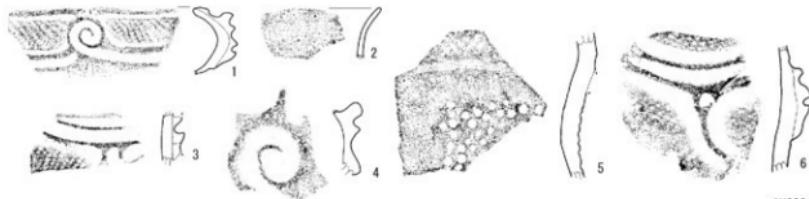
第7次調査1区東側中央のF-35グリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出された。北側にSK7007土坑、北西にSX726・727埋設土器、南東にSX734焼土跡が存在する。平面形は125cm×102cmの不整な橢円形である。底面は凹凸が見られるがほぼ平坦で、西側に向かって緩やかに傾斜している。検出面からの深さは11cmである。中央からやや南西寄りで直径14cm、深さ9cm、またその北西側から直径10cm、深さ10cmの2個のビットが検出された。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は5層に分層され、1層は焼土ブロックが多量に混入している。遺物は1層中から赤彩の施された人面をモチーフにした土器片が検出され、第295図に示した。3は深鉢あるいは浅鉢形土器の口縁部に人面状の突起が貼付されたものである。突起の頂部には隆線による渦巻文が貼付され赤彩が施されている。眼は円形の刺突文によって表現されており、貼付によって整形され通った鼻筋の先端部分には鼻孔が刺突文で2ヵ所表現されている。また、鼻の下には沈線などの表現はないが、器面が僅かに凹んでおり、口を表現しているように見える。胎土には雲母を含み、内外面ともにミガキが顕著に施されている。石器は、石錐1点を第326図に示した。



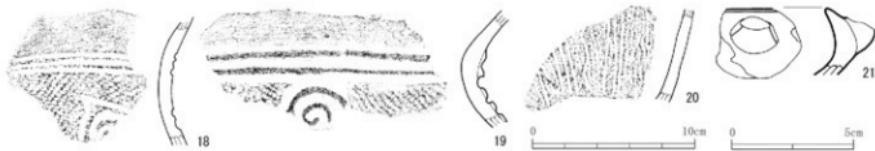
SK	場所	土色	土性	地質	
				層位	考
7085	1 鳥居 10YR4/4	シルト	V層粘土を少量含む。上部にV層ブロックが集中。	6 动層 10YR4/4	シルト・粗粘土 炭化粘土・他土粒微量、V層粘土を少量含む。
	2 黄褐色 10YR6/6	シルト	V層粘土多量、炭化粘土を微量含む。	7 土 10YR4/4	シルト V層粘土・ブロカット多量、炭化粘土を微量含む。
	3 鳥居 10YR3/4	シルト質粘土	V層粘土多量、炭化粘土を少量含む。	8 动層 10YR3/4	粘土 V層粘土・炭化粘土を微量含む。
7086	4 壁 10YR4/4	粘土質シルト	V層粘土を少量含む。	9 土 10YR3/4	シルト質粘土 V層粘土を少量含む。円礫含む。下端に砂質。
	5 黄褐色 10YR6/6	シルト	層分帶がV層の隕結状。	10 动層 10YR3/4	粘土 炭化粘土微量含む。層末間にV層粘土が集中。
	6 壁 10YR4/4	粘土	層分帶がV層の隕結状。	1 动層 10YR3/2	粘土質シルト 土器付微量、円礫を少量含む。
	7 壁 10YR4/4	シルト	層分帶がV層の隕結状。V層一個。	2 动層 10YR2/3	シルト質粘土 V層粘土を少量含む。円礫多量、土壤片を含む。
7088	1 鳥居 10YR2/2	粘土	内埋埋量、多量の遺物を含む。	3 动層 10YR2/3	シルト質粘土 V層粘土を少量含む。多量の土器片を含む。
	2 鳥居 10YR2/2	粘土	下层 V層粘土、圓礫少額。	4 土 10YR3/4	シルト質粘土 層全段 V層一個。
	3 黄褐色 10YR6/6	シルト	層分帶がV層の隕結状。	5 土 10YR4/4	粘土 V層埋量、炭化粘土を少量含む。門檻含む。
7089	1 鳥居 10YR3/2	粘土	炭化粘土微量、V層粘土少量含む。門檻含む。	6 土 10YR4/4	シルト V層埋量、炭化粘土微量含む。
	2 鳥居 10YR3/4	粘土	V層粘土、炭化粘土を少量含む。門檻増加。	7 土 10YR4/4	シルト V層埋量微量、炭化粘土微量含む。
	3 壁 10YR4/4	粘土質シルト	V層粘土、ブロカット微量、門檻を少量含む。	8 土 10YR4/4	シルト V層埋量微量、炭化粘土微量含む。
	4 壁 10YR3/4	シルト	V層埋量多量、門檻を少量含む。	9 土 10YR4/4	シルト V層埋量微量、炭化粘土微量含む。
	5 鳥居 10YR3/2	シルト質粘土	多量のV層粘土隕結状。炭化粘土を少量含む。	10 土 10YR4/4	シルト V層埋量微量。

第222図 繩文時代土坑 (51)

SK	場所	土色	土性	地質	
				層位	考
7087	6 动層 10YR4/4	シルト質粘土	炭化粘土・他土粒微量、V層粘土を少量含む。	7 土 10YR4/4	シルト V層粘土・ブロカット多量、炭化粘土を微量含む。
	8 动層 10YR3/4	粘土	V層粘土・炭化粘土を微量含む。	9 土 10YR3/4	シルト V層粘土を少量含む。円礫含む。下端に砂質。
	10 动層 10YR3/4	シルト質粘土	V層粘土を少量含む。円礫含む。層末間にV層粘土が集中。	1 动層 10YR3/2	粘土質シルト 土器付微量、円礫を少量含む。
7088	1 动層 10YR2/3	粘土質粘土	炭化粘土微量含む。層末間にV層粘土を含む。	2 动層 10YR2/3	シルト質粘土 V層粘土を少量含む。円礫多量、土壤片を含む。
	3 动層 10YR1/1	シルト質粘土	層全段 V層一個。	4 土 10YR3/4	シルト質粘土 V層埋量微量、炭化粘土微量含む。
	5 土 10YR4/4	シルト	V層埋量微量、炭化粘土微量含む。	6 土 10YR4/4	シルト V層埋量微量。



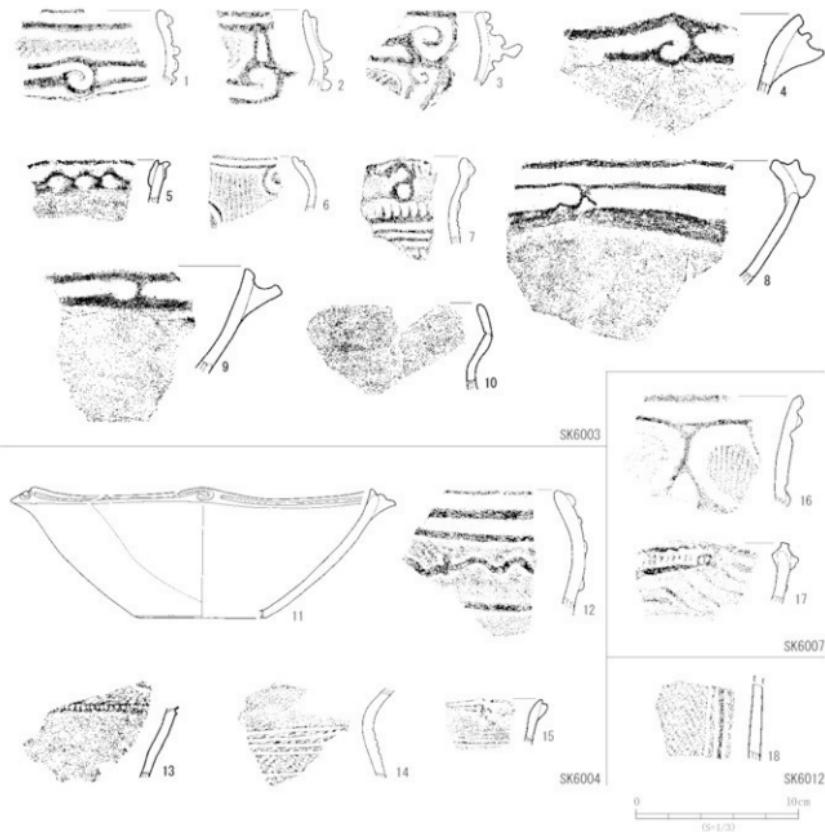
SK6001

0 10cm 0 5cm
(S=1/3) (S=1/2)

SK6002

No.	目録番号	遺 墓	層	形	記 形	層位	2種類	層	考	目録番号
1.	A-60163	SK6001	海耕土	深鉢	口縁～脚部	口縁部、褐色の横縞文、区画内の網文、L型・網位施文、脚部、無文。	—	—	—	17D-1
2.	A-60164	SK6001	海耕土	小型深鉢	口縁部	無文。	—	—	—	—
3.	A-60165	SK6001	海耕土	深鉢	脚部	区画の横縞文、網文L型・網位施文。	—	—	—	—
4.	A-60166	SK6001	海耕土	深鉢	口縁部	褐色の横縞文。	—	—	—	—
5.	A-60167	SK6001	海耕土	深鉢	脚部	区画の横縞文、区画内に横縞文。	—	—	—	—
6.	A-60168	SK6001	海耕土	深鉢	脚部	区画の横縞文、網文L型・網位施文。	—	—	—	—
7.	A-60169	SK6002	中層	深鉢	口縁～脚部	口縁部、褐色の横縞文、区画内の網文、L型・網位施文、脚部、無文。	—	—	—	17D-2
8.	A-60170	SK6002	上～中層	深鉢	口縁部	褐色の横縞文、区画内の網文、L型・網位施文。	—	—	—	17D-3
9.	A-60171	SK6002	上～中層	深鉢	口縁部	褐色の横縞文、区画内の網文、L型・網位施文。	—	—	—	17D-4
10.	A-60172	SK6002	上～中層	小型深鉢	口縫部	褐色把手手、褐色・小波状隕縞文、柄部平行沈縞文、互立斜文。	—	—	—	—
11.	A-60173	SK6002	上～中層	小型深鉢	口縫部	褐色の横縞文、網文L型・網位施文。	—	—	—	—
12.	A-60174	SK6002	上～中層	深鉢	口縫部	褐色の横縞文、区画内の網文、L型・網位施文。	—	—	—	—
13.	A-60175	SK6002	上～中層	深鉢	口縫～脚部	(縫部)「S」字状隕縞文、連続網文、柄部小波状隕縞文、脚部、弧状沈縞文。	—	—	—	17D-5
14.	A-60176	SK6002	上～中層	深鉢	口縫部	褐色縞文、弧状沈縞文、網文L型・網位施文。	—	—	—	17D-7
15.	A-60177	SK6002	中層	深鉢	口縫部	「S」字状隕縞文、褐色縞文、網文L型・網位施文。	—	—	—	17D-8
16.	A-60178	SK6002	上～中層	深鉢	脚部	褐色の横縞文、褐色縞文、網文L型・網位施文。	—	—	—	—
17.	A-60179	SK6002	上～中層	深鉢	脚部	褐色縞文、網文L型・網位施文。	—	—	—	17D-9
18.	A-60180	SK6002	上～中層	深鉢	脚部～脚部	脚部、無文、網文沈縞文、網部、褐色沈縞文、網文L型・網位施文。	—	—	—	—
19.	A-60181	SK6002	上～中層	深鉢	脚部～脚部	脚部、無文、網文沈縞文、網部、褐色沈縞文、網文L型・網位施文。	—	—	—	—
20.	A-60182	SK6002	上～中層	深鉢	脚部	褐色の横縞文、網文L型・網位施文。	—	—	—	—
21.	P-6013	SK6002	上～中層	二三脚ア士器	チナ。	—	S=1/2,	—	—	—

第223図 土坑出土遺物（1）



器物番号	造	構	規	形	部位	文様等	標	写真版
1. A-60183	SK6003	海賊土	深鉢	口縁部	油色陰沈模文、区画内繩文SL、部位無文。	3上同...	172-9	
2. A-60184	SK6003	海賊土	深鉢	口縁部	油色陰沈模文、区画内明輪文BL。	-	-	
3. A-60185	SK6003	海賊土	深鉢	口縁部	油色安斜、油色陰沈模文、区画内繩文BL、部位無文。	1上同...	172-10	
4. A-60186	SK6003	海賊土	深鉢	口縁部	口縁部、油色陰沈模文、部位無文。	直状口縁、	-	
5. A-60187	SK6003	海賊土	深鉢	口縁部	油面押出小波、油色陰沈模文	-	-	
6. A-60188	SK6003	海賊土	深鉢	口縁部	油色陰沈模文、繩文SL、部位無文。	-	-	
7. A-60189	SK6003	海賊土	小型浅鉢	口縁部	有刻痕纹小波状、口周繩文、柄位連續刻突文、押出弦文SL、部位無文。	-	-	
8. A-60190	SK6003	2層	浅鉢	口縁部	口縁部、口周部、部位無文。	-	-	
9. A-60191	SK6003	2層	浅鉢	口縁部、口周部、側面	口縁部、油色陰沈模文、刻痕、部位無文。	小波状口縁、	-	
10. A-60192	SK6003	海賊土	深鉢	口縁部、側面	口縁部、油色陰沈模文、刻痕、十字。	内面輪摺痕顯著、	-	
11. A-60193	SK6004	海賊土	深鉢	口縁部、側面	浅狀、油色陰沈模文、繩文SL、部位無文。	直状口縁、	172-11	
12. A-60194	SK6004	海賊土	深鉢	側面	側面、油位隠伏模文、刻突文、繩文BL、部位無文、底部無文。	-	172-12	
13. A-60195	SK6004	海賊土	深鉢	口縁部	口縁部、油位隠伏模文、刻突文、繩文BL、部位無文、底部無文。	-	172-13	
14. A-60196	SK6004	1層	深鉢	口縁部	底部無文、側面、油色陰沈模文、繩文BL、部位無文。	-	-	
15. A-60197	SK6004	海賊土	小型浅鉢	口縁部	油色陰沈模文、柄位陰沈模文。	口周部内面陰沈刻痕、	-	
16. A-60198	SK6002	海賊土	深鉢	口縁部	油色陰沈模文、区画内繩文SL、部位無文。	直状口縁、	172-15	
17. A-60199	SK6007	海賊土	深鉢	口縁部	柄位小波状、直状陰沈模文、柄位連續刻突文。	厚底直SL、	172-14	
18. A-60200	SK6012	海賊土	深鉢	側面	部位隠伏模文的陰沈模文、繩文SL、部位無文。	-	-	

第224図 土坑出土遺物（2）

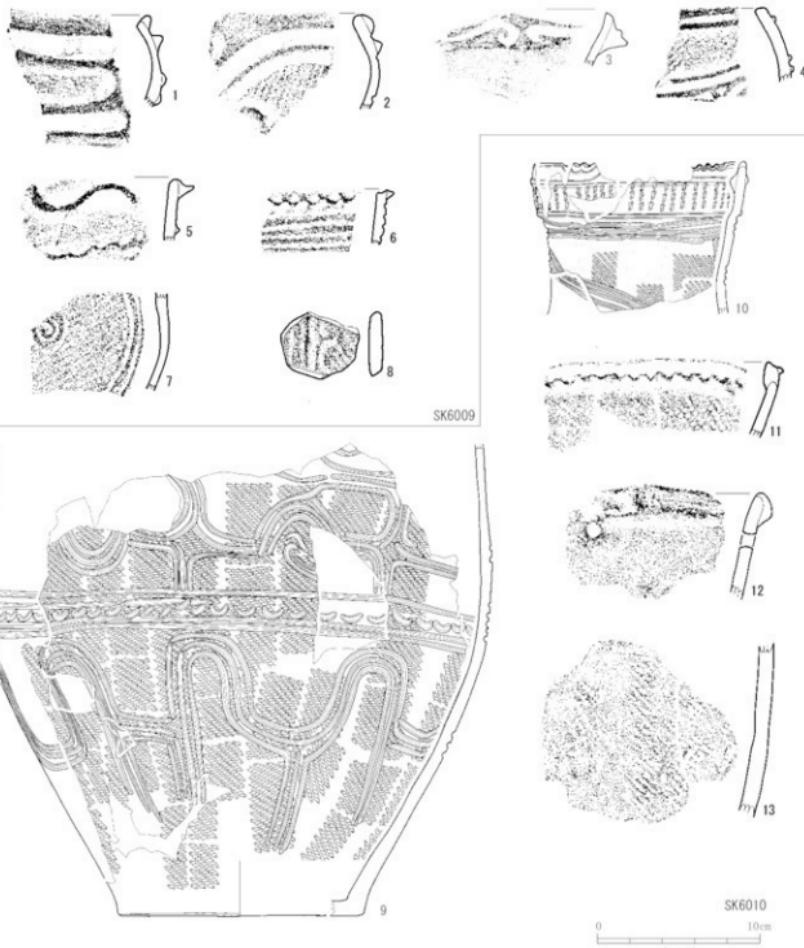


件名番号	造形	層位	器形・部位	文様等	備考	写真回数
1 A-60201 SK6005 上層	深鉢・口経部			曲唇・深鉢文、口内織文上部網目施文。	-	172-18
2 A-60202 SK6005 上層	深鉢・口経部			曲唇・深鉢文、不明不明織文施文。	摩滅度しい。	-
3 A-60203 SK6005 下層	深鉢・口経部			曲唇・深鉢文。	摩滅度しい。	-
4 A-60204 SK6005 中層	深鉢・頭部～胸部			頭部・横化降沈織文、胸部・横位沈織文、扭光織文。	10と同一。	-
5 A-60205 SK6005 下層	深鉢・胸部			頭部・横化沈織文、胸部・L字網目施文。	摩滅度しい。	-
6 A-60206 SK6005 下層	深鉢・胸部			頭部・横化沈織文、織文L字網目施文。	-	-
7 A-60207 SK6005 下層	深鉢・胸部			頭部・ラジニア式・鉛付降沈織文、織文L字網目施文。	-	172-28
8 A-60208 SK6005 中層	深鉢・胸部			頭部・ラジニア式・鉛付降沈織文、織文L字網目施文。	-	-
9 A-60209 SK6005 中層	深鉢・胸部			頭部・降沈織文、鉛付降沈織文、織文L字網目施文。	-	172-16
10 A-60210 SK6005 上層	深鉢・胸部			頭部・L字網目施文、織文L字網目施文。	4と同一。	172-21
11 A-60211 SK6005 中層	深鉢・胸部			頭部・降沈織文、織文L字網目施文。	-	172-22
12 A-60212 SK6005 中層	深鉢・胸部			頭部・降沈織文、織文L字網目施文。	-	172-17
13 A-60213 SK6005 中層	深鉢・口経～胸部			頭部・降沈織文、織文L字網目施文。	-	-
14 A-60214 SK6005 上層	深鉢・胸部			頭部・降沈織文、織文L字網目施文。	-	-

第225図 土坑出土遺物（3）

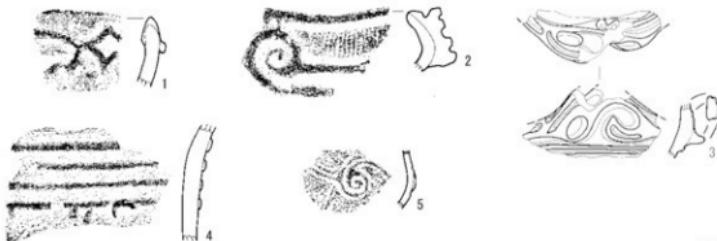


第226図 土坑出土遺物（4）

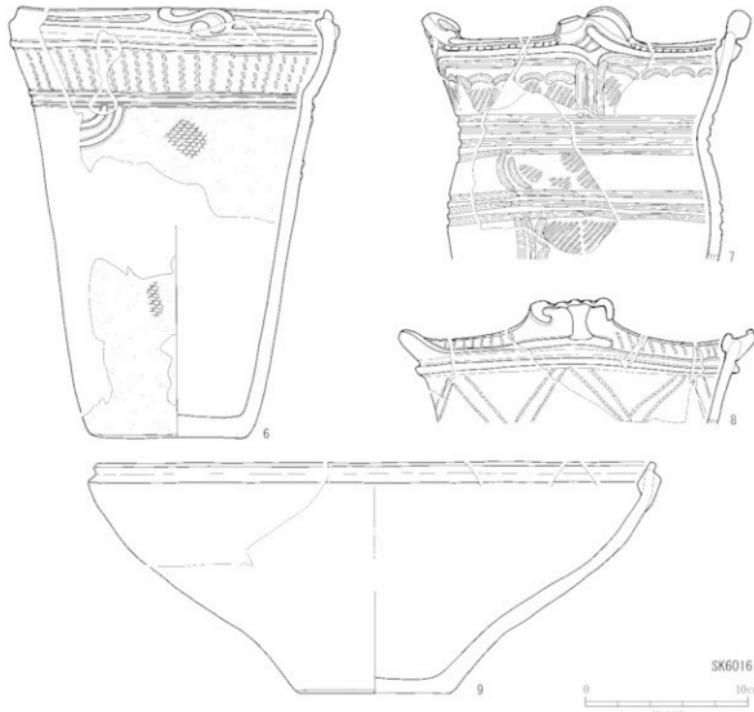


No.	目録番号	通 備	規 格	説 明・部位	文様等	施 考	参考図版
1	A-66205	SK6006	海綿土	深鉢、口縁部	波面斜文、波面内不規則文施文。	波紋模多見考略(1)	17-1
2	A-66203	SK6009	海綿土	深鉢、口縁部	波面斜文波文、波面内濃文E形斜位施文。	-	17-2
3	A-66204	SK6009	海綿土	小型の深鉢、口縫～側縫	口縫部、波谷斜文波文、側縫無文。	小窓状口縫。	17-3
4	A-66205	SK6009	下縫	深鉢、口縫部	隕紋文、織文EJ、網位施文。	器面の摩滅度しきい。	-
5	A-66206	SK6009	中縫	深鉢、口縫部	(S)字斜斜文、横位斜往來狀斜文。	器面の摩滅度しきい。	17-4
6	A-66207	SK6009	海綿土	深鉢	細密斜生波状斜文、斜往來EJ網位施文。	器面の摩滅度しきい。	17-5
7	A-66208	SK6009	海綿土	深鉢、斜縫	細各斜斜文、織文EJ、網位施文。	-	17-6
8	P-6611	SK6009	海綿土	上縫	斜面斜斜利用、斜張、織文、織文EJ、網位施文。	-	-
9	A-66209	SK6010	上縫	深鉢、斜縫	斜縫、斜張、斜EJ、網位斜斜文。	波紋模多見考略(2)	17-10
10	A-66210	SK6010	海綿土	深鉢、口縫部	口縫部E形斜波狀斜文、斜往來EJ網位施文。	突起火照。	17-9
11	A-66211	SK6010	上縫	深鉢、口縫～側縫	口縫部E形斜波狀斜文。	斜縫、織文EJ、網位施文。	17-7
12	A-66212	SK6010	上縫	深鉢、口縫～側縫	口縫部、細門E形斜波狀斜文、斜波文EJ斜往來EJ施文。	網位EJ、網位斜波狀斜文。	17-8
13	A-66213	SK6010	上縫	深鉢、斜縫	織文EJ網位施文。	-	-

第227図 土坑出土遺物（5）



SK6014



SK6016

號	發現番號	地	標	期	層	說明	文樣等	備考	年代類別
1	A-60244	SH0044	上層	深鉢	口緣部	波浪，葉形狀隕文。		-	-
2	A-60245	SH0044	上層	深鉢	口緣部	波浪，葉形狀隕文，橫文凹印，斜位隕文。		-	-
3	A-60246	SH0044	上層	深鉢	口緣部	波浪，橫位波浪文。	波浪口緣。	-	-
4	A-60247	SH0044	上層	深鉢	口緣部	波浪，橫位，橫位隕文。不明隕文橫文。	橫位文刻劃。	-	-
5	A-60248	SH0044	上層	深鉢	口緣部	波浪橫文，橫文L形橫位無文。	-	-	175-11
6	A-60249	SH0045	海耕土	深鉢	口緣~底部	口緣部:波浪，橫位波浪文，橫位橫文L形橫位無文。側底:低波浪文，橫文凹印，斜位無文，底底:十字。		-	-
7	A-60250	SH0045	海耕土	深鉢	口緣~側底	口緣部:邊緣橫文，低波~橫位，橫位波浪文，側底:低波~橫位，橫位波浪文，橫文凹印，斜位無文。	波浪口緣。	-	-
8	A-60251	SH0046	海耕土	深鉢	口緣~側底	口緣部:橫位橫文，橫位波浪文，橫位橫文，橫位波浪文，橫位無文。	波浪口緣。	-	-
9	A-60252	SH0046	海耕土	深鉢	口緣~底部	口緣部:橫位橫文，側底:十字，底底:十字。	-	-	174-2

第228図 土坑出土遺物（6）



第229図 土坑出土遺物（7）

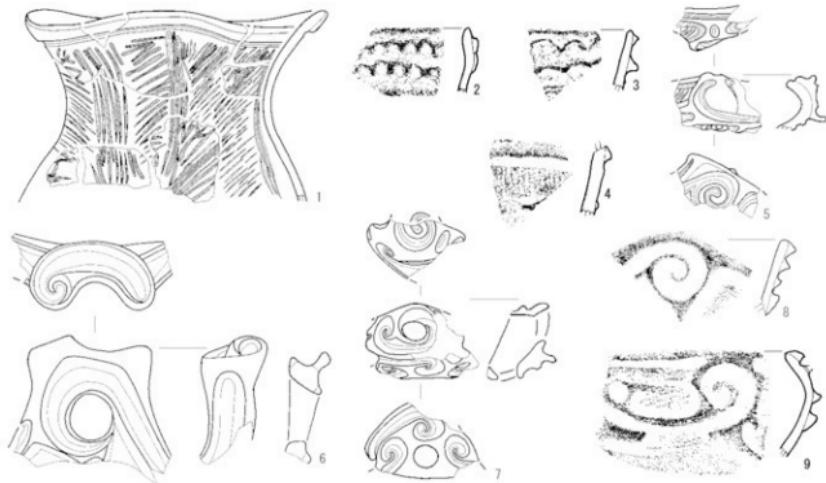


第230図 土坑出土遺物（8）

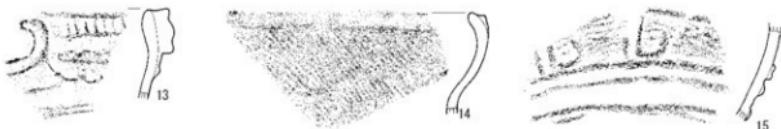


No.	資料番号	地 稿	層 位	器形・部位	文様等	備 考	写真(例)
1	A-60270	SK6016	椚上面	深鉢・脚部	縹紋、鈍内陣波綱文、縄文LR縦位施文。	-	-
2	A-60271	SK6016	埴頂土	深鉢・脚部	乳狀、鈍内波綱文、縄文LR縦位施文。	-	-
3	A-60272	SK6016	埴頂土	深鉢・脚～底部	縹紋、鈍内波綱文、縄文LR縦位施文。底部：木葉印？	17B-6	-
4	A-60273	SK6016	埴頂土	深鉢・脚～底部	縹紋、鈍内波綱文、縄文LR縦位施文。底部：木葉印。	-	-
5	A-60274	SK6016	上層	深鉢・脚～底部	縹文LR縦位施文。底面：網代印。	-	-
6	P-6015	SK6016	埴頂土	三内側形土器品	ナデ。	S=1/2,	17B-8
7	P-6016	SK6016	埴頂土	口縁部	口縁部内側りぬし。ナデ、内面：輪状痕。	S=1/2,	-
8	A-60275	SK6017	埴頂土	深鉢・脚部	縹帶降波綱文、縄文LR縦位施文。	-	-
9	A-60276	SK6017	上層	深鉢・脚部	口縁部、縹帶降波綱文、縄文LR縦位施文。	17B-9	-
10	A-60277	SK6019	上層	深鉢・口縁部	口縫足、縹帶降波綱文、縄文LR縦位施文。	-	-
11	A-60278	SK6021	上層	小形深鉢・口縫足	口縫足、縪文LR縦位施文。脚部：ナデ。	17B-10	-

第231図 土坑出土遺物（9）



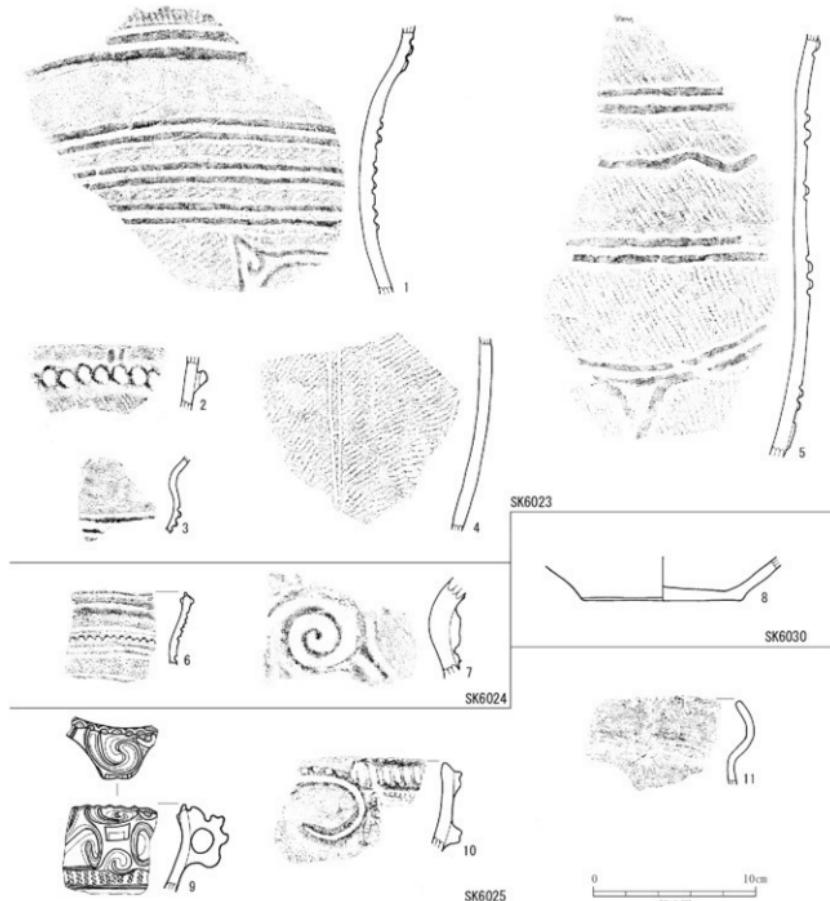
SK6020



SK6023

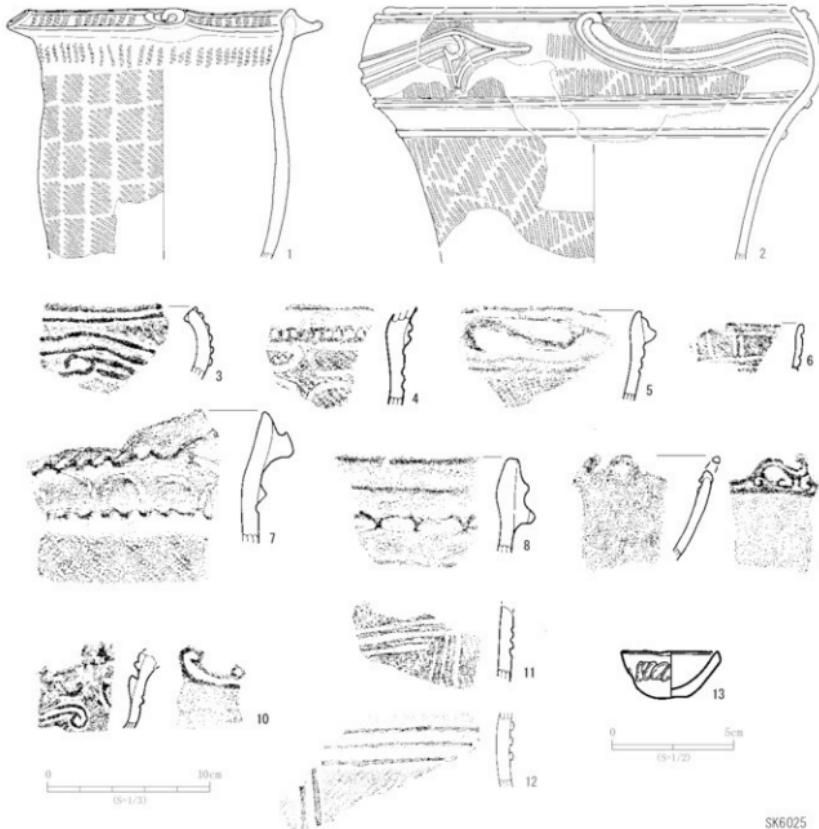
號	號	造	形	體	類	文種等	考	等級
1	A-60279	SK6030	上層	闊鉗·口徑·側部	口鐘部·折り返し口鍔。側部·顧位沈羅文。側位側合沈羅文。	-	17-11	
2	A-60280	SK6030	每橫土	闊鉗·口徑	側位側合沈羅文。	-	-	
3	A-60281	SK6030	上層	闊鉗·口徑部	側位側合沈羅文。	-	-	
4	A-60282	SK6030	上層	闊鉗·側部	側位側合沈羅文。顧文只見斜行筆。	-	-	
5	A-60283	SK6030	上層	闊鉗·口徑部	側位側合沈羅文。區側內側文LR橋位施文。	-	-	
6	A-60284	SK6030	上層	闊鉗·口徑部	側位側合沈羅文。區側內側文LR橋位施文。	-	-	
7	A-60285	SK6030	上層	闊鉗·口徑把手	側位側合沈羅文。門孔。	-	17-10	
8	A-60286	SK6030	上層	闊鉗·口徑部	側位側合沈羅文。區側內不明羅文。	-	17-11	
9	A-60287	SK6030	上層	闊鉗·口徑·側部	口鐘部·側位側合沈羅文。區側內羅文LR側位施文。側部·無文。	蓋打·鐵·器物·薄底盤1-1。	17-10	
10	A-60288	SK6030	上層	闊鉗·口徑·側部	口鐘部·側位側合沈羅文。區側內無文。側部·側位側合沈羅文。	蓋打·鐵·器物·薄底盤。	17-10	
11	A-60289	SK6030	每橫土	闊鉗·側部	側位側合沈羅文。顧文只見側位施文。	蓋打·鐵·器物·薄底盤。	-	
12	A-60290	SK6030	上層	闊鉗·口徑部	側位側合沈羅文。顧文只見側位施文。	蓋打·鐵·器物·薄底盤。	-	
13	A-60291	SK6030	每橫土	闊鉗·口徑·側部	[只]字·狀點付文。側位側合沈羅文。橋位側面側合沈羅文。橋位側面側合沈羅文。	蓋打·鐵·器物·薄底盤。	17-10	
14	A-60292	SK6030	下層	闊鉗·口徑部	顧文LR側位施文。	-	-	
15	A-60293	SK6030	每橫土	闊鉗·口徑·側部	口鐘部·橋位側合沈羅文。顧文只見側位施文。側部·側孔·橋位側合沈羅文。	-	17-17	

第232図 土坑出土遺物（10）



No.	資料番号	造	構	形	性	文様等	考	写真出
1	A-60294	SK6023	上層	深鉢、口縁～斜面	口縫部、口縁斜線文。区画内織文とL斜位施文。斜面、無文。斜面、横位・有縫渦巻斜波綱文。織文T斜位施文。	-	-	-
2	A-60295	SK6023	下層	深鉢、斜面	織位斜面T柱状斜綱文。織位斜綱文。織文T斜位施文。	-	-	-
3	A-60296	SK6023	上層	小型深鉢、斜面～斜面	斜面、無文。斜面、織位斜波綱文。	-	-	-
4	A-60297	SK6023	地耕土	深鉢、斜面	織位斜綱文。織文T斜位施文。	-	-	-
5	A-60298	SK6023	上層	深鉢、斜面	織印、斜井、丁字形斜波綱文。織文T斜位施文。	-	-	-
6	A-60299	SK6024	地耕土	小型深鉢、口縁～斜面	口縫部、斜位施綱文。斜面、織位斜綱文。斜面、斜位斜波綱文。斜面、横位斜綱文。斜面の厚底蒸しい。	-	-	-
7	A-60300	SK6024	上層	深鉢、斜面	渦巻斜波綱文。L斜位施文。	-	-	-
8	A-60301	SK6030	上層	浅鉢、斜～斜面	斜面、無文。斜面、ナリ。	-	-	-
9	A-60302	SK6025	上層	深鉢、口縁部	口縫部、口縁部斜小波状、織状把手。渦巻斜綱文。織位斜綱文。押圧繩文L斜位施文。	-	-	-
10	A-60303	SK6025	上層	深鉢、口縁部	織物把手。附生小波斜綱文。(?) 手状、压縮綱文。压縮白綱斜綱文。	-	-	-
11	A-60304	SK6025	上層	小型深鉢、口縁～斜面	口縫部、斜面、無文。	-	-	-

第233図 土坑出土遺物（11）



SK6025

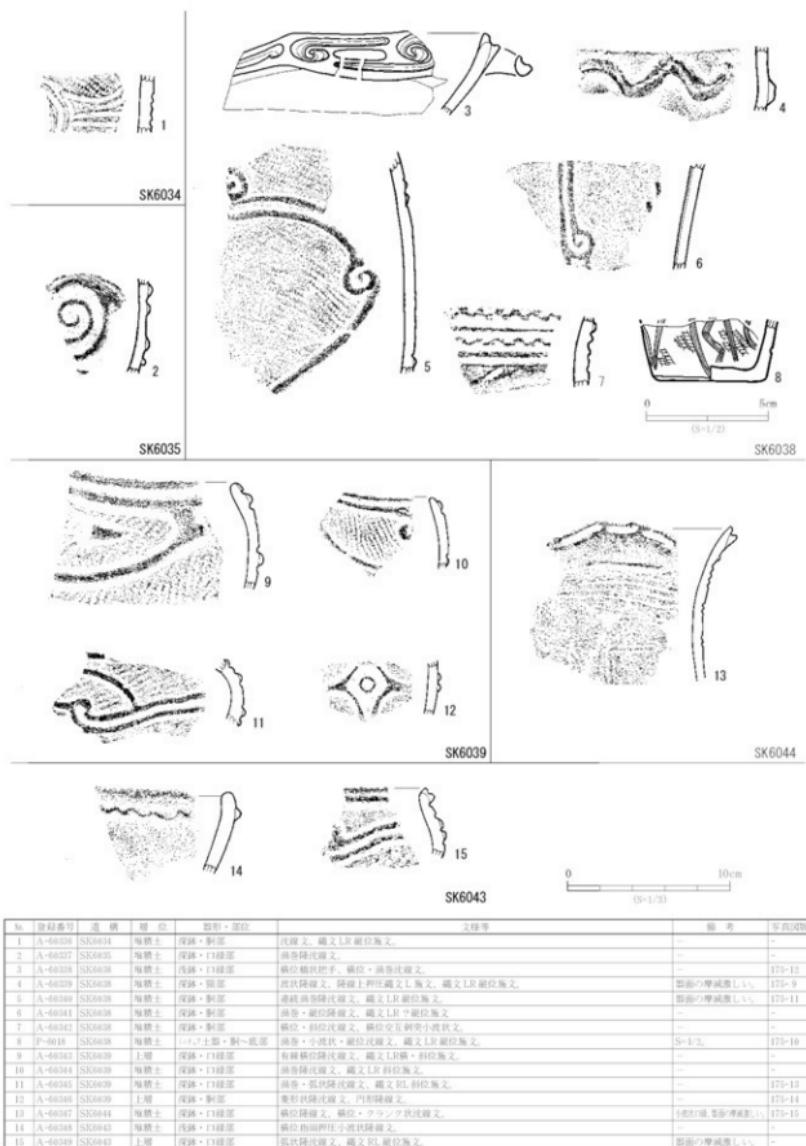
No.	登錄番号	地 域	層 位	器形・形質	文様等	施 考	参考図
1	A-60095	海耕土	深鉢、口縁・側面	白縞黒「△」字状突起。構造隆起文、白縞黒～頭部、押出縞文LR斜位施文。側面：縞文LR斜位施文。	-	-	147-19
2	A-60096	SK6025	上層	深鉢、口縁・側面	白縞黒、有縫、波状、構造隆起文、縞文LR斜位施文。頭部：無文。側面：縞文LR斜位施文。	-	175-1
3	A-60097	SK6025	上層	深鉢、口縁	縞黒、頭部：波状、側面：無文。	-	-
4	A-60098	SK6025	上層	深鉢、頭部・側面	縞黒、構造隆起突陥微文。側面：無字波状凹凸文。縞文LR斜位施文。	-	-
5	A-60099	SK6025	上層	深鉢、口縁・側面	「△」字状隆起文、構造波状文。側面：縞文LR斜位施文。	-	-
6	A-60100	SK6025	海耕土	小型深鉢、口縁	縞文波狀文、波狀短波狀文、縞文LR斜位施文。	-	-
7	A-60011	SK6025	海耕土	深鉢、口縁・側面	白縞黒、突起平行波状隆起文、構造縞文LR斜位施文。側面：縞文LR斜位施文。	-	-
8	A-60012	SK6025	上層	深鉢、口縁	構造隆起文、側面：波状凹凸文。	-	-
9	A-60013	SK6025	上層	深鉢、口縁・側面	白縞黒、内孔突起、内底周縞微文。側面：無文	-	-
10	A-60014	SK6025	上層	深鉢、口縁	渦巻突起、渦巻短波狀文、縞文LR斜位施文。	先起削痕。	-
11	A-60015	海耕土	深鉢、側面	縞黒、波狀波狀文、縞文LR斜位施文。	-	-	-
12	A-60016	SK6025	上層	深鉢、頭部・側面	縞黒、頭部隆起文。側面：縞位区画縞微文、縞文LR斜位施文。	-	-
13	P-6017	SK6025	海耕土	...、土器・口縁・底面、側面	-	手標尺、S-1/2,	147-18

第234図 土坑出土遺物 (12)



登録番号	遺構	層位	種類	文様等	備考	写真番号
1-A-66017	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 の字彫・小波状・模様文・模様文・斜面無文	小波起有り	-
2-A-66018	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 模様文・模様文・模様文	-	-
3-A-66019	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 風紋・模様文・模様文	-	-
4-A-66020	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 模様文・模様文・模様文	-	-
5-A-66021	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 模様文・模様文・模様文	-	-
6-A-66022	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 模様文・模様文・模様文	-	-
7-A-66023	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 模様文・模様文・模様文	-	-
8-A-66024	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 模様文・模様文・模様文	-	-
9-A-66025	SK6029	上層	深鉢	口絞部 小波状・模様文	画面の模倣激しい	175-3
10-A-66026	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 模様文・模様文	-	175-3
11-A-66027	SK6029	上層	深鉢	口絞部 模様文・模様文	-	-
12-A-66028	SK6029	上層	深鉢	口絞部 模様文・模様文	突起剥離	175-4
13-A-66029	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 の字彫・模様文・模様文	突起剥離	175-5
14-A-66030	SK6029	上層	深鉢	口絞部 模様文・模様文	突起剥離	175-6
15-A-66031	SK6029	上層	深鉢	口絞部 模様文・模様文	-	-
16-A-66032	SK6029	上層	深鉢	口絞部 模様文・模様文	-	-
17-A-66033	SK6029	上層	深鉢	口絞部 模様文・模様文	-	-
18-A-66034	SK6029	上層	深鉢	口絞部 模様文・模様文	-	175-7
19-A-66035	SK6029	海賊土	深鉢	口絞部 模様文	-	175-8
SK6031						
0 10cm (S-1/3)						

第235図 土坑出土遺物（13）

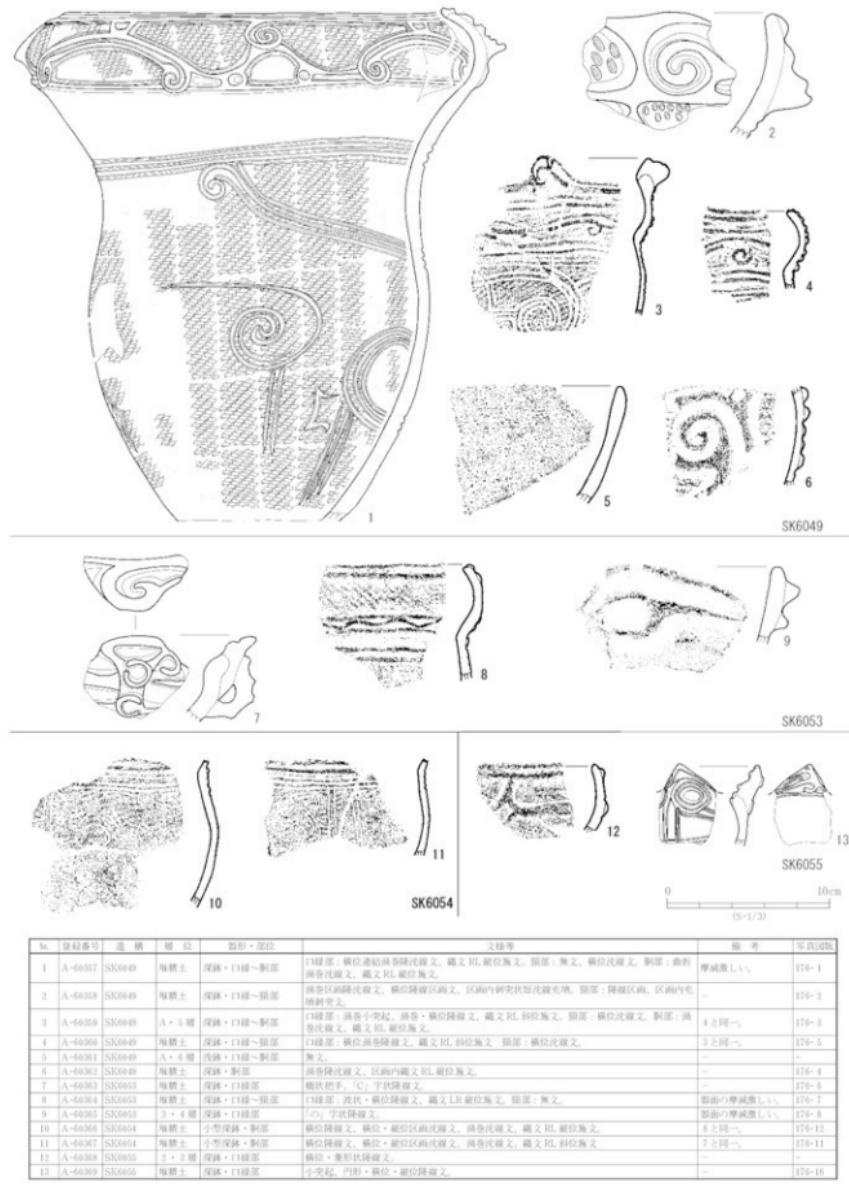


第236図 土坑出土遺物（14）

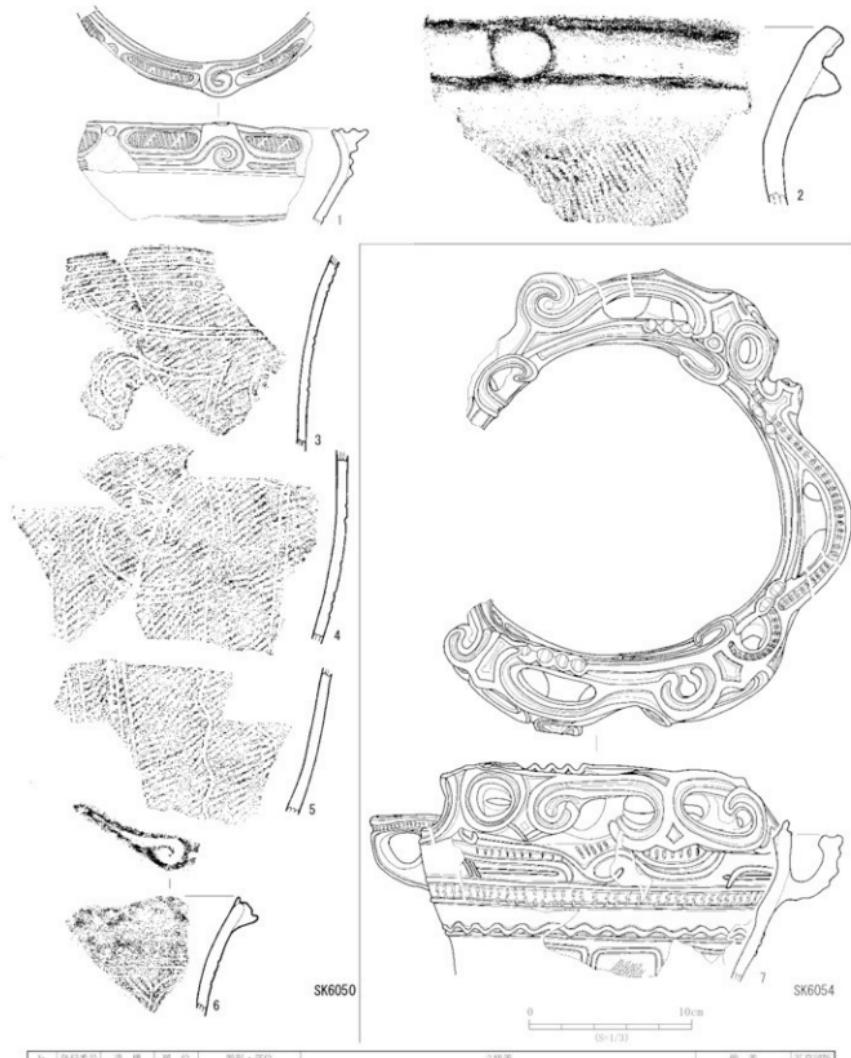


第237図 土坑出土遺物（15）

No.	登録番号	地 紺	層 位	器形・部位	文様等	備 考	写真図版
1	A-6658	SK6042	上層	深鉢・口縁・乳頭	口縁部：曲唇・横位降瓣文、縹文LR・斜位無文、頭部～胴部：縹文L・直位無文、乳部：研代既、	-	175-16
2	A-6681	SK6042	埴耕土	深鉢・口縁・胴部	口縁部：口縁・透底鉄突文、頭部：縹位比較文、胴部：無文、	頭底割離、	175-19
3	A-6632	SK6042	埴耕土	深鉢・口縁・胴部	口縁部：突起、口肩部附近小波状・透底鉄突文、頭部：縹位比較文、胴部：弧狀・織袋状比較文、	-	175-17
4	A-6653	SK6042	上層	深鉢・口縁・胴部	口縁部：横位比較文、胴部：縹文LR・直位無文、	-	x
5	A-6654	SK6042	上・中層	深鉢・胴部	頭部：フランジ状比較文、縹文LR・直位無文、	-	x
6	A-6655	SK6042	中層	小型深鉢・胴部	頭位比較文、縹文LR・直位無文、	腹面の厚漬度しきい、	-
7	A-6656	SK6042	上・中層	深鉢・口縁・胴部	頭部：曲唇突起、縹位比較文、直位無位無文、胴部：無文、胴部：横位比較文、	-	175-18
8	P-6019	SK6042	上層	三角形土製品	斜文文・ナデ、	S=1/2、	175-20

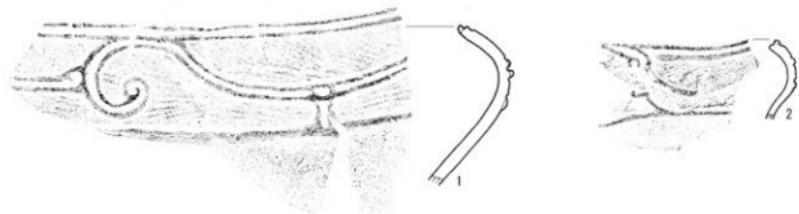


第238図 土坑出土遺物 (16)

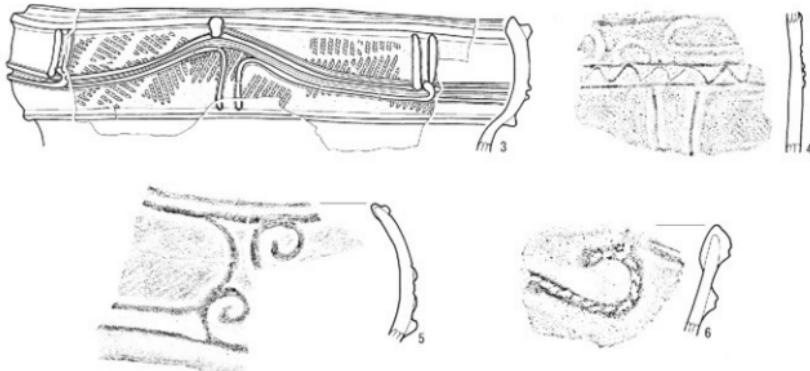


No.	登録番号	遺 墓	層 段	器形・目印	文様等	施 工	参考図物	
1	A-60279	SK6050	上層	深鉢・口縁・側面	口縁部・周身縦向織文、口縫目付織文、側面・無文、側面近縁部・	側面縫合、織目目付	176-10	
2	A-60271	SK6050	上層	深鉢・口縁・側面	口縫部・周身・側面縦向織文、側面・無文、側面LR縫合無文、	-	176-10	
3	A-60272	SK6050	上層	深鉢・側面	側面・無文	-	-	
4	A-60273	SK6050	上層	深鉢・側面	側面・無文	-	-	
5	A-60274	SK6050	上層	深鉢・側面	側面・無文	-	-	
6	A-60275	SK6050	上層	深鉢・口縁・側面	口縫部・周身縦向織文、織目目付織文、側面・無文	側面縫合、織目目付	176-10	
7	A-60276	SK6054	1・2層	深鉢・口縁・側面	口縫部・縫合把手・口縫部縫合小孔孔・斜入孔縦向織文、側面・斜入孔縦向織文、側面縫合、側面縫合無文、側面無文、	側面縫合、側面・無文、側面縫合無文、側面・無文、側面縫合無文、側面縫合無文、側面無文、	-	176-10

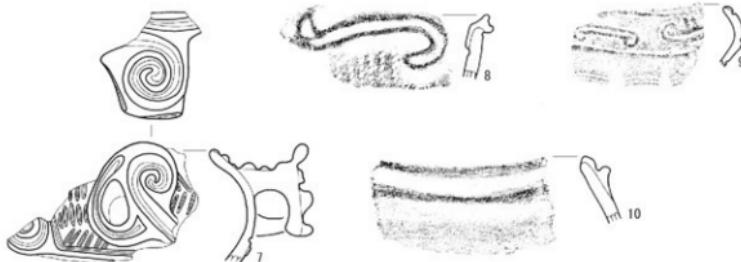
第239図 土坑出土遺物 (17)



SK6056



SK6057

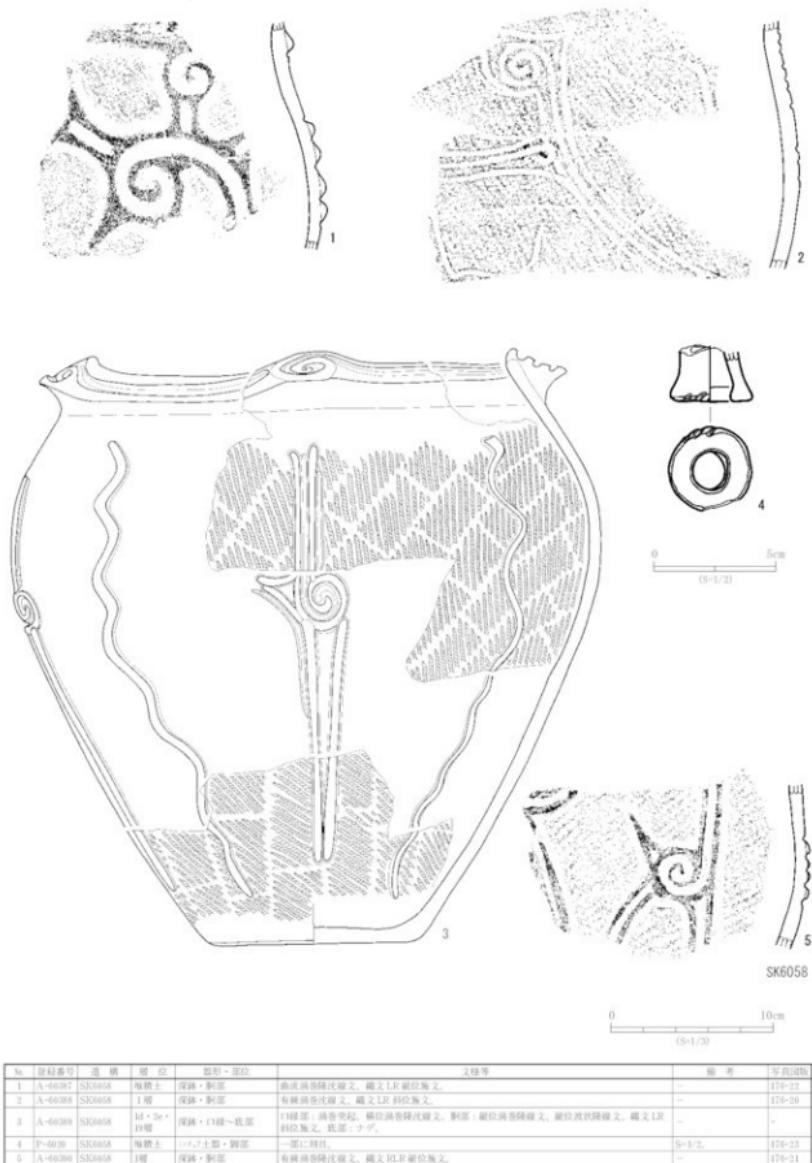


SK6058

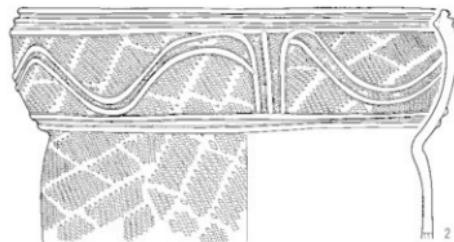
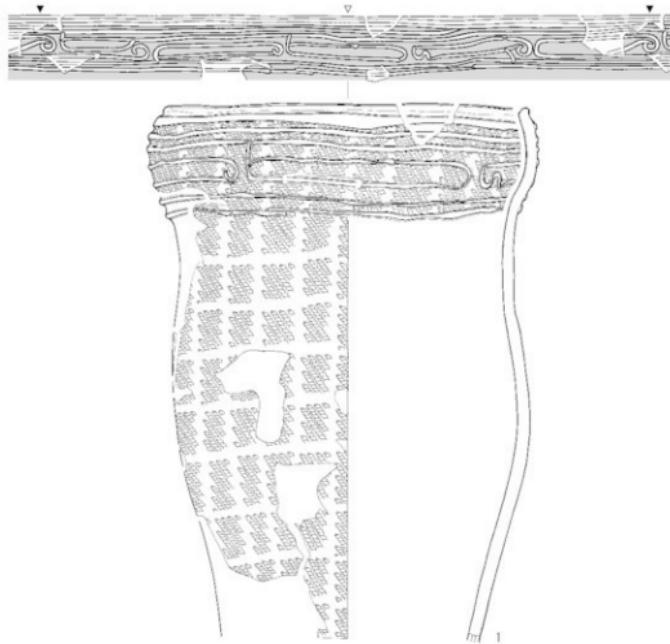
0 10cm
(S=1/3)

號	登錄番号	遺構	層	部位	文様等	備考	年代(±20)
1.	A-4627	SK6056	海賊土	深鉢・口縁・頸部	口縫部・海各時代複文・縞文B1,斜化無文・頸部・無文。	-	170-14
2.	A-4628	SK6056	海賊土	深鉢・口縁・頸部	口縫部・海各時代複文・縞文B1,斜化無文・頸部・無文。	表面の隣接剖面	170-15
3.	A-4629	SK6057	1・2層	深鉢・口縁・頸部	縞文B1海各時代複文・縞文B2複文・縞文L3複文・斜化無文。	-	170-1
4.	A-4630	SK6057	中層	深鉢・口縫	縞文小波紋・縞文複文・弧文・焰文複文・縞文L3縞文複文。	-	170-4
5.	A-4631	SK6057	上層	深鉢・口縫	海帶・網目複文複文・縞文B1,縞文B2。	-	170-2
6.	A-4632	SK6057	中層	深鉢・口縫	S1字形附付2・粘付之上印出繩文B1。	表面の摩滅箇所S1。	170-3
7.	A-4633	SK6058	海賊土	深鉢・口縫	海帶空起・網目複文複文・区別の半地裂紋。	-	170-17
8.	A-4634	SK6058	海賊土	深鉢・口縫	S1字形附付1・印出縞文B1,斜化無文。	-	170-19
9.	A-4635	SK6058	海賊土	小型深鉢・口縫・頸部	口縫部・海各時代複文・不明縞文複文・頸部・無文・斜部・縞文複文。	表面の摩滅箇所S1。	170-18
10.	A-4636	SK6058	海賊土	深鉢・口縫	縞文複文。	-	-

第240図 土坑出土遺物 (18)



第241図 土坑出土遺物 (19)

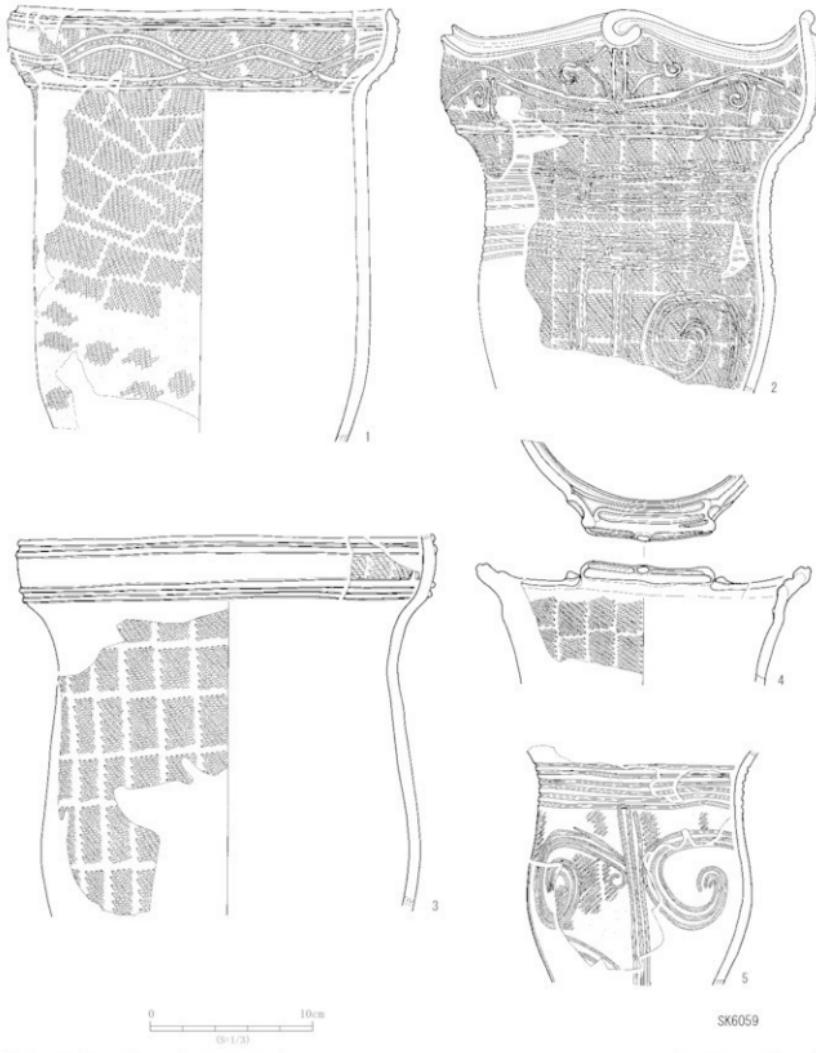


SK6059

0
10cm
(1:1/3)

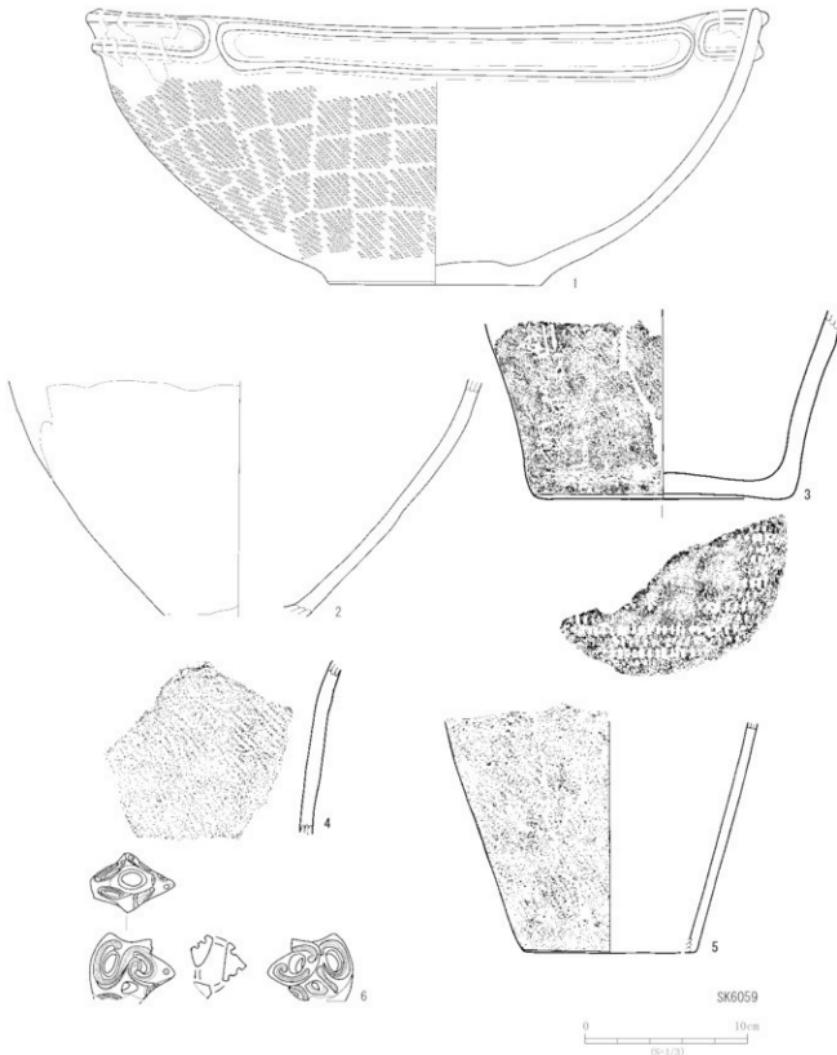
No.	號錄番号	產地	層位	器形・部位	文様等	備考	写真回数
1	A-66201	陝西	周	深鉢、口沿～銚部	口緣部・網目、橫位、縱位、縱位降低文、口緣部～銚部、縹文L狀斜位每孔	—	177-1
2	A-66202	陝西	周	深鉢、口沿～銚部	口緣部・波狀、橫位、縱位降低文、口緣部～銚部、縹文L狀斜位每孔	隨從列離	177-4

第242図 土坑出土遺物（20）



第243図 土坑出土遺物 (1)

No.	登録番号	造形	基部	器形・底面	文様等	備考	写真回数
1	A-60803 SK6059	1層	深鉢	口縁～胴部	口縁部：波状、低伏、横位隠瓣文、織文BL、縦位施文。胴部：織文BL、斜位施文。	-	177- 2
2	A-60284 SK6059	複数土	深鉢	口縁～胴部	口縁部：施文突起、横位施文隠瓣文。胴部：横位施文隠瓣文、縫合沈起部。口縁部～胴部：織文BL、斜位施文。	-	177- 3
3	A-60295 SK6059	複数土	深鉢	口縁～胴部	口縁部：施位隠瓣文、胴部：織文BL、斜位施文。	-	177- 4
4	A-60296 SK6059	2~3層	深鉢	口縁～胴部	口縁部：口縁突起、隠瓣文、胴部：織文BL、斜位施文。	-	177- 5
5	A-60297 SK6059	複数土	深鉢	胴部～脚部	脚部：施位元施文、胴部：施文、縫合元施文、織文BL、斜位施文。	-	177- 6



第244図 土坑出土遺物 (22)

No.	登録番号	造形	埋立	器形・部位	文様等	備考	写真番号
1	A-60308	縦柄土	浅鉢・口縁～鉢底	口縁部：横位輪門区の縞模文、側面：縞文LR縦位輪文、底面：ナガ。			177-7
2	A-60309	縦柄土	浅鉢・側面	ナガ。			177-8
3	A-60400	SK6059	2層	浅鉢・側面	側面：ナガ、底面：網代紋。		-
4	A-60401	SK6059	縦柄土	浅鉢・側面	縞文LR縦位輪文。		-
5	A-60402	SK6059	縦柄土	浅鉢・側面	縞文LR縦位輪文。		-
6	A-60403	SK6059	下層	浅鉢・口縁把手	側面縞模文、円形柄突起。		177-11



SK6059

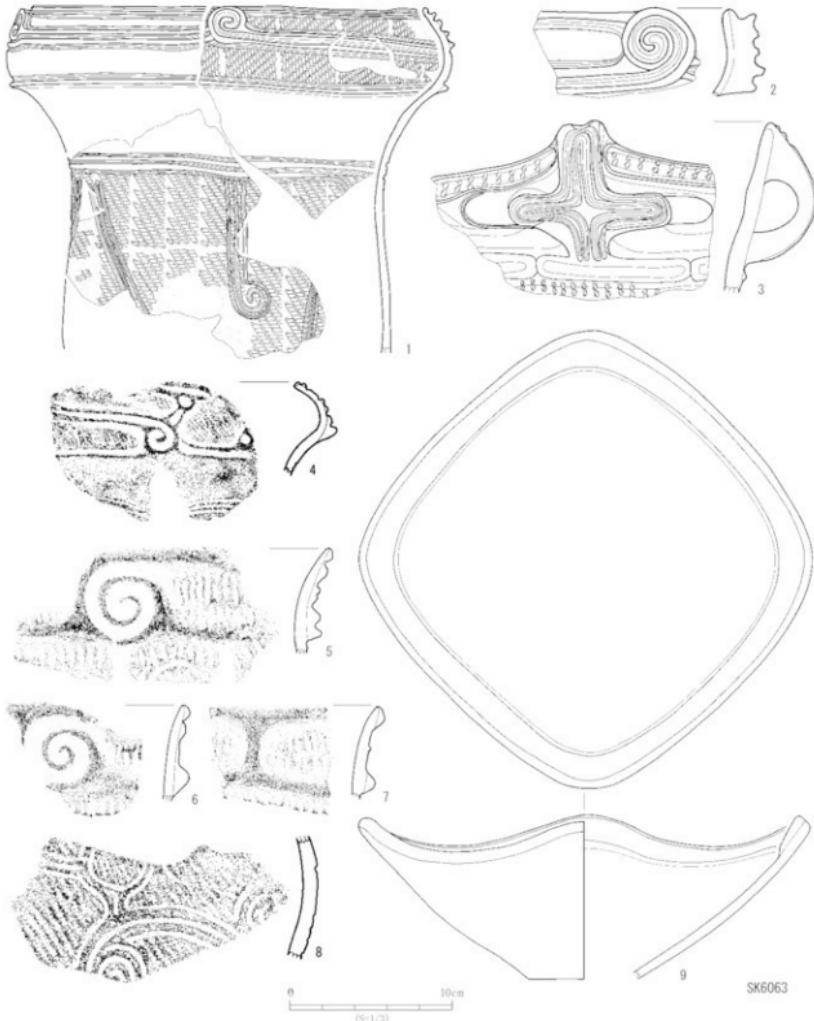
No.	登録番号	遺構	層位	断面・部位	文様等		備考	年代推定
					内面	外側		
1	A-64404	SK6059	上土層	深鉢、口縁～頂部	口縁部：S字状突起、通底斜文、輪郭線浅文、輪郭線文LR側位施文。内面：低氏・輪郭線浅文。	2上同一。	-	177-10
2	A-64405	SK6059	中層	深鉢、口縁～頂部	口縁部：渦巻突起、輪郭通底斜文、輪郭浅文、輪郭線文LR側位施文。内面：低氏・輪郭線浅文。	1上同一。	-	177-10
3	A-64406	SK6059	埴生土	深鉢、口縁部	渦巻斜文、内面渦巻文、低氏・波状線浅文、繩文知・網目施文。内面：渦巻、輪郭浅文、低氏口縁、内斜斜线文。	-	-	177-12
4	A-64407	SK6059	埴生土	深鉢、口縁～頂部	口縁部：輪位区段斜文、繩文LR側位施文。内面：波狀・輪位斜文。	波狀口縁。	-	177-10
5	A-64408	SK6059	埴生土	深鉢、口縁部	斜文、繩文LR側位施文。	-	-	-
6	A-64409	SK6059	埴生土	深鉢、口縁部	口縫突起、通底斜文、輪郭繩文LR側位施文。	-	-	-
7	A-64410	SK6059	埴生土	深鉢、口縁部	輪位指印門字・低氏斜文、繩文LR側位施文。	-	-	-
8	A-64411	SK6059	埴生土	深鉢、口縁～頂部	口縫突起、輪位区段斜文、口縫道～側面、繩文LR側位施文。	-	-	-
9	A-64412	SK6059	埴生土	深鉢、口縁～側面	口縫突起、側面低氏・斜文、繩文LR側位施文。	-	-	177-14
10	A-64413	SK6059	上層	深鉢、口縁部	側位・輪位斜文面、繩文LR側位施文。	-	-	-
11	A-64414	SK6059	埴生土	深鉢、口縁部	輪位斜文、繩文LR側位施文。	輪位斜文。	-	-
12	A-64415	SK6059	埴生土	深鉢、口縁部	渦巻斜文。	-	-	-
13	A-64416	SK6059	下層	深鉢、口縁～側面	口縫部、内斜斜线文、側面：輪位・輪位斜文、繩文LR側位施文。	-	-	177-10

第245図 土坑出土遺物 (23)



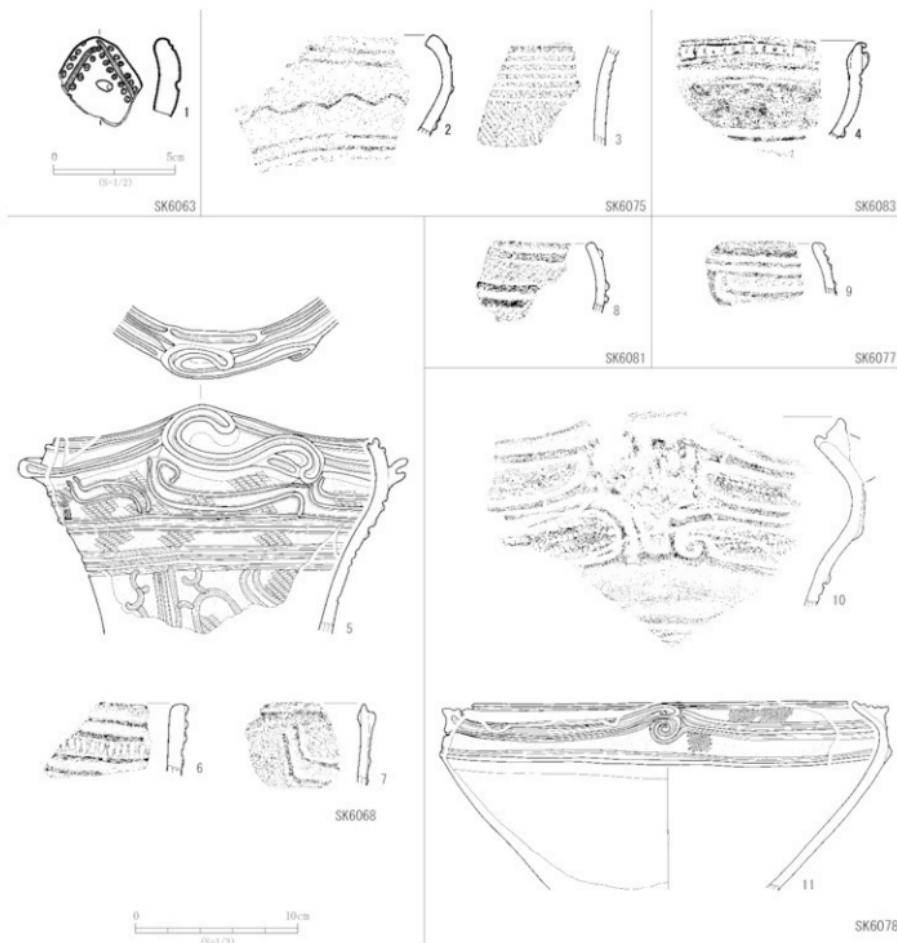
No.	目録番号	遺構	層位	断面・部位	文様等	備考	字古通假
1	A-60117	SK6059	椚出面	深鉢、鋸並・削面	縦溝、横の隆起文、弧状・横位沈縞文、側部・渦巻、弧状・横位沈縞文、縞文LR・縦位施文。	盤面の厚さ薄い。	-
2	A-60118	SK6059	中層	深鉢・鋸並・削面	縦溝・横位沈縞文、側部・弧状・横位沈縞文、縞文LR・縦位施文。	2~3と同一。	-
3	A-60119	SK6059	B3層	深鉢・削面	側内・弧状沈縞文、縞文LR・縦位施文。	2~4+5と同一。	-
4	A-60120	SK6059	椚出面	深鉢・削面	縦位・側部・弧状・縞文、縞文LR・縦位施文。	2~3+5と同一。	-
5	A-60121	SK6059	B3層	深鉢・削面	縦位・側部・弧状・縞文。	2~4と同一。	-
6	A-60122	SK6059	椚出面	深鉢・削面	渦巻、側部・弧状・縞文。	-	-
7	A-60123	SK6059	椚出面	深鉢・削面	渦巻・縦位・小折共・透口口子・子口縫文、縞文切・縦位施文。	-	177-16
8	A-60124	SK6059	下層	二八・十箇・削・底面	割目・ナギ、底面・ナギ。	S=1/2,	177-17
9	A-60125	SK6059	複数土	二八・十箇・削・底面	渦巻、底面・弧状・横位沈縞文、弧型・ナギ、底部・面凸状。	S=1/2,	177-18
10	A-60126	SK6059	下層	二八・十箇・口縫・底面	渦巻・縦位文・二八・削面・ナギ、底部・面凸状。	手標H、S=1/2,	177-19
11	A-60424	SK6061	複数土	深鉢・削面	渦状・縦位・横位施文、縞文。	-	-
12	A-60425	SK6061	複数土	深鉢・削面	押注縞文・縦位施文、縞文。	-	-

第246図 土坑出土遺物（24）



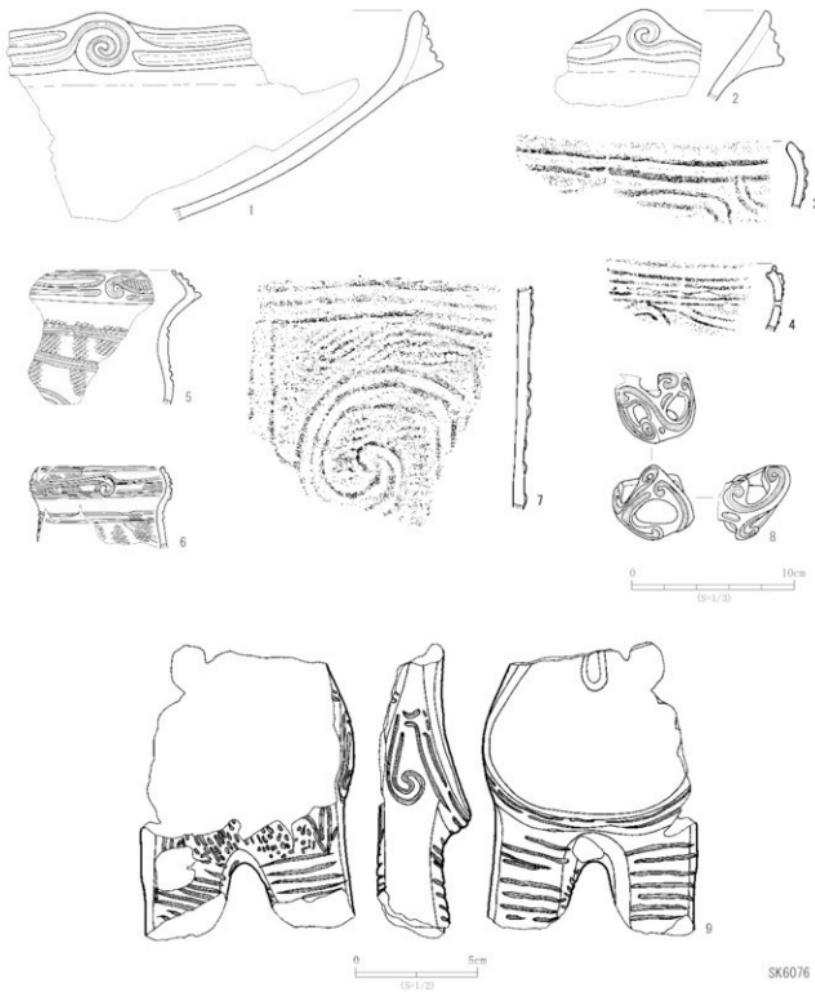
第247図 土坑出土遺物(25)

No.	資料番号	造 型	規 格	胎 形・斑 形	文様等	備 考	参考出典
1	A-60438	角盤土	深鉢、口縁~胴部	口縁部、側面周部陥れ縦文、縄文LR側位施文、頭部、無文、胴部、浅唇・横筋・横位沈縦文、繩文LJF側位施文	-	-	178-5
2	A-60427	角盤土	深鉢	側面周部陥れ縦文、区画内繩文LJF側位施文	側面周部赤彩有り。	-	178-6
3	A-60428	楕円盤	深鉢	口縁~頭部	口縫部、十子孔施状把手、仰江綱文LJF側位施文、頭部、繩文LJF側位施文	-	178-7
4	A-60429	角盤土	1~7層	深鉢~口縁~頭部	口縫部、両各内輪陥れ縦文、区画内繩文LJF側位施文、頭部、無文・柄拉孔縫文	-	178-8
5	A-60430	角盤土	深鉢	口縁	側面周部陥れ縦文、頭部施状把手斜縫文	6~7孔付。	178-9
6	A-60431	角盤土	深鉢	口縁	側面周部陥れ縦文、頭部施状把手斜縫文	5~8孔付。	-
7	A-60432	角盤土	深鉢	口縁	側面周部陥れ縦文、頭部施状把手斜縫文	5~7孔付。	178-2
8	A-60433	角盤土	3~14層	深鉢~胴部	側面周部陥れ縦文、縄文LR側位施文	-	178-4
9	A-60434	角盤	浅鉢	口縫部、平面方形、内面割り出し、胴部、無文	渡狀口縫。	-	178-8



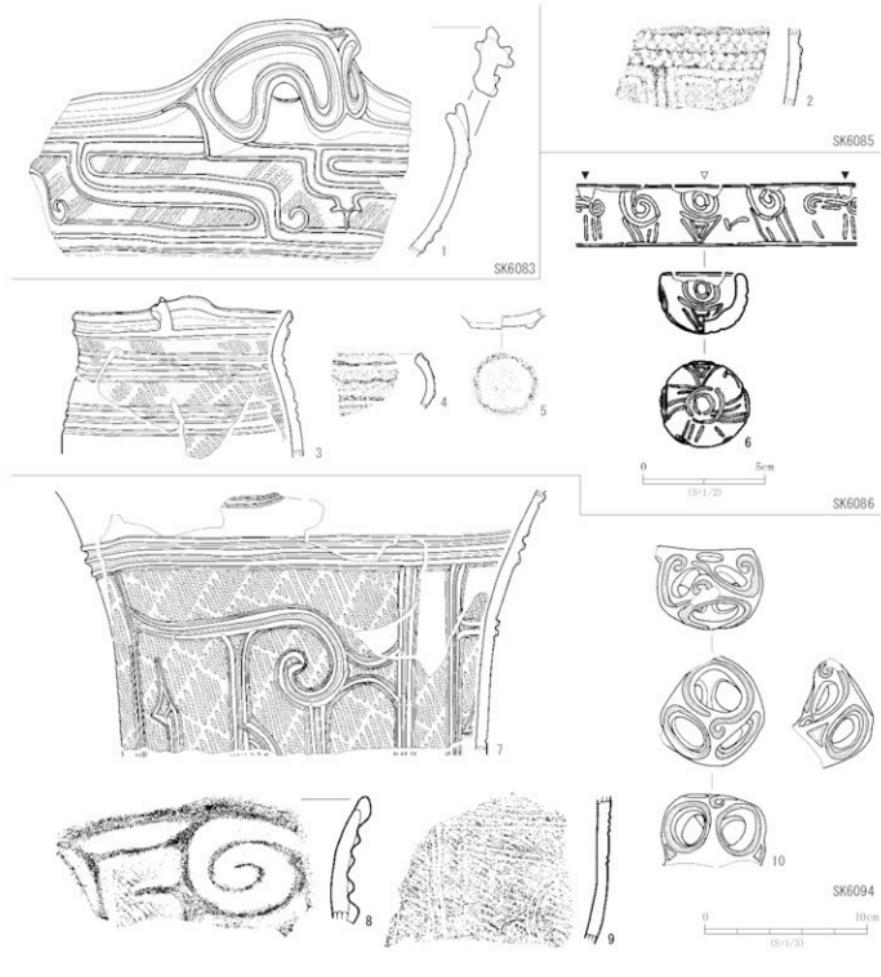
No.	登録番号	造形	層位	断面・断面	文様等	参考	写真図版
1	P-0024	SK6063	「へ」字形	深鉢・口縁・側面	横縞文、円形網状文。	5-10-5	11P-5
2	A-66403	SK6075	2～3層	深鉢・口縁部	波状・網目隠瓣文、織文田、網目施文。	5-10-6	5-10-6
3	A-66408	SK6075	中層	深鉢・側面・側面	網目・網目波瓣文、斜面・網目波瓣文、側面・網目・網目施文。	5-10-7	5-10-7
4	A-66427	SK6083	側面	深鉢・口縁部	網目隠瓣文、網目通絹網状文、網目波瓣文、織文LR網目施文。	5-10-8	5-10-8
5	A-66438	SK6068	1～4層	深鉢・口縁・側面	(縦縞文)「S」字状點付文、網目隠瓣文、ラジニア折隠瓣文、側面・網目波瓣文、弧状波瓣文、口縁部・側面・網目波瓣文。	5-10-9	17P-6
6	A-66439	SK6068	側面	深鉢・口縁部	網目隠瓣文、通絹點波瓣斜斜文。	5-10-10	-
7	A-66440	SK6068	中層	深鉢・口縁部	網目隠瓣文、ラジニア状隠瓣文、織文LR網目施文。	5-10-11	-
8	A-66441	SK6081	1～2層	深鉢・口縁部	網目隠瓣文、織文LR網目施文。	5-10-12	-
9	A-66442	SK6077	3～5層	深鉢・口縁部	網目・ラジニア状隠瓣文、織文LR網目施文。	5-10-13	-
10	A-66443	SK6078	側面	深鉢・口縁・側面	(縦縞文)通各隠瓣文、織文LR斜面施文、側面・無文・網目隠元波瓣文。	5-10-14	17P-7
11	A-66444	SK6078	側面	深鉢・口縁・側面	(縦縞文)網目隠瓣文、織文施文・ナデ・側面・ナデ。	5-10-15	17P-8

第248図 土坑出土遺物 (26)



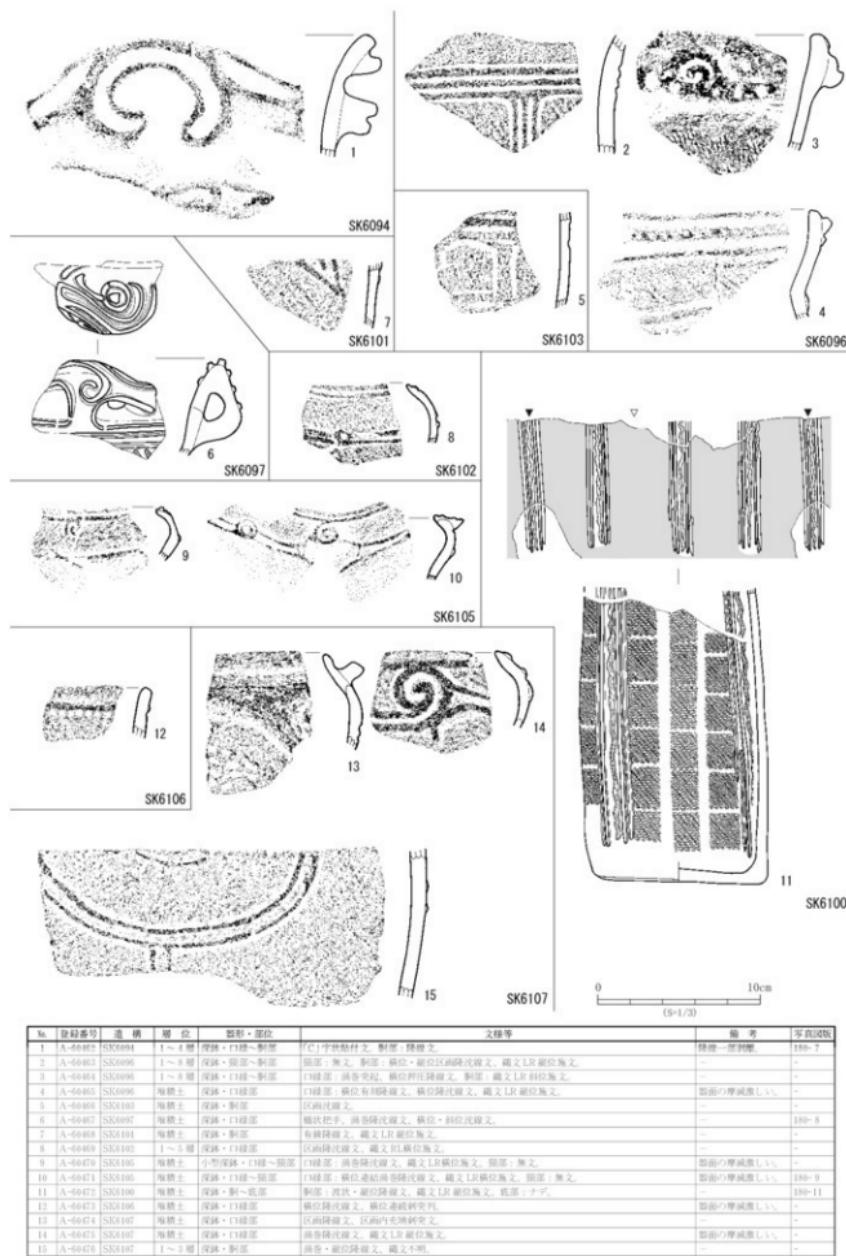
No.	目録番号	通 務	層 段	器形・部位	文様等	備 考	参考出典
1	A-66445	SK6675	4・5層	浅鉢・口縁・側面	口縁部：渦巻模様文、側面：無文。	-	179-9
2	A-66446	SK6676	海棲土	浅鉢・口縁・側面	口縁部：側面渦巻模様文、側面：無文。	渦巻口縁。	-
3	A-66447	SK6676	6～12層	深鉢・口縁部	側面・アンコフ状模様文、縁文口縁・側面施文。	-	-
4	A-66448	SK6676	14～15層	深鉢・口縁部	側面渦巻模様文、縁文口縁・側面施文。	補修孔2ヶ所有り。	-
5	A-66449	SK6676	1～3層	深鉢・口縁・側面	口縁部：渦巻模様文、区別の施文。側面：無文。側面：側面渦巻文、縁文。	-	179-10
6	A-66450	SK6676	4～5層	小型深鉢・口縁・側面	口縁部：側面渦巻模様文、縁文口縁・側面施文。側面：無文。	-	179-11
7	A-66451	SK6676	4～5層	深鉢・側面	側面・側面・側面渦巻文、縁文口縁・側面施文。	器形の厚底度しい。	179-10
8	A-66452	SK6676	4～5層	深鉢・口縁突起	側面渦巻文。	-	179-10
9	P-605	SK6676	海棲土	土鍋・側面	側面・側面渦巻文、縁側突起。	S-12。	179-14

第249図 土坑出土遺物 (27)

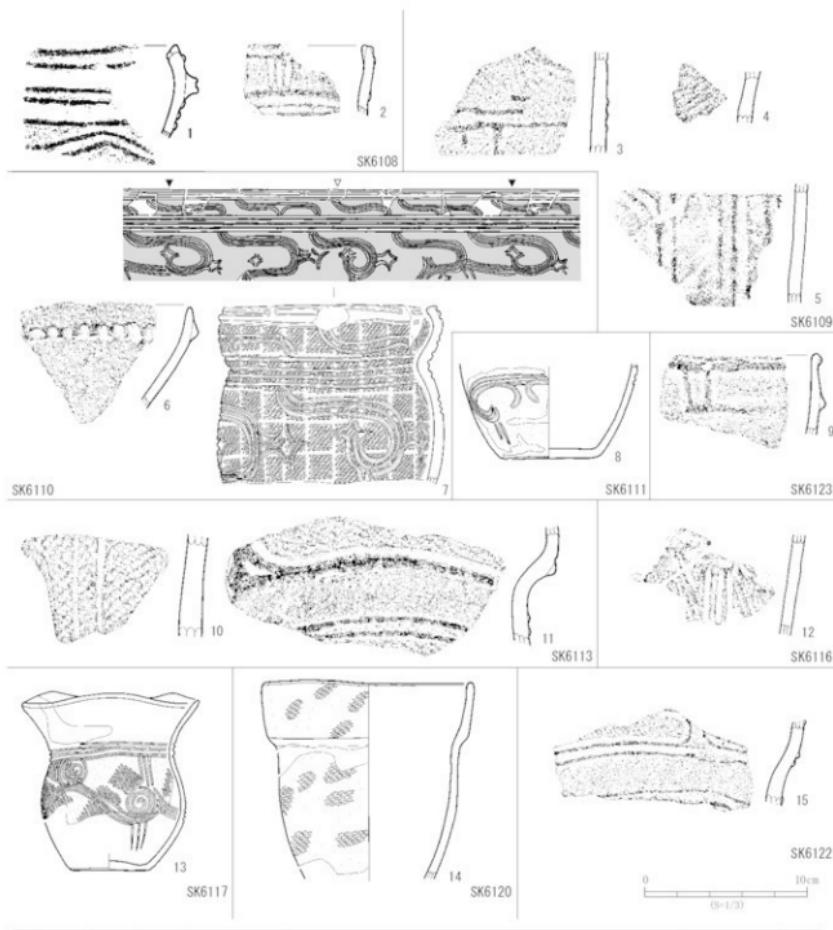


No.	目録番号	直 周	横 周	割面・断面	2種類	直 周	横 周
1	A-6083	SK6083	2層	深鉢・口縁部	口縁部・把手手、口縁突出、底生・瓶底ランク状隆起文、硫文LR、側位硫文。	180~1	
2	A-6084	SK6084	複筒土	深鉢・底部・口縁部	底部・側位硫文、側部・側位隆化硫文。	—	—
3	A-6085	SK6085	複筒土	深鉢・口縫・側部	口縫部・口縫突出、側部・側位隆化硫文、底部～側部・側位硫文、口縫部～側部・硫文LR・側位硫文。	180~2	
4	A-6086	SK6086	複筒土	深鉢・口縫部	側位・側位隆化硫文。	—	—
5	A-6087	SK6086	複筒土	鉢・底部	側位・側位隆化硫文。	—	—
6	P-6028	SK6088	複筒土	口・土面・口縫部～底部	直面・底面・Y字状硫文。	5~12	180~2
7	A-6088	SK6089	1~4層	深鉢・口縫下部～側部	口縫部・側位硫文の二重・隔壁・無文・側部・油垢・側位硫文硫文、硫文LR・側位硫文。	180~4	
8	A-6089	SK6090	複筒土	深鉢・口縫部	側位硫文硫文、硫文LR・側位硫文。	—	—
9	A-6090	SK6091	1~4層	深鉢・側部	側部・側位硫文・側位区凸成層文、硫文LR・側位硫文。	小底径14mm	180~2
10	A-6091	SK6091	1~4層	深鉢・把手	側位硫文硫文。	—	180~6

第250図 土坑出土遺物 (28)

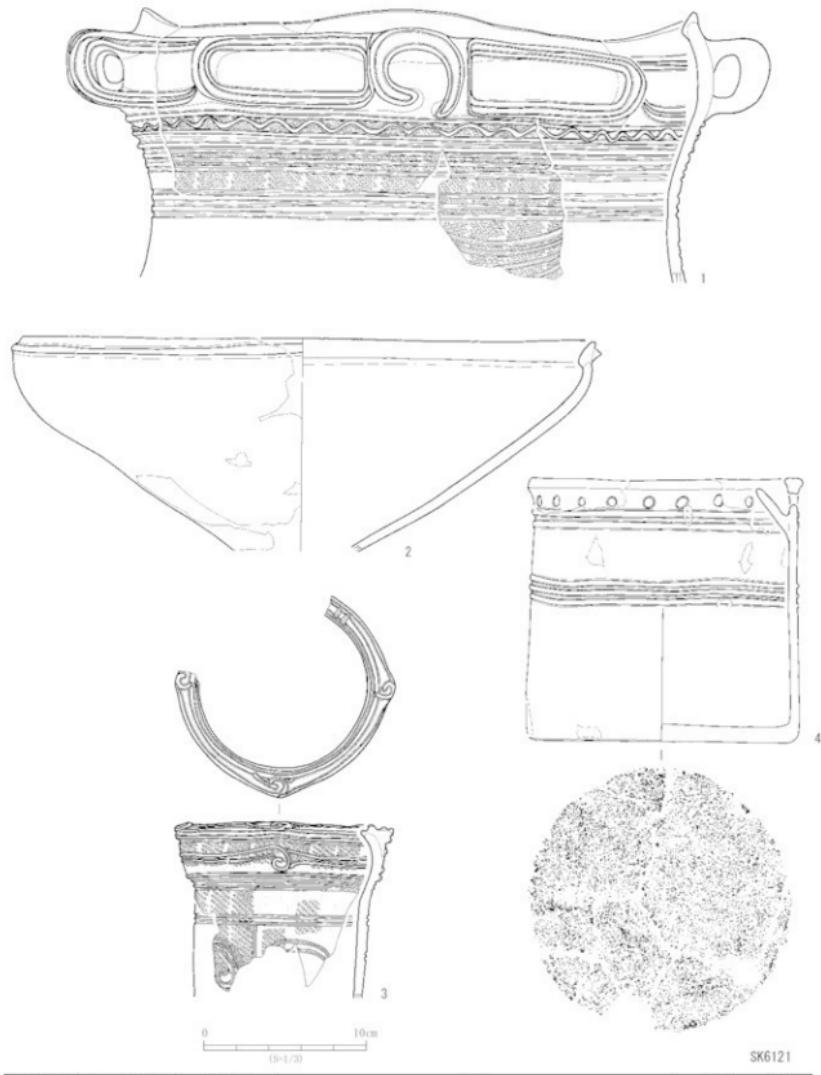


第251図 土坑出土遺物 (29)



器物番号	地 横	横 2	顕形・部位	文様等	考	参考図
1. A-6607 SK6108	海綿土	深鉢	口縁・側部	夷狀・網目彌文。縞の陰文彌文。縞文LR。部位施文。	表面の厚漬痕しき。	-
2. A-6608 SK6108	海綿土	深鉢	口縁部	縞の陰文彌文。	-	-
3. A-6609 SK6109	海綿土	深鉢	側部	夷狀・網目彌文。縞文LR。部位・側部施文。	-	-
4. A-6610 SK6109	海綿土	深鉢	側部	縞文LR。部位施文。	-	-
5. A-6601 SK6110	海綿土	深鉢	側部	夷狀・網目彌文。	-	-
6. A-6602 SK6110	海綿土	深鉢	側部	夷狀・網目彌文。	-	-
7. A-6603 SK6110	海綿土	深鉢	口縁・側部	口縁部、(S)字形、弧状・横位・側位沈文。側部：横渦・側先疣状文。口縫部：網目彌文。	180-12	
8. A-6604 SK6111	海綿土	深鉢	側部	網目・網状沈文。	180-10	
9. A-6605 SK6112	海綿土	深鉢	口縁部	夷狀・網目彌文。	隣接剖面。	-
10. A-6606 SK6112	海綿土	深鉢	側部	網目・網状沈文。縞文LR。部位施文。	-	-
11. A-6607 SK6113	2~7層	深鉢	口縁・側部	口縫部：網目・網状沈文。縞文LR。部位施文。側部：夷狀・網目彌文。縞文LR。部位施文。	180-10	
12. A-6608 SK6115	海綿土	深鉢	側部	網目彌文。縞文LR。部位施文。	-	-
13. A-6609 SK6117	海綿土	小型鉢	口縁・側部	口縫部・ナラ・網目・網状沈文。側部：網目・網状・夷狀・網目彌文。縞文LR。部位施文。底部・ナラ・網目彌文。	180-1	
14. A-6610 SK6118	1層	小型鉢	口縁・側部	口縫部：網目彌文。縞文LR。部位施文。	表面の厚漬痕しき。	180-1
15. A-6601 SK6119	海綿土	深鉢	口縁・側部	口縫部：網目彌文。縞文LR。部位施文。縞文・側部・横位沈文。	-	-

第252図 土坑出土遺物 (30)

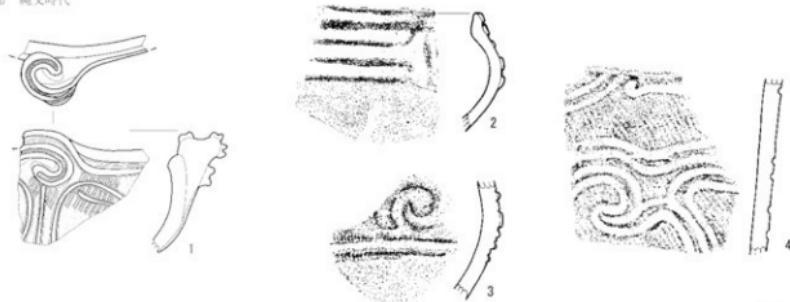


SK6121

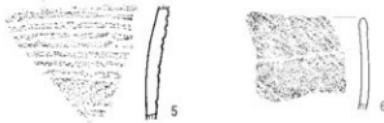
レ番	登録番号	造形	層位	器形・部位	文様等	施考	写真回数
1	A-60492	SK6121	4層	深鉢、口縁～胴部	口縁部：輪状把手、「○」字底、輪状隕神文。胴部：瓶位、波状隕神文、瓶位沈隕文。胴部：波状口縁。	-	101-4
2	A-60493	SK6121	4層	浅鉢、口縁～底部	口縁部：瓶位隕神文。底部：輪状「○」字底。	-	101-6
3	A-60494	SK6121	4層	小型深鉢、口縁～胴部	口縁部：渦巻、瓶位隕神文、繩文LS綴位施文。頭部：渦巻、瓶位沈隕文。胴部：渦巻、瓶位施文。	-	101-5
4	A-60495	SK6121	1層	有孔器什件鉢、口縁～底部、内孔部	瓶形隕神文、胴部、瓶形隕神文、底部、十字	-	101-3

第253図 土坑出土遺物 (31)

第1節 硏文時代



SK6121



SK6125



SK6127



SK6129



SK6130



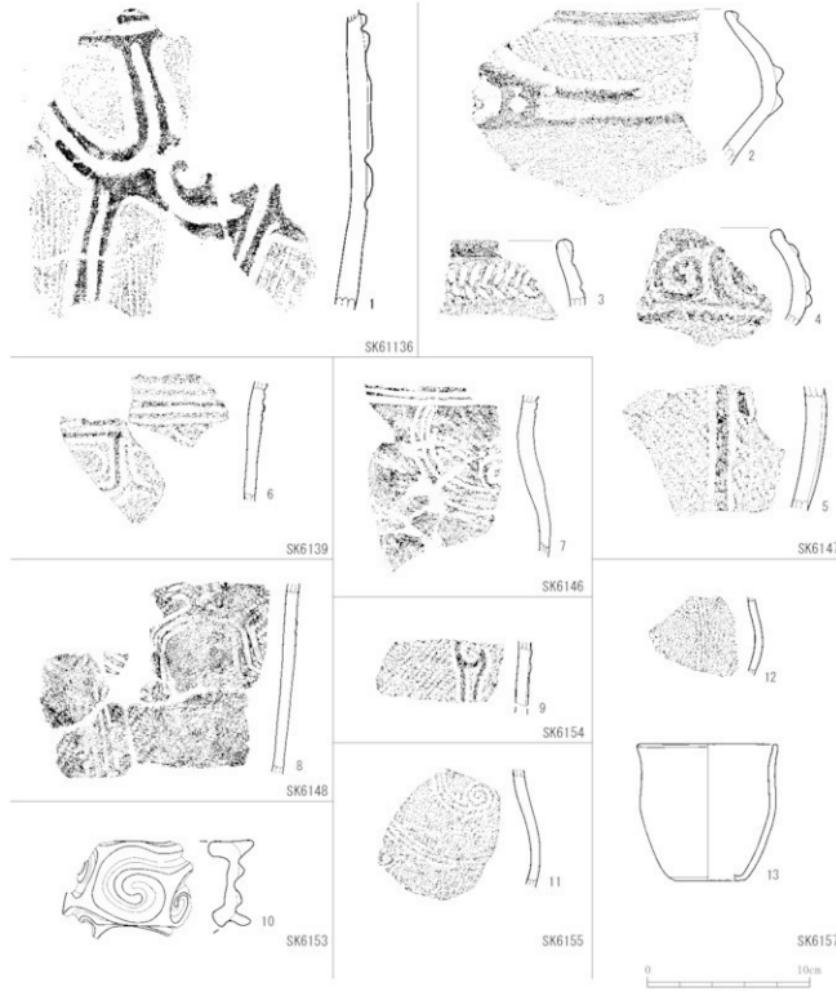
SK6131



SK6133
0 10cm
(5-1/30)

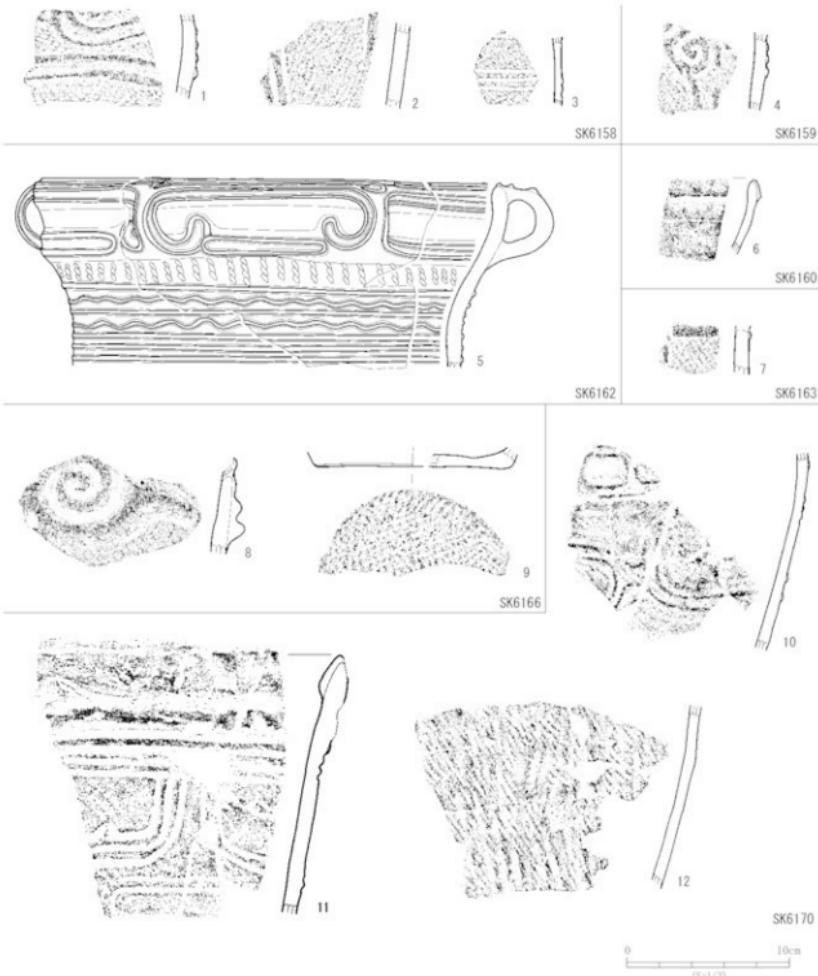
No.	登録番号	遺 墓	層 位	形 性・部 位	文様等	備 考	寸法(復数)
1	A-66497	SK6121	海綿土	深鉢・口縁部	渦巻文起、隣文。織文L部位施文。	-	
2	A-66497	SK6121	海綿土	浅鉢・口縁・頂部	口縁部・底付・織位・縫位施文。織文L部位施文。頭部・無文。	表面の厚漬重い。	18.5-8
3	A-66498	SK6121	4層	浅鉢・側面	渦巻・織位施文。隣地石邊部施文。織文L部位施文。	-	18.5-9
4	A-66499	SK6121	海綿土	深鉢・側面	曲線狀・織位施文。織文L部位施文。	-	18.5-7
5	A-66500	SK6125	海綿土	深鉢・口縁部	底付・織位施文。織文L部位施文。	-	
6	A-66501	SK6125	海綿土	深鉢・口縁部	織文L部位施文。	-	
7	A-66502	SK6127	海綿土	深鉢・口縁部	織文L部位施文。織文L部位施文。	-	
8	A-66503	SK6127	海綿土	深鉢・口縁・側面	L部位有縫施文。織文L部位施文。頭部・無文。側面・橫部・渦巻文。織文L部位施文。	下と同じ。	18.5-10
9	A-66504	SK6127	海綿土	深鉢・口縁・頂部	L部位有縫施文。織文L部位施文。頭部・無文。	下と同じ。	18.5-11
10	A-66505	SK6129	海綿土	深鉢・口縁・底部	L部位有縫施文。織文L部位施文。頭部・無文。横部・有縫渦巻。	-	
11	A-66506	SK6130	海綿土	深鉢・側面	渦巻文。	-	
12	A-66507	SK6131	海綿土	深鉢・側面	渦巻文。織文L部位施文。	-	
13	A-66508	SK6133	海綿土	深鉢・口縁部	「S」字形點付文。側面文。	-	

第254図 土坑出土遺物 (32)



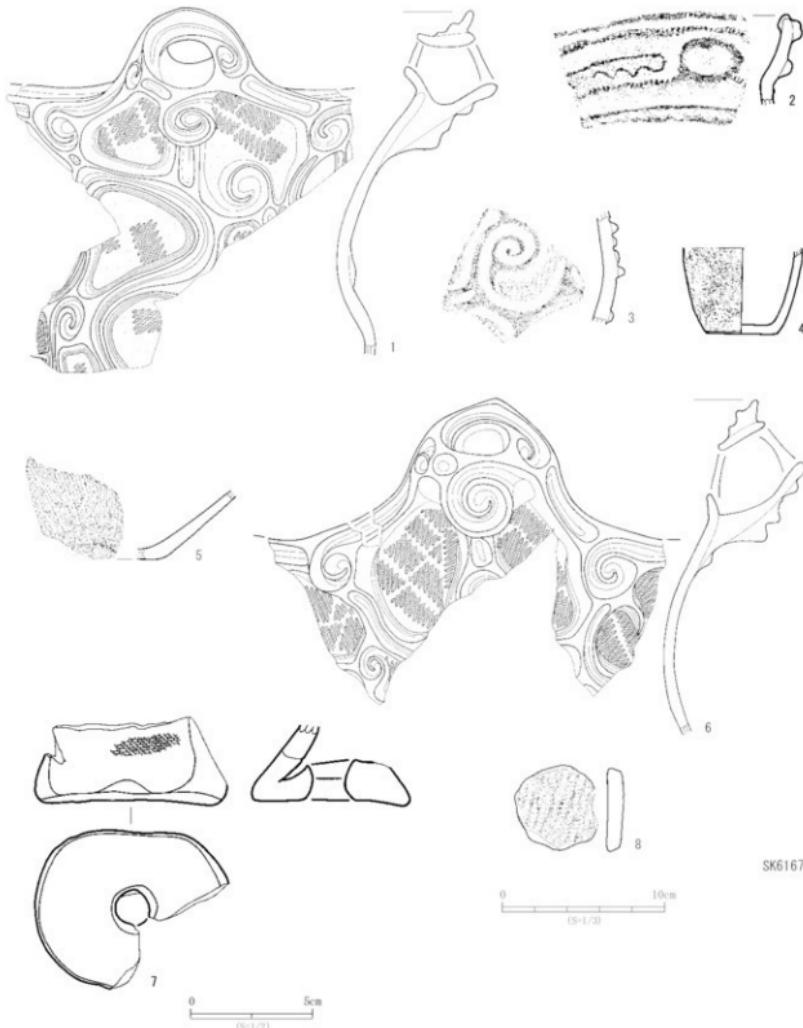
No.	號	遺構	層	形・性	文様等	備考	年代表
1	A-6009	SK6136	海螺壳	深鉢・斜面	曲夷滿洲沈文、口縁内毛無縫合或縫合。	-	180-12
2	A-6010	SK6147	海螺壳	深鉢・口縁～斜面	口縫部・区画隣接縫文、縫文LR斜位無文。頭部：無文。	-	180-1
3	A-6011	SK6147	1～4層	深鉢・口縫部	頭位降縫文、頭位斜位或縫文。	隕微剝離。	180-2
4	A-6012	SK6147	海螺壳	深鉢・口縁～斜面	口縫部・区画・頭位斜位或縫文、隕微剝離任縫文LR無文。頭部：無文。	-	180-3
5	A-6013	SK6147	海螺壳	深鉢・斜面	頭位降縫文、縫文LR斜位無文。	隕微剝離。	180-4
6	A-6014	SK6139	海螺壳	深鉢・斜面	頭位・区画・頭位無文。	-	-
7	A-6015	SK6146	海螺壳	深鉢・斜面	区画・頭位沈縫文、縫文LR斜位無文。	-	-
8	A-6016	SK6148	海螺壳	深鉢・斜面	頭位・区画斜位或縫文、縫文RL頭位無文。	-	-
9	A-6017	SK6154	海螺壳	深鉢・斜面	頭位縫文、縫文RL頭位無文。	-	-
10	A-6018	SK6155	海螺壳	深鉢・把手	区画降縫文。	-	-
11	A-6019	SK6155	海螺壳	深鉢・斜面	区画沈縫文、縫文LR頭位無文。	摩滅度しづ。	-
12	A-6020	SK6157	海螺壳	深鉢・斜面	区画縫文、縫文RL頭位無文。	-	-
13	A-6021	SK6157	底下層	小型深鉢・口縁～底部	口縫部～斜面：ナデ、底部：ナデ。	-	-

第255図 土坑出土遺物 (33)



號	發掘場號	層	標	形	質	文樣等	編	考	年代(?)
1.	A-46022	SK6158	海耕土	深鉢	胎泥	繩紋文、縞文LR、變位旋文。	-	-	-
2.	A-46023	SK6158	海耕土	深鉢	胎泥	變位旋文變文、縞文LR、變位旋文。	-	-	-
3.	A-46024	SK6158	海耕土	深鉢	胎泥	變位旋文、縞文LR、變位旋文。	-	-	-
4.	A-46025	SK6159	海耕土	深鉢	胎泥	變位旋文、縞文LR、變位旋文。	-	-	-
5.	A-46026	SK6162	2層	深鉢	口緣~胎泥	口緣深鉢、胎泥把手、油滑、胎門陳變文。頂部：押印變文且變位旋文，橫位。底部陳變文。	1602-5	-	-
6.	A-46027	SK6160	下層	深鉢	口緣	變位旋文。	-	-	-
7.	A-46028	SK6162	海耕土	深鉢	胎泥	變位、變位陳變文、縞文LR、變位旋文。	-	-	-
8.	A-46029	SK6166	1~2層	深鉢	口緣深	變位陳變文、縞文LR、變位旋文。	-	-	1602-6
9.	A-46030	SK6166	海耕土	深鉢	胎泥	變位旋。	-	-	-
10.	A-46031	SK6170	海耕土	深鉢	胎泥	變旋、變形狀物變文、縞文LR、變位旋文。	-	-	-
11.	A-46032	SK6170	海山土	深鉢	口緣~胎泥	口緣深、變位旋面押印陳變文、油滑。底部：橫位變旋文、縞文LR、變位旋文。	1602-6	-	-
12.	A-46033	SK6170	1~2層	深鉢	胎泥	變位旋文、縞文LR、變位旋文。	A-46037	上同	1602-7

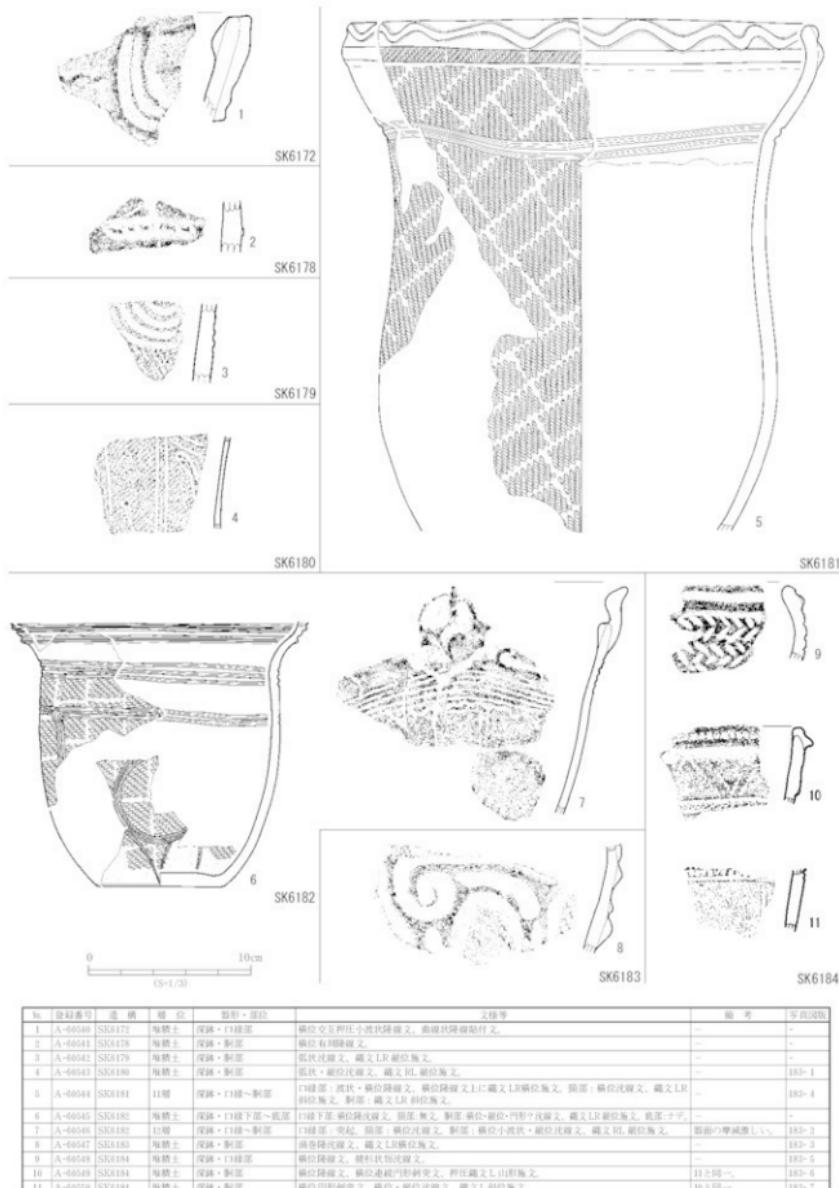
第256図 土坑出土遺物 (34)



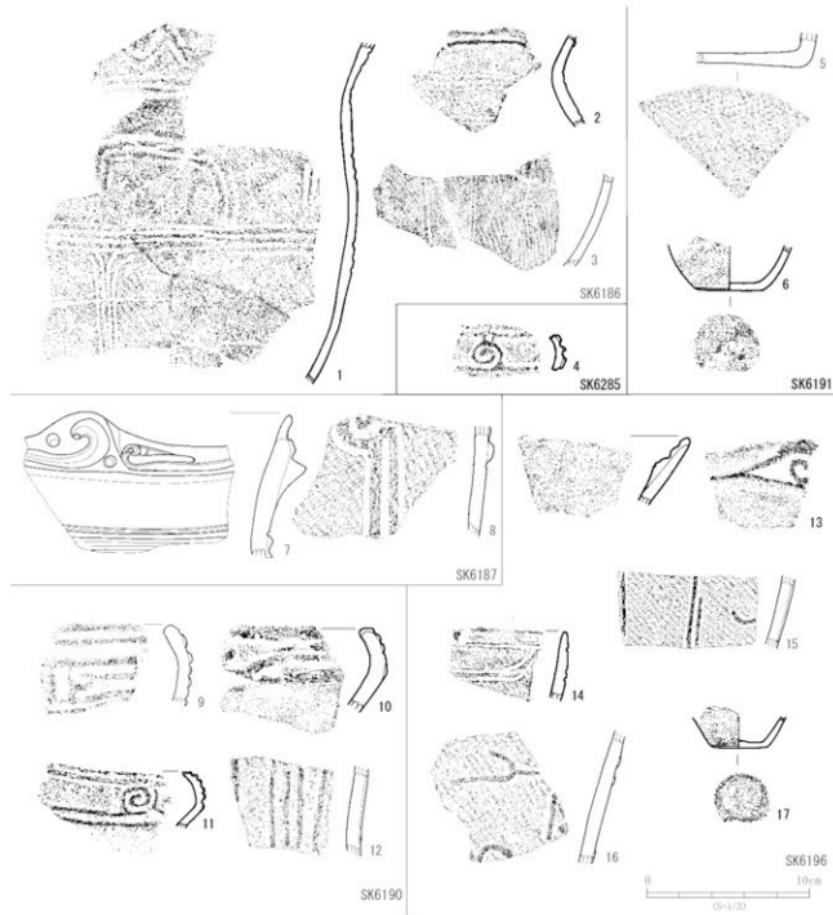
SK6167

No.	登録番号	通 呼	規 格	形 象・組合	文様等	施 工	等 重(目録)
1	A-60034	SK6167	7・8層	深鉢・口縁・側面	口縁部、曲各把手。口縁部～側面：曲底渦巻附斜線文、繩文BL斜位施文。	1と同一、波状口縁。180-9	
2	A-60035	SK6167	1層	深鉢	口縁部、波状・直式・繩文有斜線複文、斜位施文及斜位施文。	器面の厚底質しい。	180-10
3	A-60036	SK6167	5～10層	深鉢	曲底渦巻附斜線文、繩文BL斜位施文。	-	
4	A-60037	SK6167	海螺土	小型鉢・口縁～底部	手造：小輪文斜位施文。底部：ナマ。	器面の厚底質しい。	180-11
5	A-60038	SK6167	海螺土	深鉢	繩文BL斜線文。	-	
6	A-60039	SK6167	7・8層	深鉢・口縁・側面	口縁部、曲各把手。口縁部～側面：曲底渦巻附斜線文、繩文BL斜位施文。	1と同一、波状口縁。	180-12
7	P-6027	SK6167	4層	三角形土製品	繩文BL斜位施文・ナマ。	0kg、底面に丸突り・少しL。	-
8	P-6028	SK6167	3～10層	土製円盤	斜位施文利用。繩文BL施文。	20.6kg	-

第257図 土坑出土遺物 (35)



第258図 土坑出土遺物 (36)



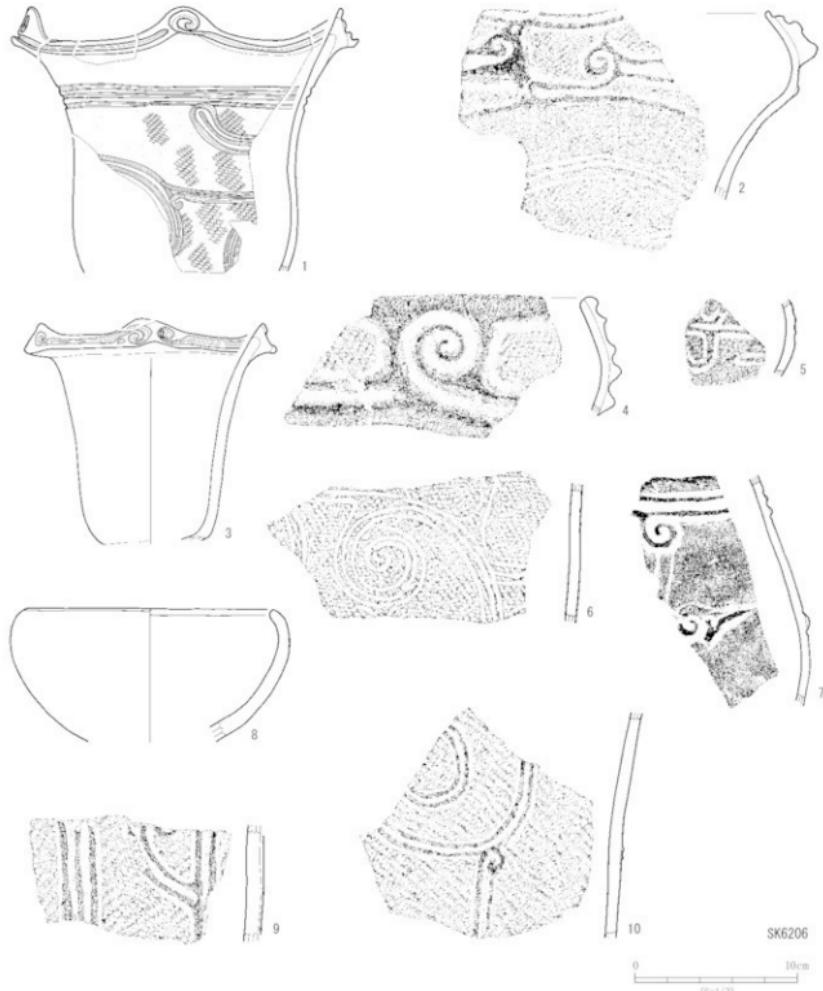
No.	目録番号	画	標	規	形	類別	部位	文様等	施	参考	写真位置
1	A-46051	SK6196	海精土	深鉢	斜底	削部	斜底	乳状、網目沈文、削底、模倣「Y」、乳状沈文、織文L形削底施文。	-	-	-
2	A-46052	SK6196	海精土	深鉢	口縁	削部	口縁	網目沈文、削底、無文、削底、網目沈文、織文LR削底施文。	画面の厚底施しい。	-	-
3	A-46053	SK6196	土	深鉢	斜底	削部	斜底	網目沈文、織文LR削底施文。	-	-	-
4	A-46054	SK6295	海精土	深鉢	口縁部	削部	削部	網目沈文。	画面の厚底施しい。	-	-
5	A-46055	SK6191	海精土	深鉢	斜底	削部	斜底	網目、ナガ、直底、ナガ。	-	-	-
6	A-46056	SK6191	海精土	深鉢	斜底	削部	斜底	網目、ナガ、直底、ナガ。	-	-	-
7	A-46057	SK6197	土	深鉢	口縁	削部	口縁	直縁、口縁突出、網目沈文、円形削底文、削底、無文、削部、網目沈文。	-	180-11	-
8	A-46058	SK6197	海精土	深鉢	斜底	削部	斜底	直縁、網目沈文、織文L形削底施文。	-	180-10	-
9	A-46059	SK6199	海精土	深鉢	口縁部	削部	口縁	直縁、網目沈文、織文L形削底施文、網文、回、網目施文。	-	-	-
10	A-46060	SK6199	海精土	浅鉢	口縁	削部	口縁	直縁、乳状、網目沈文、網文、織文L形削底施文、削底、無文。	-	-	-
11	A-46061	SK6199	海精土	深鉢	口縁	削部	口縁	直縁、網目沈文、削底、無文。	画面の厚底施しい。	-	-
12	A-46062	SK6199	海精土	深鉢	斜底	削部	斜底	網目沈文、織文LR削底施文。	-	-	-
13	A-46063	SK6196	海精土	深鉢	口縁部	外側	ナガ、内側	直縁、網目沈文、三文式隕底施文。	-	180-8	-
14	A-46064	SK6196	海精土	深鉢	口縁部	削部	削部	直縁、乳状、網目沈文、織文L形削底施文。	-	180-9	-
15	A-46065	SK6196	海精土	深鉢	斜底	削部	斜底	網目沈文、織文LR削底施文。	-	-	-
16	A-46066	SK6196	海精土	深鉢	削部	削部	削部	網目沈文、織文LR削底施文。	-	-	-
17	A-46067	SK6196	海精土	小型深鉢	深~底	削部	削部、織文LR削底施文、直底、ナガ。	-	-	-	-

第259図 土坑出土遺物 (37)



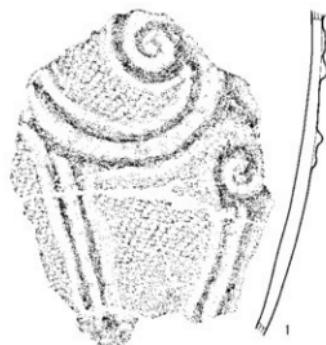
件名	目録番号	地	標	期	形	質	文様等	地	考	年代
1	A-66068	SK6200	1層	深鉢	斜面	褐色素燒鉢灰、小孔底、橫向隕縫。	斜面の厚底灰、	-	-	18B-2
2	A-66069	SK6201	複柄土	深鉢	斜面	褐色素燒灰。	-	-	-	-
3	A-66070	SK6209	複柄土	深鉢	口縁部	褐色素燒灰。	-	-	-	-
4	A-66071	SK6210	複柄土	深鉢	斜面	褐色素燒灰。	-	-	-	-
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
								0	10cm	
								(5-1/3)		

第260図 土坑出土遺物 (38)

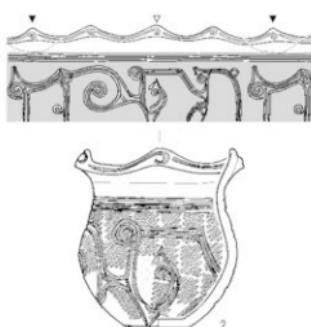


No.	登録番号	遺構	層位	器形・部位	文様等	備考	写真(例)	
1	A-66588	塹積土	深鉢	口縁・側面	口縁部: 滅青花織文。側面: 無文+輪紋花織文。側面: 無文+輪紋花織文。織文: L型位無文。	既底口縁。	18d-7	
2	A-66581	SK6396	1層	深鉢	口縁・側面	口縁部: 有輪高唇沿花織文。織文: H型位無文。側面: 無文。側面: 滅青花織文。織文: L型位無文。	-	18d-8
3	A-66582	SK6396	2層	深鉢	口縁・側面	口縁部: 滅青花織文。織文: L型位無文。側面: ナデ。	-	18d-9
4	A-66583	SK6396	樹山面	深鉢	口縁部	無地・滅青花織文。織文: H型位無文。	-	18d-10
5	A-66584	SK6396	1-11層	深鉢	口縁部	側面: 滅青花織文。織文: H型位無文。	画面△摩滅度1/3。	18d-11
6	A-66585	SK6396	19層	深鉢・側面	滅青花織文。織文: L型位無文。	-	18d-12	
7	A-66586	SK6396	2層	深鉢	有輪高唇沿花織文。	-	18d-13	
8	A-66587	SK6396	樹山面	深鉢・口縁・側面	口縁部・側面: 無文。	-	18d-14	
9	A-66588	SK6396	1-11層	深鉢・側面	無地・滅青花織文。織文: H型位無文。	-	18d-15	
10	A-66589	SK6396	樹山面	深鉢・側面	側面: 滅青花織文。織文: L型位無文。	-	18d-16	

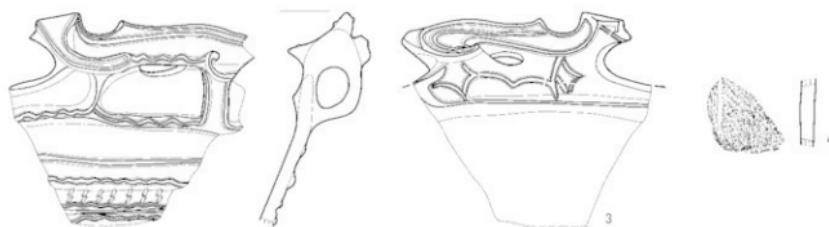
第261図 土坑出土遺物 (39)



SK6212



SK6217



SK6214



SK6205



SK6216

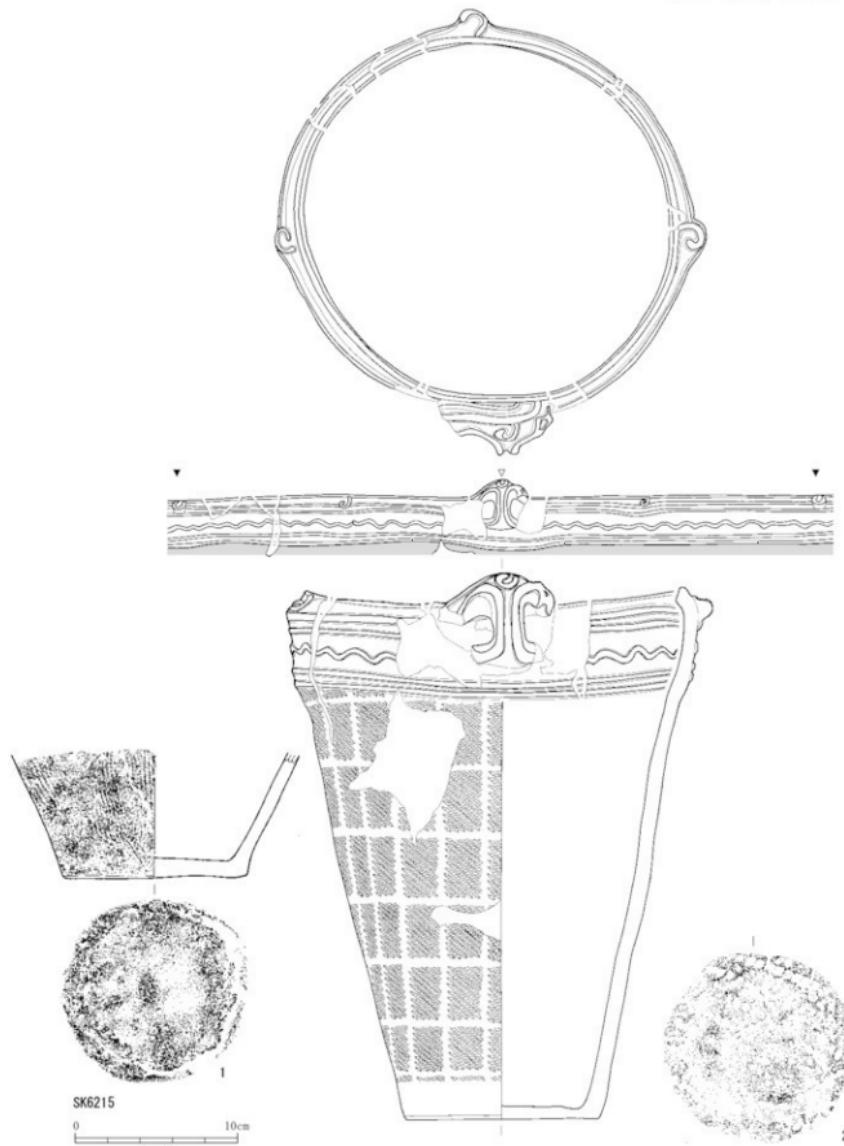


SK6218

0
(S=1/2) 10cm

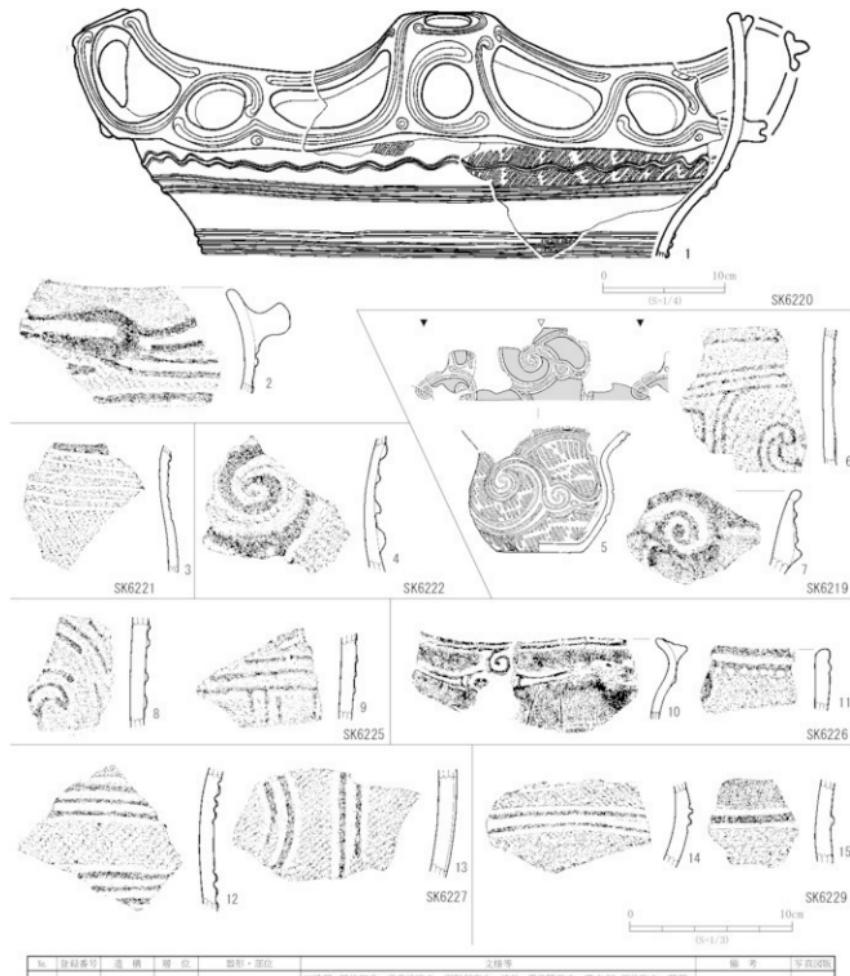
No.	發現番号	造 型	規 样	器形・部位	文様等	備 考	参考頁數
1	A-66080	SK6212	2層上面	深鉢・胴部	曲夷滿帶附沈綱文、縹文凹印、網位施文。	-	188- 3
2	A-66081	SK6217	海盤土	小型深鉢、口縁～底足	口綱足、縹位滿帶沈綱文、縸部・網位沈綱文、側足・底足有碎滿帶沈綱文、凹印、網位施文。	波狀口縫。	188- 3
3	A-66082	SK6214	1層	深鉢、口縁～頸部	口綱足、網狀口縫。	-	188- 4
4	A-66083	SK6214	海盤土	深鉢、胴部	網位沈綱文、縸文LR網位施文。	-	-
5	A-66084	SK6205	上層	深鉢、口縁～胴部	口綱足、縹位隨代綱文、縸部・無文、胴部・網位沈綱文、縸文LR網位施文。	波狀口縫。	188- 6
6	A-66085	SK6216	海盤土	深鉢、口綱足	網位、交叉并在口沿波狀綱文。	-	-
7	A-66086	SK6218	海盤土	深鉢、胴部	網位隨代綱文、縸文LR網位施文。	-	-

第262図 土坑出土遺物（40）



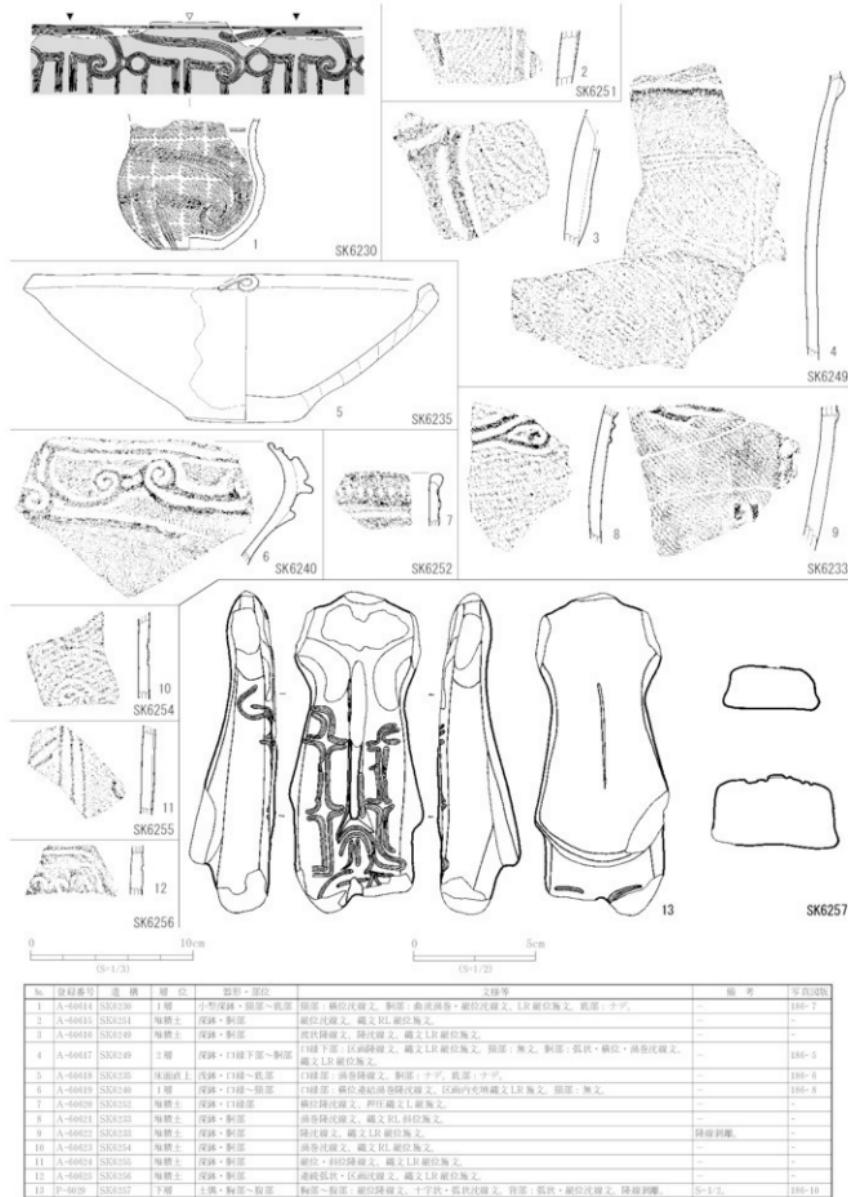
第263図 土坑出土遺物（41）

No.	登録番号	造 稲	層 位	器形・部位	文様等	備 考	字画通版
1	A-46097	SK6215	4層	深鉢・脚～底部	側面：IJR 龍纹文。底部：ナギ。	-	-
2	A-46098	SK6215	4層	深鉢・口縁～底部	口縁部：鶴紋把手。柄部：龙纹。柄部背面：文。側面：織文L足龍纹文。底部：網代目。	-	105-7

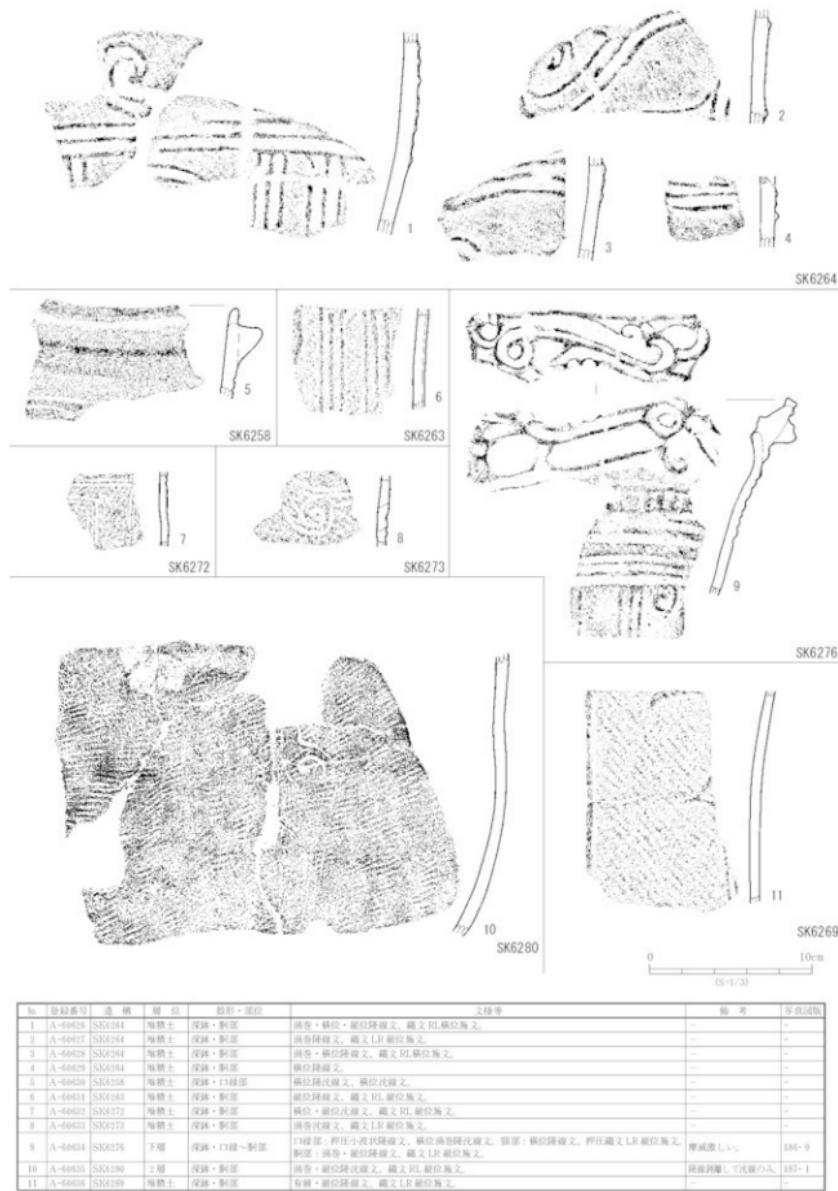


No.	登錄番号	造・構	場所	器形・部位	文様等	参考	写真回数
1	A-46059	SK6220	床面直上	深鉢・口縁～底部	口縁部：楕円把手。底部浅縁文。内形斜縁文。浅鉢・楕円底縁文。楕文1列。楕円底無文。	浅鉢口縁。S-1/L.	186-9
2	A-46060	SK6220	海柄土	深鉢・口縁部	口縁把手。楕円把手。底部浅縁文。楕文1列。楕円底無文。	-	186-3
3	A-46061	SK6221	海柄土	深鉢・脚部	楕円底縁文。楕円底無文。楕文1列。楕円底無文。	-	-
4	A-46062	SK6221	海柄土	深鉢・脚部	楕円底浅縁文。楕文1列。楕円底無文。	-	186-1
5	A-46063	SK6219	上層	小型深鉢・頭部～底部	頭部～脚部：曲波渦状弦紋。LR楕円底縁文。底部：ナマ。	-	186-2
6	A-46064	SK6219	海柄土	深鉢・脚部	楕円・楕円底縁文。楕文1列。楕円底無文。	-	-
7	A-46065	SK6219	海柄土	深鉢・口縁部	楕円底浅縁文。	浅鉢口縁。	-
8	A-46066	SK6225	海柄土	深鉢・脚部	楕円底縁文。楕文1列。楕円底無文。	-	-
9	A-46067	SK6225	海柄土	深鉢・脚部	楕位。楕位底縁文。楕文1列。楕位底無文。	9と同じ。	-
10	A-46068	SK6226	海柄土	深鉢・口縁～脚上部	口縁：楕位底無文。楕位底縁文。楕文1列。楕位底無文。頭部：無文。	9と同じ。	186-3
11	A-46069	SK6226	海柄土	深鉢・口縁部	楕位底縁文。内形斜縁文。楕文1列。楕位底無文。	-	-
12	A-46070	SK6227	海柄土	深鉢・脚部	楕位底縁文。楕文1列。楕位底無文。	-	-
13	A-46071	SK6227	海柄土	深鉢・脚部	楕位。曲波状弦紋。楕文1列。楕位底無文。	-	186-4
14	A-46072	SK6229	1層	深鉢・口縁～底部	口縁部：深縁文。楕文1列。楕位底無文。頭部：楕文1列。楕位底無文。	-	-
15	A-46073	SK6229	海柄土	深鉢・脚部	頭部：無文。脚部：楕位底縁文。楕文1列。楕位底無文。	-	-

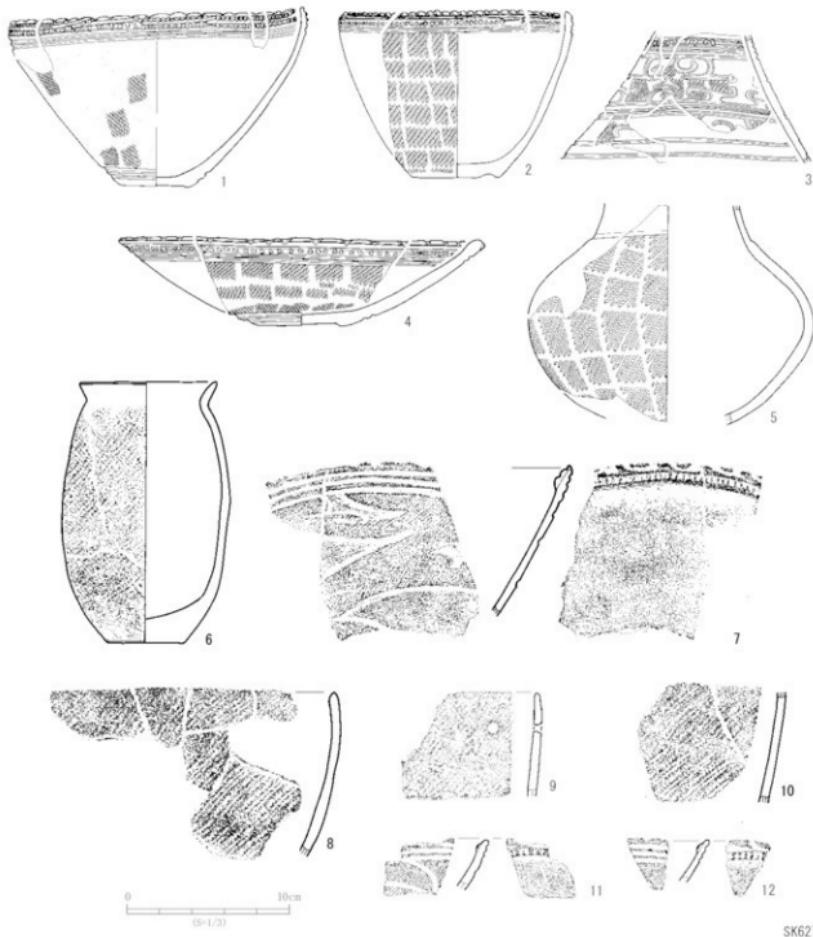
第264図 土坑出土遺物 (42)



第265図 土坑出土遺物（43）



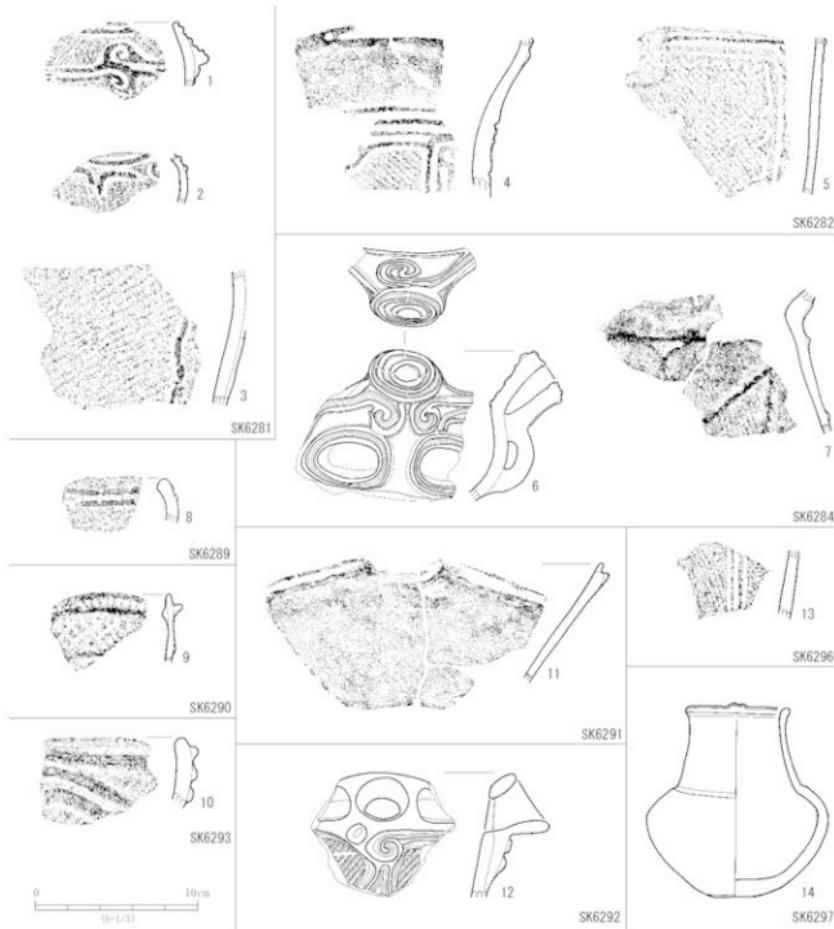
第266図 土坑出土遺物 (44)



SK6275

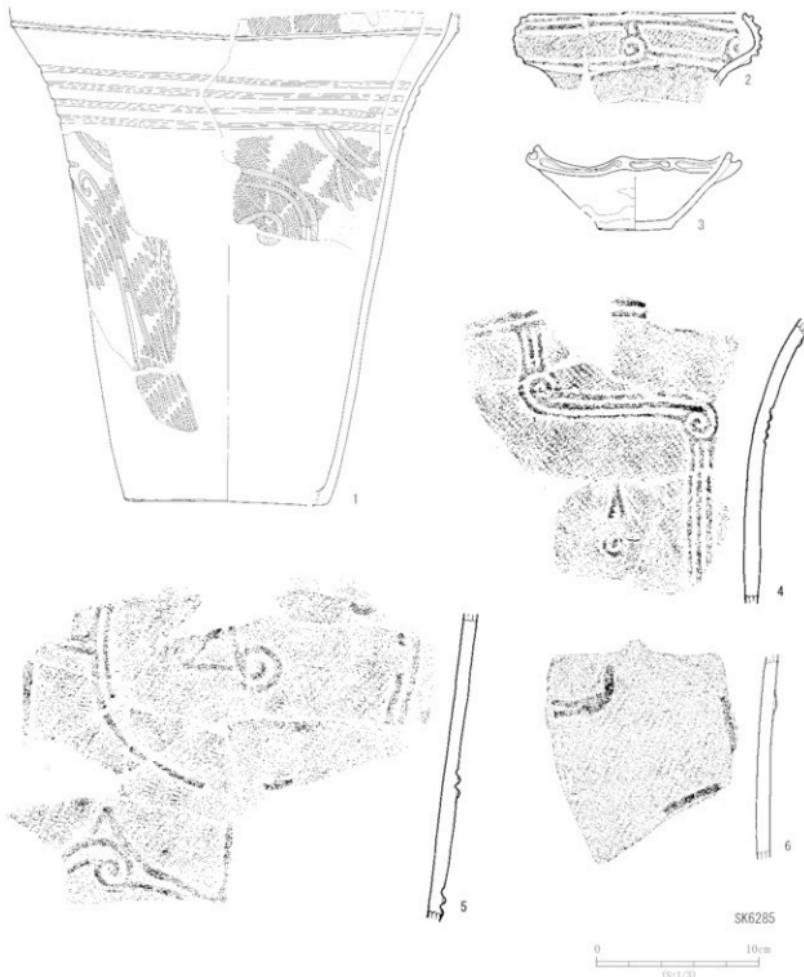
No.	登録番号	通 種	層 位	形態・部位	文様等	備 考	参考出典
1	A-66037	SK6275	海耕土	小型浅鉢。口縁～底部	口縁部：羽目。口縁部：横位網状斜文。網位波線文。斜部：繩文上L形波紋文。網位沈綱文。文：ナラ。底部：ナラ。	-	187-3
2	A-66038	SK6275	3層	浅鉢。口縁～底部	口縁部：羽目。口縁部：横位波綱文。網位波綱斜文。斜部：繩文上L形波紋文。底部：ナラ。	-	187-4
3	A-66039	SK6275	6層上面	台部	浅鉢。柄：S字形。二叉位：繩位波綱文。波綱斜文。繩文上L形波紋文。網位波紋文。底部：ナラ。	-	187-5
4	A-66040	SK6275	6層上面	洗鉢。口縁～底部	口縁部：羽目。口縫部：連続三角形斜文。網位波綱文。斜部：繩位波綱文。繩文上L形波紋文。網位波紋文。底部：ナラ。	-	187-3
5	A-66041	SK6275	海耕土	甕・圓錐～斜部	網部：ナラ。斜部：繩文R。網位波紋文。	-	187-6
6	A-66042	SK6275	海耕土	深鉢。口縁～底部	口縫部：ナラ。斜部：繩文上L形波紋文。底部：ナラ。	-	187-9
7	A-66043	SK6275	3層	浅鉢。口縁～斜部	口縫部：繩位波綱文。斜部：三叉位波綱斜文。網位波紋文。口縫部内面：橫位波綱文。	-	187-8
8	A-66044	SK6275	1・2層	深鉢。口縫部	繩文上L形波紋文。	9・10と同じ。	187-7
9	A-66045	SK6275	海耕土	深鉢。口縫部	繩文上L形波紋文。網位波紋文。	網位孔。8・10と同じ。	187-10
10	A-66046	SK6275	海耕土	深鉢。斜部	網位波紋文。	8・9と同じ。	187-11
11	A-66047	SK6275	1～2層	洗鉢。口縫部	網位波綱文。三叉位波綱斜文。網位波紋文。口縫部内面：有3列波紋文。	-	187-10
12	A-66048	SK6275	海耕土	洗鉢。口縫部	網位波綱文。繩文上L形波紋文。口縫部内面：有4列波紋文。	-	187-10

第267図 土坑出土遺物 (45)



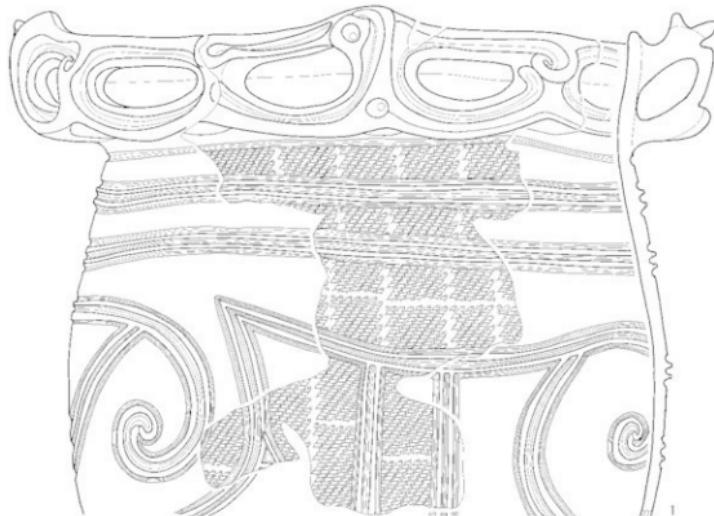
器物番号	遺 庫	層 次	形 象	部位	文様等	考	参考図
1. A-46649	遺 庫	深 坑	深 坑	口経部	透明白陶泥質文、織文 LIP装位施文。	-	-
2. A-46650	SK6281	海耕土	深 坑	側面	透明白陶泥質文、織文 LIP装位施文。	-	-
3. A-46651	SK6281	海耕土	深 坑	側面	透明白陶泥質文、織文 LIP装位施文。	-	-
4. A-46652	SK6281	海耕土	深 坑	口経下端～側面	透明白陶泥質文、織文 LIP装位施文。	187-14	
5. A-46653	SK6282	海耕土	深 坑	側面	透明白陶泥質文、織文 LIP装位施文。	187-15	
6. A-46654	SK6284	海耕土	深 坑	口経部	内折突起、織文折子、透明白陶泥質文、口経部内面：透明白陶泥質文。	187-16	
7. A-46655	SK6284	海耕土	深 坑	側面	無文、側面：「Y」字状・織位・織位突起、織文 LIP装位施文。	-	-
8. A-46656	SK6289	海耕土	深 坑	口経部	織位降痕文、織文 LIP装位施文。	-	-
9. A-46657	SK6290	海耕土	深 坑	口経部	織位降痕文、織文透明白陶泥質文、斜格子目尻浅羅文。	-	-
10. A-46658	SK6291	上層	深 坑	口経部	無文、織位降痕文、織文 LIP装位施文。	-	-
11. A-46659	SK6291	7層	浅 坑	口経～側面	口経部：M1、丁字折子、織位浅羅文、側面：ナギ。	内外面に赤彩有り。	-
12. A-46660	SK6292	海耕土	深 坑	口経～口部	内折突起、透明白陶泥質文、織文 LIP装位施文。	-	-
13. A-46661	SK6296	海耕土	深 坑	側面	織位浅羅文、織文 LIP装位施文。	-	188-1
14. A-46662	SK6297	4層	小型壺・口経～底部	口経部・小尖部、口経部～側面：「Y」字状・底部：「Y」字状～側面。	-	188-2	

第268図 土坑出土遺物 (46)

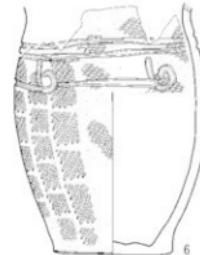


No.	登録番号	造形	層位	器形・部位	文様等	備考	参考図版
1	A-46663	SK6285	3層	深鉢・口縁部下端～軋部	口縁部：区画横綱文、頭部：模位沈綱文、胴部：模位沈綱文、頭部：模位沈綱文、綱文LR 傷位施之。	-	180-4
2	A-46664	SK6285	埴生土	深鉢・口縁～頭部	口縁部：模位尚施降沈綱文、綱文LR 傷位施文、頭部：無文、胴部：模位沈綱文、綱文LR 傷位施文。	-	-
3	A-46665	SK6285	3層	小型浅鉢・口縁～底部	口縁部：口縁突起、模位頭部降沈綱文、胴部：無文、底部：ナガ。	-	180-5
4	A-46666	SK6285	埴生土	深鉢・胴部	有縫隙部降沈綱文、綱文LR 傷位施文。	-	-
5	A-46667	SK6285	埴生土	深鉢・胴部	有縫隙部降沈綱文、綱文LR 傷位施文。	-	-
6	A-46668	SK6285	埴生土	深鉢・頭部	降綱文、綱文RL 傷位施文。	-	-

第269図 土坑出土遺物（47）



SK6299



SK6298

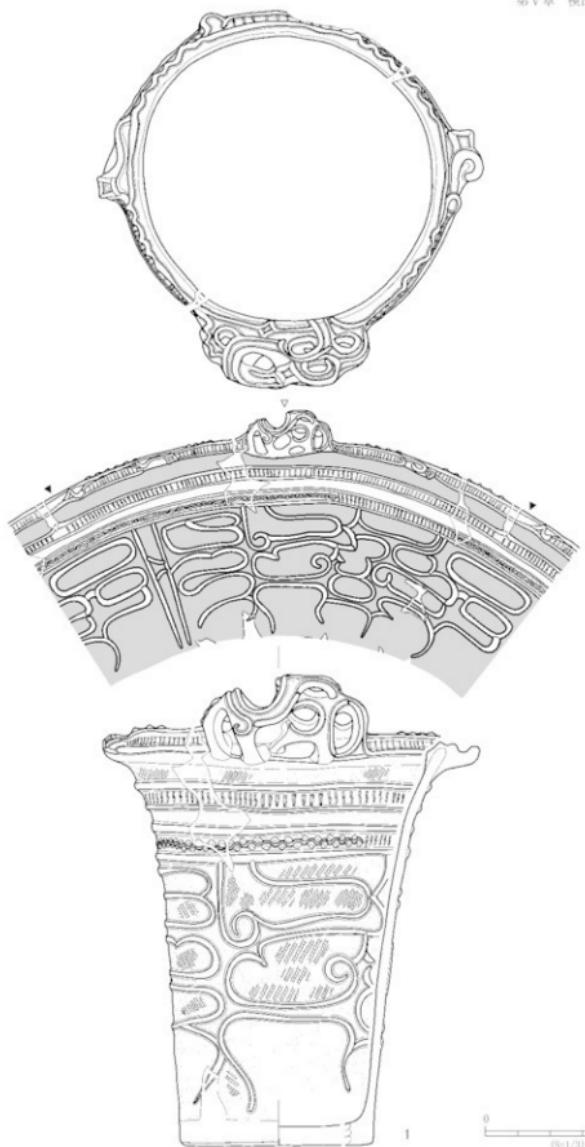
SK6302

SK6309

0
10cm
(35-1/3)

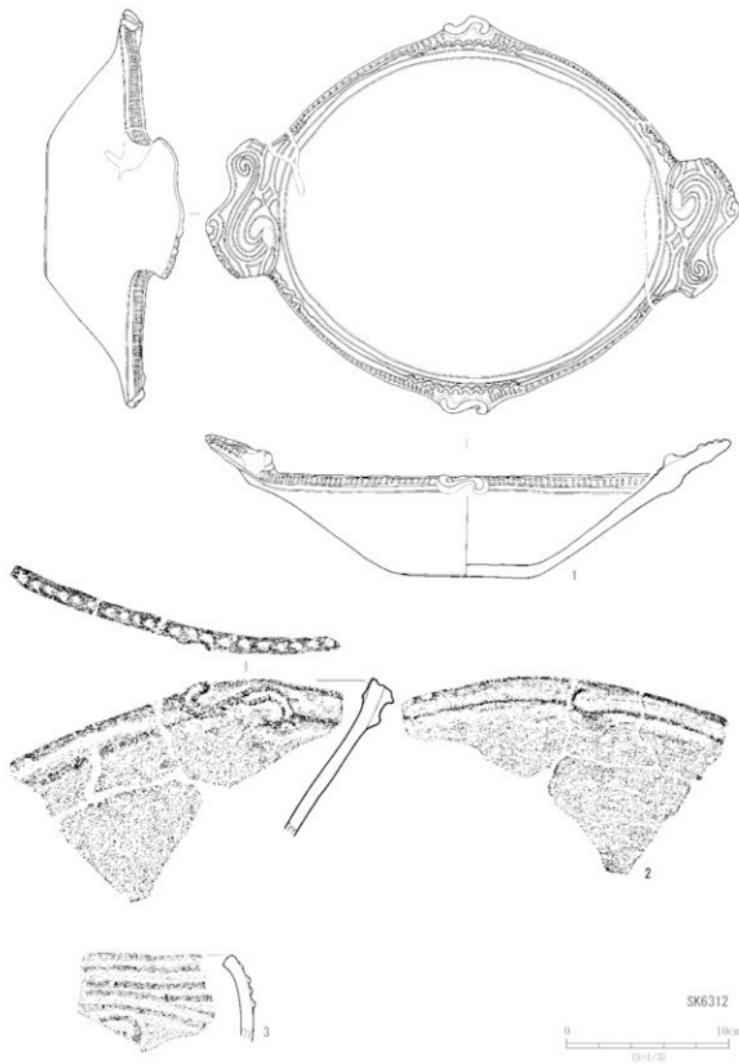
No.	登錄番号	產地	層位	器形・部位	文様等	参考	写真回数
1	A-46009	海城土	深耕土	深鉢・口縁・側面	云雷足、蟠伏把手、曲角伏龍文、円形刻文字、側面：曲角、蟠伏降伏龍文、BL：側面無文。	-	-
2	A-46010	海城土	深耕土	深鉢・口縁・側面	云雷足、蟠伏把手、曲角伏龍文、圓文BL：側面無文、側面：ナラ。	-	-
3	A-46011	海城土	深耕土	深鉢・口縁部	蟠伏、波状陣雲文、圓文BL：側面無文。	-	-
4	A-46012	海城土	深耕土	深鉢・側面	蟠伏降伏龍文、圓文BL：側面無文。	-	180-2
5	A-46013	海城土	深耕土	深鉢・口縁部	云雷降伏龍文、圓文BL：側面無文。	-	180-1
6	A-46014	海城土	上層	深鉢・側面・底面	側面：波雲、蟠伏降伏龍文、頭面～側面：圓文BL：側面無文、底面：ナラ。	-	180-3

第270図 土坑出土遺物（48）



No.	登録番号	造 型	層 位	形 形・面纹	文様等	備 考	写真回数
1	A-60675	SK6312	上層	深鉢・口縁～胴部	口縁部：齊庄少流式。口縁部：蹄状把手、垂鳞斑浅瓣状刻划文、鑄文LR部偏位施文。齊庄頭部：LR部偏位施文。頭部：橫目鍛成文、齊庄頭文LR部偏位施文、頭位加茂程文橫斜刻划文、鑄文LR部偏位施文。胴部：橫目鍛成文、空心斜突小流式。有輪轂各隣壁上、鑄文LR部偏位施文。	摩滅らしい。	186-7

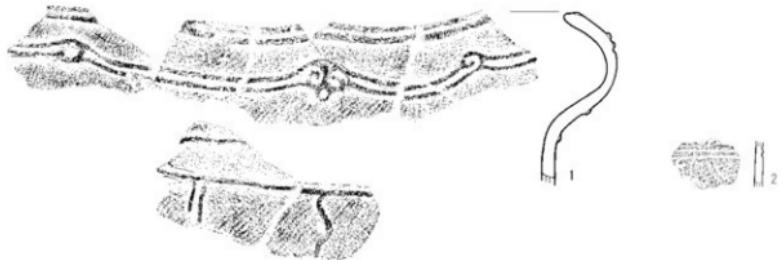
第271図 土坑出土遺物 (49)



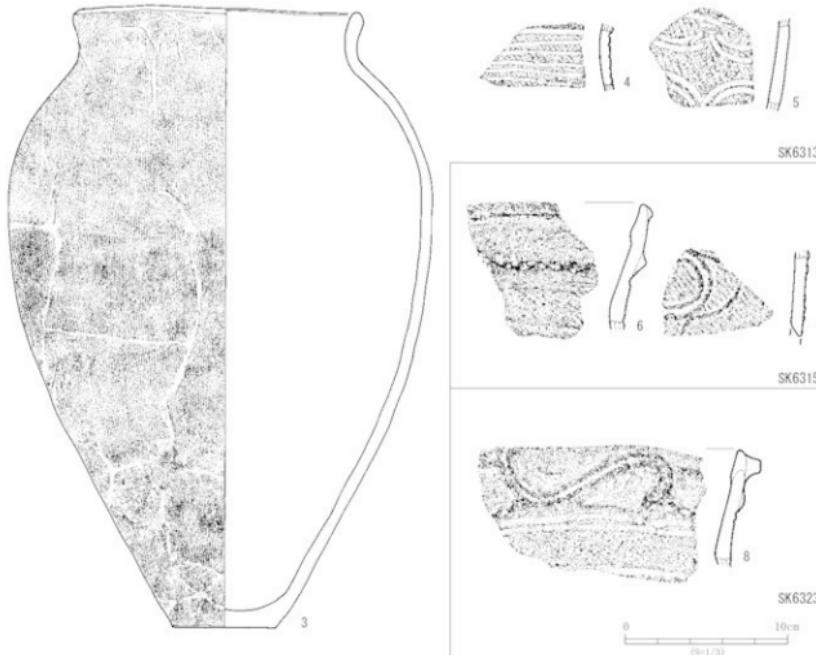
SK6312

編 號	發 現 地 點	層 位	形 制	特 徵	文 樣	備 考	寫真圖版
1 A-66076	SK6312	上層	淺鉢，口緣～腹部	(口緣部：「匚」字狀把手。)「匚」字狀貼片文，圓圈，垂形狀，此狀陰文。範位加沉綫。側部：	無文。 底面：十字。	-	138- 6
2 A-66077	SK6313	上層	淺鉢，口緣～腹部	(口緣部：「匚」字狀貼片文，橫位透銅網文，範位油墨複線文。側部：無文。	-	-	138- 5
3 A-66078	SK6313	角梢土	深鉢，口緣部	隸書文，範文L形斜位複文。	-	-	-

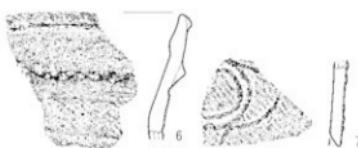
第272図 土坑出土遺物（50）



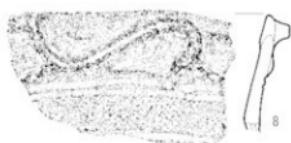
SK6311



SK6313



SK6315

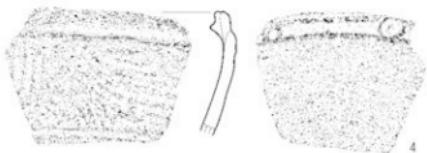
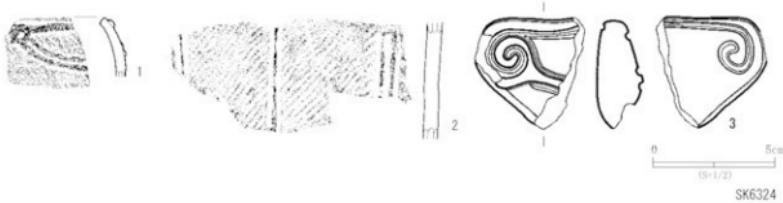


SK6323

0
(S=1/3)
10cm

編	登記番号	地 稿	層 次	器形・部位	文様等	備 考	写真版面
1	A-66079	SK6311	海耕土	深鉢、口縁～側部	口縁部：横位連結済合條文、繩文L形、網位無文。側部：無文。胴部：網位・網位・済合條文。 BL：網位無文。	-	-
2	A-66080	SK6311	海耕土	深鉢、胴部	済合、弧状、網位済合文、繩文T形、網位無文。	-	-
3	A-66081	SK6311	床面鉢上	深鉢、口縁～底部	口縫部～側部：済合式条線文網位無文。底部：ナギ。	-	189-4
4	A-66082	SK6311	2層	深鉢、胴部	網位済合條文、繩文L形？網位無文。	-	-
5	A-66083	SK6311	上層	深鉢、胴部	張狀済合文、繩文L形？網位無文。	-	-
6	A-66084	SK6315	海耕土	深鉢、口縁～胴部	口縫部：網位済合文、交互斜變小波状済合條文。胴部：繩文L形網位無文。	-	189-5
7	A-66085	SK6315	海耕土	深鉢、胴部	済合文、繩文L形網位無文。	-	189-6
8	A-66086	SK6323	海耕土	深鉢、口縁～側部	口縫部：S字状點付文、押捺文L形網位文。側部：網位済合文、網位L形網位無文。	-	189-7

第273図 土坑出土遺物 (51)



SK6326



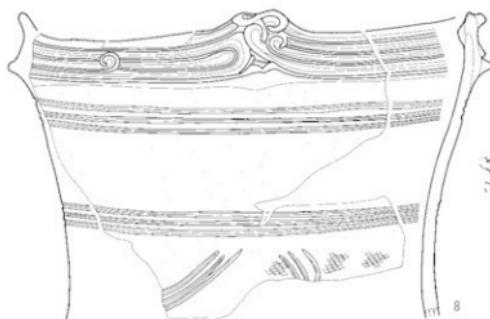
SK6324



SK6329



SK6327



8

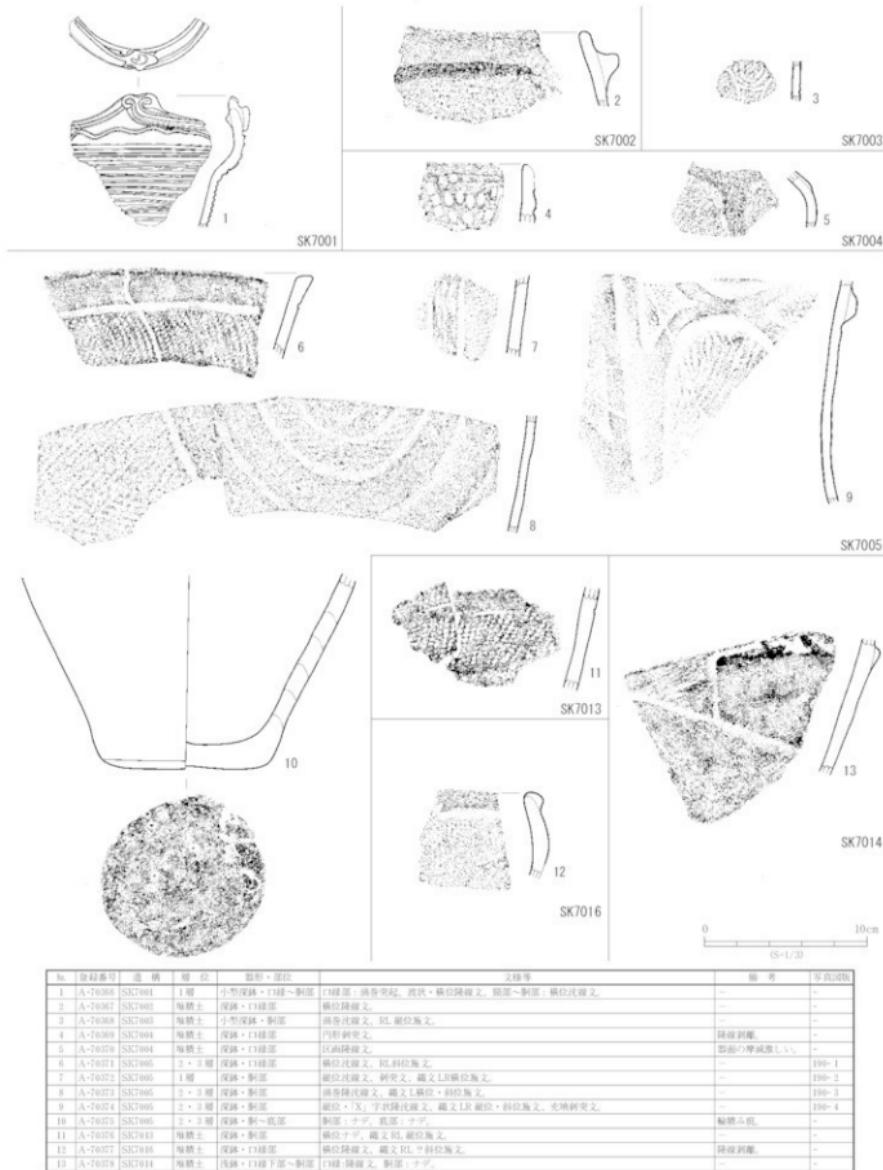


SK6330

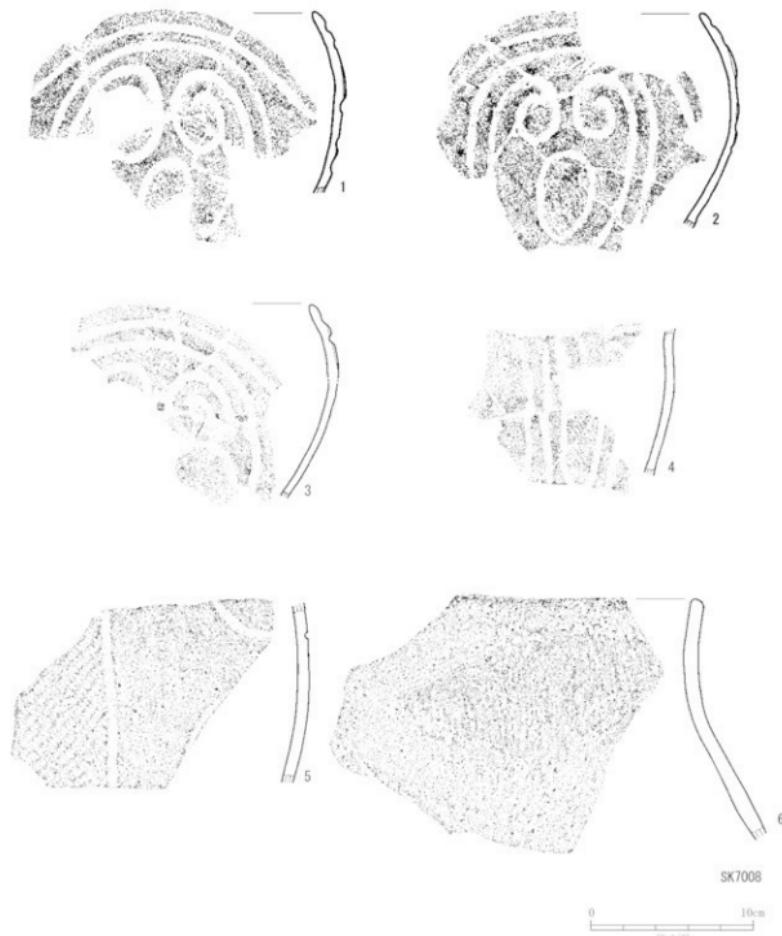
0 10cm
(5-1/10)

No.	號	地	層	形	文様等	文様等	考	等級類
1	A-66007	SK6324	海耕土	深鉢・口縁部	波曲線幾文。縦文LR。横位幾文。	-	-	-
2	A-66008	SK6324	海耕土	深鉢・脚部	波曲線幾文。縦文LR。縱位幾文。	-	-	-
3	P-6030	SK6324	海耕土	土製品	外面：波曲線幾文。裏面：波各代幾文。土偶面部？	S-1/2,	189-10	
4	A-66009	SK6328	海耕土	深鉢・口縁部	横位降沈幾文。乳状波幾文。縦文LR。橫位幾文。内面：波各・横位降沈文。	摩滅度しい。	189-8	
5	A-66009	SK6329	1層	台付鉢・台器	手字。	輪標有り。	-	
6	A-66011	SK6327	海耕土	深鉢・口縁部	乳狀・網狀・波曲線幾文。透刻網突文。斜位集合波幾文。	-	189-9	
7	A-66002	SK6327	海耕土	深鉢・脚部	横位降沈文。縦文LR。縱位幾文。	-	-	-
8	A-66003	SK6330	2層	深鉢・口縁・脚部	口縁部：波各。横位降沈幾文。縦位波幾文。脚部：横位波幾文。縫部：乳状波幾文。縦文	摩滅度しい。	189-11	
9	A-66004	SK6330	海耕土	深鉢・口縁部	波各・波状・菱形状。縦位・横位降沈文。縫部狀波幾文。	-	189-12	

第274図 土坑出土遺物 (52)



第275図 土坑出土遺物 (53)

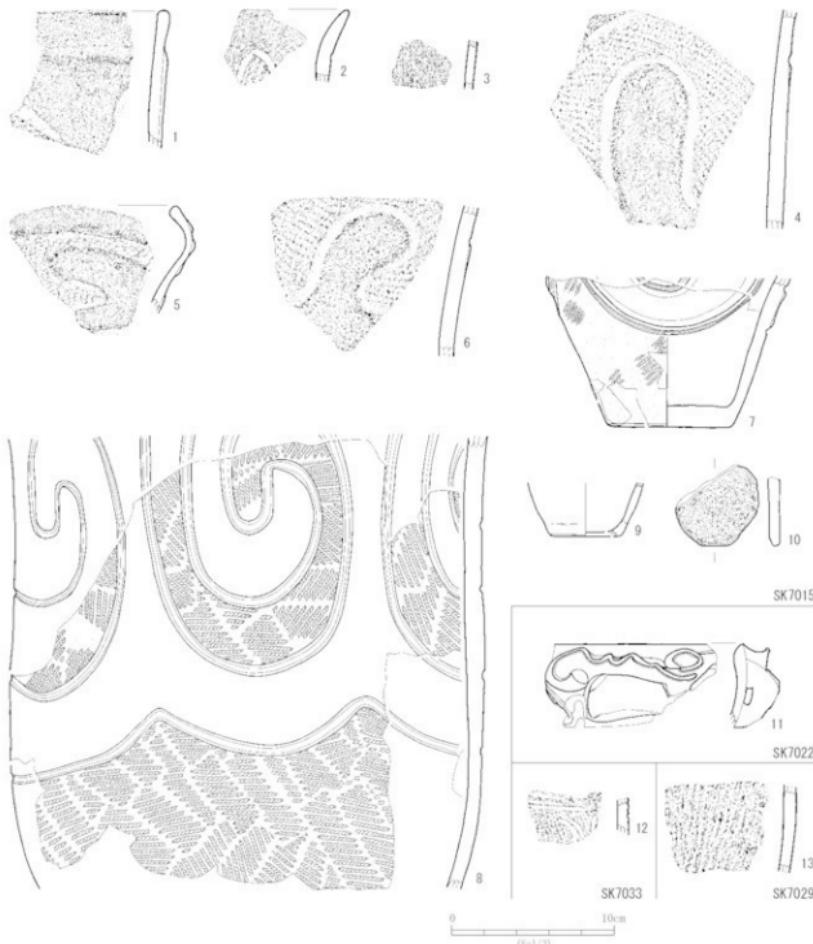


No.	登錄番号	遺構	層位	類別・部位	文様等	備考	写真回数
1	A-7629	SK7008	4～7層	深鉢・口縁部	渦巻「U」字状・相内則波綱文、繩文LX 前位海文。	2～4と同一。	190-3
2	A-7630	SK7008	4～7層	深鉢・口縁部	渦巻「U」字・相内則波綱文、繩文LX 前位海文。	1×3×4×同～。	190-4
3	A-7631	SK7008	2～7層	深鉢・口縁部	渦巻「U」字狀波綱文。	1×2×4×同～。	190-7
4	A-7632	SK7008	2～7層	深鉢・斜面	繩文波綱文。	1～3と同一。	190-8
5	A-7633	SK7008	4～7層	深鉢・斜面	繩文・曲線状波綱文、網状繩文 和L 前位海文。	—	190-9
6	A-7635	SK7008	4～7層	深鉢・口縁～斜面	口縁部～斜面：ナメ。	器面の摩滅激しい。	190-10

第276図 土坑出土遺物 (54)

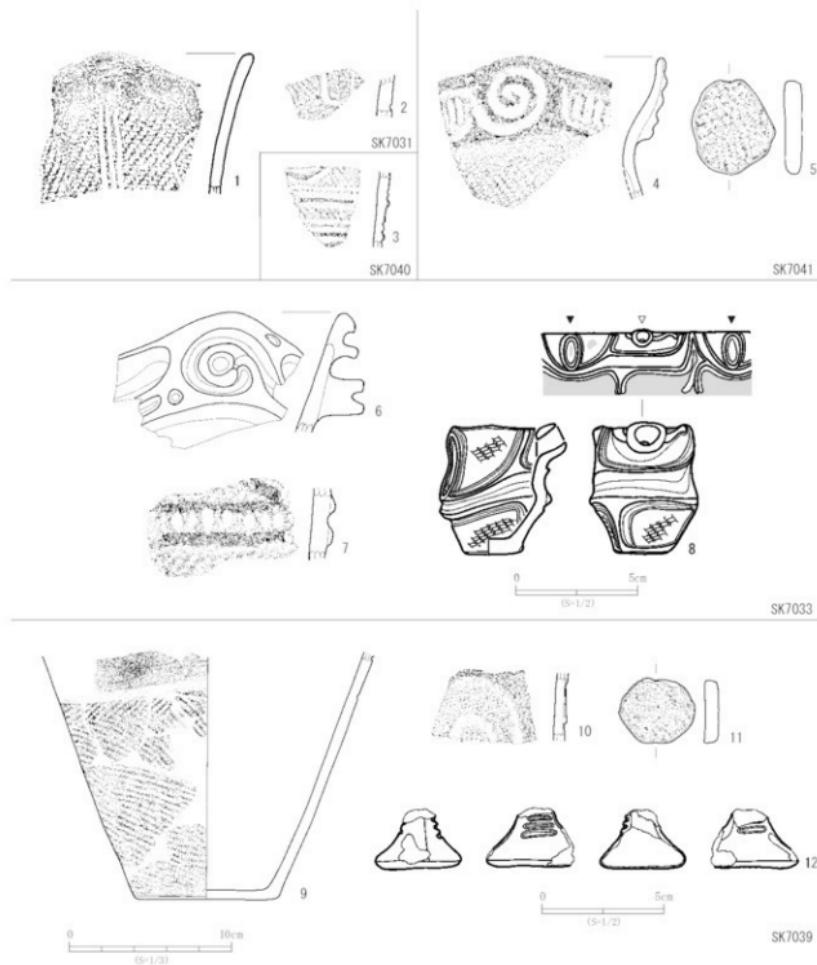


第277図 土坑出土遺物 (55)



號	發現番号	造	構	層	位	器形・部位	文様等	備考	年代回復
1	A-7088	SK7045	上層	深鉢・口縁部	柄位	曲線狀弦紋。	-	-	193-4
2	A-7089	SK7045	3層	深鉢・口縁部	區面沈綱文、壺文LH柄位施文。	-	-	-	193-6
3	A-7090	SK7045	3層	深鉢・胴部	橢圓狀參差文網狀、網目施文。	-	-	-	-
4	A-7091	SK7045	上層	深鉢・胴部	凸面狀陰七瓣文、繩文LR柄位施文。	-	-	-	193-8
5	A-7092	SK7045	3層	深鉢・口縁部	凸面降綱文、壺文LR柄位、網目施文。	-	-	-	193-5
6	A-7093	SK7045	上層	深鉢・胴部	凸面降綱文、繩文LR柄位、網目施文。	-	-	-	193-7
7	A-7094	SK7045	堆積土	深鉢・胴部	曲線狀陰七瓣文、繩文短、網目施文、底部：子母。	-	-	-	193-9
8	A-7095	SK7045	3層上面	深鉢・胴部	曲條・波狀沈綱文、繩文LR柄位施文。	-	-	-	193-3
9	A-7096	SK7045	上層	深鉢・胴～底部	刻畫～底部：子母。	-	-	-	-
10	P-7084	SK7045	堆積土	土質門型	亂泥狀或利用土質。	22.5kg	-	-	-
11	A-7097	SK7022	1層	深鉢・口縫部	橢狀把手、扇形、波狀降綱文。	-	-	-	193-11
12	A-7098	SK7030	堆積土	深鉢・底部～側部	網位、曲線狀陰綱文、繩文LR柄位施文。	-	-	-	-
13	A-7099	SK7029	堆積土	深鉢・胴部	壺文LH網位施文。	-	-	-	193-12

第278図 土坑出土遺物 (56)



No.	登録番号	性	期	層	形	類	原寸	文様等	備考	平均寸法
1	A-70400	石	唐	第Ⅲ	深鉢	口縁～側面	口縁部：ナメ、側面：虎紋、輪紋浅縞文、織文LR、網目施文。	虎紋口縁。	190-12	
2	A-70401	石	唐	第Ⅲ	深鉢	側面	虎紋	口縫：U字状虎紋文、織文LR網目施文。	-	190-11
3	A-70402	石	唐	第Ⅲ	深鉢	側面	輪紋	輪紋浅縞文。	-	-
4	A-70403	石	唐	第Ⅲ	深鉢	口縁～側面	口縫部：波各神代虎紋文、区画内側位虎紋文、頭～側面：織文LR、網目施文。	虎紋口縫。	190-10	
5	P-7060	石	唐	土割	盤	側面	織文LR、RL、網文。	波各神代虎紋文。	190kg	-
6	A-70404	石	唐	第Ⅲ	深鉢	口縫部	輪紋	口縫部虎紋文、区画側虎紋文。	虎紋口縫。	190-10
7	A-70405	石	唐	第Ⅲ	深鉢	側面	輪紋	頭の輪紋文、頭部波各神代虎紋文、織文LR、網目施文。	-	190-10
8	P-7060	石	唐	土割	口縫	口縫部	口縫部：波各神代虎紋文、頭部波各神代虎紋文、織文LR、網目施文。	S-1/2。	190-17	
9	A-70406	石	唐	第Ⅲ	深鉢	側面	輪紋	頭部虎紋文、織文LR、網目施文。	-	-
10	A-70407	石	唐	第Ⅲ	深鉢	側面	輪紋	頭部波各神代虎紋文、織文LR、網目施文。	-	190-11
11	P-7060	石	唐	土割	口縫	口縫部	利用織文LR 施文。	頭部刻削部。	18.0kg	-
12	P-7060	石	唐	土割	口縫	側面	織文	頭部波各神代虎紋文。	S-1/2。	190-10

第279図 土坑出土遺物 (57)



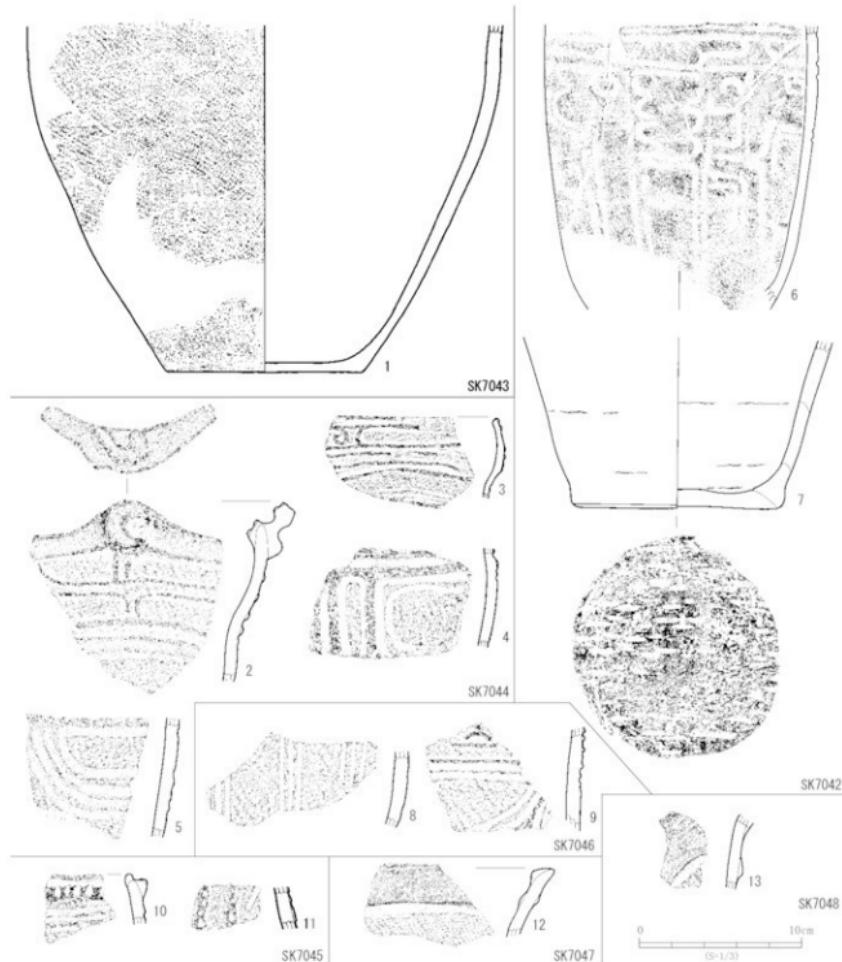
No.	資料番号	直 横	層 位	形態・部位	文様等	施 考	参考古物
1	A-76405	SK7037	1~2層	小型浅鉢・口縁～底部	口縁部：網目・網目文・網目文L形・斜文文。底部：斜文L形・斜文文。底部：ナマ。	波状口縁。	195~9
2	A-76409	SK7037	1~2層	小型近口上器・口縁～底部	口縁部：網目文。口縁部：網目文。斜文L形・斜文文。底部：木葉模。	波状口縁。	195~8
3	A-76410	SK7037	3層	深鉢・口縁部	網目波紋斜文文・網文L形・斜文文。	-	-
4	A-76411	SK7037	2層	深鉢・口縁部	網目波紋斜文文。	-	-

第280図 土坑出土遺物 (58)



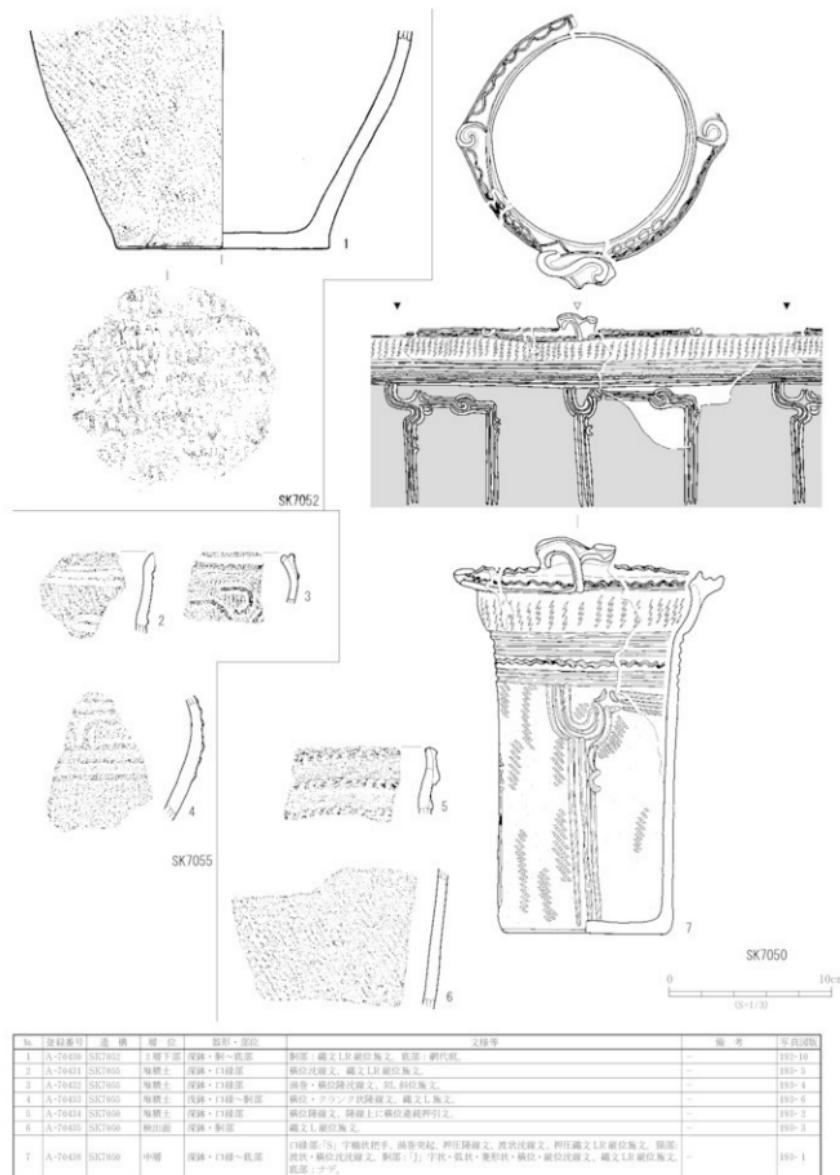
第281図 土坑出土遺物 (59)

No.	器種番号	遺構	層	形態・部位	文様等	備考	参考図版
1	A-76112	SH7643	II層	深鉢・口縁・側面	口縫部・口縁突起・鉢空小波伏文・側面：横並汎波文・側面：十三字。	-	192-2
2	A-76113	SH7643	堆積土	小型浅鉢・口縁・側面	口縫部・渦轍空起・(1)側面部斜・側面：横並汎波文・鉢空伏字波文・縁文：縁文LR・部位無し。	192-3	
3	A-76114	SH7643	堆積土	浅鉢・口縁・側面	口縫部・(2)口縁突起・鉢空波羅文・鉢底障礙文・側面：十三字。	192-1	
4	A-76115	SH7643	II層	深鉢・口縁・側面	側面：有目曉波文・縁文：縁文LR・部位無し。	-	
5	A-76116	SH7643	地土層	深鉢・側面	側面障礙文・縁文LR・部位無し。	-	



No.	登錄番号	通 庫	層 次	器 形・施 装	文様等	備 考	参考出典
1.	A-7043	SK7043	1層	深鉢・脚・施装	縞文(火照施加部)、施文(火照)	-	-
2.	A-7044	SK7044	海耕土	深鉢・口縁・脚部	口縁部(火照)、丁字突起、区隔施文、脚部:施文(火照)、縞文(火照)、脚位施文。	器面の厚底窓しい。	190-4
3.	A-7045	SK7045	海耕土	小型深鉢・口縁・脚部	口縁部(火照)施加灰被文、脚部:施文(火照)、口縁部～脚部:施文(火照)、脚位施文。	器面の厚底窓しい。	190-5
4.	A-7046	SK7044	海耕土	深鉢・脚部	脚部:施文(火照)、縞文(火照)。	器面の厚底窓しい。	190-6
5.	A-7047	SK7044	海耕土	深鉢・脚部	弧状、施文(火照)、縞文(火照)。	器面の厚底窓しい。	190-7
6.	A-7048	SK7042	1層	深鉢・脚部	弧状、施文(火照)、縞文(火照)。	器面の厚底窓しい。	190-10
7.	A-7049	SK7042	2層	深鉢・脚・施装	脚部:テグス、施文:施文(火照)。	器面の厚底窓しい。	-
8.	A-7050	SK7045	海耕土	深鉢・脚部	縞文(火照)。	-	-
9.	A-7051	SK7045	海耕土	深鉢・脚部	弧状(火照)、施文(火照)、縞文(火照)。	-	-
10.	A-7048	SK7045	海耕土	深鉢・口縁部	脚位有施加文、施文(火照)。	-	-
11.	A-7049	SK7045	海耕土	深鉢・脚部	縞文(火照)。	-	190-14
12.	A-7048	SK7047	海耕土	深鉢・口縁部	縞文(火照)、縞文(火照)施加部。	-	190-15
13.	A-7049	SK7048	海耕土	深鉢・脚部	縞文(火照)施加文、区隔(火照)施加文。	-	-

第282図 土坑出土遺物 (60)



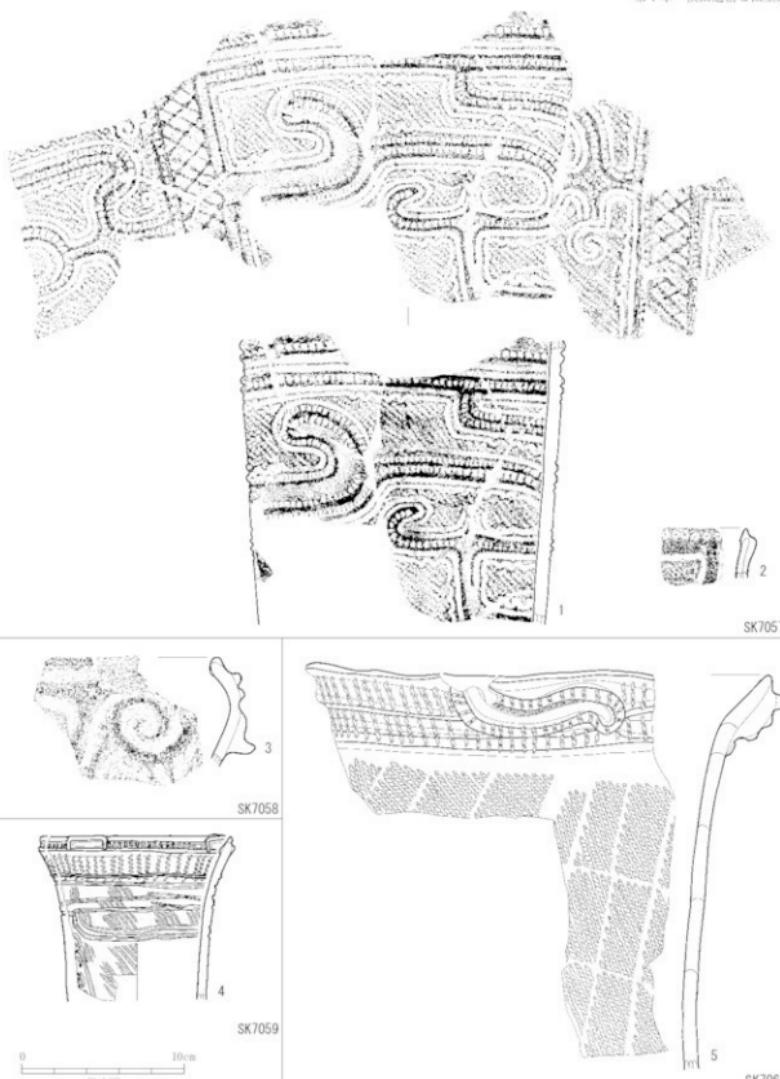
第283図 土坑出土遺物（61）



SK7051

No.	件目番号	地 置	層 位	鉢形・部位	文様等	備 考	写真番號
1	A-70437	SK7051	2層	深鉢・口縁・斜部	口縁部：輪状沈金文、押庄小波状隕微文、押庄繩文。LH部：縦位無文、繩文列、縦位無文。 斜部：輪狀沈金。		180-7
2	A-70438	SK7051	下層	深鉢・口縁・斜部	口縁部：押庄小波状、輪位：縦位隕微文。斜部：輪狀沈金文、斜文列。 斜部：輪狀沈金文、繩文列、縦位無文。		180-8
3	A-70439	SK7051	1層	深鉢・斜部	フランジ鉢・曲面状隕微文、繩文列、縦位無文。		180-9
4	A-70440	SK7051	1層	深鉢・斜部	弧状・輪状沈金文、繩文列LH部：縦位無文。		180-10
5	A-70441	SK7051	1層	深鉢・斜部	斜部：輪狀沈金文、繩文LH部：縦位無文。 底部：輪狀沈金文、繩文LH部：縦位無文。		180-11

第284図 土坑出土遺物 (62)



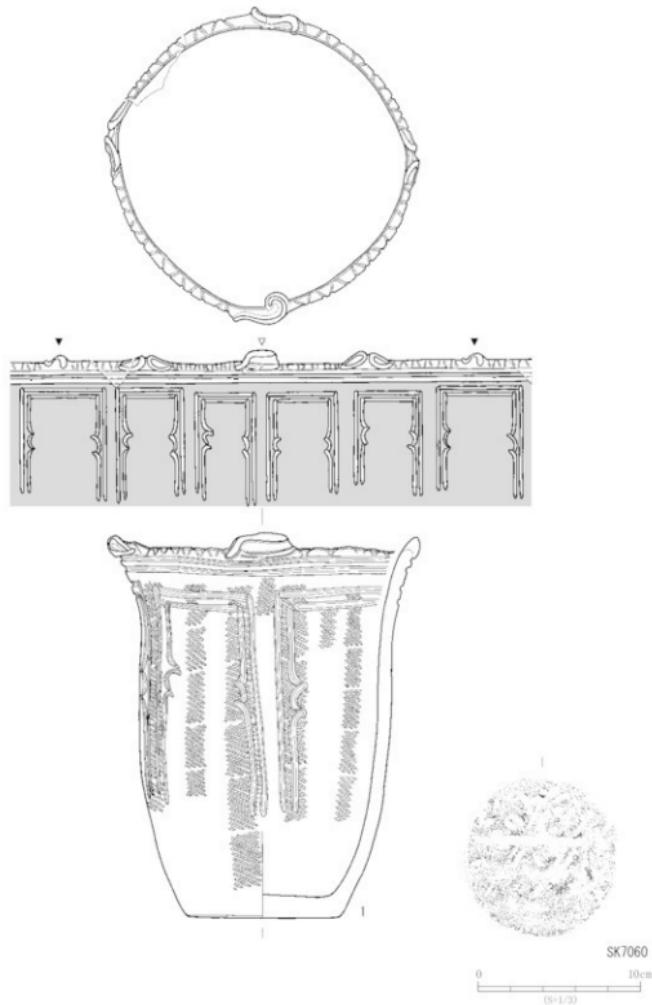
No.	目録番号	地	構	層	位	形	跡	文様等	考	写真図版
1	A-70442	SK7057	7層	深鉢・削面	横帶・アラシフジ跡既成文、浜糞陳式既成文に沿って、押引文、既成沈線文、粘土斜削格子状 斜削、織文L形網目施文。				190-1	
2	A-70443	SK7057	堆積土	深鉢	口縁部	円形刻文文、浜糞陳式既成文、浜糞内縁文L形網目施文。			190-2	
3	A-70444	SK7058	堆積土	深鉢	口縁部	浜糞陳式既成文、織文L形文。			190-3	
4	A-70445	SK7059	堆積土	深鉢・口縫・削面	1層部・粘土上部・口縫斜削、縦向既成文、押引織文L形網目施文、削面：既成・横位。 縦位既成文文、織文L形網目施文。				190-4	
5	A-70446	SK7061	朱面土上	深鉢・口縫・削面	1層部・(5-1/3)半斜削付文、押引織文L形網目施文、押引織文L形網目施文、削面：織文L形網目施文。				190-11	

第205図 土坑出土遺物 (63)



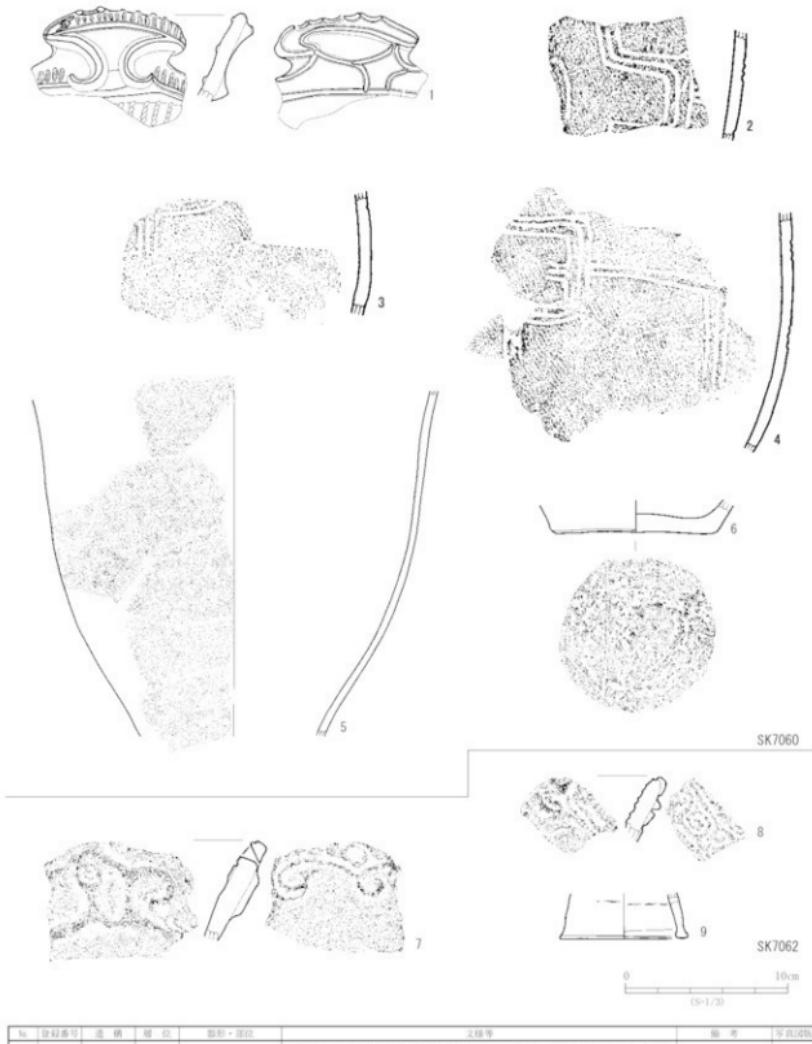
號	錄存番號	地	構	層	位	形	類	文種等	備	考	等
I	A-70447	SK7060	海	耕	土	深	鍾	口緣~銅部 口緣部:「S」字狀·頸各空起·橫位陰線文·圓形刻劃文·山形·屬位波線文·縹文八卦對位施文。 銅部:無文+空五鉤空尖小孔文·銅部:「」字·弧狀·垂形狀·橫位波線文·縹文八卦對位施文。	-	-	194-3

第286圖 土坑出土遺物（64）



第287図 土坑出土遺物 (65)

No.	登録番号	地 稿	層 位	断面・部位	文様等	考	参考出典
1	A-76448	SK7060	海賊土	深鉢・口縁・底部	口縁部：渦巻・「S」字状交起・押紋・山形施文・側部：弧狀・柄部・網目・網目・深縫文・織部：網代形	-	190-6



No.	資料番号	產 構	層 次	器物・部位	文様等	施 考	等級指
1	A-70449	角槻土	深鉢	口縁突起・唇圧小孔状・渦巻・菱形乳頭繩文・瓶底加茂繩文・瓶底加茂文・面位施文	-	-	190-7
2	A-70450	SK7060	4-5層	深鉢・側面	クラシック弦文・織文LR・側位施文	P2・3・4と同一	190-8
3	A-70451	SK7060	4層	深鉢・側面	クラシック弦文・織文LR・側位施文	2-4.5と同一	-
4	A-70452	SK7060	4層	深鉢・側面	織文・網目・クラシック弦文・織文LR・側位施文	2-3.5と同一	190-9
5	A-70453	SK7060	角槻土	深鉢・側面	織文LR・側位施文	-	-
6	A-70454	SK7060	角槻土	深鉢・底部	木葉紋	-	190-10
7	A-70455	SK7062	5-6層	浅鉢・口縁底	内外面・渦巻繩文・小円孔孔列	-	190-2
8	A-70456	SK7062	角槻土	浅鉢・口縁底	渦巻弦文・口沿部・側位施文・内面・渦巻繩文	渡井1種	190-4
9	A-70457	SK7062	角槻土	小型上器・側面	ナゲ・輪摺紋	-	-

第288図 土坑出土遺物 (66)



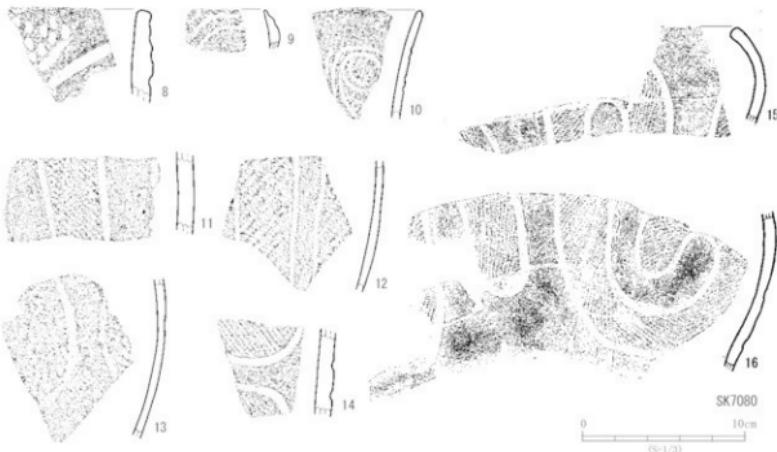
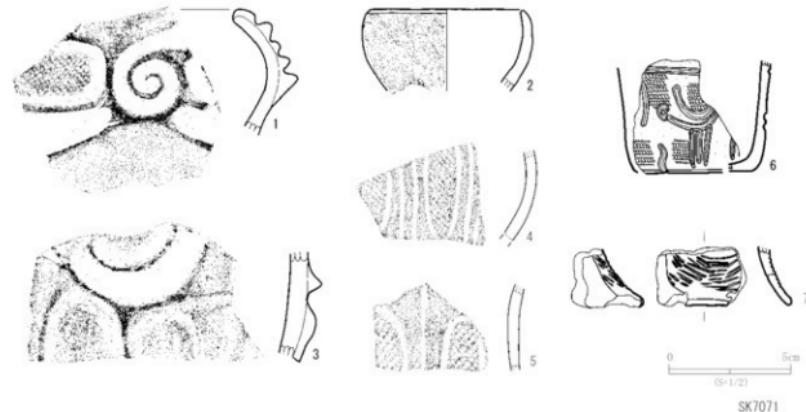
No.	登録番号	造 品	埋 位	器形・部位	文様等	備 考	写真(図)
1	A-70458	SK7062	埴輪土	深鉢・口縁～胴部	内縁・内付・鶴「五」字文を表出した連續輪状把手、周口、胴面：曲巻・弧状沈線文、鶴文LR部位为主。	-	116-1

第289図 土坑出土遺物（67）



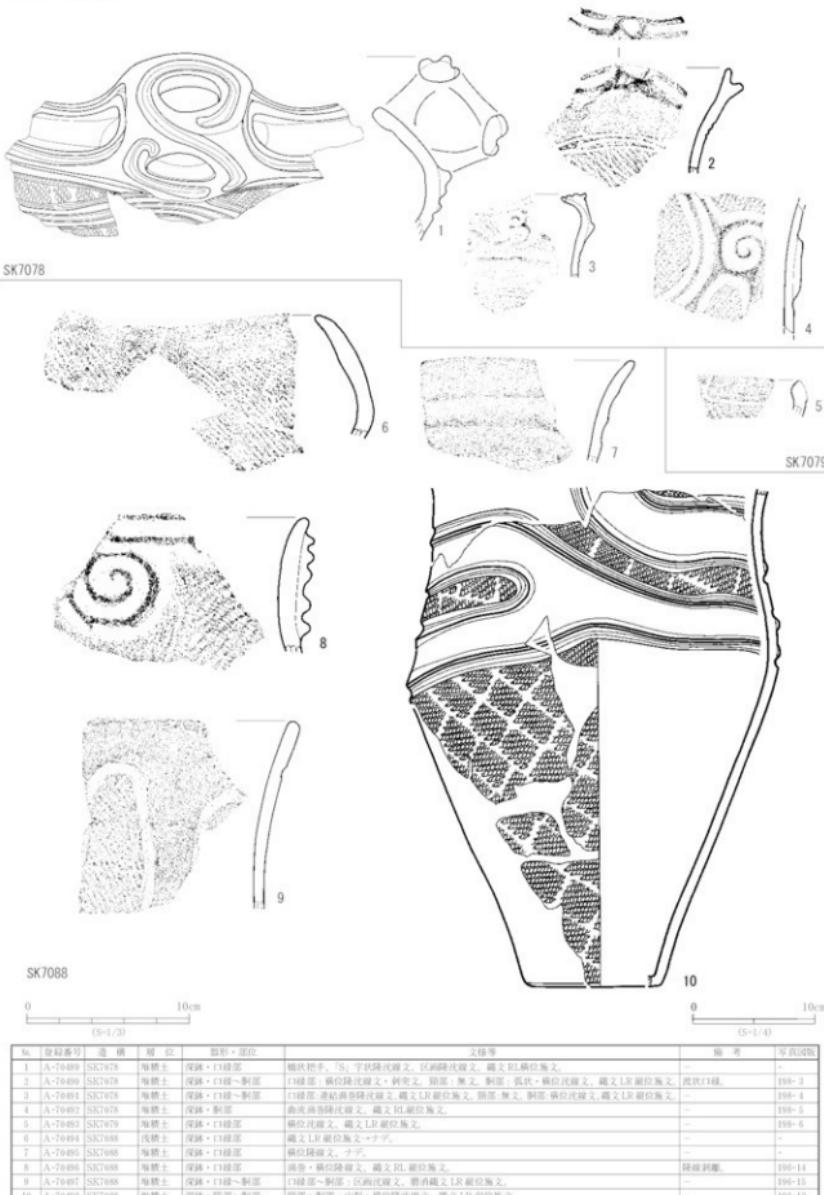
器物類番号	造	構	型	形・部位	文様等	備考	年代区分
1	A-7069	SK7092	上層	深鉢・口縁・側部	口縁部：横位陣文、縞文LR・網位施文。頭～側部：縞文LR於網位施文。	-	195-2
2	A-7069	SK7092	上層	深鉢・側部	口縫部：網位陣文、縞文LR・網位施文。	-	195-6
3	A-7069	SK7092	上層	深鉢・側部	「U」字状・弧狀波綱文、縞文LR・網位施文。	-	195-5
4	A-7062	SK7094	堆積土	深鉢・側部	クラシック陣文、網位連続網突文、縞文LR・網位施文。	-	195-10
5	A-7063	SK7093	堆積土	深鉢・側部	縞綱文L一部、縞文LR・網位施文。	-	195-11
6	A-7064	SK7093	堆積土	深鉢・側部	網帶・網位波綱文、縞文LR・網位施文。	-	195-7
7	A-7065	SK7093	堆積土	深鉢・側部	網位其狀波綱文、縞文LR・網位施文。	-	195-8
8	P-7089	SK7093	堆積土	「S」状鉢・口縁～底部	口縫部：口縁部・側部：「ナ」字底部：「ナ」字。	輪廓痕。S=1/2,	195-9
9	A-7066	SK7095	堆積土	深鉢・側部	網帶・弧狀・網位波綱文、縞文LR・網位施文。	-	195-12
10	A-7067	SK7095	堆積土	深鉢・側部	網帶・弧狀波綱文、網位LR・側位施文。	-	195-13
11	A-7068	SK7070	堆積土	深鉢・口縁～側部	口縫部：波狀・橫位陣綱文、橫位・弧狀・網位陣綱文、網位波綱文。	-	-
12	A-7069	SK7074	堆積土	深鉢・側部	網位波綱文、縞文LR・網位施文。	-	195-14
13	A-7069	SK7075	堆積土	深鉢・側部	網位陣綱文、縞文LR・網位施文。	-	195-15
14	A-70671	SK7076	堆積土	浅鉢・口縁・側部	口縫部：網位陣波綱文、口縫部・側部：縞文RL・網位施文。	-	195-16
15	A-70672	SK7076	堆積土	深鉢・口縁部	波綱文。	-	195-17
16	A-70672	SK7076	上層	深鉢・口縁部	波綱文。	-	195-18
17	A-70674	SK7076	堆積土	深鉢・側部	波綱文。	-	195-19

第290図 土坑出土遺物 (68)

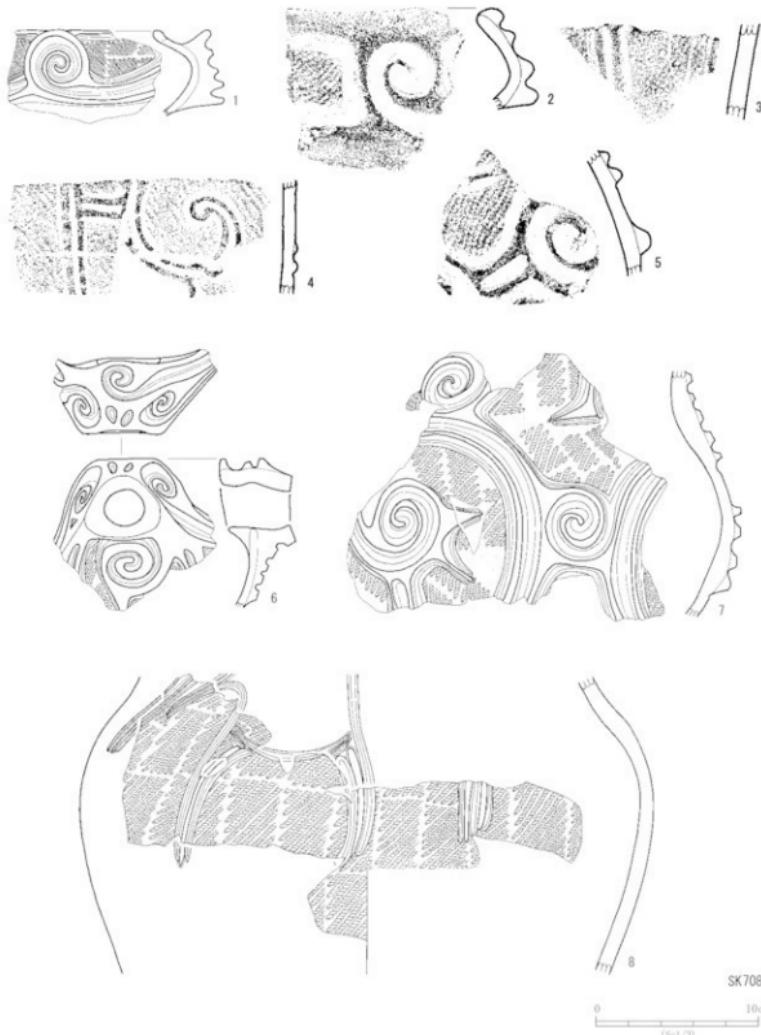


No.	發見番号	遺 墓	層 位	器形・部位	文様等	備 考	参考頁数
1	A-7045	SK7071	3・4層	深鉢・口縁・側面	口縫壓・唇部有時成線文、繩文LPL斜位施文、側部・無文。	-	196-1
2	A-7046	SK7071	海螺上	小型海螺・口縫・側面	口縫壓・側面・LPL斜位・+子文。	-	-
3	A-7047	SK7071	3・4層	深鉢・側面	唇部降伏線文・画面内十字網織文施文。	-	196-3
4	A-7048	SK7071	3・4層	深鉢・側面	弧狀・網狀沈線文・繩文織文LPL斜位施文。	-	196-3
5	A-7049	SK7071	3・4層	深鉢・側面	弧狀・網狀沈線文・繩文織文LPL斜位施文。	-	196-4
6	P-7097	SK7071	海螺上	口・土器・側・底部	刺壓・弧狀・無文・網狀・繩狀沈線文、繩文LPL斜位施文。	-	-
7	P-7098	SK7071	上・中層	土器・側	聯合波瀾文。	S-1/2,	196-6
8	A-7099	SK7080	深鉢	口縫・側面	口縫降伏線文・網狀文。	S-1/2,	196-5
9	A-7100	SK7080	4層	小型深鉢・側面	曲線狀斜線文。	-	-
10	A-7101	SK7080	4層	深鉢・口縫・側面	口縫壓・無文・斜面降伏沈線文、繩文LPL斜位施文。	-	196-10
11	A-7102	SK7080	海螺上	深鉢・側面	口縫降伏沈線文・繩文LPL斜位施文。	-	196-11
12	A-7103	SK7080	3層	深鉢・側面	口縫降伏沈線文・繩文LPL斜位施文。	-	196-10
13	A-7104	SK7080	海螺上	深鉢・側面	口縫沈線文・繩文LPL斜位施文。	-	-
14	A-7105	SK7080	海螺上	深鉢・側面	口縫沈線文・繩文LPL斜位施文。	-	-
15	A-7106	SK7080	海螺上	深鉢・側面	口縫沈線文・繩文LPL斜位施文。	10上同一,	196-2
16	A-7107	SK7080	海螺上	深鉢・側面	唇部降伏沈線文・繩文LPL斜位施文。	10上同一,	196-3

第291図 土坑出土遺物 (69)

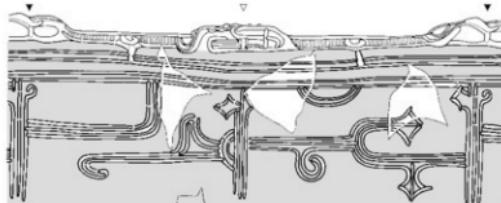


第292図 土坑出土遺物 (70)



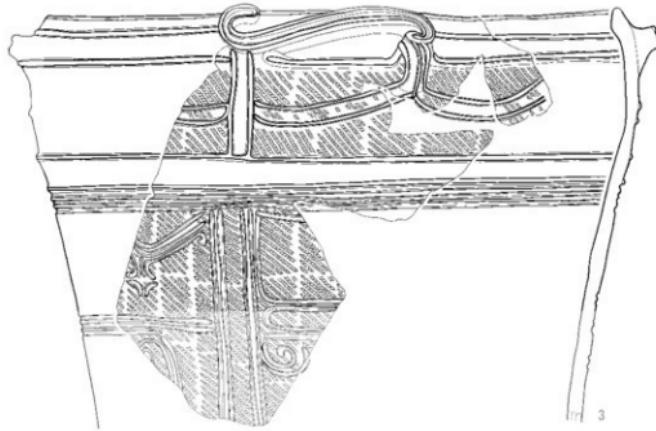
第293図 土坑出土遺物 (71)

No.	登録番号	遺構	層位	部位・部位	文様等	備考	写真/図版
1	A-70499	塹構	深鉢土	深鉢・口縁部	渦巻李起・口縁沈羅文、羅文上に前位施文。	-	197-3
2	A-70500	塹構	深鉢土	深鉢・口縁部	口縁部・渦巻降沈羅文、羅文上に前位施文、頭部・無文。	-	197-4
3	A-70501	塹構	深鉢土	深鉢・脚部	脚伏羅文、羅文上に前位施文。	-	。
4	A-70502	塹構	SK7086	深鉢・脚部	渦巻・脚部・脚伏羅文。	-	197-2
5	A-70503	塹構	SK7086	深鉢・脚部	渦巻渦形沈羅文、羅文上に前位施文。	-	197-5
6	A-70504	塹構	SK7086	深鉢・口縁把手	円孔、渦形沈羅文、脚安伏位沈羅文、羅文上に前位施文。	-	197-6
7	A-70505	塹構	SK7086	深鉢・脚部	渦巻渦形沈羅文、羅文上に前位・脚位施文。	-	197-6
8	A-70506	塹構	SK7086	深鉢・脚部	渦巻伏沈羅文、羅文上に前位施文。	-	197-9



SK7087

0 10cm
(5-1/3)

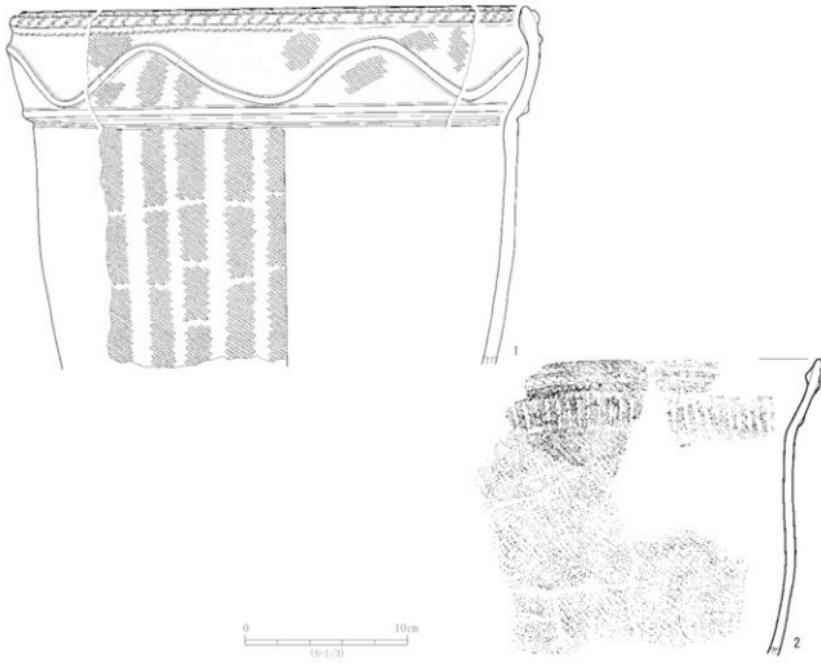


SK7085

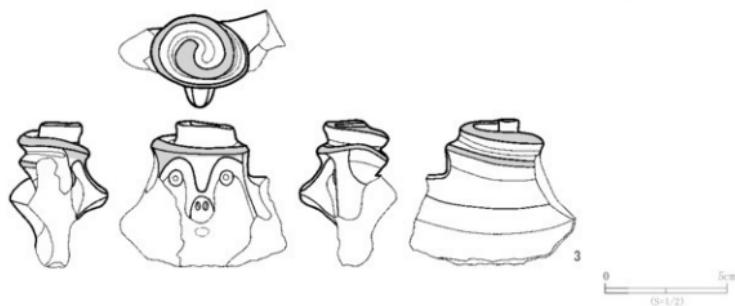
0 10cm
(5-1/3)

號	發見番号	造	構	規	寸	器形・部位	文様等	備考	参考圖版
1	A-76087	SK7087	5層	深鉢	口縁～鉢部	口縁部：1対の大型突起。筒帯。「S」字状乳頭降沈羅文。部位：鉢底。頭部：横沿降羅文。 側面：筒帶、乳頭、側光乳頭降沈羅文。頭部～側面：羅文LR斜位施之。乳頭：ナギ。	-	-	108-1
2	A-76088	SK7087	5層	深鉢	口縁部	十字状羅比羅文。	-	-	-
3	A-76089	SK7085	角槽上	深鉢	口縁～側面	口縁部：頭位羅比羅文。折江羅文LR斜位施之。底沿降羅文。側面：羅文LR斜位施之。	-	-	108-2

第294図 土坑出土遺物 (72)



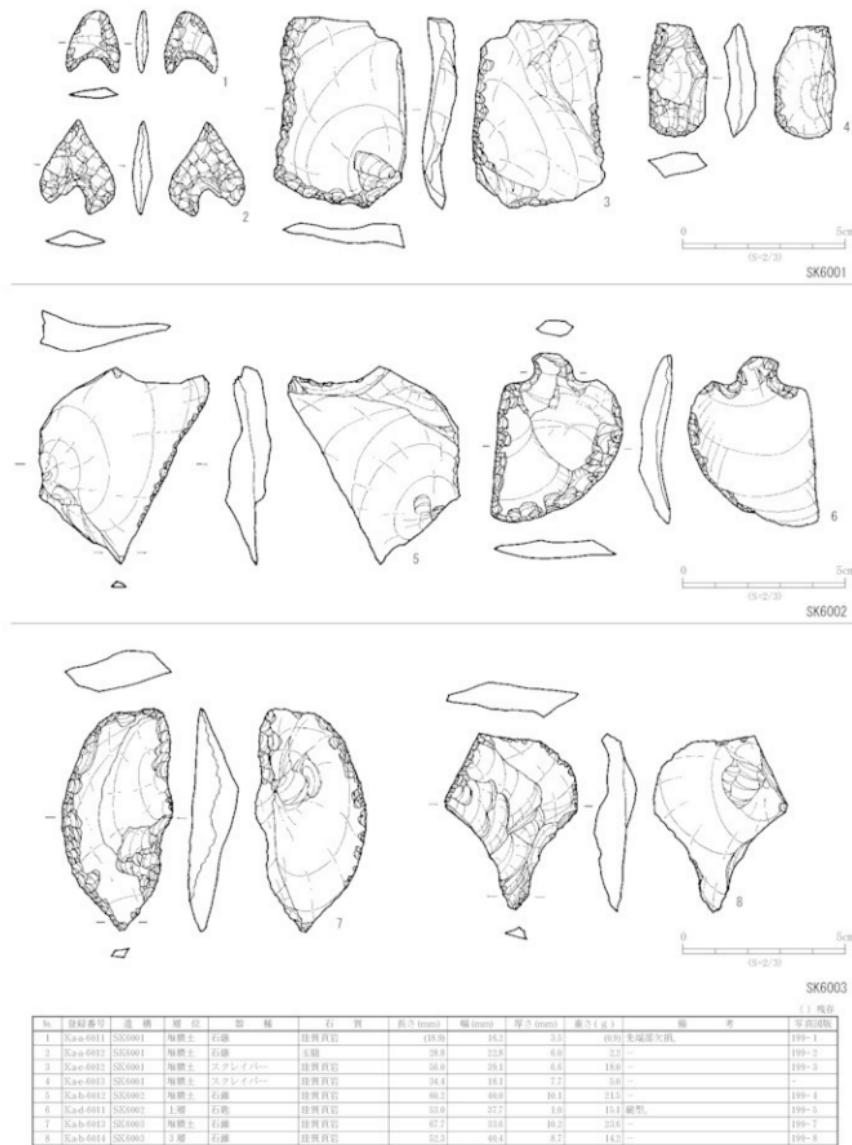
SK7085



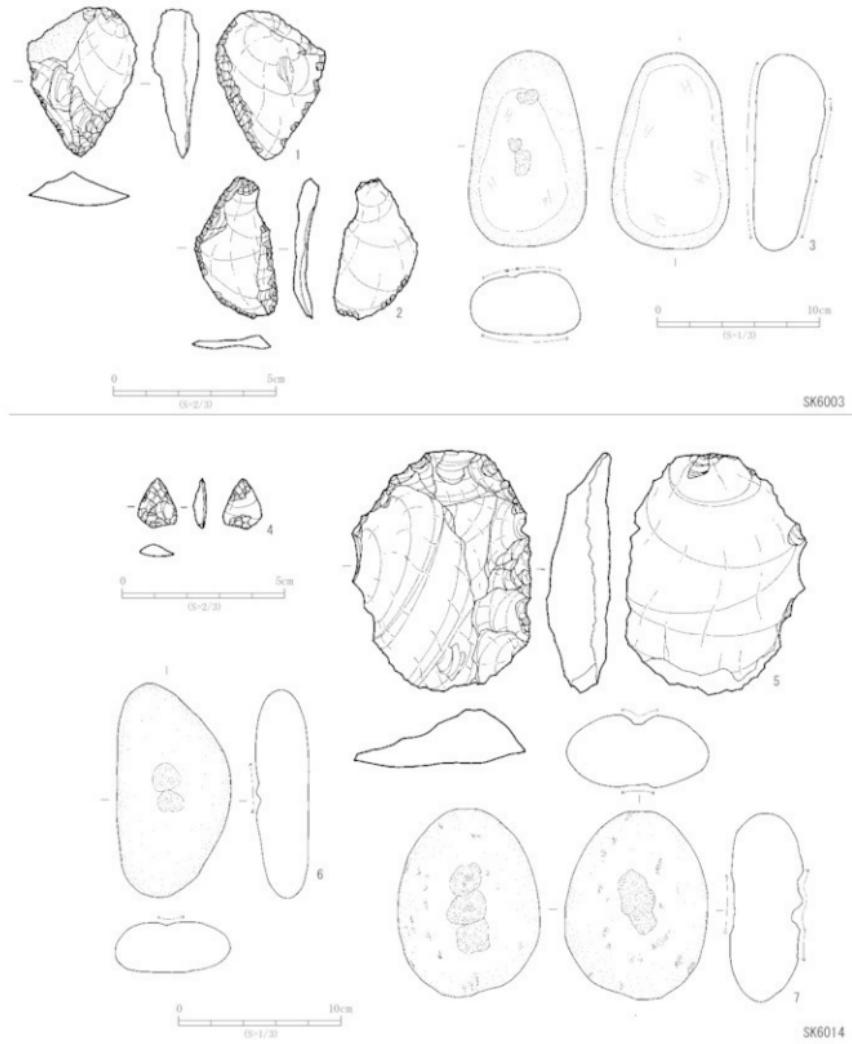
SK7089

名	説明番号	造	構	層	位	圖形・部位	文様等	備	考	等級類
1	A-70510	SK7085	陶	土	深	溝・口縁～側面	円筒形・IS：字状點付文、直折・横折・崩折隕微文、繩文LR崩位施文、隔壁・横折隕化繩文、剥落；圓盤、弧折、變形折、崩位、崩切・沈繩文、繩文LR崩位施文。	-	-	197-1
2	A-70511	SK7085	陶	土	深	溝・口縁～側面	円筒形・崩位隕微文、押圧隕文LR崩位、崩位施文、剥落・繩文LR崩位施文。	-	-	197-2
3	A-70512	SK7089	陶	土	人面空起	隔壁・崩位隕微文、目・円形新突文、鼻・崩位突文、口・浅い溝文。	赤彩刷、S=1/2,	-	-	198-7

第295図 土坑出土遺物 (73)

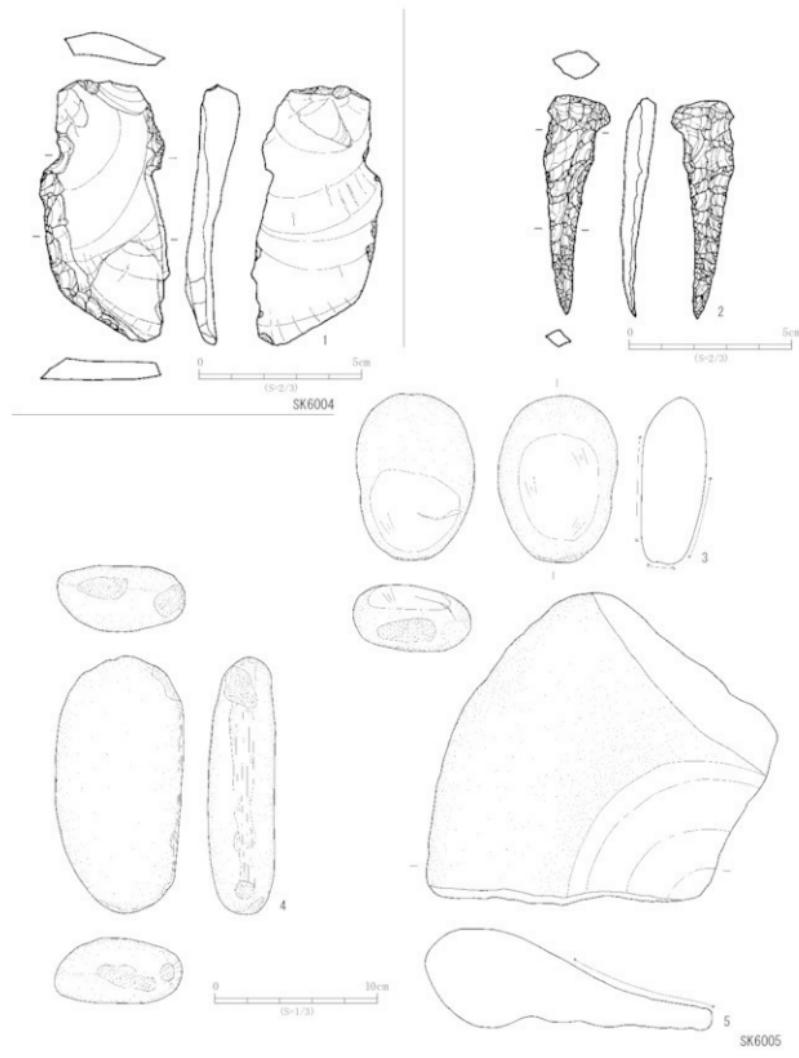


第296図 土坑出土遺物 (74)



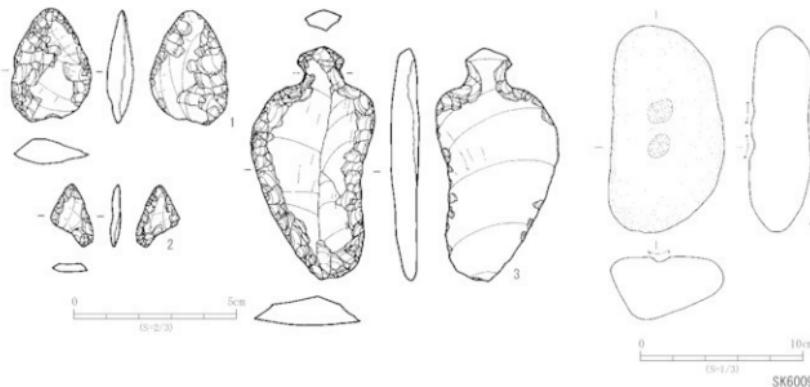
No.	登録番号	造 型	埋 法	器 形	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	地 方	参考文献
1	Kae-6014	SK6002	堆積土	スクレイバー	建貝貝岩	45.2	24.2	14.0	14.3	—	199-9
2	Kae-6012	SK6002	下層	スクレイバー	貝岩	45.7	21.8	3.7	3.7	—	199-10
3	Ked-6011	SK6002	3層	研石器	ダイサイン	129.5	72.0	43.0	529.6	骨 2、円 2。	199-11
4	Kae-6013	SK6014	上層	石器	玉類	115.0	123.0	3.0	6.6	西側運送道路。	199-12
5	Kae-6014	SK6014	上層	スクレイバー	海貝岩	72.0	54.9	17.0	65.6	端欠損。	—
6	Kch-6009	SK6014	上層	研石器	安山岩	120.0	71.0	31.5	419.0	円 2。	—
7	Kch-6009	SK6014	上層	研石器	安山岩	116.0	67.0	45.0	562.0	円 2+3。	199-20

第297図 土坑出土遺物 (75)

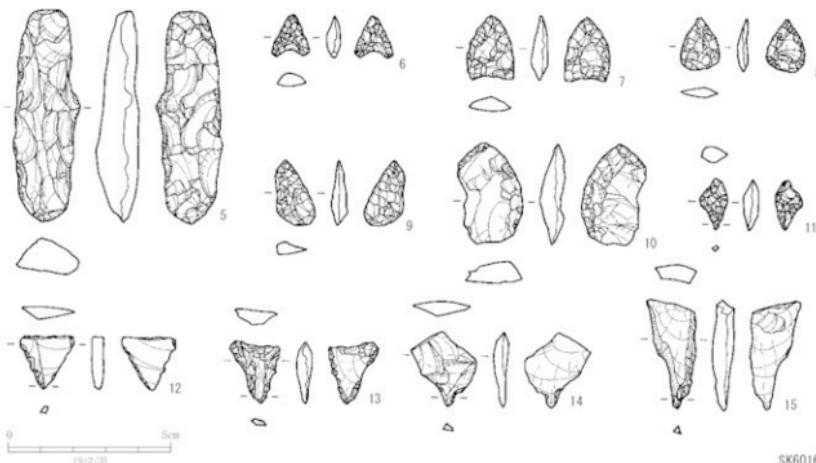


第298図 土坑出土遺物 (76)

No.	登録番号	造 構	場 所	形 様	石 西	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	() 例示		参考文献
										石器	石器	
1	Kab-6012	SX6000	堆積土	石砲	鉄石	86.7	28.1	8.4	295	網型。		199-6
2	Kab-6013	SX6000	上層	石砲	珪質頁岩	66.2	18.8	8.2	62			199-12
3	Kce-6002	SX6000	上層	破石器	安山岩	160.0	72.0	26.2	454.0	網2, 網1(網), 網2(1網), 網2(1. T.)		199-13
4	Kce-6003	SX6000	上層	破石器	珪化木	158.0	78.3	36.7	716.0	網1(網), 網2(1網), 網2(1. T.)		199-14
5	Kda-6011	SX6000	上層	石器	流紋岩	(192.0)	(213.5)	(61.0)	(1,336.0)	網1		-



SK6009

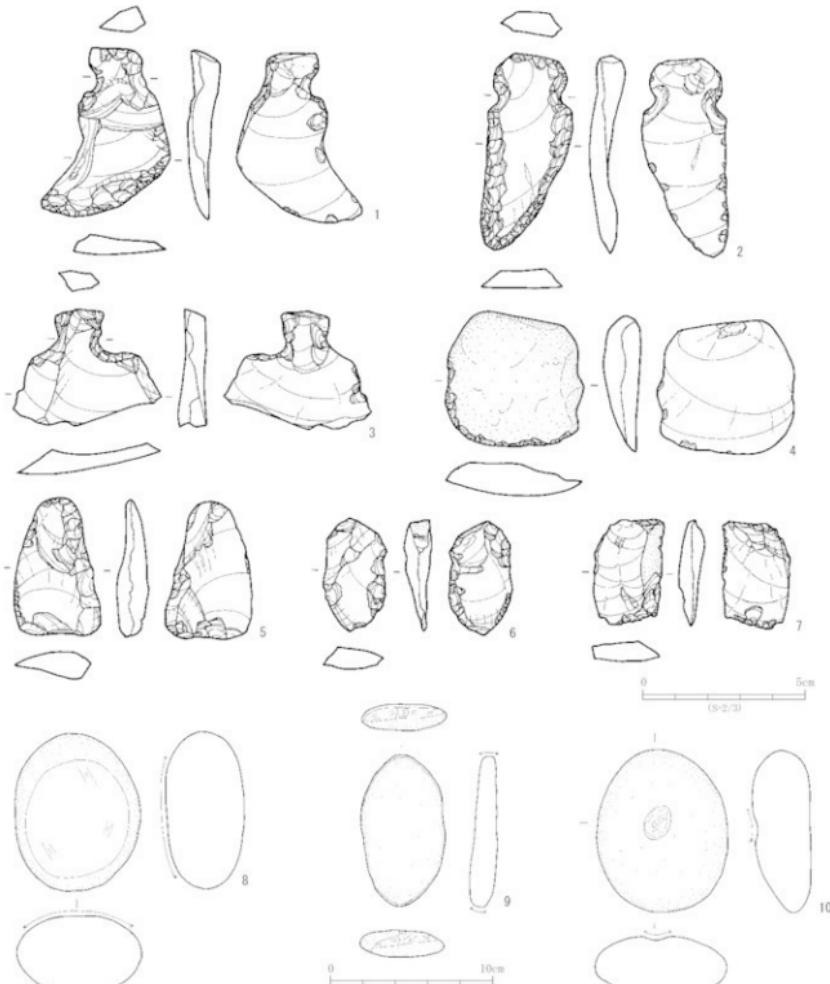


SK6016

(1) 現存

No.	登録番号	遺 墓	層 次	器 物	石 面	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備 考	半田地図
1	Kab-0414	SX3499	埴生土	石劍	珪質頁岩	34.7	24.2	7.5	5.3	円錐。	199-15
2	Kab-0415	SX3499	埴生土	石劍	泥質頁岩	19.3	(11.0)	2.8	0.6	左側面欠損。	199-16
3	Kab-0412	SX3499	上層	石劍	珪質頁岩	70.4	26.8	8.9	22.9	彫型。	199-17
4	Kab-h010	SX3499	下層	研磨器	安山岩	139.0	71.5	40.0	441.0	Pt2。	199-18
5	Kab-0401	SX3416	上層	石劍	珪質頁岩	64.6	28.1	13.2	16.5	-	200-1
6	Kab-0410	SX3416	上層	石劍	泥質頁岩	33.1	(11.0)	4.0	0.70	左側面欠損。	200-2
7	Kab-0417	SX3416	上層	石劍	珪質頁岩	89.5	14.2	5.0	1.3	-	200-3
8	Kab-0419	SX3416	埴生土	石劍	珪質頁岩	36.0	12.0	3.3	0.6	円錐。	200-4
9	Kab-0417	SX3416	上層	石劍	珪質頁岩	(18.0)	(8.0)	4.5	(0.5)	左側面+左側面欠損。	-
10	Kab-0420	SX3416	中層	石劍	珪質頁岩	21.0	(21.7)	7.0	(2.0)	右側面欠損。	-
11	Kab-0410	SX3416	上層	石劍	モノク	35.5	8.2	4.4	0.5	上下端崩壊?	200-5
12	Kab-0417	SX3416	上層	石劍	泥質頁岩	36.1	16.5	2.8	0.8	-	200-6
13	Kab-0418	SX3416	上層	石劍	珪質頁岩	36.0	13.0	4.5	0.9	-	200-7
14	Kab-0419	SX3416	上層	石劍	珪質頁岩	(20.0)	(15.0)	4.5	(1.0)	左側面+上半欠損。	200-8
15	Kab-0420	SX3416	上層	石劍	珪質頁岩	34.0	11.6	4.9	2.4	-	200-9

第299図 土坑出土遺物 (77)



SK6016

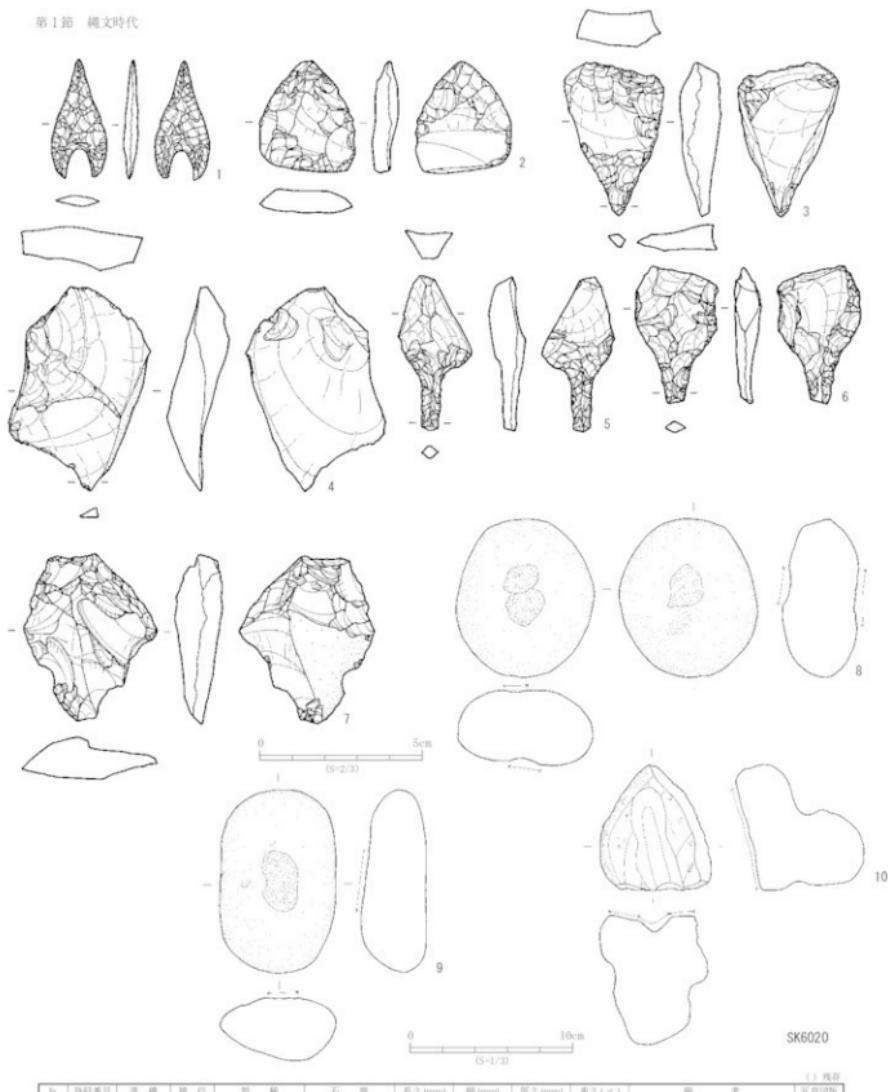
(上) 現存

No.	資料番号	遺物名	層	印	面	種	形	石	質	長さ/mm	幅/mm	厚さ/mm	重さ/g	備考	年代表記
1	Kad-6014	SX6016	埴生土	石器			珪質頁岩	珪質頁岩	珪質頁岩	54.7	22.7	8.9	150	網型。	200-11
2	Kad-6015	SX6016	中層	石器			珪質頁岩	珪質頁岩	珪質頁岩	69.9	26.4	6.6	154	網型。	200-12
3	Kad-6016	SX6016	埴生土	石器			珪質頁岩	珪質頁岩	珪質頁岩	10.0	16.0	8.0	8.5	月鑿丸頭。	200-13
4	Kae-6017	SX6016	上層	スケレイバー			頁岩	頁岩	頁岩	40.8	42.6	11.9	216	-	-
5	Kae-6018	SX6016	中層	スケレイバー			珪質頁岩	珪質頁岩	珪質頁岩	82.0	28.8	9.0	63	-	-
6	Kae-6019	SX6016	上層	スケレイバー			珪質頁岩	珪質頁岩	珪質頁岩	28.2	19.4	8.2	5.1	-	-
7	Kaf-6002	SX6016	中層	アリビ形石器			珪質頁岩	珪質頁岩	珪質頁岩	21.4	26.6	5.6	4.8	-	200-10
8	Kae-6015	SX6016	上層	破石器			珪質頁岩	珪質頁岩	珪質頁岩	97.5	77.5	48.0	5426	網L	200-14
9	Kae-6016	SX6016	上層	破石器			珪質頁岩	珪質頁岩	珪質頁岩	93.0	52.0	14.5	107.0	網L(刃上部)。	-
10	Kcb-6011	SX6016	埴生土	破石器			安山岩	安山岩	安山岩	100.0	61.0	34.5	493.0	網L	200-15

第300図 土坑出土遺物 (78)

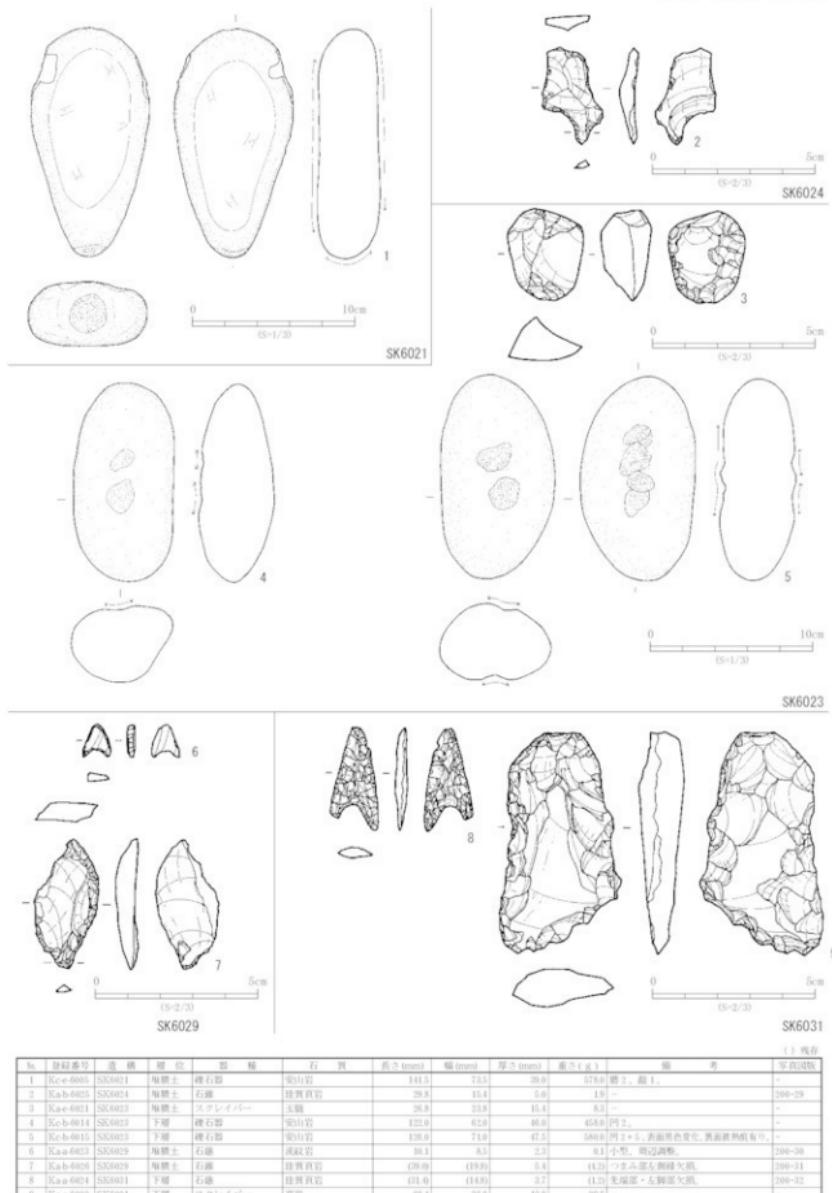


第301図 土坑出土遺物 (79)

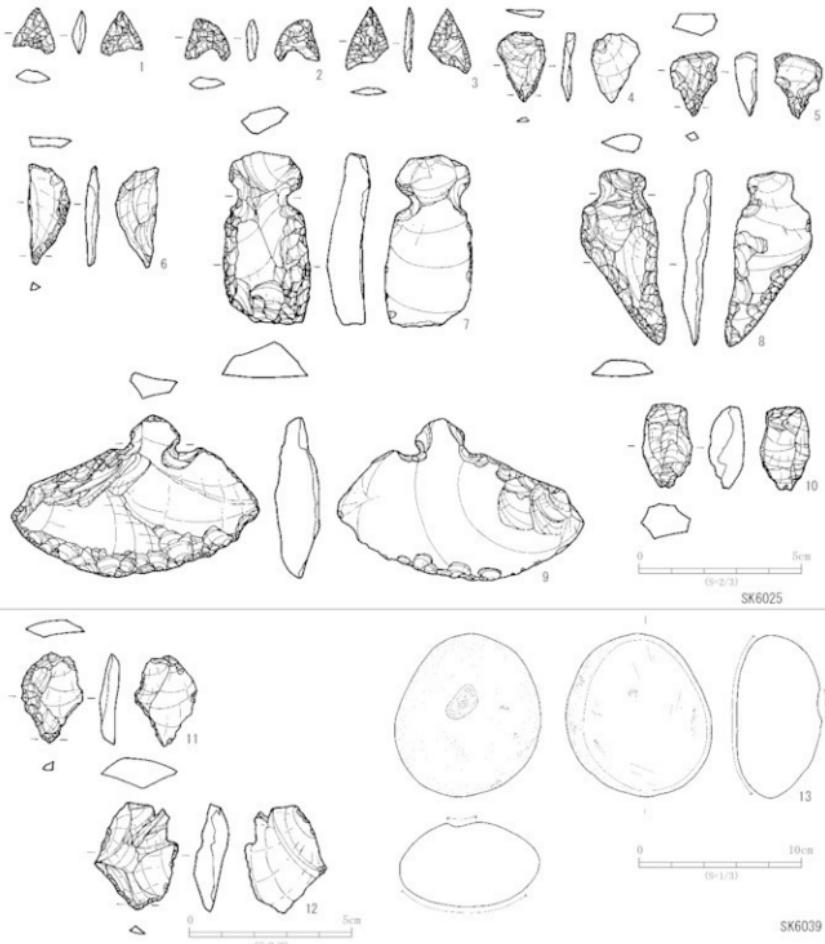


第302図 土坑出土遺物 (80)

No.	登録番号	遺 墓	場 所	器 様	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備 考	() 所有
1	Ka-a-6011	SK6010	上層	石器	珪質頁岩	36.2	16.6	4.0	171	—	280-19
2	Ka-a-6012	SK6010	上層	石器	珪質頁岩	33.9	28.6	7.2	75	円基盤、未製品？	280-20
3	Ka-b-6011	SK6010	上層	石器	珪質頁岩	46.9	29.3	10.7	187	—	280-21
4	Ka-b-6012	SK6010	埴體土	石器	珪質頁岩	62.2	28.6	11.8	27.6	—	280-22
5	Ka-b-6012	SK6010	上層	石器	珪質頁岩	46.0	19.2	9.5	(6.7)	縫隙欠損	280-23
6	Ka-b-6012	SK6010	上層	石器	珪質頁岩	41.5	24.8	7.8	(6.7)	縫隙欠損	280-24
7	Ka-e-6010	SK6010	埴體土	フクレイバー	珪質頁岩	58.8	41.4	13.1	21.0	—	280-25
8	Ko-b-6012	SK6010	上層	礫石器	ディオライト	98.0	85.5	47.0	446.0	円2+1,	280-26
9	Ko-b-6012	SK6010	上層	礫石器	安山岩	133.0	72.0	41.0	455.0	円1,	280-27
10	Kd-a-6010	SK6010	上層	石器	安山岩	177.0	(69.0)	(77.0)	(188.0)	縫1、済1、側付石頭の脚部破片	280-28

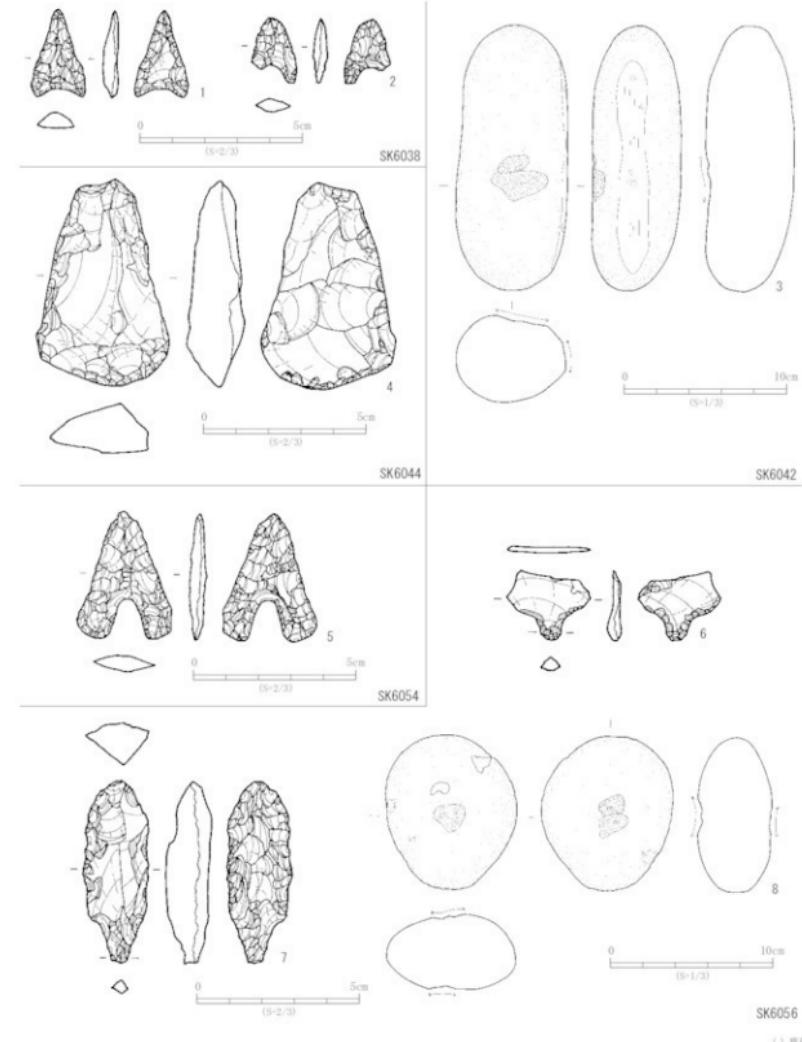


第303図 土坑出土遺物 (81)



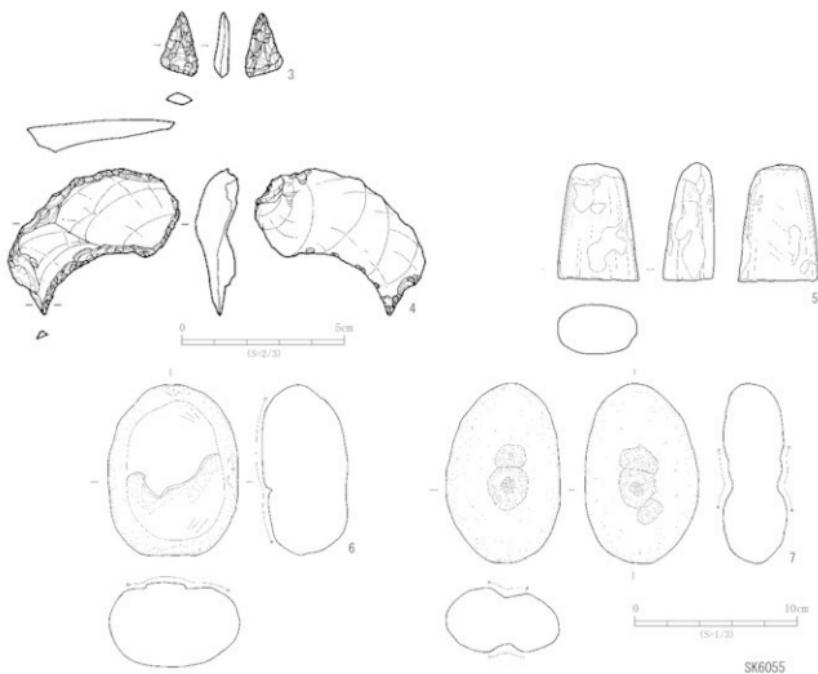
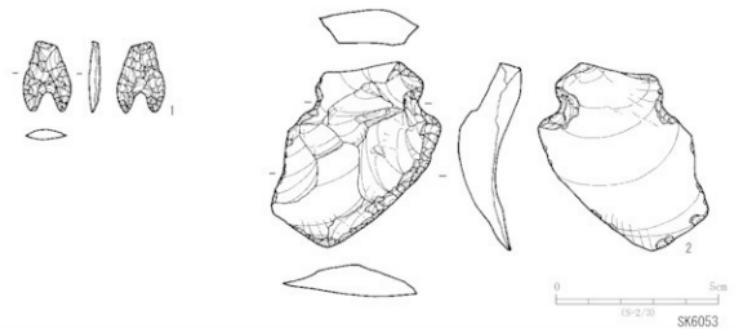
第304図 土坑出土遺物（82）

No.	登録番号	地 横	層 号	形 様	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備 考	参考文献
1	Ka-a-6002	SK0015	上層	石器	珪質頁岩	45.0	11.0	3.0	6.0		201-1
2	Ka-a-6003	SK0015	上層	石器	珪質頁岩	(12.0)	14.0	3.0	6.0	先端部欠損。	201-2
3	Ka-a-6007	SK0015	上層	石器	珪質頁岩	(19.0)	(17.0)	2.0	6.0	右側部欠損。	201-3
4	Ka-b-6002	SK0015	堆積土	石器	珪質頁岩	21.2	14.5	2.7	6.7		201-4
5	Ka-b-6003	SK0015	堆積土	石器	頁岩	19.0	14.0	3.0	5.7		201-5
6	Ka-b-6007	SK0015	上層	石器	珪質頁岩	30.0	12.5	2.0	1.5	左半分欠損後再生？	201-6
7	Ka-b-6008	SK0015	上層	石器	珪質頁岩	(50.0)	28.0	10.0	(16.0)	範型、右側部欠損後に再生。	201-8
8	Kad-6001	SK0025	上層	石器	珪質頁岩	50.0	23.0	8.0	8.0	範型、右側部欠損。	201-9
9	Ka-d-6019	SK0025	上層	石器	珪質頁岩	47.1	24.0	12.0	23.0	範型。	201-10
10	Kad-6002	SK0025	堆積土	アーピ形石器	玉髓	20.3	15.1	10.0	3.5		201-11
11	Kad-6008	SK0025	堆積土	石器	珪質頁岩	27.3	18.0	4.0	2.1		200-32
12	Kad-6001	SK0025	堆積土	石器	珪質頁岩	20.4	25.0	8.0	5.1		200-34
13	Kad-6011	SK0025	堆積土	石器	安山岩	161.0	96.0	52.0	6426	器1、同1。	200-35



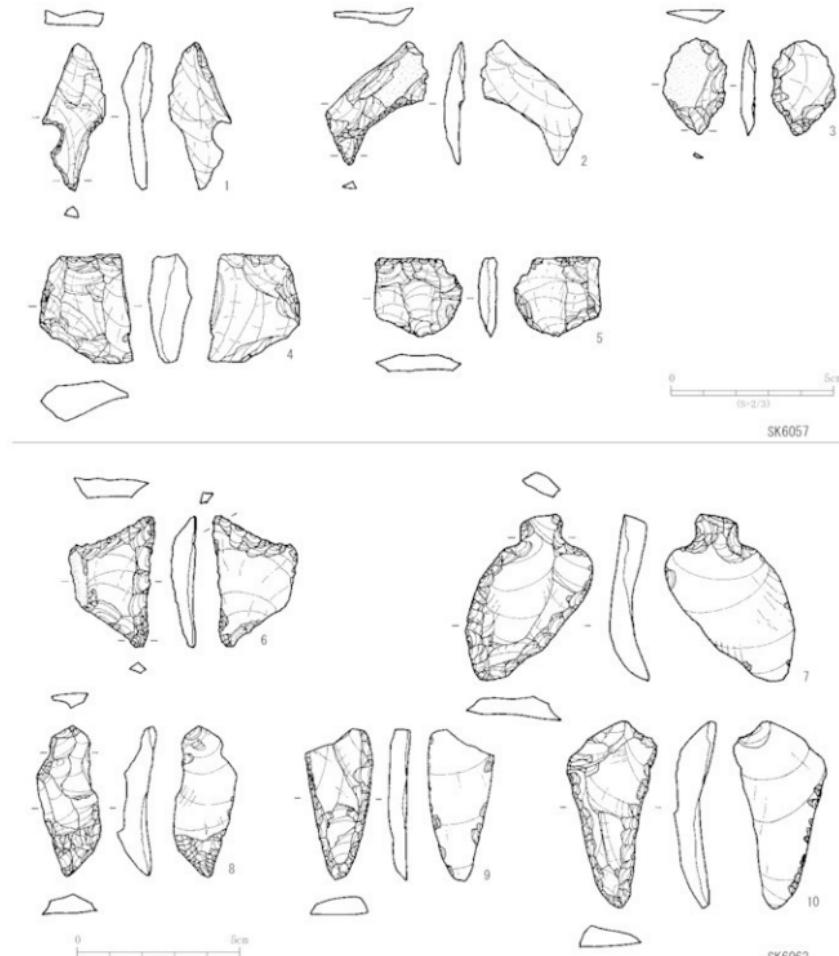
第305図 土坑出土遺物 (83)

No.	登録番号	遺構	場所	器種	石質	長さ(men)	幅(men)	厚さ(men)	重さ(g)	備考		年代(4段)
										左	右	
1	Ka-a-0025	SK6038	埴頂土	石鏃	珪質頁岩	28.5	10.4	4.8	1.0			201-11
2	Ka-a-0029	SK6038	埴頂土	石鏃	珪質頁岩	(39.7)	(13.7)	4.0	0.6	左側面欠損。		201-12
3	Ked-0015	SK6042	中壠	鍛石器	安山岩	88.5	69.0	10.5	899.0	磨1側。		-
4	Kac-0002	SK6054	埴頂土	石鏃	珪質頁岩	62.7	43.0	16.9	48.4			201-13
5	Ka-a-0030	SK6054	1・2層	石鏃	珪質頁岩	(38.9)	(26.7)	5.0	0.6	先端部欠損。		201-14
6	Kab-0027	SK6056	埴頂土	石鏃	珪質頁岩	(21.0)	25.2	4.5	(1.2)	・生え置上半欠損、被削によるハジカあり。		201-15
7	Kab-0031	SK6056	埴頂土	石鏃	珪質頁岩	(44.5)	19.2	12.8	(1.2)	頭部欠損。		201-16
8	Kcb-0016	SK6056	埴頂土	鍛石器	安山岩	95.0	81.0	45.5	465.6	円1-2、被削による黒色変化。		201-17



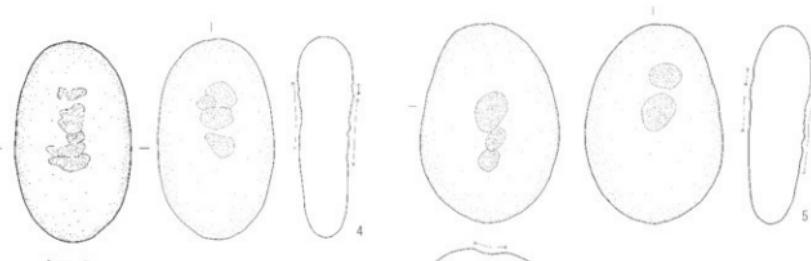
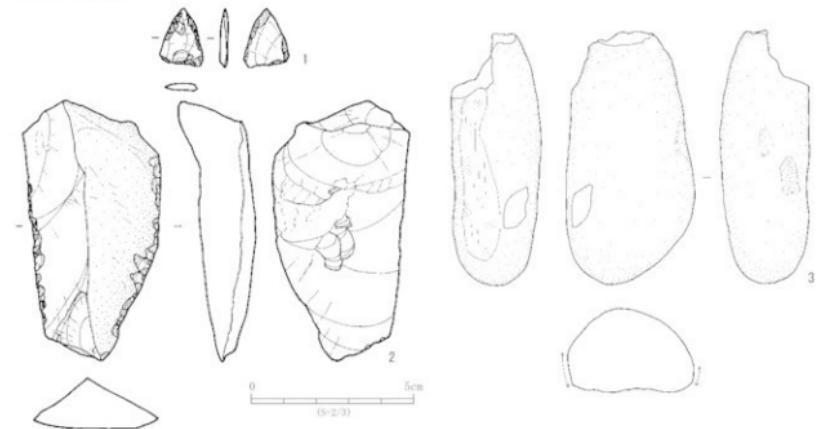
No.	登錄番号	遺構	層位	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	期		参考文献
										新石器	後石器	
1	Kao-6001	堆積土	石器	磨製石器	(21.0)	14.0	2.0	(0.6)	先端部欠損。			201-18
2	Kao-6010	堆積土	石器	磨製石器	60.2	41.7	10.0	27.6	網型。			201-19
3	Kao-6002	堆積土	石器	磨製石器	29.4	11.3	4.1	6.1	上半欠損後再生。			201-20
4	Kao-6011	2・3層	石器	磨製石器	43.0	21.8	7.0	11.8				201-21
5	Kao-6002	2・3層	磨製石斧	砂岩	(72.0)	(49.5)	(31.0)	(55.6)	刃部欠損。			201-22
6	Kao-6017	堆積土	研石器	花崗閃長岩	106.0	66.0	53.0	649.0	柄1。			201-23
7	Kao-6017	堆積土	研石器	安山岩	111.0	76.0	40.0	436.0	柄2+3。			201-24

第304図 土坑出土遺物 (84)

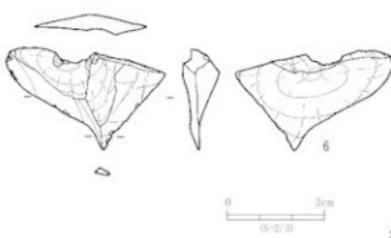


第307図 土坑出土遺物 (85)

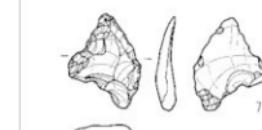
No.	採取場所	直 横	厚 幅	形	種 類	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備 考	文 獻
1	Kab-0001	SS00077	中厚	石器	珪質頁岩	44.1	16.4	9.1	2.8	-	-	201-25
2	Kab-0002	SS00077	下厚	石器	珪質頁岩	38.0	(38.0)	4.0	(3.0)	つまみ部上半欠損	-	201-26
3	Kab-0003	SS00077	2～5層	石器	玉髓	28.4	18.0	3.8	2.8	-	-	201-27
4	Kab-0004	SS00077	上厚	ツバビ形石器	玉髓	32.7	27.0	12.0	16.6	-	-	201-28
5	Kab-0005	SS00077	3～5層	ツバビ形石器	頁岩	33.6	28.8	5.0	2.5	-	-	201-29
6	Kab-0006	SS00077	中厚	石器	珪質頁岩	39.5	24.8	7.2	6.5	頭部1.2上下2.0厚	-	202-1
7	Kab-0007	SS00077	中厚	石器	珪質頁岩	31.7	28.9	7.2	12.5	範型	-	202-2
8	Kab-0008	SS00077	8～10層	石器	メノワ	43.8	11.8	8.9	5.5	範型、刃面欠損	-	202-2
9	Kab-0009	SS00077	中厚	スクリイバー	珪質頁岩	40.0	(39.0)	15.0	(6.0)	頭部欠損	-	202-4
10	Kab-0010	SS00077	中厚	スクリイバー	珪質頁岩	37.0	29.0	7.4	11.8	-	-	202-5



SK6063



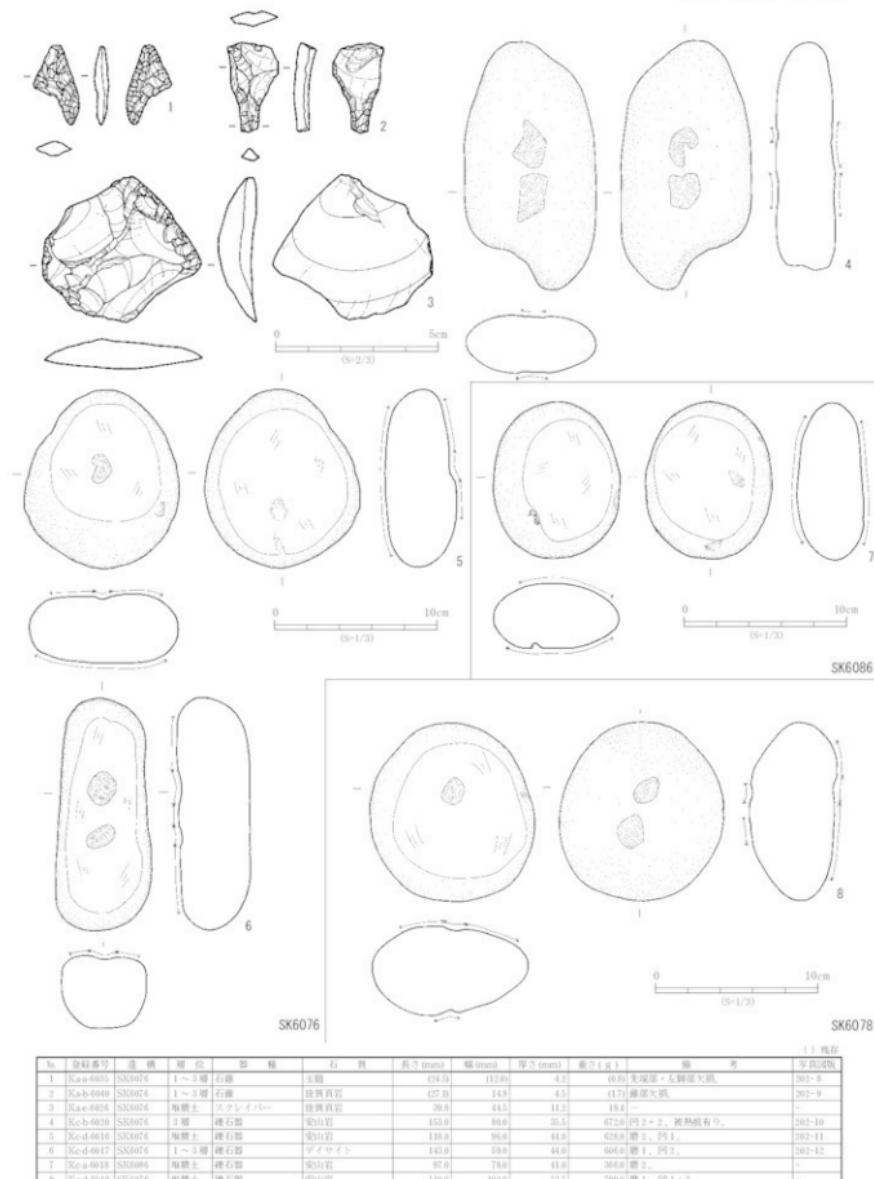
SK6068



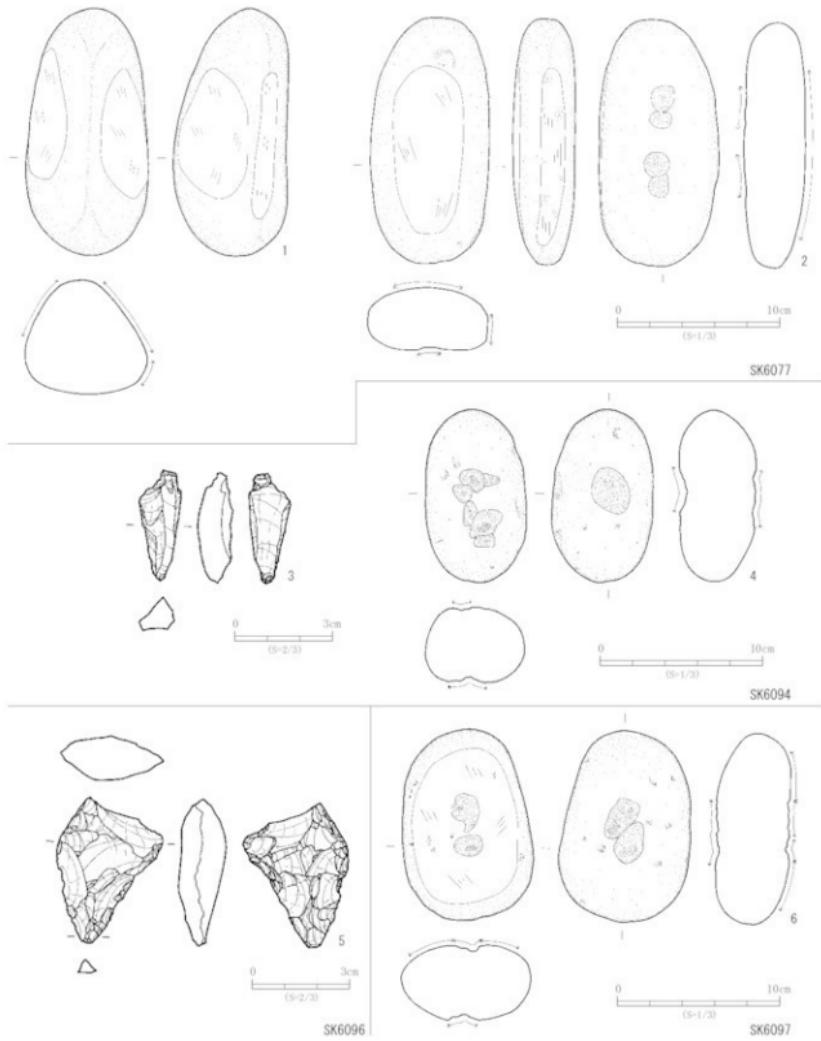
SK6083

No.	登録番号	遺構	層位	形 樹	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	参考図版
1	Kao-6002	下層	石器	鉄石	17.9	11.2	2.2	0.5	-	-	201-30
2	Kao-6002	SK6069	石・2層	スクレーパー	珪質頁岩	64.2	25.5	24.3	51.2	-	-
3	Kao-6009	塙耕土	石器	ダイヤモンド	(110.0)	79.0	34.0	(64.0)	骨(1個), 銛1本, 破損部有り。	-	201-32
4	Kao-6019	SK6069	下層	石器	安山岩	120.3	72.0	34.0	467.0	円3+4。	201-31
5	Kao-6019	SK6069	塙耕土	石器	安山岩	120.0	66.0	38.0	316.0	円3+2, 破損部有り。	-
6	Kao-6019	SK6068	上層	石器	珪質頁岩	27.9	48.3	8.9	5.5	-	202-6
7	Kao-6019	SK6083	塙耕土	石器	珪質頁岩	(28.0)	(22.0)	4.7	(2.0)	左側部欠損。	202-7

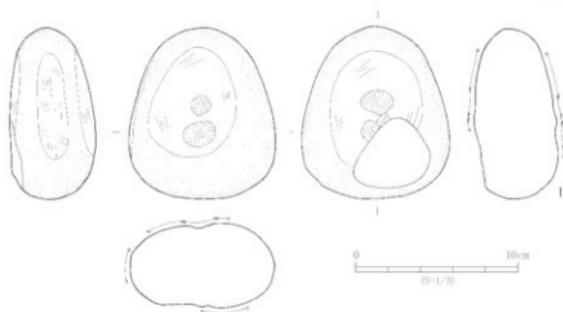
第308図 土坑出土遺物 (86)



第309図 土坑出土遺物 (87)



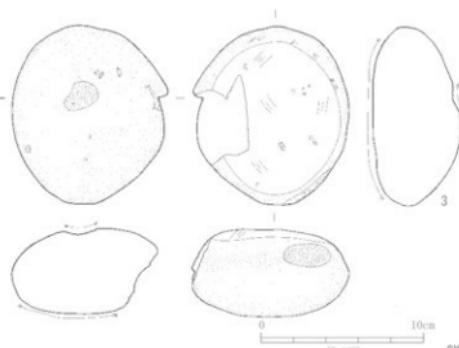
第310図 土坑出土遺物 (88)



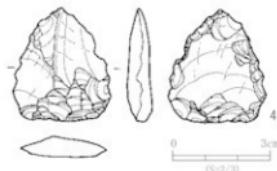
SK6101



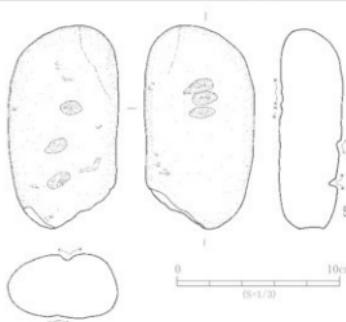
SK6107



SK6112



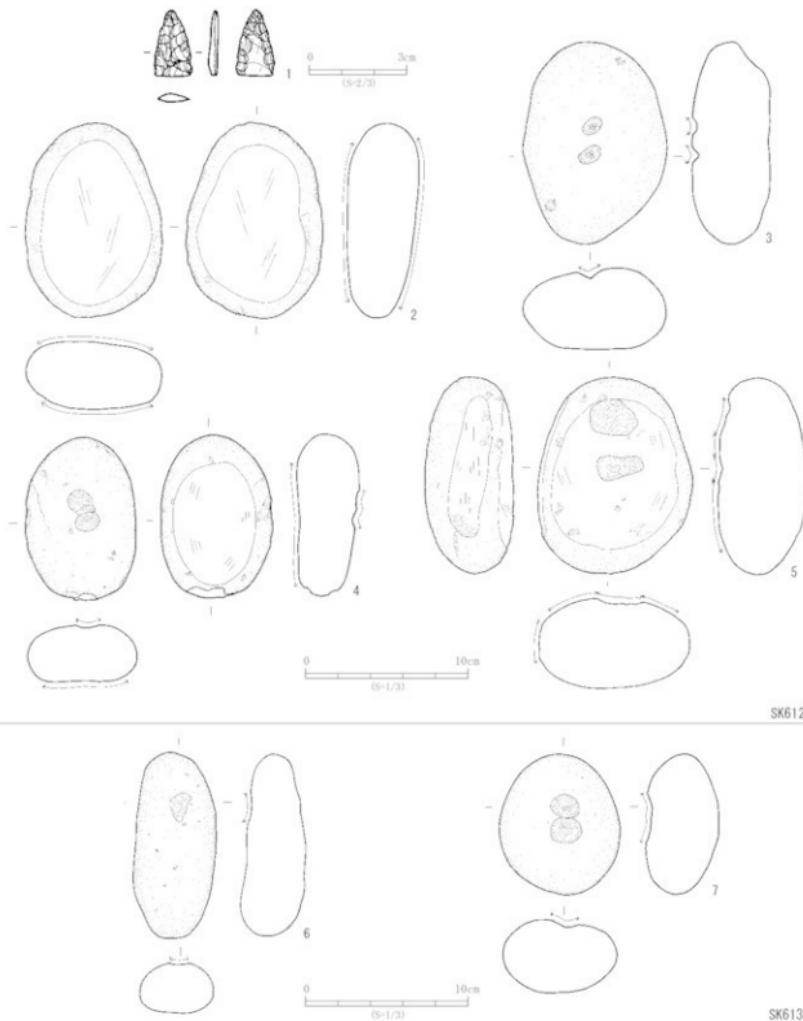
SK6124



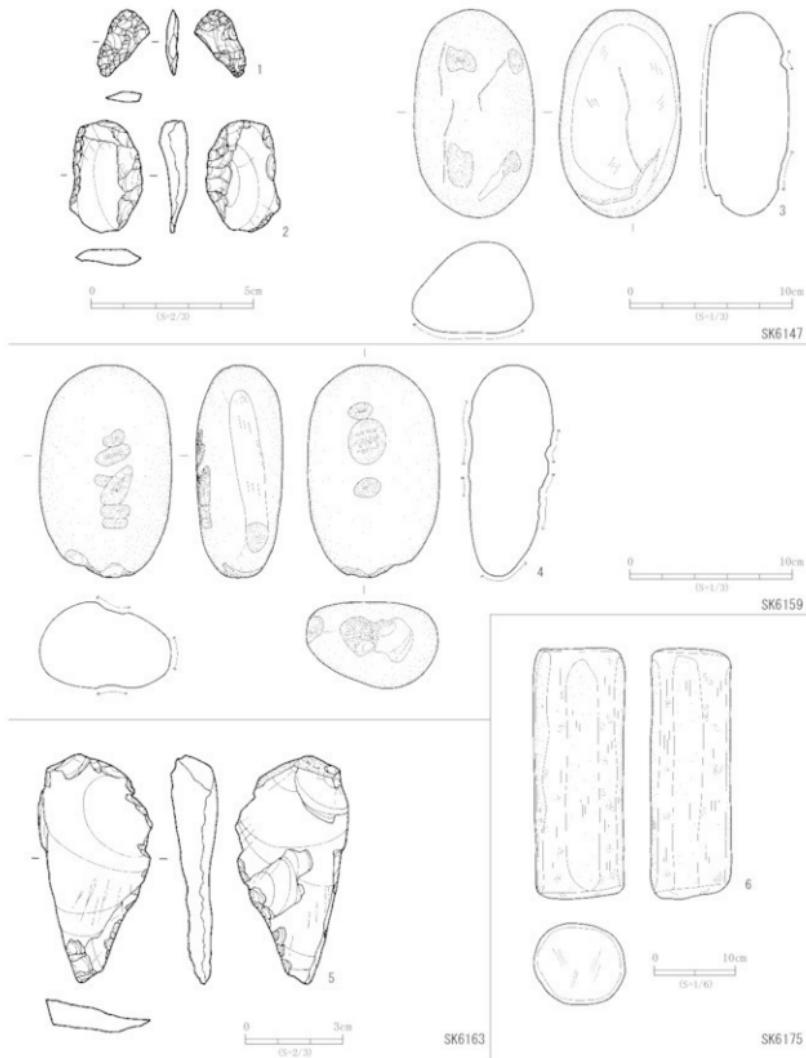
SK6127

No.	登録番号	造 稿	場 所	器 物	石 四	高さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (kg)	形 状	多孔化度
1	Kcd-6021	SK6101	埴堀土	破石器	756石	100.0	91.0	23.0	715.0	骨 2(横), 骨 2+3,	-
2	Kad-6022	SK6107	埴堀土	石器	756直石	79.7	24.0	9.0	18.1	網型,	202-19
3	Kcg-6004	SK6112	埴堀土	破石器	756石	110.0	(96.0)	23.0	(666.0)	骨 1, 骨 1, 骨 1 (下)	-
4	Kaa-6006	SK6112	埴堀土	石器	756石	34.4	29.1	7.1	6.2	角錐,	202-20
5	Kcb-6012	SK6127	埴堀土	破石器	756石	(125.0)	63.0	26.0	(448.0)	骨 2+3,	-

第311図 土坑出土遺物 (89)

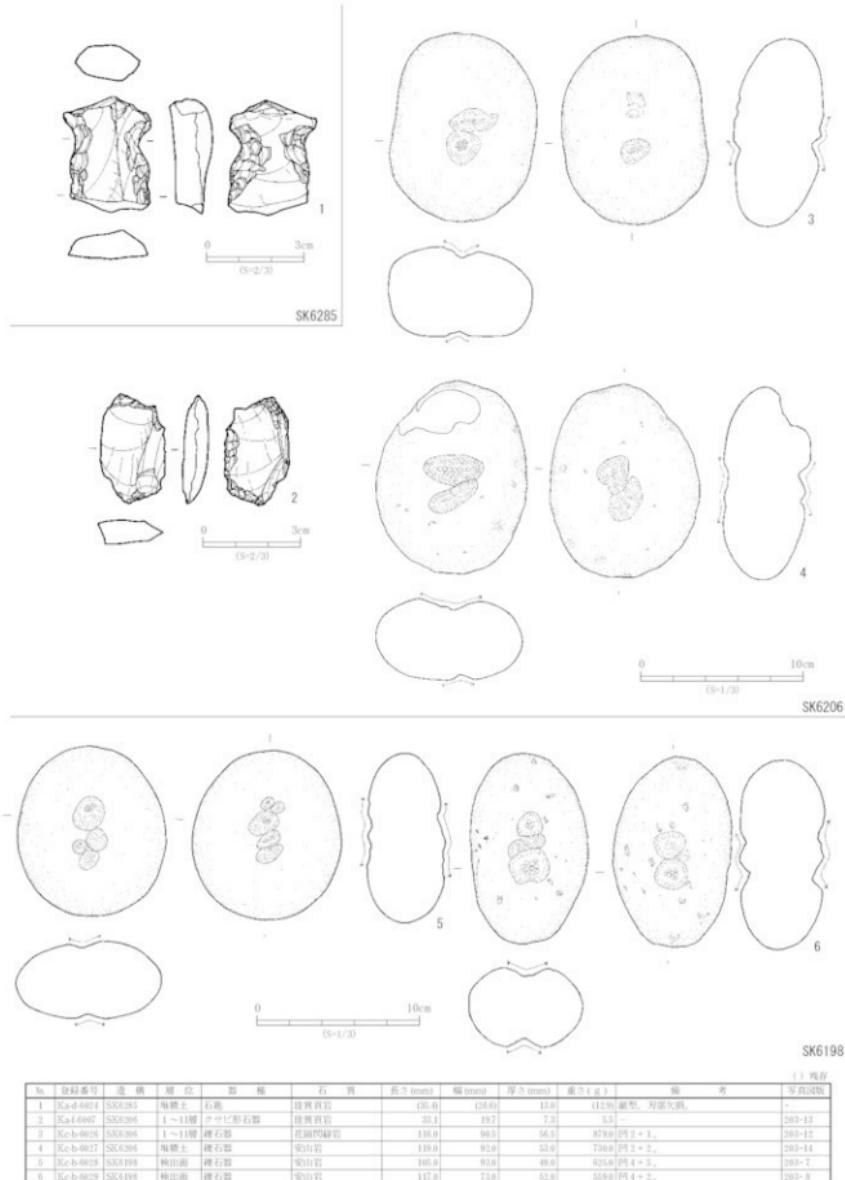


第312図 土坑出土遺物 (90)

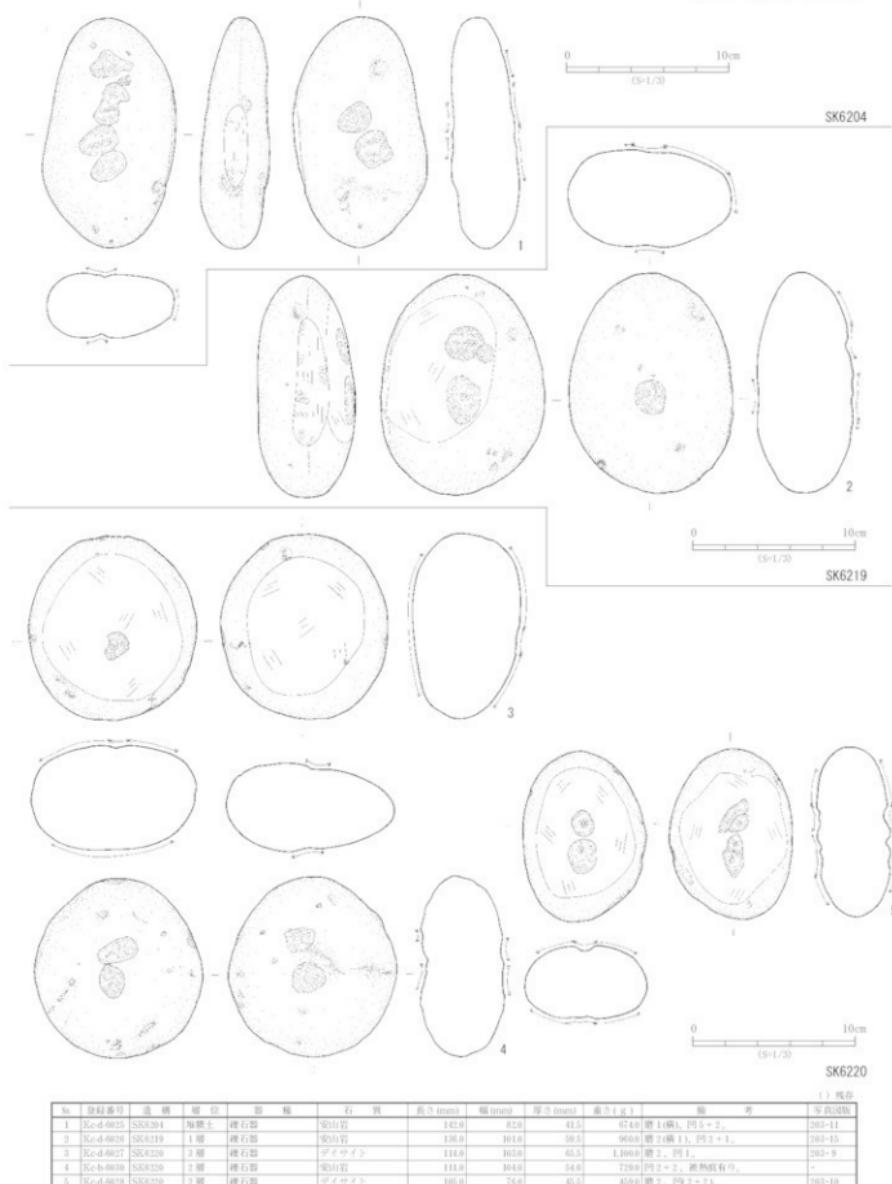


第313図 土坑出土遺物（91）

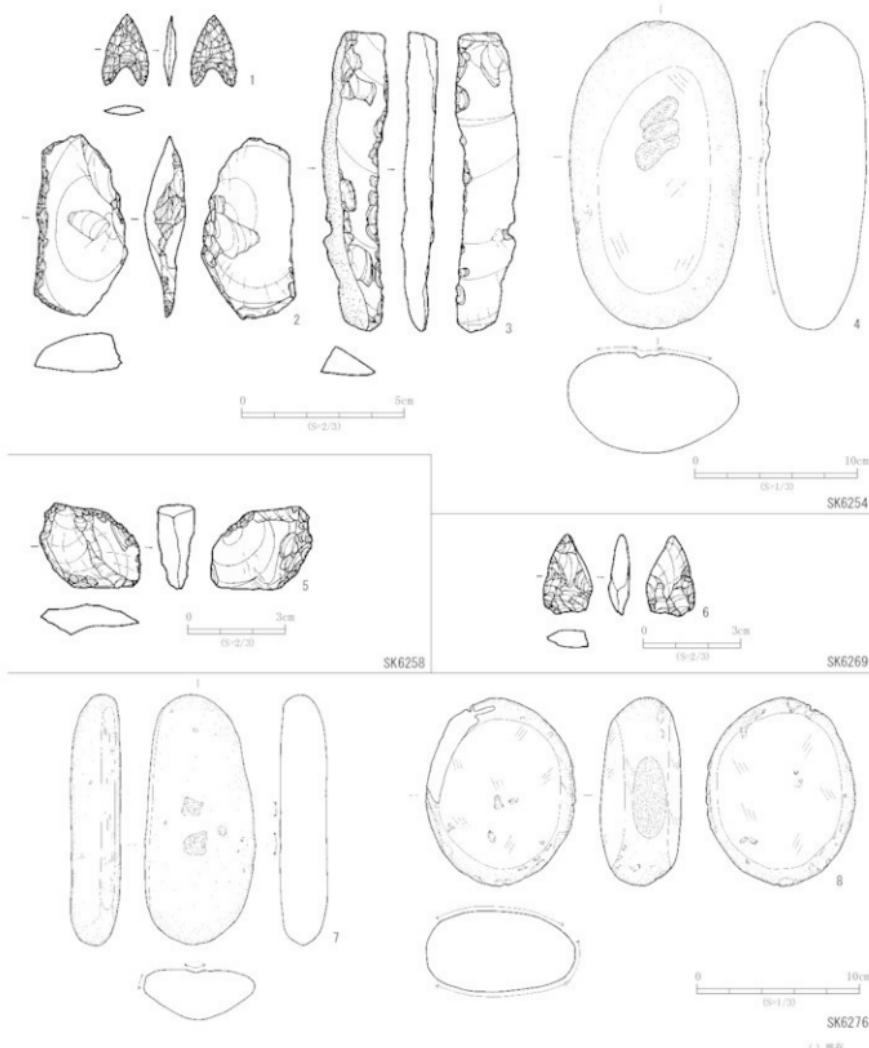
No.	登録番号	造 剣	埋 位	器 物	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備 考	(1) 手取
1	Kae-6010	SK6147	埴櫛土	石棒	珪質頁岩	61.4	11.9	3.2	80.0	右脚部欠損。	203-2
2	Kae-6012	SK6147	1～4層	スフレイバー	珪質頁岩	23.4	24.5	7.6	3.6	-	-
3	Ked-6014	SK6147	1～4層	鍛石器	珪質頁岩	78.0	75.0	26.0	799.0	磨1、凹4。	203-1
4	Keg-6001	SK6159	埴櫛土	鍛石器	珪質頁岩	130.0	81.0	23.0	790.0	磨1、凹5～3、凹2(下)。	203-6
5	Kae-6013	SK6163	埴櫛土	スフレイバー	珪質頁岩	69.6	34.7	11.4	24.3	-	-
6	Ked-6002	SK6175	埴櫛土	石棒	珪質頁岩	308.0	115.0	101.0	6,168.0	磨(全面)、S-1/6。	203-5



第314図 土坑出土遺物 (92)

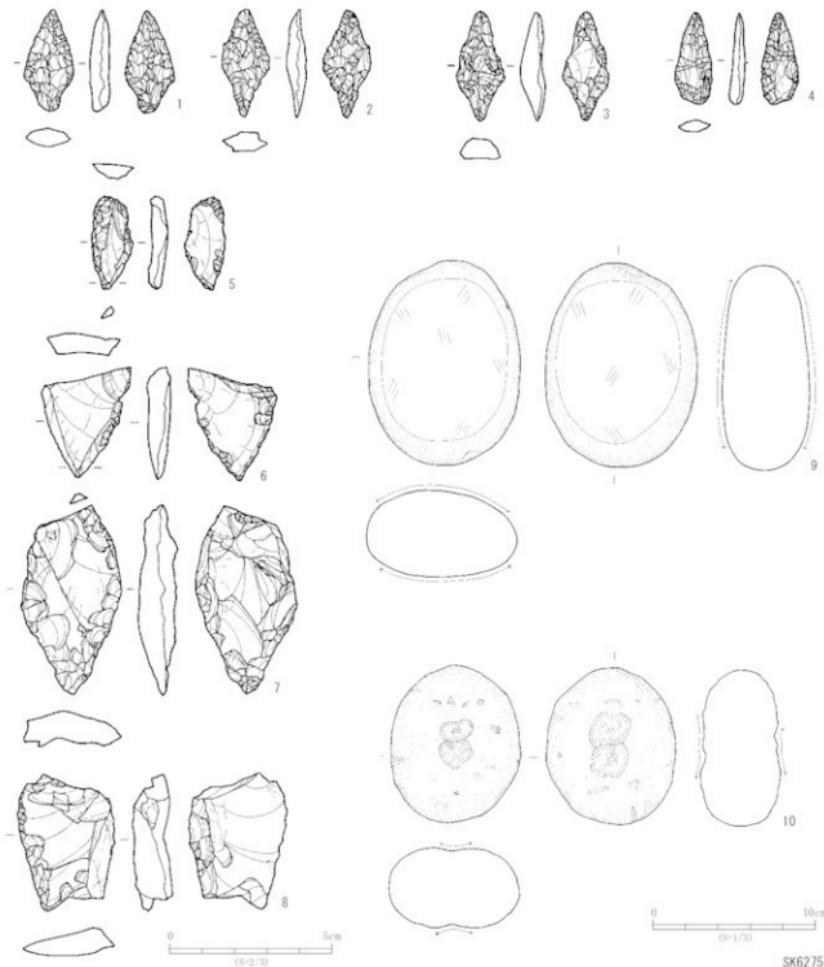


第315図 土坑出土遺物 (93)

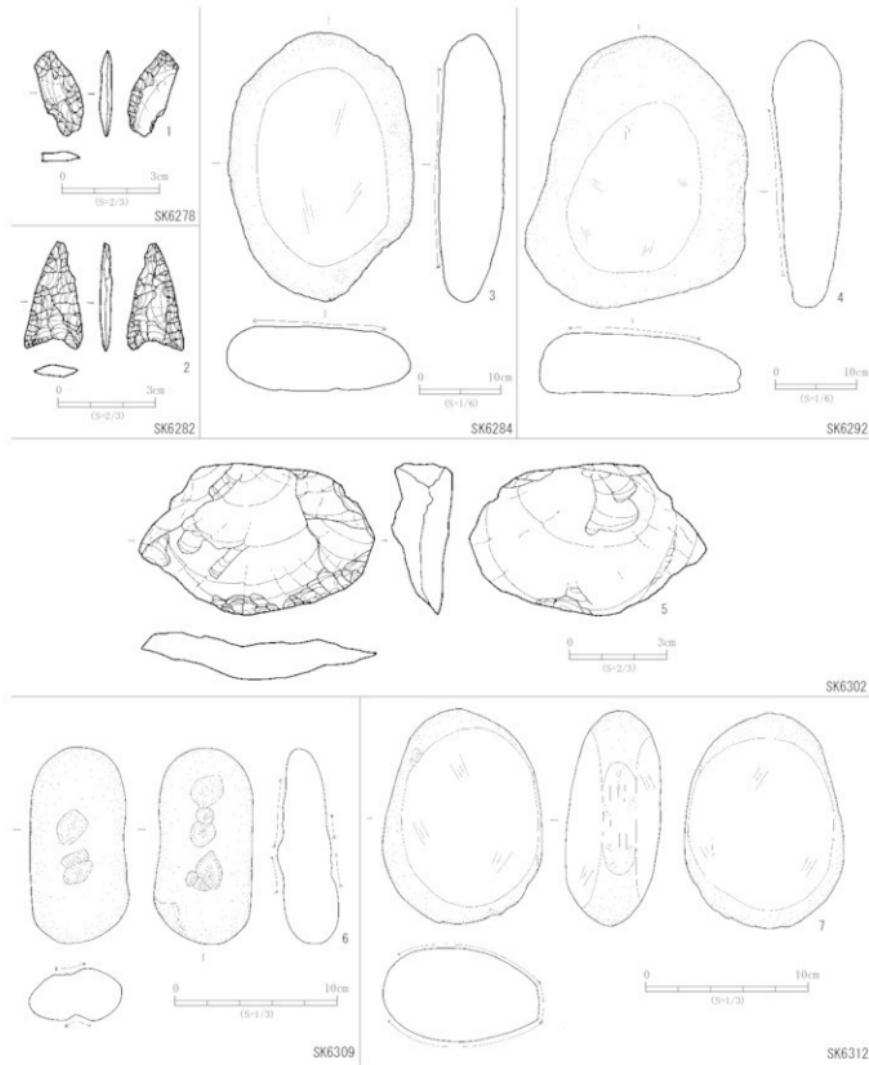


第316図 土坑出土遺物 (94)

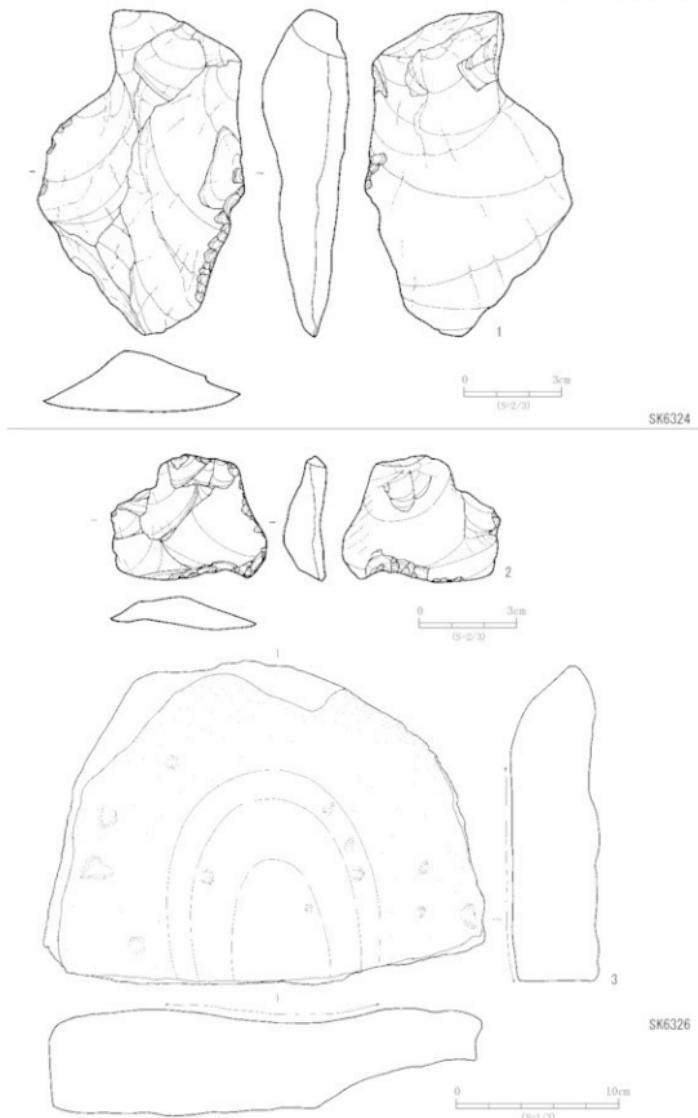
No.	登録番号	遺構	層位	目 標	石 質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	寸 厘		年代(4段)
										横	高	
1	Kaa-6007	埴輪土	石壁	建貝貝岩	21.7	11.8	2.0	0.7	—	203-16	—	
2	Kaa-6029	埴輪土	スグレイバー	建貝貝岩	55.2	21.7	12.0	17.2	—	203-17	—	
3	Kaa-6030	埴輪土	スグレイバー	貝岩	90.4	18.0	9.2	17.4	—	—	—	
4	Ked-6029	埴輪土	安山岩	安山岩	189.3	10.0	81.2	175.0	横1.4cm、高2.2cm	203-18	—	
5	Ked-6030	埴輪土	アリビ形石器	建貝貝岩	25.8	20.0	11.1	8.0	—	203-19	—	
6	Ked-6040	埴輪土	石壁	海紋岩	(24.0)	(14.0)	3.0	—	(15) 石1半欠損、平基盤	203-20	—	
7	Ked-6040	埴輪土	石壁	安山岩	154.0	63.0	30.0	46.0	横2.1cm、高1.0cm、平基盤の裏面打痕有り	203-21	—	
8	Ked-6051	埴輪土	石壁	安山岩	116.0	92.0	49.0	68.0	横2.1cm、高1.0cm、平基盤の裏面打痕有り	203-22	—	



第317図 土坑出土遺物 (95)

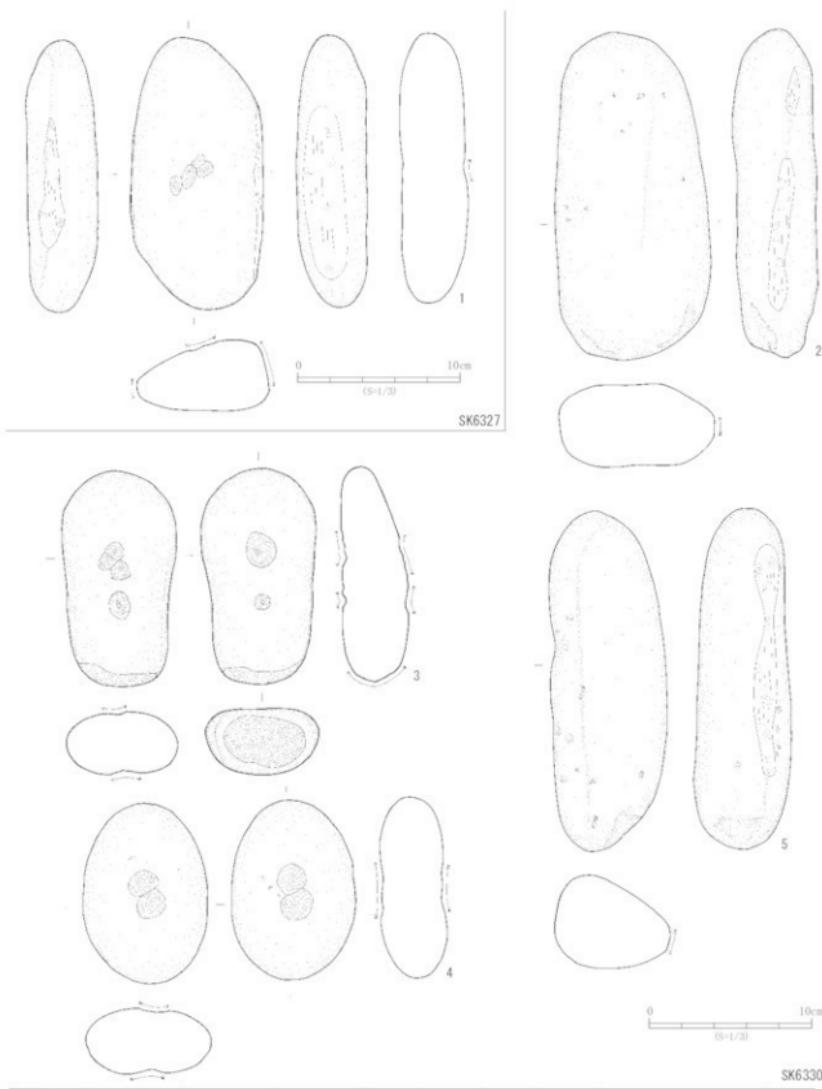


第318図 土坑出土遺物 (96)



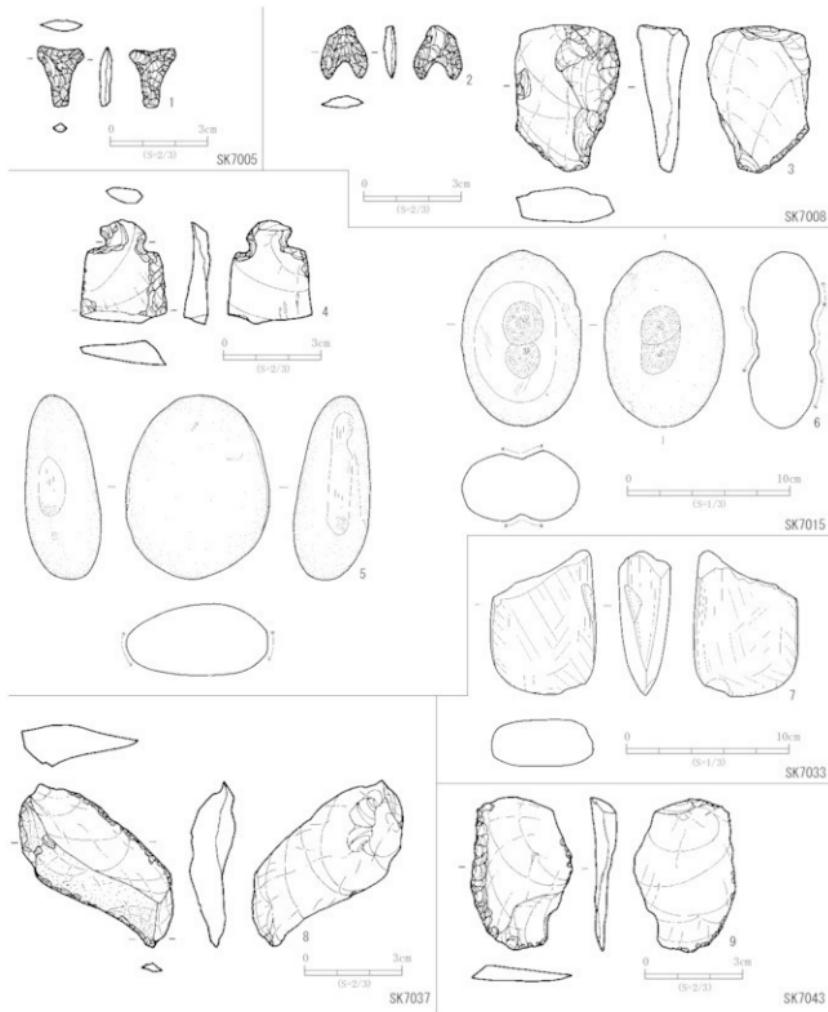
No.	登録番号	遺構	埋設位	面種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	参考	保存状況
1	Kae-6001	塙標	SKA324	スクレイバー	泥鉆石	98.3	63.1	25.8	103.8	-	-	-
2	Kae-6002	塙標	SKA324	スクレイバー	珪質頁岩	39.1	48.6	10.9	16.1	-	-	-
3	Kae-6003	塙標	SKA324	ディサイド	石墨	(199.0)	(27.53)	(66.0)	(4,365.0)	標1、被熱相面差	284-13	-

第319図 土坑出土遺物 (97)



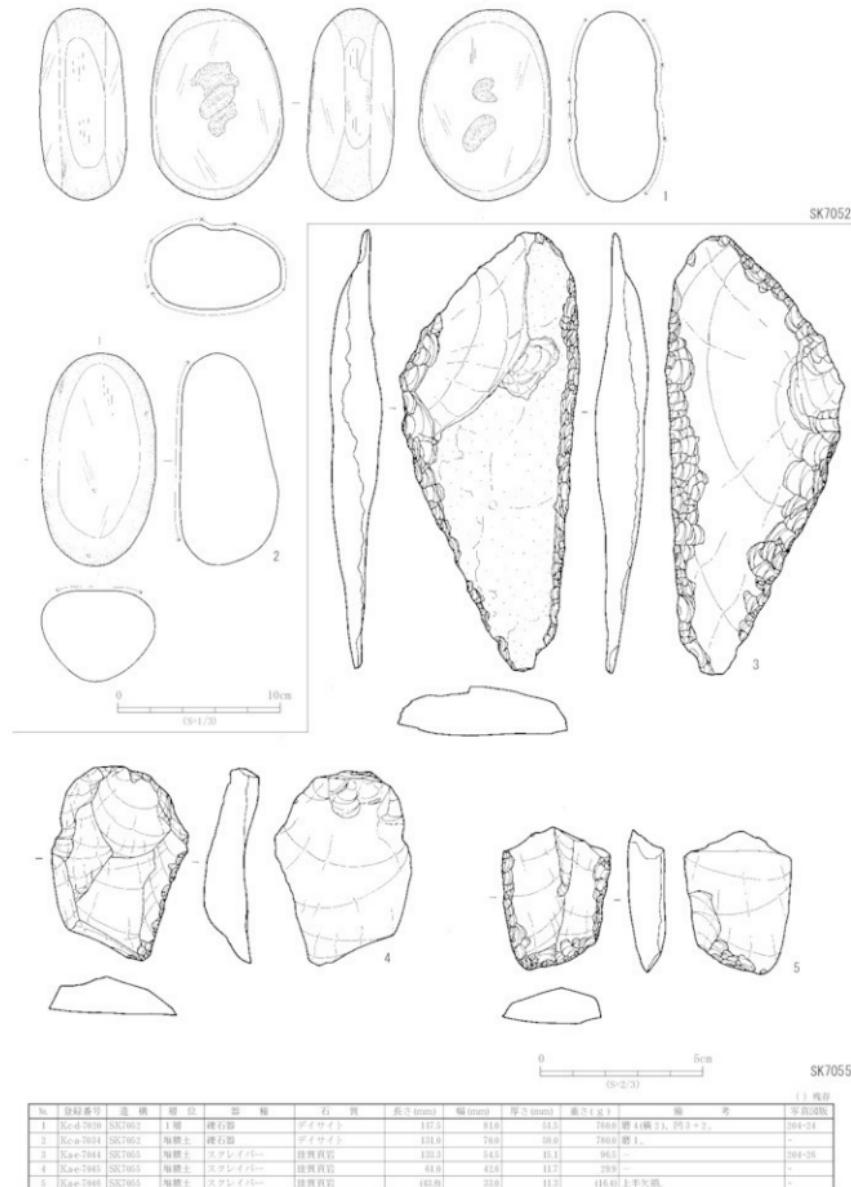
No.	登録番号	造	精	地	器	種	石	西	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備	考	参考図版
1	Ked-6011	SK6327	精	粗	石器	奥山岩	奥山岩	奥山岩	162.5	82.0	43.0	845.0	骨2(横), 骨4, 表裏薄, 表面有り,	204-14	
2	Ked-6012	SK6328	粗	粗	石器	ダイサイク	ダイサイク	ダイサイク	262.0	96.0	54.0	1440.0	骨1(横).	-	
3	Ked-6002	SK6329	粗	粗	石器	ダイサイク	ダイサイク	ダイサイク	130.0	71.0	41.0	376.0	骨2+2, 骨4(下).	204-15	
4	Ked-6013	SK6330	粗	粗	石器	奥山岩	奥山岩	奥山岩	111.0	77.0	39.5	471.0	骨2+2.	204-16	
5	Ked-6014	SK6330	粗	粗	石器	ダイサイク	ダイサイク	ダイサイク	210.0	72.0	37.0	1200.0	骨1(横).	-	

第320図 土坑出土遺物 (98)

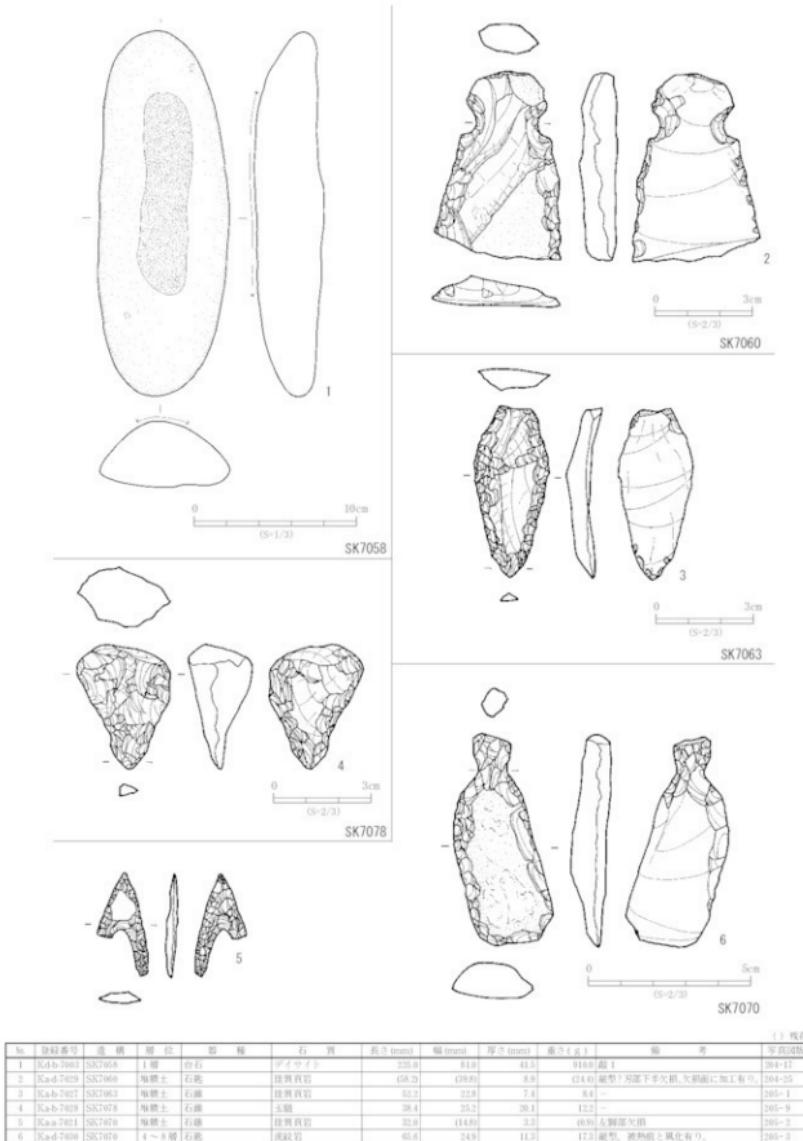


No.	登録番号	造形	層位	断面	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	年月日
1	Kab-7005	2・3層	石面		珪質頁岩	(17.9)	14.2	2.2	(6.6)	縫合欠損。	204-17
2	Kab-7008	下層	石面		泥灰岩	(18.0)	14.1	2.0	(6.6)	先端部欠損。	204-18
3	Kab-7009	上層	スクリュー		泥灰岩	(5.1)	21.9	14.0	(4.9)	-	-
4	Kab-7010	中土層	石面		珪質頁岩	(31.7)	(28.9)	7.2	(5.6)	範型？下半欠損。	204-19
5	Kab-7011	中土層	石面		珪質頁岩	(31.7)	(28.9)	7.2	(5.6)	範型？下半欠損。	204-19
6	Kab-7012	中土層	石面	ダイヤゴン	珪質頁岩	(123.5)	88.3	45.0	805.6	骨2(横1), 黒色変化有り。	204-21
7	Kab-7013	中土層	石面	ダイヤゴン	安山岩	(108.5)	72.0	44.0	480.0	骨1, 骨2。	204-20
8	Kab-7014	中土層	磨擦石斧		矽灰質頁岩	(88.0)	(64.0)	32.0	(220.6)	上半欠損。	204-22
9	Kab-7015	中土層	石面		玉髓	(66.3)	28.7	12.0	16.3	-	204-23
10	Kab-7043	中土層	スクリュー	珪質頁岩	(46.6)	26.4	6.7	7.7	-	-	-

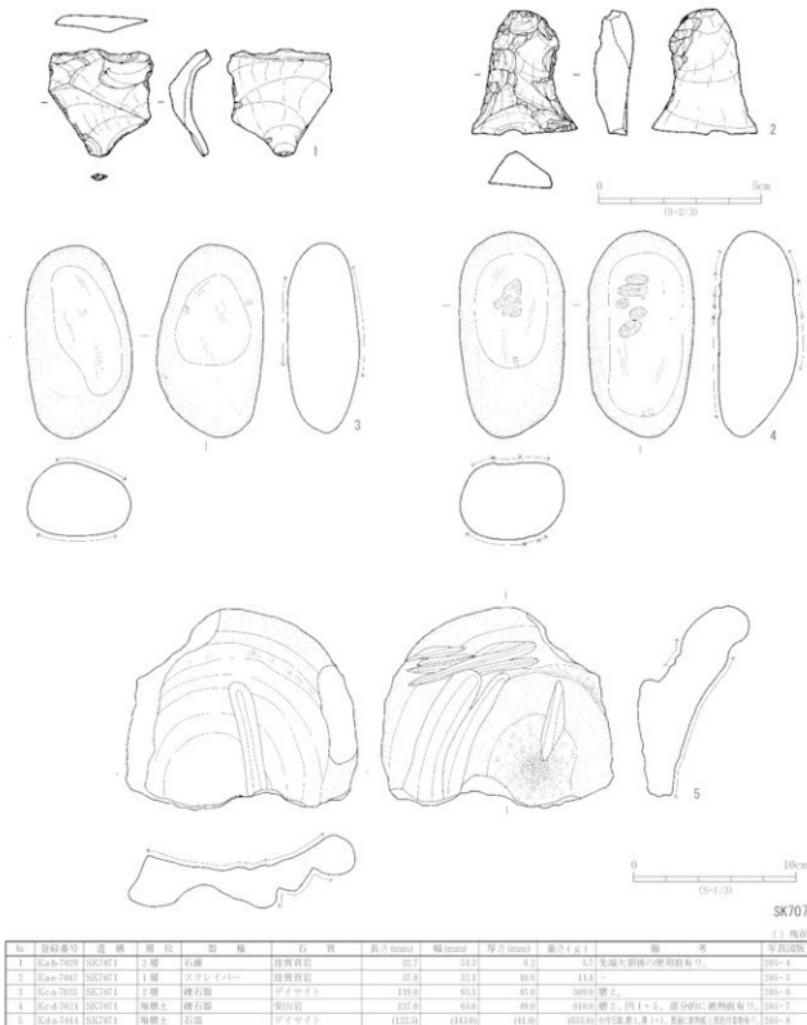
第321図 土坑出土遺物 (99)



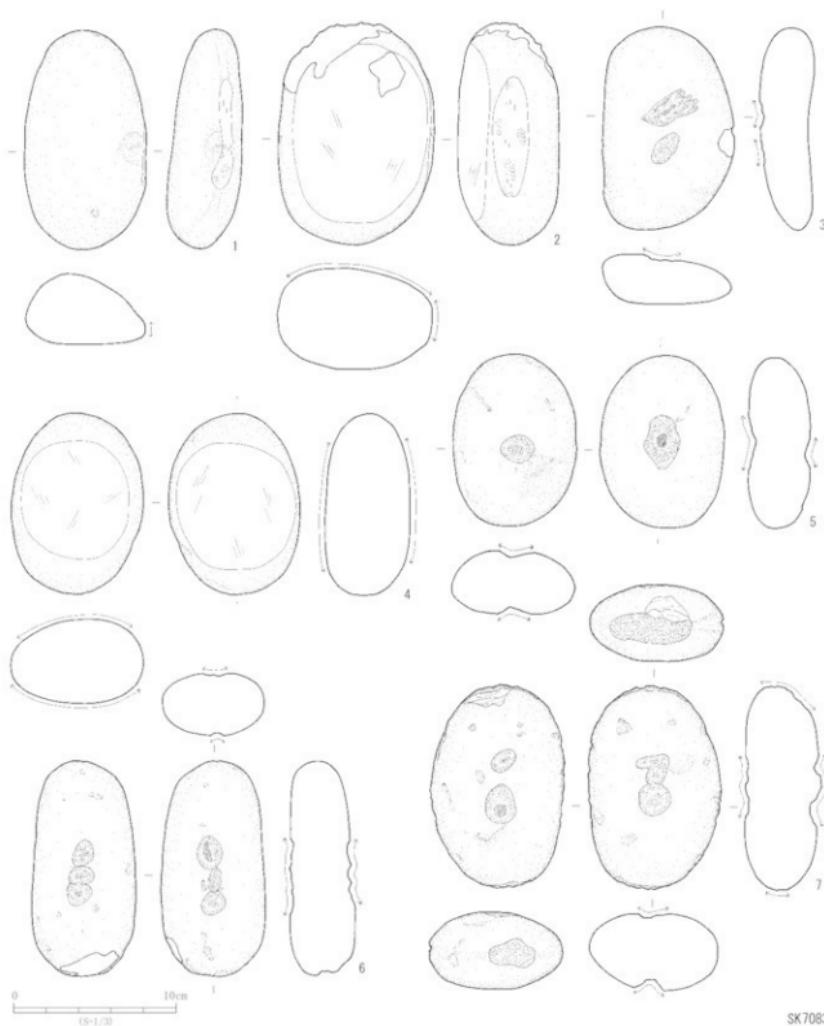
第322図 土坑出土遺物 (100)



第323図 土坑出土遺物 (101)



第324図 土坑出土遺物 (102)

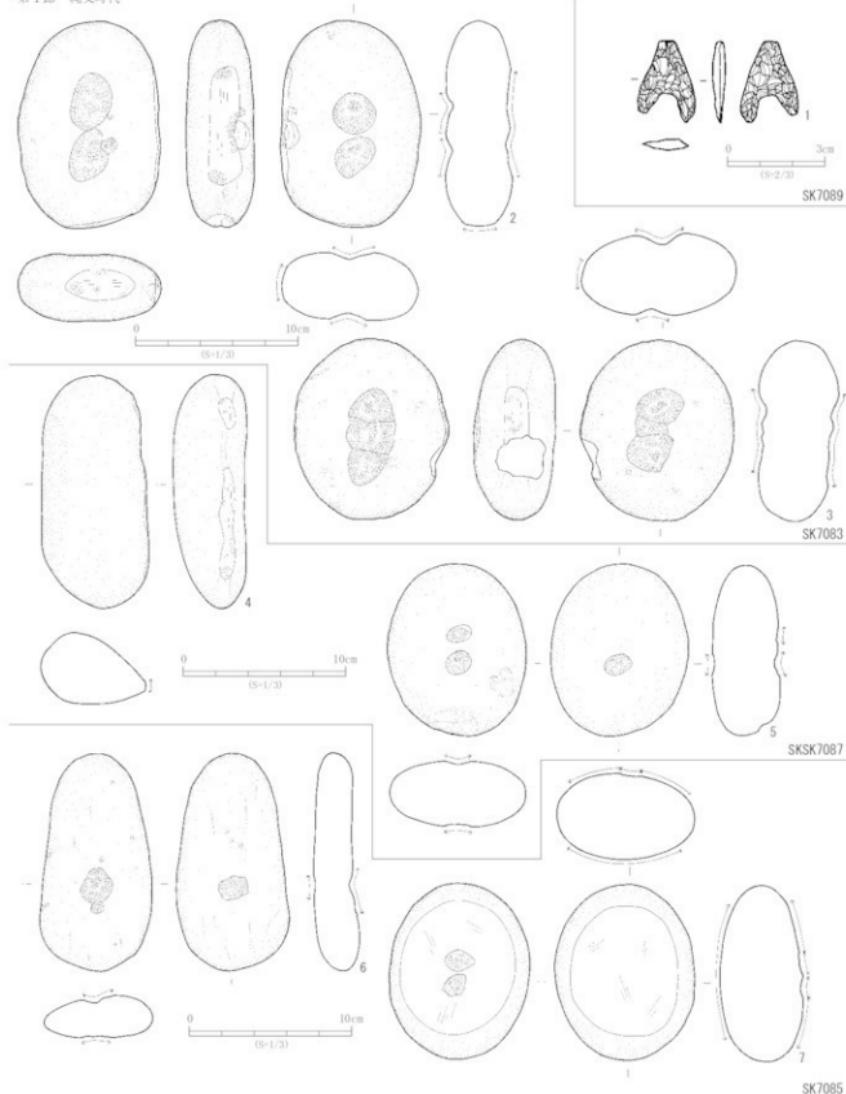


SK7083

(上) 既存

No.	資料番号	遺構	埋位	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (kg)	地 名	参考文献
1	Kca-a7083	SK7083	角礫土	碑石器	ダイサイト	130.0	74.0	43.0	62.0	櫛1柄。	295-10
2	Kca-a7082	SK7082	角礫土	花崗岩砾石	(130.0)	94.0	62.0	(1.082)	櫛2(柄1)。	295-11	
3	Kcb-a7082	SK7082	角礫土	ダイサイト	125.0	(81.0)	32.0	(483.0)	門2。	295-12	
4	Kca-a7083	SK7083	角礫土	花崗岩	111.5	81.0	52.0	70.0	櫛2。	295-13	
5	Kcb-a7083	SK7083	角礫土	安山岩	106.0	76.0	38.5	38.0	門1+1。	295-10	
6	Kcb-a7083	SK7083	角礫土	ダイサイト	(102.0)	64.0	40.0	(692.0)	門1+2。	295-14	
7	Kcb-a7083	SK7083	角礫土	ダイサイト	120.0	82.0	46.0	62.0	門1+2、櫛1(下)。	295-18	

第325図 土坑出土遺物 (103)



第326図 土坑出土遺物 (104)

No.	發現場所	遺 墓	埋 位	形 様	石 貝	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重 量 (g)	備 考	参考文献
1	Ka-d-702	SK7085	上層	石器	貝玉	124.2	17.6	3.8	(1.2)	半圓形火鉢	280-33
2	Ko-d-702	SK7083	上層	礫石器	梁山岩	127.0	87.0	41.5	558.0	腰2(腰下), 開2+3,	280-17
3	Ko-d-702	SK7083	上層	礫石器	梁山岩	111.0	95.0	56.5	583.0	腰1(腰), 開3+2,	280-15
4	Ko-a-703	SK7087	堆積土	礫石器	ダイオード	143.0	66.0	45.0	576.0	腰1(腰),	280-21
5	Ko-b-706	SK7087	堆積土	礫石器	梁山岩	100.0	81.0	41.0	355.0	腰2+1,	280-22
6	Ko-b-701	SK7085	最下層	礫石器	ダイオード	130.5	69.0	27.0	330.0	腰1+1,	280-20
7	Ko-d-702	SK7085	堆積土	礫石器	梁山岩	100.0	87.0	52.5	667.0	腰2, 腰2,	280-19

報告書抄録

ふりがな	うわのいせき だい6・7しへくつちょうさ						
書名	上野道路 第6・7次発掘調査						
副書名	-都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書-						
巻次							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第365集						
編著者名	主演光則・佐々木竜郎・麻生義司・パリノ・サーヴェイ株式会社・金子浩昌						
編集機関	仙台市教育委員会(文化財課)						
所在地	〒980-8761 宮城県仙台市青葉区二日町1番1号 TEL 022-214-8894						
発行年月日	2010年3月26日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	調査原因
	市町村	道路番号					
上野遺跡	宮城県仙台市太白区富士字上野中・上野西はか	04100	仙台市	38° 140°	20010614	2,757.9m ²	都市計画道路「富沢山田線」建設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査
			C-054	12° 52°	/		
			宮城県	44° 40°	20050218	第7次 20050603 /	第7次 3,190.0m ²
			01361		20050613		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上野遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴住居跡	27軒	縄文土器、土製品		
			土 坑	348基	石器、石製品		
			焼 土 跡	33基			
		古代以降	埋設土器	29基			
			配 石	5基			
			集 石	1基			
要 約		ビ ッ ド	ビ ッ ド	3,219個			
			堅穴住居跡	11軒	土師器、須恵器		
			土 坑	75基	陶器器、鐵器、銅貨		
		溝	溝 跡	15条			
			性格不明遺構	7基			
			ビ ッ ド	203個			

仙台市文化財調査報告書第365集

上野遺跡

第6・7次発掘調査

-都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書-

第1分冊

2010年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区二日町1番1号

仙台市教育委員会文化財課

TEL 022-214-8894

印刷 (株)平電子印刷所

福島県いわき市平北白土字西/内13番地

TEL 0246-23-9051